

国立国語研究所学術情報リポジトリ

学校の中の敬語 1 アンケート調査編

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Institute for Japanese Language メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001249

国立国語研究所報告—118

学校の中の敬語 1

Honorifics in Japanese Schools I: Results from Questionnaires

—アンケート調査編—

国立国語研究所

2002

国立国語研究所報告—118

学校の中の敬語 1

Honorifics in Japanese Schools I: Results from Questionnaires

—アンケート調査編—

国立国語研究所

2002

© 2002 The National Institute for Japanese Language

刊行のことば

本報告書『学校の中の敬語1—アンケート調査編一』は、中学生及び高校生が学校の中で敬語をどのように使用しているか、どのように意識しているかについての調査をまとめたものである。

国立国語研究所では、これまでに、成人が地域や職場において敬語をどのように使用し、どのように意識しているかについての調査を重ね、『敬語と敬語意識』『企業の中の敬語』をはじめとして何冊もの報告書を刊行してきた。成人の敬語や敬語意識は、幼少のころから家庭や地域の中で自然に身に付け、しつけとしても育成される。長じては、職場の中で、意識して身に付けることになる。

他方、敬語や敬語意識を育成する場として、学校というなかば社会的な共同学習の場がある。学校は、小学校から高等学校まで、様々な立場の人々で構成されている。生徒、教師、事務員などがそれである。生徒といっても、上級生もいるし、下級生もいる。また、教師といっても、学級担任や教科担任だけでなく、校長や教頭がいるし、指導を直接受けない教師もいる。そうした人間関係の中で、児童生徒は敬語を使い分けるとともに、敬語を意識的に習得していくことになる。

学校では、国語科の中で敬語をはじめとする言葉遣いの授業を体系的に学習するし、生活指導の一環として言葉遣いについての個々の指導を受けることにもなる。学校におけるこうした幅広い敬語の学習が成人における敬語や敬語意識を培うことになる。

そこで、国立国語研究所では、中学生及び高校生が、学校の中で敬語をどのように用い、どのように意識しているかについての解明を目的とする調査に取り組んだ。

調査は昭和63年度から平成4年度にかけて、言語行動研究部第一研究室の杉戸清樹・尾崎喜光・塙田実知代が企画・実施したものである。国立国語研究所は、平成13年4月に組織を改めたが、その三名が引き続き本報告書の執筆を担当した。

調査にあたっては、生徒の皆さんには回答に快く応じていただいた。また、教育委員会をはじめとする関係者の方々にはたいへんお世話になった。ここに記して感謝申し上げる次第である。

なお、このアンケート調査に基づく報告書に続くものとして、面接調査に基づく報告書の刊行を予定している。

本報告書が、日本語研究だけでなく、国語教育をはじめとする学校教育などに広く活用されることを願うものである。

平成14年3月

国立国語研究所長

甲斐 隆朗

目 次

刊行のことば

1. 研究の目的	1
2. 調査の概要	3
2.1. 調査の経緯	3
2.2. 調査対象者	5
3. 敬語についての意識	12
3.0. 調査項目について	12
3.1. ふだん学校で言葉遣いが気になるか	13
3.2. 先生や上級生に対する場面で自分の言葉遣いが気になるか	14
3.3. 先生や上級生に対する場面で自分の言葉遣いが変わるか	15
3.4. 先生や上級生への言葉遣いで困った経験	17
3.5. 学校生活の改まった場面で言葉遣いに困った経験	18
3.6. 先生や上級生から言葉遣いを注意・教示された経験	19
3.7. 学校生活で言葉遣いに気を使う場面	20
4. 敬語についての意見	23
4.0. 調査項目について	23
4.1. 改まった場面での言葉の使い分け	23
4.2. 目上の生徒への敬語使用	25
4.3. 敬語使用のプラス面とマイナス面	26
4.4. 目上への敬語使用のマイナス面	27
5. 敬語の使用	29
5.0. 調査項目について	29
5.1. 自称詞	30
5.2. 対称詞(1)一相手の呼び方	53
5.3. 対称詞(2)一相手からの呼ばれ方	75
5.4. 肯定表現	87
5.5. 別れの挨拶	95
5.6. 「失礼シマス」の使用場面	109
5.7. 「センパイ(先輩)」の使用	112
5.8. 身内尊敬	116
5.9. アクセントの使い分け意識	117
5.10. 話す時の声の調子	118
5.11. 個人の中での言葉遣いの変化	121
6. まとめ	133
6.1. 得られたおもな知見	133
6.2. 調査の反省	136
6.3. 結論と今後の課題	137
参考文献	139
謝辞	141
付記	142

資料 1	基礎集計資料	143
資料 2	調査票	325
資料 3	「学校の中の敬語」調査の検討会会議要録	335
英文概要		355
索引		361

1. 研究の目的

私たちの日々の生活は他者との言語的コミュニケーションにより成立している面が大きい。たとえば、他者に対し自分が持っている情報を伝達したい場合、あるいは他者に対し何らかの働きかけをしたい場合、具体的なモノを提示したりジェスチャー等の非言語行動により自分の意図を伝達するということもないではないが、それよりも言語を用いて目的を達する方が多いだろうし効率的である。

しかし、コンピュータ等の機械に情報や命令を伝える場合と異なり、話し手と何らかの社会的関係を有する人間にそうしたことがらを伝える場合は、〈何を伝えるか〉だけでなくくどのような表現で伝えるか〉も重要になる。つまり、内容だけをストレートに伝えるのでは不十分であり、たとえば自分よりも目上の人や知らない人に対してであれば丁寧な表現で伝えるといった表現上の調整が必要になる。

こうした表現上の調整はさまざまな言語社会でなされているようであるが、日本語社会においては「敬語」というしくみが体系的にそなわっており、これによる表現の調整が、対人的な言語使用における重要な部分を占めている。日本語社会における言語使用を考える上で、敬語はひとつの重要なポイントと言える。

そのため敬語は、日本語研究、とりわけ言語生活に関する日本語研究の中で重要な位置を占め、これまで多くの研究が蓄積されてきた。

国立国語研究所においても、設立まもない時期から、敬語を重要な研究テーマのひとつと位置付け、話し言葉における敬語使用の実態や意識に関する大規模な調査を展開してきた。

たとえば地域社会における敬語については、愛知県岡崎市在住の市民を対象に、1953年に大規模な調査を実施した（国立国語研究所 1957）。岡崎市ではその約20年後の1972年～73年にも同様の調査を再度実施し、その間の地域社会全体としての変化や個人の中での変化を探った（国立国語研究所 1983）。

また、地域社会の社会構造の変化に伴う敬語の変化という側面に焦点を当てた調査を、秋田県・富山県の小集落において実施した（国立国語研究所 1986）。

さらに、島根県松江市においては、家庭・近隣の生活の中での敬語（待遇表現）使用の実態を「24時間録音」データによって記述・分析する調査も実施した（国立国語研究所 1971）。

一方、敬語がよく使われるのはこうした近隣の地域社会ばかりではない。職場社会においても、立場の上下関係（職階）を主たる基準とする敬語使用が比較的規則的になされている。国立国語研究所では、企業に勤務する社員を対象とした調査を実施し、職場社会での敬語使用や敬語意識を探った（国立国語研究所 1982）。

さて、地域社会や職場社会で使われる敬語を、私たちはいつどのように身につけるのだろうか。

地域社会の中で大人や知らない人と話をする中で身につけるという場合もあるだろうし、職場社会に出てから半ば実践的に身につけるという場合もあるだろう。また、幼少の頃であれば、家庭の中で親や祖父母からしつけとして指導され身につけるという面も少なくないだろう。

こうした中で、比較的若い時期、すなわち成人になり地域社会や職場社会に出る前に敬語がある程度身につける機会を提供する重要な場として「学校社会」がある。

地域社会や職場社会などの社会的関係の広がりや複雑さはないにしろ、学校社会の中にも、学年

2 1. 研究の目的

による上級生・下級生（先輩・後輩）の関係や、生徒・教師間の師弟関係が存在する。また、毎日親密に話をする友達がいる一方で、それほどでもない友達もいる。こうした「上下関係」や「親疎関係」により敬語の使い分けがなされ、それが成人に至ってからの敬語使用の基盤となっているといふことが考えられる。

また、学校では、授業中あるいは休み時間に、日常的な生徒指導として教師が生徒の言葉遣いを指導するということもなされている。生徒たちにとってはそれも敬語を身につける機会となっている場合がある。

さらに、教科教育のうちの国語科では、教育項目のひとつとして敬語が取り上げられている。その点で学校は、敬語を知識として学ぶ重要な場ともなっている。

実際、先に言及した国立国語研究所による職場社会の調査によれば、敬語習得の機会として学校時代の授業・講義・勉強を回答した人が3~4割、学校時代の部・サークル活動を回答した人が1~3割という結果が得られている（回答は複数回答も可とした）。

そこで国立国語研究所では、学校社会の中で敬語がどのように使われどのように意識されているかを明らかにする調査を企画し実施した。なお、学校といつても幅広く、小学校から大学まであるが、今回の調査では、ちょうどその中間段階である中学校・高等学校に焦点をしぼり、そこに在籍する生徒を調査対象とした。また、地域差が存在する可能性を考慮し、複数の地域で調査を実施した。

なお、中学生・高校生の言語生活の場はもちろん学校に限られるわけではないが、今回の調査では「学校生活」という枠組みを設定し、その中の敬語使用や敬語意識を探ることとした。

中学・高校の時期は子供から成人への過渡期であり、成人が用いる敬語を習得する上で重要な時期と推測される。生徒たちが敬語をどのように自分のものとしていくかという敬語習得のプロセスは興味深くまた重要な研究テーマではあるが、今回の調査では、現状として中学生・高校生が敬語をどう使っているのか、どう意識しているのかという側面に焦点を当てた調査を企画した。「どのように習得するか」を明らかにするためには、心理言語学的視点からの時系列的な追跡調査等が別途企画される必要がある。

2. 調査の概要

2.1. 調査の経緯

2.1.1. 研究課題および担当者

本研究は、言語行動研究部第一研究室（平成13年3月までの組織）が担当した次の研究課題による。②は①の研究を補充する目的で行なったものである。

①「現代敬語行動の研究—学校生活における敬語の研究」

(昭和63年度～平成2年度)

②「現代敬語行動の研究—小集団内の敬語行動」

(平成3年度～平成4年度)

研究および調査の企画・実施は、研究開始当時当研究室に所属していた杉戸清樹（室長〔開始当時〕）・尾崎喜光（研究員〔平成元年5月より〕）・塚田実知代（研究員）の三名が行なった。

2.1.2. 調査の種類

研究の第1年次（昭和63年度）から第2年次（平成元年度）前半にかけては、調査の全体的な枠組みおよび調査の観点・方法・調査内容等についての検討を進め、調査の実施は第2年次（平成元年度）の後半から行なった。

調査は次の3種の方法により行なった。

①アンケート調査（生徒自記式）

②面接調査

③観察調査（現場録音調査）

①は大量のデータを短時間のうちに収集し、敬語使用や敬語意識に関する概観を得ることを主たる目的とした調査である。調査票に掲げた選択肢の中から該当するものを選択させる方式を主体とした。

②は調査対象者に具体的な会話場面を想定させ、そこで普段どのような表現を使っているかを対象者同士の短い会話（1回のやりとり）の形式で回答を求めるこにより、敬語使用の具体的な姿や表現の広がりを見ることを主たる目的とした調査である。①に比べると回答者数は少ないが、しかし単なる事例調査以上のケース数が得られ、量的観点からの分析も可能なデータとなっている。

③は実際の敬語使用をさらに直接的な形で捉えるべく、学校での部活動（クラブ活動）や生徒会活動の場面を観察・録音した試行調査である。

本報告書では、このうちの①の「アンケート調査」の結果を報告する。

2.1.3. 調査対象地域

交通手段・通信手段の発達や学校教育・マスメディアの普及により日本語の地域差は以前よりも小さくなつたとは言え、使用する言語形式の点で、あるいは言語行動の点で、地域差は依然として残っているものと予想される。そこで本調査では、地域差が存在するであろうことを考慮し、次の3地域の中学校・高等学校でアンケート調査・面接調査を実施した（ただし試行的な「観察調査」は山形県でのみ実施した）。

①東京都〔中学校・高等学校〕

②大阪府〔高等学校〕

③山形県（東田川郡三川町）〔中学校〕

東京都では中学校・高等学校の両方で調査をした。大阪府では高等学校のみ、山形県では中学校のみを対象とした。今回報告するアンケート調査は、大阪府の高校学校と山形県の中学校は平成元（1989）年、東京都の中学校と高等学校は平成2（1990）年にそれぞれ実施した。

調査対象とした各地域内にもさらに地域差が存在する可能性を考慮し、極端な地域的片寄りが生じないよう配慮しつつ調査対象校を選定した。なお山形県については、特に協力の得られた東田川郡三川町の中学校（1校）を対象とした。

対象校は公立の中学校・高等学校を主体としたが、東京都と大阪府の高等学校では私立校も数校含まれている。本報告書で報告するアンケート調査の対象校や対象者の選定等については、次節でさらに詳しく述べることにする。

2.1.4. データの処理

収集したアンケート調査のデータは、調査票の整理およびコーディングをほどこしたのち、パソコン用コンピュータに入力した。校正を経てデータを確定したのち、統計解析プログラムSAS[PC版]を用いて集計を行なった。なお、データの整理・入力の段階で補助者数名の助力を得た。

2.1.5. 中間報告・調査結果検討会

本報告書に先立ち、口頭あるいは論文による次の中間報告を行なっている。

●中間発表会

平成8年度国立国語研究所公開研究発表会「テーマ：学校の中の敬語」（平成8年12月20日）

発表者：杉戸清樹・吉岡泰夫・尾崎喜光

*発表会では、本調査を実施する上で助力をいただいた早稲田実業学校高等部教頭・町田守弘氏、大阪府教育センター教科教育部長・秋田典昭氏にも指定討論者として参加いただき、学校教育の現場からのコメントをいただいた。

●口頭発表

尾崎喜光（1992b・1997c）

●論文発表

尾崎喜光（1992a・1995・1996a・1997a・1997b・1997d・1998・1999b・1999c・1999d・2001a・2001b・2002[予定]）、杉戸清樹・尾崎喜光（1997）、塙田実知代・尾崎喜光（1998）

●調査結果の検討会

アンケート調査の結果について、学校教育の現場で日々生徒と接している三人の先生方に参加いただき、調査結果の検討会を関係者の間で行なった。その概要是、本報告書の「資料3」として掲載した。

2.1.6. データの公開

アンケート調査の分析の対象となった元データについては、今後国立国語研究所のホームページ（<http://www.kokken.go.jp>）において公開し、研究的利用に供する予定である。また、本報告書に次いで刊行を予定する面接調査のデータについても、固有名を伏せた上で、報告書刊行の後に同様に公開する予定である。

2.2. 調査対象者

2.2.1. 調査対象者の選定

本調査で対象とした地域は、先にも述べたように東京都・大阪府・山形県の3地域である。日本語の共通語の基盤である東京での状況を明らかにすることに加え、地域差の有無や地域特有の表現の使用状況（たとえば各地域での方言形の使用状況や関西圏におけるいわゆる身内敬語〔身内尊敬〕の使用状況）を見ることも目的とした。

調査対象とした学校は中学校と高等学校である。そこに通う生徒、すなわち中学生と高校生を調査対象者（回答者）とした。東京都では中学校と高等学校を、大阪府では高等学校のみを、山形県では中学校のみを調査した。以下では、調査対象とした東京都の中学校を〈東京中学〉、東京都の高等学校を〈東京高校〉、大阪府の高等学校を〈大阪高校〉、山形県の中学校を〈山形中学〉と呼ぶこととする（それぞれを「グループ」と呼ぶこともある）。

〈東京中学〉の対象校は、「東京都中学校国語教育研究会」（会長＝中野区立北中野中学校長・菊地明氏〔当時〕）の協力により、地域的な片寄りが生じないよう配慮を得つつ21校紹介を受けた。全て公立の共学校である。

〈東京高校〉の対象校は、「東京都高等学校国語教育研究会」（会長＝東京都立小山台高等学校長・毛利順男氏〔当時〕）の協力により、これも地域的な片寄りが生じないよう配慮を得つつ公立の共学校から23校紹介を受けた。また、これとは別に、私立の男子高校と女子高校を1校ずつ加え合計25校とした。

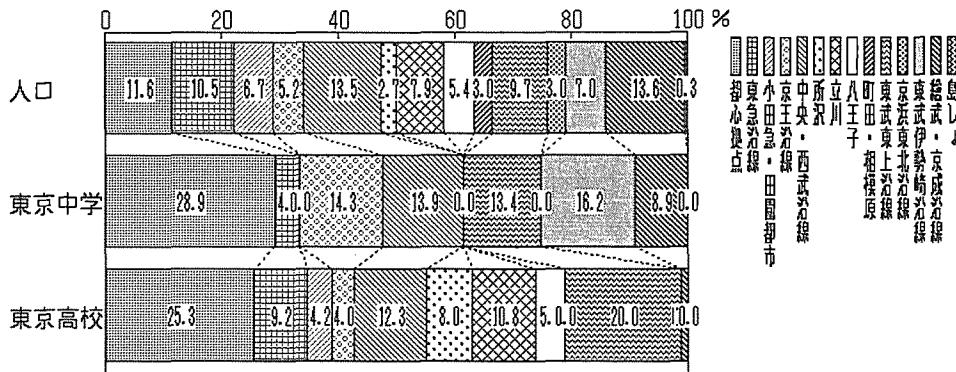
〈大阪高校〉の対象校は、大阪府教育委員会（大阪府科学教育センター）および「大阪府高等学校国語教育研究会」（理事長＝大阪府立四条畷高等学校長・山本茂雄氏〔当時〕）の協力により、やはり地域的な片寄りが生じないよう配慮を得つつ、公立の共学校から8校、私立の男子高校と女子高校から1校ずつ、合計10校紹介を受けた。

〈山形中学〉の対象校は、特に協力の得られた山形県東田川郡三川町にある公立の共学校1校のみにとどまった。従って〈山形中学〉のデータは、山形県全体の平均的な代表とはなっていない可能性があるので留意しなければならない。ただし名称は、他との統一を考慮し〈山形中学〉とした。

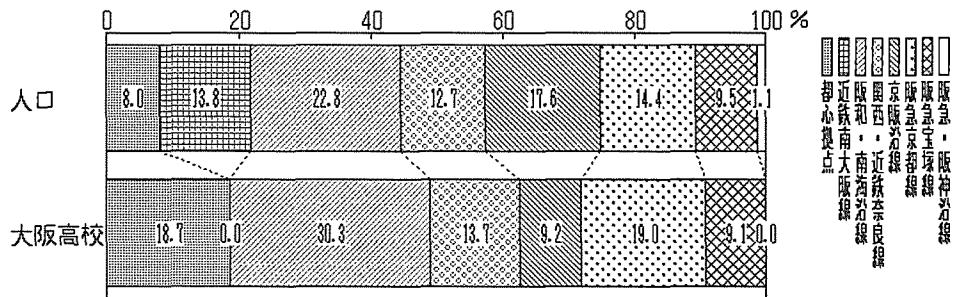
こうして選んだ調査対象校（調査協力校）を一覧の形で示すと資料表2-1のとおりである（以下、「資料1」の表図を「資料表」「資料図」、本文中の表図を「本文表」「本文図」と呼び分ける。たとえば「資料表2-1」とは「資料1」の「表2-1」のことである。なお図表の番号は本報告書の章立てと対応させている部分があるため「表1」は存在しない）。調査対象者は、これらの学校から、基本的にクラス単位で得た。各校から2クラスの生徒(100人前後)を調査対象者とすることを基本としたが、それ以上の協力が得られたケースも若干ある。なお、〈山形中学〉(1校)は、例外的に全クラス(全員)を調査対象とした。面接調査のみ実施した学校の生徒に対してもアンケート調査票への回答を求めたため、調査対象者の抽出がクラス単位でなくかつ人数が少ない学校も若干ある。

〈東京中学〉〈東京高校〉〈大阪高校〉では、先に述べたように、極端な地域的な片寄りが生じないよう配慮を得つつ対象校の紹介を受けたのであったが、学校の所在地域の人口と調査対象者の生徒数を構成比で比較し、地域的な片寄りの有無やその程度を検証したのが本文図2-1(東京都)と本文図2-2(大阪府)である。地域全体の人口とそこに住む中学生・高校生全体の人口は構成比の点で必ずしも同一でなく正確な比較とはならないが、およそその傾向を見る上では有効であろう。なお、地域区分は朝日新聞社編『'93民力』(朝日新聞社)の区分によった(人口は1990年の国勢調査にも

とづく)。その資料では、社会的・経済的な活動でまとまりを有する圏域により地域区分がなされているが、このグラフでは、東京都（または大阪府）以外の人口は差し引いて再計算してある（たとえば「東武東上線」には埼玉県の一部も含まれているがその人口は差し引いた。なお「立川」など市の名称を持つ場合もその周辺の地域まで含む）。



本文図 2-1 地域の人口比率と地域内の調査対象者的人口比率の比較（東京）



本文図 2-2 地域の人口比率と地域内の調査対象者の人口比率の比較（大阪）

グラフによると、人口構成比から見て地域的な片寄りが生じている部分がある。おもなところを指摘すると、東京の場合（本文図2-1）「都心拠点」の調査対象者の比率が、中学生・高校生とともに、本来の人口のそれよりも数値が大きくなっている。また、大阪の場合（本文図2-2）も、「都心拠点」の比率は本来の数値よりも大きくなっている。従って、東京も大阪も、都心の状況をやや拡大した結果が得られたデータである可能性がある。

2.2.2. 調査対象者の属性別構成

調査は基本的に授業時間の一部を使い、教師の監督のもとに実施してもらった。回答時間は30分前後を想定した。配布・回収とも教師を通じて行なったため、回収率はほぼ100%に近いものと考えられる。

回収数（調査対象者数）は、〈東京中学〉2456人、〈東京高校〉2222人、〈大阪高校〉1004人、〈山形中学〉339人となった。性別・学年別に見たそれぞれのグループの人数や構成比は、資料表2-2および資料図2-1-1以下のとおりである。

(1) 性別構成

資料図 2-1-2・3 は性別構成を見たものである。男子と女子の比率はどのグループもほぼ半々である。想定する母集団とほぼ同じ構成比と考えられる。

(2) 学年別構成

資料図 2-1-4・5 は学年別構成を見たものである。〈東京中学〉はほぼ全員 2 年生、〈東京高校〉と〈大阪高校〉は 1 年生と 2 年生がほぼ半々、〈山形中学〉は 1 年生・2 年生・3 年生がほぼ同じ比率である。調査はいずれも秋から冬にかけて実施したため、〈山形中学〉を除き、受験を控える 3 年生は調査対象から除外した。なお、〈東京中学〉と〈東京高校〉に若干名いる 3 年生や、〈東京中学〉に若干名いる 1 年生は、本来は面接調査の対象者であった者である。

(3) 地理的背景

調査対象者の言語使用や言語意識は、本人が現在住んでいる地域や、本人がこれまで生まれ育った地域や、両親が生まれ育った地域などの地理的背景に左右される部分が少くない。フェイスシート項目への回答状況から、これらについて見てみよう。

①居住地

〈東京中学〉は、対象校が全て公立の学校であり、通学区域は居住地の近くに限定されている。そのため、学校の所在地と調査対象者の現居住地はほぼ同じ、つまり居住地はほぼ全員東京都と考えられる。これに対し〈東京高校〉は、通学区域がもう少し広がりを持っていること、また通学区域に制限のない私立の学校を対象校の一部として含んでいることから、学校の所在地と調査対象者の居住地が異なる場合がある。これについて、都内在住か否かにより集計した結果が資料図 2-2-1～3 である（「NR」は無回答 [no response] の意）。「資料 2」として掲げた〈東京中学〉の調査票にはこの調査項目はないので、下に質問文と選択肢を示す。

F1. あなたが今住んでいるところはどこですか？

1. 東京都 2. それ以外→ _____ 県 _____ 市

これによると、〈東京高校〉の 9 割の回答者は東京都在住者であることが分かる。つまり、〈東京高校〉について得られたデータはほぼ「東京都の高校生のデータ」と言ってよい状況である。

資料図 2-2-4～6 は「その他」の内訳を示したものである。東京都との地理的連続性から、埼玉県・千葉県・神奈川県がそのほとんどを占める。女子で埼玉県がほとんどを占めるのは、私立の女子高校（1 校）が所在する地理的条件（東京都練馬区）によるところが大きい。

なお、同じ事情は〈大阪高校〉にもあるはずだが、フェイスシート項目として特に設けなかつたため不詳である。しかし、通学区域に制限のある公立高校に在籍する生徒が多いことを考えると、大阪府在住者が多数を占めている可能性が高い。

②居住歴

地元以外（〈東京高校〉〈東京中学〉は東京都以外、〈大阪高校〉は大阪府以外、〈山形中学〉では東田川郡三川町以外）で 1 年以上暮した経験の有無（〈山形中学〉では転居の有無）についても尋ねた。本書の「資料 2」として掲げた〈東京中学〉の調査票では最終ページの「F1」が該当する。な

お、〈大阪高校〉と〈山形中学〉では、次のように若干質問方法が異なる。

【〈大阪高校〉】

F1. これまでに、大阪府以外の土地で、1年以上、暮したことがありますか？

1. ない（大阪府の中での転居をふくむ）

2. ある → ある人は、5歳から今までの間に

府 市

一番ながく住んだ所を一つ書いてください。 県 町

【〈山形中学〉】

F2. これまでに転居（ひっこし）したことがありますか？

1. ない

2. ある → ある人は、5歳から今までの間に

市

一番ながく住んだ所を一つ書いてください。 県 町

結果は資料図2-2-7～9のとおりであった。「ない」の回答が〈東京中学〉〈東京高校〉で7割、〈大阪高校〉で8割、〈山形中学〉では9割といずれも多数を占める。「ある」がやや多い〈東京中学〉〈東京高校〉での内訳は、埼玉・神奈川・千葉の近隣3県が合せて4割前後を占める。

グラフを示すことは省略するが、5歳から現在（調査当時）までの最長居住地（〈東京中学〉の調査票では「F2」が該当）を尋ねた結果でも、〈東京中学〉は9割が東京都、〈東京高校〉も8～9割が東京都、〈大阪高校〉は8割が大阪府、〈山形中学〉は9割以上が三川町と、それぞれ地元が多数を占めた。

つまり、調査対象者のうちの多くが生まれ育った地理的背景はそれぞれの地元であり現在もそこに住んでいること、またそうでない場合であってもその近隣を地理的背景とすることが多いことが分かる。一般に大都市に住む人の地理的背景は多様であり、生まれてからずっと地元という人の割合は少ないのであるが^(注1)、中学生・高校生といった若年層の場合は、本人自身については地元の比率がかなり高い。従って、次章以下で示す調査結果は、他地域からの移住者による影響の少ないデータであると言える。

③両親の生育地

「資料2」の〈東京中学〉の調査票では「F3」の質問が該当する。

グラフは省略するが、両親の子供時代（5～13歳）の生育地についても、調査対象者本人ほどではないが、やはり地元が多い。〈東京中学〉〈東京高校〉の場合、父親・母親いずれも「東京都」が4割前後を占め、それ以外は主として関東・甲信越以北の各県に分散する。〈大阪高校〉も、父親・母親いずれも「大阪府」が4割を占め、それ以外は主として近畿以西の各府県に分散する。また、〈山形中学〉は、「三川町」が父親で8割、母親で4割を占め、それ以外は主として周辺の市町に分散する。

つまり、言語形成の点において本人の地理的背景とともに大きな要因となっていると考えられる両親の地理的背景は、〈東京中学〉〈東京高校〉は東京都を中心とした東日本、〈大阪高校〉は大阪府を中心とした西日本、〈山形中学〉は三川町を中心とした庄内地方と言うことができる。

(4) 家の仕事

親の職業（家の仕事）も生徒たちの言語使用や言語意識に影響を与えることが十分考えられる。たとえば自宅で接客業を営む家庭に育った生徒は敬語を意識しやすいといったことがあるかもしれない。そこで、これについても質問した。「資料2」の〈東京中学〉の調査票では「F4」が該当する。回答は選択肢の中から選ばせた。なお、本報告書では、親の職業と敬語意識・敬語行動の関連を見るまでには至らず、回答者の背景的情報の確認にとどまった。

結果は資料図2-3のとおりであった。大都市である〈東京中学〉〈東京高校〉〈大阪高校〉では「勤め」が5~6割を占め、これに「商業」と「公務員」がそれぞれ1割前後で続く。これに対し〈山形中学〉は「勤め」と「農業・勤め（兼業農家）」がそれぞれ3割前後を占め、これに「農業（専業農家）」が1割強で続く。

つまり、〈東京中学〉〈東京高校〉〈大阪高校〉の回答者は主としてサラリーマン世帯で育った生徒、また〈山形中学〉は主としてサラリーマン世帯または農業世帯で育った生徒と言える。

(5) 課外活動等への参加

中学生・高校生の学校生活における中心的場面は、何と言っても教室等での授業場面（学習場面）である。しかし、学校での「言語行動」という点で言えば、こうした場面は、典型的には教師による質問とそれに対する生徒の側の応答という、期待される様式と表現形式にのっとって営まれる部分が少なくない。確かにこうした場面も、学校生活における言語活動の重要な部分を構成しており軽く見ることはできないが、しかし生徒たちが言葉を意識すると思われる場面はさらに多様であろう。その中でも部活動（クラブ活動）で上級生や顧問の先生と話をしたり、生徒会活動のような改まった場面で発言する状況は、生徒たちが言葉遣いをかなり意識する場あるとともに、敬語を実践的に身につける機会ともなっているよう。本調査でも、こうした場面における生徒たちの敬語意識や敬語使用も尋ねている。

ただし、課外活動への参加は個人の自発性に委ねられているため、全員が部（クラブ）活動や生徒会活動に参加しているわけではない。こうした活動に参加していない生徒も中には当然いる（ただし授業活動の一環として参加が義務的なクラブ活動を並行して行なっている中学校もある）。

そこで、どのくらいの生徒がどのような課外活動に参加しているかを見るための項目を、フェイスクエート項目のひとつとして用意した。

①部（クラブ）活動への参加

職場の中における敬語意識や敬語使用を調査した国立国語研究所（1982）によると、入社前の敬語習得の場として学校時代（大学時代を含む）の部活動・サークル活動を挙げる回答者が1~2割いた（10の選択肢の中から任意数を選択させた結果）。そこで、生徒たちの敬語使用の背景的な情報のひとつとして、部（クラブ）活動への参加状況を尋ねた。

質問は「あなたは学校では、何の部（クラブ）活動をしていますか？」と現在のこととして尋ねた（「資料2」の〈東京中学〉の調査票では「F5」が該当する）。運動部と文化部に分けて尋ねた（両方に該当する生徒もいる）。

運動部への参加状況をまとめたのが資料図2-4-1~8である。具体的な分布状況は各グラフを参照してもらうこととし、ここでは参加者率（「無所属・N R」を除く部分が全体に占める割合）のみを指摘すると、〈東京中学〉の男子が7割、女子が5~6割、〈東京高校〉の男子が6割、女子が4~5

割、〈大阪高校〉の男子が5割、女子が3割、〈山形中学〉の男子がほぼ全員、女子が7割、という状況である。運動部への参加者はざっと半数程度である。女子よりも男子の方が参加者率がやや高い。先にも述べたように、本調査は秋から冬にかけて実施したが、学校によっては、この時期は受験に備え、2年生はすでに引退している場合もある。従って、「かつての参加」まで拡大すれば、参加者率の数値はもっと高くなる可能性がある（次の文化部についても同様）。

一方、文化部への参加状況をまとめたのが資料図2-4-9～16である。ここでも参加者率のみを指摘すると、〈東京中学〉の男子が2割、女子が4～5割、〈東京高校〉の男子が1～2割、女子が3割、〈大阪高校〉の男子が1割、女子が2～3割、〈山形中学〉の男子がごく少数、女子が3割、という状況である（〈山形中学〉の対象校の文化部は選択肢がただ一つ）。文化部への参加者はざっと2～3割程度にとどまる。男子よりも女子の方が参加者率が高い。

以上は運動部と文化部を別々に見た場合であるが、両者をまとめて全体の状況を示したのが資料図2-4-17～20である。

〈東京中学〉では、運動部または文化部に所属する生徒が男女とも9割に達する。授業活動として参加が義務的なクラブ活動を含むためであろう。所属先は、男子は主として運動部、女子は運動部と文化部がほぼ半々である。〈山形中学〉もほぼ全員が参加している。男子はほとんどが運動部、女子の場合も運動部が多い。

これに対し高校（〈東京高校〉〈大阪高校〉）は、授業活動としてのクラブ活動がないこともあり参加者率は低く、男女とも、〈東京高校〉は7割程度、〈大阪高校〉は5～6割にとどまる。ただし、先にも述べたように、質問では現在の状況を尋ねているので、一時期参加していた生徒を含む「参加経験者率」ということで言えば、数値はもっと高くなるものと推測される。

本調査では、クラブ活動等における上級生への敬語意識や敬語使用についても尋ねているが、中学生ではかなりの生徒が、高校生でも半数以上の生徒が、今置かれている具体的な状況を想起しながら回答したものと考えられる。

②部（クラブ）活動での役職

部（クラブ）活動で、他の生徒の前に立ち全体をまとめていく役職（部長や副キャプテン等）に就いているか否かも、敬語意識や敬語使用を左右する面があると思われ、それについても尋ねた。「資料2」の〈東京中学〉の調査票では「F6」が該当する。

結果は資料図2-5のとおりであった。役職を「している」と回答した生徒は1～2割である。資料図2-5-1は、「している」と回答した生徒について、その内容を尋ね（回答は自由記述）、分類した結果である。質問文に「部長とか副キャプテンなど」と補足説明したこともあり、「部長・キャプテン等」と分類される回答が8割前後と多数を占めた。

③学級活動での係

学級での活動において敬語を意識しやすいと思われる立場にさまざまな「係」がある。そこで、現在クラスで何か係をしているか否かを尋ねた。「資料2」の〈東京中学〉の調査票では「F7」が該当する。

結果は資料図2-6のとおりであった。係を「している」と回答した生徒は、中学で7割、高校で4割前後である。中学で数値が高いのは、教育的配慮からさまざまな係を用意しているためであろう。資料図2-6-1は、「している」と回答した生徒について、その内容を尋ね（回答は自由記述），

分類した結果である。人前に出て説明をしたり議事の進行をするために敬語を意識しやすいと考えられる「学級委員・議長等」は、立場の性格上当然ではあるが、数値は1割程度である。

④生徒会活動での役職

課外活動でもう一つ敬語を意識しやすいと思われる場面に生徒会活動がある。こうした活動で役員や委員をした経験があるか否かを尋ねた。この設問では、現在しているかどうかではなく、こうした経験があるかどうかということで尋ねた。「資料2」の〈東京中学〉の調査票では「F8」が該当する。

結果は資料図2-7のとおりであった。「経験あり」と回答した生徒は、中学で6～8割、高校で3割である。中学と高校で数値が大きく異なるのは、質問文の「委員」という言葉が指示する対象・範囲が、中学と高校とでずれがあるためかもしれない。資料図2-7-1は、「経験あり」と回答した生徒について、その内容を尋ね(回答は自由記述)、分類した結果である。委員会や生徒総会など人前にて説明をしたり議事の進行をするために敬語を意識しやすいと考えられる「生徒会長・役員等」は、これも立場の性格上当然ではあるが、〈大阪高校〉を除き、数値は1割程度である(〈大阪高校〉の数値の高さの原因は不詳)。

(注1) 1997年に東京都在住者(20～69歳)の言語意識調査をした尾崎喜光(1999a)によれば、「出身地」や「5～15歳の最長居住調査」を「東京都」と回答した人は、いずれも5割に満たない。

3. 敬語についての意識

3.0. 調査項目について

本章では、敬語行動に関する意識を調査した結果を報告する。

敬語行動とは、対人的な言語行動のうち、自分自身や周囲の人的要素（相手・話題の人物・聴衆など）、あるいは場面的要素（場所・状況・時間など）や話題への配慮を、敬語や待遇表現形式を中心とするさまざまな言語表現に託して表現する言語行動である。こうした敬語行動の具体的な実現の仕方を決定するものが、敬語行動に関する「意識」である。コミュニケーションは話し手と聞き手とのやりとりの形で成立しているが、こうした相互方向性という特徴を考えるならば、言語行動に関する「意識」は、話し手として自身の言語行動を左右する要因として重要であるばかりでなく、聞き手として相手の言語行動をどう受け止めるかを左右する要因としても重要である。

一口に敬語行動の意識と言っても、その内容にはさまざまなものがある。これを杉戸清樹(1996)の言語意識の分類に従ってタイプ分けすると次の5種となる。

- (1)現状認識……いま（従来）どういう敬語行動をしていると思っているか。
- (2)評価・感覚…現状をどう評価し、どう感じているか（好悪・美醜など）。
- (3)志向…………どういう敬語行動をしたいか。自身の望ましい敬語行動は何か。
- (4)信念・期待…敬語行動は本来どのようなものであるべきだと自ら信じるか。
- (5)規範…………所属する集団ではどのようにすべきだとされていると思うか。

このうち(1)は、敬語の〈使用実態〉そのものについての意識である。言語研究においては、本来であれば「観察」により得るべき情報を、特定の言語表現の使用状況を効率よく調べるべく、話し手（調査対象者）の〈使用意識〉（内省）という情報をいわば“代替情報”として利用して調べるものである。こうした敬語の〈使用実態〉の「意識」に関する情報は、言葉に関する情報の中でも中心的なものと言えよう。これを調査した結果については、主として「第5章 敬語の使用」で報告する。

(4)(5)は「意識」の中でも「意見」に近い性質を持つものである。これについては主として「第4章 敬語についての意見」で報告する。

本章では、敬語に関する意識の中でも(2)に関するものを中心に報告する。すなわち、生徒たちは学校の中でそもそもどの程度言葉遣いを気にしながら生活しているのかとか、敬語の使用が期待されると考えられる先生や上級生といった目上に対する場面で言葉遣いに困難を感じているか、といったことを中心に報告する。なお、「意識」に関連して「行動」まで質問が及ぶ調査項目も中にはあるが、それもあわせて本章で報告する。具体的には次のような事項を質問した。

- ①ふだん学校で言葉遣いが気になるか
- ②先生や上級生に対する場面で自分の言葉遣いが気になるか
- ③先生や上級生に対する場面で自分の言葉遣いが変わるか
- ④先生や上級生への言葉遣いで困った経験はあるか
- ⑤学校生活の改まった場面で言葉遣いに困った経験はあるか
- ⑥先生や上級生から言葉遣いを注意・教示された経験はあるか
- ⑦学校生活で言葉遣いに気を使う場面

なお、調査票では、本章で報告する調査項目全体の導入として、次の指示を冒頭に示した。

まずははじめに、毎日の学校でのことばづかいを感じていることを答えてください。
「どちらかといえば」という程度でもかまいません。それぞれ選んでください。

すなわち、「そうあるべきだ」とか「そう考えるべきだ」という〈規範〉としての回答ではなく実際にどう意識しているかの回答が求められていること、また、現実には選択肢の中間である場合も少くないだろうが、どちらかより近い方を選択することが求められていることを明示した。

以下、設問ごとに調査結果を報告する。

3.1. ふだん学校で言葉遣いが気になるか

敬語行動とは、つまるところ、会話の参加者や会話状況の異なりに伴う言葉の使い分けと言える。それが実現されるためには、他者を前にした場面や異なる会話状況において、自身の言葉遣いに意識的になる必要がある。意識せずに言葉を使い分けるということも無いとは言えないが、使い分けをするのであれば、多少なりとも意識的になるのが一般的であろう。そこでまず、これに関する一般的な質問をした。

質問文と選択肢は次のとおりである。本書の末尾に「資料2」として掲げた〈東京中学〉の調査票では「I.1.」が該当する。

ふだん、学校で、自分自身のことばづかいが気になるほうですか？
1. 気になるほうだ。 2. あまり気にならないほうだ。

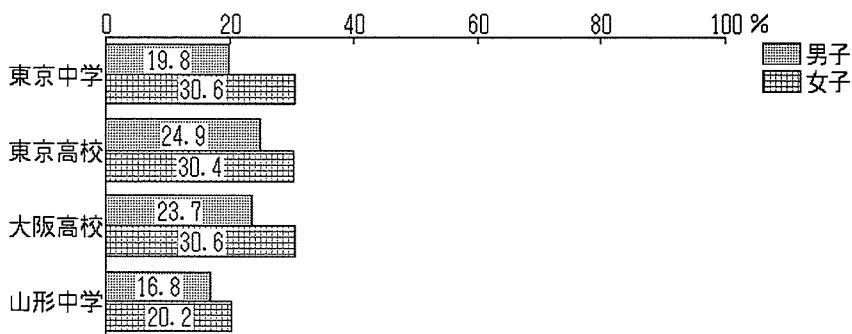
結果は資料表3-1および資料図3-1-1～3のとおりであった（選択肢の表現は凡例では簡略化した。なお「NR」は無回答の意）。

これによると、「気になる」と回答した生徒は2～3割で、全体としては少数であることがわかる。自分自身の言葉遣いについてそれほど気にせず学校生活を送っている生徒が多い様子がうかがえる。

職場の中で言葉遣いに気を配りながら働いている成人がどの程度いるかを調べた国立国語研究所（1982）によれば、事務系か現場系かによる違いや、地域による違いが少なからずあるが、「気を配る」の回答は3～8割の範囲に分布する。調査方法等が異なるため厳密な比較はしにくいが、学校生活において生徒たちは、職場社会の成人ほど言葉遣いを気にしながら生活しているわけではないようである。

この違いは、中学生・高校生は言葉の使い分けや敬語を習得しつつある段階にあるためということがひとつ要因として考えられるが、他方、学校社会というのは、互いに年齢の近い圧倒的多数の生徒たちと、その生徒たちを指導する比較的少数の教師たちにより構成されている社会であって職場社会ほど人間関係が複雑でないこと、さらには知らない人や外部の人と接する頻度や公式性の高い場面で発言する頻度もそれほど高くない社会であることも、要因として小さくないだろう。こうした社会であれば、ふだん自分の言葉遣いを気にする生徒がそれほど多くないのも当然のことと言えよう。

なお、地域差が多少見られ、山形では言葉遣いを気にする生徒の比率が東京よりもやや少ない。各グループで男女を比較すると、いずれのグループも、男子よりも女子の方が数値が高い（本文図3-1を参照）。男女別に見た場合も「気になる」は少数派であることに変わりないが、言葉遣いを気にすることは、一般に男子よりも女子に相対的に多いようだ。



本文図 3-1 ふだん学校で言葉遣いが「気になる」

3.2. 先生や上級生に対する場面で自分の言葉遣いが気になるか

先の設問では、非常に一般的なこととして、言葉遣いを気にするかどうかを尋ねたのであったが、次に、相手を「先生や上級生」に限定し、そうした目上と話をするとき、自身の言葉遣いが気になるかどうかを尋ねた。

質問文と選択肢は次のとおりである。「資料2」の〈東京中学〉の調査票では「I.2.」が該当する。

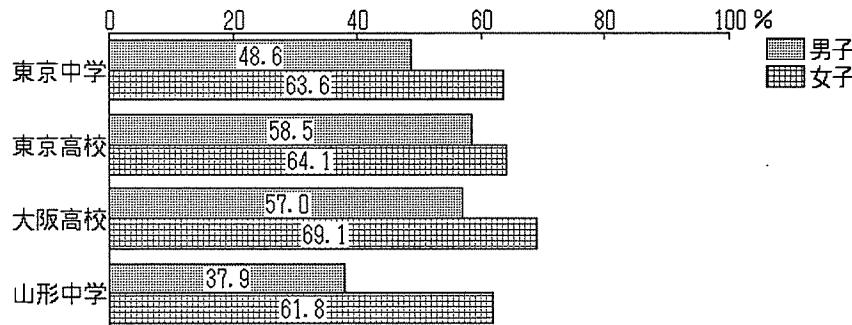
学校生活のなかでも、とくに先生や上級生と話すとき、自分自身のことばづかいが気になるほうですか？

1. 気になるほうだ。
2. あまり気にならないほうだ。

結果は資料表3-2および資料図3-2-1～3のとおりであった。

これによると、先の一般的な質問への回答と異なり、「気になる」と回答した生徒は5～6割いる。社会的な複雑性が比較的少ない学校社会であっても、先生や上級生といった目上との人間関係の中では、約半数の生徒が言葉遣いを気にしながら生活している。

なお、論理的に考えれば、さまざまな状況を包含する先の設問の数値の方が高くなるはずだが、実際は逆になっている。先の設問では一般的なことを尋ねたために具体的な状況が想起しにくく、そのため「気になる」の回答が低くなったのかもしれない。



本文図 3-2 目上（先生や上級生）に対し言葉遣いが「気になる」

男女別に見ると、この設問でも各グループで性差が見られ、男子よりも女子の方が数値が高い（本

文図 3-2 を参照)。目上に対し言葉遣いを気にすることは、一般に男子よりも女子に多いようだ。

また、男女別に見ると、女子には目立った地域差はないが、男子の場合は、〈山形中学〉の数値が4割程度にとどまり地域差が見られる。後出の「第5章 敬語の使用」のさまざまな調査項目において観察されることであるが、〈山形中学〉の特に男子生徒は、〈山形中学〉の女子生徒および〈東京中学〉〈東京高校〉〈大阪高校〉の男子生徒とやや異なり、上級生に対する言葉遣いが、数値の点で、先生に対するよりもむしろ同級生に対する場合に近いケースが少なくない。つまり、〈山形中学〉の男子生徒の間では、学年の上下の違いの意識があまりなく、学年が異なっても友達同士のようなつきあいがなされているように見受けられる。本設問では、「先生や上級生」として両方を括って尋ねたが、もし「上級生」と限定して尋ねたとしたら、数値はさらに低くなった可能性がある。なお、こうした男子の特異性は、今回の調査対象校に限られることなのか、それとも周辺の学校にも一般に観察されることなのか、今後さらに精査が必要である。

3.3. 先生や上級生に対する場面で自分の言葉遣いが変わるか

以上で見た「気になる」かどうかという意識レベルの次の段階の質問として、相手により自分自身の言葉遣いが変わるかどうかという行動レベルを尋ねた。具体的には、友達と話すときと目上の人と話すときとで言葉遣いが変わるかどうかを尋ねた。敬語使用の本質である言葉の使い分けの実態を、回答者の行動意識をとおして探ろうとしたのである。

質問文と選択肢は次のとおりである。「資料2」の〈東京中学〉の調査票では「I.3.」が該当する。

先生や上級生と話すときと、親しい同級生と話すときとで、自分自身のことばづかいが変わるものがあると思いますか？

1. あまり変わらない。
2. 変わると思う。→ことばづかいのどんなところですか？ 具体的に書いて下さい。

結果は資料表3-3および資料図3-3-1~3のとおりであった。「変わる」の回答については、自由記入された「どんなところか」の回答を、「敬語」「丁寧な言葉」「言葉の最後」「人の呼び方」「言語行動の種類」「方言・標準語・アクセント」「無記入」「その他」に分類した。具体的には次のような表現を含む回答である。なお、グラフの数値は、「変わる」の回答者数ではなく回答者全員を母数とした数値である。

①敬語：「先生や上級生には敬語を使う」という内容。

「敬語・敬体・尊敬・謙譲・へりくだり」などの表現での回答。

「友達には敬語は使わない」という裏側からの回答も含む。

* 「丁寧・あらためて」などの表現での回答は②とした。

②丁寧な言葉：「先生や上級生には丁寧な言葉を使う」という内容。

「丁寧・あらためて・きちんとした・乱暴でない・上品」などの回答。

「オ～・デス・マス」などの語形だけの回答も含む。

「友達には乱暴になる」という裏側からの回答も含む。

③言葉の最後：「文末・語尾・言葉の最後・終わりの言い方」などの回答。

「文末のデス・マス」などの回答も含む。

④人の呼び方：「一人称・二人称・三人称」「先生・先輩」「キミ・ボク・～サン」

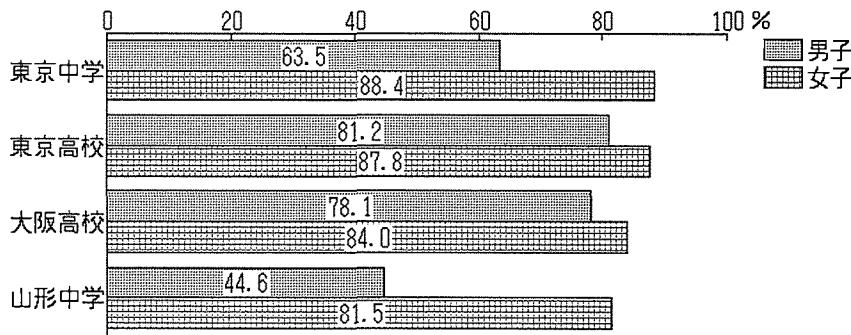
など、人称や敬称を含む回答。

⑤言語行動の種類：「あいさつ・質問・依頼・謝罪・お礼・あいづち・返事・うけこたえ・話の内容や話題」などを含む回答。

⑥方言・標準語・アクセント：「先生には標準語で」「先輩には方言は使わない」「ンダノーガソーデスになる」など。

結果を見ると、「変わらない」と回答した生徒は2~4割で、6~8割の生徒は何らかの点で言葉遣いが「変わる」と回答している。中学生・高校生にとっても、相手が変われば言葉遣いも変わるというのが一般的な状況のようだ。なお、「変わらない」は、友達に対しても丁寧な言葉遣いをするために「変わらない」ということも論理的には考えられるが、しかし実際には、多くの場合、先生や上級生のような目上に対しても丁寧でない言い方をするために「変わらない」ということであると思われる。つまり「変わらない」の数値は、目上に対してもあまり丁寧でない言葉遣いをする（“タメ口”【友達間の言葉遣い】を使う）と意識する生徒の割合と見てほぼよからう。

男女で比較すると、〈東京中学〉〈山形中学〉で男女差が大きい。「変わる」の方の回答をまとめ、男女を比較して示したのが本文図3-3である。



本文図3-3 目上（先生や上級生）と友達とで言葉遣いが「変わる」

「変わる」の数値はどのグループでも女子の方が高く8~9割にのぼる。女子の中での地域差等はそれほどない。これに対し男子は、〈東京高校〉〈大阪高校〉といった高校生では「変わる」の回答は8割にのぼり女子と大差がないのに対し、中学生では、〈東京中学〉が6割、〈山形中学〉が4~5割にそれぞれとどまり、女子との開きも大きい。つまり、中学生の男子は、目上に対し友達と同じような言葉遣いをすると意識する生徒が、中学生の女子や高校生の男子と比べやや多い。この傾向は、〈東京中学〉よりも〈山形中学〉で著しい。こうした性差・地域差の傾向は、目上に対し言葉遣いが「気になる」とする先の回答の数値と平行的な関係にある（本文図3-2を参照）。意識と行動とが密接な関係にあることがうかがえる。

さて、「変わる」と回答した生徒は言葉遣いの何が変わると意識しているのか、その内訳を見てみよう。

多くの割合を占めるのは「敬語」（2~4割）と「丁寧な言葉」（2~3割）である。これらに次ぐのが「言葉の最後」である。いずれも狭い意味での「敬語」と言えるものであるが、この3種だけで、「変わる」の回答で具体的な内容に関する回答が得られなかった「無記入」を除く回答のうちの8~9割を占める。すなわち、友達に対してと目上に対してとで、もし自分の言葉遣いが変わるとすれば、狭い意味での敬語の使用が変わる（友達には敬語を使わないが目上には使う）と意識している生徒

が非常に多いことがわかる。中学生・高校生にとっては、「友達か目上かによる言葉の使い分け」はすなわち「敬語の使い分け」と意識されているとほぼ言ってよい状況である。

なお、「敬語」と「丁寧な言葉」とを比べると、中学生（〈東京中学〉〈山形中学〉）では両者がほぼ等しいのに対し、高校生（〈東京高校〉〈大阪高校〉）では「敬語」に数値が傾く。高校生では「変わらない」の回答が中学生よりも少なかったことと合わせ考えると、中学生から高校生に進むに従い、目上に対する敬語使用がより一般化し、かつその表現も、丁寧語のみにとどまる表現から尊敬語や謙譲語を含む敬意のより高い表現に進むことを示しているのかもしれない。

この設問に対する回答としては数値の低い「人の呼び方」も、第5章で報告するように、じつは相手による使い分けが明確になされている。しかし、この設問で想定させた人物のうち「先生」に対しては、呼びかけるとしたら「〇〇先生」くらいの表現しかなく、複数の可能性の中から積極的に「〇〇先生」を選択しているわけではない。たとえばそうした事情から、目上に対して、「人の呼び方」を使い分けていると意識する生徒が少なかったのかもしれない。

「方言・標準語・アクセント」は、〈大阪高校〉〈山形中学〉で数値が高くなると予想したが、いずれも数パーセントにとどまった。やはり第5章で報告するが、じつはこうした地域変種の使い分けも実際にはなされているようだが、それを意識化する生徒は少ない。

これも数値としては数パーセントにとどまるが、「言語行動の種類」という回答も確かにある点は注目される。たとえば他者に対し何かの行為を遂行するよう働きかける場合、「命令」として言うか、それとも「依頼」として言うかの選択も、自分と相手との関係により決まってくる面がある。その点、言語行動の種類の選択は敬語の選択とよく似た性質を持っている。最近の研究においては、相手や場面により使い分けられるこうした各種の言語行動まで含めて「敬意表現」ととらえ、総合的な観点から敬語研究が進められ始めているが、回答者自身もこれらを使い分けていると意識していること、すなわちこれらを敬語の使い分けと同じように意識している人がいる点は注目される。

3.4. 先生や上級生への言葉遣いで困った経験

目上である先生や上級生に対し言葉遣いを気にしている生徒が5~6割いることについては先に報告したが、中学生・高校生は言葉の使い分け（敬語）を習得しつつある段階であるがゆえに、そうした相手による使い分けの意識を「行動」として実現しようとする際、どういう言葉遣いをすべきか困難を覚えることがあるのではないかと推測される。

そこで、これまでそうした困難を覚えた経験があったかどうかを尋ねた。これについては、話しあ相手が目上であるがゆえに生じる困難（すなわち「人的多様性」に起因する困難）と、話をする場面が公式性の高い場面であるがゆえに生じる困難（すなわち「場面的多様性」に起因する困難）とが考えられる。それぞれに分けて尋ねた。

まず、人的多様性に起因する困難、具体的には先生や上級生に対する言葉遣いで困った経験があるかないかを尋ねた結果を報告する。

質問文と選択肢は次のとおりである。「資料2」の〈東京中学〉の調査票では「I.4.」が該当する。

これまでに、先生や上級生へのことばづかいのことでの困った経験はありますか？

たとえば、どういうことばづかいをしたらよいかわからなかった、もっと別の言い方をしなければならないのにまちがえた、など。

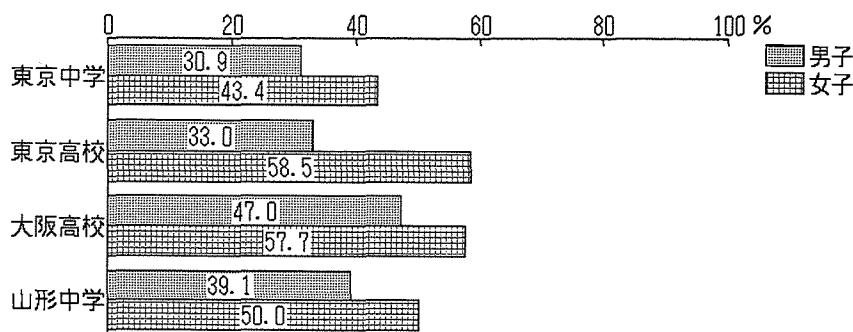
- 1. そういう経験はない。
- 2. そういう経験がある。

結果は資料表 3-4 および資料図 3-4-1～3 のとおりであった。

「経験なし」が 5～6 割、「経験あり」が 4～5 割であり、ほぼ半数の生徒は目上への言葉遣いで困難を経験している。

今回は小学校の児童は調査対象としなかったためデータによる裏付けはないが、小学校の段階では先生や上級生に対しそれほど高い敬語を使ってはいないものと推測される（特に同じ児童である上級生に対しては）。こうした敬語がまだ希薄であると推測される社会から、敬語を日常的に使用する成人の社会へ移行する時期が、今回調査対象とした中学生・高校生の世代と言えよう。新しいことを習得する時期であれば、「経験あり」と回答した生徒が約半数いるのも当然のことであろう。

男女で比較すると、「経験あり」の数値は、どのグループも男子よりも女子の方が数値が高い（本文図 3-4 を参照）。先に報告したように、目上に対し言葉遣いを気にしたり変えたりすることは男子よりも女子に多く、言葉の使い分けについては女子の方がより敏感である。そうであれば、困った経験が「あり」と回答する生徒が女子により多くなるのも当然と言えよう。



本文図 3-4 目上（先生や上級生）への言葉遣いで困った経験「あり」

〈東京中学〉と〈東京高校〉を比べると、特に女子において、困った経験が「あり」の数値は高校で高い。生まれてから調査当時までの年数が、中学生と高校生とで 2 年ないし 3 年違うためということもちろんあるが、上級生とも友達同士に近い面を持つ中学生社会と、成人社会に一步近づいた高校生社会の違いもあるのかもしれない。

方言社会においては、第 5 章で報告するように、目上に対する場合は方言形式を避け共通語形を用いる傾向が見られる。〈大阪高校〉〈山形中学〉の困った経験「あり」の中には、こうした方言と共通語の使い分けを想定しての回答も含まれている可能性がある。

3.5. 学校生活の改まった場面で言葉遣いに困った経験

次に、話しをする場が公式性の高い改まった場面であるが故に言葉遣いに困難を感じた経験の有無、すなわち場面的多様性に起因する困難の経験の有無を尋ねた結果を報告する。調査では、公式性の高い場面として、教科教育以外の時間での生徒による各種の活動において、大勢の前に出て発言するような場面を想定させた。

質問文と選択肢は次のとおりである。「資料 2」の〈東京中学〉の調査票では「I.6.」が該当する。

クラス討論、生徒会活動、部（クラブ）活動などで、司会や議長をする場合や意見をみんなの前で発表する場

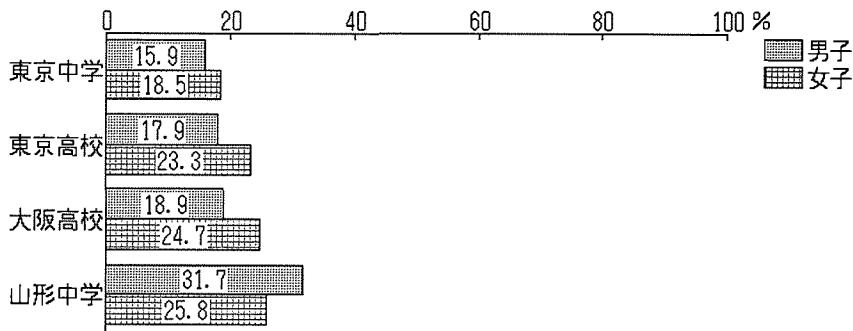
合などに、ことばづかいのことで困った経験はありますか？

1. そういう経験はない。 2. そういう経験がある。

結果は資料表 3-5 および資料図 3-5-1～3 のとおりであった。

「経験なし」が 7～8 割、「経験あり」が 2～3 割であった。こうした場面で言葉遣いに困難を経験した生徒は、全体としては少ない。

「経験あり」の数値を男女に分けて示すと本文図 3-5 のようである。先程の人的多様性による困難の「経験あり」（本文図 3-4）と比較すると、数値は全体的に小さくなる。つまり、中学生・高校生にとって言葉遣いで困難を覚えるのは、場面的多様性によるよりも人的多様性による方が大きいことがわかる。こうした違いが生じる背景としては、上級生や先生のような目上に対する場面は全ての回答者にとって現実的な場面であるのに対し、公式性の高い改まった場面で話をする機会は必ずしも全員にあるわけではないということがひとつ考えられそうだ。また、成人社会の職場などと異なり、学校社会の中には改まった場面というものがそもそもそれほど多いわけではないということ、そしてそうした場面であっても成人社会ほど高い敬語の使用が求められる可能性が低いことも、要因として小さくないだろう。



本文図 3-5 学校生活の改まった場面で言葉遣いに困った経験「あり」

3.6. 先生や上級生から言葉遣いを注意・教示された経験

敬語を習得しつつある段階にあり、目上への言葉遣いなどで困難を経験することもある中学生・高校生は、成人社会の規範からすれば適切ではない表現を使ってしまうこともときにはある。小学生であれば比較的大目に見られるだろうが、中学生・高校生ともなると、こうした言葉遣いをしたとき目上から注意されたり、適切な表現を教えられたりすることも少なくないだろう。敬語使用は、こうした広い意味での“指導”をおして自分のものとしていく面が少なくないのであるが、学校生活の中でどのくらいの生徒がこうした“指導”を受けながら生活しているのだろうか。

質問文と選択肢は次のとおりである。「資料 2」の〈東京中学〉の調査票では「I.5.」が該当する。

先生や上級生・先輩(せんぱい)から、ことばづかいのことで注意されたり、教えられたりしたことがありますか？

1. そういう経験はない。 2. そういう経験がある。

結果は資料表 3-6 および資料図 3-6-1～3 のとおりであった。

「経験なし」が5~6割、「経験あり」が4~5割であり、約半数の生徒が目上の人からの“指導”を経験している。誰もがこうした“指導”を受けているというわけではないが、敬語を習得する上での重要な要因のひとつと言えそうだ。

男子に比べ女子は部活動での先輩・後輩の上下関係がより明確であると言われ、実際第5章で報告するように上級生を「先輩」と呼ぶことも男子より多い。このため、女子が言葉遣いについて上級生から注意を受けることは男子よりも多いのではないかと考えたが、〈山形中学〉を除き男女差はそれほど見られない。

3.7. 学校生活で言葉遣いに気を使う場面

上級生や先生といった目上に対し自身の言葉遣いを気にしている生徒が約半数いることについては先に報告した（「3.2.」参照）。しかし、たとえば先生と話をする場面であっても、職員室で話をするときとクラブ活動で話をするときとでは、気にする度合いが異なるかもしれない。

そこで本章の最後として、話し相手や場面についてもう少し具体的かつ多様な状況を想定させ、生徒たちがそのうちのどのような状況で言葉遣いにより気を使っているか（あるいはそれほど気を使っていないのか）を調査した結果を報告する。

質問文と選択肢は次のとおりである。「資料2」の〈東京中学〉の調査票では「I.7.」が該当する。多くの生徒が気を使うであろうと予想した8つの場面を選択肢として掲げ、この中から自分自身で特に気を使う場面を3つ選択させた^(注1)。なお、〈東京高校〉〈大阪高校〉には男子校・女子校も含まれているので、選択肢「3」については、高校生用の調査票では、選択肢の末尾に「【男女共学校だけ】」と付記し、男子校・女子校からは回答を求めなかった。従って、男子校・女子校では7つの選択肢から3つ選択させることになる。

学校生活にはいろいろな場面があります。次のうちで、あなたがことばづかいに気を使うのはどんなときですか？ とくに気を使うもの三つに○をつけてください。

1. 授業中に先生に指名されて答えたり意見を言ったりするとき。
2. クラス討論で立上がって意見を発表するとき。
3. クラスの中で、異性の同級生と話すとき。
4. 部(クラブ)活動で、上級生や先輩（せんぱい）に話すとき。
5. 生徒会の活動や集会で、討論（とうろん）したり意見を発表するとき。
6. 職員室に用事で入っていって、先生と話すとき。
7. 部(クラブ)活動で、顧問（こもん）の先生やコーチの人と話すとき。
8. 学校に来た見知らぬ来客に、部屋などをたずねられて教えるとき。

結果は資料表3-7および資料図3-7-1~3のとおりであった。表とグラフの方では、選択肢の表現は簡略化して示した。

掲げた選択肢は、いずれも生徒たちが気を使うだろうと予想した場面であったが、それらの中でも数値はかなり分散している。

数値が高いのは「職員室で先生と」「来客に尋ねられて」であり、7~8割の生徒が、上位3つのうちのひとつとしてこれらを選択している。これらの場面は、生徒たちにとって、学校生活の中で言葉遣いに最も気を使う場面と言える。

これらに次いで数値が高いのは「クラブ活動で先輩と」である。〈山形中学〉を除き5~6割の生徒が、上位3つのうちのひとつとして選択している。〈山形中学〉で数値が低いのは、男子の数値が著しく低いことが要因として大きい（資料図3-7-2を参照）。〈山形中学〉では、男子の場合、おそ

らく先輩との心理的距離が小さいために、言葉遣いを気にする生徒の割合も小さくなつたものと考えられる。同様の傾向は〈東京中学〉の男子にも多少認められる。つまり、男子の場合、「先輩に対する場面」で言葉遣いを気にすることは、中学生よりも高校生により多い現象と言えそうだ。小学生までの友達同士のような上級生との関係が、高校生になると一層薄れるためであろう。こうした中学生と高校生の違いは、女子にはあまり認められない（資料図3-7-3によれば東京では中学生の方がむしろ数値が高めでさえある）。女子の場合、おそらく中学生の段階から上級生と距離を置く関係がすでに始まり、言葉遣いについて多くの生徒が気を使うためと考えられる。

以上の3つの場面以外は数値が小さい。

「クラブ活動で先生と」の数値は2~4割にとどまる。同じく先生に対する場面であっても、先ほどの「職員室で先生と」と比べると大きな開きがある。いろいろな先生が近くにいて用件もやや重い内容であることが少なくない「職員室」という空間と、ほかの先生はおらず話題もそれほど深刻でない「クラブ活動」という場面の違いが反映されたものであろう。なお、中学生（〈東京中学〉〈山形中学〉）よりも高校生（〈東京高校〉〈大阪高校〉）の方が数値が高いが、中学生時代よりも距離を置く関係が高校生時代で増加するためであろうか。男女別に見ると、女子は男子よりも数値がやや低い（資料図3-7-2・3を参照）。女子の場合、こうした場面において、先生との心理的距離が男子ほど大きくなつためなのかもしれない。

「授業中に指名されての意見」は言葉遣いにかなり気を使う場面と予想したが、これも数値は2~4割にとどまった。こうした場面では、他者に働きかけるような発話は少なく、丁寧語を中心としたぞんざいでない表現を用いて自分の考えを述べれば十分なことが多く、そのため言葉遣いもさほど気にしなくて済むということであろうか。高校生は中学生よりもやや数値が低いが、こうした場面に接する経験量の違いによるものであろうか。

同様の中学生と高校生の差は、一部を除き全体として数値がさらに下がって1~2割程度にとどまるが、「クラス討論で意見」や「生徒会で意見」の場面にも見られる。つまり、大勢の前で自分の意見を述べるような場面では、高校生よりも中学生の方が一層言葉遣いに気を使うようである。なお、「生徒会で意見」は、〈山形中学〉の数値がほかよりもかなり高い。この傾向は男女に分けた場合にも見られるが、地域的な表現（方言）が豊かに使われる地域であるために、生徒会のような改まった場面では共通語を使うことへの気遣いも含まれて、数値がほかよりも高くなっている可能性がありそうだ。

「クラスの中で異性同級生と」の数値はきわめて低く1割に満たない。男女に分けた場合、男子の方がやや数値が大きく、どちらかと言えば男子の方が気を使うようだが、それでも数値は1割程度にとどまる。すなわち、話をする相手が異性だからといって言葉遣いを気にする生徒は、男女いずれもかなり少ない。

全体として、話し相手が自分より目上か否かという「上下」の軸にもとづく人的多様性は、言葉遣いを気にする要因として大きいが、周囲に自分の発言を聞いている人が大勢いる改まった場か否かという場面的多様性は、言葉遣いを気にする要因としてそれほど大きくなつないというのが、現代の中学生・高校生の意識と言えそうだ。この傾向は、中学生・高校生が言葉遣いに困難を覚えるのは、場面的多様性よりもむしろ人的多様性によるという、先の報告とも一致する。

(注1) クラブ活動（部活動）に関する選択肢が2つ含まれている。調査当時にクラブ活動（部活動）に参加していた生徒は全員ではないことについては第2章で報告したとおりだが（資料図2-4-17~20参照），これに参加してい

ない生徒も、過去に参加していたときを想起したり、そうした状況に置かれた場合を想定して柔軟に回答したと思われる。このほかの場面についても、実際には全員が経験してはいないかもしれないが（特に「来客に尋ねられて」の場面）、やはり柔軟に想定して回答したと思われる。

4. 敬語についての意見

4.0. 調査項目について

前章では、学校生活の中で自身の言葉遣いが気になるか等、敬語についての生徒たちの意識を調査した結果を報告した。

本章では、これも広く言えば敬語に関する意識ではあるが、その中でも「意見」としての意識を調査した結果を報告する。これから先、学校生活の中で、あるいはより一般的に日本語社会の中で、敬語使用がどのような方向に変化するか（あるいは変化しないか）は、敬語についてその使用者がどのような意見を持っているかということが大きく関わってくる。これからの敬語を考える上でも重要な調査項目である。

調査では次の4項目について尋ねた。

- ①改まった場面での言葉の使い分け
- ②目上の生徒への敬語使用
- ③敬語使用のプラス面とマイナス面
- ④目上への敬語使用のマイナス面

現代の日本語社会において敬語使用を左右する要因は、大きく言えば、会話場面の改まりの度合いと、会話の参加者間の社会的・心理的距離の二点にあると言えよう。上記①②は、そもそもこうした2つの要因により言葉を使い分けること（改まった言葉や敬語を使用すること）を好ましいことと生徒たちが肯定的に評価しているか、それとも言葉の使い分けなど必要ない（改まった言葉や敬語を使用する必要はない）と否定的に評価しているかを尋ねたものである。敬語使用の是非に関する根本的な問い合わせである。

これに関連し、敬語使用がもたらす対人関係的なプラス面とマイナス面のいずれに反応するかを尋ねたのが③④である。敬語を使用するということは、話者が認識している会話場面の改まり性や相手等との社会的・心理的距離を表明するという側面とともに、当のその言語使用を通して、話者が認識した言語外的事柄を維持したり再生産するという、いわば「社会をつくる」という側面がある。つまり、敬語を使用するということは、既存の社会的秩序・規律を維持したり、当事者間の上下関係・親疎関係を維持するのに貢献するプラスの面がある。その意味で敬語というものは、円滑な人間関係を維持する上で積極的に機能している言葉のしくみと言えよう。しかしその一方で、敬語使用は関係者間に堅苦しさや距離感をもたらすというマイナス面も併せ持っている。場合によってはこれはコミュニケーションの阻害要因ともなりかねない。敬語使用というと、一般に、その肯定的側面が注目され高く評価されがちだが、じつはこうした否定的側面も同時に持っているのである。上記③④では、敬語使用がもたらす社会秩序の維持というプラス面に生徒たちが反応するか、それとも堅苦しさというマイナス面に反応するかを質問した。このうち③では、ややマクロレベルで、社会維持か堅苦しさかを質問した。一方④では、ややミクロレベルで、従来あまり注目されることのなかった対人関係上のマイナス面に特に焦点を当てた質問をした。

以下、設問ごとに調査結果を報告する。

4.1. 改まった場面での言葉の使い分け

改まった場面を「クラス討論や授業」として設定し、そうした場面ではふだんと言葉を変えた方

がよいか否かを尋ねることにより、場面の改まりによる言葉の使い分けの好ましさに関する意識を調べた。質問文と選択肢は次のとおりである。本書の末尾に「資料2」として掲げた〈東京中学〉の調査票では「III.16.」が該当する。なお、以下の4項目全体の導入として、「つぎに、ことばづかいや敬語についてのあなたの意見を聞きます。正しいとか、そうあるべきだとかいうのではなく、自分の考えを答えてください。」という指示を与え、社会通念としての回答ではなく自分自身の意見が求められていることを明示した。

いまあなたのクラスを考えて、クラス討論や授業での発言のときは、ふだんのことばづかいとは少しちがった、あらたまったくことばを使うのがよいと思いますか、ふだんどおりのことばづかいでよいと思いますか？あなたの意見に近いほうを選んで○をつけてください。

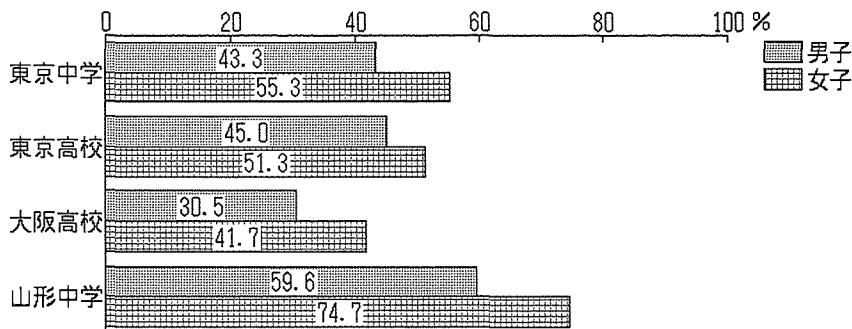
1. あらたまったくことばづかいがよい。
2. ふだんどおりの、ふつうことばづかいでよい。

結果は資料表4-1および資料図4-1-1～3のとおりであった（「NR」は無回答の意）。

「改まった場面では言葉遣いも改まるべきだ」という従来の規範からすれば、「改まった方がよい」とする使い分けの支持率が高く出ることが予想されるが、実際の支持率は全体として約半数程度にとどまった。逆に言えば、場面による使い分けは必要ないと考える生徒がかなりいる。

これにはいろいろな背景が可能性として考えられそうだ。クラス討論や授業はそもそもそれほど改まりの度合いが高い場面ではない（あるいは高い場面でなくなってきた）という可能性がまず考えられる。また、改まった場面と意識されたとしても、言葉の使い分けには必ずしも結びつかない可能性も考えられる。一方、成人の間で、基本的に敬語使用が期待される相手に対する場面でも敬意の度合いがそれほど高くなかった表現（尊敬語を含まず丁寧語のみにとどまる表現）でもかまわないとする意識が広まりつつあるらしいことを考えると^(注1)、この数値は敬語使用の衰退を反映した結果である可能性もある。敬語使用の本質は「場面や参加者の違いにもとづく表現の使い分け」と言えるが、もしこれが言語変化の反映と考えられるとすれば、将来の日本語社会における敬語使用を大きく変える可能性を示唆しているかもしれない。

地域差も多少見られる。東京（〈東京中学〉）では「改まった方がよい」とする使い分け支持派はわずか5割程度にとどまる。一方山形（〈山形中学〉）では6～7割程度にまで達する。山形での支持率の高さの背景には、「改まった言葉遣い」の中に「共通語の使用」も含まれている可能性が考えられる（面接調査では場面の公私による方言と共通語の使い分けが実際に観察された）。



本文図4-1 クラス討論や授業での言葉遣いは「改まった方がよい」

性差も多少認められる。本文図4-1は「改まった方がよい」とする回答を男女で比較しやすい形

にまとめなおしたものである。どのグループにおいても女子の方が数値が高い。女子が男子よりも場面による使い分けを支持する傾向は、地域等を越えて一貫した現象と言えそうだ。場面による使い分けは不要とする意見が若年層に向けて広まりつつあるとすれば、それは地域等の違いを越えて、男子で先行する現象と言える。

4.2. 目上の生徒への敬語使用

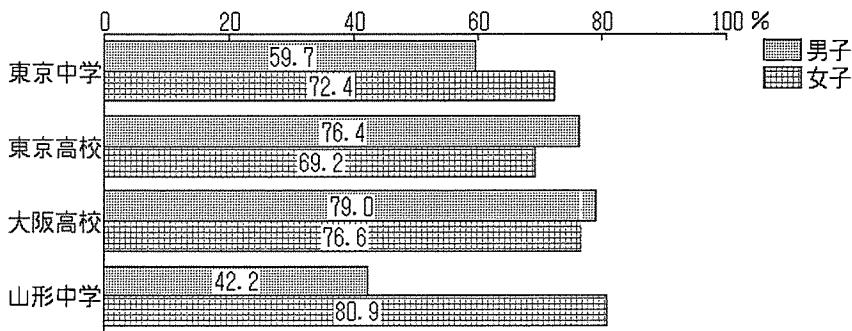
上級生や先輩と話をする場面を想定させ、目上に対し敬語を使用することの好ましさに関する意識を調べた。生徒にとって学校社会での目上に当る人物には教師もいるわけだが、この質問では生徒同士の目上、すなわち上級生や部活動・クラブ活動の先輩に対する敬語使用をどう考えるかを尋ねた。教師とともに言葉遣いに気を使う相手としてクラブ活動の先輩がいることについては前章で報告したが(資料図 3-7-1 等も参照)、そうした相手に対する敬語使用について、好ましさの点から尋ねた。質問文と選択肢は次のとおりである。「資料 2」の〈東京中学〉の調査票では「III.17.」が該当する。

学校のなかでは生徒同士であっても、上級生や部（クラブ）活動の先輩などには敬語（ていねいで、相手をうやまつたことば）を使うほうがよいでしょうか、使わなくてもよいでしょうか？

1. 使うほうがよい。 2. 使わなくてもよい。

結果は資料表 4-2 および資料図 4-2-1～3 のとおりであった。

目上の生徒に対し敬語を「使う方がよい」とする意見は、全体として 7～8 割ほどの生徒から支持されている。〈山形中学〉を除き、先に見た「場面の改まりによる使い分け」よりも支持率が高い(〈山形中学〉は「場面の改まりによる使い分け」の支持率が他の地域よりもかなり高かった)。すなわち、学校社会においては、「どのような状況で話すか」という場面的要素よりも、「誰と話すか」という人的要素の方が、言葉の使い分けの好ましさの要因として強く働いているようである。これは前章で報告したこととも一致する傾向である。〈大阪高校〉では場面的要因との差が大変大きく(約 4 割の差)、改まった場面で敬語を使わずとも目上の生徒に対してはしっかりと敬語を使うべきだとするコントラストが明確である。



本文図 4-2 目上の生徒（上級生や先輩）へは敬語を「使う方がよい」

〈山形中学〉の男子の回答はやや特殊である。本文図 4-2 は「使う方がよい」とする回答をグループ別・男女別にまとめなおしたものである。〈山形中学〉の女子は 8 割が目上の生徒に対し敬語を「使

う方がよい」と回答しているのに対し、男子はその半数の4割にとどまり、むしろ「使わなくてもよい」の方が多数派となっている。「使う方がよい」の数値は、他のグループの男子と比較しても著しく低い。

第5章で報告する自称詞の使い分けなどの結果によると、「先輩」という人物は一般に生徒よりもむしろ教師に近い扱いとされている中で、〈山形中学〉の男子生徒の場合はむしろ同級生に近い扱いとなっている。社会的には同じく「先輩」であっても、その扱いは地域や性別により必ずしも同一ではなく、山形の男子生徒などの間では、少なくとも中学校くらいであれば、友達と同じ扱いになる傾向が強いようである。本設問での4割という数値の低さの背景には、そうした意識が存在していたことが考えられる。山形に限らず地方の中学校においては、男子生徒を中心に、年齢による上下関係があまり強く意識されず、その結果敬語行動にも、相手の年齢による違いが大きく現れない可能性がありそうだ。

近年は交通手段・通信手段の技術が著しく進歩し、他地域の人々とコミュニケーションをする機会がますます増加しつつある。学校生活でも、インターネットを通じて他地域の生徒たちと交流する機会も増加しうるが、目上への待遇意識や敬語行動に地域差や性差が存在するかもしれないことに留意しつつ、誤解や摩擦のないコミュニケーションをはかることが今後重要となろう。

最後に回答の仕方についてコメントしておく。この設問では、目上に対する回答者自身の敬語使用を尋ねているのではなく、一般論として敬語使用が望ましいか否かを尋ねているのであるが、回答者が実際に部活動・クラブ活動に参加しているかどうかは、回答の現実性を多少左右しよう。資料図2-4-18・20に示したように、中学校の場合は授業としてのクラブ活動もあるためこうした活動への所属率はかなり高いのに対し、高校での所属率は6割程度にとどまる。つまり、高校生については、自分自身の学校生活と直接関係のない状況として、現実的なイメージのないまま回答した生徒が少なからずいる可能性がある。こうした事態も想定し、質問文では「上級生」という文言も加えてはいるが、部活動以外で接觸のある上級生というのは現実には少ないかもしれない。つまり、高校生の調査結果は、現実にない状況をあえて想定して回答した生徒が少なからずいるかもしれない点には留意する必要がある。

4.3. 敬語使用のプラス面とマイナス面

敬語使用には社会秩序の維持というプラス面とともに、対人関係の堅苦しさというマイナス面がある。生徒たちがどちらに反応するかを質問した。現実には「堅苦しくなるけれども必要だ」といった意見もありうるが（つまり必ずしも対立した意見になるとは限らない）、大きく意見を二分して、生徒たちの意見の概観を得ようとした。質問文と選択肢は次のとおりである。

現在の学校で使われている敬語について、次の二つの意見があります。あなたの意見に近いほうに○をつけください。

1. 敬語は上下の規律（きりつ）が守れ、授業や部（クラブ）活動などの学校生活をするうえで欠かせないものだ。
2. 敬語はかたくるしく面倒（めんどう）だから、学校生活のためにはかえって邪魔（じゃま）になる。

結果は資料表4-3および資料図4-3-1~3のとおりであった。

敬語が「必要」とする意見は7~8割ほどの生徒から支持されており、全体として敬語使用のマイナス面（堅苦しさ）よりもプラス面（社会維持）を評価する傾向が強い。

国立国語研究所が1975年~1977年にかけて実施した企業の中での敬語使用に関する調査によれ

ば、社内で使われている敬語について「上下の規律が守れ、仕事を進める上で不可欠である」とする意見は7~9割と多くを占めている(国立国語研究所 1982)。これらの結果を総合すると、集団の違い・時代の違いを越えて、敬語はそのマイナス面よりもプラス面の方が全体として評価され続けていると言えそうだ。

4.4. 目上への敬語使用のマイナス面

敬語使用がもたらす「よそよそしさ」という、従来あまり考慮されることのなかった対人関係上のマイナス面に焦点を当てた質問をさらにした。具体的には、先生や上級生と話をする場面を想定させ、そうした場面で敬語を使用することのマイナス面についての意見を尋ねた。質問文と選択肢は次のとおりである。

先生や上級生に対してていねいな敬語を使うと、どうしてもよそよそしくなって、親しい心の交流やざくばらんな(気楽な)つきあいがしにくくなる、という意見があります。あなたは、この意見を……?

1. そう思う。

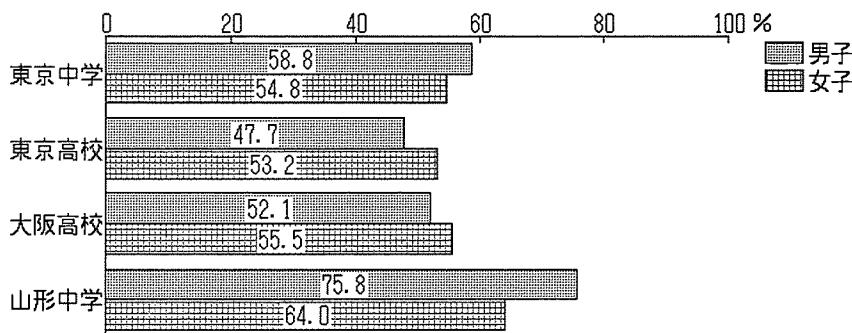
2. そうは思わない。

結果は資料表4-4および資料図4-4-1~3のとおりであった。

〈山形中学〉を除き、「そう思う」と「そうは思わない」が相半ばし、意見が大きく分れる。成人に対する同種の調査結果がないため、社会全体の中での生徒たち若者世代的回答がどう位置付けられるかは残念ながらわからぬ。

「敬語」というと、社会生活における肯定的な側面を当然視して議論することが多いが、「よそよそしさ」という否定的な側面も併せ持っていること、そしてこのマイナス面に焦点を当てて質問してみると生徒たちの約半数は「よそよそしくなると思う」と回答している点は、敬語に関するこれからの議論において留意する必要があろう。

〈山形中学〉の「そう思う」の数値はやや高いが、これは男子の数値の高さに起因するところが大きい。本文図4-3は「(よそよそしくなると)思う」とする回答をグループ別・男女別にまとめたものであるが、〈山形中学〉の男子の数値の高さが改めて確認される。先に見た上級生への敬語使用の支持率が低かったことの背景となる意識と言えよう。



本文図4-3 目上（先生や上級生）に敬語を使うとよそよそしくなると「思う」

なお、質問文にある「ていねいな敬語」という表現でどの程度の敬語を生徒たちがイメージしたか、また「親しい心の交流やざくばらんな(気楽な)つきあい」でどの程度のつきあいをイメージしたかも、回答を左右していると考えられる。たとえば「ていねいな敬語」と聞いて丁寧語レベ

ルにとどまる表現をイメージしたとすれば「そうは思わない」と回答するかもしれないが、尊敬語や謙譲語の使用までイメージしたとすれば「そう思う」と回答するかもしれない。生徒たちが持つ「敬語」というもののイメージや、「つきあい」という行為のイメージも、併せて調査する必要があった。

(注1) 東京都在住の日本人成人を対象に国立国語研究所が1997年に実施した調査によれば、学校の教師に向かって「来るか?」という内容を尋ねる場合、尊敬語を含まない「来ますか?」でもかまわないとする回答は、若年層になるにつれ増加する傾向が認められる。場面の改まり性というよりも目上に対する敬語使用を見たものであるが、敬語使用の規範意識がやはり簡素化の方向へ進んでいることをうかがわせる。ただし、その調査でも、学校の教師の位置づけ自体の変化という事情もありそうだ。(国立国語研究所(2000)の「参考資料2」を参照)

5. 敬語の使用

5.0. 調査項目について

第3章では日々の学校生活の中で生徒たちが言葉遣いをどの程度意識しているかを報告し、第4章では生徒たちが学校の中での敬語についてどのような意見・考えを持っているかを報告した。いずれも、実際の敬語使用の背景にある、言葉遣いや敬語に関する広い意味での「意識」についての報告であった。

本章では、そうした意識を持つ生徒たちが、学校生活のさまざまな場面で、あるいはさまざまな相手に対し、実際どのように言葉を使い分けているかという「敬語使用の実際」についての調査結果を報告する。

ただし、「実際」と言っても、本章で示すデータは現実の言語行動を観察して得たデータではなく、質問紙への自記式回答という方法により得たデータであり、厳密な意味での「実際」ではない。質問紙の質問文で想定させた発話場面に置かれたとき、回答者自身どのような言語行動をとりそろか（どのような表現形式を選択しそうか）を、自身の普段の言語行動を内省しながら回答してもらって得たデータである。内省と実際とが異なる部分がないとは言えないが、回答者に想定させた発話場面は学校生活の中で比較的現実性が高いと考えられる場面であること、また回答者の匿名性が保証されており回答を調整する必要性も少ないことから、現実との異なりはデータ全体の中でそれほど大きくなく、おおむね実際の言語行動を反映したデータと考えられる。

本章で報告する敬語使用に関する調査項目は、大きく分類すると次のとおりである。

- ①自称詞
- ②対称詞
- ③肯定表現（〈大阪高校〉〈山形中学〉で調査）
- ④別れの挨拶表現
- ⑤「失礼シマス」の使用場面
- ⑥「センパイ（先輩）」の使用
- ⑦身内に対する敬語使用（〈大阪高校〉で調査）
- ⑧アクセントの使い分け（〈大阪高校〉で調査）
- ⑨声の調子の使い分け
- ⑩個人の中での言葉遣いの変化

このうち①～④については、4～6種の話し相手を想定させ、選択肢として掲げた各表現を各相手に対し使うか否かをかなりこまかく質問した。

なお、これらの調査項目のうちの多くは狭い意味での「敬語」ではない。たとえば「行ク」を敬語形式にした「イラッシャル」には「尊敬」の意味が融合的に含まれているし、「行カレル」には末尾の「レル」の部分に「尊敬」の意味が分析的に含まれている。これに対し、たとえば自称詞の「ボク」の場合、その表現自体には敬語はどこにも含まれていない。しかしながら、やはり自称詞である「オレ」という別の表現との対比において「ボク」という表現は、特に若年層の男子の間では、相対的に丁寧な言葉として機能している。

上記の調査項目の多くは、その語形自体には敬語を含まず、その意味では「敬語」とは言い難いものが多いが、基本的意味が等しいさまざまな表現と待遇上の対立関係・張合い関係を有し、相手

や場面により使い分けがなされ、実質的に敬語と同様に機能している。つまりこれらも、広い意味での敬語と見ることができるのである。

なお、②の対称詞については、回答者が他者に対し各表現を使っているか否かという観点に加え、回答者が他者から各表現を使われているか否か（＝各表現で呼ばれているか否か）という観点、また自分に向けて使われる各表現をどう受け止めているか（＝そう呼ばれて好きかどうか）という観点からも併せて調査した。特に「他者が自分に向けて使った表現をどう受け止めるか」という観点は、社会の仕組みから言語行動の傾向性を明らかにすることを研究パラダイムとする従来の社会言語学においてはあまり見られないものである。しかし、改めて日常の言語使用というものを考えてみると、発話場面の社会的状況を考慮しつつひとたび具現化された発話は、それが発話の参加者に受信された時点で、今度は逆に発話の参加者に大なり小なり影響を与えるのが普通である（変化ゼロという影響も含めて）。つまり、発話直前の「社会→言語」という関係は、発話直後には「言語→社会」という関係に移り変わるのである。そしてこの「社会」への影響は、その後の言語使用に再度調整をもたらすという循環的な関係を持つ（変化ゼロという再調整（＝維持）も含めて）。このように、「社会→言語」「言語→社会」という二方向の関係が循環するのが我々の日常の言語使用の姿であろう。「社会と言語の関係を明らかにする」ことを目的とする研究においては、「社会→言語」という関係とともに「言語→社会」という関係も、究明すべき重要な側面と言える。

この「受け止め」は、自称詞・対称詞・挨拶表現などあらゆる表現について当てはめられる現象であるが、他者への影響が比較的大きくかつ調査において内省しやすいのは、回答者自身に直接向けられた発話、すなわち他者から使われた対称詞であろう。そこで対称詞により、言語表現の「受け止め」の側面についても併せて調査することとした。

5.1. 自称詞

グループ別に質問文と選択肢を示すと次のとおりである。本書の末尾に「資料2」として掲げた〈東京中学〉の調査票では「II.12.」が該当する。

想定させた話し相手は(1)～(6)の6人である。話し相手ごと、掲げた語形全てについて○か×を付けさせる回答方法をとった。すなわち、厳密に言えば、各語形は「選択肢」ではなくむしろ下位質問であり（たとえば「ボク」は「ボクを使うか？」という下位質問），掲げた各語形に付けられる○ないしは×が「選択肢」ということになる。

【〈東京中学〉〈東京高校〉】

学校生活の中で、ふだん自分のことを何と言っていますか。それぞれの相手に対して、使うものには○、使わないものには×を全部につけてください。

ほかの言い方をする場合には、その言い方を（ ）のなかに記入してください。

(1) 同じクラスで、一番したい同性のともだちに対しては……

- | | | | | |
|-------------------|------------|--------|---------|---------|
| 1. ボク | 2. ワタシ | 3. アタシ | 4. ワタクシ | 5. アタクシ |
| 6. オレ | 7. ウチ | 8. ワシ | 9. ワイ | 10. ジブン |
| 11. 自分の名前（例. ハルコ） | 12. その他（ ） | | | |

(2) 同じクラスで、話をする機会のいちばん多い異性の同級生に対しては……

（選択肢は同上）

- (3) 部（クラブ）活動で、話をする機会のいちばん多い同性の先輩（せんぱい）に対しては……
 (選択肢は同上)
- (4) 担任の先生に対しては……
 (選択肢は同上)
- (5) 校長先生に対しては……
 (選択肢は同上)
- (6) よそから来た知らないおとなの（男）が、廊下で話しかけてきたときは……
 (選択肢は同上)

(1)～(6)の順序は〈東京中学〉のものであり、〈東京高校〉では(3)(4)(5)(6)(1)(2)の順とした。男子高校・女子高校では(2)への回答は求めなかった。〈東京高校〉で順序を多少変えたのは、この男子高校・女子高校での回答に配慮したことによる。

【〈大阪高校〉】

学校生活の中で、ふだん自分のことを何と言っていますか。それぞれの相手に対して、使うものには○、使わないものには×を全部つけてください。

ほかの言い方をする場合には、その言い方を（ ）のなかに記入してください。

- (1) 同じクラスで、一番したしい同性のともだちに対しては……
1. ポク 2. ワタシ 3. アタシ 4. ワタクシ 5. アタクシ
 6. オレ 7. ウチ 8. ワシ 9. ワイ 10. ワテ 11. ジブン
 12. 自分の名前（例. ハルコ） 13. その他（ ）
- (2) 同じクラスで、話をする機会のいちばん多い異性の同級生に対しては……
 (選択肢は同上)
- (3) 部（クラブ）活動で、話をする機会のいちばん多い同性の先輩（せんぱい）に対しては……
 (選択肢は同上)
- (4) 担任の先生に対しては……
 (選択肢は同上)
- (5) 校長先生に対しては……
 (選択肢は同上)
- (6) よそから来た知らないおとなの（男）が、廊下で、標準語（ひょうじゅんご）で話しかけてきたときは……
 (選択肢は同上)

質問文を比較しやすくするため、ここでは〈東京中学〉の調査票の順序で示した。実際の順序は(3)(4)(5)(6)(1)(2)である。男子高校・女子高校では(2)への回答は求めなかった。順序を多少変えたのは、この男子高校・女子高校での回答に配慮したことによる。(6)では「標準語で」という文言を付け加えた。

【〈山形中学〉】

学校生活の中で、ふだん自分のことを何と言っていますか。それぞれの相手に対して、使うものには○、使わなものには×を全部に付けてください。

ほかの言い方をする場合には、その言い方を（　）のなかに記入してください。

(1) 同じクラスで、一番したしい同性のともだちに対しては……

1. ボク
2. ワタシ
3. アタシ
4. ワタクシ
5. アタクシ
6. オイ
7. オレ
8. オラ
9. ワシ
10. ジブン
11. 自分の名前（例. ハルコ）
12. その他（　）

(2) 同じクラスで、話をする機会のいちばん多い異性の同級生に対しては……

（選択肢は同上）

(3) クラブ活動で、話をする機会のいちばん多い同性の先輩（せんぱい）に対しては……

（選択肢は同上）

(4) 担任の先生に対しては……

（選択肢は同上）

(5) 校長先生に対しては……

（選択肢は同上）

(6) よそから来た知らないおとなの（男）が、廊下で、標準語（ひょうじゅんご）で話しかけてきたときは……

（選択肢は同上）

(3)は「部（クラブ）活動」ではなく「クラブ活動」という表現にした。(6)では〈大阪高校〉と同様「標準語で」という文言を付け加えた。なお提示する語形の選定にあたっては、三川中学校での予備調査および三浦弥生（1962）の記述を参考にした。

結果は資料表5-1-1-aおよび資料図5-1-1-a以下のとおりであった。男女を合わせた集計も一応行なってはいるが、自称詞の使用は男女差が大きく両者を合わせた数値はあまり意味がないため、本報告書では男女別の集計結果のみを示すことにする。

5.1.1. 全体的概観

日本語にはさまざまな自称詞が存在するが、中学生・高校生が学校生活の中で実際によく使う表現となるとかなり限定されている。すなわち、男子は主として「ボク」と「オレ」、女子は主として「ワタシ」と「アタシ」を用いている。男子の場合、成人であれば「ワタシ」「ワタクシ」もよく用いるが、中学生・高校生の男子にとってはこうした表現はまだ一般的でない。また、女子の場合も、成人であれば「ワタクシ」もよく用いるが、やはり中学生・高校生の女子にとってはまだ一般的でない。なお、〈山形中学〉では「オイ」という方言形式も、男女共通の表現としてよく用いられる。東京などのような共通語を主体とする社会では、たとえば職場のように少し改まった場で成人が用いる「ワタシ」「ワタクシ」を除けば、男女がごく普通に共通に用いる自称詞は存在しない。

生徒たちの用いる主たる表現は上記のとおりであるが、しかし相手により使用者率がずいぶん異なる。友達同士の場面では、男子は主として「オレ」、女子は主として「アタシ」「ワタシ」を用い

るのに対し、先生を相手とするような場面では、男子は主として「ボク」、女子は主として「ワタシ」といったぞんざいでない表現を用いる。

以下では調査結果をさらに詳しく見ていくが、まずはグループ別・男女別に大きな傾向を概観し、その後、さらに男女比較・地域比較・中高生比較（東京の場合）・相手による使い分けの傾向等を見ていくことにする。

5.1.2. グループ別・男女別による概観

(1) 〈東京中学〉の男子

相手別に集計した結果は資料表 5-1-1-a～f および資料図 5-1-1-a～f のとおりである。

回答はそれぞれの語形について「使う（○）」か「使わない（×）」の二者択一であったが、若干の無回答（○も×も付けられていない“回答”）があった。ここではそれらを、「無印」と「全てNR（全て無回答）」の二つに分けて示した。「無印」というのは、選択肢のうちいずれかに○か×が付けられているが、たまたまその語形には○も×も付けられていないケースである。この場合は、単純な記入もれの可能性もないではないが、「チェックしない」ということにより消極的に×（不使用）を意味している可能性もありそうだ。一方「全てNR」は、掲げた語形全てについて○も×も付けられていないケースである。どの語形も全く使わないということは考えにくいので（使う語形が選択肢に無い場合は「その他」に○を付けることも可能）、こちらは単純な記入もれである可能性が高い。後者のケースは全体からすればわずかだが、そうした違いのある可能性を考慮し、ここでは区別して示した。

集計結果を全体的に眺めると、〈東京中学〉の男子生徒の間で使われている主たる表現は「ボク」と「オレ」であることがわかる。相手によっては「ジブン」「ワタシ」も使われるが、全体としては少数である。日本語の人称詞は多様性に富むとよく言われるが、性別や年齢層を限定すると、実際に使われる表現は特定の少数に限定される傾向が認められる。

なお、成人であれば、男性の間でも「ワタシ」は普通に用いられているのに対し、中学生・高校生の男子の間では一般的な表現となっていないことも、年齢層による違いという点で注目される^(注1)。これは、若年層になるにつれ「ワタシ」の使用が減少するという言語変化（衰退）の反映というよりも、成人であれば男性でも「ワタシ」を使うということを中学生・高校生は知識としては知っていたとしても、自ら使う世代にまだ達していないためと考えられる。

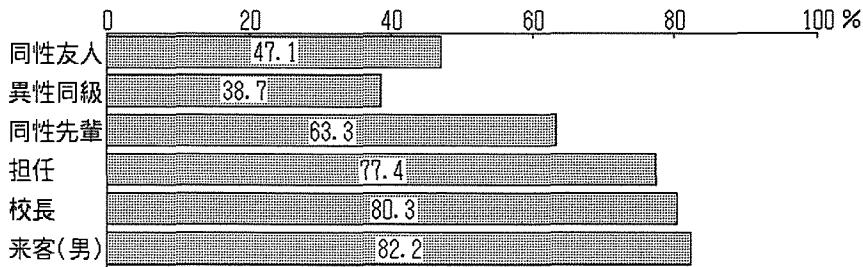
使用者率の高かった「ボク」と「オレ」に注目すると、話し相手により使用者率の傾向が大きく異なる。【同性友人】【異性同級】といったどちらかと言えば気楽に話をする相手に対しては主として「オレ」が用いられるのに対し、【担任】【校長】【来客(男)】といったどちらかと言えば気の張る相手に対してはむしろ「ボク」が用いられる。同じく「生徒」という立場ではあるが、学年が上の【先輩】は、ちょうどその中間に位置づけられる。

つまり、「ボク」と「オレ」は、主として若い男性が用いる表現として単に併存しているのではなく、気楽な相手に対しては「オレ」、気の張る相手に対しては「ボク」というように、場面的多様性・使い分けを伴いつつ、相補分布に近い関係を持ちながら併存しているのである。表現が持つ待遇価の点から換言すれば、「オレ」はぞんざいな表現であるのに対し「ボク」は丁寧な表現ということになる。これはちょうど、「そうだ」という内容を表現するのに、気楽な相手に対しては敬語を含まない「ソーダヨ」を使う一方、気の張る相手に対しては敬語を含む「ソーデスヨ」を使うという、敬語の使い分けと同じ現象である。つまり「ボク」「オレ」は、待遇表現として固有の機能（待遇価）

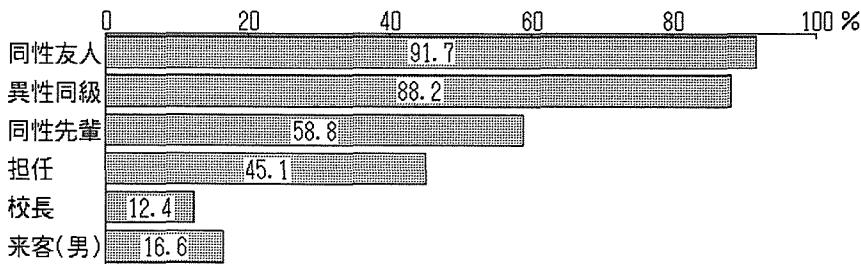
を持ちつつ併存しているのである。

なお、成人の社会であれば、気の張る相手ほど「ボク」の使用者率はむしろ減少することが予想される。しかし、先にも述べたように、中学生・高校生の男子にとって、こうした相手に対してであっても「ワタシ」「ワタクシ」がまだ使用語彙となっていない。そのため、使用語彙の範囲において「オレ」との対比で、「ボク」はより丁寧な表現と意識されて使用者率が上昇するものと考えられる(注2)。

相手による使い分けを見やすい形にまとめなおすと本文図5-1・2のようになる。〈東京高校〉〈大阪高校〉〈山形中学〉の男子にも、基本的にこれと同様の傾向が認められる。



本文図 5-1 「ボク」の相手別使用者率 [東京中学・男子]



本文図 5-2 「オレ」の相手別使用者率 [東京中学・男子]

2つのグラフを比べると、傾斜の度合いに違いのある点が注目される。すなわち、「オレ」は傾斜がより急で、使える相手と使えない相手の差が非常に大きいのに対し、「ボク」は相対的に傾斜が緩やかで、誰に対してもある程度使える表現となっている。つまり、「オレ」は待遇表現としてより積極的に機能しているのに対し、「ボク」はその度合いが相対的に低く、待遇表現として多少中立的な面があるということになる。たとえば「石」「川」などという言葉は、会話の相手や場面の改まりに関わりなく普通に使える表現である。「オレ」と比較すると「ボク」にはこれに似た性質があるということである。使用者率が全体的に高く、待遇表現としても確かに機能している表現であっても、待遇表現としてどの程度積極的に機能しているか、すなわち「待遇表現としての機能負担量」は、語により異なりがあることがわかる。また、たとえ同じ語であっても、話し手の性別や地域の違いにより、機能負担量に異なりが認められるようであるが、この点については以下で隨時言及する。なお、自称詞全体の機能負担量の違いについては、本節の最後に改めて検討する(注3)。

(2) 〈東京中学〉の女子

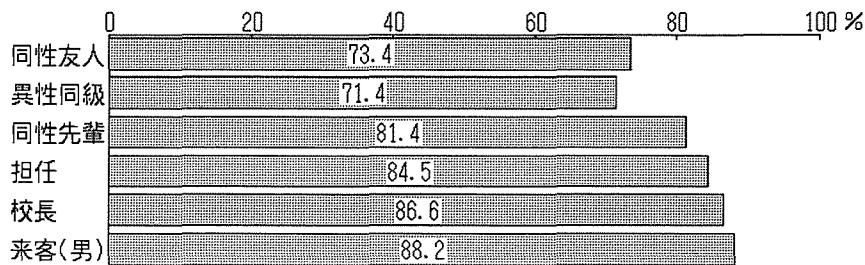
相手別に集計した結果は資料表5-1-2-a～fおよび資料図5-1-2-a～fのとおりである。

集計結果を全体的に眺めると、〈東京中学〉の女子生徒の間で使われる主たる語形は「ワタシ」と「アタシ」であることがわかる。相手によっては「ウチ」「ジブン」「名前」も使われるが、全体としては少数である（ただし【同性友人】に対する「名前」の使用者率は2割近くある）。

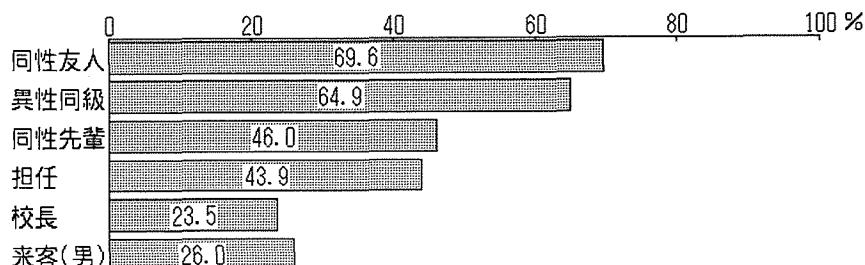
成人であれば「ワタクシ」も女性の間で普通に用いられるが、中学生・高校生の女子の間では一般的な表現となっていない（注4）。これも、先の男子の「ワタシ」と同様、彼女らがまだ「ワタクシ」を自ら使う世代に達していないためと考えられる。

使用者率の高かった「ワタシ」と「アタシ」に注目すると、相手により使用者率がやはり異なっている。【同性友人】【異性同級】のような気楽に話をする相手に対しては両者が同程度用いられているのに対し、【同性先輩】【担任】等の気の張る相手に対しては「ワタシ」の使用が多くなる。通時的に見れば、「アタシ」は「ワタシ」がくずれて生じた表現であり、共時的にも「ワタシ」の方が本来の正式な形とおそらく意識されるため、気の張る相手には「ワタシ」が選択されやすいのであろう。両者のこの関係は、ちょうど男子の「ボク」と「オレ」の関係に相当する。「ワタシ」と「アタシ」も、こうした場面的多様性・使い分けを伴いつつ併存しているのである。

相手による使い分けを見やすい形にまとめなおすと本文図5-3・4のようになる。〈東京高校〉〈大阪高校〉〈山形中学〉の女子にも、基本的にこれと同様の傾向が認められる。



本文図 5-3 「ワタシ」の相手別使用者率 [東京中学・女子]



本文図 5-4 「アタシ」の相手別使用者率 [東京中学・女子]

2つのグラフを比べると、傾斜の度合いにやはり違いが認められる。「アタシ」は傾斜がより急で、相手による使用者率のめりはりがはっきりしているのに対し、「ワタシ」は相対的に傾斜が緩やかで、誰に対してもかなりの程度使える表現となっている。つまり、「アタシ」は待遇表現としてより積極的に機能しているのに対し、「ワタシ」はその度合いが相対的に低く待遇表現として多少中立的な面があると言える。待遇表現としての機能負担量が両者で異なっているのである。

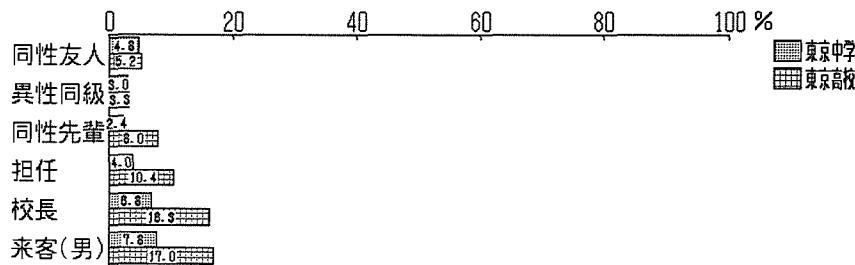
(3) 〈東京高校〉の男子

相手別に集計した結果は資料表 5-1-3-a～f および資料図 5-1-3-a～f のとおりである。調査対象校に男子校も含むため、[異性同級] の場面で該当なし（凡例では「男子校」）が 2 割近くを占める。グラフを読む際は注意を要する。

集計結果を全体的に眺めると、〈東京高校〉の男子生徒の間で使われている主たる語形も「ボク」と「オレ」であり、また両者は相手により使い分けがなされていることがわかる。つまり、基本的には中学生の男子の場合と大きな違いがないことが確認される。

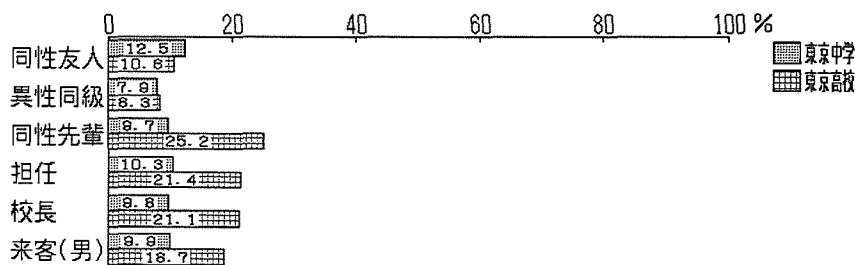
ただしこまかく見ると中学生との違いも多少見られる。

ひとつは「ワタシ」の使用である（本文図 5-5 参照）。最も気の張る相手である〔校長〕〔来客(男)〕に対しても使用者率は 2 割程度にとどまり、高校生の男子の間でもまだ一般的な表現とは言いがたいたが、中学生の男子と比べると明確な増加が認められる。言語行動様式が成人のそれに移行しつつあることを示す一つの例と言えそうだ。



本文図 5-5 「ワタシ」の相手別使用者率の中高生比較 [男子]

もうひとつの違いは「ジブン」の使用である（本文図 5-6 参照）。やはり全体としての使用者率は低く、それほど一般的な表現とは言えないが、中学生と比べると数値は増加している。注目されるのは、使用者率が最も高い相手である。〔同性友人〕や〔異性同級〕に対しては使用者率が低くそれ以外に対しては高い点からすると、「ジブン」は確かに丁寧な表現と意識されているものと考えられる。しかし、この表現の使用者率が最も高くなる相手は、〔校長〕や〔来客〕ではなく〔同性先輩〕である。つまり「ジブン」は、上下関係の中でも特に先輩後輩という生徒同士の関係において、男子の間で用いられる傾向を持つ丁寧な表現であるらしい。この表現は、かつては軍隊の用語として改まった場面でさかんに用いられていたものであるが、現在でも多少それに似た用いられ方がなされているのかもしれない。



本文図 5-6 「ジブン」の相手別使用者率の中高生比較 [男子]

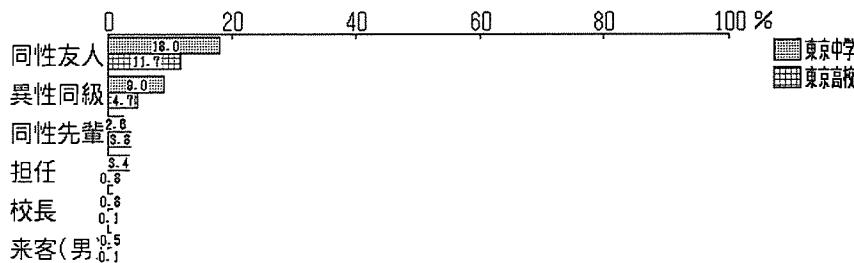
(4) <東京高校> の女子

相手別に集計した結果は資料表 5-1-4-a～f および資料図 5-1-4-a～f のとおりである。調査対象校に女子校も含むため、[異性同級] の場面で該当なし（凡例では「女子校」）が2割近くを占める。やはりグラフを読む際は注意を要する。

集計結果を全体的に眺めると、<東京高校>の女子生徒の間で使われている主たる語形は、中学と同様「ワタシ」と「アタシ」であり、また両者は相手による使い分けが明確になされていることがわかる。つまり、基本的には中学生の場合と大きな違いはない。

ただしこまかく見ると中学生との違いもある。

特徴的なのは「名前」の使用の減少である（本文図 5-7 参照）。自称詞としての「名前」は主として未就学児や小学生の女子の間で使われる表現であるため、すでに中学生の段階で使用者率が低く、使う相手も主として [同性友人] や [異性同級] に限定されるが、高校生になると使用者率はさらに減少する。言語行動が成人に移行しつつあることを裏側から示す一つの例と言えよう。



本文図 5-7 「名前」の相手別使用者率の中高生比較 [女子]

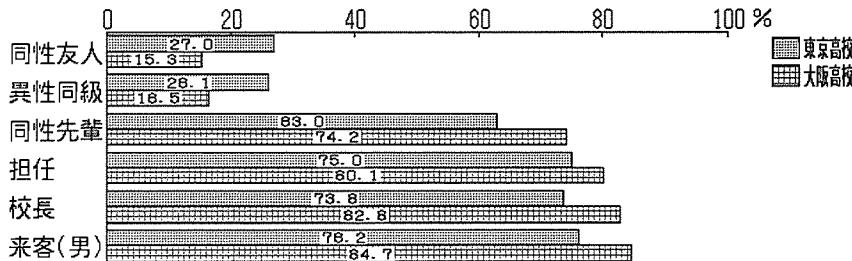
(5) <大阪高校> の男子

相手別に集計した結果は資料表 5-1-5-a～f および資料図 5-1-5-a～f のとおりである。調査対象校に男子校も含むため、[異性同級] の場面で該当なし（凡例では「男子校」）が約2割を占めるので、グラフを読む際は注意を要する。

集計結果を全体的に眺めると、<大阪高校>の男子生徒の間で使われる主たる語形も、<東京高校>と同様、「ボク」と「オレ」である。使い分けも明確になされている。

ただしこまかく見ると <東京高校> の男子との異なりもある。

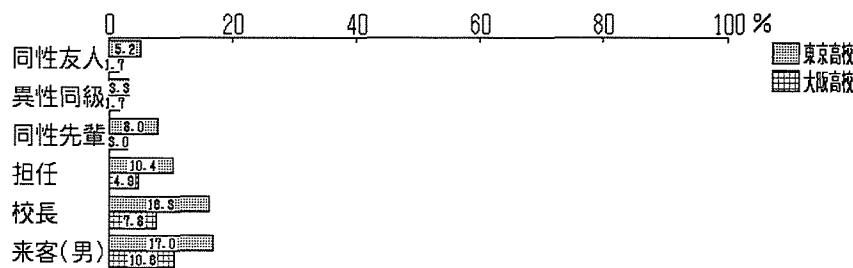
ひとつは「ボク」の使用である（本文図 5-8 参照）。東京・大阪いずれにおいてもごく普通に使わ



本文図 5-8 「ボク」の相手別使用者率の地域比較 [男子]

れる表現であり、しかも気の張る相手ほど使用者率が高くなり使い分けの方向性も同じである。しかし、使い分けの傾斜の度合いが多少異なる。東京では傾斜が相対的にやや緩やかであるのに対し、大阪ではそれがもう少し急で、使える相手と使えない相手の差が東京以上に大きい。つまり「ボク」は、東京よりも大阪において、待遇表現としてより積極的に機能している、すなわち待遇表現としての機能負担量が大きいと言える。このように、同じ表現であっても、地域により機能負担量が異なる場合がある。

〈東京高校〉の男子と異なるもうひとつの点は「ワタシ」の使用である（本文図5-9参照）。両地域とも、男子において「ワタシ」はまだ一般的な表現とはなっていないが、大阪よりも東京の方が、どの相手に対しても使用者率が高い。男子にとっては成人用の自称詞「ワタシ」の使用は、東京でやや先行しているようである。



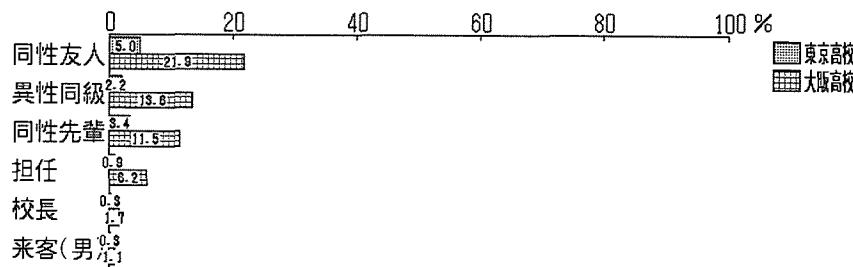
本文図 5-9 「ワタシ」の相手別使用者率の地域比較 [男子]

(6) 〈大阪高校〉の女子

相手別に集計した結果は資料表5-1-6-a～fおよび資料図5-1-6-a～fのとおりである。調査対象校に女子校も含むため、[異性同級]の場面で該当なし（凡例では「女子校」）が3割近くを占める。グラフを読む際は注意を要する。

集計結果を全体的に眺めると、〈大阪高校〉の女子生徒の間で使われる主たる語形は、〈東京高校〉と同様、「ワタシ」と「アタシ」であることがわかる。相手による使い分けも明確になされている。

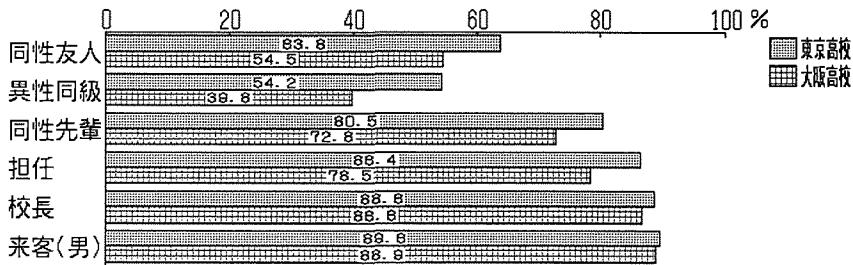
この他、全体として使用者率はそれほど高くないが、東京ではほとんど使われない「ウチ」が大阪である程度使用されるのは特徴的である（本文図5-10参照）。男子による使用は皆無に近く、大阪の女子専用の表現となっている。なお、「ウチ」は、話し相手による使い分けも明瞭で、[同性友人]を中心とする仲間内でおもに使われている。



本文図 5-10 「ウチ」の相手別使用者率の地域比較 [女子]

男子の「ボク」の待遇表現としての機能負担量が東京と大阪とで少し違うことについては先に指

摘したが、女子の「ワタシ」についても同様の傾向が指摘できる（本文図 5-11 参照）。大阪では、使える相手と使えない相手の差が、東京よりも一層はっきりしている。つまり「ワタシ」は、大阪においての方が待遇表現としての機能負担量が大きい。



本文図 5-11 「ワタシ」の相手別使用者率の地域比較 [女子]

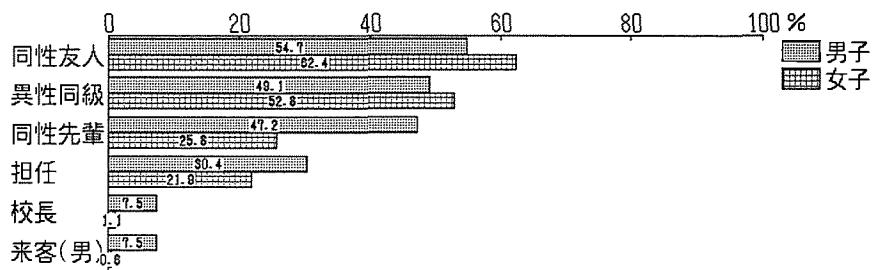
グラフを示すことは省略するが、東京との違いについては、「ジブン」と「名前」の使用者率が、東京よりも相対的に高い点がさらに指摘できる。「ジブン」の使用者率は、東京の男子や大阪の男子の使用者率に近い。逆に言えば、「ジブン」は東京の女子にのみ少ない表現と言える。

(7) <山形中学> の男子

相手別に集計した結果は資料表 5-1-7-a～f および資料図 5-1-7-a～f のとおりである。

集計結果を全体的に眺めると、<山形中学>の男子生徒の間で使われている主たる語形は、共通語形「オレ」「ボク」と方言形「オイ」（アクセントは〔オイ〕）であることがわかる。それを使い分けも明確になされている。

方言形「オイ」は、じつは女子もごく普通に使用する表現である。男女に分けて相手別に使用者率を示すと本文図 5-12 のとおりである。「オレ」と同様、「オイ」も主として生徒に対する場面で用いられる表現である。[同性先輩] の使用者率に男女で開きがある。男子は [同性友人] や [異性同級] とあまり変わらないのに対し、女子はむしろ [担任] に近い。男子にとって先輩は友達のような存在であるのに対し、女子にとっては先生に近い距離を置くべき存在といった、先輩の位置付けが男女で異なることの反映である可能性がある。

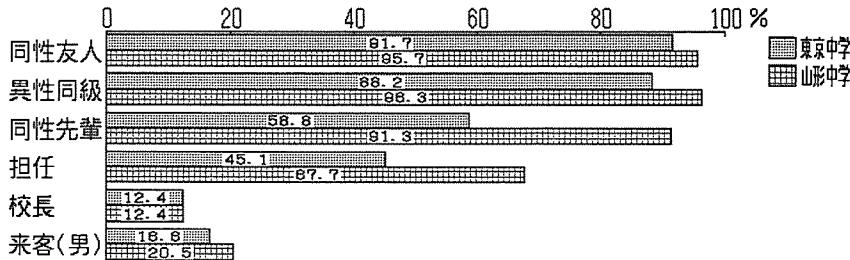


本文図 5-12 「オイ」の相手別使用者率の男女比較 [山形中学]

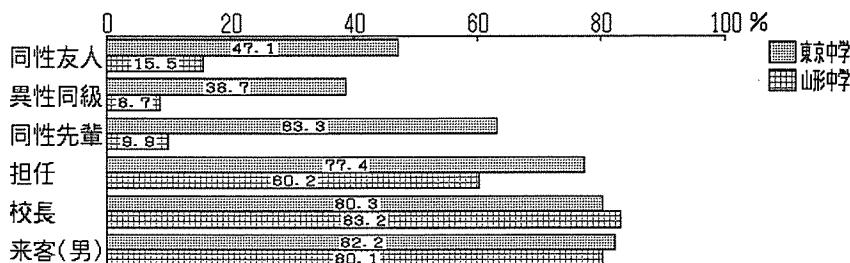
共通語形の「オレ」「ボク」の使い分けの方向性は東京と同じだが、使い分け方は東京とずいぶん異なる。それを示したのが本文図 5-13 と本文図 5-14 である。

山形では、「オレ」は [同性先輩] や [担任] に対してもかなり使われる点が東京と異なる。また「ボク」は、相手が生徒の場合、東京と比べ使用者率が著しく低くなり、使用・不使用の差がより明

確で、待遇表現としての機能負担量が大きい（先輩の位置付けがここでも友達に近くなっている点は注目される）。このように、東京と山形で同じ表現が存在し、しかも同じ方向性による使い分けがなされる場合であっても、「使い分け方」に地域的な異なりが見られる場合がある。こうした地域差の存在は、日常生活の中ではおそらくあまり気づかれにくく、他の地域と同一方法で調査して比較することで明らかになるところがあり、“かくれた”地域差と言えよう。



本文図 5-13 「オレ」の相手別使用者率の地域比較 [男子]



本文図 5-14 「ボク」の相手別使用者率の地域比較 [男子]

なお、こうした運用面での地域差の実態は、方言社会で方言形だけでなく共通語形も調査したこと、および比較対照する地域（東京）でも同じ項目を同じように調査したことにより見えてきたものである。「方言と共通語の使い分け」という現象は、現在の日本語研究における主要な研究テーマのひとつであるが、今後の展開として、同一表現の運用面における地域差についても、こうした方法により広く解明してゆくことが望まれる。

(8) <山形中学> の女子

相手別に集計した結果は資料表 5-1-8-a～f および資料図 5-1-8-a～f のとおりである。

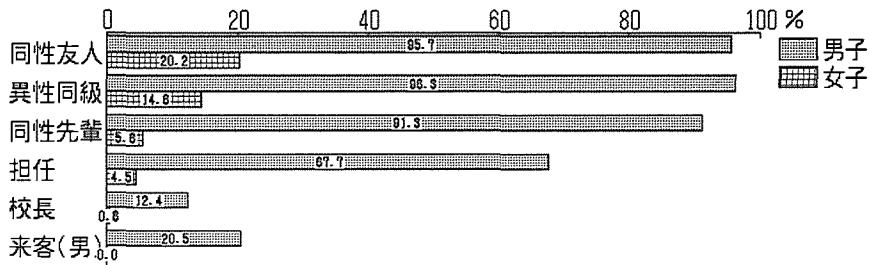
集計結果を全体的に眺めると、<山形中学>の女子生徒の間で使われている主たる語形は、共通語形「ワタシ」「アタシ」と方言形「オイ」であることがわかる。それぞれ使い分けも明確になされている。

このうち「オイ」は、先に本文図 5-12 に示したように、男女共通に用いる表現である。

女子による使用者率はこの「オイ」ほど高くなく男子との差も明瞭であるが、東京や大阪ではほぼ男子専用であった「オレ」が、山形では女子の間でもある程度（主として友達相手の場面で）使われている点が注目される（本文図 5-15 参照）。共通語の「オレ」と異なり発話者の性別まで暗示する度合いは弱く、いわば方言形式としての「オレ」が使われているものと考えられる。

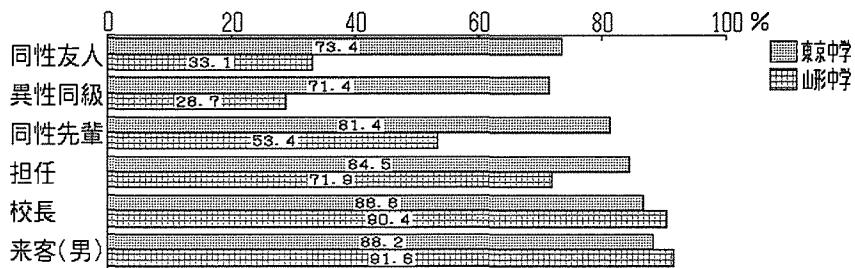
自称詞について言えば、中学生・高校生のような若年世代においても、山形は東京や大阪よりも

全般的に男女差が小さい地域と言える。



本文図 5-15 「オレ」の相手別使用者率の男女比較 [山形中学]

なお、共通語形「ワタシ」は、使い分けの「方向性」は東京と同じだが、「使い分け方」が東京とずいぶん異なる（「アタシ」のそれは東京に近い）。それを示したのが本文図 5-16 である。



本文図 5-16 「ワタシ」の相手別使用者率の地域比較 [女子]

山形では、[同性友人] [異性同級] [同性先輩]といった生徒相手の場面では、東京ほど「ワタシ」は使われていない。使用・不使用の差が非常に明確で、待遇表現としての機能負担量が東京よりも大きい。

5.1.3. 男女差

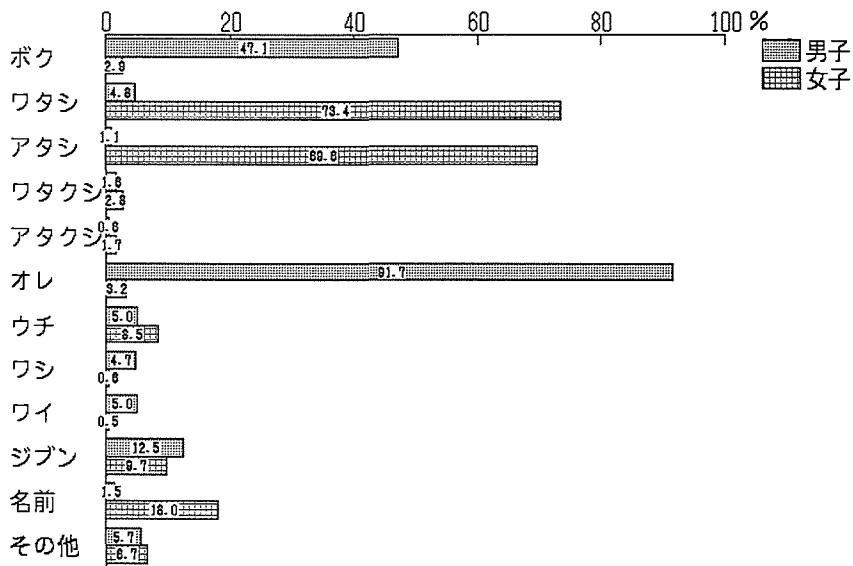
自称詞の男女差についてはすでに 5.1.2. で言及したところもあるが、重複を避けつつおもなところを指摘する。

自称詞の男女差は、現在の中学生・高校生の間でもかなり大きい。最近は若年層を中心に言葉の男女差が縮小しつつあると言われ、実際文末形式においてはその傾向がかなり見られるが^(注5)、自称詞については、どの地域においても、中学生・高校生の世代の男女差はいまだ明確である。最近では若い女性も「ボク」を使うという指摘が時になされるが、今回のデータで見る限り一般的ではない。

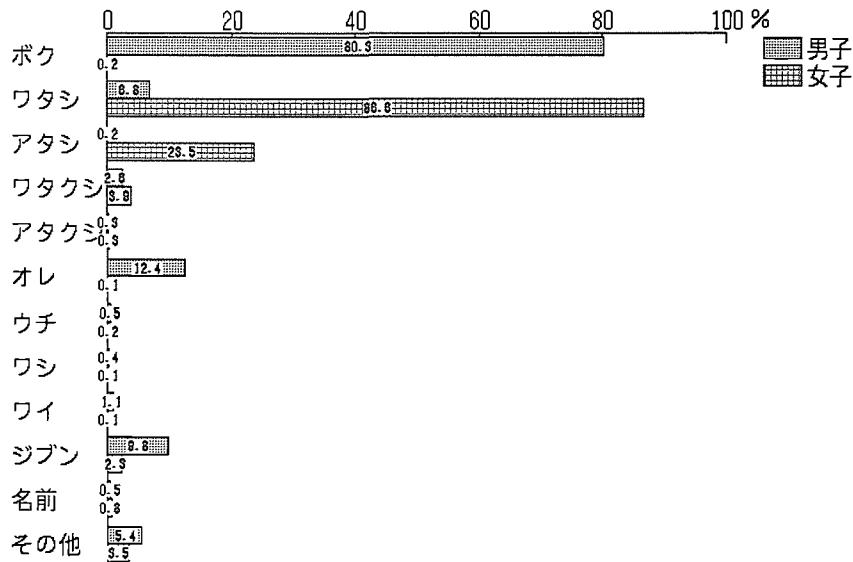
ただし、男女の異なり方は、相手により異なる。

相手が友達である場合は、男子は主として「ボク」と「オレ」、それに対し女子は主として「ワタシ」と「アタシ」のように、男女いずれも複数の語形が使われる。これに対し相手が先生である場合は、男子は主として「ボク」、女子は主として「ワタシ」のように、男女ともに特定の一つの表現に限定される傾向が強い。友達に対しては、方言形を含め多様な男女差が認められるのに対し、先生に対しては特定の共通語形に男女差が限定されるのである。本文図 5-17・18 は〈東京中学〉について、本文図 5-19・20 は〈山形中学〉について、相手が [同性友人] の場合と [校長] の場合の男

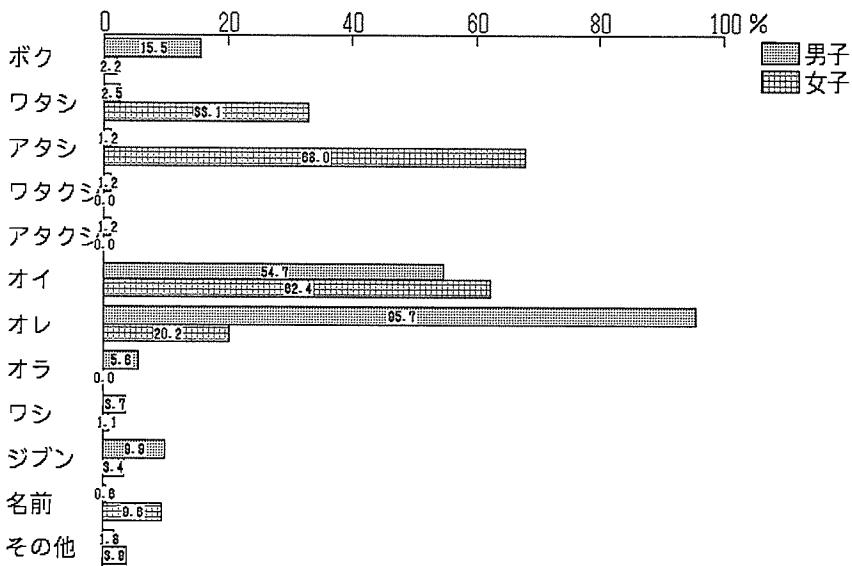
女の異なり方を比較して示したものである。山形の場合、[同性友人]に対しては男女共通に使えた方言形「オイ」が[校長]に対してはほとんど使われないため、男女の対立は「ボク」(男子)と「ワタシ」(女子)にほぼ限定される。その結果、全体として男女の違いが強調されて現れることになる。共通語が主流の成人社会では、こうした場面では男性が「ワタシ」「ワタクシ」を使うため男女差はむしろ縮まる傾向にあるのだが、方言社会の中学生・高校生の間では、これとは逆の現象が生じることがある。



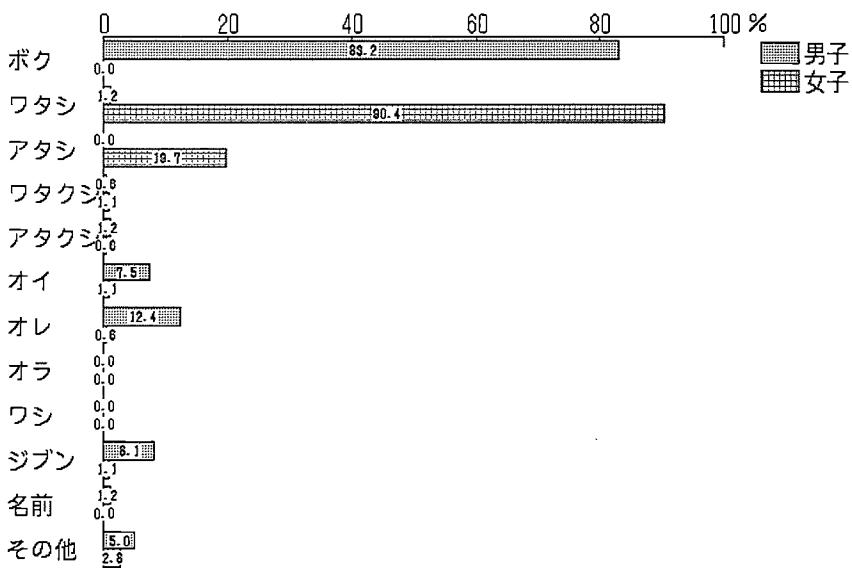
本文図 5-17 [同性友人]に対する自称詞の男女比較 [東京中学]



本文図 5-18 [校長]に対する自称詞の男女比較 [東京中学]



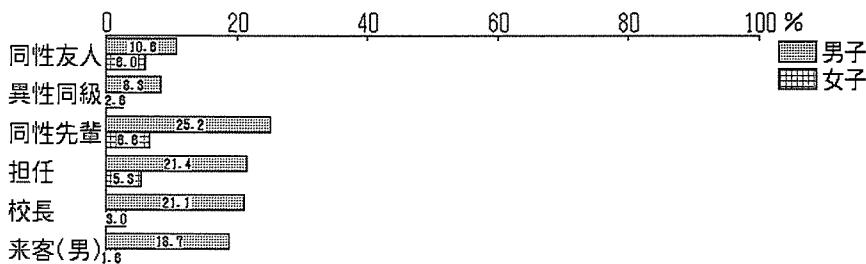
本文図 5-19 [同性友人] に対する自称詞の男女比較 [山形中学]



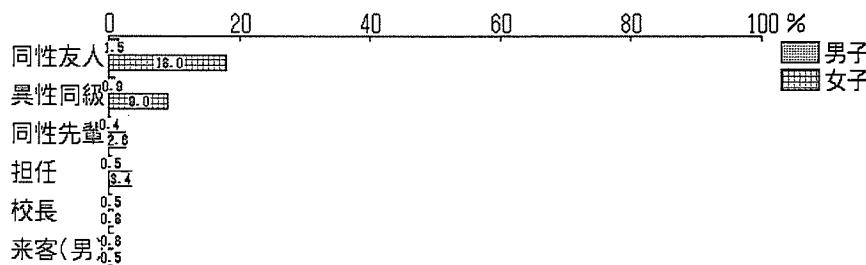
本文図 5-20 [校長] に対する自称詞の男女比較 [山形中学]

「ジブン」の使用者率は全体として低いが、男女で比べると、全般的に男子による数値の方が高い（ただし大阪ではそうでない部分もある）。比較的男女差の大きい〈東京高校〉の場合を示すと本文図 5-21 のとおりである。

「名前」も全体として使用者率は低いが、男女で比べると、全般的にほぼ女子専用の表現となっていると言つてよい。〈東京中学〉の場合を示すと本文図 5-22 のとおりである。



本文図 5-21 「シブン」の相手別使用者率の男女比較 [東京高校]



本文図 5-22 「名前」の相手別使用者率の男女比較 [東京中学]

5.1.4. 地域差

自称詞の地域差についても先に言及したところがあるが、重複を避けつつおもなところを指摘する。なお本調査では、大阪では高校生のみを、また山形では中学生のみを調査対象者としたため、両者の異なりには中高生差も混在している。そこで、その要因を排除して地域差のみを抽出するために、東京と山形の地域比較には中学生のデータを、東京と大阪の地域比較には高校生のデータをそれぞれ用いることとする。

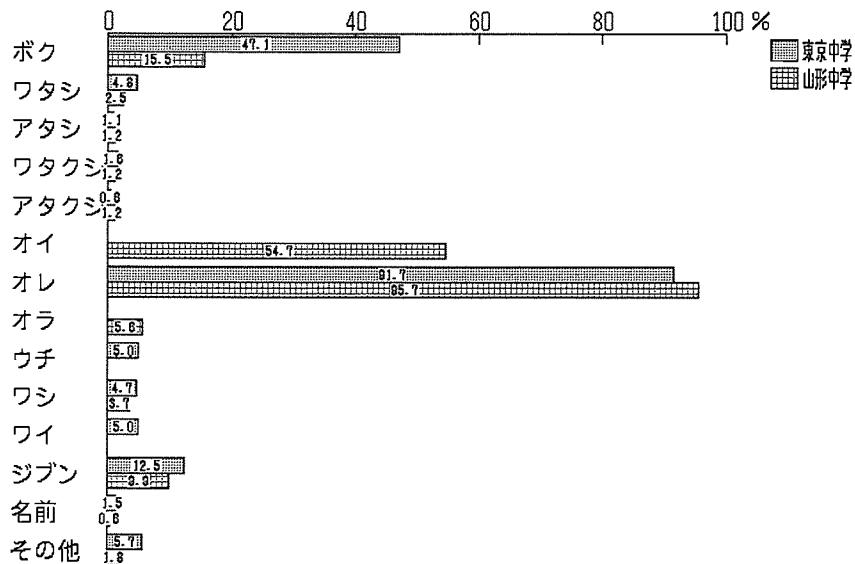
まず、使用語彙の「バラエティ」という点について言えば、山形での方言形式の追加を除けば、自称詞の地域差は男女いずれもそれほど大きくない。すなわち、男子はどの地域であっても主として「ボク」と「オレ」、女子は主として「ワタシ」と「アタシ」であり、山形でこれに男女共用の「オイ」が追加される程度である。

これに対し、そうした表現を誰にどの程度用いるかという「使用者率」という点について言えば、特に山形と東京の間の地域差が、男女ともに大きい（本文図 5-13・14・16 を参照）。つまり地域差は、語形のバラエティよりもむしろその用法（使用者率）において違いが際立っていると言える。

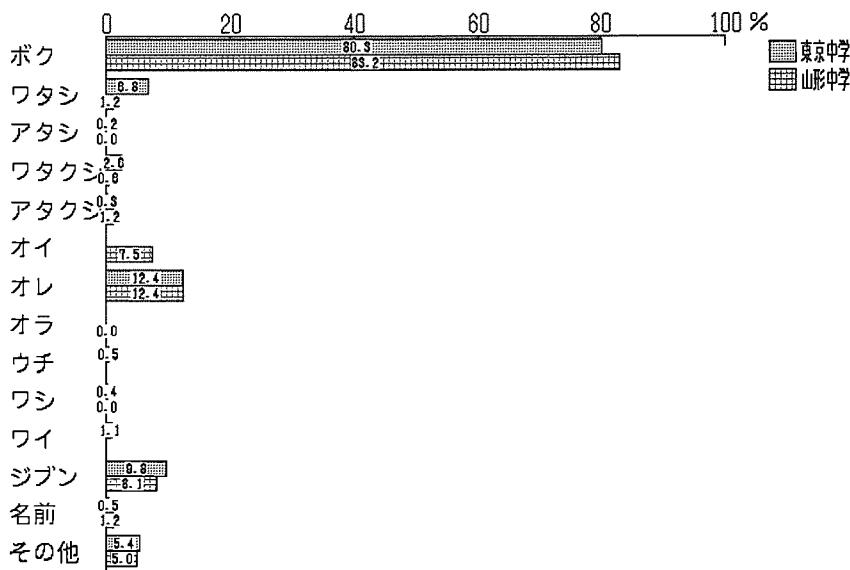
これと密接に関連するところがあるが、使用者率の地域差の程度は、場面（相手）によりずいぶん異なるところがある。

東京と山形の男子について、相手が【同性友人】の場合と【校長】の場合の地域間比較を示したのが本文図 5-23・24 である（方言語形を中心に地域によってはそもそも選択肢としなかった表現もグラフには含まれているので注意）。【同性友人】に対する主たる語形は、東京では「ボク」と「オレ」であるのに対し、山形ではさらに「オイ」が加わり、かつ「ボク」の数値は東京よりもかなり小さくなる。このため、バラエティの面でも使用者率の面でも、【同性友人】を相手とする場面では地域差が大きい。これに対し相手が【校長】の場合は、共通語形「ボク」への集中が両地域とも著

しく、そのため地域差はほとんどなくなる。このように、一口に地域差といっても、友達を相手とする場面はその差が大きくなる一方、先生を相手とする場面ではそれが小さくなるといったように、場面により地域差は伸縮する。



本文図 5-23 [同性友人] に対する自称詞の地域比較 [男子]



本文図 5-24 [校長] に対する自称詞の地域比較 [男子]

地域差について個別的な現象を一つ言及すると、資料図 5-10 で示したように、「ウチ」はほぼ大阪の女子にのみ使われる表現となっている。

5.1.5. 中高生差

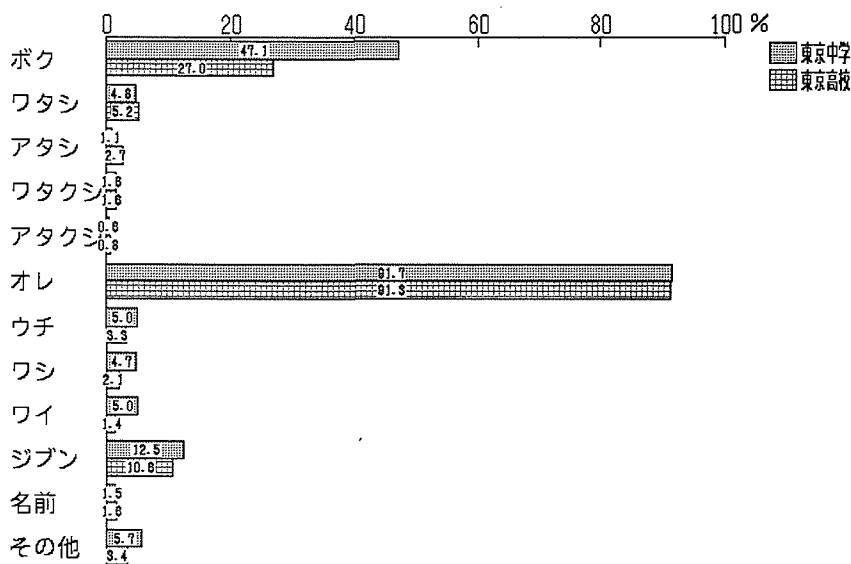
同一地域で中学生と高校生を調査したのは東京のみであるので、東京での中学生と高校生の違い

を報告する。なお、その違いの解釈については、中学生・高校生は敬語習得の途上にあるための使用語彙化段階の違いと見るべきか、それとも「高校生→中学生」という方向で読む言語変化ないしは生育時期の世相の違いの反映と見るべきか、あるいは一種の社会差(中学社会と高校社会の違い)と見るべきか、判断が難しい面がある。

中高生差は男女とも全体としてそれほど大きくない。中学生か高校生かの違いは、敬語習得における決定的な違いではなさそうだ。むしろこのあと社会に出てからとの違いの方が大きいのである。

ただし、データを少しこまかく観察すると、高校生の男子の場合、成人化の芽生えと考えられる現象がいくつか見られる。

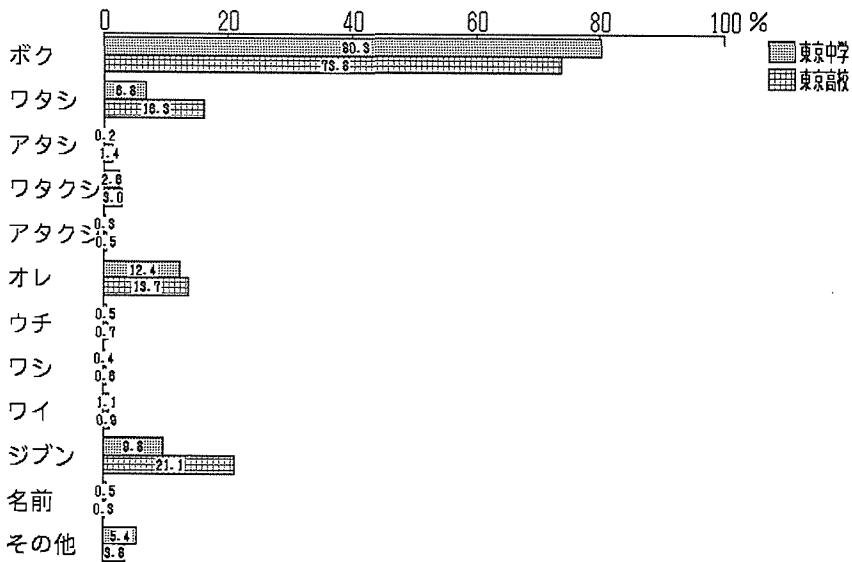
相手が〔同性友人〕の場合と〔校長〕の場合について、中学生・高校生の男子を比較して示したのが本文図5-25・26である。



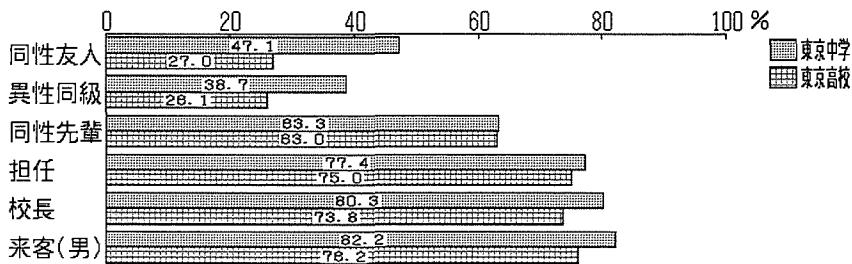
本文図 5-25 [同性友人]に対する自称詞の中高生比較 [男子]

[同性友人]に対する場合、高校生は中学生よりも「ボク」の使用者率が低く、その結果「オレ」への集中の度合いが相対的により高くなっている。この高校生の「ボク」は、〔校長〕に対する場合だと、使用者率は中学生とそれほど違わない。すなわち、中学生と同様高校生の間でも、「ボク」は「丁寧な表現」と意識されているものと考えられる。しかしその一方で、「ボク」に内包される年少的なニュアンスは、成人に近づいた高校生にとっては相応しくないと感じられ始め、〔同性友人〕に対しては中学よりも使用者率が低下しているのかもしれない（本文図5-27も参照）。

全体としては使用者率が低いものの、相手が〔校長〕の場面で高校生の使用者率が増加する表現に「ワタシ」「ジブン」がある（本文図5-5・6を参照）。「ワタシ」の増加は、成人の言語行動様式への移行を反映する部分がおそらくあろう。「ジブン」の増加も基本的にそれと同じと考えられるが、使用者率のピークがむしろ〔先輩〕であることを考えると、「ワタシ」とやや異なり、主として集団内での目上に対する成人的な表現の使用語彙化と言えるかもしれない。



本文図 5-26 [校長]に対する自称詞の中高生比較 [男子]



本文図 5-27 「ボク」の相手別使用者率の中高生比較 [男子]

5.1.6. 各表現が持つ待遇表現としての機能負担量

(1) 「待遇表現としての機能負担量」という視点

先に 5.1.2.において、待遇表現としてどの程度積極的に機能しているか、すなわち待遇表現としての機能負担量は各表現ごとに異なっていることを報告した（たとえば〈東京中学〉の男子における「ボク」と「オレ」の違い）。また、同じ表現であっても、地域によりあるいは性別により、機能負担量は異なりうることを報告した（たとえば〈東京中学〉の男子の「ボク」と〈山形中学〉の男子の「ボク」の違い）。

従来の敬語行動研究においては、「ある場面で使われやすい表現はどれか?」とか、あるいは逆に「ある表現はどのような場面で使われやすいか?」といった、場面と表現との分布パターンを論じるのが研究パラダイムであった。たとえば、友達を相手とする場面では「オレ」が使われやすいとか、「ボク」は目上の人を相手とした場面で使われやすい（従って丁寧な表現である）、といった議論である。

ここで改めて、場面により複数の表現が使い分けられる、すなわち各表現が待遇表現として機能しているのはそもそもいかなる原理にもとづいているのかを考えると、それは「各表現の使用頻度

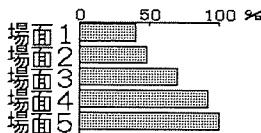
が場面により片寄りがあるため」と言える。

たとえば極端な場合、ある生徒が学校の先生に対し敬意の高い敬語形式を使ったとしても、もし同じ表現を友達に対しても同様に使っていたとしたら、その表現は敬意表現として機能しているとは言い難い(ただし美化語としての機能ははたしているかもしれない)。敬意表現は、それが必要な場合にのみ使われてこそ、敬意表現としての機能を発揮しているのである。

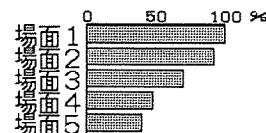
であれば、ある表現がある人物に対して使われるということ自体は、その表現が敬意表現として機能しているか否かを考える上でじつはそれほど重要な意味を持っていないと言える。むしろ重要なのは、ある表現がある人物に対して使われるとともに、別のある人物(相対的に待遇が低い人物)に対しては使われず、その結果使用に〈格差〉が生じることである。つまり〈特別扱い〉できる表現となっているかどうかが、その表現が待遇表現として積極的に機能しているかどうかを決定する重要な要件となっているのである。

このことを本調査に引き寄せて言えば、ある場面での使用者率が高くなるとともに、別の場面での使用者率が低くなり、結果として使用者率に場面による〈格差〉が生じることが重要なポイントということになる。逆に言えば、どの場面でも一貫して使用者率が高いような表現は、待遇表現として十分機能しているとは言い難い。

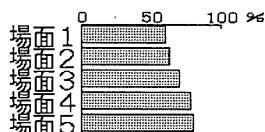
今述べたことをモデル図で示したのが本文図 5-28-a~f である。6 種の表現 (a~f) について 5 場面ごとの使用者率を示したものである。場面は、場面 1 に近いほど近しい相手、場面 5 に近いほど距離を置く相手とする。



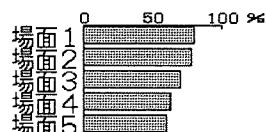
本文図 5-28-a



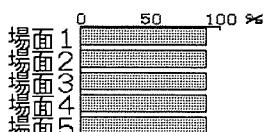
本文図 5-28-b



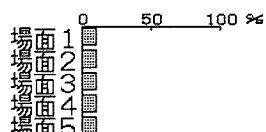
本文図 5-28-c



本文図 5-28-d



本文図 5-28-e



本文図 5-28-f

a と b は場面による〈格差〉が大きく、待遇表現として積極的に機能している、すなわち待遇表現としての機能負担量が大きいケースである(ただし a は「敬意表現」、b は「親愛表現」「卑罵表現」という違いがある)。これに対し c と d は、場面による〈格差〉が小さく機能負担量が小さいケースである。また e と f は〈格差〉がほとんどなく機能負担量がゼロに近いケースである(e は「ツ

クエ(机)」「イス(椅子)」といった一般的表現, *f*は「チョッキ」などの半古語化した一般的表現がそれぞれ該当しよう)。

こうした〈機能負担量〉という考え方, 敬語行動の土台を考える視点であり, 今後の敬語行動研究において留意されるべきものと考える。

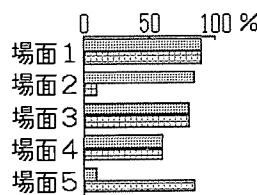
そこで本節の最後の報告として, 各表現が持つ待遇表現としての機能負担量について, 表現間での異同や, 地域や男女での異同を総合的に分析することにする。

(2) 「機能負担量」の求め方

これまで機能負担量の違いについては「傾斜の度合いの違い」というグラフのイメージで表現してきたが, さまざまな表現の機能負担量を比較するためには, 単なるイメージではなくそれを数値化する必要がある。それにはいくつか方法が考えられる。最も単純な方法は6場面の最大値と最小値の差を求め(すなわちグラフの傾きが得られる), それを機能負担量とする方法であろう。たとえば最大値が80%で最小値が20%であればその差は60%となるので機能負担量は「60」となり, 最大値が80%で最小値が70%であればその差は10%となるので機能負担量は「10」となる。しかしこの方法だと, 1場面だけ数値が突出するような場合, その1場面の数値の高さゆえに機能負担量も大きくなり, グラフの全体的な状況を十分反映できないケースが生じる恐れがある。

そこで本報告書では, できるだけグラフの全体的な分布状況を機能負担量の数値に反映させるべく, 「最大値と最小値の差」ではなく, 6場面での使用者率の「標準偏差」(\approx 6場面の使用者率の平均値からの隔たりの平均)を用いることにした。すなわち, 平均値からの平均的な隔たりを求め,これを機能負担量としたのである。従って正確には「傾斜の度合い」というよりも「平均値からの隔たりの平均」ということになる。

なお, 使用者率が場面を通じて極端に低い場合や, 逆に場面を通じて極端に高い場合は, 標準偏差が小さくなるのは当然である。そこで, 全体として使用者率がどの程度であったかを見る目安として「平均値」を求め, これもあわせてグラフにプロットした。〈機能負担量〉はこの平均値が極端に低くない表現, つまり平均してある程度使われている表現について有効な数値である(理論上は使用者率の平均値が50%のとき機能負担量が最大になりうる)。

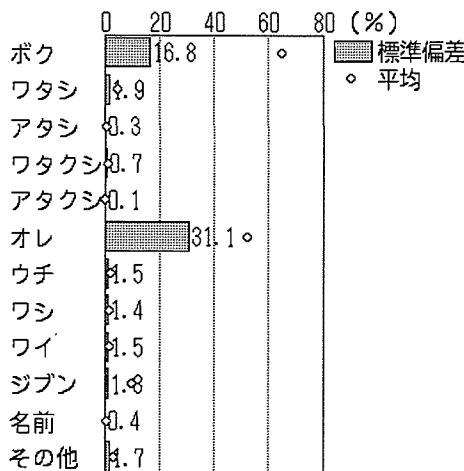


本文図 5-29-a

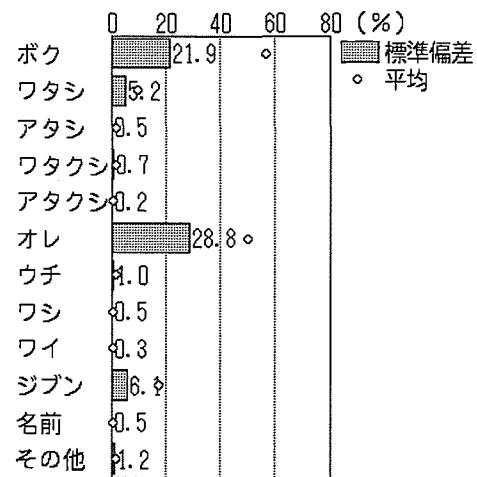
ただしこの方法にもいくつか欠点がある。本文図 5-29-a は架空の2つの表現の使用者率を示したものであるが, じつは「場面 2」と「場面 5」の数値を入れ替えただけのものである。当然標準偏差も等しくなり, 両者の違いは数値の上には反映されない。しかし, グラフの下の棒のように変則的な動きを示すケースは, 今回の調査では実際には少なく, 場面 5 に近づくほど(つまり距離を置く相手になるほど) 数値が下がるか, あるいは逆に上がるというパターンが多くを占める。すなわち, 全体としては, 相手との社会的・心理的距離にもとづく使い分けの幅, すなわち待遇表現としての

機能負担量が、この方法により測定されているものと考える。

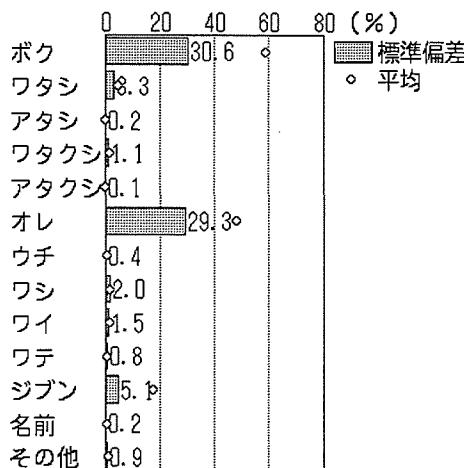
こうして得られた結果が、本文図 5-30～33（男子）および本文図 5-34～37（女子）である。たとえば〈東京中学〉の男子の「ボク」の数値（本文図 5-30）は「16.8」となっているが、これは本文図 5-1 で示した各場面の使用者率の標準偏差から求めた数値である。なお、これらの数値は、調査でどのような場面を設定するかにより変わりうる数値であり絶対的なものではない（注6）。また、〈機能負担量〉が大きいということと待遇価が高い（＝目上に対し使われやすい）ということは別の概念である。



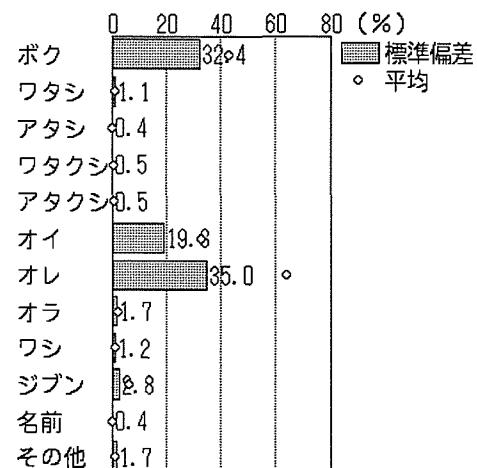
本文図 5-30 自称詞の場面別使用者率
の平均と標準偏差
[東京中学・男子]



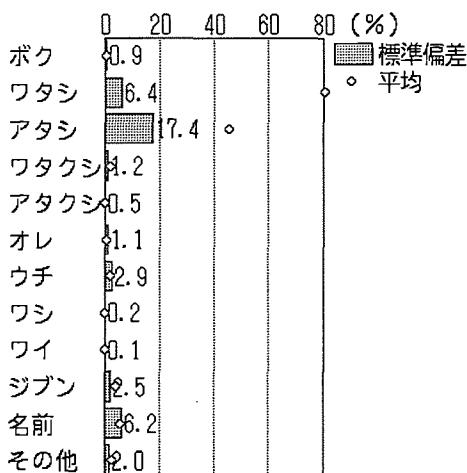
本文図 5-31 自称詞の場面別使用者率
の平均と標準偏差
[東京高校・男子]



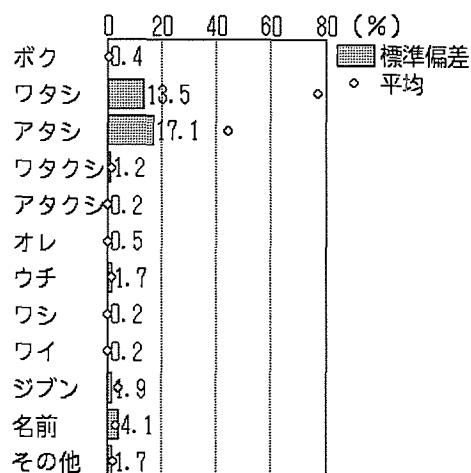
本文図 5-32 自称詞の場面別使用者率
の平均と標準偏差
[大阪高校・男子]



本文図 5-33 自称詞の場面別使用者率
の平均と標準偏差
[山形中学・男子]



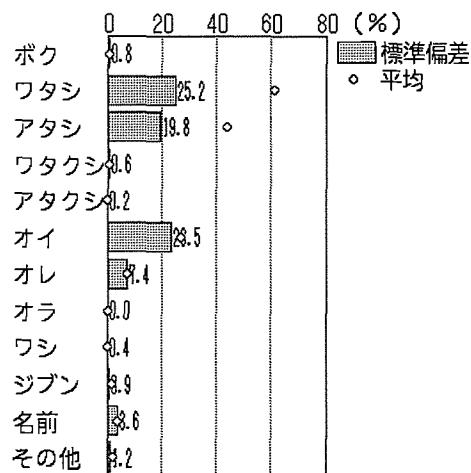
本文図 5-34 自称詞の場面別使用者率
の平均と標準偏差
[東京中学・女子]



本文図 5-35 自称詞の場面別使用者率
の平均と標準偏差
[東京高校・女子]



本文図 5-36 自称詞の場面別使用者率
の平均と標準偏差
[大阪高校・女子]



本文図 5-37 自称詞の場面別使用者率
の平均と標準偏差
[山形中学・女子]

(3) 結果

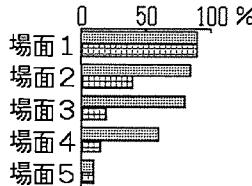
以下、数値化の結果を見てゆく。

まず男子の結果（本文図 5-30～33）を見ると、平均値がある程度ありかつ機能負担量が大きな表現は「ボク」と「オレ」であることがわかる。男子においては主としてこの 2 つの表現が、待遇表現として積極的に機能している。山形ではさらに方言形式の「オイ」も、待遇表現として積極的に機能している。

同じ表現であっても地域による異なりが認められる。〈東京中学〉〈東京高校〉では「ボク」の数

値は20程度にとどまるのに対し、〈大阪高校〉〈山形中学〉では30程度にまで達する。〈大阪高校〉〈山形中学〉において「ボク」は機能負担量が相対的に大きくなり、待遇表現としてより積極的に機能している。

なお、「オレ」の数値は地域差が小さいが、〈東京中学〉と〈山形中学〉との間には、[同性先輩]・[担任]の場面で、じつは使用者率に地域差が見られる(本文図5-13)。こうした違いは数値の違いとして反映されない。本文図5-29-bにはモデルとして2種のグラフを示したが、両者の標準偏差は等しくなる。こうした違いを表現できないのもこの方法の欠点である。この〈分布パターン〉の違いを示すためには、さらに別の指標が必要となる。



本文図 5-29-b

一方女子(本文図5-34～37)は、平均値がある程度ありかつ機能負担量が大きな表現として「ワタシ」と「アタシ」がある。山形ではさらに「オイ」「オレ」が、大阪では「ウチ」が追加される。全体として男子よりも多様である。

同じ表現であっても地域により数値が異なる現象が女子にも認められる。〈山形中学〉では他よりも「ワタシ」の数値が大きく、待遇表現としてかなり積極的に機能している。

中学生・高校生の学校生活において、自称詞で待遇表現として積極的に機能している表現は何であるかという視点からデータを見てみると、以上のようなことがわかる。

ところで、現在の日本語社会において敬意表現として、つまり対人的配慮を示す表現として機能しているのは、丁寧語・尊敬語・謙譲語といった狭い意味での敬語や、ここで報告した自称詞などだけにとどまらない。とりわけ、単なる情報伝達でなく、相手に働きかけるような発話においては、現実にはさまざまな表現が対人的配慮を有する表現、すなわち広い意味での敬語として機能しているようだ。たとえば「情報要求」という働きかけを相手にする際には、相手を煩わせることに対する「詫び」の表現を添えることがよくあるが、相手との社会的距離あるいは心理的距離の違い(家族か行きずりの人など)により、出現頻度が異なることが予想される。つまり「詫び」の表現を添えるか否かも、広い意味での敬語として機能している面がある。

近年の敬語研究ではそうした面にまで研究の対象が拡大されつつあるが、どのような表現がどの程度敬意表現として機能しているかを実証する上で、ここに示した「待遇表現としての機能負担量」という考え方は有効であろう。

(注1) 15歳～69歳の東京都・大阪府在住者を対象とした国立国語研究所(1981)の調査によれば、「ワタシ」を使う男性は、東京都・大阪府ともに約5割いる。

(注2) 札幌市生え抜きの市民を対象とした尾崎喜光の調査によれば、男性の回答者について、想定する相手が「親しい友達」の場合と「初対面の知らない人」の場合とを比べると、30代以上では「ボク」の使用者率に大差がないのに対し、10代・20代では、後者の場面での使用者率が大幅に増加する。特に10代ではその傾向が顕著である(国立国語研究所1996)。

- (注3) 「待遇表現としての機能負担量」という考え方を初めて示したのは杉戸清樹・尾崎喜光（1997）においてである。また、尾崎喜光（1997c）は、本調査で得られたデータに対してこの考え方を広範に適用し、主として地域による異同を見たものである。
- (注4) 国立国語研究所（1981）の調査によれば、「ワタクシ」を使う女性は、東京都の場合4~5割ほどいる。
- (注5) 国立国語研究所（2000）の【問15】および「[参考資料2] 日本語の多様性に関するアンケート調査」で、国立国語研究所が最近東京都で実施した調査の中から、文末形式の男女差の傾向を紹介している。
- (注6) 東京の高校生による自称詞の使用について、本報告書で提示した「待遇表現としての機能負担量」という考え方を適用し、本調査とは別に調査した結果を分析した研究に小林美恵子（1997）がある。設定した場面が異なるため数値自体は本調査と異なる部分が少くないが、各表現間の相対的位置付けは類似している。

5.2. 対称詞(1)一相手の呼び方

グループ別に質問文と選択肢を示すと次のとおりである。本書の末尾に「資料2」として掲げた〈東京中学〉の調査票では「II.13.」が該当する。

想定させた話し相手は(1)~(4)の4人である。自称詞で想定させた〔担任〕〔校長〕は、対称詞では「センセイ」や「コウチョウセンセイ」などがほとんどでバラエティが少なく従って使い分けも希薄であると考えたため、対称詞では設定場面としなかった。その差し替えとして〔同性後輩〕を追加した。回答方法は、自称詞の場合と同様、話し相手ごとに、掲げた語形全てについて○か×を付けさせた。なお、対称詞は、自称詞と異なり、「言及」のほかに「呼びかけ」としても用いうるが、いずれの用法かは特に問わなかった。

【〈東京中学〉〈東京高校〉】

それでは、相手のことは何と呼んでいますか。前問と同じように、使うものには○、使わないものには×を全部につけ、その他の言い方をする場合には（ ）に具体的に書いてください。

- (1) 同じクラスで、一番したしい同性のともだちに対しては……

- 1. キミ 2. アナタ 3. アンタ 4. オマエ 5. オメエ
- 6. オタク 7. ジブン 8. 姓+クン 9. 姓+サン 10. 姓を呼びすて
- 11. 名+クン 12. 名+サン 13. 名+チャン 14. 名を呼びすて
- 15. ニックネーム・あだ名 16. その他（ ）

- (2) 同じクラスで、話をする機会の一番多い異性の同級生に対しては……

(選択肢は同上)

- (3) 部（クラブ）活動で、話をする機会の一番多い同性の先輩に対しては……

(選択肢には「センパイ（姓+センpai, 名+センpaiなども）」を追加)

- (4) 部（クラブ）活動で、話をする機会の一番多い同性の後輩に対しては……

(選択肢は(1)と同じ)

(1)~(4)の順序は〈東京中学〉のものであり、〈東京高校〉では(3)(4)(1)(2)の順とした。男子高校・女子高校では(2)への回答は求めなかった。〈東京高校〉で順序を多少変えたのは、この男子高校・女子高校での回答に配慮したことによる。(3)については「センpai（姓+センpai, 名+センpaiなども）」を選択肢として追加した。なお、「姓+チャン」という組み合わせも可能性としてはあるが、現代日本語ではやや異例な表現と考え、本調査では選択肢としなかった。「ニックネーム・あだ名」にはさまざまな表現を含みうるが、調査では特に定義をしなかった。回答者によっては、姓や名の一部を用いた表現やその変化形などもこれに含めて回答している可能性がある。

【〈大阪高校〉】

それでは、相手のことは何と呼んでいますか。前問と同じように、使うものには○、使わないものには×を全部につけ、その他の言い方をする場合には（ ）に具体的に書いてください。

- (1) 同じクラスで、一番したしい同性のともだちに対しては……

1. キミ
2. アナタ
3. アンタ
4. オマエ
5. オメエ
6. オマハン
7. オタク
8. ワレ
9. ジブン
10. 相手の姓（例. スズキ、タナカ）
11. 相手の名（例. マサオ、ハルコ）
12. その他（ ）

- (2) 同じクラスで、話をする機会の一番多い異性の同級生に対しては……

(選択肢は同上)

- (3) 部（クラブ）活動で、話をする機会の一番多い同性の先輩に対しては……

(選択肢は同上)

- (4) 部（クラブ）活動で、話をする機会の一番多い同性の後輩に対しては……

(選択肢は同上)

質問文を比較しやすくするため、ここでは〈東京中学〉の調査票の順序で示した。実際の順序は(3)(4)(1)(2)である。男子高校・女子高校では(2)への回答は求めなかった。順序を多少変えたのは、この男子高校・女子高校での回答に配慮したことによる。

〈東京中学〉〈東京高校〉では末尾の付加要素によりこまかく分けた姓や名は、〈大阪高校〉では「相手の姓」「相手の名」として細分化しなかった。また、(3)には「センパイ（姓+センパイ、名+センパイなども）」を特に追加していない。これらはいずれも、〈大阪高校〉〈山形中学〉で調査を先行して行ない、〈東京中学〉〈東京高校〉ではそこで明らかになった不備な点を改善したために生じた違いである。地域間比較の際には注意を要する。

【〈山形中学〉】

それでは、相手のことは何と呼んでいますか。前問と同じように、使うものには○、使わないものには×を全部につけ、その他の言い方をする場合には（ ）に具体的に書いてください。

- (1) 同じクラスで、一番したしい同性のともだちに対しては……

1. キミ
2. アナタ
3. アンタ
4. オマエ
5. オメ
6. ワ
7. ワネ
8. ワレ
9. ジブン
10. 相手の姓（例. スズキ、タナカ）
11. 相手の名（例. マサオ、ハルコ）
12. その他（ ）

- (2) 同じクラスで、話をする機会のいちばん多い異性の同級生に対しては……

(選択肢は同上)

- (3) クラブ活動で、話をする機会のいちばん多い同性の先輩（せんぱい）に対しては……

(選択肢は同上)

- (4) クラブ活動で、話をする機会のいちばん多い同性の後輩（こうはい）に対しては……

(選択肢は同上)

(3)(4)は「部（クラブ）活動」ではなく「クラブ活動」という表現にした。

結果は資料表 5-2-1-a および資料図 5-2-1-a 以下のとおりであった。男女を合わせた集計も一応

行なってはいるが、対称詞の使用も男女差が大きく両者合わせた数値はあまり意味がないため、本報告書では男女別の集計結果のみを示すことにする。

5.2.1. 全体的概観

対称詞についても、日本語にはさまざまな表現が存在するが、先に見た自称詞と同様、中学生・高校生が学校生活の中で実際によく使う表現となるとやはり限定される。男子の場合、代名詞では主として「オマエ」、非代名詞では「姓呼捨て」「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」である。一方女子は、代名詞では主として「アンタ」、非代名詞では男子と同様に「姓呼捨て」「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」、さらには「姓+サン」「姓+クン」「名+チャン」と多彩である。〈山形中学〉では「オマエ」よりも「オメ」の方が一般的な表現となっているが、男女共通に用いる点は特徴的である。なお、データは〈東京中学〉と〈東京高校〉からしか得られていないが、[同性先輩]に対しては、男女とも「センパイ」という表現が大変多い。〈大阪高校〉と〈山形中学〉の[同性先輩]に対する「その他」の自由記入を分類すると「センパイ」を含む表現が多いことから考えると、〈大阪高校〉〈山形中学〉でも「センパイ」を選択肢として掲げていれば、多くの回答者が選択した可能性が高い。

自称詞と比べ対称詞は、非代名詞も使えるという事情もあり、多用される表現の種類も全体としてより多彩である。代名詞と非代名詞を使用者率の点で比べると、全般的に非代名詞の方が優勢である。日本語にも対称代名詞が存在し、特にこのうち「アナタ」は、『これからの敬語』(昭和27年)において「標準の形」として推奨されている。しかし中学生・高校生の間では、自称詞の場合ほど代名詞は實際には用いられていない。

自称詞と同様、対称詞も、相手により使用者率がずいぶん異なる。

以下では調査結果をさらに詳しく見ていくが、まずはグループ別・男女別に大きな傾向を概観し、その後、さらに男女比較・地域比較・中高生比較（東京の場合）・相手による使い分けの傾向等を見ていくことにする。

5.2.2. グループ別・男女別による概観

(1) 〈東京中学〉の男子

相手別に集計した結果は資料表 5-2-1-a～d および資料図 5-2-1-a～d のとおりである。〈東京中学〉の調査票では[同性後輩]は最後に出てくるが、目上・目下の軸による配列の一貫性を考慮し、図表の方では順序を変えて先頭に出した。

集計結果を全体的に眺めると、〈東京中学〉の男子の間で使われている主たる表現は、代名詞では「オマエ」、非代名詞では「姓呼捨て」「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」である。「オマエ」の融合形「オメエ」もある程度の使用者率がある。[先輩]に対しては「センpai」が多い。「キミ」や「アナタ」は日本語の対称代名詞の代表格と言える表現だが、学校生活におけるこれらの実際の使用者率はかなり低い。

相手別にもう少し特徴を指摘すると次のとおりである。

[同性後輩]に対しては「姓呼捨て」が約6割と最も多い。これに続くのが「オマエ」「ニックネーム・あだ名」「名呼捨て」で、それぞれ3～4割の使用者率を示す。

[同性友人]に対しては「ニックネーム・あだ名」が9割近くと大変多い。[同性友人]のような近しい相手に対しては、言葉の面でもそれに相応しい表現が、ほとんどの生徒により用いられている。

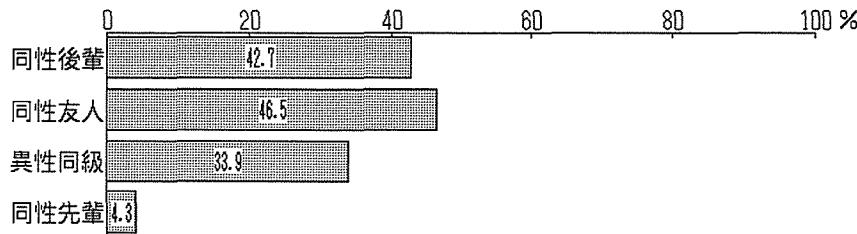
る。これに続くのが「姓呼捨て」「オマエ」「名呼捨て」であり、5割前後の使用者率を示す。[同性後輩]と比べると、全体的にさまざまな表現で数値が高くなる。多様な表現が使えるということは定型性が低いということである。友達のような心理的距離の小さい相手に対しては、「ニックネーム・あだ名」のようなくだけた表現が最もよく使える一方で、それ以外のさまざまな表現もかなり自由に使えるということも、もうひとつの特徴と言えそうだ。

[異性同級]に対しては「姓呼捨て」が約6割と最も多い。これに続くのが「オマエ」「ニックネーム・あだ名」で3~4割の使用者率を示す。女子に対する対称詞としては、「姓+サン」も従来よく用いられていたようだが、その使用者率は2割程度にとどまる。「姓+サン」のようなやや距離を置く表現よりも、「姓呼捨て」に代表される距離を置かない表現の方が現在ではむしろ多用されている。

[先輩]に対しては、追加した選択肢「センパイ」が約6割と最も多い。これに次ぐのが「姓+クン」「ニックネーム・あだ名」だが、3割程度にとどまる。このうち「センpai」は、佐藤秀夫(1989)によると、頻繁に用いられるようになったのはごく新しいことであり、特に「呼びかけ」として使われることは以前はなかったと言う。最近の大きな傾向のひとつと言えよう。なお、「センpai」という表現は、後出の「5.11.」でも言及するが、小学生の頃はほとんど使われず、中学生になってから使われ始める表現のようである。

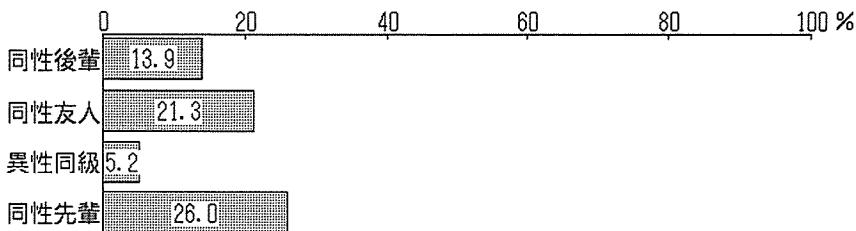
対称詞についても、自称詞と同様、相手による使い分けが著しい。使用者率が比較的高い表現について、使い分けの様子をいくつか見よう。

本文図5-38は、代名詞の中で使用者率の高かった「オマエ」の使い分けを示したものである。[同性先輩]に対しては少なく、それ以外の同等以下の相手に対し用いられている。わずかな差だが、使用者率が最も高いのは[同性後輩]ではなく[同性友人]である点が注目される。学年が下の者に対してよりも、学年が同じ親しい者に対しての方が一層用いられる。学年による上下関係よりも心理的距離の方が、「オマエ」の使用を左右する要因として大きいのかもしれない。こうした傾向は〈東京高校〉や〈大阪高校〉の男子生徒の間にも認められる。全体として数値は下がるが、「オマエ」のくずれた形式である「オメエ」にも、各グループの男子の間で、同様の傾向が認められる。



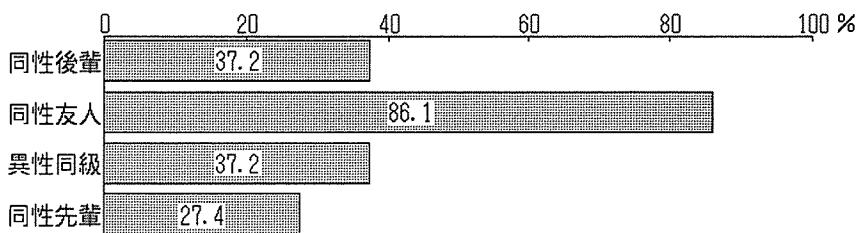
本文図5-38 「オマエ」の相手別使用者率 [東京中学・男子]

本文図5-39は、非代名詞である程度使用者率を持つ「姓+クン」の使い分けを示したものである。女子である[異性同級]に対しこの表現を用いることは少ない。使用者率が最も高いのは[同性先輩]に対してである。成人社会では目上の者に対し「姓+クン」はまず使えないが、中学生の間では、ある程度丁寧な表現として用いられている。



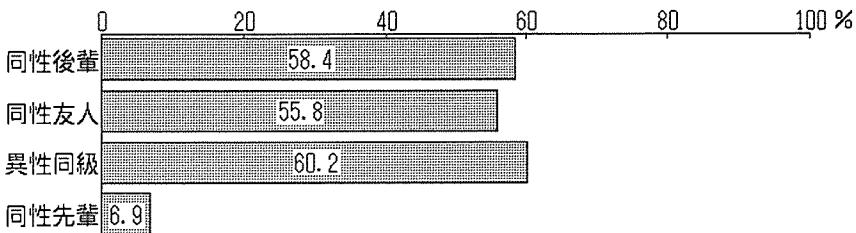
本文図 5-39 「姓+クン」の相手別使用者率 [東京中学・男子]

[同性友人]を中心を使われるのは「ニックネーム・あだ名」である。本文図 5-40 で示したように、他の相手を大きく引き離して多用される。数値は全体としてこれより低くなるが、同様の傾向は「名+チャン」にも認められる。



本文図 5-40 「ニックネーム・あだ名」の相手別使用者率 [東京中学・男子]

なお、「姓呼捨て」は、本文図 5-41 で示すように、[先輩]を除けば、誰に対しても同程度によく用いられている。同等以下の相手に対し広く使われる表現である。



本文図 5-41 「姓呼捨て」の相手別使用者率 [東京中学・男子]

(2) <東京中学> の女子

相手別に集計した結果は資料表 5-2-2-a ~ d および資料図 5-2-2-a ~ d のとおりである。

集計結果を全体的に眺めると、女子による代名詞の使用は男子以上に少ない。その使用者率の少ない代名詞の中で最も用いられているのは「アンタ」である。これはちょうど、男子の「オマエ」「オメエ」に対応する。家庭の中で夫婦が代名詞で呼び合う場合、夫から妻へは「オマエ」、それに對し妻から夫へは「アナタ」「アンタ」が少なくないと思われるが、関連した現象が学校の中でも見られる。現在は言葉の男女差が小さくなっているとは言え、自称詞と同様に代名詞の対称詞で

も、女子による「オマエ」「オメエ」の使用は一般的でなく、男女差は明確である。

非代名詞では、男子以上にさまざまな表現が全体的に多用されている。男女いずれも代名詞より非代名詞の方が多く用いられるのだが、非代名詞への傾斜の度合いは女子においてより著しい。

非代名詞で使用者率が高い表現は、男子と共に通するものとしては「姓呼捨て」「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」があるが、さらに「姓+サン」「姓+クン」「名+チャン」もあり、後者は女子の用法を特徴づけている。このうち「姓+サン」「姓+クン」は相手と多少距離を置いた表現である。一方「名+チャン」は相手との距離を縮めた表現である。つまり、女子は、相手により距離を置いたり縮めたりと幅広く調整する傾向が強いのに対し、男子はそうした調整を女子ほどには行わず、どちらかと言えば距離を縮めた表現を一貫して使うという傾向的な違いが読み取れそうだ。ただし、[同性先輩]に対する場合はむしろ逆であり、女子で使用される表現は「センパイ」にほぼ限定され（男子では「姓+クン」や「ニックネーム・あだ名」もある程度使われる）、使用者率も9割を越える（男子は6割程度にとどまる）。

相手別にもう少し特徴を指摘すると次のとおりである。

[同性後輩]に対しては「姓+サン」が約7割と最も多い。非常に単純化して言えば、[同性後輩]に対しては、男子は「姓呼捨て」、女子は「姓+サン」という違いである。なお、男子の間である程度使われる「オマエ」に相当する女子の「アンタ」の使用者率は、[同性後輩]に対しては大変少ない。[同性後輩]に対しては、女子は距離を置いた表現を用いるのに対し、男子は距離を縮めた表現を用いる、という傾向的な違いが認められる。

[同性友人]に対しては「ニックネーム・あだ名」が9割近くと大変多く、この点は男子と共に通する。これに続くのが「名+チャン」であり（使用者率は6～7割）、さらに「姓呼捨て」「名呼捨て」「姓+サン」が続く（使用者率は4～5割）。このうち「名+チャン」と「姓+サン」は男子での使用者率が少なく、女子の用法を特徴づけている。女子の場合、[同性友人]と言えども多少距離を置く相手もいることが、「姓+サン」の使用からうかがえる。

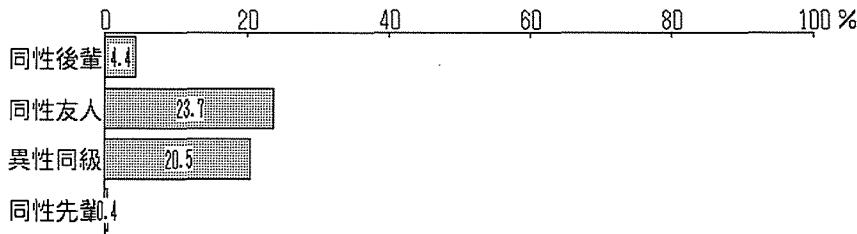
[異性同級]に対しては「姓呼捨て」が約7割と最も多く、この点は男子と共に通する。かつては女子が男子を呼ぶ場合は「姓+サン」が普通であり、やがて「姓+クン」へと移行したのだが、現在の主流はさらに「姓呼捨て」へと移り変わっている。これに続くのが「ニックネーム・あだ名」（約5割）と、以前主流であったと思われる「姓+クン」（約4割）である。女子でも「姓呼捨て」が主流であるという点では男女差はかなり縮まったと言えるが、男子の間で女子に対して使用者率が低い「姓+クン」を、女子は男子に対してまだある程度用いる点、および、その裏返しになるが、女子の間で男子に対し使用者率が低い「姓+サン」を、男子は女子に対しある程度用いる点で、男女差はまだ残る。

[同性先輩]に対しては、先にも言及したとおり、使用される表現は「センパイ」にほぼ限定される。使用者率も9割を越え、ほとんどの女子生徒が用いている。自称詞と同様対称詞も、日本語では非常に多様性に富むのであるが、使用者や話し相手を限定すると、このケースのように、標準化が著しく定型性が高い場合もある。

男子と同様、相手による使い分けが著しい。使用者率が比較的高い表現について、使い分けの様子をいくつか指摘する。

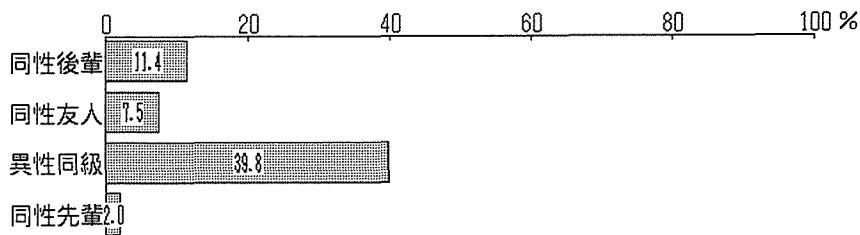
本文図5-42は、代名詞の中で使用者率の高かった「アンタ」である。使える相手は[同性友人]と[異性同級]にかなり限定される。この表現は男子の「オマエ」（本文図5-38）に相当するものだが、男子の「オマエ」は[同性後輩]に対しても使われるのに対し、女子の「アンタ」はこうした

相手に対してはあまり使われない点が大きく異なる。女子にとって【同性後輩】は、距離を置くべき相手と意識されているようである。使用者率はかなり小さくなるが、女子の「オマエ」にも同様の傾向が見られる。



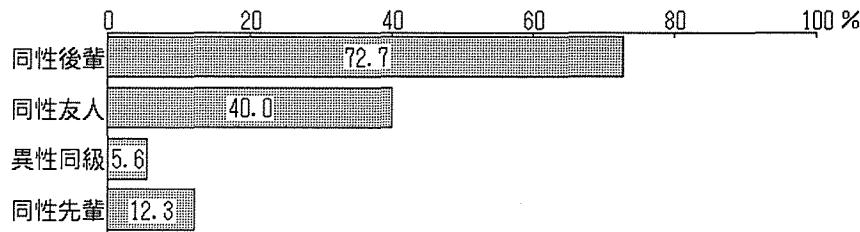
本文図 5-42 「アンタ」の相手別使用者率 [東京中学・女子]

本文図 5-43 は「姓+クン」の相手別使用者率である。使う相手は、【異性同級】である男子にかなり集中する。本文図 5-39 の男子による【同性友人】の数値と比べると使用者率は倍増し、相対的に女子がよく使う表現となっている。ただし使用者率は 4 割程度にとどまる。なお、数値は 1 割前後と低いが、【同性後輩】や【同性友人】に対しても使われている点は、用法の拡大という点で注目される。同じ傾向は〈東京高校〉の女子にも見られる。



本文図 5-43 「姓+クン」の相手別使用者率 [東京中学・女子]

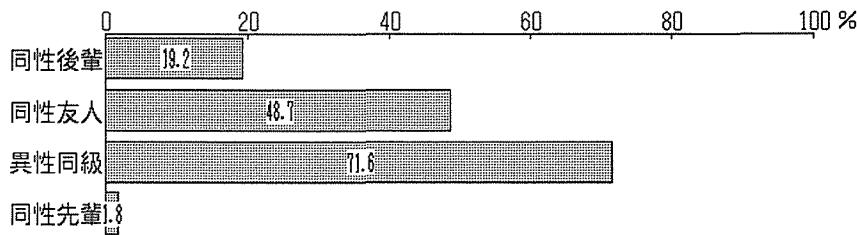
本文図 5-44 は「姓+サン」について見たものである。おもに【同性後輩】に対して使われる表現である。女子は【異性同級】である男子に対しても「姓+サン」を用いるべきだとする規範意識がかつてはあったようだが、現在そのようにこの表現を用いる女子は非常に少ない。つまり、女子において「姓+サン」は、丁寧語的な用法から距離を置くべき年下の相手に対し用いる隔ての用法へとシフトしていると言えそうだ。



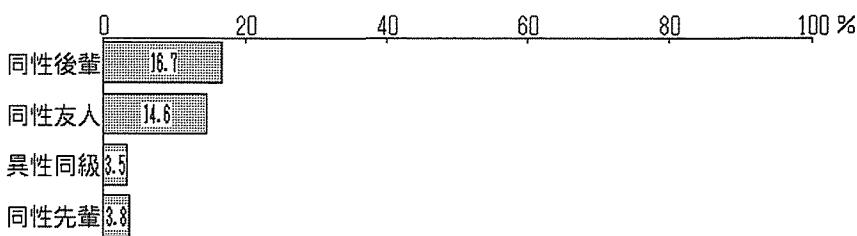
本文図 5-44 「姓+サン」の相手別使用者率 [東京中学・女子]

本文図 5-45 は「姓呼捨て」について見たものである。[同性先輩]に対し用いにくい点は先の「姓+サン」と共通だが、それ以外の相手に対しては、距離が近い相手ほど用いられ、先の「姓+サン」とほぼ相補的な関係にある。

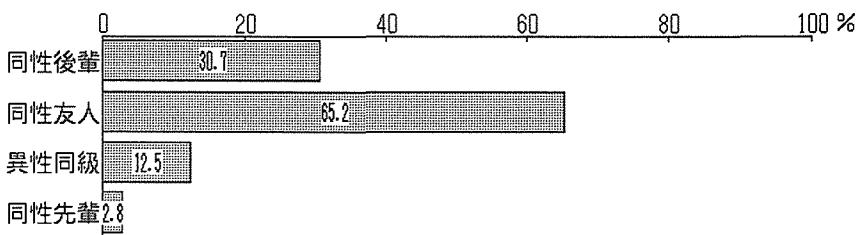
本文図 5-46 は「名+サン」について見たものである。全般的に使用者率は低いが、使う場合はおもに [同性後輩] (や [同性友人]) に対してである点は、先の「姓+サン」(本文図 5-44) と共通する面がある。また、「姓+サン」と同様、「名+サン」も、かつては [異性同級] に対しても用いるべきだとする規範意識があったようだが、現在そのようにこの表現を用いる女子は極めて少ない。なお、ある程度以上の年齢の女性であれば、[同性友人] に対し「名+サン」を使うことは少なからずあるように観察するが、中学生の女子の間では 1~2 割にとどまる (<東京高校> の女子もほぼ同じ)。



本文図 5-45 「姓呼捨て」の相手別使用者率 [東京中学・女子]



本文図 5-46 「名+サン」の相手別使用者率 [東京中学・女子]



本文図 5-47 「名+チャン」の相手別使用者率 [東京中学・女子]

本文図 5-47 は「名+チャン」について見たものである。[同性友人] での使用が他よりも際立つて高いのが特徴的である。グラフは省略するが、「名呼捨て」や「ニックネーム・あだ名」にも同じような傾向が認められる。こうした表現は、主として近しい同性に対し用いられている (男子にも

こうした傾向が見られる)。

(3) 〈東京高校〉の男子

相手別に集計した結果は資料表 5-2-3-a～d および資料図 5-2-3-a～d のとおりである。高校では調査対象校に男子校も含むため [異性同級] の場面で該当なし (凡例では「男子校」) が 2 割近くを占める。

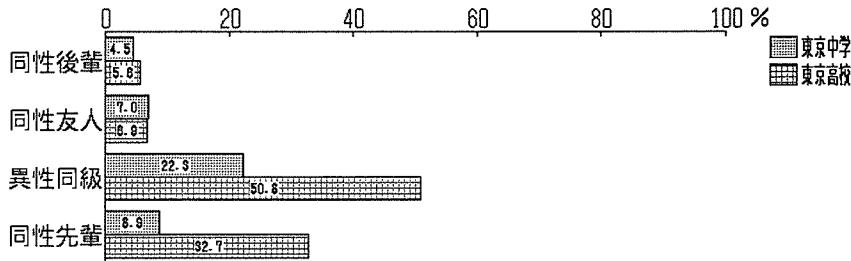
集計結果は全体的に 〈東京中学〉 の男子とよく似ている。特に [同性後輩] に対してはそうである。基本的に中学生と大きく変わることろがない。

ただしこまかく見ると中学生との異なりもある。おもな点を指摘する。

[同性友人] の場面では「姓呼捨て」が増え、逆に「ニックネーム・あだ名」が減る。いずれも距離の近さを現わす表現であるが、子供的な表現からの脱却かもしれない。

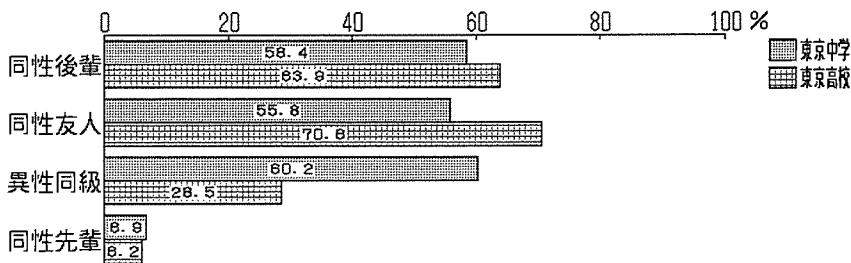
[異性同級] の場面では「姓+サン」が増え、中学生で第一位であった「姓呼捨て」を抜いて第一位となる。逆に「オマエ」「オメエ」「姓呼捨て」「ニックネーム・あだ名」は減少する。非常に簡略化して言えば、中学生の男子は「姓呼捨て」が主流であるのに対し、高校生の男子は「姓+サン」が主流と言える。

[同性先輩] の場面では「姓+サン」と「センパイ」が増え、逆に「姓+クン」が減る。特に「姓+サン」は、成人社会では男性から男性に対しても用いられる一般的な呼称であることを考えると、成人的な言語使用へ変化しつつあることの現われと考えられ注目される (中学生と高校生の男子を比較した本文図 5-48 を参照)。[同性先輩] を「姓+クン」で呼ぶことが高校生では減ることも、同じ変化傾向の裏面からの現われと言えよう。



本文図 5-48 「姓+サン」の相手別使用者率の中高生比較 [男子]

相手による使い分けで中学生の男子と異なる点について、もう一つ指摘する。



本文図 5-49 「姓呼捨て」の相手別使用者率の中高生比較 [男子]

本文図 5-49 は「姓呼捨て」の使い分けであるが、[異性同級] に対する使用者率が中学生と高校

生で大きく異なる。中学生の男子では、[異性同級] は [同性後輩] [同性友人] と数値が近くほぼ同じ扱いであるのに対し、高校生の男子では数値が大きく下がり [同性先輩] の扱いに接近する。高校生になると、男子にとって女子は、やや距離を置いた存在となるようである。

(4) 〈東京高校〉の女子

相手別に集計した結果は資料表 5-2-4-a～d および資料図 5-2-4-a～d のとおりである。高校では調査対象校に女子校も含むため [異性同級] の場面で該当なし（凡例では「女子校」）が 2 割近くを占める。

集計結果は全体的に〈東京中学〉の女子と似ている。特に [異性同級] 以外でそのようである。

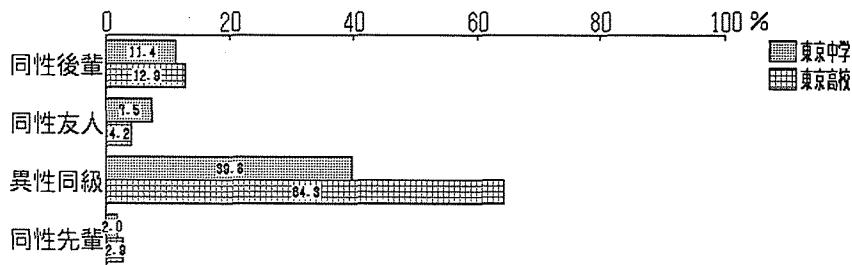
中学生と異なるおもな点を指摘する。

[同性後輩] の場面では「名+チャン」「ニックネーム・あだ名」が増え、逆に「姓+サン」が減る。中学生と比べ [同性後輩] との距離が多少小さいようである。

[同性友人] の場面では「姓呼捨て」が多少減る程度で、それ以外はほとんど同じである。

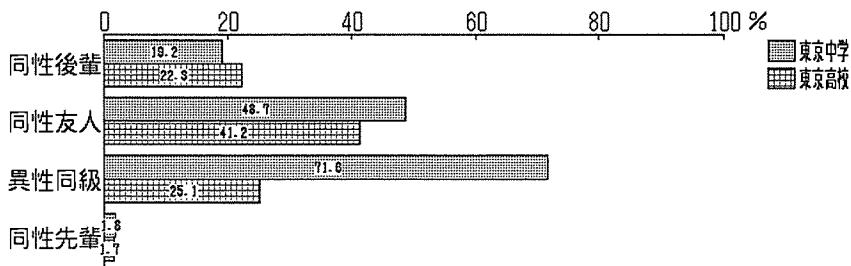
[同性先輩] の場面でも、「姓+サン」「名+サン」「ニックネーム・あだ名」が多少増えるが、それ以外はほとんど同じである。

これに対して大きく異なるのは [異性同級] の場面である。「姓+クン」の数値が大きく伸び、中学生で第一位であった「姓呼捨て」を抜いて第一位となる。「女子校」を除いた部分での使用者率は約 8 割である。その結果、相手別に見た場合も、[異性同級] 専用の度合いは一層高まる（本文図 5-50 を参照）。逆に「姓呼捨て」は、高校では大きく減少する。相手別にこの表現の使用者率を見た場合も、中学生の女子が [異性同級] 中心であるのに対し、高校生の女子は [同性友人] 中心であり、用法面での違いも認められる（本文図 5-51 を参照）。[異性同級] に対しては、ごく簡略化して言えば、中学生女子の「姓呼捨て」主流に対し、高校生女子の「姓+クン」主流という違いが認められる。また、「アンタ」「姓呼捨て」「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」などの使用者率も、中学生と比べると減少する。全体的に、[異性同級] に対しては、距離の近い表現から距離を置く表現にシフトしているようだ。



本文図 5-50 「姓+クン」の相手別使用者率の中高生比較〔女子〕

[同性先輩] の場面では、先に言及したように「姓+サン」「名+サン」「ニックネーム・あだ名」の数値が中学生よりもそれぞれ若干増えはするが、「センパイ」への集中度が著しい点は変わりない。この「センパイ」への集中の度合いは男子以上であり、この点も中学生の女子の場合と共通する。



本文図 5-51 「姓呼捨て」の相手別使用者率の中高生比較 [女子]

(5) <大阪高校> の男子

相手別に集計した結果は資料表 5-2-5-a～d および資料図 5-2-5-a～d のとおりである。高校では調査対象校に男子校も含むため [異性同級] の場面で該当なし（凡例では「男子校」）が約 2 割を占める。

先にも言及したように、<大阪高校><山形中学> の調査は、<東京中学><東京高校> の調査に先行して行なった。<大阪高校><山形中学> での調査では、主として代名詞の使い分けに注目したために、非代名詞の選択肢は「姓」「名」としか示さなかった。すなわち、「姓呼捨て」か「姓+クン」かなどの細かい区別は問わなかった。そのため、非代名詞については東京と比べ情報量が落ちるとともに、地域間比較（特に東京との比較）がしにくいデータとなっている。また、「ニックネーム・あだ名」という選択肢が含まれていない点や、[同性先輩] で「センパイ」という選択肢がない点も大きな違いである。

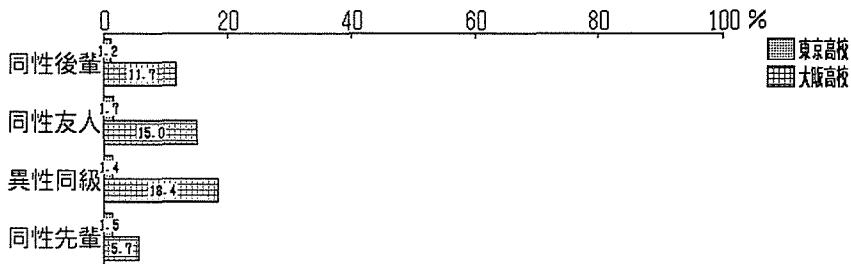
集計結果を見ると、全体的に「オマエ」と「姓」の数値が高い。先に見た<東京高校>について、非代名詞を「姓」対「名」という形でまとめて両者を比較すれば、「姓呼捨て」「姓+サン」を中心とする「姓」の方が優勢である。従って、<大阪高校>の男子は、全体として<東京高校>の男子と似た傾向と言えそうだ。

ただしこまかく見ると<東京高校>の男子との異なりもある。おもな点を指摘する。

[同性後輩] の場面では「オマエ」が増えて逆に「オメエ」が減る。これは、関西では連母音の融合が少ないためであろう。方言語形として追加した「ワレ」の使用者率は、数値が高いと予想された [同性後輩] に対しても極めて低く 1 割に満たない。語形自体は共通語にも存在するが対称詞としても使える点で用法が方言的な「ジブン」の使用者率は、<東京高校>と比べれば高いものの、数値は 1 割程度にとどまる。総じて大阪では、方言的な対称詞の使用はそれほど一般的でないようだ。なお、「ジブン」の使用者率について相手別に見ると、[異性同級] で数値が最も高くなっているのが特徴的である（<東京高校>と対比しつつ示した本文図 5-52 を参照）。[異性同級] の「男子校」の 2 割を除いた部分で再集計すると、[異性同級] に対する数値は 2 割を越える。

[同性友人] と [異性同級] の場面では「オマエ」が増え「オメエ」が減るが、これは先の [同性後輩] と同じ事情によるものと考えられる。

[同性先輩] の場面でも「オマエ」が 1 割ほどいるのは注目される。「その他」の数値が 4 割近くあるが、調査票の書き込みを分類したところ、約半数は「センパイ」を含む表現であり、次いで多いのは「サン」を含む表現であった。

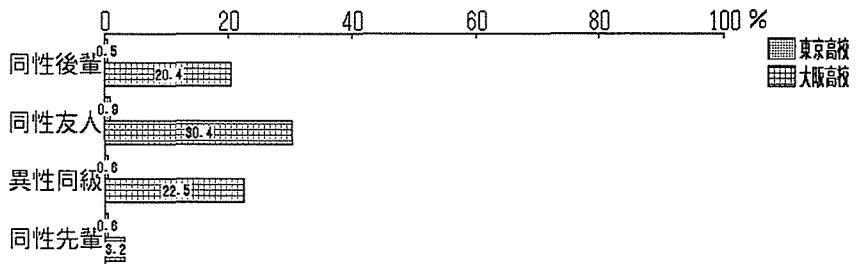


本文図 5-52 「ジブン」の相手別使用者率の地域比較 [男子]

(6) <大阪高校> の女子

相手別に集計した結果は資料表 5-2-6-a～d および資料図 5-2-6-a～d のとおりである。高校では調査対象校に女子校も含むため [異性同級] の場面で該当なし（凡例では「女子校」）が3割近くを占める。

集計結果を見ると、全体的に「アンタ」「ジブン」「姓」「名」の数値が高い。方言形式の「ジブン」が加わることを除けば、<東京高校>の女子とほぼ同じ傾向と言える。また、<大阪高校>の男子と比較すると、代名詞では「オマエ」ではなく「アンタ」が主体となり、[同性友人] の場面では「姓」よりも「名」が主体となる。こうした男女差は、<東京高校>の男女差とほぼ平行的である。つまり、男女差に関する地域差はあまりないと言えそうだ。なお、方言形式「ジブン」の使用者率を、<東京高校>の女子と対比させつつ相手別に示すと本文図 5-53 のとおりである。[同性先輩] 以外の場面で2～3割の使用者率がある。本文図 5-52 の男子の場合と比較すると、「ジブン」は<大阪高校>の中でも全般的に女子に優勢な表現と言える。



本文図 5-53 「ジブン」の相手別使用者率の地域比較 [女子]

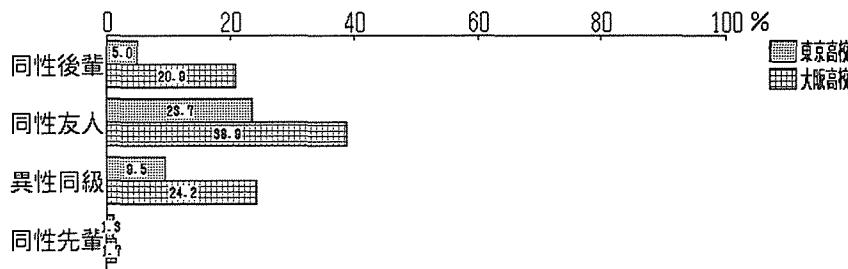
こまかく見ると <東京高校> の女子などとの異なりもある。おもな点を指摘する。

[同性先輩] を除く3つの場面では、「アンタ」と「ジブン」の使用者率が増加する。このうち「アンタ」は、[同性後輩] に対してもある程度使える点は、東京の場合と用法がずいぶん異なる（本文図 5-54 を参照）。

「姓」と「名」の張り合い関係を比べると、[同性後輩] [異性同級] [同性先輩] の場面では「姓」が優勢であるのに対し、[同性友人] ではむしろ「名」が優勢になる。選択肢が異なるため <東京高校> の女子と比較しにくい面があるが、<東京高校> の女子の結果を「姓」と「名」とに大きくグループ分けして比べると、およそ似た傾向と言えそうだ。男子はどの場面でも「姓」が優勢であるのに対し、女子は [同性友人] に対しては「名」が優勢である。こうした男女差は、東京と大阪に

共通する。

[同性先輩] の場面では「その他」が約 6 割をしめる。調査票の書き込みを分類したところ、そのうちのほとんどは「センパイ」を含む表現であった。「センパイ」への集中の度合いは男子以上である。



本文図 5-54 「アンタ」の相手別使用者率の地域比較 [女子]

(7) <山形中学> の男子

相手別に集計した結果は資料表 5-2-7-a～d および資料図 5-2-7-a～d のとおりである。

集計結果を見ると、全体的に方言形の代名詞「オメ」「ワ」「ワネ」および「姓」「名」の数値が高い。連母音の融合した「オメ」の方が「オマエ」よりも優勢である。少數ながら「ワレ」も使われている。

代名詞対非代名詞という対立で見ると、[同性先輩]を除き、代名詞の方がむしろいくぶん優勢である。<東京中学><東京高校>のような共通語が一般的な地域では、対称代名詞の実際の使用は少ないが、<山形中学>の男子の間では方言形の代名詞が比較的自由に使われている。

非代名詞の「姓」と「名」を比較すると、全般的に「名」の方が優勢である。この点は<東京中学><東京高校><大阪高校>の男子と大きく異なる。同姓が多い地域であるという事情がひとつ考えられるが、幼少時代の人間関係がその後も継承されやすいような地域性がありそれに起因する部分もあるのかもしれない。

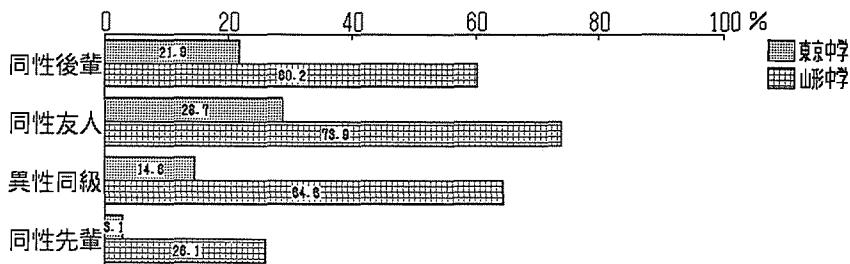
<東京中学>の男子との違いをひとつ指摘する。東京では連母音の融合した「オメエ」よりも「オマエ」の方が優勢であるが、先にも指摘したとおり、山形では「オメ」の方がむしろ優勢である。東京では融合形の「オメエ」はかなりぞんざいに響くため常態での使用は少ないが、山形では、語形は「オメ」と多少変わるが、ごく一般的な代名詞として使われている(女子も使う)。東京と比較して示すと本文図 5-55 のとおりである。

「その他」がある程度出てくるが、調査票の書き込みを見ると、「ニックネーム・あだ名」と判断される表現が、いずれの相手に対しても多かった。

(8) <山形中学> の女子

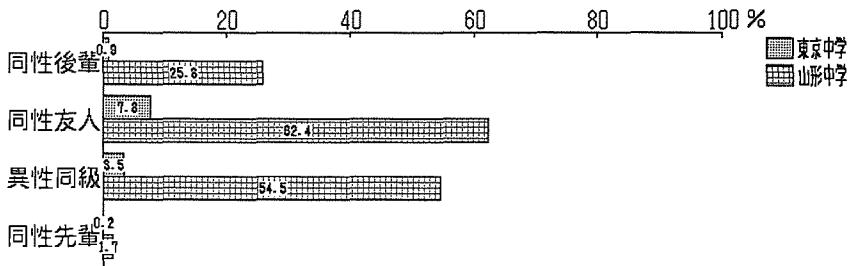
相手別に集計した結果は資料表 5-2-8-a～d および資料図 5-2-8-a～d のとおりである。

集計結果を見ると、全体的に「アンタ」「オメ」「ワ」および「姓」「名」の数値が高い。男子である程度用いられていた方言形「ワネ」の使用者率は女子では低く、また「ワレ」の使用も皆無に近い。これに代ってよく用いられる代名詞は「アンタ」である。

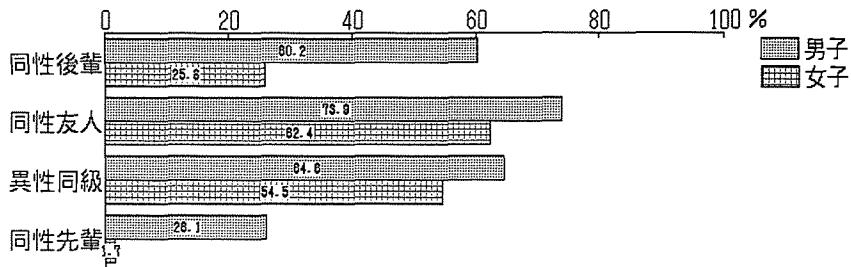


本文図 5-55 「オメ(エ)」の相手別使用者率の地域比較 [男子]

東京では女子による融合形「オメエ」の使用は男子以上に少なく、その結果この表現は男子専用に近い状況になっていたが、山形では、やはり男女差が多少あるものの、女子にとっても「オメ」はごく一般的な表現となっている。本文図 5-56 は〈東京中学〉の女子との比較を、本文図 5-57 は〈山形中学〉の男子との比較をそれぞれ示したものである。後者のグラフによれば、特に[同性友人] [異性同級]といった同等の立場の者に対する場合は、女子の使用者率が高くなり男女差も小さくなる。こうした男女共通に普通に使える対称代名詞は共通語には存在しない。自称代名詞の方言形「オイ」とちょうど平行的な現象である。



本文図 5-56 「オメ(エ)」の相手別使用者率の地域比較 [女子]



本文図 5-57 「オメ」の相手別使用者率の男女比較 [山形中学]

代名詞対非代名詞という対立で見ると、男子の場合と異なり、女子の場合は非代名詞の方がいくぶん優勢である。その非代名詞を「姓」と「名」とで比較すると、これは男子と同様、全般的に「名」の使用の方が優勢である。女子の場合、[同性友人] で「名」が優勢になるのは他の地域と同様だが、それ以外の相手に対しても「名」が優勢であるのは、この地域の特徴と言えそうだ。

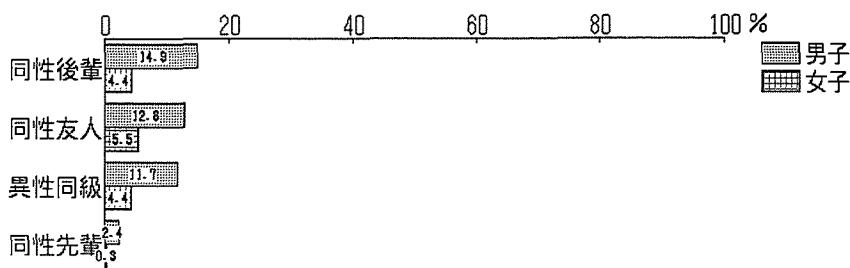
「その他」がやはりある程度出てくるが、調査票の書き込みを見ると、[同性先輩] を除き「ニックネーム・あだ名」と判断される表現が多い ([同性後輩] では「○○ちゃん」も)。[同性先輩] で

は、「センパイ」を含む表現が多くの割合を占めていた。「センパイ」の使用は、〈山形中学〉においても、男子より女子に大きく傾く。結局、「センパイ」の使用が女子に傾くのは、さまざまな地域に共通して見られる現象と言えそうだ。

5.2.3. 男女差

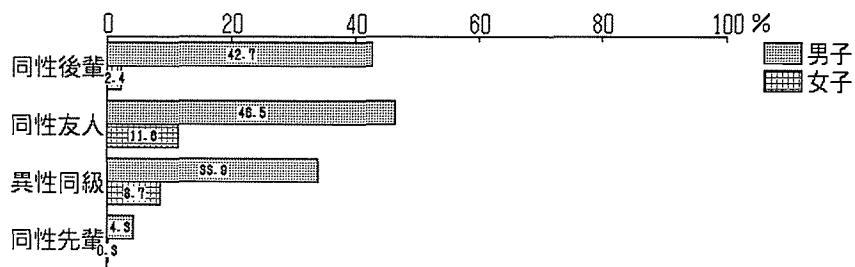
対称詞の男女差についてはすでに5.2.2.で言及したところもあるが、重複を避けつつおもなところを指摘する。

軽い敬意を含む「キミ」は日本語の対称代名詞の代表格のひとつと言えるが、学校生活における実際の使用者率は低い。ただし、数値が低い中でも男女差が認められ、女子よりも男子で使用者率が高い。〈東京中学〉の場合を示したのが本文図5-58である。[同性先輩]に対しては「キミ」はほとんど使われない。



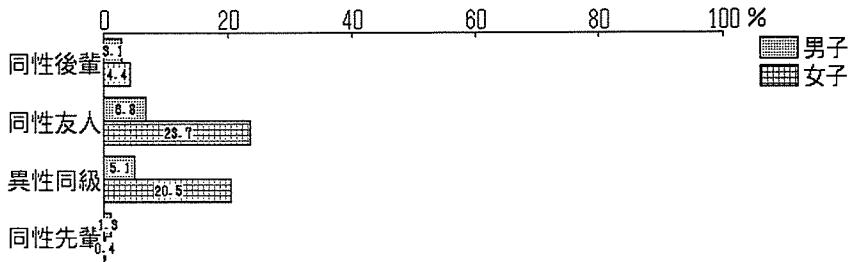
本文図 5-58 「キミ」の相手別使用者率の男女比較 [東京中学]

これに対しそんざいな表現である「オマエ」と「アンタ」は、「オマエ」の使用は主として男子、逆に「アンタ」の使用は主として女子という違いが、地域を問わず認められる。また、男子の「オマエ」は[同性後輩][同性友人]など主として同性間で多いのに対し(ただし〈東京中学〉では[異性同級]に対する使用もやや多い)、女子の「アンタ」は[同性友人][異性同級]など主として同学年間で多いという用法の違いも多少ある。〈東京中学〉の場合を示すと本文図5-59・60のとおりである。

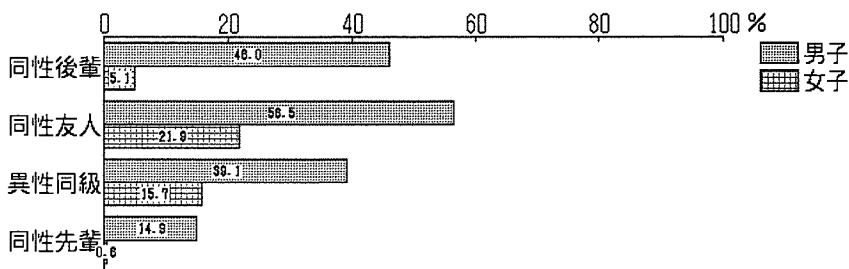


本文図 5-59 「オマエ」の相手別使用者率の男女比較 [東京中学]

〈山形中学〉の方言形「ワ」「ワネ」の使用は男子に大きく傾く。本文図5-61はこのうち「ワ」について男女を比較して示したものである。同じく方言形であるが男女差が比較的小さい「オメ」(本文図5-57)と対照的である。この「ワ」「ワネ」は、目上である[同性先輩]に対する使用者率は低く、[同性友人]を中心に使用されるぞんざいな表現である。共通語で言えばちょうど「オマエ」に相当する(本文図5-59を参照)。

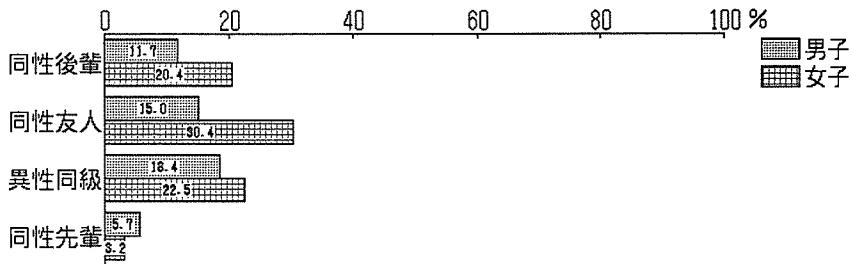


本文図 5-60 「アンタ」の相手別使用者率の男女比較 [東京中学]



本文図 5-61 「ワ」の相手別使用者率の男女比較 [山形中学]

「ジブン」を対称詞として用いるのは〈大阪高校〉にほぼ限定されるが、先に言及したように、その使用は男子よりも女子に多い(本文図 5-62)。[同性友人]を中心を使われ、[同性先輩]に対する使用は少ない。

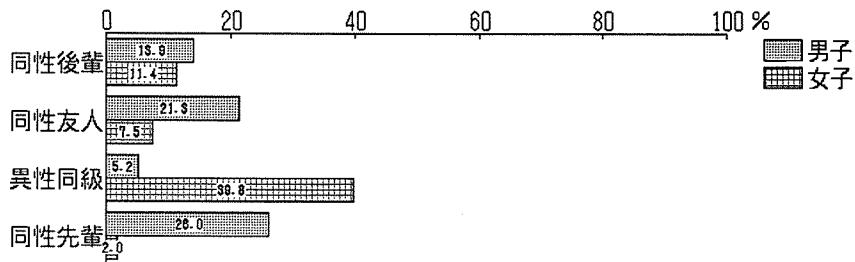


本文図 5-62 「ジブン」の相手別使用者率の男女比較 [大阪高校]

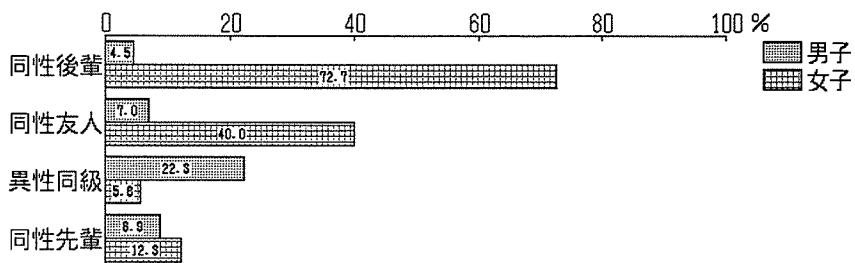
非代名詞については、語形をこまかく分けて調査した〈東京中学〉〈東京高校〉での調査結果によると、男女差について次の点が指摘できる。

「姓+クン」は、そもそも男子同士の間で軽い敬意と親しみを含む表現として用いられ始めたものであるが、本文図 5-63 (〈東京中学〉の場合) で示すように、現在ではむしろ女子が男子 ([異性同級]) に対し用いる表現という面が強い。男女共用を越えてむしろ女子中心の表現に移りつつある。

「姓+サン」は、本文図 5-64 (〈東京中学〉の場合) で示すように、おもに女子が目上以外の女子 (とりわけ [同性友人]) よりも距離を置くと考えられる [同性後輩]) に対し用いる表現となっている。男子から女子 ([異性同級]) に対しても用いられてはいるが、それ以上に女子同士が使う表現となっている。なお、女子はかつて、同級生の男子に対しても「姓+サン」を用いるのが規範的とされていたようだが、現在における使用は極めて少ない。



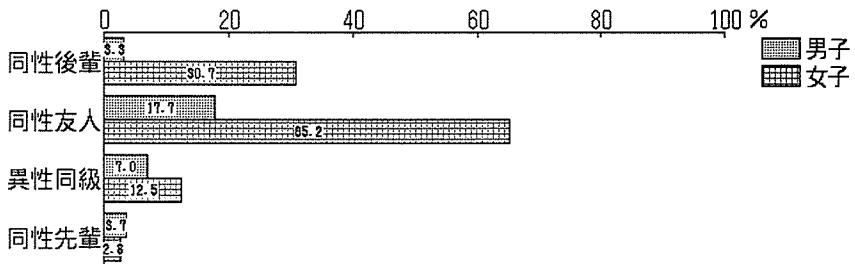
本文図 5-63 「姓+クン」の相手別使用者率の男女比較 [東京中学]



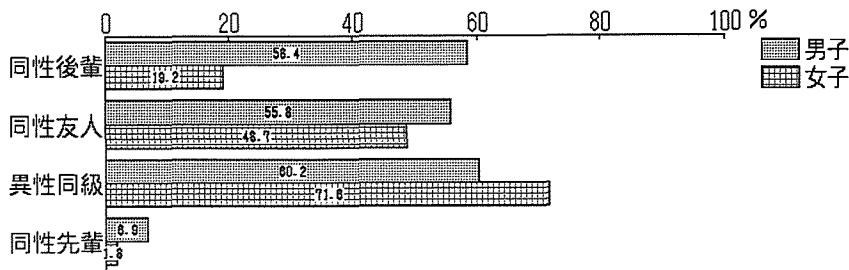
本文図 5-64 「姓+サン」の相手別使用者率の男女比較 [東京中学]

結局、「クンづけ」「サンづけ」とともに、おもに女子が、同等以下の者に対し用いるという傾向が見られる（男子へは「クンづけ」、女子へは「サンづけ」）。「名+チャン」にもこれと似た傾向が認められる（相手は女子；本文図 5-65 参照）。なお、本調査では、目上の生徒としては、「センパイ」が用いられやすい「部（クラブ）活動の先輩」に限定したために「サンづけ」の数値が小さくなつた可能性もある。それ以外の上級生に対する場合は、もう少し「サンづけ」が使われているかもしれない。

これに対し「姓呼捨て」は、以前は使用者は男子に傾いていたと考えられるが、現在では女子も、[同性友人] や [異性同級] といった同学年に対してであれば、ごく普通に用いている（高校生よりも中学生でより一般的）。〈東京中学〉の場合を示すと本文図 5-66 のとおりである。



本文図 5-65 「名+チャン」の相手別使用者率の男女比較 [東京中学]



本文図 5-66 「姓呼捨て」の相手別使用者率の男女比較 [東京中学]

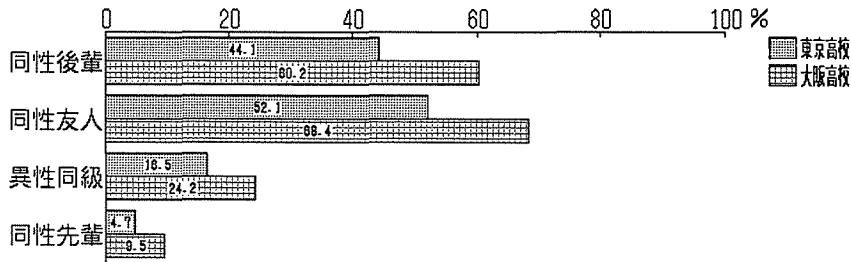
5.2.4. 地域差

地域差についても先に言及したところがあるが、重複を避けつつおもなところを指摘する。なお、特に非代名詞の選択肢などが、〈東京中学〉〈東京高校〉と〈大阪高校〉〈山形中学〉とで大きく異なるため、単純な比較が難しい面がある。

まず、大きく代名詞対非代名詞という対比で概観すると、先の自称詞の場合と異なり、全般的にどの地域でも非代名詞の方が優勢である。ただし〈山形中学〉の男子の場合はむしろ代名詞の方が優勢であり、男子において一部地域差が見られる。

次に、代名詞と非代名詞それぞれについて見てみると、次のことが指摘できる。

まず代名詞について言えば、男子はいずれの地域でも「オマエ」の系列（山形では「オメ」）が優勢であり「キミ」の使用は少ない。一方女子は、いずれの地域でも「アンタ」が優勢である。大阪では「ジブン」、山形では「ワ」の系列といった方言形が、男女いずれもさらに追加されるが、こうした方言形を除く共通語形の使用について言えば、男女いずれも全般的に地域差は大きくない。なお、東京と大阪を比べると、男子の「オマエ」にしても女子の「アンタ」にしても、大阪の方が使用者率が高い（男子の「オマエ」については本文図 5-67、女子の「アンタ」については前出の本文図 5-54 を参照）。つまり、「オマエ」と「アンタ」の男女差は東京よりも大阪の方がより大きく、対称代名詞の使用の性差がより鮮明であると言える。



本文図 5-67 「オマエ」の相手別使用者率の地域比較 [男子]

一方非代名詞について言えば、選択肢が異なり地域間の比較がしにくい面があるが、おおよそ次のような傾向が認められる。

〔同性先輩〕に対しては、男女ともに、どの地域でも「センパイ」の使用が大変多い。〈大阪高校〉〈山形中学〉では「センパイ」を選択肢としなかったが、「その他」の書き込みで大きな割合を占めていることから、東京と同様の傾向が推測される。

それ以外の〔同性後輩〕〔同性友人〕〔異性同級〕といった相手に対しては、男子は「姓」(特に「姓呼捨て」)が全般的に多い。ただし、〈山形中学〉はむしろ「名」が主体であり、この点地域差が多少認められる。これに対し女子は、さまざまな表現がよく使われ、特定の表現への片寄りがどの地域でも男子ほど大きくなないが、やはり〈山形中学〉では「名」に傾く傾向がある。つまり、「姓」対「名」という対比で見た場合、山形は「名」でありそれ以外の地域は「姓」という、ゆるやかな地域差が認められそうだ。

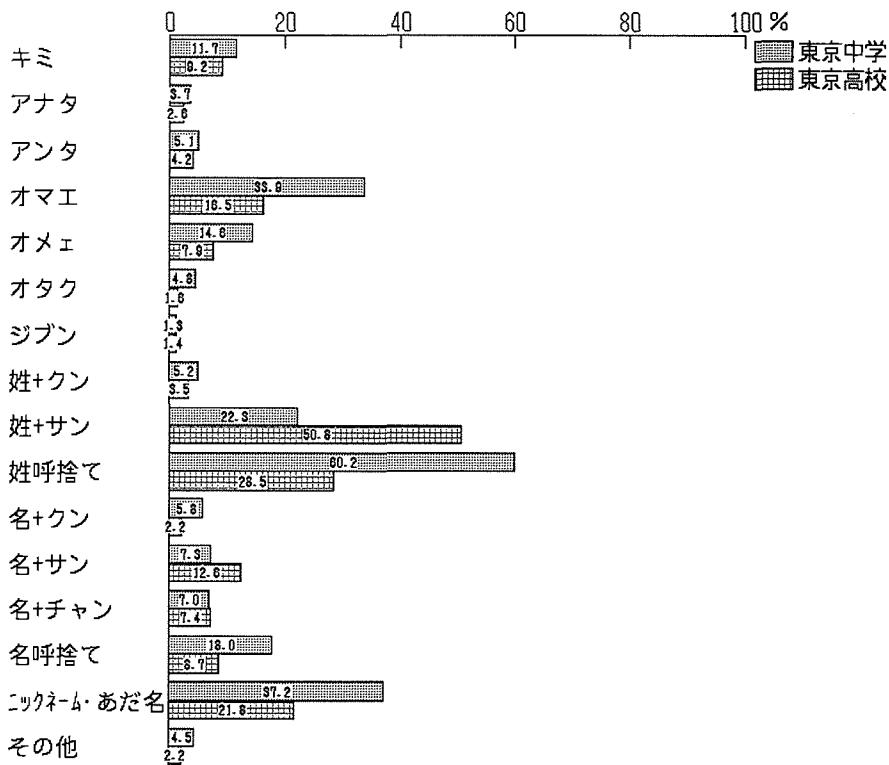
5.2.5. 中高生差

自称詞でも言及したように、同一地域で中学と高校を調査したのは東京のみであるので、東京での中高生差を指摘する。

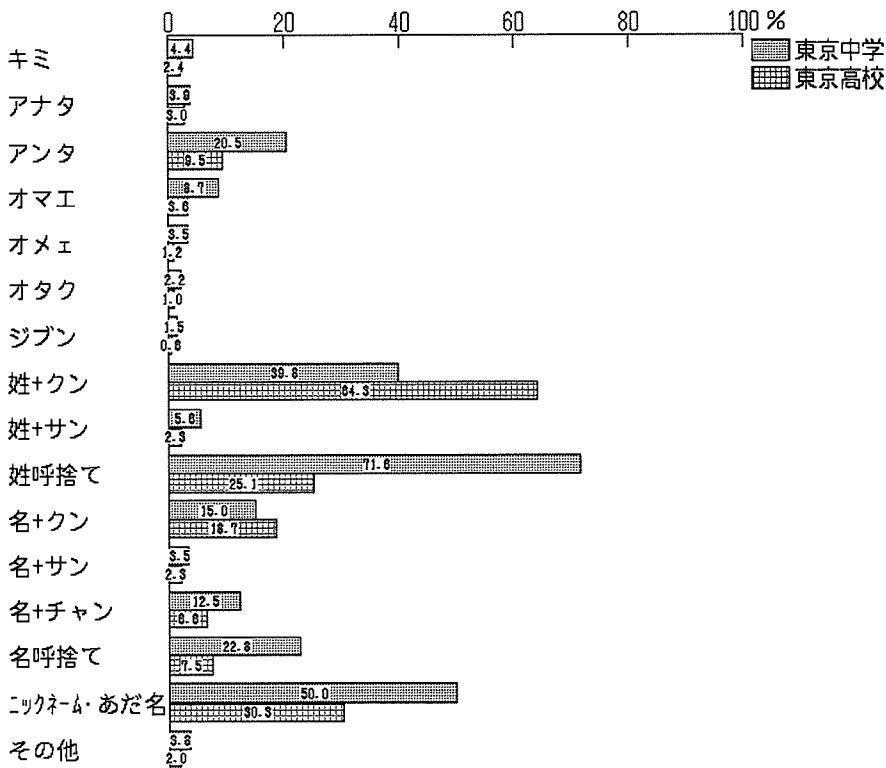
対称詞の場合も、自称詞と同様に中高生差は男女とも全体としてそれほど大きくなない。特に男子の〔同性後輩〕に対する場合はほとんど同じと言ってよい。

ただし、データを少しこまかく観察すると、比較的大きな違いもいくつか認められる。特に相手が〔異性同級〕の場合に、男女ともに中高生差が大きい部分がある。高校生の場合、男子校・女子校に在席する回答者が2割近く含まれており、その生徒たちには〔異性同級〕の場面での回答を求めなかつたということも影響しているが、それ以上の違いがある部分もある。

本文図5-68は男子について、本文図5-69は女子について、中学生と高校生を比較して示したものである。



本文図5-68 [異性同級]に対する対称詞の中高生比較 [男子]



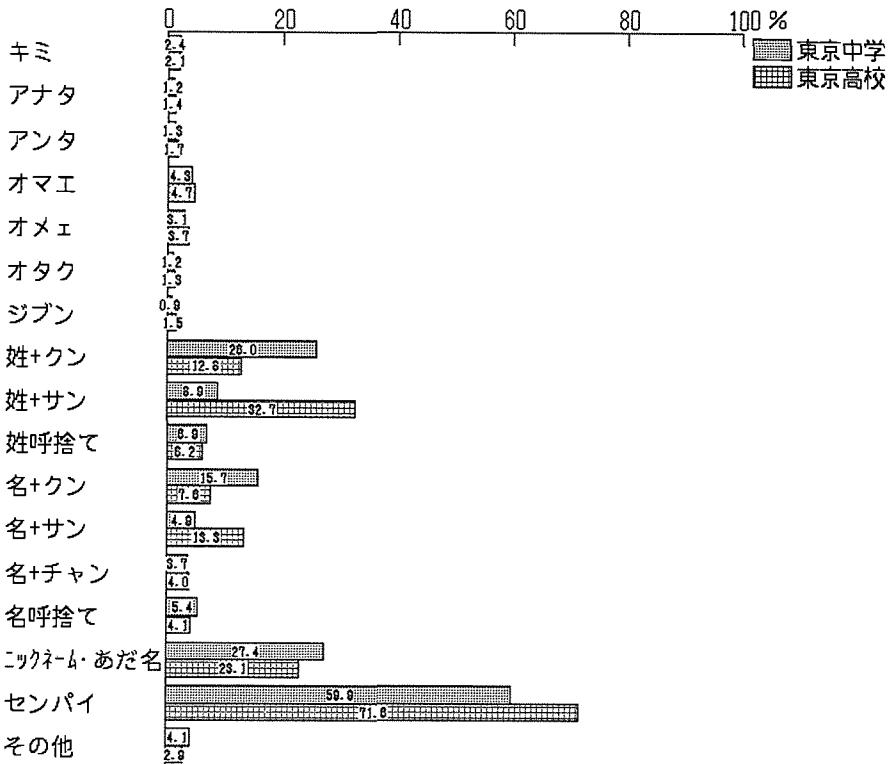
本文図 5-69 [異性同級]に対する対称詞の中高生比較〔女子〕

男子の場合、高校生よりも中学生で数値が大幅に高い表現は「オマエ」「姓呼捨て」「ニックネーム・あだ名」であり、逆に高校生で数値が大幅に高い表現は「姓+サン」である。女子の場合も、高校生より中学生で数値が大幅に高い表現は「姓呼捨て」「ニックネーム・あだ名」であり、逆に高校生で数値が大幅に高い表現は「姓+クン」である。「姓+サン」と「姓+クン」の中高差は、共学校のみを取り出して比較するとさらに広がる。中学生と比べ高校生は、男女いずれも、異性に対しては距離を置く表現にやや傾くようである。この違いを、中学生→高校生という方向で読み成人化の反映を見るべきか、それとも高校生→中学生という方向で読み言語使用の変化（より接近した対人関係への変化）の反映を見るべきか、判断が難しい。継続調査による解明が望まれる。

男子の場合、[同性先輩]に対しても多少中高生差が認められる部分がある。本文図 5-70によれば、「姓+クン」は高校生よりも中学生に、逆に「姓+サン」は中学生よりも高校生に多い。これについては、「姓+サン」の衰退および「姓+クン」の普及という言語変化というよりも、男子であっても年上の男性をサンづけで呼ぶという成人化が反映している部分が大きいと推測される。

5.2.6. 各表現が持つ待遇表現としての機能負担量

最後に、各表現が持つ待遇表現としての機能負担量について、表現間での異同や、地域間や男女間での異同を総合的に分析する。機能負担量の数値は、自称詞と同様、4場面での使用者率の「標準偏差」（=4場面の使用者率の平均値からの隔たりの平均）により求めた。なお、自称詞の場合は、話し相手が変わることにより、言及対象である自分自身の属性が変わることがあることから、数値の違いは話し相手に対する待遇の違いの反映と見ることができる。これに対し対



本文図 5-70 [同性先輩]に対する対称詞の中高生比較 [男子]

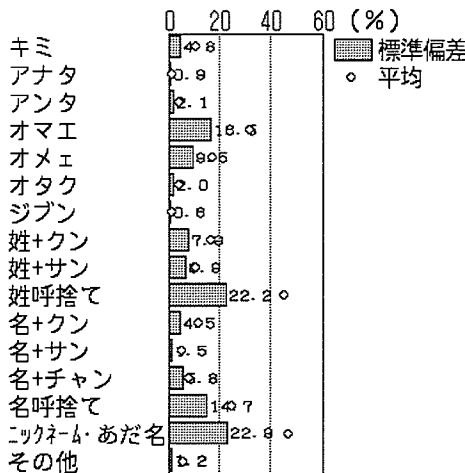
称詞は、話し相手が変わると、言及対象である相手の属性が変わることがありうる。たとえば相手の性別が異なれば言及対象の性別も当然異なってくる。そのため、対称詞の場合は、純粋に敬意にもとづく違いだけでなく、相手の性別にもとづく“待遇”的な違いも混在していることになるので、データを読む際には注意を要する。特に非代名詞のクンづけ・サンづけは、相手の性別にもとづいて使い分けられる面が小さくない。

本文図 5-71～74 は男子について、本文図 5-75～78 は女子について、各表現が持つ待遇表現としての機能負担量をグループごとに示したものである。

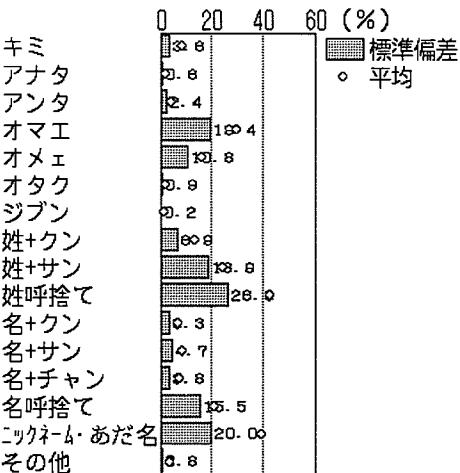
まず男子の結果を見ると、代名詞で平均値がある程度あり機能負担量が大きな表現としては「オマエ」の系列（山形では「オメ」）がある。山形の場合はさらに方言形の「ワ」「ワネ」が加わる。一方非代名詞では、東京の場合、「姓呼捨て」「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」の機能負担量が高い。〈東京高校〉ではさらに「姓+サン」が加わるが、これについては相手の性別が影響している部分が少なくないだろう。東京と選択肢が異なる大阪・山形での「姓」と「名」は、平均値こそ異なるが、機能負担量は両者大差がない。回答者が、呼捨てやサンづけなど、場面により可能な表現をさまざまに想定したためであろう。

これに対し女子は、代名詞で平均値がある程度あり機能負担量が大きな表現としては「アンタ」がある。ちょうど男子の「オマエ」の系列に相当する表現として、女子の間で大きく機能している。大阪ではさらに「ジブン」、山形では「オメ」「ワ」が加わる。一方非代名詞では、東京の場合さまざまな表現で数値が高いが、相手の性別が大きく影響していると考えられるサンづけ・クンづけの表現を除いたところでは、「姓呼捨て」「名呼捨て」「名+チャン」「ニックネーム・あだ名」の数値

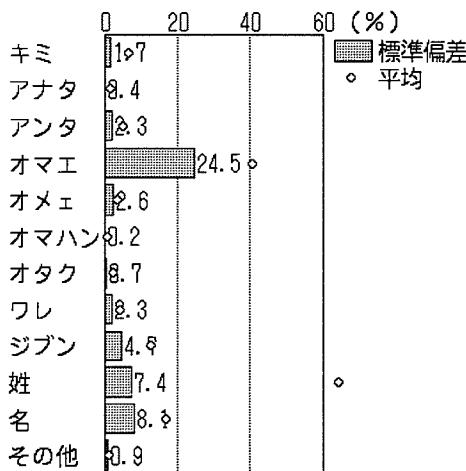
が高い。「名+チャン」が加わる点が男子と異なる。東京と選択肢が異なる大阪・山形では、「名」の数値の高さが注目される。女子の間で「名」で呼ぶ・呼ばないは、男子以上に、待遇表現として（近しさの表現として）積極的に機能しているようである。



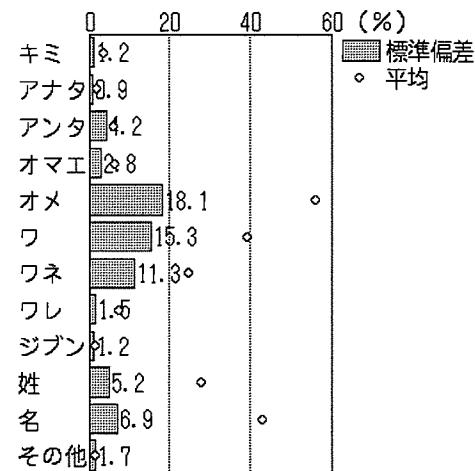
本文図 5-71 対称詞の場面別使用者率
の平均と標準偏差
[東京中学・男子]



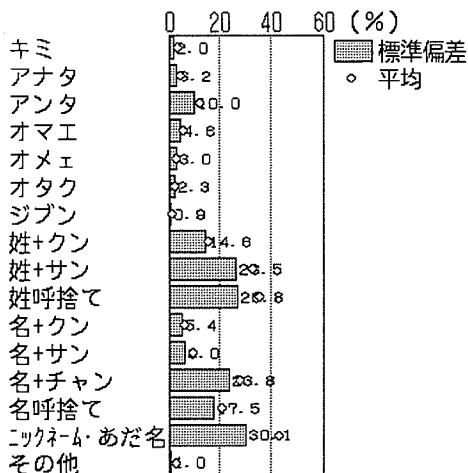
本文図 5-72 対称詞の場面別使用者率
の平均と標準偏差
[東京高校・男子]



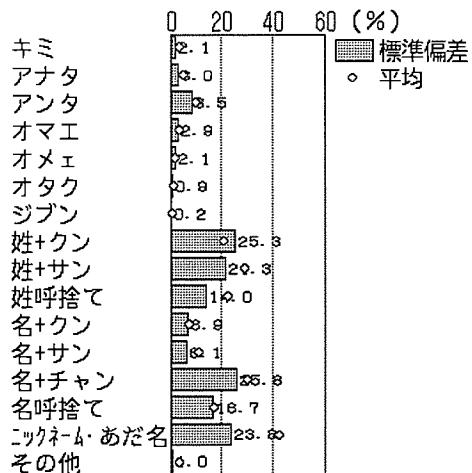
本文図 5-73 対称詞の場面別使用者率
の平均と標準偏差
[大阪高校・男子]



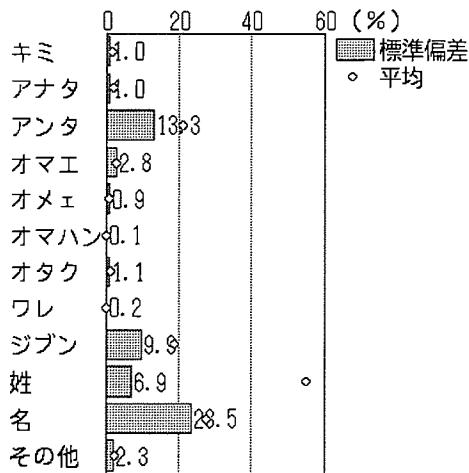
本文図 5-74 対称詞の場面別使用者率
の平均と標準偏差
[山形中学・男子]



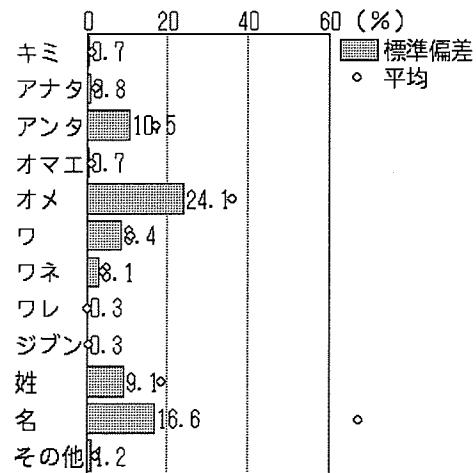
本文図 5-75 対称詞の場面別使用者率
の平均と標準偏差
[東京中学・女子]



本文図 5-76 対称詞の場面別使用者率
の平均と標準偏差
[東京高校・女子]



本文図 5-77 対称詞の場面別使用者率
の平均と標準偏差
[大阪高校・女子]



本文図 5-78 対称詞の場面別使用者率
の平均と標準偏差
[山形中学・女子]

5.3. 対称詞(2)一相手からの呼ばれ方

対称詞は、言うまでもなく、相手に言及する表現である。そうであれば、前節のように「回答者が相手をどう呼んでいるか」という観点からのほかに、「回答者は相手からどう呼ばれているか」という観点からの調査も成り立つ。この、ほかでもない自分自身が他者からどう表現されるか、どう待遇されるかは、「そう呼ばれて嬉しい」とか「そう呼ばれて心理的距離を感じる」などといった受け止め方(評価)の対象にもなりやすい。本章の冒頭でも述べたように、ひとたび実現された発話は、会話の参加者(特に直接の受け手)に大なり小なり何らかの影響を及ぼしていくのが私たちの

言語生活の現実である。とりわけ聞き手に直接向けられた発話はそういう面が強いが、今話題にしている対称詞は、まさに相手のことにつき、相手に直接向けられた表現である。

そこで、こうした観点からの組織的な調査の試みとして、「相手からどう呼ばれているか」、また「それをどう評価しているか」という質問を行なった。なおこの項目は、〈東京中学〉と〈東京高校〉でのみ調査した。

回答者に想定させた「自分を呼ぶ人物」は、「生徒」と「担任」の2種とした。つまり、生徒間および生徒と教師間での対称詞の使用に関する評価を見ようとしたのである。このうち「担任」は、回答者にとって特定できる人物である。それに対し「生徒」の方は何人もいるため特定されない。回答者に向けて使われる表現やその評価も、相手の生徒によりさまざまであることが予想される。そこで、全体の平均的な実態を把握し、かつ相手も特定させるべく、想定する相手を「クラスメートで出席番号が回答者のすぐ前の同性のともだち」と指定した（本報告書では便宜的に【同性同級】と呼ぶ）。出席番号が接近しているとおのずと親密な関係になる場合が少なくなく「平均的」とは言い難いかもしれないが、相手を特定する必要からこのような措置をとった。従って「生徒」の方の回答で得られた数値は、平均（同性間の平均）よりも親密な関係の相手に多少傾いているかもしれない。なお、「担任」は人物の「特定」はできるものの、対称詞の使用において重要な要因となる年齢層や性別などの属性面での「固定」はなされていない。つまり、想起させた「担任」の属性は回答者によりさまざまであり、そうした限界が今回のデータには伴う。

「評価」についてもさまざまな観点がありうるが、この調査では、最も原初的反応でかつ回答者にも評価してもらいやすいと考えられる「好悪」の観点から調査した。

具体的な質問文と選択肢は次のとおりである。本書の末尾の「資料2」として掲げた〈東京中学〉の調査票では「II.14.」が該当する。

想定させた話し相手は、先に述べたように、【同性同級】と【担任】である。それぞれの相手から実際「どう呼ばれているか」と、「その呼ばれ方をどう受け止めているか」という2つの事項について、掲げた語形全てに○か×（か△）を付けさせた。

【〈東京中学〉〈東京高校〉】

逆に、ともだちや先生からはあなたは何と呼ばれていますか。

- (1) クラスマートで出席番号があなたのすぐ前の同性のともだちを思い浮かべてください。そのともだちはあなたは何と呼ばれていますか。呼ばれているものには○、呼ばれていないものには×を、全部につけてください。

なおあなたの出席番号が一番先頭の場合には、出席番号がすぐ後ろの同性のともだちのことを考えてください。

- 1. キミ 2. アナタ 3. アンタ 4. オマエ 5. オメエ
- 6. オタク 7. ジブン 8. 姓+クン 9. 姓+サン 10. 姓を呼びすて
- 11. 名+クン 12. 名+サン 13. 名+チャン 14. 名を呼びすて
- 15. ニックネーム・あだ名 16. その他（ ）

- (2) ではあなたとしては、そのともだちから何と呼ばれるのが好きですか。好きな呼ばれ方には○、きらいな呼ばれ方には×、どちらでもない呼ばれ方には△を、全部につけてください。実際に呼ばれていない言い方についても、もしそのともだちから呼ばれるしたらということで考えてください。

（選択肢は同上）

- (3) それでは担任の先生からは何と呼ばれていますか。呼ばれているものには○、呼ばれていないものには

×を、全部につけてください。

(選択肢は同上)

- (4) あなたとしては、担任の先生からは何と呼ばれるのが好きですか。好きな呼ばれ方には○、くらいな呼ばれ方には×、どちらでもない呼ばれ方には△を、全部につけてください。実際に呼ばれていない言い方についても、もし呼ばれるとしたらということで考えてください。
- (選択肢は同上)

結果は資料表 5-3-1-a および資料図 5-3-1-a 以下のとおりであった。

5.3.1. 全体的概観

「呼ばれ方」という観点から対称詞を見た場合も、学校生活の中で東京の中学生・高校生が〔同性同級〕や〔担任〕からよく呼ばれる表現となると種類は限定される。

男子が実際によく呼ばれる表現（資料表・資料図では「呼ばれ方の実際」の方の図表を参照）は「オマエ」「姓+クン」「姓呼捨て」「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」であり、呼ばれて「好き」または「中立」（好きでも嫌いでもない）と感じる表現（資料表・資料図では「呼ばれ方の好悪」の方の図表を参照）も、代名詞「オマエ」を除けばほぼこれと同じである。全体としては、おおむね、呼ばれて嫌いでない表現で実際に呼ばれていると言えそうだ。

一方女子の場合、実際によく呼ばれる表現は「姓+サン」「姓呼捨て」「名+チャン」「ニックネーム・あだ名」であり、呼ばれて「好き」または「中立」と感じる表現もこれとほぼ同じで、〔同性同級〕でさらに「名呼捨て」が加わる。女子についても、全体として、おおむね、呼ばれて嫌いでない表現で実際に呼ばれていると言えそうだ。

以下では調査結果をさらに詳しく見ていく。

5.3.2. 中高別・男女別による概観

(1) 〈東京中学〉の男子

〔同性同級〕からの呼ばれ方の実際は資料図 5-3-1-a のとおりである。

数値が最も高いのは「ニックネーム・あだ名」の6割、次いで「姓呼捨て」の4割、さらに「オマエ」「名呼捨て」の2割と続く。前節の「相手の呼び方」でこの場面に最も近いのは、資料図 5-2-1-b の〔同性友人〕であるが、その「使う」の数値と比べると、「呼ばれる」の数値は、全体的にそれを縮小したような状況になっている。「相手の呼び方」の設問では想定する「友人」は複数ありえたのに対し（つまり友人Aを「オマエ」と呼ばなくとも友人Bをそう呼べば回答は「使う」となる）、「相手からの呼ばれ方」は特定の一人に限定したため、こうした現象が起きる。ただし、数値自体はこのように異なるものの、語形間の張り合い関係は両者おおむね平行的であり、その点において、「呼ばれ方」の設問からも、全体の縮図のある側面がとらえられたと言える。

資料図 5-3-1-b は、〔同性友人〕から各表現で呼ばれることの好悪についての結果である。選択肢は「好き」「中立」「嫌い」の3つである。実際に呼ばれていない表現があった場合は、もし呼ばれるとしたらどうか、ということで回答を求めた。

「好き」の数値に注目しながら結果を見ると、数値が最も高いのは「ニックネーム・あだ名」の6割、次いで「姓呼捨て」の3割、さらに「姓+クン」「名+クン」「名呼捨て」の2割と続く。「中立」という回答を加えた場合もこの序列は変わらない。基本的に、全体として〔同性友人〕から呼ばれ

ている表現ほど「好き」という関係がうかがえる。ただし、実際には2割の回答者が呼ばれている「オマエ」について、これを「好き」と積極的に評価する者は少ない。「オマエ」が実際に使われるのは、親密さを表わす場面よりもむしろ対立的な場面であるため、ということであろうか^(注1)。逆に「名+クン」は、実際の使用は1割にとどまるが、これを「好き」と積極的に評価する回答者は2割おり、「中立」まで含めると4割に達する。これと似た傾向は「姓+クン」にも認められる。つまりクンづけは、評価されるほどには実際に呼ばれていない表現ということになる。どのようなケースでもクンづけで呼ぶことが望ましいということではないが、呼ばれる本人が評価する表現で呼ばれることが相互関係を良好なものとするひとつの手段であるとすれば、状況によっては相互にもっと使われてよい表現かもしれない。

一方、[担任]からの呼ばれ方の実際は資料図5-3-1-cのとおりである。

数値が最も高いのは「姓呼捨て」の7割、次いで「姓+クン」の3~4割、さらに「オマエ」「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」の2割と続く^(注2)。すなわち、[同性同級]からは「ニックネーム・あだ名」が主体、[担任]からは「姓呼捨て」が主体という大きな傾向的な違いが見られる。「姓+クン」も、[同性同級]からよりも[担任]からに大きく傾く。立場や心理的距離の違い、あるいは各表現が使われやすい場面の違い（[担任]からは教室場面、[同性同級]からは教室場面以外が多い）が、こうした違いを生む要因として大きいものと思われる。

資料図5-3-1-dは、[担任]から各表現で呼ばれることの好悪についての結果である。

「好き」の数値に注目しながら結果を見ると、数値が最も高いのは「姓呼捨て」の4割、次いで「姓+クン」の3割、さらに「名+クン」「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」の2割と続く。「中立」を加えた場合もこの序列は変わらない。[担任]からの場合も、基本的に、全体としてそう呼ばれている表現ほど「好き」という関係がうかがえる。ただし、先の[同性同級]からの場合と同様、実際には2割の男子生徒が呼ばれている「オマエ」を「好き」と積極的に評価する者は少ない。実際の呼ばれ方と「好き」の間の比較的大きな格差は、[担任]からの場合は「姓呼捨て」にも認められる。生徒からにせよ教師からにせよ「オマエ」という表現は評価されず、さらに教師からの「姓呼捨て」も、実際呼ばれているほどには評価されていない傾向が見られる。

(2) <東京中学> の女子

[同性同級]からの呼ばれ方の実際は資料図5-3-2-aのとおりである。

数値が最も高いのは「ニックネーム・あだ名」の5割、次いで「姓+サン」「名+チャン」の3~4割、さらに「姓呼捨て」「名呼捨て」の2割と続く。前節の「相手の呼び方」でこの場面に最も近いのは、資料図5-2-2-bの[同性友人]であるが、その「使う」の数値と比べると、「呼ばれる」の数値は、やはりそれを全体的に縮小したような状況になっている。ただし「姓+サン」の数値はそれほど変わりなく、相対的に他の表現より多くなっている。単に出席番号が隣り同士の[同性同級]は、[同性友人]と比べ、平均して心理的距離が少し開くためと考えられる。

資料図5-3-2-bは、[同性同級]から各表現で呼ばれることの好悪についての結果である。

「好き」の数値に注目しながら結果を見ると、最も数値が高いのは「ニックネーム・あだ名」の7割、次いで「名+チャン」「名呼捨て」の4割、さらに「姓+サン」「姓呼捨て」の3割と続く。「中立」を加えた場合も、この序列はほぼ変わらない。女子の場合も、全体として[同性友人]から呼ばれている表現ほど「好き」という関係がうかがえる。ただし、男子と異なり、親しさを表わすさまざまな表現において、「好き」の数値が「呼ばれる」の数値より大きくなっている点は注目され

る。つまり、呼んでくれたらうれしいけれども実際には呼ばれないという表現が、女子の場合多いということである。この格差が大きいものとしては「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」がある。状況によっては相互にもっと使われてよい表現かもしれない。

一方、[担任] からの呼ばれ方の実際は資料図 5-3-2-c のとおりである。

数値が最も高いのは「姓呼捨て」の 7 割、次いで「姓+サン」の 6 割と続く。男女とも [担任] からは「姓呼捨て」が最も多いが、男子はさらに「姓+クン」、女子はさらに「姓+サン」が多く、性別による違いもはっきりしている。また、女子の場合も、[同性同級] からは「ニックネーム・あだ名」が主体、[担任] からは「姓呼捨て」「姓+サン」が主体という傾向的な違いが認められる。

資料図 5-3-2-d は、[担任] から各表現で呼ばれることが好悪についての結果である。

「好き」の数値に注目しながら結果を見ると、数値が最も高いのは「姓+サン」の 6 割、次いで「姓呼捨て」の 4 割と続く。「中立」を加えた場合もこの序列は変わらない。全体として、実際そう呼ばれている表現ほど「好き」という関係が、ここでもうかがえる。ただし、7 割の女子生徒が実際呼ばれている「姓呼捨て」を「好き」と積極的に評価する者は 4~5 割にとどまる。男子と同様、教師からの「姓呼捨て」は積極的には評価されない傾向にある。

(3) <東京高校> の男子

[同性同級] からの呼ばれ方の実際は資料図 5-3-3-a のとおりである。

数値が最も高いのは「姓呼捨て」の 6 割、次いで「ニックネーム・あだ名」の 4 割、さらに「オマエ」「姓+クン」「名呼捨て」の 2 割と続く。中学生の男子が「ニックネーム・あだ名」が主体であったのに対し、高校生の男子は「姓呼捨て」が主体となる。高校生の男子も、[同性友人] に対してであれば（資料図 5-2-3-b 参照）、「ニックネーム・あだ名」は「姓呼捨て」とほぼ同じ数値であったことを考えると、子供の言語行動から成人のそれへの変化は、[同性友人] よりも出席番号が単に隣り同士といったような多少疎遠な関係から始まると言えそうだ。なお、前節の「相手の呼び方」でこの場面に最も近いのは、資料図 5-2-3-b の [同性友人] であるが、その「使う」の数値と比べると、「呼ばれる」の数値は、やはりそれを全体的に縮小したような状況になっている。ただし、「姓呼捨て」「姓+クン」の数値はそれほど変わりなく、相対的に他の表現より多くなっている。

資料図 5-3-3-b は、[同性同級] から各表現で呼ばれることが好悪についての結果である。

「好き」の数値に注目しながら結果を見ると、最も数値が高いのは「姓呼捨て」「ニックネーム・あだ名」の 5 割、さらに「姓+クン」「名呼捨て」の 3 割と続く。全体として呼ばれている表現ほど「好き」という関係がうかがえる。ただし、実際には 2~3 割の回答者が呼ばれている「オマエ」を「好き」と積極的に評価する者は、中学生の男子と同様、高校生の男子でも少ない。逆に「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」は、「呼ばれる」よりも「好き」が多い。状況によっては相互にもっと使われてよい表現かもしれない。

一方、[担任] からの呼ばれ方の実際は資料図 5-3-3-c のとおりである。

数値が最も高いのは「姓呼捨て」の 7 割、次いで「姓+クン」の 4 割、さらに「キミ」「オマエ」の 2 割と続く。[同性同級] [担任] いずれからも、高校生の男子は「姓呼捨て」が主体である。中学生の男子と比べると、「姓+クン」が減り「キミ」が増える。

資料図 5-3-3-d は、[担任] から各表現で呼ばれることが好悪についての結果である。

「好き」の数値に注目しながら結果を見ると、数値が最も高いのは「姓呼捨て」の 5 割、次いで「姓+クン」の 4 割と続く。ここでも、実際そう呼ばれている表現ほど「好き」という関係がうかがえる。

ただし、2割近くの男子生徒が実際に呼ばれている「オマエ」を「好き」と積極的に評価する者は少ない。同じような傾向は「姓呼捨て」にも見られる。

(4) 〈東京高校〉の女子

[同性同級] からの呼ばれ方の実際は資料図 5-3-4-a のとおりである。

数値が最も高いのは「姓+サン」「ニックネーム・あだ名」の4割、次いで「名+チャン」の3割、さらに「姓呼捨て」「名呼捨て」の2割弱と続く。前節の「相手の呼び方」でこの場面に最も近いのは、資料図 5-2-4-b の [同性友人] であるが、その「使う」の数値と比べると、「呼ばれる」の数値は、やはりそれを全体的に縮小したような状況になっている。ただし「姓+サン」の数値はむしろ増加しており、中学生の女子と似た傾向が認められる。

資料図 5-3-4-b は、[同性同級] から各表現で呼ばれることの好悪についての結果である。

「好き」の数値に注目しながら結果を見ると、最も数値が高いのは「ニックネーム・あだ名」の7割、次いで「名+チャン」「名呼捨て」の5割、さらに「姓+サン」「姓呼捨て」の3割と続く。「中立」を加えた場合も、この序列はほぼ変わらない。結果は中学生の女子とよく似ている。全体として [同性友人] から呼ばれている表現ほど「好き」という関係がここでもうかがえる。男子と異なり、親しさを表わすさまざまな表現で、「好き」の数値が「呼ばれる」の数値より大きくなっているのも、中学生の女子と同様である。この格差が大きいものとしては「名+チャン」「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」がある。中学生の女子以上に格差は大きい。状況によっては相互にもっと使われてよい表現かもしれない。

一方、[担任] からの呼ばれ方の実際は資料図 5-3-4-c のとおりである。

数値が高いのは「姓+サン」「姓呼捨て」の6割である。高校生においても、[担任] からは男女いずれも「姓呼捨て」で呼ばれることが最も多いが、男子は「姓+クン」、女子は「姓+サン」という性別による違いもはっきりしている。また、呼ばれる相手による違いということで言えば、[同性同級] からは「姓+サン」「名+チャン」「ニックネーム・あだ名」が主体、[担任] からは「姓+サン」「姓呼捨て」が主体という傾向的な違いが認められる。

資料図 5-3-4-d は、[担任] から各表現で呼ばれることの好悪についての結果である。

「好き」の数値に注目しながら結果を見ると、数値が最も高いのは「姓+サン」の6割、次いで「姓呼捨て」の4割と続く。「中立」を加えた場合もこの序列は変わらない。結果は中学生の女子とよく似ている。全体として、実際そう呼ばれている表現ほど「好き」という関係が、ここにもうかがえる。ただし、「姓呼捨て」を「好き」と積極的に評価する者は4割にとどまる。教師からの「姓呼捨て」は、これまで見た中学生の女子や高校生の男子と同様、積極的には評価されない傾向にある。

(5) まとめ

「呼ばれる」と「好き」とを比較して、「好き」の方が全般的に数値が小さい表現（つまり「よくそう呼ばれるけれどもあまりそう呼ばれたくない」と解釈できる表現）は次のとおりである。

まず、[担任] からの呼ばれ方で言えば、「姓呼捨て」は、中学生・高校生の違いや男女の違いを越えて「好き」の評価が実際の使用よりもやや低い。男子の場合は「オマエ」もこれと同様である。たとえば教師の側の「親しみの表現」としての表現意図が、生徒の側では「ぞんざいな表現」として受け止められているというような状況があるいはあるのかもしれない。一方、[同性同級] からの呼ばれ方で言えば、男子は「姓呼捨て」の評価、女子は「姓+サン」の評価が、それぞれ実際の使

用よりも低めである。

逆に、「呼ばれる」と「好き」とを比較して、「好き」の方がむしろ数値が大きい表現（つまり「あまりそう呼ばれていないけれどももっとそう呼ばれたい」と解釈できる表現）は次のとおりである。

まず、[担任]からの呼ばれ方について言えば、中学生・高校生は男女ともそうした表現は少ない。高校生の男女において、「ニックネーム・あだ名」にその傾向が多少見られる程度である。一方、[同性同級]からの呼ばれ方については、実際「呼ばれる」の数値より「好き」の数値の方が大きい表現はさまざまある。男子では「名+クン」「名呼捨て」「姓+クン」など、女子では「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」「名+チャン」「姓呼捨て」などがそれである。特に女子の場合は対人的距離の短い表現が目立つ。ちょうど「姓+サン」の評価が低めであったことの裏返しだ。女子の場合、[同性同級]とは、現状よりももう少し親密な関係を望んでいると言えるかもしれない。

5.3.3. 「呼ばれ方」の〈実際〉と〈評価〉の相互関係

以上の分析では、実際の「呼ばれ方」と「好悪」を特に関連づけせず、それぞれ独立のものとして見てきたのであったが、実際には両者はお互いに関連があると考えられる。そこで、その関連を見るべく、「呼ばれ方」と「好悪」をクロス集計して示したのが資料表 5-3-5-a および資料図 5-3-5-a 以下である。

(1) 〈東京中学〉の男子

資料図 5-3-5-a は、[同性同級]から各表現で実際に呼ばれている回答者について、それをどう評価しているかをまとめたものである。「好き」の数値が高い順に配列した。各表現の直後に示した数値は、その表現で実際に呼ばれている回答者の人数である。この数値が低い表現は、構成比の数値も安定性が低い可能性があるので注意を要する。なお「NN あだ名」の「NN」は「ニックネーム」の意味である。

「好き」と「嫌い」の張り合い関係に注目しながら結果を見てゆくと、[同性同級]から実際に呼ばれて「好き」に最も傾く表現は「ニックネーム・あだ名」である。これに「名+クン」「姓+クン」「名+チャン」「姓呼捨て」「名呼捨て」などが続く。逆に、該当者数がある程度以上あり、実際に呼ばれて「嫌い」に傾く表現には「オメエ」「オマエ」がある。該当者数は少ないが、日本語の代表的な代名詞で丁寧度もある程度ある「アナタ」は大きく「嫌い」に傾く。丁寧さとともにこの表現に含まれる心理的距離感が、おそらくその要因として大きいのであろう。「キミ」は、「アナタ」ほど否定的評価に傾くことはないが、しかしその逆でもなく、評価は分れる。総じて日本語の代名詞は、該当者数が少なめの表現まで含め、[同性同級]の男子の間で積極的に評価されるものは少ない。

資料図 5-3-5-b は、[同性同級]から各表現で実際には呼ばれていない回答者について、もしそう呼ばれるとしたらどう評価するかをまとめたものである。全般的に「嫌い」の数値が高く、その表現で実際呼ばれない回答者はその表現が「嫌い」という傾向が見られる。消極的な形で、良好な言語使用が多くの場合なされていると言える。ただし、「ニックネーム・あだ名」の「好き」が3割もいる点は注目される。「姓+クン」も「好き」が2割ほどいる。こうした表現は、状況によってはお互にもっと使われてよい表現かもしれない。

資料図 5-3-5-c は、[担任]から各表現で実際に呼ばれている回答者について、それをどう評価しているかをまとめたものである。「好き」と「嫌い」の張り合い関係に注目しながら結果を見てゆくと、[担任]から実際に呼ばれて「好き」に大きく傾く表現としては「名+クン」「姓+クン」「ニック

ネーム・あだ名」「姓呼捨て」「名呼捨て」などがある。逆に、該当者数がある程度以上あり、実際呼ばれて「嫌い」に傾く表現には「アンタ」「オメエ」「オマエ」「アナタ」などがある。ここでも「キミ」は評価が分れる。[担任]からの場合も、総じて代名詞は、男子の間で積極的に評価されるものは少ない。

資料図 5-3-5-d は、[担任]から各表現で実際に呼ばれていない回答者について、もしそう呼ばれるとしたらどう評価するかをまとめたものである。ここでも全般的に「嫌い」の数値が高く、その表現で実際呼ばれない回答者はその表現が「嫌い」という傾向が見られる。やはり消極的な形で、良好な言語使用が多くの場合なされていると言える。

(2) 〈東京中学〉の女子

資料図 5-3-6-a は、[同性同級]から実際に呼ばれてどう評価しているかである。「好き」に最も傾く表現は「ニックネーム・あだ名」であり、そう呼ばれるほとんどの回答者が「好き」と回答している。この表現に関しては、極めて良好な言語使用がなされていると言える。「名+チャン」「名呼捨て」も「好き」の数値が高く、さらに「姓呼捨て」「姓+サン」と続く。逆に、該当者数がある程度以上あり、実際呼ばれて「嫌い」に傾く表現には「アナタ」「アンタ」「オマエ」「オメエ」がある。女子の場合も、[同性同級]の間で積極的に評価される代名詞は少ない。

資料図 5-3-6-b は、[同性同級]から各表現で実際に呼ばれていない回答者に対し、もしそう呼ばれるとしたらどう評価するかを尋ねたものである。

男子と同様、全般的に「嫌い」の数値が高く、その表現で実際呼ばれない回答者はその表現が「嫌い」という傾向が見られる。ただし、「ニックネーム・あだ名」の「好き」が5割にまで達している点、そして「名呼捨て」「名+チャン」も3割いる点は注目される。いずれも心理的距離の短い表現であるが、女子の場合、[同性同級]からは期待以上に距離を置かれた表現で呼ばれることが少なくない。状況によっては、これらは相互にもっと使われてよい表現かもしれない。

資料図 5-3-6-c は、[担任]から各表現で実際に呼ばれている回答者がそれをどう評価しているかである。最も「好き」に傾く表現は「姓+サン」であり、そう呼ばれている回答者の8割が「好き」と回答している。この表現に関しては、極めて良好な言語使用がなされていると言える。「ニックネーム・あだ名」「姓呼捨て」「名+サン」「名+チャン」「名呼捨て」も「好き」の数値が高い。逆に、該当者数がある程度以上あり、実際呼ばれて「嫌い」に傾く表現には、男子と同様「アンタ」「オマエ」「オメエ」「キミ」などがある。総じて代名詞は、ここでも積極的に評価されるものは少ない。

資料図 5-3-6-d は、[担任]からもしそう呼ばれるとしたらどう評価するかである。ここでも全般的に「嫌い」の数値が高く、その表現で実際呼ばれない回答者はその表現が「嫌い」という傾向が見られる。ただし、「姓+サン」の「好き」が3割近くいる点は注目される。状況によっては「姓+サン」は、[担任]から女子生徒に対しもっと使われてよい表現かもしれない。

(3) 〈東京高校〉の男子

資料図 5-3-7-a は、[同性同級]から実際に呼ばれての評価である。「好き」に最も傾く表現は「ニックネーム・あだ名」である。「名呼捨て」「姓呼捨て」「姓+クン」も「好き」の数値が高い。逆に、該当者数がある程度以上あり、実際呼ばれて「嫌い」に傾く表現には「アンタ」「オメエ」「オマエ」「名+クン」がある。中学生の男子と共に部分が多い。

資料図 5-3-7-b は、[同性同級]からもしそう呼ばれるとしたらどう評価するかである。呼ばれな

い表現は全般的に「嫌い」の数値が高い。ただし、「ニックネーム・あだ名」「姓呼捨て」の「好き」が3割前後いる点は注目される。いずれも心理的距離の短い表現である。状況によってはこうした表現は、相互にもっと使われてよいかもしれない。

資料図5-3-7-cは、[担任]から実際に呼ばれての評価である。「好き」に大きく傾く表現は「姓+クン」「姓呼捨て」で、さらに「姓+サン」「名+クン」「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」などが続く。逆に、該当者数がある程度以上あり、実際呼ばれて「嫌い」に傾く表現には「オメエ」「アンタ」「オマエ」などがある。「キミ」「アナタ」は評価が分れる。中学生の男子と共に通する部分が多い。

資料図5-3-7-dは、[担任]から各表現で実際に呼ばれていない回答者について、もしそう呼ばれるとしたらどう評価するかをまとめたものである。全般的に「嫌い」の数値が高く、その表現で実際呼ばれない回答者はその表現が「嫌い」という傾向がやはり認められる。ただし、「姓+クン」「姓呼捨て」の「好き」が2割ほどいる点は注目される。状況によっては[担任]からもっと使われてよい表現かもしれない。

(4) <東京高校> の女子

資料図5-3-8-aは、[同性同級]から実際に呼ばれての評価である。「好き」に大きく傾く表現は「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」「名+チャン」であり、そう呼ばれるほとんどの回答者が「好き」と回答している。これらの表現に関しては、極めて良好な言語使用がなされていると言える。「姓呼捨て」がさらにこれらに続く。逆に、該当者数がある程度以上あり、実際呼ばれて「嫌い」に傾く表現には「アンタ」「オマエ」がある。中学生の女子と共に通する部分が多い。

資料図5-3-8-bは、[同性同級]からもしそう呼ばれるとしたらどう評価するかである。全般的に「嫌い」に傾くが、そうではない部分も少なくない。特に「ニックネーム・あだ名」の「好き」は5割にまで達している。また、「名呼捨て」「名+チャン」も4割いる。中学生の女子以上に数値が高い。いずれも心理的距離の短い表現であるが、状況によっては、こうした表現は相互にもっと使われてよいかもしれない。

資料図5-3-8-cは、[担任]から各表現で実際に呼ばれての評価である。「好き」に大きく傾く表現は「姓+サン」「ニックネーム・あだ名」であり、そう呼ばれている回答者の8割が「好き」と回答している。この表現に関しては、極めて良好な言語使用がなされていると言える。「姓呼捨て」「名+サン」「名+チャン」も「好き」の数値が高い。逆に、該当者数がある程度以上あり、実際呼ばれて「嫌い」に傾く表現には、男子と同様「オマエ」などがある。中学生の男子と共に通する部分が多い。

資料図5-3-8-dは、[担任]からもしそう呼ばれるとしたらどう評価するかである。やはり全般的に「嫌い」の数値が高い。ただし、「姓+サン」の「好き」は、中学生の女子以上に多く、3~4割いる点は注目される。状況によっては、[担任]から女子生徒に対しもっと使われてよい表現かもしれない。

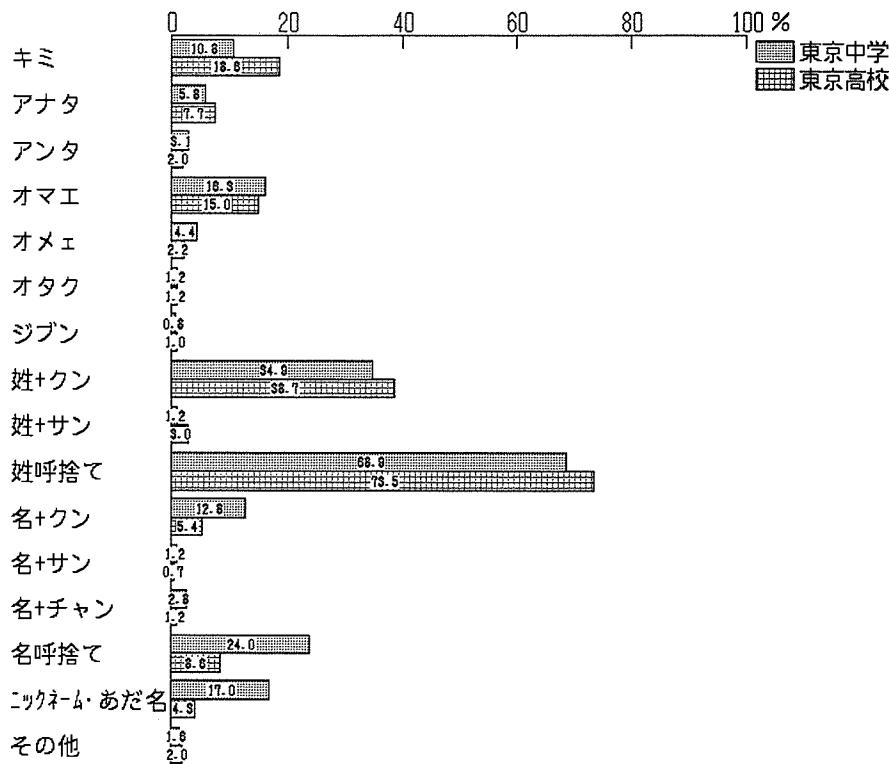
5.3.4. 男女差

次に、以上の報告に含まれている部分もあるが、男女差について、おもな点を報告する。なお、すでに言及したように、[同性同級]からの「呼ばれ方」の<実際>の数値は、前節で報告した[同性友人]に対する「呼び方」の数値を縮小した形に近い。そこで、「呼ばれ方」の<実際>の男女差の分析は、[担任]からの「呼ばれ方」だけにとどめる。また、「呼ばれ方」の<評価>については、

男女共通に普通に呼ばれうる表現について、「好き」の数値に注目しながら男女差を報告する。回答者が実際その表現で呼ばれているか否かで回答者を分類しての分析まで進むのが望ましいが、報告が大変煩雑になるので、ここでは回答者を分類せずまとめた形で分析するにとどめる。

まず、[担任] からの「呼ばれ方」の〈実際〉の男女差を見てみる。

各表現について、[担任] から「呼ばれる」の回答を、中学と高校を比較しつつ男女に分けて示したのが本文図 5-79・80 である。

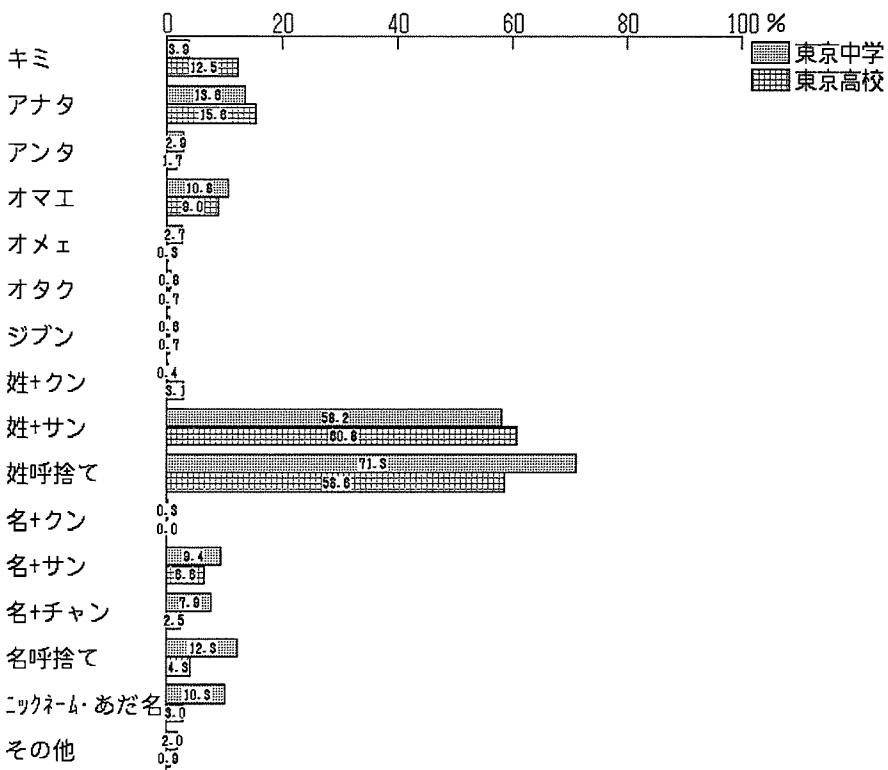


本文図 5-79 対称詞の「呼ばれる」の中高生比較（担任から）【男子】

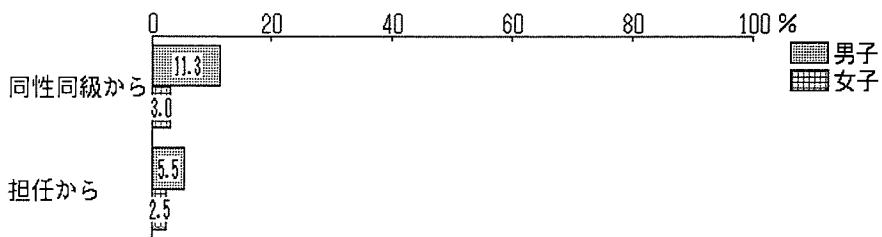
これによると、「姓+クン」「名+クン」のクンづけは男子、「姓+サン」「名+サン」のサンづけは女子にほぼ限定される。また、傾向的な違いとしては、「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」はどちらかと言えば男子が、「アナタ」はどちらかと言えば女子が呼ばれる表現となっている。「姓呼捨て」は男女ともよく呼ばれる表現だが、高校生では多少男子に傾く。

次に、「呼ばれ方」の〈評価〉の男女差を見てみる。

日本語の代名詞で積極的に「好き」と評価される表現が少ないとについてはすでに述べた。「オマエ」もそうであるが、しかしこの評価には男女差が多少見られる。本文図 5-81 は、〈東京高校〉について、「オマエ」の「好き」の数値を男女で比較して示したものである（[同性同級] からと [担任] からの両方を示した）。「好き」の数値は男子の方が高い。じつは中学生でもこれと同様の傾向が見られる。「オマエ」は確かにぞんざいな表現ではあるが、一方で親しみも含んでいる。男子は後者のニュアンスを積極的に評価する者が女子よりも多いためこうした違いが生じた可能性があるそうだ。

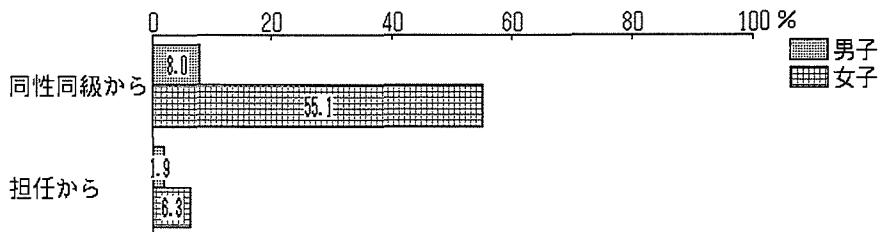


本文図 5-80 対称詞の「呼ばれる」の中高生比較（担任から）[女子]

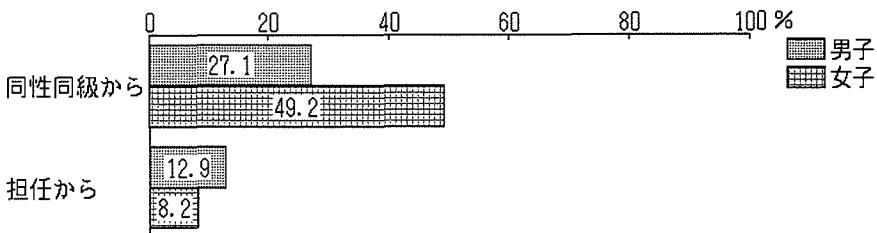


本文図 5-81 「オマエ」の「好き」の男女比較 [東京高校]

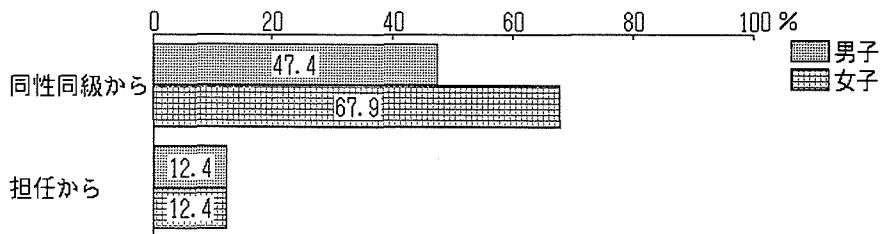
非代名詞のうち「名+チャン」「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」は心理的距離が短い表現であるが、[同性同級] からこうした表現で呼ばれることについては、中学生・高校生とともに、女子の方が男子よりも「好き」の数値が高い。本文図 5-82～84 は、〈東京高校〉の場合について、これらの表現を「好き」と回答した数値を男女で比較して示したものである。心理的距離の短い表現の使用は、女子の間で一層評価されていることがわかる。なお、[担任] からこうした表現で呼ばれて「好き」とする数値は、[同性同級] からと比べると、男女ともに少ない。[担任] は [同性同級] よりも距離を置くべき相手と意識されているためなのかもしれない。



本文図 5-82 「名+チャン」の「好き」の男女比較 [東京高校]



本文図 5-83 「名呼捨て」の「好き」の男女比較 [東京高校]



本文図 5-84 「ニックネーム・あだ名」の「好き」の男女比較 [東京高校]

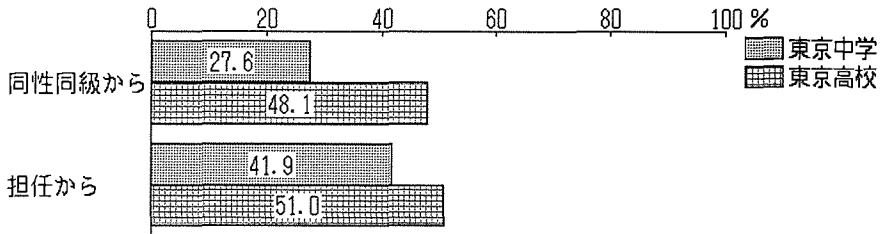
5.3.5. 中高生差

「呼ばれ方」の〈実際〉の中高生差についても、ここでの報告は〔担任〕からの「呼ばれ方」にとどめる。また、「呼ばれ方」の〈評価〉については、「好き」の数値に注目しつつその違いを報告する。

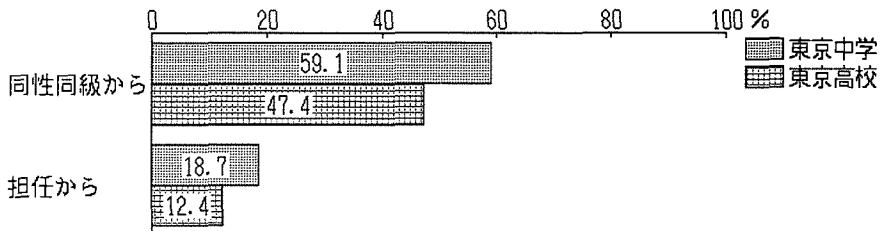
まず、〔担任〕からの「呼ばれ方」の〈実際〉の中高生差について、先に見た本文図 5-79 (男子)・80 (女子) で見てみる。

これによると、男女とも、中学生と高校生の間に大きな違いはない。多少目立つ違いを指摘すると、男子の場合、「キミ」は高校生が多く、逆に「名+クン」「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」は中学生が多い。女子の場合は、やはり「キミ」は高校生が多く、逆に「姓呼捨て」「名+チャン」「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」は中学生が多い。中学生から高校生になると、〔担任〕から心理的距離の小さい表現で呼ばれることがやや減少し、逆に心理的距離が相対的に大きくなるわけではない「キミ」が男女とも増加するという、緩やかな変化が生じているようである。なお、〔担任〕から「キミ」と呼ばれるのは男子だけでなく女子もいる点は注目される。

次に、「呼ばれ方」の〈評価〉の中高生差について、「好き」の数値に注目しつつ中学生と高校生を比較すると、男女とも大きな違いはない。多少目立つ違いを指摘すると、男子で「姓呼捨て」を「好き」とする回答は、[同性同級] からにしろ [担任] からにしろ、高校生に多い（本文図 5-85 を参照）。「姓+クン」にも同様の傾向が多少ある。逆に、男子で「ニックネーム・あだ名」を「好き」とする回答は、[同性同級] からにしろ [担任] からにしろ、高校生ではむしろ少ない（本文図 5-86 を参照）。子供的な表現から成人的な表現への指向が、これらの数値の違いとして現われているのかかもしれない。



本文図 5-85 「姓呼捨て」の「好き」の中高生比較 [男子]



本文図 5-86 「ニックネーム・あだ名」の「好き」の中高生比較 [男子]

(注1) 表現そのものの好悪というよりも、その表現が使われる状況に対する好悪で回答したケースもあるかもしれない。

(注2) 先にも言及したように、回答者に想定させた [担任] は年齢・性別等の点で多様であることに留意する必要がある。たとえば、男性の [担任] からと女性の [担任] からとでは、回答者の呼ばれ方はかなり異なる可能性がある。また、たとえば「姓呼捨て」が7割いる」という結果を、「姓呼捨て」で生徒を呼ぶ [担任] が7割いる」と読み換えることができない点にも留意する必要がある。仮に、クラスの7割の男子生徒を「姓呼捨て」で呼ぶ [担任] が全員であったとすると、「姓呼捨て」で呼ぶ [担任] は7割ではなく10割ということになる。[担任] の調査結果は、あくまでも、そう呼ばれる生徒はどの程度いるのかという観点からのものである。これに対し [同性同級] の調査結果は、出席番号が直前の同性の生徒からどう呼ばれているかということであるわけだから、出席番号が直後の同性の生徒をどう呼んでいるかと読み換えることができる。つまり、特定の相手という限定付きではあるが、全体として生徒がどのような呼称を使うかの概観も同時に得られたデータと考えられる。

5.4. 肯定表現

日常の言語生活は他者との会話として成り立つ面が少なくない。それには、自ら会話をリードして展開する局面と、相手の発話を受けてそれに応ずる形で会話を展開する局面とがある。本節では、後者の局面に関連し、相手の質問的・確認的な発話を対し肯定的に（つまり「そのとおりだ」と言

う意味で) 応じる場合、相手によりどの表現を選択するかを調査した結果を報告する。

共通語の肯定表現には、「ハイ」等の応答詞を除く実質的意味を持つ表現としては、「ソーダ」およびそれに丁寧語を付加した「ソーデス」くらいしか存在しないが、方言によっては、「ソーダ」に当たる部分をさまざまに代えた表現が併存したり、あるいは末尾にさまざまな終助詞を付加する表現が併存したりして、表現が多様性に富む。大阪や山形もそのひとつである。そこで本調査では、〈大阪高校〉と〈山形中学〉において、肯定表現の使い分けを調べることとした。

質問文と選択肢は次のとおりである。共通語形は丁寧語「デス」を含む形とし、応答詞「ハイ」を含む場合と含まない場合とを選択肢として掲げた。

想定させた話し相手は(1)~(6)の6人である。本書すでに報告した自称詞以下の項目と同様、話し相手ごと、掲げた語形全てについて○か×を付けさせた。

【〈大阪高校〉】

相手の言ったことに「そのとおりだ」という同意をあらわすときは、ふつうどう言いますか？ それぞれの相手に対して、言う言い方には○、言わない言い方には×をつけてください。ほかに言い方があれば（　）に書いてください。

(1) 同じクラスで、一番したしい同性のともだちに対しては、……

- | | | | | |
|------------|---------|-----------|--------|-------|
| 1. ハイ、ソーデス | 2. ソーデス | 3. ソーヤデ | 4. ソーヤ | 5. ソヤ |
| 6. セヤ | 7. ホヤ | 8. その他（　） | | |

(2) クラスで、話をする機会のいちばん多い異性の同級生に対しては……

(選択肢は同上)

(3) 部(クラブ)活動で、話をする機会のいちばん多い同性の先輩に対しては……

(選択肢は同上)

(4) 担任の先生に対しては……

(選択肢は同上)

(5) 校長先生に対しては……

(選択肢は同上)

(6) よそから来た知らないおとなの（男）が、廊下で、標準語（ひょうじゅんご）で話しかけてきたときは……

(選択肢は同上)

質問文を比較しやすくするため、ここでは次の〈山形中学〉の調査票の順序で示した。実際の順序は(3)(4)(5)(6)(1)(2)である。男子高校・女子高校では(2)への回答は求めなかった。順序を多少変えたのは、この男子高校・女子高校での回答に配慮したことによる。

【〈山形中学〉】

相手の言ったことに「そのとおりだ」という同意をあらわすときは、ふつうどう言いますか？ それぞれの相手に対して、言う言い方には○、言わない言い方には×をつけてください。ほかに言い方があれば（　）に書いてください。

(1) 同じクラスで、一番したしい同性のともだちに対しては、……

- | | | | |
|-------------|-------------|-------------|----------|
| 1. ハイ, ソーデス | 2. ソーデス | 3. ウン, ソーダヨ | 4. ソーダヨ |
| 5. ンダ | 6. ンダドモ | 7. ンダヨー | 8. ンダニヤー |
| 10. ンダッス | 11. その他 () | | 9. ンダノー |

- (2) 同じクラスで、話をする機会のいちばん多い異性の同級生に対しては……
(選択肢は同上)
- (3) クラブ活動で、話をする機会のいちばん多い同性の先輩（せんぱい）に対しては……
(選択肢は同上)
- (4) 担任の先生に対しては……
(選択肢は同上)
- (5) 校長先生に対しては……
(選択肢は同上)
- (6) よそから来た知らないおとなの（男）が、廊下で、標準語（ひょうじゅんご）で話しかけてきたときは……
(選択肢は同上)

結果は資料表 5-4-1-a および資料図 5-4-1-a 以下のとおりであった。先に報告した自称詞や対称詞では男女差が著しかったため男女を合計した集計は特に示さなかったが、この項目ではそれも併せて示すことにする（表題に「全体」とあるものが該当）。

5.4.1. 全体的概観

〈大阪高校〉〈山形中学〉ともにさまざまな表現がよく用いられている。ただし、いずれの表現も、使いやすい相手、使いにくい相手がかなり明確に分かれている。〔同性友人〕〔異性同級〕といった同輩に対しては主として丁寧語「デス」を含まない表現（それらは方言形式でもある）が使われ、逆に〔同性先輩〕〔担任〕〔校長〕〔来客(男)〕といった目上の人に対しては主として丁寧語「デス」を含む表現（それらは共通語形でもある）が使われる。ただし〈山形中学〉の男子には多少例外的な部分があり、〔同性先輩〕に対しては、むしろ丁寧語を含まない表現の使用の方が優勢である。すなわち〔同性先輩〕の扱いが目上よりもむしろ同輩に近いようであり、この地域（あるいは学校）の特徴がうかがえる。

以下では調査結果をさらに詳しく見ていくが、まずはグループ別・男女別に大きな傾向を概観し、その後、さらに男女比較・地域比較・相手による使い分けの傾向等を見ていくこととする。

5.4.2. グループ別による概観

(1) 〈大阪高校〉の全体

相手別に集計した結果は資料表 5-4-1-a～f および資料図 5-4-1-a～f のとおりである。男子校と女子校も含むため〔異性同級〕の場面で該当なし（凡例では「男子校／女子校」）が約 2 割を占める。

場面による違いが大きい。〔同性友人〕〔異性同級〕といった友達に対しては丁寧語を含まない方言形式の「ソーヤ」と「ソーヤデ」が主として用いられ、丁寧語を含み共通語形でもある「ハイ、

「ソーデス」や「ソーデス」の使用者率は極めて低い。特に〔同性友人〕に対しては、「ソーヤ」が約9割、「ソーヤデ」が約7割に達する。〔異性同級〕に対しても、「男子校／女子校」を除いた部分で再集計すれば、ほぼこれと同じ割合になる。ただし方言形式の中でも「ソヤ」「セヤ」「ホヤ」といった「ソーヤ」の変化形は使用者率が低く、たとえば〔同性友人〕に対する場合、数値が最も高い「ソヤ」でも3割弱にとどまる。

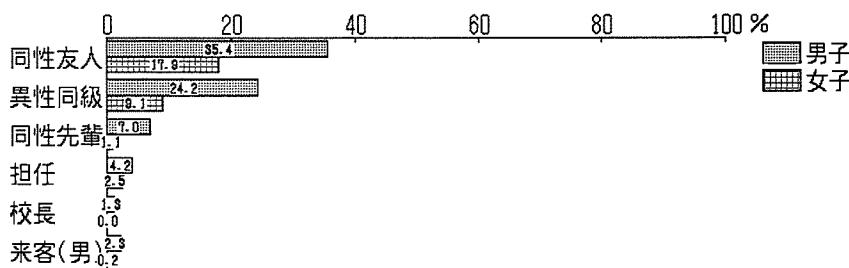
なお「その他」が1~2割あるが、そのうちの多くは「ソー(+助詞)」「ソーヤ(+助詞)」「ソージャ(+助詞)」や「ウン」等の応答詞が占める。

これに対し〔同性先輩〕〔担任〕〔校長〕〔来客(男)〕といった目上に対する場合は、こうした方言形式の「ソーヤ」「ソーヤデ」の使用者率はかなり低くなる。特に〔校長〕〔来客(男)〕といった社会的・心理的距離の大きい相手に対しては、これらを含む方言形式の使用者率はゼロに近づく。これに代ってよく用いられるのは、丁寧語を含み共通語形でもある「ハイ、ソーデス」「ソーデス」である。〔同性先輩〕〔担任〕に対しては6~7割、〔校長〕〔来客(男)〕に対しては7~8割の使用者率となる。このうち〔同性先輩〕〔担任〕に対する場合は、両語形の使用者率は同程度ないしは「ソーデス」の方がやや優勢だが、〔校長〕〔来客(男)〕に対する場合はむしろ「ハイ、ソーデス」が優勢になる。応答詞「ハイ」の付加も、敬語と同様の機能を持っている。

(2) <大阪高校> の男女差

以上の結果を男女に分けて集計したのが資料表5-4-2-a~fおよび資料図5-4-2-a~f以下である。

全体的に大きな男女差はない。ただし、方言形式「ソーヤ」の短縮形式「ソヤ」は、男女ともに主として〔同性友人〕〔異性同級〕〔同性先輩〕に対して用いられるのであるが、その使用者率は男子の方がやや高い(本文図5-87を参照)。方言形式の中でも縮約された表現の使用は男子に傾き、逆に女子は標準的な方言形式に相対的に傾くようである。



本文図5-87 「ソヤ」の相手別使用者率の男女比較 [大阪高校]

(3) <山形中学> の全体

相手別に集計した結果は資料表5-4-4-a~fおよび資料図5-4-4-a~fのとおりである。

やはり場面による違いが大きい。使用者率の分布から見ると、〔同性友人〕と〔異性同級〕、〔校長〕と〔来客(男)〕でそれぞれひとまとめと/orすることができそうだ。〔同性先輩〕と〔担任〕はその中間だが、〔同性先輩〕はどちらかと言えば〔同性友人〕〔異性同級〕寄りの分布、逆に〔担任〕は〔校長〕〔来客(男)〕寄りの分布と言える。

〔同性友人〕〔異性同級〕といった友達に対しては、ここでも丁寧語を含まない方言形式「ンダ」

およびそれに終助詞「ヨー」「ニヤー」「ノー」を付加した形式の使用者率が高い（「ニヤー」は確認要求の終助詞「ネヤ」の変化形と考えられる）。

やはり終助詞を伴う「ンダドモ」の「ドモ」は、東北地方に広く用いられる逆接の接続助詞の「ドモ」ではなく、共通語形の「言うまでもなく」という意味の「トモ」の「ト」が有声化した形であるが、そうした強い特別のニュアンスを伴うためか、使用者率は最高でも1割程度にとどまる。この表現については、逆接の意味で受け止めた回答者もいたかもしれません、それも数値が低い一因となっている可能性がある。

同様に終助詞を伴う「ンダッス」の「ス」は、東北地方の主として日本海側に分布する丁寧の終助詞であるが（加藤正信 1973 による分布図を参照），これを付加した「ンダッス」は、[同性友人] [異性同級]のみならず、丁寧語を使い得るそれ以外の目上の相手に対する使用者率も極めて低く、中学生による使用はほとんど皆無といってよい状況である。丁寧な表現であっても方言形式のために目上の人に対し使いにくいことがあるのかもしれないが、他方、若年層に向けてこの表現の使用が衰退しているために使用者率が低いということもあるかもしれない。また、中学生・高校生のうちは使わないが成人になってから使い出すという可能性もあるいはあるかもしれない。さまざまな要因が複合して現在の状況になっているものと考えられる。

〈山形中学〉では丁寧語を含まない「ウン、ソーダヨ」「ソーダヨ」の使用についても質問したが、[同性友人] [異性同級] に対し1割ほど使われる程度にとどまった。

これに対し、[校長] [来客(男)] といった目上でかつ日常接する機会の少ない相手に対しては、方言形式はほとんど使われず、「ハイ、ソーデス」「ソーデス」といった丁寧語を含む共通語形の使用がほとんどである。使用者率は、「ハイ、ソーデス」が約8割、「ソーデス」が約7割であり、先に報告した〈大阪高校〉とよく似た状況である（応答詞「ハイ」が敬語と同様の機能を持っている点も同様）。こうした相手に対しては共通語形の使用が圧倒的に優勢になるため、地域差はほとんど見られなくなる。

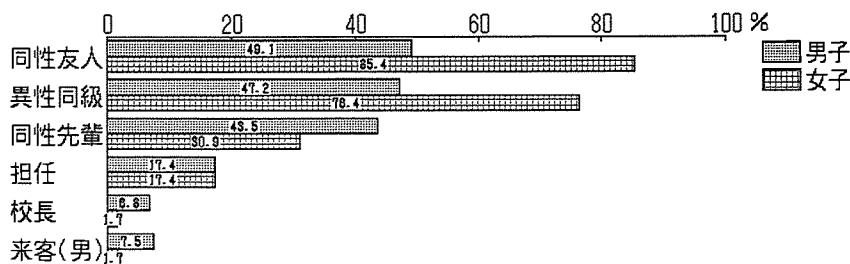
これらの中間に位置付けられるのが[同性先輩]と[担任]であるが、[同性先輩]に対してはやや方言形式が優勢であるのに対し、[担任]に対しては共通語形が優勢である。

(4) 〈山形中学〉の男女差

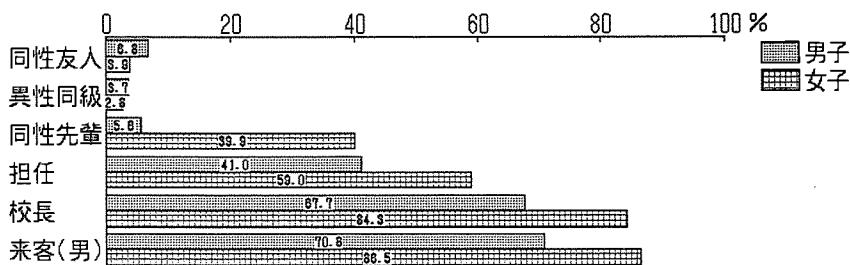
以上の結果を男女に分けて集計したのが資料表 5-4-5-a～f および資料図 5-4-5-a～f 以下である。

[同性友人] [異性同級] に対しては主として方言形式が使われる点は男女同じであるが、男子はその中でも主として「ンダニヤー」を、一方女子は主として「ンダヨー」「ンダノー」を用いるという違いがある。特に「ンダノー」の使用者率の違いは大きく、男子が5割であるのに対し女子は8～9割にまで達する（他の場面を含む使用者率の男女差については本文図 5-88 を参照）。方言形式の終助詞「ノー」は、友達に対する場合は、おもに女子が用いる表現と言えそうだ。

一方これと対極にある[校長] [来客(男)] に対しては、男女とも主として「ハイ、ソーデス」「ソーデス」が用いられるが、使用者率はいずれも女子の方が1～2割ほど高い。丁寧語を含む共通語形は、男子よりも女子の方がより多く用いるようだ。こうした傾向は[同性先輩]と[担任]にも認められる（「ハイ、ソーデス」については本文図 5-89 を参照）。特に[同性先輩]に対しては男女差が大きく、男子のこれらの使用者率は1割に満たないのに対し、女子は4～5割に達する。つまり、男子にとって[同性先輩]は友達に近い存在であるのに対し、女子にとってはむしろ教師に近い距

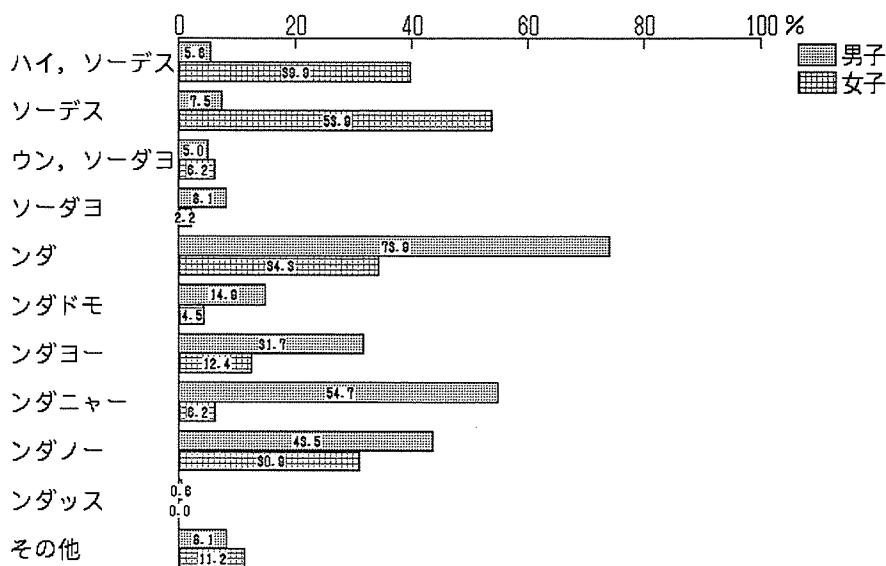


本文図 5-88 「ンダノー」の相手別使用者率の男女比較 [山形中学]



本文図 5-89 「ハイ， ソーデス」の相手別使用者率の男女比較 [山形中学]

離を置くべき存在と意識されているようである。このことは、[同性先輩]に対する方言形式の使用にも見られ、「ンダ」「ンダドモ」「ンダヨー」「ンダニャー」「ンダノー」の使用者率は女子よりも男子の方で高い。特に「ンダ」「ンダニャー」ではその差が大きい。[同性先輩]に対しては、男子は主として方言形式を用い、逆に女子はむしろ共通語形を用いるという男女差が明確に認められるのである（本文図 5-90 を参照）。



本文図 5-90 [同性先輩]に対する肯定表現の男女比較 [山形中学]

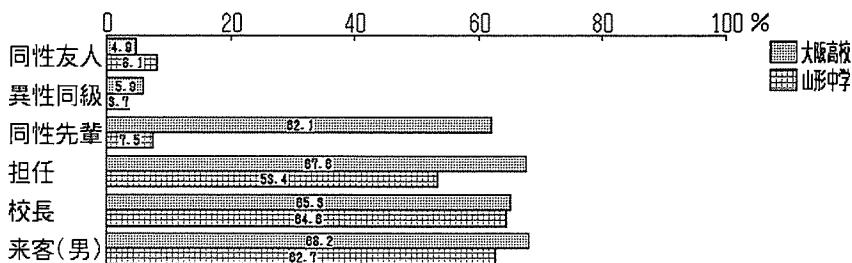
5.4.3. 地域差

〈大阪高校〉と〈山形中学〉は、地域的な違いだけでなく高校生と中学生の違いもあるが、どちらかと言えば地域差としての異なりの方が大きいだろうと考え、両者の比較を試みる。

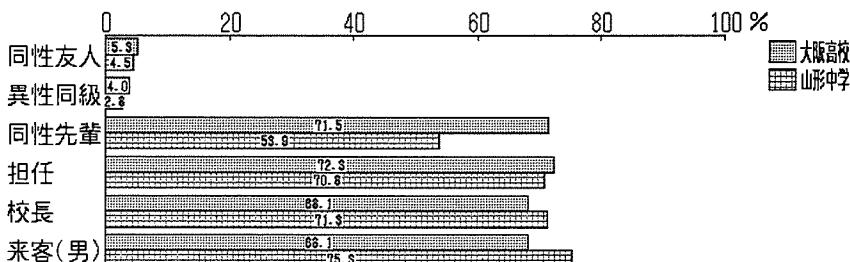
〈大阪高校〉と〈山形中学〉に共通する調査項目は「ハイ，ソーデス」「ソーデス」のみである。使用者率はいずれも友人に対し少なく先生に対し多いという傾向が両者に共通して認められるが、使い分け方には異なりも見られる。

本文図 5-91 は男子による「ソーデス」の使い分けを見たもの、同様に本文図 5-92 は女子による使い分けを見たものである。

[同性友人] [異性同級] および [校長] [来客(男)] に対しては、男女とも地域差はほとんどないと言ってよい状況である。しかし [同性先輩] に対しては、特に男子の場合、〈大阪高校〉が 6 割であるのに対し〈山形中学〉は 1 割程度にとどまり、大きな開きがある。同様の差は女子にも多少認められる。つまり、先にも言及したことではあるが、特に男子の場合、〈大阪高校〉では [同性先輩] の位置付けは教師に近いのに対し、〈山形中学〉ではむしろ生徒に近い、という違いが観察される。



本文図 5-91 「ソーデス」の相手別使用者率の地域比較 [男子]

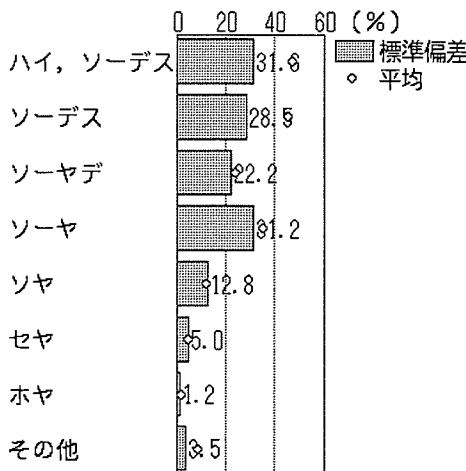


本文図 5-92 「ソーデス」の相手別使用者率の地域比較 [女子]

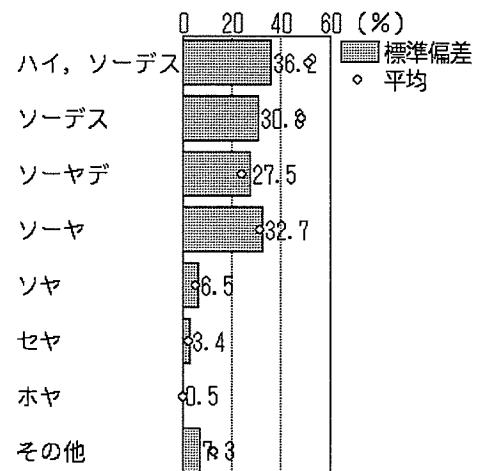
5.4.4. 各表現が持つ待遇表現としての機能負担量

最後に、6 場面の使用者率の標準偏差により、各表現が持つ待遇表現としての機能負担量を見てみよう。本文図 5-93～96 がその結果である。

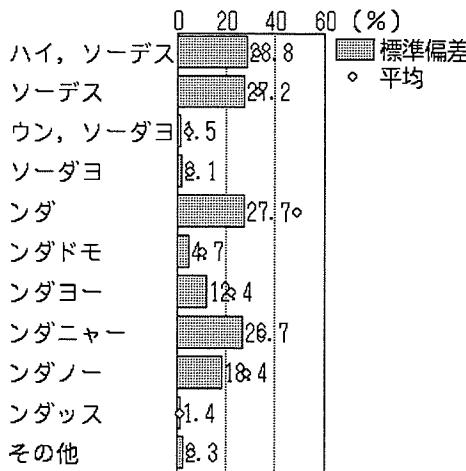
〈大阪高校〉の場合、使用者率の平均がある程度ありかつ機能負担量の高い表現は「ハイ，ソーデス」「ソーデス」「ソーヤデ」「ソーヤ」である。これらは場面による使い分けが明確であり、待遇表現として積極的に機能している。



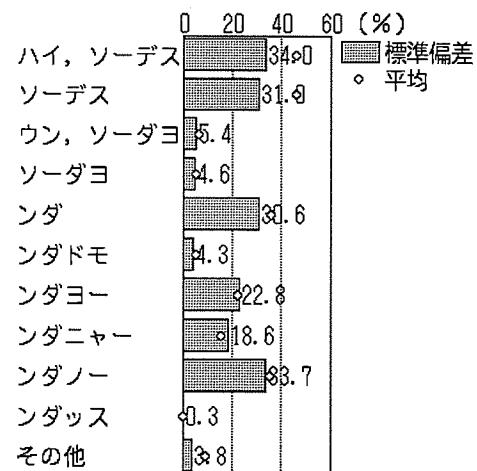
本文図 5-93 肯定表現の場面別使用者率の平均と標準偏差
[大阪高校・男子]



本文図 5-94 肯定表現の場面別使用者率の平均と標準偏差
[大阪高校・女子]



本文図 5-95 肯定表現の場面別使用者率の平均と標準偏差
[山形中学・男子]



本文図 5-96 肯定表現の場面別使用者率の平均と標準偏差
[山形中学・女子]

一方〈山形中学〉の場合、使用者率の平均がある程度ありかつ機能負担量の高い表現は「ハイ, ソーデス」「ソーデス」「ンダ」「ンダヨー」「ンダニヤー」「ンダノー」であり、これらは待遇表現として積極的に機能している。このうち「ンダニヤー」は女子よりも男子における数値の方が高く、男子でより積極的に機能している。逆に「ンダヨー」「ンダノー」は男子よりも女子における数値が高く、女子でより積極的に機能している。このように、同一表現であっても、待遇表現としての機能負担量の面で性差が見られる場合がある。

5.5. 別れの挨拶

他者との日々の人間関係の形成・維持・確認には「挨拶」という言語行動が大きな役割を果たしている。学校生活においても、集団としての使用にしろ、個人単位での使用にしろ、挨拶なしで過ごす日はほとんどないと言えよう。

この「挨拶」は、家庭においては他者に対する礼儀のひとつとして幼少の頃からしつけを受けるものであり、学校生活においてもかなり意識される言語行動であると考えられる。また、敬語との関連で言えば、別れの挨拶のうち、比較的改まった場面で使われる「失礼シマス」という表現は、成人であればごく普通に使うのに対し、小学生はおそらくあまり使っていないことから推測すると、その間の中学生・高校生の世代は、この表現を使い始める世代である可能性があり、この点特に注目される。

挨拶は「出会い」「別れ」いずれの場面でもさまざまな表現が用いられ、相手による使い分けもそれぞれなされていると思われるが、本調査では、先に言及した「失礼シマス」という表現も使い得る「別れ」の場面での挨拶について調査することとした。なお、「失礼シマス」については、本節で報告する設問に加え、学校生活の中のどのような場面で使われるかをさらに詳しく尋ねたが、その調査結果については次節で報告する。

グループ別に質問文と選択肢を示すと次のとおりである。本書の末尾に「資料2」として掲げた〈東京中学〉の調査票では「II.15.」が該当する。

想定させた話し相手は(1)～(5)の5人である。自称詞以下の項目と同様、話し相手ごとに、掲げた語形全てについて○か×を付けさせる回答方法をとった。

【〈東京中学〉〈東京高校〉】

学校から帰るとき、次の人にはどんなあいさつをしますか？ 前と同じように○か×を全部全部につけてください。

(1) 同じクラスで、一番したしい同性のともだちに対しては……

- 1. サヨウナラ 2. サヨナラ 3. サイナラ 4. ソレジャア 5. ジャア
- 6. バイバイ 7. 失礼シマス 8. その他 ()

(2) 同じクラスで、話をする機会のいちばん多い異性の同級生に対しては……

(選択肢は同上)

(3) 部（クラブ）活動で、話をする機会のいちばん多い同性の先輩に対しては……

(選択肢は同上)

(4) 担任の先生に対しては……

(選択肢は同上)

(5) 校長先生に対しては……

(選択肢は同上)

(1)～(5)の順序は〈東京中学〉のものであり、〈東京高校〉では(3)(4)(5)(1)(2)の順とした。男子高校・女子高校では(2)への回答は求めなかった。〈東京高校〉で順序を多少変えたのは、この男子高校・女

予高校での回答に配慮したことによる。

【〈大阪高校〉】

学校から帰るとき、次の人にはどんなあいさつをしますか？ 前と同じように○か×を全部つけてください。

- (1) 同じクラスで、一番したしい同性のともだちに対しては……

1. サヨウナラ
2. サヨナラ
3. サイナラ
4. ジャアネ
5. バイバイ
6. ホナ
7. 失礼シマス
8. その他 ()

- (2) 同じクラスで、話をする機会のいちばん多い異性の同級生に対しては……

(選択肢は同上)

- (3) 部（クラブ）活動で、話をする機会のいちばん多い同性の先輩に対しては……

(選択肢は同上)

- (4) 担任の先生に対しては……

(選択肢は同上)

- (5) 校長先生に対しては……

(選択肢は同上)

質問文を比較しやすくするため、ここでは〈東京中学〉の調査票の順序で示した。実際の順序は(3)(4)(5)(1)(2)である。男子高校・女子高校では(2)への回答は求めなかった。順序を多少変えたのは、この男子高校・女子高校での回答に配慮したことによる。

【〈山形中学〉】

学校から帰るとき、校門のところでどんなあいさつを言いますか？ 前と同じように○か×を全部つけてください。

- (1) 同じクラスで、一番したしい同性のともだちに対しては……

1. サヨウナラ
2. サヨナラ
3. ジャアネ
4. バイバイ
5. シバ
6. シバノー
7. マズヨー
8. マズノー
9. ンダバ
10. ンダバノー
11. 失礼シマス
12. その他 ()

- (2) 同じクラスで、話をする機会のいちばん多い異性の同級生に対しては……

(選択肢は同上)

- (3) クラブ活動で、話をする機会のいちばん多い同性の先輩（せんぱい）に対しては……

(選択肢は同上)

- (4) 担任の先生に対しては……

(選択肢は同上)

- (5) 校長先生に対しては……

(選択肢は同上)

(3)は「部（クラブ）活動」ではなく「クラブ活動」という表現にした。

結果は資料表 5-5-1-a および資料図 5-5-1-a 以下のとおりであった。先の「肯定表現」と同様、男女を合計した集計から示すこととする（表題に「全体」とあるものが該当）。

5.5.1. 全体的概観

選択肢として掲げた表現のうち、おもに使用されるのは「ジャア」「バイバイ」「サヨウナラ」「サヨナラ」である。このうち「ジャア」「バイバイ」は〔同性友人〕〔異性同級〕といった友達に対して使用され、「サヨウナラ」「サヨナラ」は〔同性先輩〕〔担任〕〔校長〕といった目上に対しあるに使用される。なお、前者ではこれらのうち「バイバイ」が、また後者では「サヨウナラ」がそれぞれ他よりも優勢である。典型的な用法としては、友達に対しては「バイバイ」、目上に対しては「サヨウナラ」ということになりそうだ。「サヨウナラ」「サヨナラ」がぞんざいな形になった「サイナラ」や、「ジャア」が少し改まった「ソレジャア」、あるいはこれらとは別系列の「失礼シマス」の使用者率は、全体としてはあまり高くない。

方言形式の使用状況について見ると、〈大阪高校〉では「サイナラ」が多少使用される程度で全体としては少ないが、〈山形中学〉では「ンダバノー」を中心にさまざまな表現が、おもに友達に対し使用されている。

「資料1」では男女を合計した集計も示してあるが、ここでは男女別に集計した結果に注目し、グループ別・男女別にまず大まかな傾向を概観し、さらに詳しく男女比較・地域比較・中高比較（東京の場合）・相手による使い分けの傾向等を見ていくこととする。

5.5.2. グループ別・男女別による概観

(1) 〈東京中学〉の男子

相手別に集計した結果は資料表 5-5-2-a～e および資料図 5-5-2-a～e のとおりである。

〔同性友人〕〔異性同級〕に対しては「ジャア」「バイバイ」が主流である。使用者率の点で両表現は大差なく、〔同性友人〕に対してはそれぞれ6～7割、〔異性同級〕に対してはそれぞれ約5割である。「ソレジャア」の使用者率も2～3割と多少ある。

一方、これらと対極にある〔担任〕〔校長〕に対しては「サヨウナラ」が主流であり、約8割の男子が使用する。次いで多いのはその縮約形の「サヨナラ」であり、2～3割が使用する。数値はそれほど高くないが、こうした相手に対し「失礼シマス」が1～2割ある点は注目される。

〔同性先輩〕はこれらの中間と位置づけられそうだが、各語形の使用者率の分布パターンから見ると〔担任〕〔校長〕の方に近い。最も数値が高いのは「サヨウナラ」の4～5割、次いで「サヨナラ」の3割である。こうした「サヨウナラ」「サヨナラ」という表現は、先輩や先生など学校の中での目上の人物に対して用いられる典型的な表現と言える（後に述べる女子および他のグループにおいても同様）。数値は1～2割と低いが、これら以外のさまざまな表現も用いられる点は、むしろ〔同性友人〕〔異性同級〕に対する場面に通じるところがある。

〔同性友人〕〔異性同級〕に対しては「その他」が2～3割とやや多い。内訳を分類したところ最も多かったのは、こうした相手に対し使用者率の高かった「ジャア」（ないしは「ジャ」）に「ネ」などの終助詞を添えた表現であり、半数以上を占めた。「ジャア」を使うとした回答も、実際には終助詞を添えて用いることが少なくないのであろう。なお、〔異性同級〕に対しては「挨拶をしない」という記述も「その他」の内訳の約2割を占めた。この調査では、「挨拶をする」という前提で、その場合どの表現を使うかを質問しており、「挨拶をしない」という行動は積極的に選択肢としなかった

が、[異性同級]を相手にした場合は、そもそも挨拶をしないことがじつは少なからずあるらしいことが、この自由記述からうかがえる。中学生になり異性を意識し始め、相手と距離を置こうとする意識の現われと考えられる。「会釈」「黙礼」「手をあげる」などの非言語行動に関する記述も若干あったが、これと関連するところがあろう。

(2) 〈東京中学〉の女子

相手別に集計した結果は資料表 5-5-3-a～e および資料図 5-5-3-a～e のとおりである。

[同性友人] [異性同級] に対しては「バイバイ」が非常に優勢である。特に [同性友人] に対してはほぼ全員の女子が使用している。次いで多いのが「ジャア」と「ソレジャア」である。

一方、[同性先輩] [担任] [校長] に対しては「サヨウナラ」が8～9割と、ほぼ全員に近い割合の女子が使用している。これに「サヨナラ」が2～3割で続く。

[同性友人]を中心とする友達に対する場合は「バイバイ」、[担任] [校長] のような先生に対する場合は「サヨウナラ」、という使い分けのコントラストが、男子以上に明確である。[同性先輩]に対する各語形の使用者率の分布は、[担任] [校長] に対する場合とよく似ている。女子にとって [同性先輩] は、男子以上に、友達よりも先生に近いものとして位置づけられているようだ。

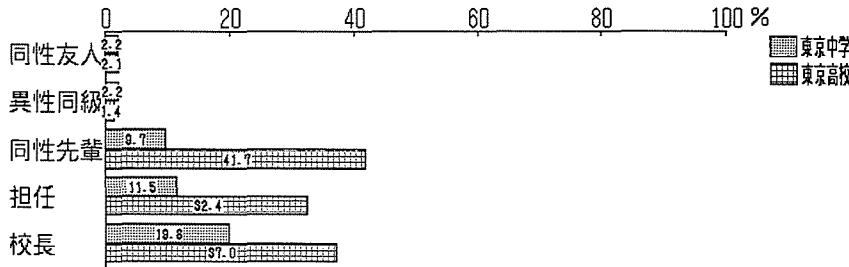
女子の場合も、[同性友人] [異性同級] に対しては、「その他」が約2割とやや多い。その内訳は、男子と同様、「ジャア」(ないしは「ジャ」)に「ネ」などの終助詞を添えた表現が多かった。また、これも男子と同様、[異性同級] に対しては「挨拶をしない」という記述も多かった。男女とも、異性に対してはそもそも挨拶をしないことが少なからずあるらしいことがうかがえる。

(3) 〈東京高校〉の男子

相手別に集計した結果は資料表 5-5-5-a～e および資料図 5-5-5-a～e のとおりである。高校では調査対象校に男子校も含むため、[異性同級] の場面で該当なし（凡例では「男子校」）が2割近くを占める。グラフを読む際は注意を要する。

[同性友人] [異性同級] に対しては、中学生の男子と同様、「ジャア」「バイバイ」が主流であり、[同性友人] にはそれぞれ7～8割、[異性同級] にはそれぞれ約5割が使用する。

一方、[担任] [校長] に対しては「サヨウナラ」が主流であり、7～8割が使用する。これを短縮した「サヨナラ」も2～3割が使用する。中学生の男子とやや異なり、「失礼シマス」の使用者率が3～4割にまで達する点は注目される（本文図 5-97 を参照）。



本文図 5-97 「失礼シマス」の相手別使用者率の中高生比較 [男子]

[同性先輩] に対しては、これも中学生の男子と同様、全体の分布パターンは [担任] [校長] に対する場合に近く、「サヨウナラ」(5割) や「サヨナラ」(4割) が主流であるが、この他、おもに [同

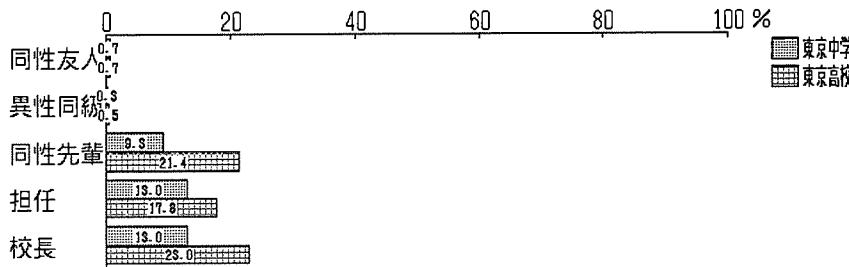
性友人] [異性同級] に対して使用される表現も、ある程度用いられている。また、「失礼シマス」が4割にまで達する点は注目される。この数値は、同じく目上である[担任] [校長] に対する場合を上まわる(本文図5-97も参照)。これと似た現象は、自称詞の「ジブン」にも見られた。「失礼シマス」や「ジブン」は、目上の中でも先輩後輩関係においてより使われやすい表現のようである。

中学生の男子ほどではないが、[同性友人] [異性同級] に対しては「その他」が1割前後いる。内訳を分類したところ、やはり「ジャア」(ないしは「ジャ」)に「ネ」などの終助詞を添えた表現が、そのうちの多くを占める。なお、中学生の男子では[異性同級] に対し「挨拶をしない」という記述も多かったが、高校生の男子の場合は少ない。

(4) <東京高校> の女子

相手別に集計した結果は資料表5-5-6-a~eおよび資料図5-5-6-a~eのとおりである。高校では調査対象校に女子校も含むため、[異性同級]の場面で該当なし(凡例では「女子校」)が2割近くを占める。やはりグラフを読む際には注意を要する。

全体として<東京中学>の女子によく似た結果である。すなわち、[同性友人] [異性同級] に対してはおもに「バイバイ」「ジャア」「ソレジャア」を用い、[同性先輩] [担任] [校長] に対してはおもに「サヨウナラ」「サヨナラ」を用いる。「失礼シマス」の使用者率も2割前後にまで達する(本文図5-98を参照)。男子ほど使用者率は高くないが、中学生よりも高校生で一層使われる傾向は女子にも認められる。



本文図5-98 「失礼シマス」の相手別使用者率の中高生比較 [女子]

[同性友人] [異性同級] に対しては「その他」がやはり1~2割ある。その内訳は、男子と同様、「ジャア」(ないしは「ジャ」)に「ネ」などの終助詞を添えた表現がそのうちの多くを占める。[異性同級] に対し「挨拶をしない」という記述は女子の場合も少ない。異性に対し挨拶をしないのは、男女いずれも、中学生に特徴的な傾向と言えそうだ。これは、性の違いを意識して距離を置き始める中学生世代と、それをある程度通過した高校生世代という、ライフステージの違いに起因するものであるのかもしれない。

(5) <大阪高校> の男子

相手別に集計した結果は資料表5-5-8-a~eおよび資料図5-5-8-a~eのとおりである。調査対象校に男子校も含むため、[異性同級]の場面で該当なし(凡例では「男子校」)が約2割を占めるので、グラフを読む際は注意を要する。

[同性友人] [異性同級] に対しては「バイバイ」が非常に多い。[同性友人] に対しては約9割、[異性同級] に対しては約7割(「男子校」を除いた部分で再集計すると約9割)が使用する。<東京

高校〉の男子の場合「バイバイ」とともに多かった「ジャア」は〈大阪高校〉では選択肢にないが、これに最も近い「ジャアネ」の使用者率は1~2割程度にとどまる。その結果、こうした相手に対し使用する表現は「バイバイ」に集中する。「ジャアネ」の数値が低いのは、「ジャアネ」の「ネ」が、大阪の特に男子生徒にとってはあまり日常的な表現ではないためである可能性がある。なお、方言形「ホナ」の使用者率は1~2割にとどまる。

これに対し〔同性先輩〕〔担任〕〔校長〕に対しては、「サヨウナラ」(4~7割)と「サヨナラ」(4~5割)が主流となり、この点は〈東京高校〉の男子の場合と共通する。主流ではないが、多少方言的なニュアンスを伴う「サイナラ」を使う男子も1~2割いる。〈東京高校〉の男子と同様、「失礼シマス」を使う生徒が3割前後いるが、〔担任〕や〔校長〕よりもどちらかと言えば〔同性先輩〕に対し一層用いられる傾向が大阪でも見られる。

〔同性友人〕〔異性同級〕に対しては「その他」が1~2割ある。内訳を分類したところ、〈大阪高校〉では選択肢として掲げなかった終助詞を伴わない「ジャア」や、「ジャア」に「ネ」以外の終助詞を添えた表現、東京で選択肢とした「ソレジャア」に対応する方言形の「ホンジャア」(これにさらに終助詞を付加する場合もある)などが多かった。なお、〔異性同級〕に対し「挨拶をしない」という記述は、〈大阪高校〉の男子の場合も少ない。

(6) 〈大阪高校〉の女子

相手別に集計した結果は資料表5-5-9-a~eおよび資料図5-5-9-a~eのとおりである。調査対象校に女子校も含むため、〔異性同級〕の場面で該当なし(凡例では「女子校」)が3割近くを占める。グラフを読む際は注意を要する。

全体として〈東京高校〉の女子の状況に似ている。

〔同性友人〕〔異性同級〕に対しては男子以上に「バイバイ」が非常に多く、7~9割に達する。特に〔同性友人〕に対しては、〈東京高校〉の女子と同様、ほぼ全員が使用している。〔異性同級〕に対する場合も、「女子校」を除いた部分で再集計すると、全員にかなり近い状況である。男子では使用者率が低かった「ジャアネ」が、女子の場合はこれに次いである程度用いられている。

一方、〔同性先輩〕〔担任〕〔校長〕に対しては、「サヨウナラ」が8~9割と最も多く、次いで「サヨナラ」が3~4割と続く。男子ほどではないが、「失礼シマス」の使用が〔同性先輩〕を中心に1~2割ある。なお、男子の場合と異なり、「サイナラ」の使用者率はかなり低い。

〔同性友人〕に対しては「その他」が約1割ある。内訳を分類したところ、「ジャア」に「ネ」以外の終助詞を添えた表現や、「ホンジャア」(さらに終助詞を伴う場合もある),「マタ」(さらに終助詞を伴う場合もある),「バイバイ類」(「バーイ」「バイビー」など)が多かった。なお、〔異性同級〕に対し「挨拶をしない」という記述は、女子の場合も少ない。地域や性別の違いを越えて、中学生と比べ高校生では、〔異性同級〕に対しそもそも挨拶をしないということは少なくなるようだ。

(7) 〈山形中学〉の男子

相手別に集計した結果は資料表5-5-11-a~eおよび資料図5-5-11-a~eのとおりである。

〔同性友人〕〔異性同級〕〔同性先輩〕に対しては、方言的な終助詞の接続を含め方言形を多数選択肢として掲げたということもあり、東京や大阪の「バイバイ」のようにかなりの男子生徒が使う表現というものは特になく、さまざまな表現がそれぞれある程度ずつ用いられている。使用者率が比較的高いものとしては、「マズヨー」(3~5割),「マズノー」(3~4割),「ンダバノー」(3~4割),

「バイバイ」(2~3割)がある。こうした方言形の使用が盛んであるため、近しい相手に対し使われやすい「バイバイ」も、山形においてはさまざまな表現のうちのひとつにとどまる。方言形では、上に掲げたような終助詞(「ヨー」「ノー」)を伴う表現の方が、それを伴わない表現(「シバ」「ンダバ」)よりも使用者率が高くなる傾向にある。少なくとも同等の相手に対しては、終助詞を伴う方が別れの挨拶としてより自然な表現ということであろうか。

一方、[担任] [校長]に対しては、「サヨウナラ」(8~9割), 「サヨナラ」(3~4割)がよく用いられている。これら以外は、「失礼シマス」がわずかに用いられる程度で、ほとんど皆無に近い。結果的に、こうした相手に対する場合は、地域差はほとんど見られない。

[同性友人] [異性同級] [同性先輩]に対しては「その他」が約3割と少なくない。内訳を分類したところ、「ジャア/ジャ」あるいは「ンジャア/ンジャ」に終助詞の「ノー/ノ」を添えた表現などが多かった。なお、[異性同級]に対しては「挨拶をしない」という記述も多少あった。

(8) <山形中学> の女子

相手別に集計した結果は資料表 5-5-12-a~e および資料図 5-5-12-a~e のとおりである。

先の男子の場合は、[同性友人] [異性同級]に対しては、「バイバイ」を含めさまざまな表現がある程度ずつ用いられていたのに対し、女子の場合はこれと大きく異なり「バイバイ」への集中が著しく、東京や大阪とよく似た状況となる。特に [同性友人] に対する「バイバイ」の使用は、女子の場合ほぼ全員と言ってよく、[異性同級]に対する場合も使用者率は6割にのぼる。東京ではこうした相手に対し「ジャア」も少なくないが、山形で語形がこれに最も近い「ジャアネ」の使用者率は1割前後にとどまる。大阪と同様、終助詞「ネ」が山形でもそれほど日常的な表現となっていためなのかもしれない。なお、方言形の中でも「ンダバノー」の使用者率は比較的高く、[同性友人]に対しては約4割、[異性同級]に対しては約2割が使用する。

男子の場合、各語形の使用状況から見ると、[同性先輩]は[同性友人]や[異性同級]に近い位置づけであったが、女子の場合はむしろ[担任] [校長]に近い。これが、<山形中学>の男女で大きく異なる点である。同様の現象は、自称詞や対称詞の使用においても見られた。

[同性先輩] [担任] [校長]に対し最もよく用いられる表現は「サヨウナラ」であり、9割を越える。次いで「サヨナラ」が2~3割と続く。これら以外の表現は、[同性先輩]に対する「バイバイ」(1割)を除けば、ほとんど用いられていない。

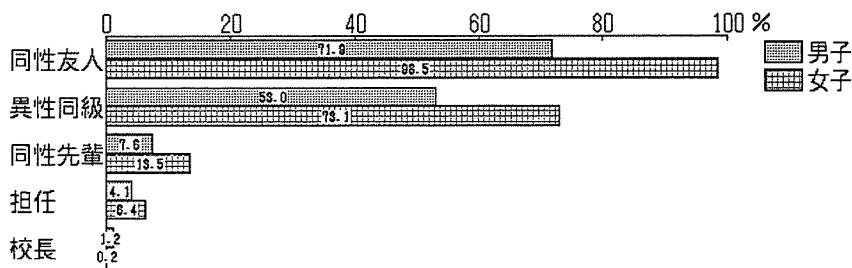
[同性友人] [異性同級]に対しては「その他」が約3割と少なくない。内訳を分類したところ、男子と同様、「ジャア/ジャ」あるいは「ンジャア/ンジャ」に終助詞の「ノー/ノ」を添えた表現などが多かった。なお、[異性同級]に対しては、男子と異なり「挨拶をしない」という記述も多かった。異性に対し挨拶をしないという現象は、特に女子中学生の場合、地域を越えて共通に見られる現象のようである。

5.5.3. 男女差

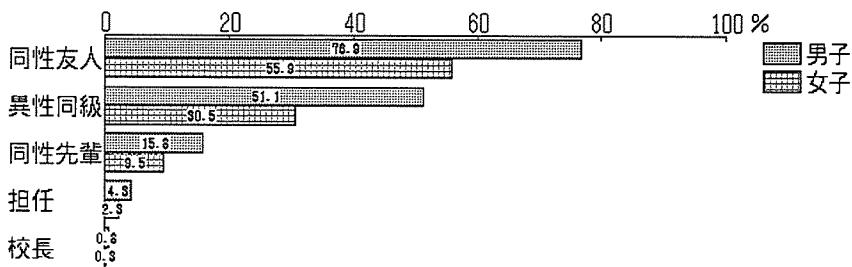
男女差についてはすでに 5.5.2. で言及したところもあるので、重複を避けつつおもなところを指摘する。

[同性友人] [異性同級]に対しては、<山形中学>における方言形の使用を除いた部分で考えると、「バイバイ」と「ジャア」(あるいは「ジャアネ」)が優勢であること、また両表現を比較すると「バイバイ」の方がより優勢であることについては、男女に共通する。しかし、東京の場合、「バイ

「バイ」の使用は女子に傾くのに対し（これについては〈山形中学〉も同様）、「ジャア」の使用はむしろ男子に傾くという傾向的な違いが認められる。〈東京高校〉の場合を示すと本文図 5-99・100 のとおりである。なお、〈大阪高校〉では「ジャアネ」はむしろ女子に多い（特に〔同性友人〕に対する場合に男女差が顕著）。これは、「ホンデナ」（それでね）のように終助詞「ナ」がより一般的と考えられる関西圏においては、終助詞「ネ」は優しい響きを持つ表現として受け止められるためであろうか。



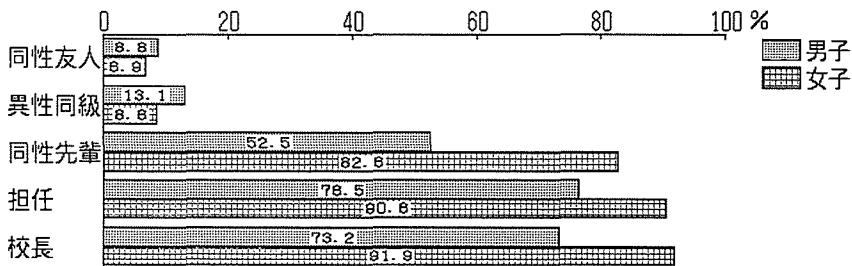
本文図 5-99 「バイバイ」の相手別使用者率の男女比較 [東京高校]



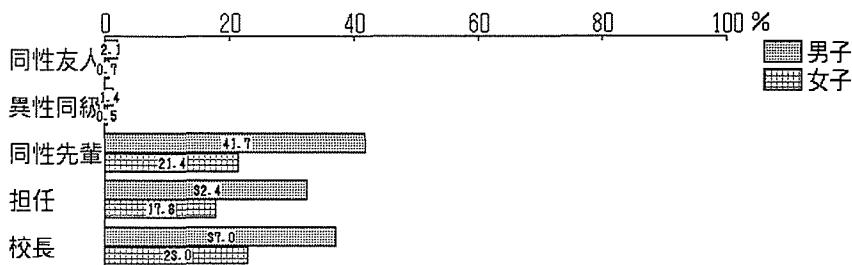
本文図 5-100 「ジャア」の相手別使用者率の男女比較 [東京高校]

一方、〔同性先輩〕〔担任〕〔校長〕に対しては「サヨウナラ」の使用者率が最も高いが、男女で比べると、女子の使用者率の方がより高い。〈東京高校〉の場合を示すと本文図 5-101 のとおりである。特に〔同性先輩〕に対する場合は、男女の開きがかなり大きい。この傾向は他のグループにも認められる。いくつか理由が考えられるが、高校生（〈大阪高校〉を含む）について言えば、〔同性先輩〕に対する場合、男子は女子以上に「失礼シマス」を用いることが、「サヨウナラ」の使用者率を下げている重要な要因と言えそうだ。〈東京高校〉の「失礼シマス」の使用について、男女を比較して示すと本文図 5-102 のとおりである。また、中学生について言えば、男子の場合、さまざまな表現の使用の状況から見て、〔同性先輩〕の位置づけが〔同性友人〕〔異性同級〕に近い面を持つことが（特に〈山形中学〉では顕著）、女子よりも「サヨウナラ」の使用者率が低くなる重要な要因と言えそうだ。

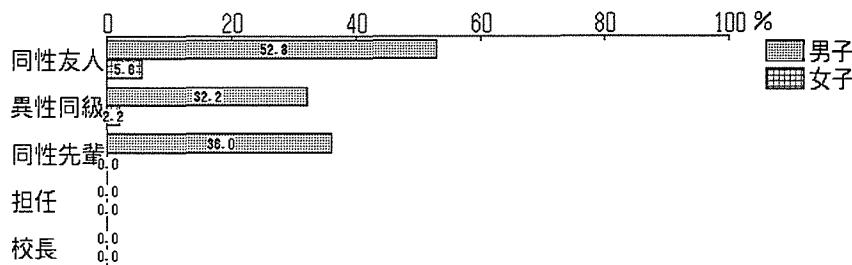
方言形の使用については、全般的に女子よりも男子が多い。その差が顕著なのは〈山形中学〉の「マズヨー」「マズノー」である。このうち「マズヨー」について男女を比較して示すと本文図 5-103 のとおりである。ただし、方言形の中でも「ンダバノー」の使用者率は男女差が比較的小さく、男女共通に用いる表現に近い。〈大阪高校〉の方言形の使用は全体的に少ないが、「ホナ」の使用は女子よりも男子に傾く。「サイナラ」の使用者率は、東京の男子に比べ〈大阪高校〉の男子はより高く、かつ男女差も東京より明確である。大阪方言的なニュアンスを持つ表現であるためであろう。



本文図 5-101 「サヨウナラ」の相手別使用者率の男女比較 [東京高校]



本文図 5-102 「失礼シマス」の相手別使用者率の男女比較 [東京高校]



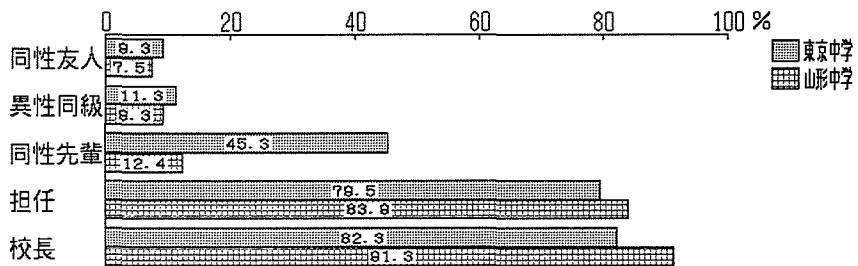
本文図 5-103 「マズヨー」の相手別使用者率の男女比較 [山形中学]

5.5.4. 地域差

地域差についても先に言及したところがあるが、重複を避けつつおもなところを指摘する。なお、選択肢が一部異なるため、単純な比較が難しい部分もある。

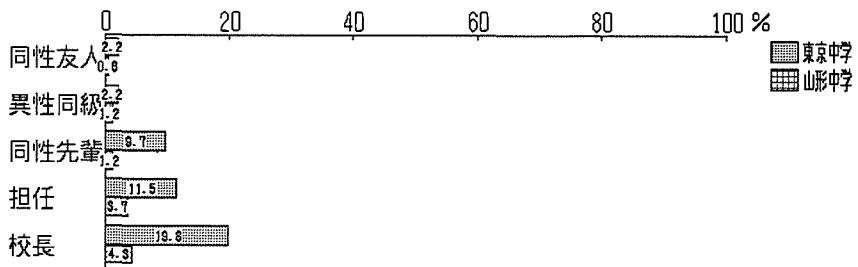
主として〔同性友人〕〔異性同級〕に対し用いられる「バイバイ」については、女子の間では顕著な地域差は認められないが、男子の間では、〈山形中学〉よりも〈東京中学〉で、〈東京高校〉よりも〈大阪高校〉で、それぞれ一層用いられている。山形<東京<大阪という地域差が、男子には見られるようだ。

一方、主として〔同性先輩〕〔担任〕〔校長〕に対し用いられる「サヨウナラ」については、男女とも全般的に地域差は少ない。ただし、〔同性先輩〕の位置づけが〔同性友人〕や〔異性同級〕に近い〈山形中学〉の男子においては、〔同性先輩〕に対する「サヨウナラ」の使用はかなり低くなり、そのため中学生の男子の間では部分的に地域差が生じる（本文図 5-104 を参照）。

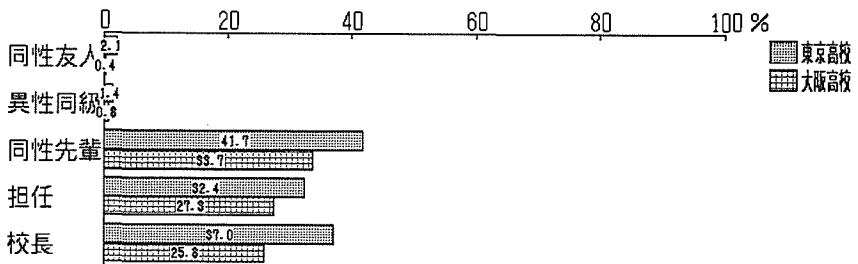


本文図 5-104 「サヨウナラ」の相手別使用者率の地域比較 [男子]

やはりそうした相手に対しあるに用いられる「失礼シマス」は、主として高校生になってから使われる表現であり中学生における使用は少ないのであるが、〈東京中学〉と〈山形中学〉を比べると、男女とも前者の方が使用者率が高い。男子の場合を示すと本文図 5-105 のとおりである。なお、高校生の「失礼シマス」の使用者率には顕著な地域差はない。男子の場合を示すと本文図 5-106 のとおりである。女子の高校生の使用者率は、これらの数値をほぼ半分に圧縮した状況に近い。

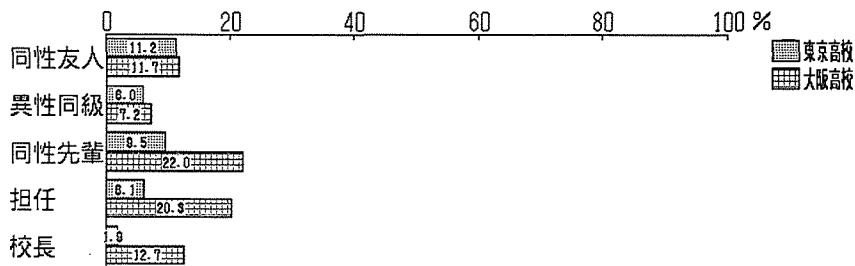


本文図 5-105 「失礼シマス」の相手別使用者率の地域比較 [男子・中学]



本文図 5-106 「失礼シマス」の相手別使用者率の地域比較 [男子・高校]

全体的に使用者率は高くないが、「サイナラ」が使われる相手を見ると、〈東京高校〉では [同性友人] に対する場合が中心であるのに対し、〈大阪高校〉ではむしろ [同性先輩] や [担任] が中心となる。〈東京高校〉と〈大阪高校〉の男子の場合を比較して示すと本文図 5-107 のようである。つまり、同じ語形であっても、東京では「サヨナラ」がさらにくずれた単なるぞんざいな表現と意識されるのに対し、大阪では多少親しみを伴いつつ丁寧度もそれほど低くない表現と意識される、といった違いがあるのかもしれない。



本文図 5-107 「サイナラ」の相手別使用者率の地域比較 [男子・高校]

5.5.5. 中高生差

同一地域で中学生と高校生を調査したのは東京のみであるので、東京での中高生差を報告する。全体的に中高生差は少ないが、「じゃア」「ソレじゃア」の使用者率は、中学生よりも高校生で若干高くなる。

「失礼シマス」には中高生差が明確に認められ、これがおもに使われる〔同性先輩〕〔担任〕〔校長〕に対し、高校生では使用者率が大幅に増加する（前出の本文図 5-97・98 を参照）。本報告書の「資料3」として示した検討会において、「中学生は別れの挨拶ことばとしてまだ『失礼シマス』を語彙として把握していないのではないか」という意見が出されたが、「失礼シマス」はおそらく高校生に至ってからおもに使い始める表現なのであろう。おもに中学生・高校生で使用が開始されこの時期を特徴づける表現がいくつかあることが本調査のさまざまな調査項目からわかったが、「失礼シマス」もそのひとつと言えそうだ。ただし、先に報告した対称詞でのそうした表現である「センパイ」（この表現は中学生時代からよく使われていた）と比べると、「失礼シマス」の使用開始時期は少し遅く、成人になるにつれて徐々に定着する表現のようである。

5.5.6. 各表現が持つ待遇表現としての機能負担量

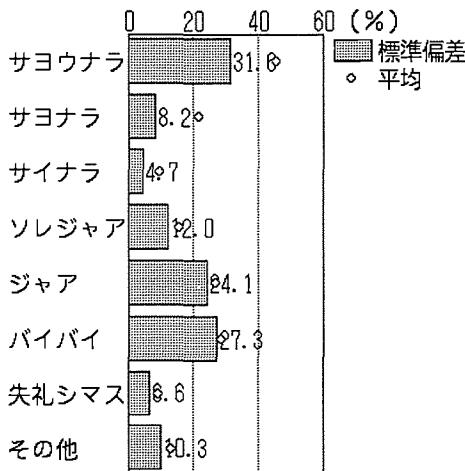
最後に、各表現が持つ待遇表現としての機能負担量について、表現間での異同や、地域や男女間での異同を見てみる。機能負担量の数値は、これまでと同様、5場面での使用者率の「標準偏差」（= 5場面の使用者率の平均値からの隔たりの平均）から求めた。

本文図 5-108～111 は男子について、本文図 5-112～115 は女子について、各表現が持つ待遇表現としての機能負担量をグループごとに示したものである。

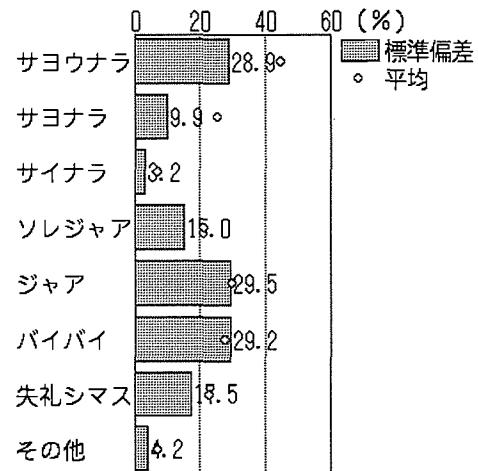
まず男子の結果を見ると、平均値がある程度あり機能負担量が大きな表現としては「サヨウナラ」「じゃア」「バイバイ」がある。このうち「バイバイ」は、〈大阪高校〉で数値が一層高く、他の地域よりも待遇表現としてより積極的に機能している。〈山形中学〉の「サヨウナラ」も他の地域より数値が高く、待遇表現としてより積極的に機能しているようであるが、〔同性先輩〕に対する使用者率が低いことに起因する部分が大きい。〈山形中学〉では、この他、方言形の「マズヨー」「マズノー」「ンダバノー」も待遇表現としての機能負担量が比較的大きい。

これに対し女子は、平均値がある程度あり機能負担量が大きな表現としては「サヨウナラ」「バイバイ」がある。いずれも地域差はあまりない。なお、「じゃア」は男子ほどには待遇表現として機能していない。〈山形中学〉では方言形の「ンダバノー」も待遇表現としての機能負担量が比較的大きい。男子で数値が高かった「マズヨー」「マズノー」は、女子の間では使用者率がそもそも低いた

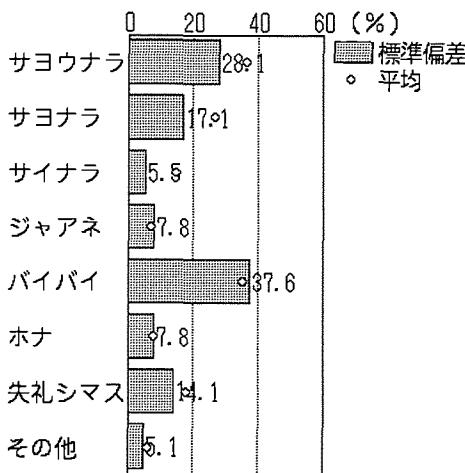
め、待遇表現としての機能負担量も高くない。



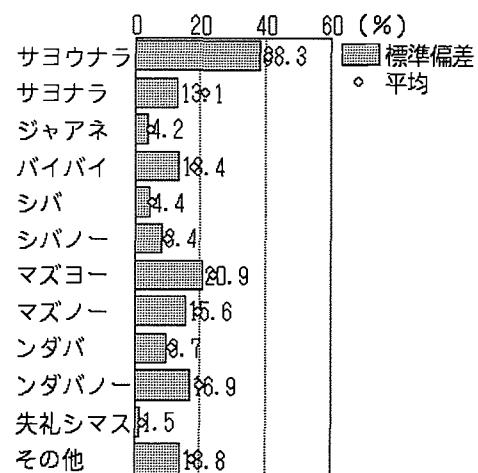
本文図 5-108 別れの挨拶の場面別
使用者率の平均と標準偏差
[東京中学・男子]



本文図 5-109 別れの挨拶の場面別
使用者率の平均と標準偏差
[東京高校・男子]



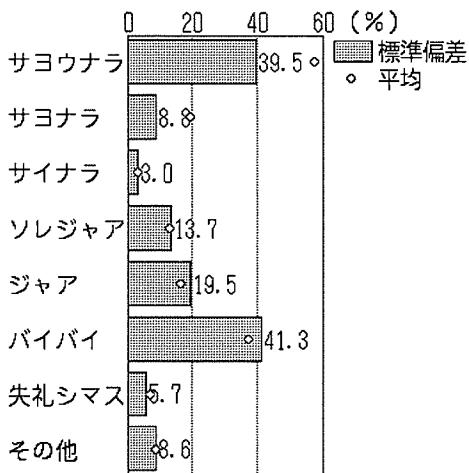
本文図 5-110 別れの挨拶の場面別
使用者率の平均と標準偏差
[大阪高校・男子]



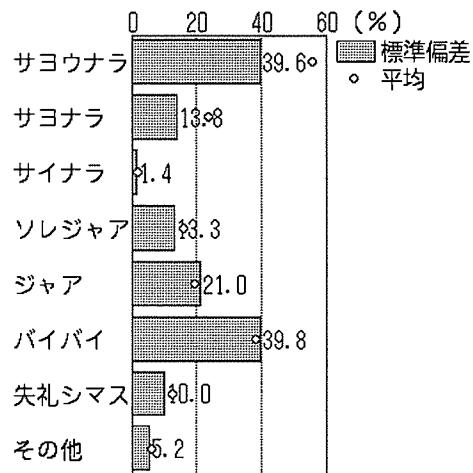
本文図 5-111 別れの挨拶の場面別
使用者率の平均と標準偏差
[山形中学・男子]

5.5.7. 別れの挨拶表現の広がり

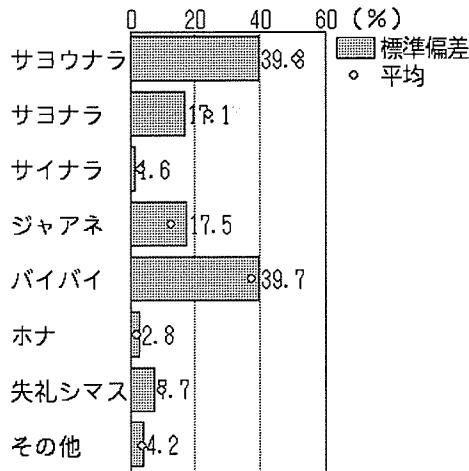
[同性友人] や [異性同級] に対しては、「その他」を選択した回答者がある程度（1～3割）いることについてはすでに報告した。このうち [異性同級] に対しては、中学生を中心に「挨拶をしない」という自由記述が多かったこと、また具体的な語形での回答があった場合は「ジャア」（ないしは「ジャ」）に「ネ」などの終助詞を添えた表現などが多かったことについても併せて報告した。



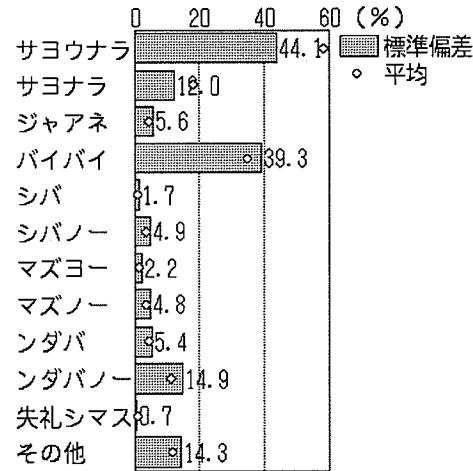
本文図 5-112 別れの挨拶の場面別
使用者率の平均と標準偏差
[東京中学・女子]



本文図 5-113 別れの挨拶の場面別
使用者率の平均と標準偏差
[東京高校・女子]



本文図 5-114 別れの挨拶の場面別
使用者率の平均と標準偏差
[大阪高校・女子]



本文図 5-115 別れの挨拶の場面別
使用者率の平均と標準偏差
[山形中学・女子]

ここでは、[同性友人]に対する場合の「その他」の具体的な語形による回答をもう少し細かいレベルで整理し、選択肢として掲げた表現のほかにどのような表現が学校生活の中で使用されているか、すなわち別れの挨拶表現の広がりを見ることがある。なお「その他」は、すでに報告した自称詞・対称詞・肯定表現でも選択されてはいるが、別れの挨拶ではそれら以上に選択者率が高かったため、こうした分析を加えることとした。「その他」の選択者率は、掲げた選択肢がどれだけ網羅的であったかということとも連動する現象であるので、今後同種の調査を行なう際に、選択肢としてさらにどのような表現が必要かを考える上でも参考になろう。

(1) 東京の場合

東京（〈東京中学〉〈東京高校〉）では、[同性友人]に対する場合、「その他」の選択者率は、〈東京中学〉の男子で3割、女子で2割、〈東京高校〉は男女とも1割半であった。自由記述のうちおもな表現を分類して掲げると次のとおりである。なかばふざけての使用と思われるものまで含め、異なり数で50以上の表現が記入されていた。[同性友人]といった親しい相手に対する場合、じつに多様な表現が、別れの挨拶として使用されていることがわかる。

サヨナラ系：サヨナラーッス、サーナラ、サイナラッキヨ

ジャー・ソレジャー系：ジャーナ、ジャーネ、ソンジャー(ネ), ンジャー(ネ)

バイバイ系：バーイ、バイビー、バイチャ、バイナラ、バイバイキーン

失礼シマス系：(オ先ニ)失礼サセティタダキマス、オ先ニ失礼イタシマス

アバヨ系：アバヨ、サラバ

帰ル系：帰リマス、帰ルネ、帰ルゼ

グッバイ系：グッラック, good by for now

マタ系：マタネ、マタアシタネ

ゴキゲンヨー：ゴキゲンヨー

気オツケテ系：オ氣オツケテ、気オツケテネ、気オツケロヨ

オ疲レサマ・ゴ苦労サマ系：オ疲レサマデシタ、オ疲レ、ゴ苦労サマデシタ

その他：チュース、長生キシロヨ、生キテロヨ、ガンバッテネ、ライライケン、アリガトウゴザイマシタ、など

「その他」の語形の記入数を〈東京中学〉と〈東京高校〉で比較すると、中学生に多く高校生で少なくなっている。高校生の方が選択肢あげたような定型性の高い表現を挨拶ことばとして使用する傾向がより強いのかもしれない。

(2) 大阪の場合

〈大阪高校〉では、[同性友人]に対する「その他」の選択者率は男女とも1割強であった。おもな自由記述は次のとおりである。

ジャー系：ンジャー、ジャーナ、ソレジャー、ホンジャー、ホンジャーネ

ホンナラ系：ホンナラ(ナ), ホンダラ(ナ)

マタ系：マタネ、マタナ、マタコンド、マタアシタ

バイバイ系：バーイ、バイビー、バイチャ、サラバイ、バイナラ、バハハイなど

その他：ゴキゲンヨー、オ疲レサマデシタ、オ先ニ失礼シマス、ツアイツェン、アディオス、トゥース、See you、など

(3) 山形の場合

〈山形中学〉では、シバ(ノー) やマズ(ノー／ヨー), ンダバ(ノー) など方言形を含め多数の選択肢を掲げたのであったが、[同性友人]に対する場合、「その他」は男女とも3割と多かった。おもな自由記述は次のとおりである。

ジャー系：ソレジャー、ンジャー、ジャーノー、ジャーヨー、ンジャーナー

セバ系：セバヨー

シタバ系：シタバノー、シタバヨー

バイバイ系：バーイ，バイビー

その他：グッバイ，マダアシタノー，アシタネ，など

なお，このほかに，〈山形中学〉の「ンジャノー，バイバイ」のように複数の表現を組み合わせたり，〈大阪高校〉では選択肢「ホナ」に終助詞「ナ」「ノ」を書き加えた表現もあった。

5.5.8. 挨拶をしないという言語行動

これまで報告したように，特に〔異性同級〕に対する場合，中学生を中心に，「その他」の自由記述に「挨拶をしない」（何も言わない，無視する，シカトする）という記述が多く，特徴的であった。「挨拶をしない」を積極的に選択肢としなかったためどの程度の生徒が現実にそうであるのかは不明であるが，恐らく少なからぬ中学生は，〔異性同級〕に対してはそもそも挨拶をしないのかもしれない。異性を意識し始めて距離を置こうとする年齢であることと関連した現象と思われる。

なお，広く言えばやはり「挨拶をしない」ということになるが，しかし全く何の反応もしないのではなく，「会釈」や「黙礼」や「（無言で）手をあげる」といった非言語行動での反応を示す記述も少數ながらあった。実際の場面では十分ありうる行動であろう。今回の調査では「言葉で挨拶をする」という前提で質問をしたのであったが，実際の挨拶行動は言語表現のみで実現されるわけには必ずしもないことを，これらの自由記述は示している。

また，「その相手と話したことがない」や「部活をしていない」（〔同性先輩〕に対する場面）など，前提条件の不成立とも言うべき記述も見られた。〈東京中学〉では〔異性同級〕〔校長〕に対して，〈東京高校〉では〔校長〕に対して，そうした記述が多かった。これもまた，言語行動や対人行動以前の現実の一端を示すものであろう。

今後中学生・高校生を対象とした同種の調査を行なう際には，そもそもその相手と現実に接する生徒はどの程度いるのか，またもし接触するとしたら自分から言葉をかける生徒はどの程度いるのか，ということも十分把握しておくことが，「挨拶」という行動を包括的に調べる上では必要であろう。

5.6. 「失礼シマス」の使用場面

前節で報告した別れの挨拶のうち「失礼シマス」という表現は，「サヨウナラ」ほど一般的ではないものの，目上に対する挨拶表現として，中学生から高校生になるに従い使用者率が大きく増える表現であった。「失礼シマス」は成人の間である程度改まった表現として用いられているので，この使用者率の増加は，言語行動の上の成人化の現われと見るべき面が大きいと考えられる。敬語の習得過程にある中学生・高校生にとって，この表現は，年齢や立場の違い，会話場面の違いによる言葉の使い分けを意識するきっかけとなる重要な表現のひとつともなっていよう。

この「失礼シマス」という表現は，別れの挨拶としてだけでなく，部屋に入室・退室する際の改まった表現としても使われる。学校生活の中でも，たとえば職員室や部室へ出入りする際に，改まった表現として使われ始めていることが推測される。

そこで，〈別れの挨拶〉および〈入退室の挨拶〉の表現としての「失礼シマス」を，中学生・高校生がどの程度使っているかをさらに詳しく尋ねることとした。〈別れの挨拶〉の表現としては，前節の設問では状況を特定しなかったが，ここでは「下校時」と特定した。想定する相手は，前節で使用者率の高かった「先生」および「上級生や先輩」とした。一方，〈入退室の挨拶〉としては，場所

を「職員室」とした上で、「入室」の場面と「退室」の場面とに分けて尋ねた。すなわち、全部で4つの場面を想定し、回答者自身が使う場面を選んでもらったのである。なお、これらに加え、それ以外にどのような場面で「失礼シマス」を使うかについて自由記入により回答を求め、使用場面の広がりも探った。ただし回答内容が「1」～「4」に相当する場合は、該当する選択肢に○が付けられたものとみなす処理とした。

この調査項目は、4つのグループに対し同じ質問文と選択肢で調査した。質問文と選択肢を示すと次のとおりである。

「失礼します」ということばを考えてください。このことばは、どんな場合に使いますか？ 次のうちで使う場面に、いくつでもいいですから○をつけてください。

1. 職員室へ用事で入るとき。
2. 職員室を出るとき。
3. 下校時に、先生と別れのあいさつをするとき。
4. 下校時に、上級生や先輩と別れのあいさつをするとき。
5. そのほか → どんなときですか []

結果は資料表 5-6-1～3 および資料図 5-6-1～3 のとおりであった。

(1) 全体的傾向

掲げた4つの場面のうち使用者率が最も高かったのは「職員室への入室」であり、どのグループでもほぼ9割以上の生徒が「使う」と回答した。学校の中で「失礼シマス」が使われる代表的な場面と言える。次いで「職員室からの退室」が4割程度である。同じ職員室であっても、退室時よりも入室時によく用いられる。本報告書の「資料3」によれば、「入室時」は、先生による生徒への指導が行なわれる場合もあるようだ。両場面で差が生じる重要な要因となっていると考えられる。

なお、「職員室への入室」「職員室からの退室」の回答には、「職員室」の部分を「校長室」「準備室」「音楽室」「保健室」「会議室」などに生徒自身が書き換えた回答も含む。現実の使用場面の広がりの一端をうかがうことができる。

「職員室からの退室」については、調査票の余白に「失礼シマシタ」との書き込みがあるものもある。「職員室への入室」は「失礼シマス」だが、「職員室からの退室」は「失礼シマシタ」である、という使い分けの意識がうかがえる。職員室で用事をしている先生方をわずらわせたことに対する謝りの意味を込めた使用なのかもしれない。

これら「職員室への入室」「職員室からの退室」に比べると、「下校時に先生へ」や「下校時に先輩へ」の数値は低く、多くても1～2割程度にとどまる。ただし、中学生よりも高校生の数値が高く、この間に使用が増加することが推測される。なお、高校生について両場面を比べると、「下校時に先生へ」よりも「下校時に先輩へ」の方が数値が高い。「先生」よりもむしろ「先輩」に対する表現として用いられる傾向が見られる。この傾向は、前節で報告した設問でも認められた。

(2) 男女差

男女別に見ると、次の傾向が認められる。

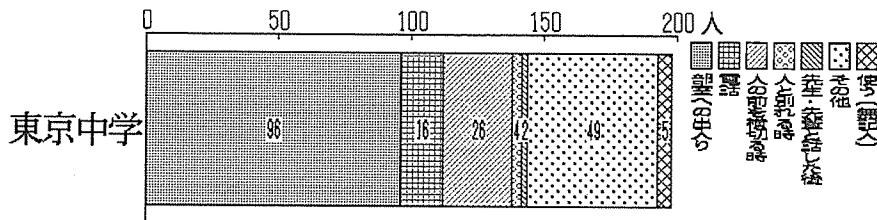
「職員室への入室」は男女ともに数値が高いが、女子の数値は極めて高く、全員に近い生徒が「失礼シマス」を使用している。一方、「下校時に先生へ」や「下校時に先輩へ」は、中学生・高校生ともむしろ男子の方が数値が高い。この傾向は前節の設問でも認められる。こうした相手に対しては、

女子の場合は「サヨウナラ」が男子以上に一般的なためであろう。

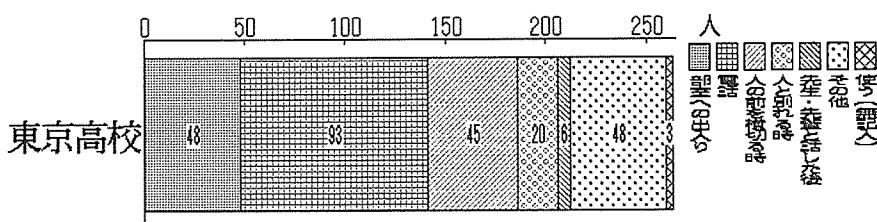
(3) 「その他」に見る使用場面の広がり

掲げた選択肢の回答状況からはおおよそ以上の傾向が観察できるが、使用場面の広がりを探るべく設けた「その他」の記入により、「失礼シマス」の使用場面の広がりを見てみよう。

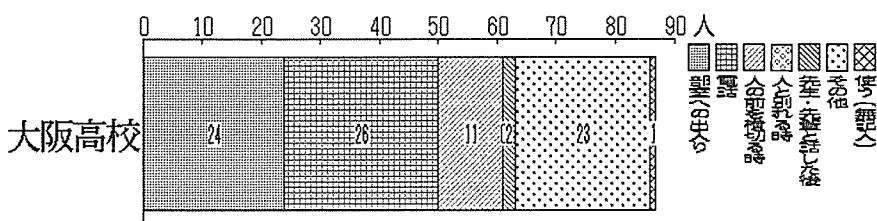
「その他」の選択者率は約1割であるが、その内訳を分類すると本文図5-116～119のとおりである。



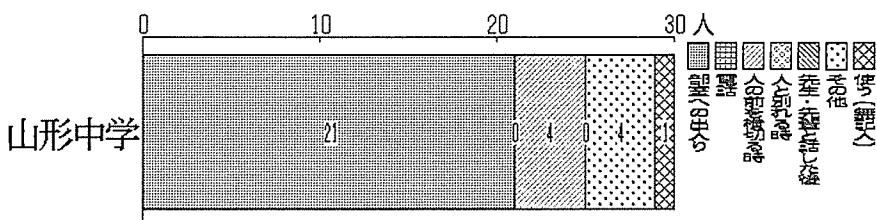
本文図 5-116 「失礼シマス」を使う場面の「その他」の内訳 [東京中学]



本文図 5-117 「失礼シマス」を使う場面の「その他」の内訳 [東京高校]



本文図 5-118 「失礼シマス」を使う場面の「その他」の内訳 [大阪高校]



本文図 5-119 「失礼シマス」を使う場面の「その他」の内訳 [山形中学]

比較的多いのは「部室への出入り」「電話」「人の前を横切る時」と分類される回答である。「部室」

は、選択肢として設けた「職員室」とともに、「失礼シマス」がよく用いられる場所であることがうかがえる。「電話」という回答は、携帯電話が普及する以前に実施した今回の調査としては、学校生活の中での使用状況は考えにくい。おそらく家庭での電話の応対を想定しての回答と思われる。中学生よりも高校生で数値が高いが、電話を切る場面で「失礼シマス」という表現を使用することが定着しつつあることを示しているものと考えられそうだ。

回答数は少ないが、やはり学校生活以外の場面での使用と考えられるものに、「友人の家に行った時」「アルバイトの時」などの回答がある。

5.7. 「センパイ（先輩）」の使用

5.7.1. 「センパイ」の使用意識

前節では、場面の改まりや上下関係を意識した言葉として、中学生・高校生の頃から使われ始めこの時期を特徴づける「失礼シマス」という表現の使用状況を報告した。本節では、生徒同士の上下関係において、やはりこの時期を特徴づける「センパイ」という呼びかけ表現について、回答者自身どの程度使っているのか、また周りの生徒たちの使用状況をどう意識しているのかを質問した結果を報告する。

この「センパイ」については「5.2.」の対称詞でも調査項目としたが、そこでは回答者に「相手のことを何と呼んでいるか」と質問し、「呼びかけ」と「言及」を特に区別しなかった。ここでは、例文を示しつつ「呼びかけ」としての使用に限定し、自身で使用するか否か、男子と女子でどちらが使用していると意識しているかを質問した。

この調査項目は、4つのグループに対し同じ質問文と選択肢で調査した。質問文と選択肢を示すと次のとおりである。

<p>「先輩（せんぱい）」ということばを考えてください。たとえば「先輩、おはようございます。」「佐藤先輩、ボール持ってきました」などというように、呼びかけるときの言い方で「先輩」を使いますか？ 次のなかから一つ選んでください。</p>			
・あなた自身は→	1. 使う	2. 使わない	
・学校全体では→	1. 男子生徒が使う	2. 女子生徒が使う	3. 男子も女子も使う
			4. だれも使わない

男子高校・女子高校では男女差を問う「学校全体では」の回答は求めなかった。

(1) 回答者自身の使用状況

まず「あなた自身は」の設問で回答者自身の使用状況を質問した結果を見てみる。

結果は資料表 5-7-1 および資料図 5-7-1-1～3 のとおりであった。

〈東京中学〉〈東京高校〉〈大阪高校〉では7～8割の生徒が「センパイ」を自分自身で「使う」と回答している。全体として多くの生徒が「センpai」を使用していることがわかる。〈山形中学〉では使用者率が低くなるが、それでも約5割の生徒は使用している。

男女で比べると、女子の「使う」の回答がどのグループでも約8割に達するのに対し、男子は、〈山形中学〉を除き、5～7割にとどまる。こうした違いは「5.2.」の対称詞でも認められ(ただし調査対象は〈東京中学〉と〈東京高校〉), 得られた数値も両設問で比較的近い。「センpai」は相対的に女子がよく使う表現であることが、ここでも確認される。

〈山形中学〉の男子の数値の低さが注目される。〈山形中学〉の男子には、自称詞などで、友達に

対する場合と表現を変えない傾向が認められた。つまり、上級生であっても友達と同じように意識しているようだが、それが「センパイ」の不使用にも現われているのであろう。

(2) 学校全体での使用状況

次に、「学校全体では」の設問により、学校全体としての「センパイ」の使用状況、特に男女差の有無について回答者がどう意識しているか、すなわち男子が使っていと意識しているか、それとも女子が使っていと意識しているかを見てみよう。

結果は資料表 5-7-2 および資料図 5-7-2-1～3 のとおりであった。

最も多い回答は「男女とも使う」であり、〈山形中学〉を除き、5～7割を占める。先の「あなた自身は」への回答によれば、全体としては男女とも「使う」の数値が高く、おおむね実態に即して意識されていると言えそうだ。〈山形中学〉ではむしろ「女子が使う」の数値が8割と高いが、これも実態を反映した結果と言える。

男子による使用が少なかった〈山形中学〉以外について、「男子が使う」と「女子が使う」を比べると、「女子が使う」の方が数値が高い傾向にある。先の「あなた自身は」の結果によると、使用者率は男子よりも女子の方が一層高く、その違いが意識された結果と見ることができる。

5.7.2. 部（クラブ）活動と「センパイ」の使用

「センパイ」という呼びかけの表現は、同じ組織に先に所属した人物を示す表現が呼びかけとして使用されたものである。ここから考えると、上下関係を有する集団に属している回答者ほど「センパイ」の使用者率が高くなることが予想される。

学校社会の中で上下関係を有する代表的な集団としては、委員会活動、部（クラブ）活動があるが、ここでは人間関係がより緊密であると考えられる部（クラブ）活動に注目し、それへの参加（所属）と「センパイ」の使用の関係を見てみることにする。

なお、同じく部（クラブ）活動と言っても、上下関係や帰属意識が濃厚な集団とそれほどでもない集団とでは、「センpai」の使用者率が異なるかもしれない。今回の調査では、回答者が所属する集団の特徴まで質問しなかったため深い分析はできないが、所属する部（クラブ）により「センpai」の使用者率に違いがあるかないかを見てみる。

(1) 部（クラブ）活動への参加と「センpai」の使用

回答者の部（クラブ）活動への参加については、運動部と文化部に分けて質問した。「2.2.2.(5) 課外活動等への参加」で報告したように、いずれかに所属する回答者は、〈東京中学〉が9割、〈東京高校〉が7割、〈大阪高校〉が5～6割、〈山形中学〉はほぼ全員であった。運動部と文化部に分けると、運動部への参加は全体として約半数、文化部への参加は全体として2～3割程度にとどまった。

運動部と文化部に分けて、部（クラブ）活動への参加状況と「センpai」の使用の関係を示すと次の本文表 5-1～4 のようであった。

運動部について、「所属あり」の「使う」と「所属なし」の「使う」を比較すると、〈山形中学〉を除き、全般的に男女とも「所属あり」の「使う」の方が数値が高めである。つまり、部（クラブ）活動に参加している人ほど「センpai」をよく使う傾向が認められる。これに対し文化部は、同様に比較しても、運動部ほど明確な違いは認められず、〈東京中学〉の男子のように「所属なし」の方が「使う」の数値が高い場合もある。部（クラブ）活動への参加と言っても、運動部への参加は「セ

ンパイ」の使用と幾分相関があるのに対し、文化部への参加はそれがあまり認められないようである。

本文表 5-1 部（クラブ）活動への参加と「センパイ」の使用〔東京中学〕

() 内は横%

	運動 部				文 化 部			
	所属あり		所属なし		所属あり		所属なし	
	使う	使わない	使う	使わない	使う	使わない	使う	使わない
男子	556 人 (59.7)	375 (40.3)	151 (43.9)	193 (56.1)	134 (45.3)	162 (54.7)	573 (58.5)	406 (41.5)
女子	575 (90.0)	64 (10.0)	412 (78.2)	115 (21.8)	428 (81.2)	99 (18.8)	559 (87.5)	80 (12.5)

本文表 5-2 部（クラブ）活動への参加と「センパイ」の使用〔東京高校〕

() 内は横%

	運動 部				文 化 部			
	所属あり		所属なし		所属あり		所属なし	
	使う	使わない	使う	使わない	使う	使わない	使う	使わない
男子	491 人 (73.6)	176 (26.4)	306 (63.9)	173 (36.1)	128 (73.6)	46 (26.4)	669 (68.8)	303 (31.2)
女子	431 (91.3)	41 (8.7)	479 (82.2)	104 (17.8)	299 (88.5)	39 (11.5)	611 (85.2)	106 (14.8)

本文表 5-3 部（クラブ）活動への参加と「センパイ」の使用〔大阪高校〕

() 内は横%

	運動 部				文 化 部			
	所属あり		所属なし		所属あり		所属なし	
	使う	使わない	使う	使わない	使う	使わない	使う	使わない
男子	140 人 (60.6)	91 (39.4)	114 (47.3)	127 (52.7)	30 (61.2)	19 (38.8)	224 (53.6)	194 (46.4)
女子	144 (92.3)	12 (7.7)	278 (75.3)	91 (24.7)	114 (87.0)	17 (13.0)	308 (78.2)	86 (21.8)

本文表 5-4 部（クラブ）活動への参加と「センパイ」の使用〔山形中学〕

() 内は横%

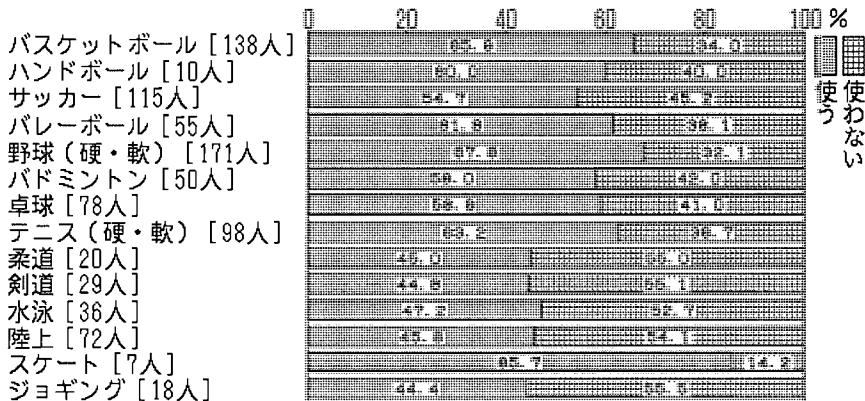
	運動 部				文 化 部			
	所属あり		所属なし		所属あり		所属なし	
	使う	使わない	使う	使わない	使う	使わない	使う	使わない
男子	10 人 (6.5)	143 (93.5)	2 (28.6)	5 (71.4)	2 (28.6)	5 (71.4)	10 (6.5)	143 (93.5)
女子	104 (79.4)	27 (20.6)	43 (91.5)	4 (8.5)	45 (91.8)	4 (8.2)	102 (79.1)	27 (20.9)

(2) 所属部（クラブ）と「センパイ」の使用

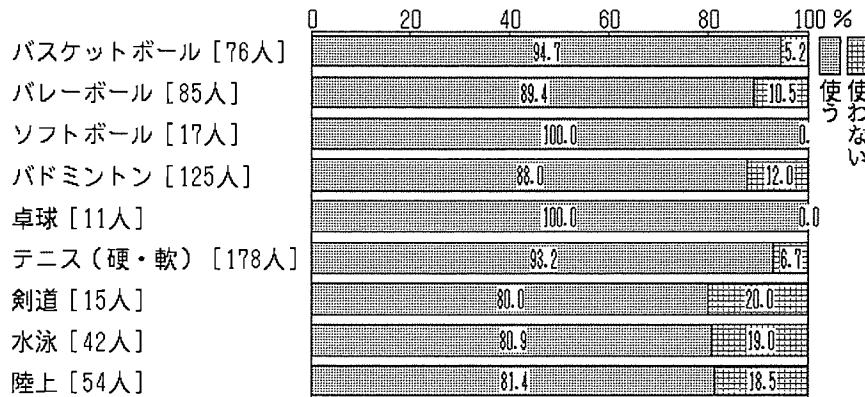
部（クラブ）により上下関係や帰属意識が濃厚な集団とそれほどでもない集団とがあり、「センパイ」の使用者率が異なるかもしれない。最後に、そうしたことによる違いがあるかないかを見てみる。ただし、各学校の各部（クラブ）ごとにばらしたのでは人数が少なくなり明確な傾向が見にくくなるので、ここでは学校の区別はせず、同じ部（クラブ）ごとまとめて「センパイ」の使用傾向を見ることにする。なお、ここでは、回答者数が他のグループよりも比較的多く、従ってデータも

ある程度安定していると考えられる〈東京中学〉の場合について、運動部と文化部、男女に分けて示すこととする。

結果は本文図 5-120～123 のとおりであった。グラフの〔 〕内は、該当する回答者の人数である。この数値が低いものは注意して読む必要がある。

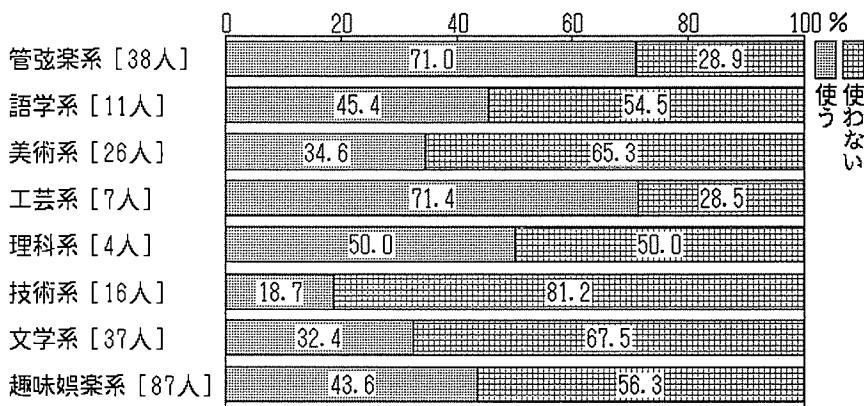


本文図 5-120 所属クラブと「センパイ」の使用の関係（運動部）[東京中学・男子]

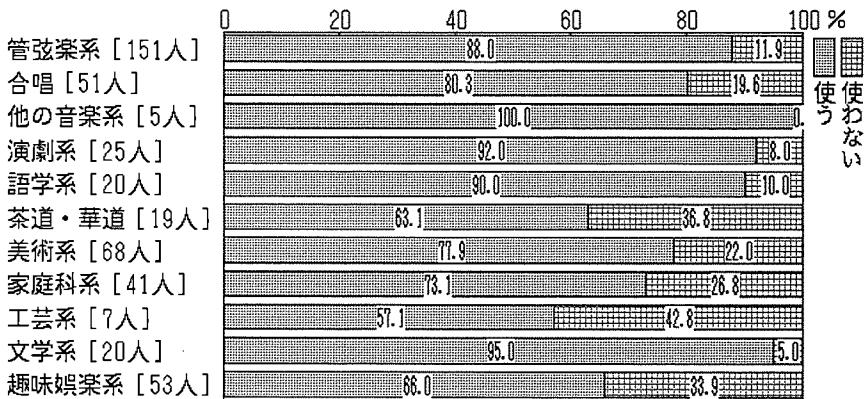


本文図 5-121 所属クラブと「センpai」の使用の関係（運動部）[東京中学・女子]

これによると、「センpai」の使用は、文化部よりも運動部が多く、また男子よりも女子に多いという、これまで指摘した傾向を除けば、部（クラブ）活動間での明確な違いは特に認められないようである。



本文図 5-122 所属クラブと「センパイ」の使用の関係 (文化部) [東京中学・男子]



本文図 5-123 所属クラブと「センpai」の使用の関係 (文化部) [東京中学・女子]

5.8. 身内尊敬

自己や自分の側の人物（家族や職場の同僚など）のことを外部の人に伝える際には、たとえ目上であっても謙譲表現を使うということは、日本語社会において広く共有されている言語運用上の規範と言ってよいだろう。今回の調査でも、アンケート調査では特に調査項目とはしなかったが、本報告書に統けて刊行を予定する面接調査では、生徒たちが自分の身内である母親のことを担任の先生に伝える際、「母親」の部分を「ハハ」と言うか否か、また母親の動作を謙譲表現を用いて表現するか否かを調査した。

これに関連し、アンケート調査では、関西圏でよく見られる逆の現象、すなわち身内の人物（ただし目上）に対する尊敬表現の使用について、〈大阪高校〉でのみ調査した。共通語では、年齢や立場等による「上下の軸」と、集団の圏域等による「内外の軸」が、敬語使用を左右する大きな要因となっているが、両者が対立する状況においては「内外の軸」が優先され、たとえ自分より目上であってもよその人に対する場合は尊敬語を用いずむしろ謙譲語を用いるのが規範とされている。これに対し関西圏では、両者が対立する場合はむしろ「上下の軸」が優先され、よその人に対する場

合でも「オトウハンガユウテハリマシタ」のように、目上の身内に尊敬表現を用いることが珍しくない。「身内尊敬」とか「身内敬語」と呼ばれる現象である。

アンケート調査では、自分の身内である父親や母親のことを担任の先生に言う場合、方言的な尊敬表現「ハル」を使うか否かを調べた。

質問文と選択肢を示すと次のとおりである。質問は2問あるが、それぞれについて回答を求めた。

【〈大阪高校〉】

あなたのお父さんやお母さんなどを、担任の先生に話すとき、次の下線部のような言い方をしますか？
することができれば○、しなければ×を付けてください。

1. 「今日の保護者会には来られへん、ゆうてはりました。」
2. 「毎日、京都まで通勤してはります。」

結果は資料表5-8-1および資料図5-8-1-1以下のとおりであった。

「ゆうてはりました」「通勤してはります」とともに、担任に向って「言う」と回答した生徒は非常に少なく、わずか数パーセントにとどまった。「身内尊敬」が使われるときの関西圏においても、学校生活の中で生徒が担任と話をするような場面で、自分の家族のことを「身内尊敬」をまじえて表現することは極めて少ないようだ。共通語的な敬語使用が影響を与えている面が少くないかも知れない。

5.9. アクセントの使い分け意識

方言が使用される地域においては、地元の心安い人と話をするときやふだん飾らずに話をする場面では主として方言を用い、知らない他所の人と話をするときや改まって話をする場面では主として共通語を用いるというように、方言と共通語を相手や場面により使い分ける現象がいろいろな地域で多少なりとも観察される^(注1)。場面により表現を使い分けるわけであるから、これは敬語の使い分けに準ずる現象と言える。

先に報告した自称詞・対称詞・肯定表現・別れの挨拶の調査項目にも、〈大阪高校〉〈山形中学〉では選択肢に方言形式を含め、その選択状況も併せて見たのであるが、方言と共通語の使い分けはそうした単語レベルのみにとどまらず、文法レベルや音声レベルでも観察されうる^(注2)。

そこで、本調査では、音声レベルのうち韻律的特徴（単語アクセント）について、方言アクセントと共通語アクセントを学校生活の中で使い分けているかどうかを、〈大阪高校〉で調べた。もっとも調査方法は、これまでの調査項目と同様、質問紙への自記式回答によるものであり、実際の観察にもとづくものではない。すなわち、得られた回答は「実態」というよりも「使っていると思う」という回答者の「意識」である（意識と実態が一致しないこともあります）。また、アクセントの違いは表記の違いとして反映されないため一般の人にはふだん意識されにくいと推測され、どの程度正確に内省してもらえた回答であるか不確かな面もある。そうした限界が伴う調査ではあるが、意識レベルでいったいどうなのかを調べる試みをした。

質問文と選択肢は次のとおりである。ここでは相手というよりも場面による使い分け（改まった場面で用いるアクセント）を調査した。

【〈大阪高校〉】

授業で指名されて答えるとき、あるいは生徒会やクラスの討論会で発言するとき、あなた自身のことばのアクセントはふだんと比べてどうですか？あてはまるものに○を付けてください。

1. ふだんの（大阪、関西の）アクセントのままだと思う。
2. 標準語のアクセントに変わることもある。
3. アクセントのことはわからない。

結果は資料表 5-9 および資料図 5-9-1～3 のとおりであった。なお凡例の「方言アクセント」は選択肢 1（ふだんのアクセントのまま）のことである。

これによると、「（アクセントのことは）わからない」を除いた部分、すなわち回答者なりに一応判断した者の割合は 8 割に達する。「調査への回答」というなかば強制的な作業であったことによるが、ふだん意識されにくくと推測されるアクセントについても多数からの回答が得られた。

その内訳は、対象者全体を母数とすると、「方言アクセント」（=使い分けない）が 4 割、「標準語アクセント」（=使い分ける）が 3 割である。学校生活において少なからぬ生徒が、アクセントについても場面により使い分けをしている（と意識している）ことがうかがえる。なお、少数ではあるが「2つ以上に○」が 1 割弱ほどある。選択肢 1 と選択肢 2 を選択したケースであるが、これは結局選択肢 2（使い分ける）に吸収される回答である。

男女別で見た場合、男子は「方言アクセント」（=使い分けない）が 4～5 割、「標準語アクセント」（=使い分ける）が 2～3 割であるのに対し、女子は「方言アクセント」（=使い分けない）が 4 割、「標準語アクセント」（=使い分ける）が 3 割強である。いずれも「方言アクセント」（=使い分けない）の方が優勢ではあるが、2 つの回答のバランスで見た場合、男子は「方言アクセント」にかなり傾くのに対し、女子のそれへの傾きは緩い。つまり、今回の調査によれば、アクセントの使い分けは、〈大阪高校〉では相対的に男子よりも女子に多い現象と言えそうだ。

（注 1） 国立国語研究所（1990）では、関西地域に見られるこうした現象について、言語意識と言語使用の面から計量的に調査している。

（注 2） 文法レベルの使い分けについては、アンケート調査と並行して行なった面接調査の結果から、〈山形中学〉の場合を中間報告した（尾崎喜光 1992 a）。また、音声レベルの使い分けについては、国立国語研究所が 1992 年に調査した山形県鶴岡市の場合の中間報告がある（尾崎喜光 2001 a）。

5.10. 話す時の声の調子

場面により使い分けがなされるのは語彙的要素だけにとどまらないことについては前節で述べ、実際〈大阪高校〉においては、韻律的特徴の一つである単語アクセントが、学校生活の中で、方言アクセントと共に語アクセントとで使い分けがなされている（と意識されている）場合があることを報告した。

韻律的特徴には、こうした単語アクセントのほかに、声の大きさや声の高さといった、単語の意味の区別というよりも文全体の意図や評価意識の表明の区別に寄与する特徴もある。こうした特徴も、たとえば晴れがましい改まった場では声を普段より高くする（あるいは逆に低くする）といったように、場面により使い分けがなされていることが考えられる。つまり、単語アクセント以外の韻律的特徴すなわち声の調子も、待遇表現として機能している可能性が考えられるのである。確かに現実の会話場面を観察すると、発話の丁寧さを実現する上で、こうした特徴は重要な要素となっていることが少なくないようである（注 1）。そこで、この点について、生徒たちが学校生活において韻

律的特徴についても使い分けをしているかどうか（改まった場面で韻律的特徴を変えているかどうか）を、意識の面からさぐる試みをした。

質問文と選択肢は次のとおりである。本書の末尾に「資料2」として掲げた〈東京中学〉の調査票では「I.8.」が該当する。改まった場面を「参観日の授業で答えるとき」とし、比較の基準は「ふだん友達と話すとき」とした。質問文では韻律的特徴のことを「声の調子」と表現した。韻律的特徴は、質問文にも示したように、(1)声の大きさ、(2)声の高さ、(3)声の明瞭さ、(4)話の早さ、の4つの特徴に分けて質問した。このうち「声の高さ」は、「声の大きさ」と誤解されることもあるので、選択肢の中で説明を補った。なお、韻律的特徴は、場面の改まりだけでなく、話者が置かれた場面に対する緊張の度合いにより左右されるところもあると考えられる。そこで、最後の設問(5)では、調査で設定した改まった場面において回答者がどの程度緊張するかを尋ねた。まずこの最後の設問への回答状況から報告する。

<p>話すときの声の調子について質問します。参観日の授業で、先生に指名されて答えるときは、ふだん友達と話すときと比べて声の調子はどうなりますか？</p> <p>つぎのそれぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。</p>			
<p>(1) 声の大きさは……</p> <p>1. ふだんより大きくなる 2. ふだんと同じ 3. ふだんより小さくなる 4. わからない</p>			
<p>(2) 声の高さは……</p> <p>1. ふだんより高く（高音に）なる 2. ふだんと同じ 3. ふだんより低く（低音に）なる 4. わからない</p>			
<p>(3) 声の明瞭（めいりょう）さは……</p> <p>1. ふだんよりはっきりした声になる 2. ふだんと同じ 3. ふだんよりはっきりしない声になる 4. わからない</p>			
<p>(4) 話の早さは……</p> <p>1. ふだんより早口になる 2. ふだんと同じ 3. ふだんよりゆっくりした調子になる 4. わからない</p>			
<p>(5) そういうとき緊張（きんちょう）するほうですか？</p> <p>1. とても緊張する 2. すこし緊張する 3. べつに緊張しない</p>			

5.10.1. 改まった場面での緊張度

結果は資料表5-10-5および資料図5-10-5-1～3のとおりであった。

「緊張する」が2～3割、「少し緊張する」が5～6割、「緊張しない」が2割であり、「少し緊張する」が半数以上を占める。現代は街頭でマイクを突然差し出されても物おじせずインタビューに答える人が多い時代であるが、こうした傾向がより強いと推測される若年世代の中学生・高校生であっても、授業参観のような改まった場で発言する場合に「緊張しない」と回答する生徒は2割にとどまる。多くの生徒にとっては、多少なりとも緊張を伴う場面であることが分かる。従って、以下の韻律的特徴についての回答も、ふだんとの違いは、場の改まりだけでなく、置かれた場での緊張から生じている可能性もある。

5.10.2. 改まった場面での韻律的特徴

(1) 声の大きさ

結果は資料表 5-10-1 および資料図 5-10-1-1～3 のとおりであった。

たとえば一対一で話をするような場合は、改まるとむしろ声が小さくなることもあろうが、ここで設定した教室で発言するような状況であれば、改まりに関係するのは、教師をはじめとする参加者全員にしっかりと聞き取れる「大きな声」の方であると考えられる。結果を見ると、こうした場面でふだん友達と話すときよりも声が「大きくなる」と回答した生徒の割合は非常に少なく、「同じ」が5割、「小さくなる」が3～4割を占める。友達と話すときよりも声が小さくなるというのは緊張のためであろうか。「小さくなる」の数値は、男女別に見ると女子の方が高い。こうした改まった場面で「大きな声」で発言するという言語行動は、生徒たちの間であまり見られない。なお、参加者全員にしっかりと聞き取れるかどうかということで言えば、友達と話すときとそれほど声の大きさを変えなくとも、学校の教室くらいの広さであれば実際にはかなり聞き取れるという現実もある。つまり、非常に広い部屋で発言する場合は別として、教室程度の広さの空間であれば、声の大きさはそもそも改まりにあまり関与していないという可能性もある。

(2) 声の高さ

結果は資料表 5-10-2 および資料図 5-10-2-1～3 のとおりであった。

野元菊雄（1974）の観察によれば、日本人の成人女性は改まったとき声を高く発話する傾向があるとのことであり、改まりに関係るのは「高い声」の方であるようだが、こうした場面でふだん友達と話すときよりも声が「高くなる」と回答した生徒は1割前後にとどまる。一方「低くなる」も1割程度にとどまり（〈山形中学〉は2割）、「同じ」が6割、そして「わからない」が2割を占める。「高くなる」にも「低くなる」にも顕著な片寄りはなく、また「同じ」「わからない」が大きな割合を占めていることからすると、全体として声の「高さ」は改まりに関わるものとは意識されていないようである。なお、男女別に見た場合、やはり「同じ」「わからない」が多いのであるが、それを除いた部分に注目すると、男子は「低くなる」に、逆に女子は「高くなる」に傾く（〈山形中学〉を除く）。男女を合計すると相殺されるが、男子では「低い声」が、逆に女子では「高い声」が改まりに関係すると意識される部分が若干あるのかもしれない。ただし、声の高さは、こうした場面での緊張の度合いともおおいに関係すると推測されるので（多少なりとも緊張する回答者は8割）、純粹に改まりが関わるのはどの程度であるか見極めが難しい。

(3) 声の明瞭さ

結果は資料表 5-10-3 および資料図 5-10-3-1～3 のとおりであった。

日常生活の中では声を明瞭にしないことが改まりに結びつくような状況もある（弔いの挨拶など）、ここで設定した教室で発言するような状況であれば、改まりに関係るのは、教師をはじめとする参加者全員がしっかりと聞き取れる「明瞭な声」の方であると考えられる。こうした場面で、ふだん友達と話すときよりも声が「はっきりする」と回答した生徒は1割前後にとどまり、「同じ」が5～6割、「はっきりしない」が2割を占める。「わからない」の回答も1～2割あり、「同じ」の数値の高さと考えあわせると、声の明瞭さを積極的に改まりに関係させる回答は全体として少ない。その少ない回答の中での張り合い関係を見てみると、「はっきりする」よりも「はっきりしない」に男女とも傾く。友達と話すときよりも声が明瞭でなくなるのは緊張のためであろうか。

(4) 話の早さ

結果は資料表 5-10-4 および資料図 5-10-4-1~3 のとおりであった。

野元菊雄（1974）は、早く話す方がおそらく丁寧でないだろう（ゆっくり話す方が丁寧だろう）と指摘する。参観日の場面で答えるとき、ふだんよりも「ゆっくりになる」と回答した生徒の割合は1割前後にとどまり、「同じ」が6割、「早口になる」が1~2割を占める。「わからない」の回答も1割あり、「同じ」の数値の高さを考えあわせると、話の早さを丁寧さに積極的に関連させる回答もやはり全体として少ない。その少ない回答の中での張り合い関係も、「早口になる」「ゆっくりになる」いずれにも顕著な片寄りはない。全体として話の「早さ」は改まりに関わるものとは意識されていないようである。なお、「早口になる」とする回答は、こうした場面での緊張の度合いと関係するものであろう。

(5) まとめ

以上、韻律的特徴を声の大きさ・声の高さ・声の明瞭さ・話の早さの4つの特徴に分け、参観日という改まった場面での状況について、ふだん友達と話をする状況と比較する形で、こうした特徴の使い分けの有無を見てきたのであるが、全体的に両場面の間には大きな違いは認められなかった。総じてこうした特徴は、改まりに関わるものとはあまり意識されていないようである。「参観」という場面は、日常の学校生活（授業場面）と比べると確かに改まった場面と言えようが、教室という比較的狭い空間で行なわれる言語行動であり韻律的特徴をそれほど調整する必要がないのかもしれないこと、さらには設定した「参観」の場面が生徒たちにとってじつはそれほど改まるべき場面と意識されていないかもしれないことが、日常の観察と必ずしも一致しない結果をもたらしたのかもしれない。

（注1） 本調査の展開として国立国語研究所がその後実施した成人の敬語意識に関する面接調査では、回答者からひとりおり回答が得られたのち、「言い方にもりますね」というコメントが本人から続けて得られることが少なからずあった。この「言い方」とはさまざまな韻律的特徴を指していると考えられる。なお、前川喜久雄・吉岡泰夫（1997）は、韻律的特徴が表現の丁寧さとして機能している面があることを実験的方法により明らかにしている。

5.11. 個人の中での言葉遣いの変化

以上では、調査当時の中学生・高校生が、学校生活の中で敬語をどのように用い、どのように意識しているかという〈現状〉について、さまざまな観点から調査した結果を報告してきた。しかし、当然ではあるが、こうした〈現状〉は生徒たちの上に突如として現われたものではなく、小学校入学から調査当時までの学校生活の中でしだいに形成され定着したものである。個人の言語使用の背景には、こうした「使用語彙化」というプロセスが存在するわけであるが、特に敬語は、多様な人間関係の中で実践的に形成・定着していく面が少なくない。

そこで最後に、〈現状〉というよりも使用語彙化という側面に焦点を当てた調査の結果を報告する。ただし本調査では、使用語彙化のプロセスそのものではなく、現在（調査当時）とそれ以前とを比較した場合、各敬語表現の使用者率がどの程度増加するか（すなわちその間どの程度使用語彙化されるか）という観点から調査した。特に、話題とする第三者に対する敬語使用に焦点を当て、その人物に対し現在（調査当時）その表現を使っているかどうか、また以前（高校生に対しては「中学校時代」、中学生に対しては「小学校時代」）その表現を使っていたかどうかを尋ね、その間の異なりを見た。

〈東京中学〉での質問文と選択肢を示すと次のとおりである。本書の末尾に「資料2」として掲げた〈東京中学〉の調査票では「II. 11.」が該当する。なお、高校生を対象とした質問文では、「小学校時代」は「中学校時代」に、「中学生としての」は「高校生としての」に、「いま、中学で」は「いま、高校で」にそれぞれ置き換えてある。

具体的な設問は次の(1)～(9)のとおりである。(1)～(4)は学校の先生を話題にする時の表現、(5)～(9)は上級生を含む生徒を話題にする時の表現を見たものである。

小学校時代と比べて、中学生としてのあなたの今のことばづかいはだいぶ変ったのではないかと思います。
次にあげるいろいろな言い方は、小学校時代には使っていましたか？ また、今はどうですか？ あてはまる
ものに○をつけてください。

- (1) 佐藤という先生のことを、友人に向かって「佐藤さんは休みだ」
 　・小学校時代に → [1. 使っていた 2. 使わなかった]
 　・いま、中学で → [1. 使う 2. 使わない]
- (2) 佐藤という先生のことを別の先生に対して「佐藤先生はお休みです」
 　・小学校時代に → [1. 使っていた 2. 使わなかった]
 　・いま、中学で → [1. 使う 2. 使わない]
- (3) 佐藤という先生のことを、友人に向かって「佐藤は休みだ」
 　・小学校時代に → [1. 使っていた 2. 使わなかった]
 　・いま、中学で → [1. 使う 2. 使わない]
- (4) 先生に対して「先生が帰られたあと雨がやみました」
 　・小学校時代に → [1. 使っていた 2. 使わなかった]
 　・いま、中学で → [1. 使う 2. 使わない]
- (5) 授業中、先生に答えるとき友人のことを「さっき鈴木くんが言ったように」
 　・小学校時代に → [1. 使っていた 2. 使わなかった]
 　・いま、中学で → [1. 使う 2. 使わない]
- (6) 上級生（男子）のことを「田中さん」「正雄さん」とサンづけで呼ぶ
 　・小学校時代に → [1. 使っていた 2. 使わなかった]
 　・いま、中学で → [1. 使う 2. 使わない]
- (7) 同級生（男子）のことを「鈴木くん」「次郎くん」とクンづけで呼ぶ
 　・小学校時代に → [1. 使っていた 2. 使わなかった]
 　・いま、中学で → [1. 使う 2. 使わない]
- (8) 同級生（女子）のことを「山田さん」「春子さん」とサンづけで呼ぶ
 　・小学校時代に → [1. 使っていた 2. 使わなかった]
 　・いま、中学で → [1. 使う 2. 使わない]
- (9) 部（クラブ）活動の先輩や上級生のことを「センパイ」と呼ぶ
 　・小学校時代に → [1. 使っていた 2. 使わなかった]
 　・いま、中学で → [1. 使う 2. 使わない]

(1)～(9)の順序は〈東京中学〉と〈山形中学〉のものであり、〈東京高校〉と〈大阪高校〉では(1)(2)(3)(4)(5)(9)(6)(7)(8)の順とした。女子高校では(6)～(7)の回答は求めなかった。逆に男子高校では(8)の回

答は求めなかった。〈東京高校〉と〈大阪高校〉で順序を多少変えたのは、この男子高校・女子高校での回答に配慮したことによる。なお〈大阪高校〉では、方言的事情を考慮し、(1)の「佐藤さんは休みだ」は「佐藤さん（佐藤はん）は休みや」に、(3)の「佐藤は休みだ」は「佐藤は休みや」に、(5)の「さっき鈴木くんが言ったように」は「さっき鈴木くんが言うとったように」にそれぞれ微修正を加えた。さらに(4)に関連し次の方言形式の敬語使用も尋ねた（提示順序は(3)と(4)の間）。

先生に対して「先生が帰りはったあと雨がやみました」

- ・小学校時代に → [1. 使っていた 2. 使わなかつた]
- ・いま、中学で → [1. 使う 2. 使わない]

結果は資料表 5-11-1 および資料図 5-11-1-1 以下のとおりであった。

5.11.1. 先生に対するサンづけの使用

設問(1)により、友人に向かって佐藤という名前の先生を「佐藤さんは休みだ」のようにサンづけで呼んでいるか（呼んでいたか）を尋ねた。

生徒が先生に対し直接面と向かって呼びかける時は敬称の「先生」を用いることが一般的だが（実際次の調査項目の結果を見るとそのようである），当の先生がその場にいざ友達同士で話題にする場合は、あだ名や呼捨てなど、それ以外のさまざまな表現も用いられる。このうちサンづけは、主として成人に達してから使い始める多少大人びた表現と言えそうだが、中学生・高校生の使用を尋ねた。〈現在〉の結果は資料表 5-11-1 および資料図 5-11-1-1～3、〈以前〉の結果は資料表 5-11-2 および資料図 5-11-2-1～3 のようであった。

まず〈現在〉を見ると、全般的に使用者率は低く1～2割程度にとどまる。先生に対するサンづけは、中学生・高校生の段階ではまだ一般的でない。

〈以前〉の方の結果も〈現在〉とほぼ同じ状況である。つまりサンづけは、「小学校時代→中学校時代」の間も（中学生のデータによる）、「中学校時代→高校時代」の間も（高校生のデータによる），いずれも目立った使用者率の増加は見られない。もし大幅な増加があるとすれば、主として高校卒業以降ということになりそうだ。

なお、〈現在〉も〈以前〉も、〈大阪高校〉の数値が〈東京高校〉と比べやや高い点は注目される。尾上圭介（1999）は、大阪の人は相手を尊敬しつつも相手との間に垣根を作らず心理的距離をとらない傾向が高く開放的であることを、大阪弁の「ネン」の用法や依頼の表現法などを根拠に論じているが、このサンづけも、教師をある程度「上」と待遇する一方、「先生」の付加による「師弟」の立場の違いの明言化を避けているわけであり、軽い尊敬と親しみ（接近）を同時に表した「上かつ親」の表現と言えそうだ。心理的距離に関する地域による違いが、サンづけの使用にも現われている可能性がある（尾崎喜光 1999 c）。

5.11.2. 先生に対する敬称「先生」の使用

設問(2)により、別の先生に向かって佐藤という名前の先生を「佐藤先生はお休みです」のように敬称の「先生」を付けて呼んでいるか（呼んでいたか）を尋ねた。

学校生活における言語使用の理念としては、生徒は先生を敬称の「先生」を付けて呼ぶべきであると考えられているだろうが、先の設問への回答でもその一端がうかがえるように、話をする状況（相手や場面など）によっては、実際は必ずしもそうではない。その一方で、この理念が最も実現さ

れやすいのは、大勢の人の前で話をしたり、教師に向かって話をする時であろう。ここでは教師を相手にする場面を想定させ、「先生」の使用のいわば“最大値”がどの程度であるのかを見た。〈現在〉の結果は資料表 5-11-3 および資料図 5-11-3-1～3, 〈以前〉の結果は資料表 5-11-4 および資料図 5-11-4-1～3 のようであった。

まず〈現在〉を見ると、全般的に使用者率は高く 8割程度に達する。若年世代の言葉の乱れや、生徒と教師が友達感覚で接する場合があるとの指摘が時になされるが、教師に対して話をする場面では、言葉遣いの面でも、教師を教師としてきちんとわきまえ「先生」を付けて言及している生徒が大半であることが確認される。もっとも、「先生」の使用を「あるべき理念」と考えるならば、「8割程度にとどまる」という見方もできよう。男女別に見ると、「先生」の使用者率はいずれのグループにおいても女子の方が高い。男子は、特に〈山形中学〉の場合 6割にとどまる。

〈以前〉の結果も〈現在〉とほぼ同様である。つまり、敬称「先生」の使用は、「小学校時代→中学校時代」の間も、「中学校時代→高校時代」の間も、いずれも目立った変化は見られない。学校生活における基本的な言葉遣いであるだけに、小学校の段階で（あるいはさらにそれ以前の幼稚園・保育園の段階で）、すでに十分使用語彙化されているようである。

5.11.3. 先生に対する呼捨ての使用

設問(3)により、友人に向かって佐藤という名前の先生を「佐藤は休みだ」のように呼捨てで呼んでいるか（呼んでいたか）を尋ねた。

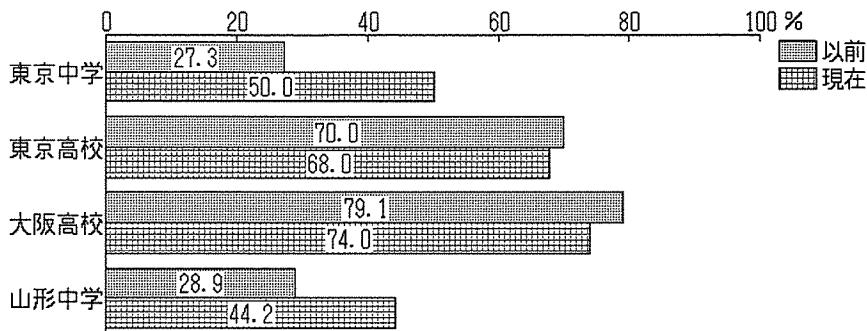
共通語社会においては、話題の人物に対する待遇表現が、話し手と相手との上下関係により変わることとは理屈の上ではない（ウチ・ソトの関係により変わることははある）。しかし実際には、目上の人と話をする時は「(○○先生は) いらっしゃいましたよ」と言うのに対し、友達と話をする時は「(○○先生は) いたよ」とも言いうるように、話題の人物に対する表現も、相手により変わってくる場合が実際には少なくない。つまり、相手の違いが場面の改まり性の違いを生み出し、本来は話題の人物目当てとして使われていた尊敬表現が、改まりの表現・丁寧な物言いとして機能している面もある。

こうした現象は動詞に限られたことではなく、名詞についても観察される。すなわち、目上の人と話をする時は「○○先生は」と言う一方で、友達と話をする時は「○○（呼捨て）は」とも言うといった現象である。調査では、この「姓呼捨て」の使用について、それが学校生活の中で最も使われやすいと考えられる「友達」を相手として想定した場合の回答を求めた。〈現在〉の結果は資料表 5-11-5 および資料図 5-11-5-1～3, 〈以前〉の結果は資料表 5-11-6 および資料図 5-11-6-1～3 のようであった(注1)。

まず〈現在〉を見ると、「姓呼捨て」の使用者率は全体として 6割程度である。ただしグループによる違いが大きく、中学生（〈東京中学〉〈山形中学〉）よりも高校生（〈東京高校〉〈大阪高校〉）で使用者率が高い（男女に分けた場合も同様）。男女差は全般的に少ない。友達同士で先生を「姓呼捨て」にすることは、女子の間でも珍しいことではない。先に「5.2. 対称詞(1)」において、相手が特に〔同性友人〕や〔異性同級〕の場合には、女子も「姓呼捨て」をかなり普通に用いている（特に中学生の場合）ことを報告したが（資料図 5-2-2-b・c, 資料図 5-2-4-b・c 等を参照），それに通じる現象であろう。ただし、「姓呼捨て」を対称詞として直接先生に向かって用いることは、現在でも恐らく少ないものと思われる。

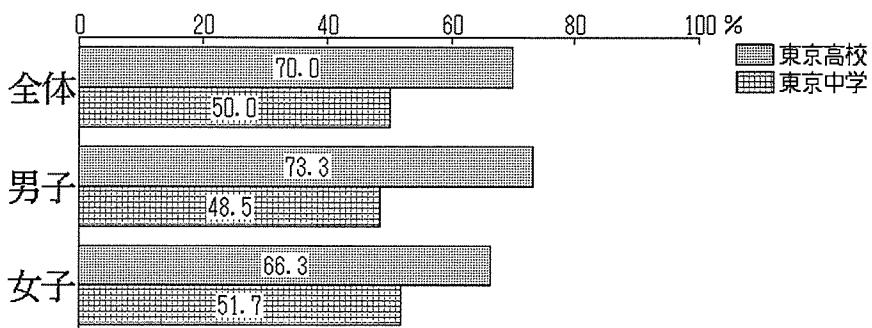
〈以前〉の結果も〈現在〉と似ており、全体として使用者率は 5割程度である。ただし、中学生（〈東

京中学）（山形中学）の回答と高校生（（東京高校）（大阪高校））の回答の差が〈現在〉の場合よりも拡大する。これは、高校生は〈現在〉と比べ大きな差がないのに対し、中学生では〈現在〉よりも数値が大幅に低くなるためである。つまり、「中学校時代→高校時代」の間に「姓呼捨て」を新たに使用語彙化するケースは少ないが、「小学校時代→中学校時代」の間ではかなりあるということである。これを示したのが本文図 5-124 である。凡例の「以前」は、中学校の場合は「小学校」を、高校の場合は「中学校」を意味する。「小学校時代→中学校時代」の間は大幅な数値の増加が認められるが、それ以降の「中学校時代→高校時代」の間は変化があまりない。使用語彙化という面から見ると、仲間内で先生を「姓呼捨て」で呼ぶことは、主として「小学校時代→中学校時代」の間に見られる現象と言える。なお、小学校の段階で「姓呼捨て」をする生徒が3割いる点も注目される。高学年になるにつれての増加もありそうである。



本文図 5-124 友人に對し佐藤先生を「佐藤」と「言う」ことの
〈以前〉と〈現在〉の比較（全体）

〈東京高校〉の「以前」と〈東京中学〉の「現在」とは、近い時期の中学生世代であるわけだから、理屈の上では数値は近くなるはずだが、前者が7割、後者が5割と多少開きがある（注2）。これを比較しやすい形で示したのが本文図 5-125 である。少し前の中学生世代（=現在の高校生）と比べ現在の中学生世代では、男女ともに数値が低くなっている。仲間内で先生を「姓呼捨て」で呼ぶことが衰退してきているのかもしれない。つまり、個人の中での使用語彙化がある一方で、社会全体としては言語変化（衰退）も同時に生じているという可能性がある。もし衰退があるとすれば、その背景には、生徒同士の間でときには「姓呼捨て」以上に使用者率の高い「ニックネーム・あだ名」や「名+チャン」などが、先生について言及する時も使われるようになってきたというようなこと



本文図 5-125 友人に對し佐藤先生を「佐藤」と「言う」
中学生世代の時代的変化

が可能性として考えられそうだ。

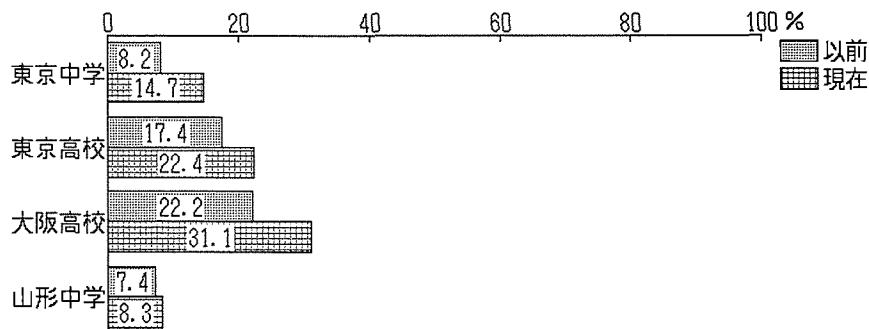
5.11.4. 先生に対する尊敬語「レル」の使用

設問(4)により、直接先生に対して「先生が帰られたあと雨がやみました」のように尊敬の助動詞「レル」を使っているか（使っていたか）を尋ねた。〈現在〉の結果は資料表 5-11-7 および資料図 5-11-7-1～3、〈以前〉の結果は資料表 5-11-8 および資料図 5-11-8-1～3 のようであった。

まず〈現在〉を見ると、全般的に使用者率は低く1～3割程度にとどまる。中学生と高校生を比較すると、中学生が1割程度、高校生がそれより高く2～3割である。また、男女で比較すると、いずれのグループにおいても男子より女子の方が数値が高めである。

「帰られる」のように助動詞「レル」を付加する表現は、「お帰りになる」などと比べると形が簡単であり、また「いる」「ある」などを除けば基本的にどんな動詞にも規則的に付けられる。そのため、中学生・高校生の段階でも使いやすい表現かと予想したが、使用者率が最も高くなると思われる先生を直接目の前にするような場面であっても、使用者率はかなり低い。成人を対象とした別の調査によれば^(注3)、先生に向かって先生自身の動作を表現する場合、「帰りますか」のような丁寧表現「ます」のみを附加した表現でもかまわないと考える人が若年層に向けて確実に増加しており、敬語の簡素化がうかがえる。本調査で「帰られる」の使用者率が1～3割程度にとどまるのは、中学生・高校生は敬語使用の途上にあり、いまだ使用の段階に達していない生徒もいるということに加え、敬語の簡素化という時代的変化が中学生・高校生にも及んでいる面も少なくないと考えられる。

〈以前〉の方の結果は、この〈現在〉の数値を全体的にやや圧縮した形になっている。すなわち、「小学校時代→中学校時代」、「中学校時代→高校時代」という各段階で使用語彙化が進む傾向が認められる。これを分かりやすく示したのが本文図 5-126 である。凡例の「以前」は、中学校の場合は「小学校」を、高校の場合は「中学校」を意味するが、各段階において数値の増加が認められる。図は省略するが、これを男女別に見ると、女子の方が男子よりも各段階での差が大きく、使用語彙化の進展がより明確である。つまり、女子は全体として使用者率が男子よりも高くかつ使用語彙化のステップも比較的大きいのに対し、男子は全体として使用者率が女子よりも低くかつ使用語彙化のステップも比較的小さくゆるやかである。なお、図の〈東京中学〉の「現在」と〈東京高校〉の「以前」の数値は近く、この間の大きな時代的変化はないようだ。



本文図 5-126 先生に対し「帰られた」と「言う」ことの
〈以前〉と〈現在〉の比較（全体）

5.11.5. 授業時における友人にに対するクンづけの使用

設問(5)により、授業中先生に答えるとき、友人のことを「さっき鈴木くんが言ったように」のようにクンづけで呼んでいるか（呼んでいたか）を尋ねた。質問文には明示していないが、「クンづけ」という限定により、話題にする友人は女子生徒ではなく男子生徒を想定させた（女子生徒を「姓+クン」で呼ぶことが極めて少ないと予想される）。〈現在〉の結果は資料表 5-11-9 および資料図 5-11-9-1～3、〈以前〉の結果は資料表 5-11-10 および資料図 5-11-10-1～3 のようであった。

男子の友人に直接面と向かって呼びかける場合は、男女とも「姓呼捨て」「ニックネーム・あだ名」などの方が「姓+クン」よりも使用者率は高いことについては先に報告したが（資料図 5-2-1-b、資料図 5-2-2-c 他を参照）、「授業中に先生に対して」という場合は「姓+クン」が少なくないと予想される。〈現在〉の結果は資料表 5-11-9 および資料図 5-11-9-1～3、〈以前〉の結果は資料表 5-11-10 および資料図 5-11-10-1～3 のようであった。

まず〈現在〉を見ると、使用者率は6～7割を占める。〈東京高校〉と〈大阪高校〉の間に1～2割の開きがあり、使用者率は〈東京高校〉の方がやや高い。男女別に見ると、男子は5～6割、女子は7～9割であり、使用者率は女子の方が高い。先に報告した「5.2. 対称詞(1)」の調査結果によると、男子の同級生に直接面と向かって「姓+クン」で呼ぶことは、〈東京中学〉〈東京高校〉の場合、男子が約2割、女子が4割（〈東京中学〉）ないし6～7割（〈東京高校〉）であったが、それと比較すると「授業中に先生に対して」の場合は、男女とも数値が増加する。つまりクンづけは、目上に対する丁寧な物言いとしても意識されているようである。〈大阪高校〉〈山形中学〉の「5.2. 対称詞(1)」では「姓+クン」でなく「姓」で質問したため比較しにくいが、おそらく東京と同じ傾向があるものと思われる。

〈以前〉の結果も〈現在〉とほぼ同様で大差はない。つまり、「授業中に先生に対して」という改まった場面でクンづけをする生徒にとっては、小学校までの段階ですでに使用語彙化し、その後も使い続ける表現と言えそうだ。

5.11.6. 男子の上級生に対するサンづけの使用

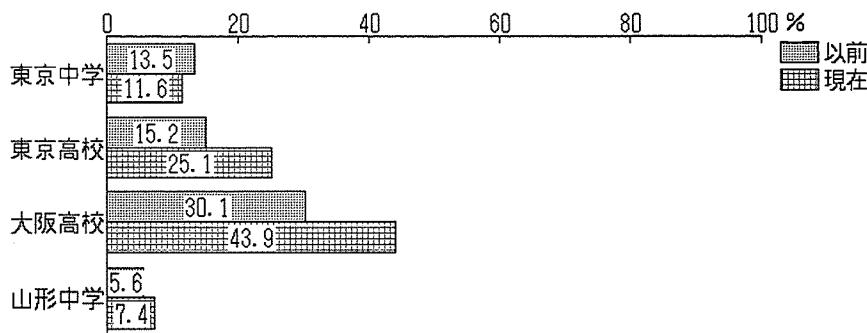
設問(6)により、男子の上級生を「田中さん」「正雄さん」のようにサンづけで呼んでいるか（呼んでいたか）を尋ねた。

「5.2. 対称詞(1)」で確認されたように、中学生・高校生にとって学校の中でサンづけ（特に「姓+サン」）で呼ぶ相手は主として女子の同級生や後輩であり、相手が男子の同級生や後輩の場合は、もし敬称を付ける場合はサンではなくクンである。また、目上である先輩に対しては「センパイ」の使用者率が高い。つまり、中学生・高校生の男子はサンづけで呼ばれることが少ないのである。しかし成人の社会においては、地域社会であれ職場社会であれ、目上の男性をサンづけで呼ぶことはむしろ一般的である。大学生の間でも、「センpai」よりサンづけの方がむしろ一般的であるように観察する。そうであれば、中学生・高校生のうち特に高校生は、この表現の使用語彙化が始まる世代であるのかもしれない。〈現在〉の結果は資料表 5-11-11 および資料図 5-11-11-1～3、〈以前〉の結果は資料表 5-11-12 および資料図 5-11-12-1～3 のようであった。なお、凡例の「女子校」は、女子校であるためにこの質問に対する回答を求めなかった対象者である。

まず〈現在〉を見ると、全体として数値は低く、中学生・高校生にとって男子の上級生をサンづけで呼ぶことはそれほど一般的でないことがわかる。ただしグループ間の違いが著しい。中学生（〈東

京中学〉〈山形中学〉)が1割前後にとどまるのに対し、高校生は〈東京高校〉で2~3割、〈大阪高校〉で4~5割に達する。高校生にはこの設問への回答を求めなかつた「女子校」が1割前後いるが、これを除いた部分で考えると、中学生と高校生の開きはさらに拡大する。男子の上級生に対するサンづけは、中学生よりも幾分成人に近い高校生で一層使われる表現と言える。なお、どのグループでも男女差が大きく、同性である男子の方がサンづけをする生徒が多い。〈東京高校〉よりも〈大阪高校〉の数値が高いのは、先に報告した先生に対するサンづけ(5.11.1)とよく似た現象である。サンづけによる軽い尊敬と親しみ(接近)を同時に表す表現は、東京よりも大阪においてより受け入れられているようである。

〈以前〉と〈現在〉を比べると、中学生(〈東京中学〉〈山形中学〉)の回答の数値はあまり変わりがないが、高校生(〈東京高校〉〈大阪高校〉)の回答では〈現在〉の方が数値が高い(男女別でも同様)。「現在」と「以前」を対比する形で示すと本文図5-127のようである。つまり、男子の上級生に対するサンづけは、「中学校時代→高校時代」の段階で使用語彙化が進む表現と言えそうだ。



本文図 5-127 上級生(男子)に対し「サンづけ」で「言う」ことの
〈以前〉と〈現在〉の比較(全体)

5.11.7. 男子の同級生に対するクンづけの使用

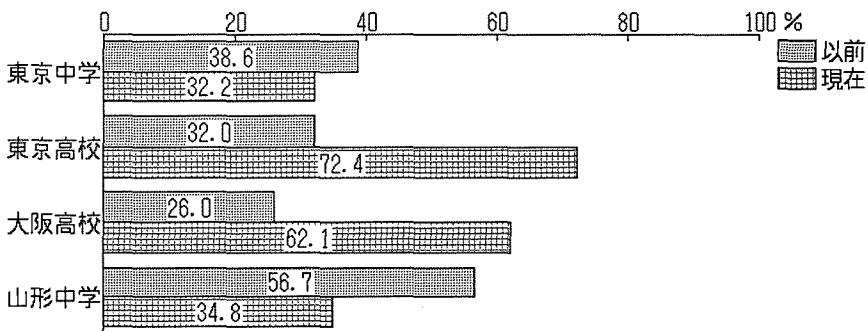
設問(7)により、男子の同級生を「鈴木くん」「次郎くん」のようにクンづけで呼んでいるか(呼んでいたか)を尋ねた。

先の設問(5)では「授業中に先生に対して」友人(男子を想定)のことをクンづけで呼ぶか否かを尋ねたのであったが、ここでは、質問文では十分明示的でないが、直接男子の同級生に対してクンづけで呼ぶか否かを尋ねた(女子校ではこの設問への回答は求めなかつた)。中学生・高校生にとってクンづけは丁寧な改まった表現であるため、「授業中に先生に対して」よりも使用者率が低くなることが予想される。〈現在〉の結果は資料表5-11-13および資料図5-11-13-1~3、〈以前〉の結果は資料表5-11-14および資料図5-11-14-1~3のようであった。

まず〈現在〉を見ると、男女を合せた使用者率は3~5割程度である。「授業中に先生に対して」クンづけをする生徒が6~7割であったことと比べると使用者率はずいぶん低くなる。とりわけ使用者率が3割弱にとどまる中学生(〈東京中学〉〈山形中学〉)は、「授業中に先生に対して」との開きが大きい。クンづけは改まった表現であるという意識は中学生により強いようである。なお、〈東京中学〉と〈東京高校〉では同様の質問を「5.2.対称詞(1)」でも行なつた。質問方法や設定場面が多少異なるため比較にくくい面があるが、概ね同様の結果が得られた(男子の結果である資料図5-11-13-2を資料図5-2-1-b・資料図5-2-3-bと、女子の結果である資料図5-11-13-3を資料図5-2-2

-c・資料図5-2-4-cと比較)。グループ間で比較すると、クンづけの使用者率は、中学生よりも高校生で、そして同じく高校でも大阪よりも東京で、それぞれ数値が高い。また、特に高校生では男女差が非常に大きく、クンづけは主として女子が用いる表現となっている。

〈以前〉の方の結果は、数値が全体的に下がり2~4割程度にとどまる。特に高校生の数値は大幅に下がり、「中学校時代→高校時代」の間の使用語彙化が大きいことが分かる。ただし男女別に見ると、男子はこの間それほど大きな差がないのに対し、女子には劇的な増加が認められる。本文図5-128は女子について「現在」と「以前」を対比したものである。〈東京中学〉の回答では大きな変化が見られないのに対し、〈東京高校〉〈大阪高校〉の回答では、「以前」(中学生時代)の3割から「現在」(高校生時代)の7割へと数値が大幅に上昇する。男子の同級生に対するクンづけは、主として女子が高校生に達してから用い始める面の強い表現と言える。この点は、「5.2. 対称詞(1)」で確認された女子の中学生と高校生の違いとも一致する(本文図5-50などを参照)。なお、〈東京中学〉と〈山形中学〉では、「以前」(小学生時代)と比べ「現在」(中学生時代)はむしろ若干減少している(〈山形中学〉はその差が明確)。この傾向は男子にも見られる。もしそうだとすると、小学生時代にある程度使用語彙化されたクンづけは、中学生時代で使用が一時控えられ(その背景には「姓呼捨て」の使用者率の増加が推測される)、その後高校生時代に至って女子を中心に使用者率が大きく伸びる表現と言えそうだ。



本文図5-128 同級生(男子)に対し「クンづけ」で「言う」ことの
〈以前〉と〈現在〉の比較(女子)

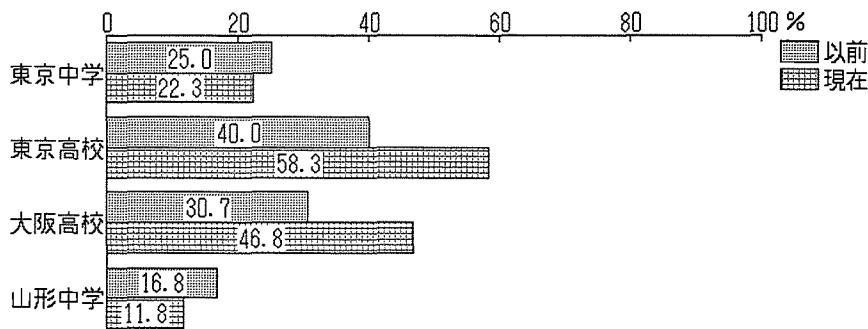
5.11.8. 女子の同級生に対するサンづけの使用

設問(8)により、女子の同級生を「山田さん」「春子さん」のようにサンづけで呼んでいるか(呼んでいたか)を尋ねた。これはちょうど、直前の設問(7)で男子の同級生をクンづけで呼ぶことに対応する設問である。やはり質問文では十分明示的でないが、ここでも直接女子の同級生に対する場面でサンづけで呼ぶか否かを尋ねた(男子校ではこの設問への回答は求めなかった)。〈現在〉の結果は資料表5-11-15および資料図5-11-15-1~3、〈以前〉の結果は資料表5-11-16および資料図5-11-16-1~3のようであった。

まず〈現在〉を見ると、グループによる違いが大きいが、使用者率は2~7割ほどである。先に見た男子に対するクンづけと比べると、〈山形中学〉を除き数値は全般的に高くなる。男子に対するクンづけ、女子に対するサンづけは、ともに中学生・高校生にとってやや改まった表現であるが、後者の方がより一般性の高い表現と言える。なお、〈東京中学〉と〈東京高校〉では同様の質問を「5.2. 対称詞(1)」でも行なった。質問方法や設定場面が多少異なるため比較しにくい面があるが、男

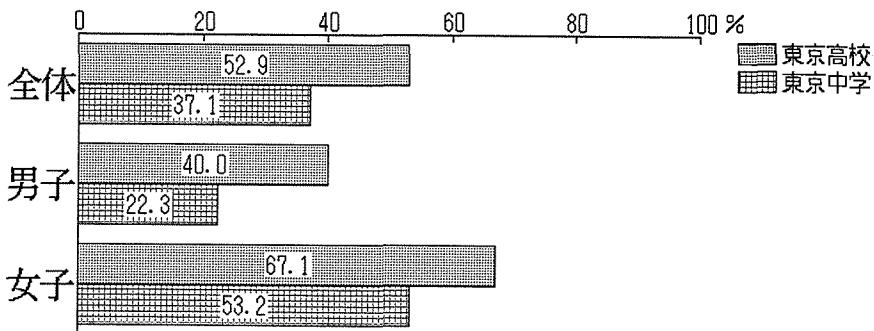
子は概ね同様の結果が得られた（男子の結果である資料図 5-11-15-2 を資料図 5-2-1-c・資料図 5-2-3-c と比較）。一方女子は、特に〈東京高校〉において、本設問の方が数値がかなり高い（女子の結果である資料図 5-11-15-3 を資料図 5-2-2-b・資料図 5-2-4-b と比較）。質問文の「同性の友人」と「同級生」の表現の違いに起因する異なりであろうか。グループ間を比較すると、クンづけの使用者率は中学生よりも高校生で高い。男女差も非常に大きく、サンづけは主として女子が用いる表現となっている。こうした点は、先に見た男子の同級生の対するクンづけと共通する現象である。

〈以前〉の方は、数値は全体的にやや下がり 2~5 割程度となる。中学生の回答はほとんど数値に変化がないのに対し、高校生の回答は 1 割ほど低くなる。男子の同級生に対するクンづけと同様、「中学校時代→高校時代」の間の使用語彙化が大きい。もっとも男女別に見ると、女子はこの間めだった違いがないのに対し、男子には大幅な増加が認められる。本文図 5-129 は男子について「現在」と「以前」を対比して示したものである。〈東京中学〉では大きな変化がないのに対し、〈東京高校〉〈大阪高校〉では、「以前」（中学生時代）の 3~4 割から「現在」（高校生時代）の 5~6 割へと数値が大きく上昇する。すなわち、女子の同級生に対するサンづけは、主として男子が高校生に達してから用い始める面の強い表現と言える。この点は、「5.2. 対称詞(1)」で確認された男子の中学生と高校生の違いとも一致する（本文図 5-48 などを参照）。



本文図 5-129 同級生(女子)に対し「サンづけ」で「言う」ことの
〈以前〉と〈現在〉の比較(男子)

〈東京高校〉の「以前」と〈東京中学〉の「現在」とは、理屈の上では数値が近くなるはずだが、前者が 5 割、後者が 4 割と数値に多少開きがある。これを比較しやすい形で示したのが本文図 5-130 である（全体および男女別で示した）。少し前の中学生世代（=現在の高校生）と比べ現在の中学生世代では、男女とも数値が低くなっている。女子の同級生をサンづけで呼ぶことが現在衰退しているのかもしれない。つまり、個人の中での使用語彙化がある一方で、社会全体としては言語変化（衰退）も同時に生じているという可能性がある。もし衰退があるとすれば、その背景には、「5.2. 対称詞(1)」において高校生よりも中学生で使用者率が高いことが確認された「姓呼捨て」が現在普及しつつあることが可能性として考えられそうだ。なお、これと平行関係にある男子の同級生に対するクンづけには、こうした衰退傾向は特に認められない。

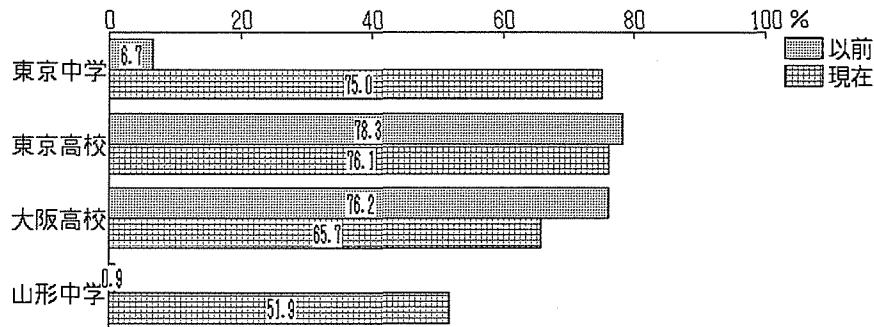


本文図 5-130 同級生(女子)に対し「サンづけ」で「言う」
中学生世代の時代的変化

5.11.9. 部（クラブ）活動の先輩や上級生に対する敬称「センパイ」の使用

設問(9)により、部（クラブ）活動の先輩や上級生のことを「センパイ」と呼んでいるか（呼んでいたか）を尋ねた。資料図 2-4-17～20 で示したように部活動（クラブ活動）に参加していない回答者もいることを考慮し、質問文では「部（クラブ）活動の先輩や上級生」として想定可能場面を広げた。なお、質問文では明示的でないが、実際の使用では「姓+センパイ」「名+センパイ」のような姓や名を付加した表現も考えられる。「使う（使っていた）」の回答にはそれらも含まれているものと推測される。〈現在〉の結果は資料表 5-11-17 および資料図 5-17-3-1～3、〈以前〉の結果は資料表 5-18-4 および資料図 5-18-4-1～3 のようであった。

まず〈現在〉を見ると、全般的に使用者率は高く 5～8 割程度に達する。〈山形中学〉は他よりも数値が低いが、これは男子の使用者率の低さが要因として大きい。男女別に見ると、男子は〈山形中学〉を除き 6～7 割、女子は 7～9 割であり、使用者率は女子の方が高い。なお、〈東京中学〉〈東京高校〉については、同様の男女差は「5.2. 対称詞(1)」でも得られており、数値も近い（本文図 5-2-1-d、本文図 5-2-2-d、本文図 5-2-3-d、本文図 5-2-4-d を参照）。〈山形中学〉の男子のみ数値が非常に低いが、上下の区別がそれほど厳格でなく、上級生も下級生もみな仲間内のような関係にあるためであろう。



本文図 5-131 部活動の先輩に対し「センパイ」で「言う」ことの
〈以前〉と〈現在〉の比較(全体)

〈以前〉の方の結果は、高校生（〈東京高校〉〈大阪高校〉）の回答はあまり違ひがないが、中学生（〈東京中学〉〈山形中学〉）の回答は 1 割に満たない。つまり「センパイ」は、小学生時代はほとん

ど使われず、中学生に達してから盛んに使われるようになる表現と言える。本文図 5-131 はこれを示したものである。〈現在〉の使用者率がより高い女子に限定すれば、「小学校時代→中学校時代」の間の使用語彙化は、「ゼロ→全員」に近い劇的な変化がある。中学生にとって、学校での言語生活で最も大きな変化のひとつは「センパイ」の使用と言えそうだ。

5.11.10. 先生に対する尊敬語「ハル」の使用

先生に対する尊敬語「レル」の使用者率が中学生・高校生の間で低いことについては先に報告した。地域によってはこうした共通語形の尊敬語のほかに、方言形の尊敬語が普通に用いられている。関西地域もそのひとつであり、尊敬語「ハル」がよく用いられている。そこで最後に、〈大阪高校〉において調査項目として追加した尊敬語「ハル」の使用について報告する。調査では、直接先生に対し「先生が帰りはったあと雨がやみました」のように「ハル」を使っているか（使っていたか）を尋ねた。〈現在〉の結果は資料表 5-11-19 および資料図 5-11-19-1～3、〈以前〉の結果は資料表 5-11-20 および資料図 5-11-20-1～3 のようであった。

まず〈現在〉を見ると、全般的に使用者率は低く 2 割強にとどまる。先生に対する尊敬語「ハル」の使用はそれほど一般的でない。男女別に見ると、女子の方が多少使用者率が高い。

〈以前〉の方の結果も〈現在〉とほぼ同じ状況である。「中学校時代→高校時代」の間の使用語彙化は特に認められない。

(注 1) 「覚えていない」という回答が若干出てくるが、これは選択肢として設定したものではなく、調査票に添え書きされていたものである。以下の設問の集計結果にも出てくる場合がある。

(注 2) 中学生の回答者と高校生の回答者は、たとえば都内の同一地域から同一の比率で抽出されているわけではない(本文図 2-1 を参照)など、代表性が完全に同じであるという保障が得られてはいない。そのため、厳密に言えば〈東京高校〉の「以前」と〈東京中学〉の「現在」の比較は困難であるのだが(これはこれまで報告してきた〈東京高校〉と〈東京中学〉の現状の比較についても言える)、しかし全く比較し得ないデータでもないと判断し、こうした比較を試みた。

(注 3) 尾崎喜光(1999 a・2001 a)・国立国語研究所(2000)で報告した東京都在住者を対象としたアンケート調査による。

6. まとめ

6.1. 得られたおもな知見

最後に、本調査で得られたおもな知見をまとめておく。

- 1) ふだん学校で自分自身の言葉遣いが「気になるほうだ」と回答した生徒は2~3割であった。言葉遣いをあまり気にせず学校生活を送っている生徒が多い。
- 2) 先生や上級生に対する場面で自分の言葉遣いが「気になるほうだ」と回答した生徒は5~6割いる。成人の社会と比べ複雑性の少ない学校社会においても、目上との人間関係の中では、約半数の生徒が言葉遣いを気にしながら学校生活を送っている。
- 3) 先生や上級生に対する場面で自分の言葉遣いが「あまり変わらない」と回答した生徒は2~4割にとどまり、6~8割の生徒は何らかの点で言葉遣いが「変わる」と回答している。「変わる」の内訳で多くの割合を占めたのは、狭い意味での「敬語」のたぐいである。
- 4) 先生や上級生への言葉遣いで困った経験が「ある」と回答した生徒は4~5割いた。約半数の生徒が目上への言葉遣いで困難を経験している。
- 5) それに対し、学校生活の改まった場面で言葉遣いに困った経験が「ある」と回答した生徒は2~3割にとどまった。
- 6) 先生や上級生から言葉遣いを注意・教示された経験が「ある」と回答した生徒は4~5割いた。
- 7) 学校生活の中で言葉遣いに気を使うと思われる場面を8つ掲げて上位3つを選択させたところ、選択された数値が高かったのは「職員室で先生と話すとき」「来客に尋ねられて」であった。これに次ぐのが「クラブ活動で先輩と話すとき」であった。全体として、周囲に自分の発言をしている人が大勢いる改まった場か否かという場面的要素よりも、話し相手が自分より目上か否かという「上下」の軸にもとづく人的要素の方が、言葉遣いに気を使う要因として大きい。
- 8) クラス討論や授業での言葉遣いについては、「言葉遣いも改まった方がよい」とする生徒は約半数いた。
- 9) 上級生や先輩といった目上の生徒への敬語使用については、7~8割の生徒が「使う方がよい」と回答している。
- 10) 敬語使用のプラス面（社会秩序の維持）とマイナス面（対人関係の堅苦しさ）を提示し、敬語が必要か否かを尋ねたところ、「必要」とする回答が7~8割に達した。敬語使用のマイナス面よりもプラス面を評価する傾向が強い。
- 11) 先生や上級生といった目上の人への敬語使用のマイナス面（対人関係のよそよそしさ）についてさらに尋ねたところ、「よそよそしくなると思う」と「よそよそしくなるとは思わない」は意見が二分された。
- 12) 自称詞については、男子は主として「ボク」と「オレ」、女子は主として「ワタシ」と「アタシ」を用いる。成人に見られる男子の「ワタシ」「ワタクシ」、女子の「ワタクシ」は、中学生・高校生の間では一般的でない。なお、使用する表現は相手によりずいぶん異なる。友達同士の場面では、男子は主として「オレ」、女子は主として「アタシ」「ワタシ」を用いる。一方先生に対しては、男子は主として「ボク」、女子は主として「ワタシ」を用いる。表現が持つ待遇表現としての機能負担量という観点から見た場合、男子で数値が高いのは「ボク」と「オレ」であり、女子で

数値が高いのは「ワタシ」と「アタシ」であった。これらは待遇表現として積極的に機能している。なお、同じ表現であっても地域により機能負担量が異なることがあり、たとえば男子の「ボク」や女子の「ワタシ」は、東京よりも大阪や山形で、より積極的に機能している。

- 13) 対称詞については、男子の場合、代名詞では主として「オマエ」、非代名詞では主として「姓呼捨て」「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」を用いる。これに対し女子は、代名詞では主として「アンタ」、非代名詞では男子と同様に「姓呼捨て」「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」、さらには「姓+サン」「姓+クン」「名+チャン」など多彩な表現を用いる。代名詞と非代名詞を比べると、全般的に非代名詞の方が使用者率が優勢である。なお、先輩に対する場合は、〈東京中学〉〈東京高校〉では男女とも「センパイ」が非常に多い。表現が持つ待遇表現としての機能負担量という観点から見た場合、〈東京中学〉〈東京高校〉の男子で数値が高いのは、代名詞では「オマエ」の系列、非代名詞では「姓呼捨て」「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」「姓+サン」である。一方女子で数値が高いのは、代名詞では「アンタ」の系列、非代名詞では「姓呼捨て」「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」「姓+チャン」である。
- 14) 対称詞については、〈東京中学〉と〈東京高校〉で、[担任] や [同性同級] から各表現で呼ばれるか否か、またそう呼ばれた場合の評価（好悪）はどうかについても調べた。実際に呼ばれるよりも「好き」の数値が低い表現には、[担任] からの場合は「姓呼捨て」「オマエ」、[同性同級] からの場合は「姓呼捨て」（男子）や「姓+サン」（女子）がある。逆に、実際に呼ばれるよりも「好き」の数値が高い表現には、[担任] からの場合はあまりないが、[同性同級] からの場合は、男子は「名+クン」「名呼捨て」「姓+クン」など、女子は「名呼捨て」「ニックネーム・あだ名」「名+チャン」「姓呼捨て」などさまざまな表現がある。
- 15) 肯定表現については、方言形式の存在により表現が多様性に富む〈大阪高校〉と〈山形中学〉で調べた。いずれも、[同性友人] [異性同級] に対しては丁寧語「デス」を含まない表現（それらは方言形式でもある）がおもに用いられ、逆に [同性先輩] [担任] [校長] [来客(男)] に対しては丁寧語「デス」を含む表現（それらは共通語形でもある）がおもに用いられる。表現が持つ待遇表現としての機能負担量という観点から見た場合、数値が高いのは、〈大阪高校〉では「ハイ、ソーデス」「ソーデス」「ソーヤデ」「ソーヤ」、〈山形中学〉では「ハイ、ソーデス」「ソーデス」「ンダ」「ンダヨー」「ンダニヤー」「ンダノー」である。
- 16) 別れの挨拶については、[同性友人] [異性同級] に対してはおもに「ジャア」「バイバイ」、[同性先輩] [担任] [校長] に対してはおもに「サヨウナラ」「サヨナラ」が用いられる。表現が持つ待遇表現としての機能負担量という観点から見た場合、数値が高いのは「サヨウナラ」「バイバイ」などである。なお、特に [異性同級] に対する場合、「その他」の自由記述に「挨拶をしない」「会釈」「黙礼」等の記述が、中学生を中心に少なからず見られた。
- 17) 別れの挨拶や職員室への入退室の挨拶として「失礼シマス」というやや改まった表現を「使う」と回答した生徒は、「職員室への入室」の場面で9割以上、「職員室からの退室」の場面で4割ほどであった。これに対し「下校時に先生へ」や「下校時に先輩へ」は、多い場合でも1~2割程度にとどまった。
- 18) 呼びかけとしての「センパイ（先輩）」については、〈東京中学〉〈東京高校〉〈大阪高校〉で約7~8割、〈山形中学〉でも約5割が「使う」と回答している。男女で比べると、女子は「使う」が約8割に達するのに対し、男子は5~7割にとどまる（〈山形中学〉の男子はさらに少ない）。この表現は、部（クラブ）活動の中でも運動部に所属している人ほどよく使う傾向が認められた。ま

- た，学校全体としての「センパイ（先輩）」の使用の男女差について尋ねたところ，〈山形中学〉を除き，「男女とも使う」が5~7割を占めた。
- 19) 関西圏でよく用いられる身内尊敬表現に関しては，父親や母親のことを担任の先生に言う場合に尊敬表現「ハル」を「言う」と回答した生徒は1割に満たなかった。
 - 20) 改まった場面でふだんと同じく方言アクセントを使うか，それとも共通語アクセントを使うかについて，〈大阪高校〉で意識の面から質問したところ，「方言アクセント」（=使い分けない）が4割，「標準語アクセント」（=使い分ける）が3割であった。アクセントについても，ある程度の生徒は場面による使い分けをしていると意識しているようだ。
 - 21) 改まった場面で声の調子（声の大きさ・声の高さ・声の明瞭さ・話の早さ）が変わるか否かについては，ふだん友達と話をする状況と「同じ」と意識する生徒が全体として多かった。
 - 22) 中学生・高校生の〈現在〉の言語使用に加え，中学生については小学校時代，高校生については中学校時代（すなわち〈以前〉）の言語使用も併せて内省させ，両者を比較することで，個人の中での言葉遣いの変化（使用語彙化）について，おもだった表現を調べた。友人に向かって先生をサンづけで呼ぶことは，「小学校時代→中学校時代」の間も，「中学校時代→高校時代」の間も目立った使用者率の増加は見られない。大幅な増加があるとすればおもに高校を卒業してからということになりそうだ。
 - 23) 先生に対し，別の先生のことを敬称「先生」を付けて呼ぶ生徒は，〈現在〉も〈以前〉も8割前後で，特に大きな変化は見られない。小学校の段階で（あるいはさらにそれ以前の幼稚園・保育園の段階で），すでに十分使用語彙化が進んでいる。
 - 24) 友人に向かって先生を呼捨てにする生徒は，〈現在〉の場合，中学生で約5割，高校生で約7割であった。男女差は全般的に少ない。〈以前〉と比較すると，「中学校時代→高校時代」の間は大差がないのに対し，「小学校時代→中学校時代」の間は大幅な増加が認められる。先生の呼捨ては，おもに「小学校時代→中学校時代」の間に進むようだ。
 - 25) 直接先生に対して尊敬語「レル」を使う生徒は，〈現在〉では1~3割程度にとどまる。特に中学生は1割程度である。男女別に見ると，女子の方が男子よりも数値が高めである。〈以前〉の数値は，〈現在〉の数値を全体的に小さくした形となる。「小学校時代→中学校時代」，「中学校時代→高校時代」という各段階で使用語彙化が進むようだ。
 - 26) 授業中先生に答える場面で，男子生徒をクンづけで呼ぶ生徒は，〈現在〉で6~7割いる。男女別に見ると，男子は5~6割，女子は7~9割で，女子の方が数値が高い。〈以前〉の結果もほぼ同様である。小学校までの段階で使用語彙化がかなり進み，その後も使い続けられる表現のようだ。
 - 27) 男子の上級生をサンづけで呼ぶ生徒は，〈現在〉ではあまり多くなく，中学生・高校生の間では一般的な表現でない。ただし，中学生が1割前後にとどまるのに対し，高校生は〈東京高校〉で2~3割，〈大阪高校〉で4~5割に達する。中学生よりも幾分成人に近い高校生で一層使われる。男女差も大きく，同性である男子の方が異性である女子よりも数値が高い。〈以前〉と〈現在〉を比べると，中学生は数値があまり変わらないのに対し，高校生は〈現在〉の方が数値が高い。「中学校時代→高校時代」の段階で使用語彙化が進むようだ。
 - 28) 男子の同級生をクンづけで呼ぶ生徒は，〈現在〉では3~5割程度いる。授業中先生に答える場面での使用と比べると数値はずいぶん低くなる。高校生では男女差が非常に大きく，クンづけは主として女子が用いる表現となっている。〈以前〉との対比で見ると，「中学校時代→高校時代」の間の使用語彙化が大きいようだ。特に女子は，この間に数値の劇的な増加が認められる。

- 29) 女子の同級生をサンづけで呼ぶ生徒は、〈現在〉では2~7割ほどいる。〈山形中学〉を除き、男子に対するクンづけよりも数値は全般的に高くなる。男女差が非常に大きく、男子の同級生に対するクンづけと同様、サンづけもおもに女子が用いる表現となっている。〈以前〉の数値は全体的にやや低く2~5割程度となる。男子については、「中学校時代→高校時代」の間に大幅な増加が認められる。男子にとっては、高校生になってから使い始める面の強い表現と言える。
- 30) 部(クラブ)活動の先輩や上級生に対し敬称「センパイ」を使用する生徒は、〈現在〉では全般的に高く5~8割に達する。男女別に見ると、男子は〈山形中学〉を除き6~7割、女子は7~9割であり、使用者率は女子の方が高い。〈以前〉の数値は、高校生は〈現在〉とあまり変わらないが、中学生は1割に満たない。「センパイ」は中学生になってから盛んに使われ始める表現と言える。
- 31) 〈大阪高校〉の場合、先生に対し関西方言の尊敬語「ハル」を使用する生徒は、〈現在〉では全般的に低く2割程度にとどまる。男女別に見ると、女子の方が多少使用者率が高い。〈以前〉の結果も〈現在〉とほぼ同様である。

6.2. 調査の反省

今回のアンケート調査の反省点についても、おもなところをまとめておく。

(1) 対象校の選び方

調査対象とした学校数は、〈東京中学〉が21校、〈東京高校〉が25校、〈大阪高校〉が10校といずれもある程度の数を確保し、特定の学校の特徴が全体に及ぼす影響を低くした。これに対し〈山形中学〉の場合は、調査対象校は1校のみにとどまった。グループ名の統一を考慮し名称は〈山形中学〉としたが、他との違いが現われた場合も、じつは対象とした学校の特徴が現われたものであり山形県全体の平均的状況ではない可能性がある。その結果、〈東京中学〉との比較においても困難が伴う。代表性を確保するために、さらには地域間比較を確実にするために、県全域から複数校選ぶことが望ましかった。

なお、〈東京中学〉〈東京高校〉〈大阪高校〉ではある程度代表性が確保されているものと考えられるが、しかし無作為に対象校を選定したわけではなく、協力が得られやすい学校を選定した。極端な地域的な片寄りが生じないよう配慮を得つつ選定を依頼したものの、それでも本文図2-1~2に示した程度の地域的な片寄りは認められた。さらに、私立の中学校・高等学校に通う生徒が少なくなった東京や大阪では、公立学校と私立学校の生徒数の構成比などについても十分考慮する必要があった。

今後同種の調査を実施する際には、こうしたデータの代表性を高める一層の努力が必要である。

(2) 質問の場面設定

想定する相手をさまざまに変えて表現がどう使い分けられるかを見る設問をいくつか設けた。このうち、特に異性に対する場面の回答で、「その他」の自由記述として、そもそも言語行動をしないという類の記述がしばしば見られた。今回の調査では、言語行動をするという前提で回答を求めたが、対人接触場面における言語行動の在り方を包括的に探るために、そもそも言語行動をするか否かというレベルでのチェック、さらに言えば対人接触自体が回答者にとってどの程度現実的であるかというレベルでのチェックも必要であった。

なお、今回の調査では、想定する相手を、立場や年齢にもとづく上下の軸でさまざまに変え、そ

れにより表現がどう変わるかを調査した。しかし言葉の使い分けには、そうした人的要素によるもののかに、改まった状況・くつろいだ状況という場面的要素によるものもある。これについては、調査票の質問項目数の制約もあり、今回は主として面接調査の方で調べることとしたが、今後同種の調査を実施する際には、アンケート調査の項目としても積極的に含めてよい観点であろう。

(3) 調査項目

敬語調査であれば、丁寧語や尊敬語・謙譲語など狭い意味での敬語も調査項目として多数含めるべきであろうが、これについても今回は主として面接調査で調べることとし、アンケート調査では少数にとどめた。しかし、敬語の中核となる部分であるので、こうした項目についても、アンケート調査で量的な概観を得ることも今後は必要であろう。

(4) 質問文・選択肢

〈東京中学〉〈東京高校〉〈大阪高校〉〈山形中学〉で共通する設問の質問文は基本的に同じとしたが、しかし完全に同一というわけではない。また、自称詞や対称詞など、想定する相手をさまざまに変える設問では、回答のしやすさを優先させ、相手の提示順序をグループ間で変えたところがあった。こうした違いは回答に大きな影響を与えないだろうと判断しての処置であったが、グループ間の厳密な比較のためには一定にしておくことが望ましかった。

対称詞の選択肢のうち姓や名に関するものは、〈大阪高校〉と〈山形中学〉では非常におおまかに「姓」「名」の2つを選択肢として掲げるのみであったのに対し、〈東京中学〉と〈東京高校〉では「姓+サン」「名+チャン」など選択肢をかなり細かく分けて提示した。調査を先行して行なった〈大阪高校〉〈山形中学〉での不備に気づいての改良であり、〈東京中学〉〈東京高校〉をそれぞれ単独で、あるいは両者だけの比較で見るのであれば情報量が増え確かに良い面があった。しかし〈大阪高校〉〈山形中学〉との比較のためには、かえって扱いに困難が伴うデータとなった。掲げるべき選択肢についても、調査票の設計段階から綿密に検討しておく必要があった。

6.3. 結論と今後の課題

成人の敬語使用や敬語意識の土台を形成するひとつの重要な場と考えられる学校社会において、中学生・高校生たちが敬語をどのように意識し用いているかをアンケート調査の手法により調査した。

全体としては自分自身の言葉遣いをあまり気にせずに学校生活を送っている生徒が多いようだが、先生や上級生のような目上に対する場合は、言葉遣いを気にし、言葉遣いを変えると内省する生徒が少なくない。場面の改まりの度合いよりも相手との上下関係の方が、生徒たちが言葉遣いを気にする要因としてより大きいようである。上級生に対しては敬語を使う方がよい、敬語は必要だと考える生徒も多い。

想定する相手をさまざまに変え、自分で使っている表現を選択させたところ、確かに相手により使い分けをしていることが確認された。表現の側から見るならば、その表現を使いやすい相手、使いにくい相手の違いがあるということになる。なお、使い分けには男女差、地域差、中高生差がある場合があることも併せて確認された。

今回調査対象とした中学生・高校生の間では、成人であれば普通に使うあるレベル以上の敬語表現（たとえば「帰る」に対する「帰られる」や「お帰りになる」など）の使用はそれほど一般的で

ないことが確認された。しかし、敬語使用を支える根本原理である言葉の使い分け自体は、自称詞等で確認されたように、生徒たちの間でもかなり明確に認められた。つまり、成人に至ってからの敬語使用の土台は、学校生活の中でかなりの程度形成されていると考えられる。

ところで、実際の言語生活において対人的な配慮として用いられる表現は、狭い意味での敬語にとどまらない。

たとえば声の調子（パラ言語的特徴）は、今回の内省にもとづく調査では、改まった場面であってもふだんと「同じ」とする回答が多かった。しかし、こうした特徴は、単語などと比べ確實な内省が困難であったかもしれませんし、現実には使い分けがなされている可能性も否定できない。これを確実に捉えるためには、今回のような質問法による調査に加え、観察法による調査も必要であろう。

相手による表現の使い分けについても、今回調査したような狭い意味での敬語を含む単語レベルだけでなく、文レベルでも見られるかもしれない。表現の側から言えば、配慮の大きな表現とそれほどでもない表現の違いがありそうだということになる。たとえば、あしたまでに書類を作成するよう相手に頼む場合、「あしたまでに作ってください」という表現と「あしたまでに作ってくれないかなあ」という表現がある。前者は補助動詞「くれる」を尊敬語「くださる」にしているのに対し、後者にはそのような表現上の配慮は特に認められない。しかし、尊敬語を含む前者よりも、それを含まない後者の方にむしろ配慮を感じるという人も少なくないと思われる。つまり、前者は尊敬語を含みはするものの相手に有無を言わせぬ一方的な表現であるのに対し、後者は尊敬語は含まないものの相手に選択の余地を与える表現なのである。もし後者の方により配慮があると感じるとすれば、それは一方的な物言いをしない点に起因している可能性が高い。

実際の言語生活においては、このようなパラ言語的特徴や、自分の発話意図を全体としてどう表現するかといったことも、対人的な配慮として大きく機能している面がありそうだ。対人的配慮にもとづく言語使用を包括的に解明するためには、狭い意味での敬語や人称詞等の単語レベルの使い分けだけでなく、こうした側面にまで考察の範囲を拡大する必要がある。これは今後の敬語研究の大きな課題である。

参考文献

- 尾崎喜光(1992 a)「現代生活と方言—学校生活における方言と共通語の使い分けー」『日本語学』11-2 (明治書院)
- 尾崎喜光(1992 b)「学校生活における敬語使用の調査」『第11回 社会言語学ワークショップ』配布資料
- 尾崎喜光(1995)「若者の敬語—学校生活における自称詞・対称詞の使用状況ー」『青少年問題』42-11
- 尾崎喜光(1996 a)「学校の中の方言」小林隆・篠崎晃一・大西拓一郎編『方言の現在』(明治書院)
- 尾崎喜光(1996 b)「1. 調査の概要, 2. 人称詞の使用意識について」『平成8年度 国立国語研究所公開研究発表会 テーマ: 学校の中の敬語』要旨集
- 尾崎喜光(1997 a)「学校の中のことば—教師への『さん』づけー」『國文學 解釈と教材の研究 日本語の方言と言語行動』42-7 (學燈社)
- 尾崎喜光(1997 b)「[シリーズ 話しことば その研究と教育を結ぶ⑤ 対人関係と話しことば表現(2)] 中高生のことば意識」『日本語学』16-9 (明治書院)
- 尾崎喜光(1997 c)「待遇表現としての機能負担量の地域差」『国語学会 平成9年度秋季大会要旨』
- 尾崎喜光(1997 d)「『学校の中の敬語』調査から」『日本語学』16-13 (明治書院)
- 尾崎喜光(1998)「生徒たちはどう呼ばれたいと思っているか」『日本語学』17-9 (明治書院)
- 尾崎喜光(1999 a)『日本語社会における言語行動の多様性』(文部省科学研修費[創成的基礎研修費]「国際社会における日本語についての総合的研究」(研究代表者・水谷修) 報告書)
- 尾崎喜光(1999 b)「中学・高校生の敬語意識」『教育と情報』497 (文部省大臣官房調査統計企画課編)
- 尾崎喜光(1999 c)「対人的心理距離の東西差—東西の高校生の言語使用を見るー」『日本語学』18-13 (明治書院)
- 尾崎喜光(1999 d)「将来の敬語はどうなっていくのか」『世論時報』32-12 (世論時報社)
- 尾崎喜光(2001 a)「言語生活の変容にとっての百年という時間」『日本語学』20-1 (明治書院)
- 尾崎喜光(2001 b)「学校の中の中学生の呼称」遠藤織枝編『女ことば』(明石書店)
- 尾崎喜光(2002 [予定])「第7章 敬語調査から何が引き出せて、何が引き出せないか」『朝倉日本語講座 第8巻 敬語』(朝倉書店)
- 尾上圭介(1999)『大阪ことば学』(創元社)
- 加藤正信(1973)「全国方言の敬語概観」『敬語講座6 現代の敬語』(明治書院)
- 国立国語研究所(1957)『国立国語研究所報告11 敬語と敬語意識』(秀英出版)
- 国立国語研究所(1971)『国立国語研究所報告41 待遇表現の実態—松江24時間調査資料からー』(秀英出版)
- 国立国語研究所(1981)『国立国語研究所報告70-1・2 大都市の言語生活(分析編・資料編)』(三省堂)
- 国立国語研究所(1982)『国立国語研究所報告73 企業の中の敬語』(三省堂)
- 国立国語研究所(1983)『国立国語研究所報告77 敬語と敬語意識—岡崎における20年前との比較ー』(三省堂)
- 国立国語研究所(1986)『国立国語研究所報告86 社会変化と敬語行動の標準』(秀英出版)

- 国立国語研究所(1990)『国立国語研究所報告 102 場面と場面意識』(三省堂)
- 国立国語研究所(1996)『平成 8 年度 国立国語研究所公開研究発表会 テーマ:学校の中の敬語』要旨集
- 国立国語研究所(2000)『新「ことば」シリーズ 12 言葉に関する問答集—言葉の使い分け—』(大蔵省印刷局)
- 小林美恵子(1997)「自称の獲得—高校生へのアンケート調査から—」『ことば(現代日本語研究会)』18
- 佐藤秀夫(1989)「先輩・後輩はどこからきたのか—学校での上学年生支配の歴史と構造—」保坂展人編『先輩が怖い!—中学生に広がる新・身分制度—』(リヨン社)
- 杉戸清樹(1996)「3. 敬語行動についての意識」『平成 8 年度 国立国語研究所公開研究発表会 テーマ:学校の中の敬語』要旨集
- 杉戸清樹・尾崎喜光(1997)「待遇表現の広がりとその意識—中高生の自称表現を中心に—」『月刊言語』26-6(大修館書店)
- 塚田実知代・尾崎喜光(1998)「中学・高校のクラブ活動・部活動における呼称」『日本語学』17-9(明治書院)
- 野元菊雄(1974)「敬語の研究—調査・分析の方法—」『敬語講座 10 敬語研究の方法』(明治書院)
- 前川喜久雄・吉岡泰夫(1997)「発話の丁寧さに対する語彙的要因と韻律的要因の寄与」『国語学』190
- 三浦弥生(1962)『庄内方言の研究』(私家版)
- 吉岡泰夫(1996)「4. 学校社会における敬語行動と規範意識」『平成 8 年度 国立国語研究所公開研究発表会 テーマ:学校の中の敬語』要旨集

謝 辞

本調査を実施し、報告書としてまとめるにあたっては、じつに多くの方々にお世話になった。ここに担当者よりお礼を申し述べたい。

まず、「資料1」の「表2-1 調査協力校一覧」として掲げた57校の先生方および直接回答してくれた生徒の皆さんに、心から感謝申し上げる。これらの方々の理解と協力なしに本調査は実現できなかつた。

また、これらの協力校を紹介していただくにあたっては、東京都中学校国語教育研究会会长・菊地明先生（中野区立北中野中学校長）[所属等は当時；以下も同様]、東京都高等学校国語教育研究会会长・毛利順男先生（東京都立小山台高等学校長）、大阪府科学教育センター（大阪府教育委員会）指導主事・秋田典昭氏および大阪府高等学校国語教育研究会理事長・山本茂雄先生（大阪府立四条畷高等学校長）から協力をいただいた。このほか山形県の調査では、三川町立三川中学校教諭・古川汎武先生・富樫順介先生にもお世話になった。

平成8年12月に行なった本調査の中間報告会（国立国語研究所公開研究発表会）では、調査でもお世話になった早稲田実業学校高等部教諭・町田守弘先生、大阪府科学教育センター指導主事・秋田典昭氏にもおいでいただき、教育現場に直接たずさわる立場から、調査結果について有益なコメントをいただいた。

平成10年3月に行なった担当者による調査結果検討会においては、調査でもお世話になった大阪府立泉北高等学校教諭・関篠先生、および東京都立北多摩高等学校教諭・小林美恵子先生、東京学芸大学附属世田谷中学校教諭・荻野勝先生にも参加いただき、やはり教育現場に直接たずさわる立場から、調査結果について有益なコメントをいただいた。その内容については本報告書の「資料3」として要録を掲載した。

報告書をまとめた最終段階では、三川町立三川中学校教諭・佐藤和明先生からも、当地および当中学校の生徒たちの言語使用や対人意識について話を聞かせていただいた。

調査票の整理およびコンピュータへのデータ入力・校正にあたっては、吉岡栄子・吉富悦子・栗山千恵子・比田千佳子・戸田容子ほか数名の助力を得た。

以上に記すことのできなかつたさまざまな方々からも、直接・間接にいろいろな形でお世話になつた。これらすべての方々に、担当者より心から感謝申し上げる。

担当者

杉戸 清樹
尾崎 喜光
塙田実知代

付 記

本報告書の執筆者および分担は次のとおりである。

杉戸清樹 [日本語教育部門・部門長] ……第1章（尾崎喜光と共同執筆）

尾崎喜光 [研究開発部門第二領域・主任研究員] ……全章節

塚田実知代 [情報資料部門第二領域・研究員] ……第5章第5節・第6節・第7節（いずれも

尾崎喜光と共同執筆）

概要の英訳にあたっては熊谷智子 [研究開発部門第二領域・主任研究員] およびカネギ・ルース [国立国語研究所招へい研究員] の協力を得た。

本報告書を刊行するにあたり、研究所内に刊行物検討委員会が設置され、内容と表現に関するコメントを得た。委員は次のとおりである。

相澤正夫 [研究開発部門・部門長] (委員長)

吉岡泰夫 [研究開発部門・上席研究員]

熊谷智子 [研究開発部門第二領域・主任研究員]

宇佐美洋 [日本語教育部門第一領域・研究員]

また、前川喜久雄 [研究開発部門第二領域・領域長] からも、内容と表現および刊行全般に関するコメントを得た。

資料 1

基礎集計資料

アンケート調査により得られた回答の基礎集計を資料として掲げる。

ここで言う「基礎集計」とは、各設問の回答を、調査対象とした4つのグループ（〈東京中学〉〈東京高校〉〈大阪高校〉〈山形中学〉）に分けて集計したものである。基本的には、男女を合せた集計（全体）と、男女に分けた集計を掲げた。ただし、調査項目によっては男女を合せた集計のみを掲げたり、逆に男女別の集計のみを掲げたものもある。

- ・項目の配列は本文の構成順とした。図表の番号のうち、ハイフンを挟んで最初の2つの数字は、本文の章・節の番号に対応している。
- ・表とグラフの両方を示す場合、左ページに表を、右ページにそれに対応するグラフを掲げた。
- ・表の各セルは上下2段の数値から構成されている。このうち下段は回答の実数、上段はそれを横に見た構成比である。
- ・回答は基本的に選択肢の中から選ばせた。紙幅の関係で、ここでは選択肢の表現を簡略化して示した部分もある。調査で実際に用いた表現については、次の資料2（調査票）を参照されたい。凡例中の「NR」「全てNR」「無印」はその選択肢で回答が得られなかつたことを示す。「全てNR」というのは、その選択肢のみならず全ての選択肢について回答が得られなかつたことを示す。
- ・報告書の本文では、本文中に示した図表の番号と区別するために、資料1の図表のことを「資料表1」「資料図1」などと表現している。

表 2-1 調査協力校一覧

東京中学 21校	港区立港中学校、新宿区立四谷第一中学校、新宿区立四谷第二中学校、新宿区立牛込第三中学校、墨田区立本所中学校、江東区立南砂中学校、品川区立城南中学校、渋谷区立上原中学校、中野区立北中野中学校、豊島区立真和中学校、豊島区立駒込中学校、荒川区立荒川第九中学校、板橋区立板橋第一中学校、練馬区立谷原中学校、練馬区立光が丘第二中学校、足立区立足立第十四中学校、府中市立府中第二中学校、小金井市立小金井南中学校、保谷市立柳沢中学校、多摩市立聖が丘中学校、稲城市立稲城第四中学校（以上全て公立中学校）
東京高校 25校	都立三田高校、都立小山台高校、都立蒲田高校、都立戸山高校、都立広尾高校、都立鷺宮高校、都立杉並高校、都立田柄高校、都立高島高校、都立志村高校、都立白鷗高校、都立八王子東高校、都立北多摩高校、都立青梅東高校、都立秋留台高校、都立久留米西高校、都立小平西高校、都立清瀬高校、都立府中高校、都立狛江高校、都立小岩高校、都立大崎高校、都立日野台高校（以上公立高校） 早稲田実業学校（私立男子高校） 富士見高校（私立女子高校）
大阪高校 10校	府立東淀川高校、府立春日丘高校、府立四条畷高校、府立夕陽丘高校、府立今宮高校、府立泉北高校、府立伯太高校、府立砂川高校（以上公立高校） 関西大学附属第一高校（私立男子高校） プール学院高校（私立女子高校）
山形中学 1校	三川町立三川中学校（公立中学校）

表 2-2 調査対象者の内訳

（ ）内は構成比

		東京中学	東京高校	大阪高校	山形中学
対象校数		21	25	10	1
対象者総数		2456	2222	1004	339
性別	男子	1285(52.3)	1157(52.1)	472(47.0)	161(47.5)
	女子	1171(47.7)	1060(47.7)	530(52.8)	178(52.5)
	不明	0(0.0)	5(0.2)	2(0.2)	0(0.0)
学年別	1年	2(0.1)	1124(50.6)	575(57.3)	126(37.2)
	2年	2450(99.8)	1090(49.1)	429(42.7)	110(32.4)
	3年	4(0.2)	8(0.4)	0(0.0)	103(30.4)
調査年		1990年		1989年	

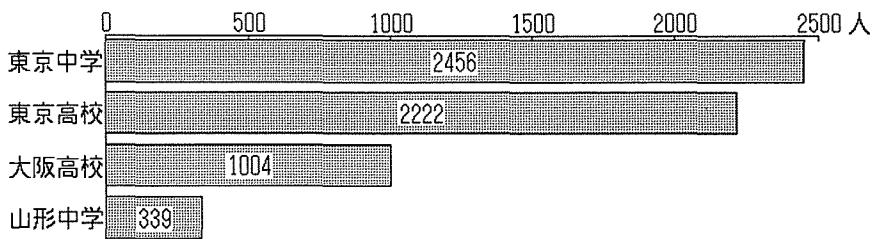


図 2-1-1 調査対象者の人数

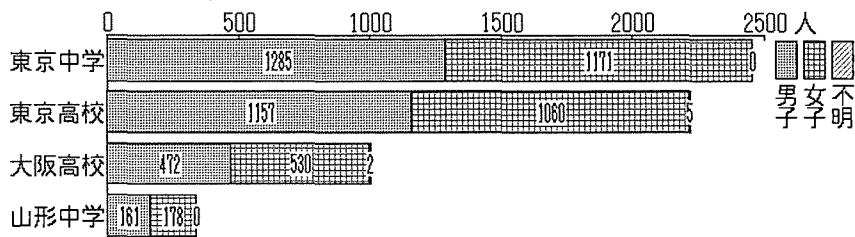


図 2-1-2 調査対象者の人数(男女別内訳)

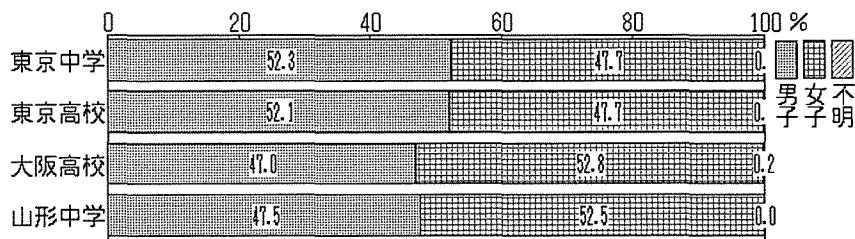


図 2-1-3 調査対象者の人数の構成比(男女別)

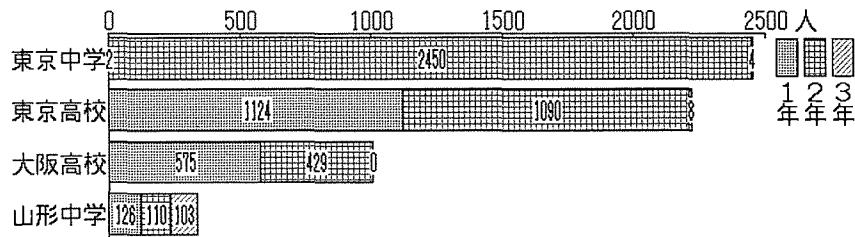


図 2-1-4 調査対象者の人数(学年別内訳)

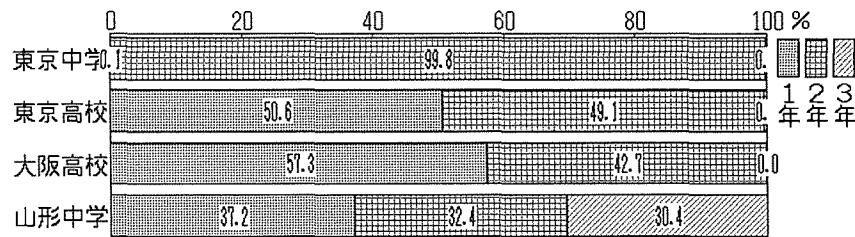


図 2-1-5 調査対象者の人数の構成比(学年別)

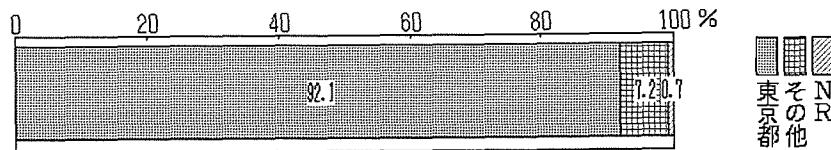


図 2-2-1 調査対象者の居住地(東京高校・全体)

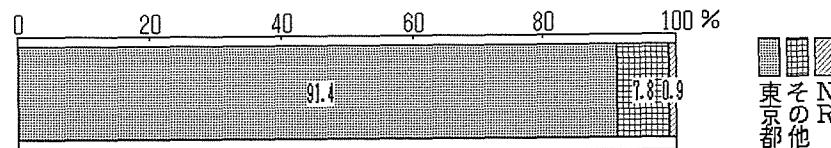


図 2-2-2 調査対象者の居住地(東京高校・男子)

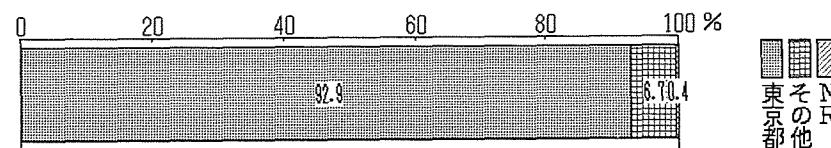


図 2-2-3 調査対象者の居住地(東京高校・女子)

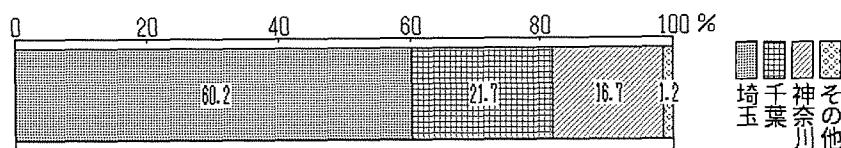


図 2-2-4 調査対象者の居住地「その他」の内訳(東京高校・全体)

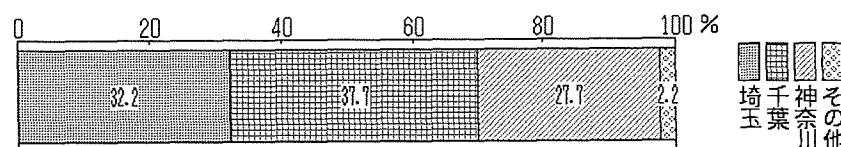


図 2-2-5 調査対象者の居住地「その他」の内訳(東京高校・男子)

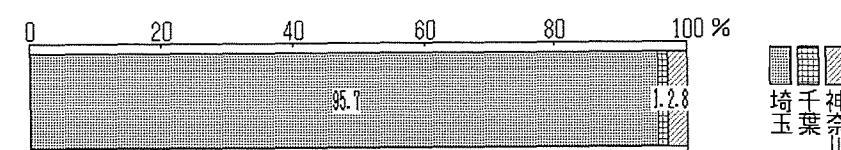


図 2-2-6 調査対象者の居住地「その他」の内訳(東京高校・女子)

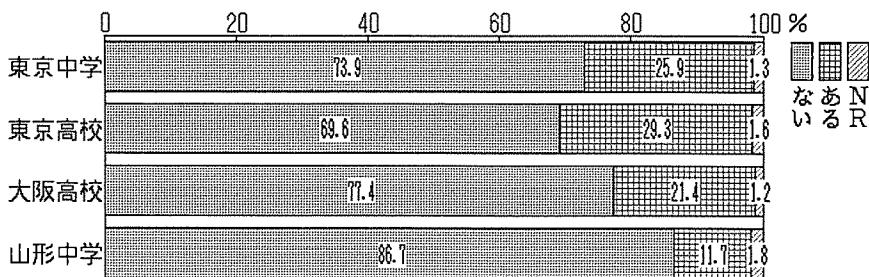


図 2-2-7 地元(東京都/大阪府/三川町)以外での1年以上の居住経験(全体)

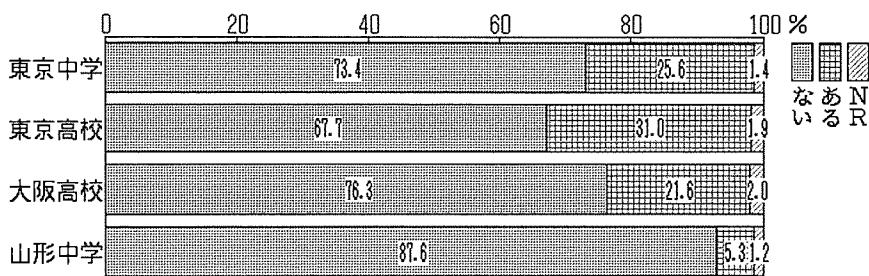


図 2-2-8 地元(東京都/大阪府/三川町)以外での1年以上の居住経験(男子)

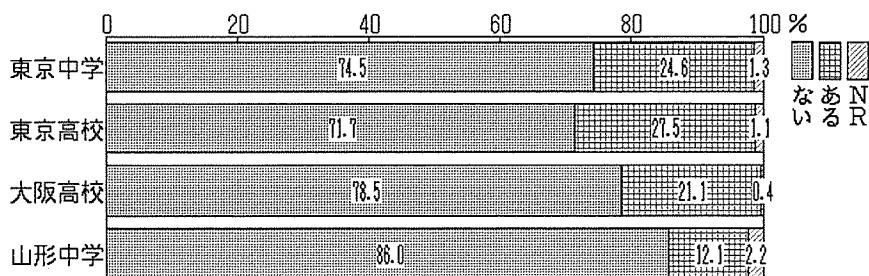


図 2-2-9 地元(東京都/大阪府/三川町)以外での1年以上の居住経験(女子)

(注) 大阪高校の場合、「ずっと京都府／兵庫県／奈良県」と回答した生徒は「ある」に含めてある。ただしその比率は小さい。

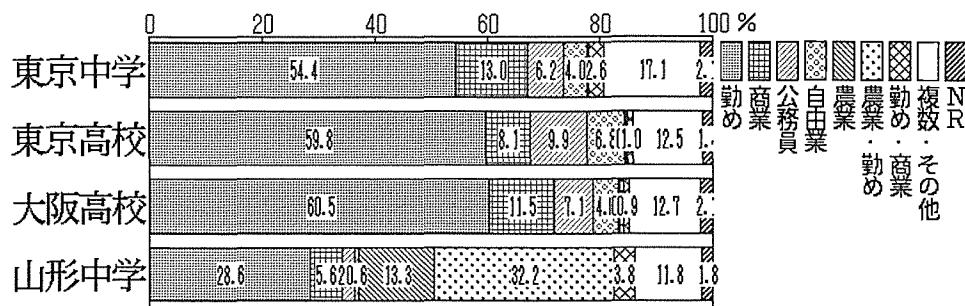


図 2-3 家の仕事(全体)

(注) 「複数・その他」の「複数」は、「農業・勤め」「勤め・商業」以外のものである。

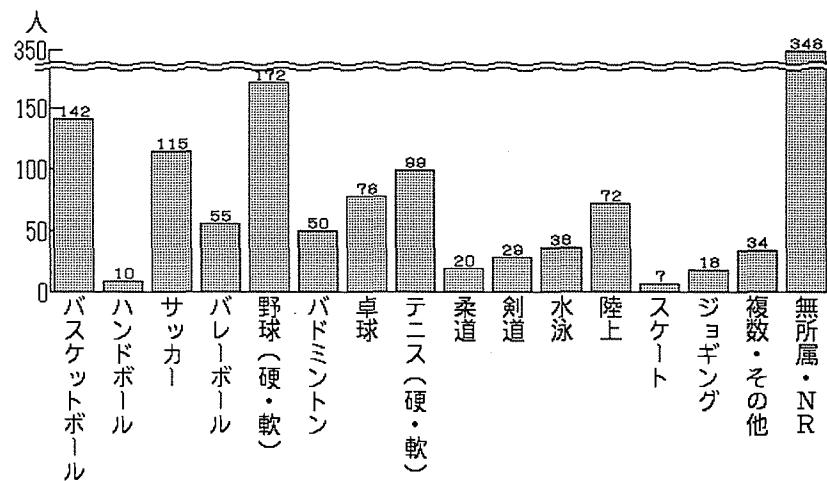


図 2-4-1 所属する運動部(東京中学・男子)

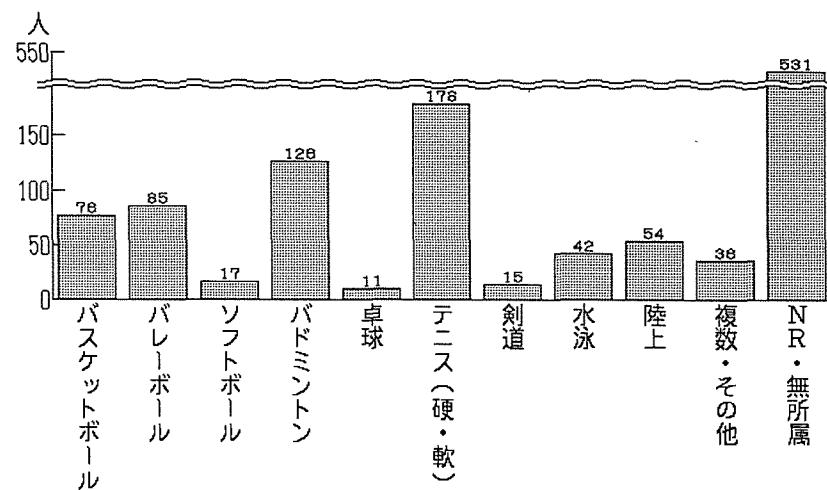


図 2-4-2 所属する運動部(東京中学・女子)

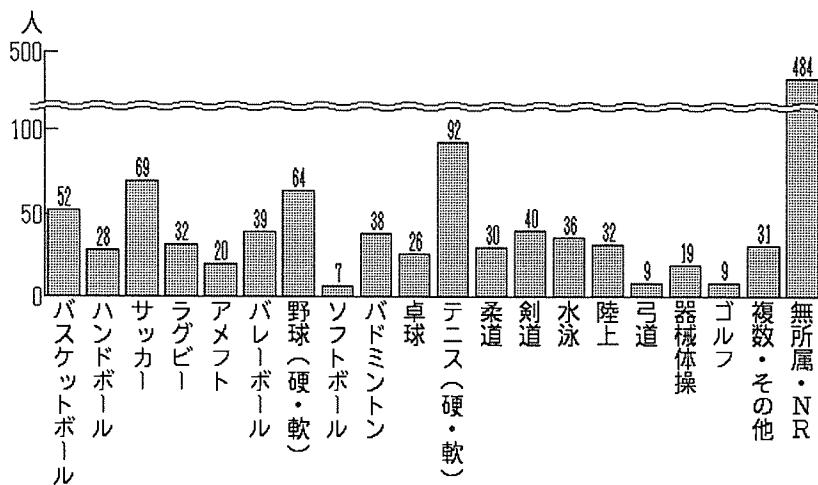


図 2-4-3 所属する運動部(東京高校・男子)

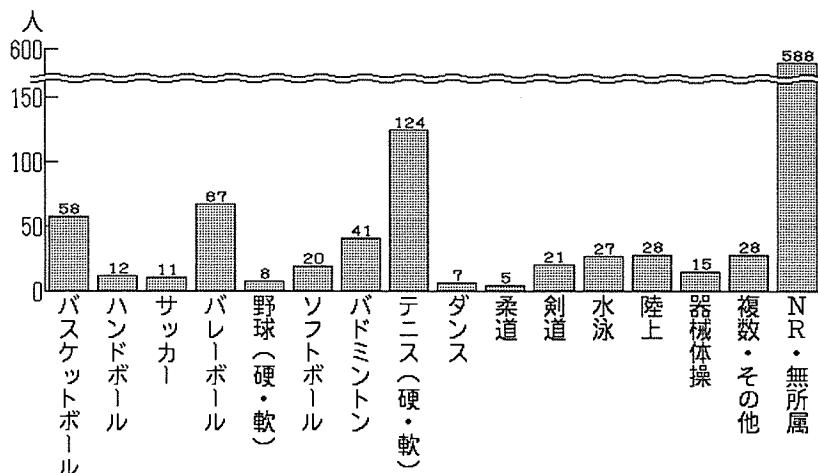


図 2-4-4 所属する運動部(東京高校・女子)

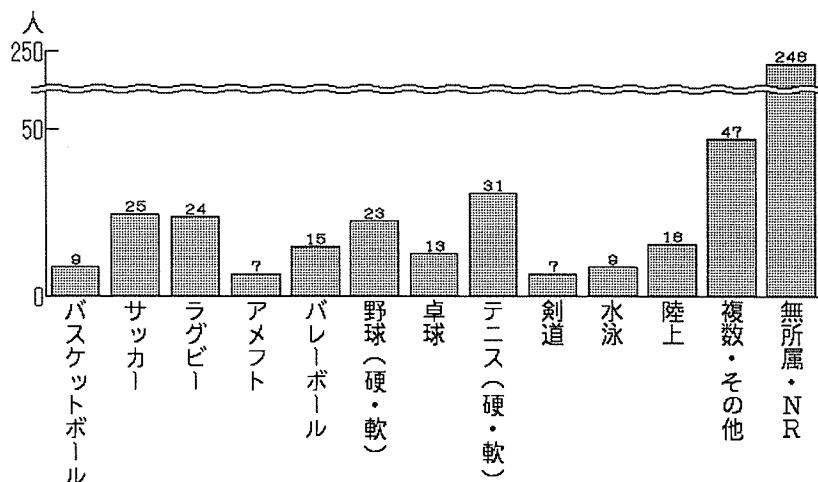


図 2-4-5 所属する運動部(大阪高校・男子)

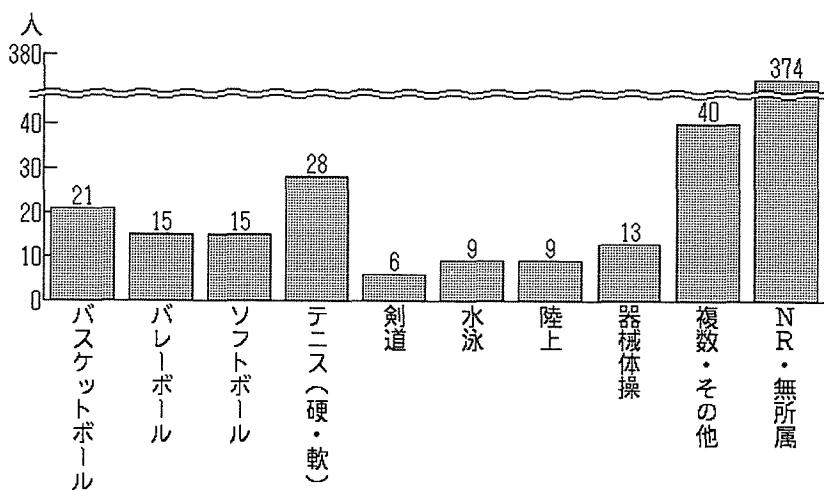


図 2-4-6 所属する運動部(大阪高校・女子)

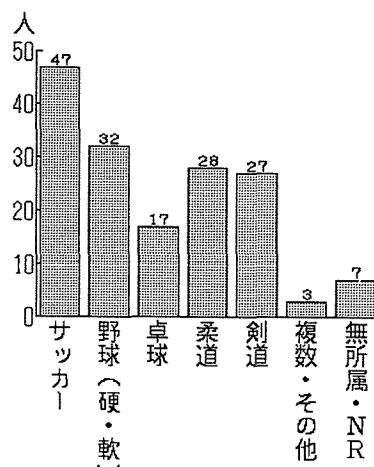


図 2-4-7 所属する運動部(山形中学・男子)

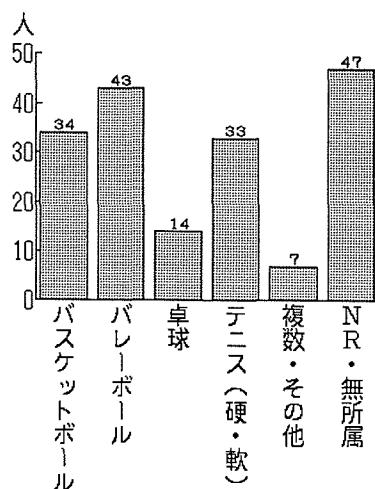


図 2-4-8 所属する運動部(山形中学・女子)

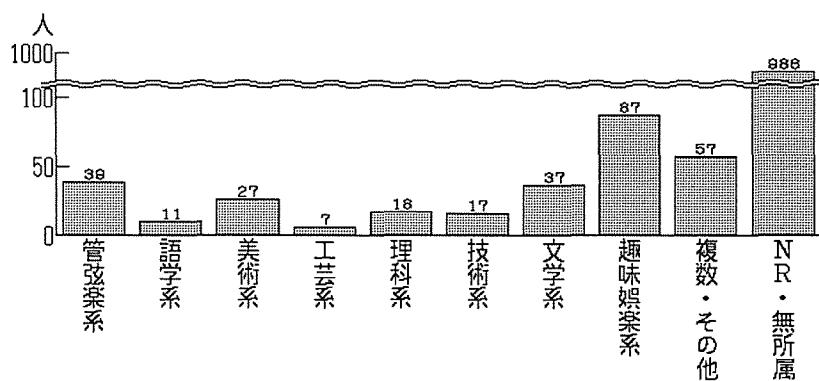


図 2-4-9 所属する文化部(東京中学・男子)

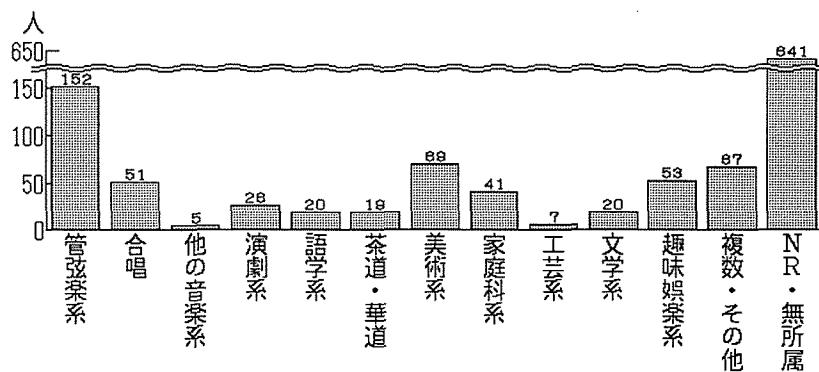


図 2-4-10 所属する文化部(東京中学・女子)

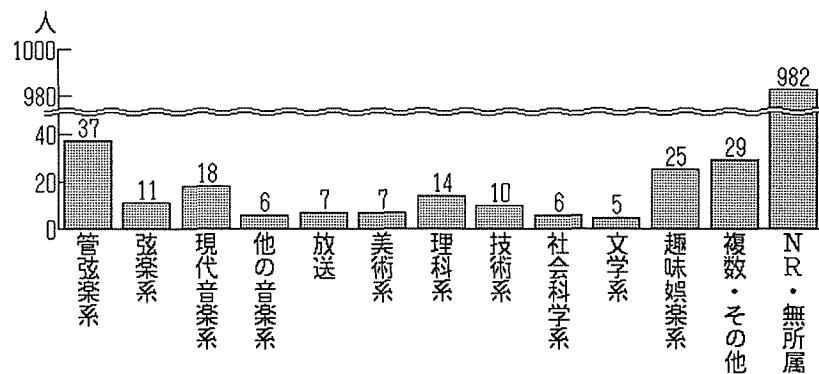


図 2-4-11 所属する文化部(東京高校・男子)

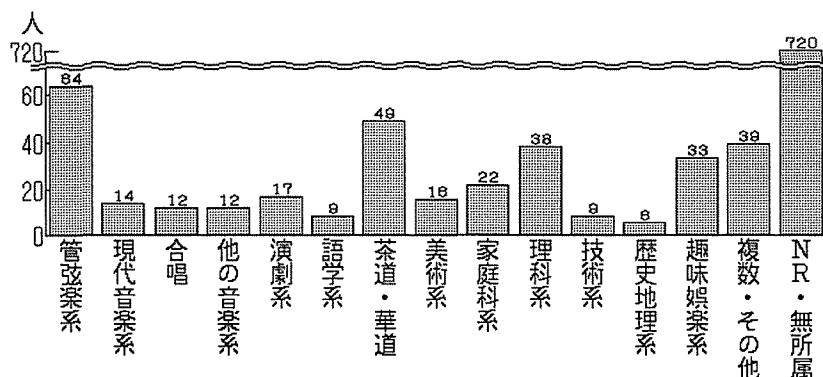
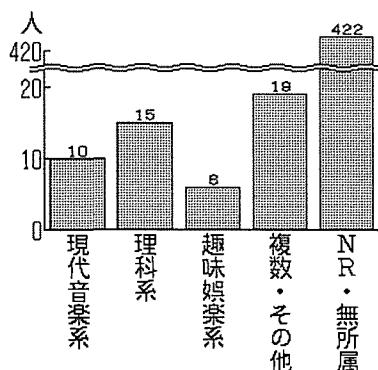
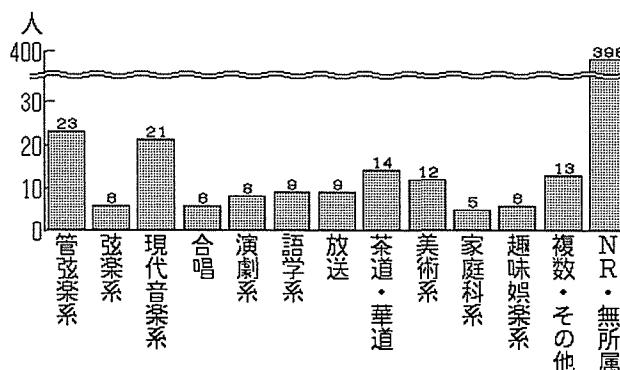
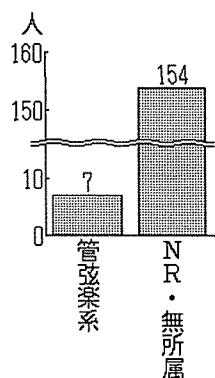
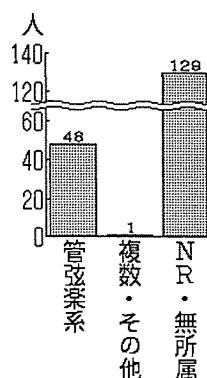


図 2-4-12 所属する文化部(東京高校・女子)

図 2-4-13 所属する文化部
(大阪高校・男子)図 2-4-14 所属する文化部
(大阪高校・女子)図 2-4-15 所属する文化部
(山形中学・男子)図 2-4-16 所属する文化部
(山形中学・女子)

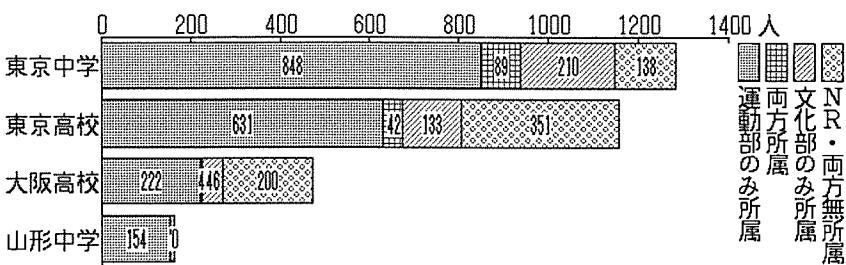


図 2-4-17 所属する部(クラブ)活動のパタン [人数] (男子)

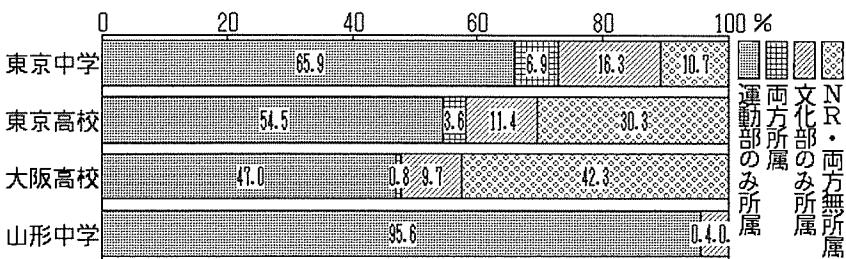


図 2-4-18 所属する部(クラブ)活動のパタン [構成比] (男子)

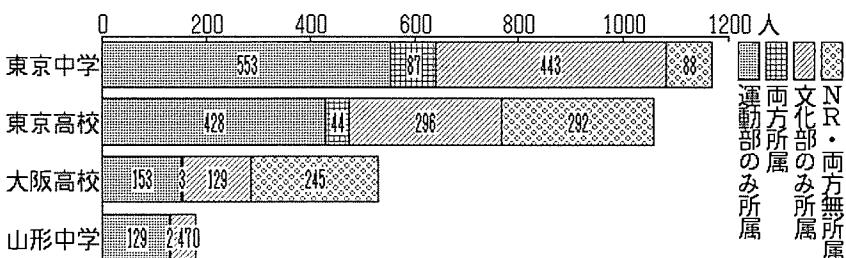
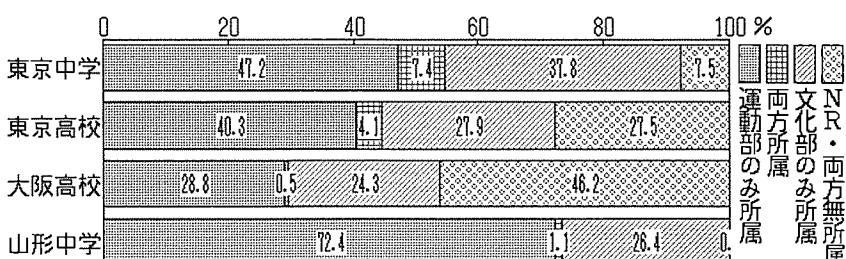


図 2-4-19 所属する部(クラブ)活動のパタン [人数] (女子)



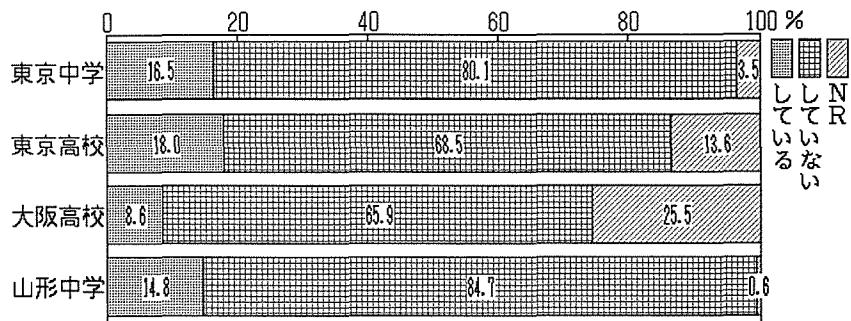


図 2-5 部(クラブ)活動で役職をしているか(全体)

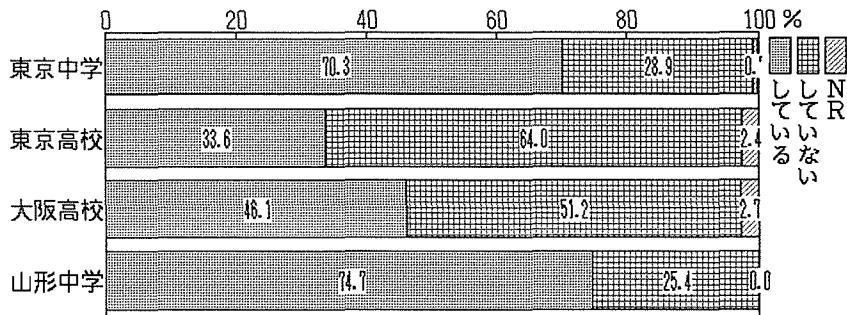


図 2-6 クラスで係をしているか(全体)

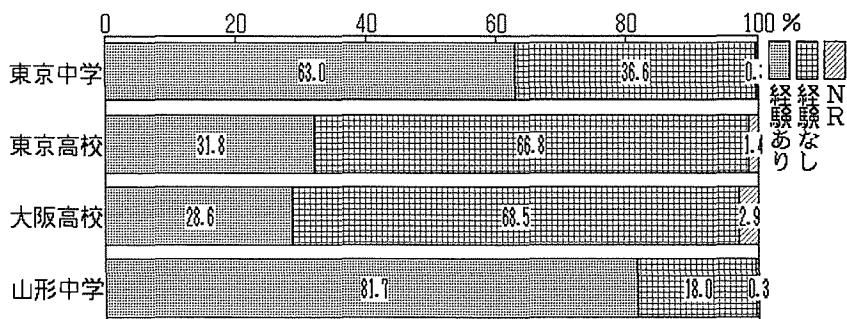


図 2-7 生徒会で役員・委員を経験したことがあるか(全体)

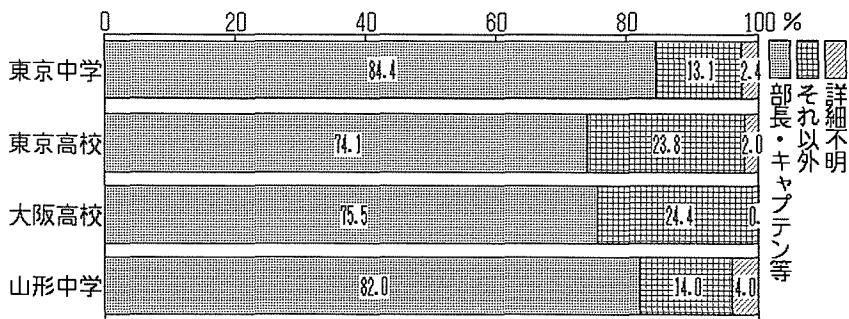


図 2-5-1 部(クラブ)活動で役職を「している」の内訳(全体)

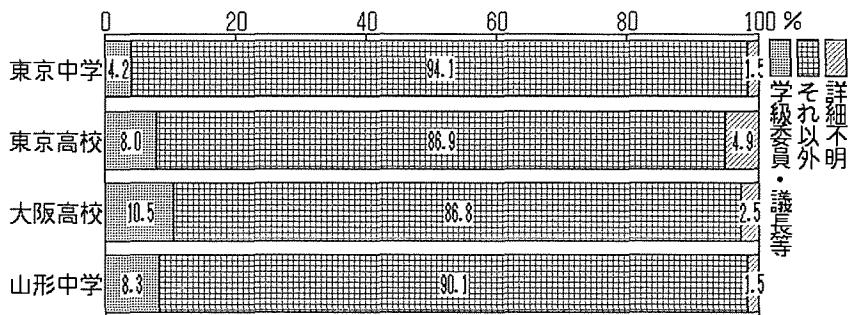


図 2-6-1 クラスで係を「している」の内訳(全体)

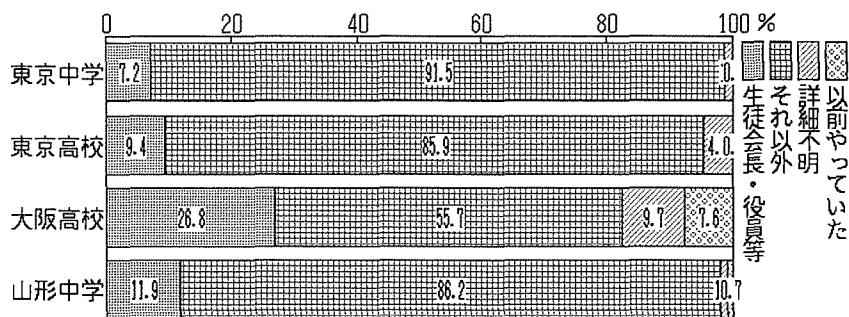


図 2-7-1 生徒会での役員・委員の「経験あり」の内訳(全体)

表 3-1 ふだん学校で言葉遣いが気になるか

		気になる	気にならない	両方に○	NR
全 体	東京中学	25.0 613	74.7 1834	0.0 1	0.3 8
	東京高校	27.5 611	72.3 1606	0.0 1	0.2 4
	大阪高校	27.3 274	72.7 730	0.0 0	0.0 0
	山形中学	18.6 63	81.4 276	0.0 0	0.0 0
男 子	東京中学	19.8 255	79.7 1024	0.1 1	0.4 5
	東京高校	24.9 288	74.9 867	0.0 0	0.2 2
	大阪高校	23.7 112	76.3 360	0.0 0	0.0 0
	山形中学	16.8 27	83.2 134	0.0 0	0.0 0
女 子	東京中学	30.6 358	69.2 810	0.0 0	0.3 3
	東京高校	30.4 322	69.3 735	0.1 1	0.2 2
	大阪高校	30.6 162	69.4 368	0.0 0	0.0 0
	山形中学	20.2 36	79.8 142	0.0 0	0.0 0

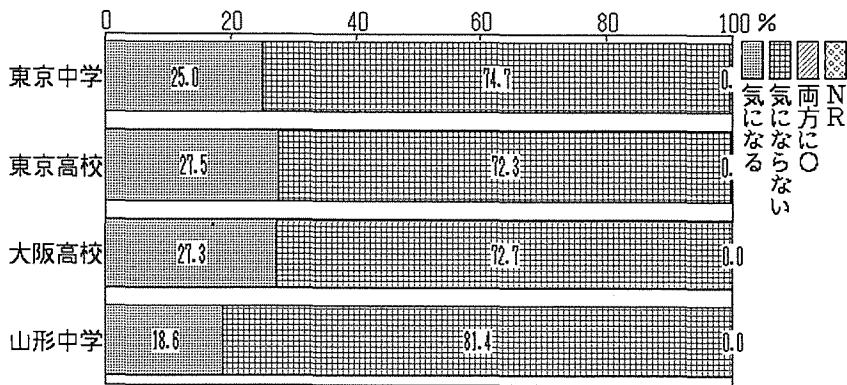


図 3-1-1 ふだん学校で言葉遣いが気になるか(全体)

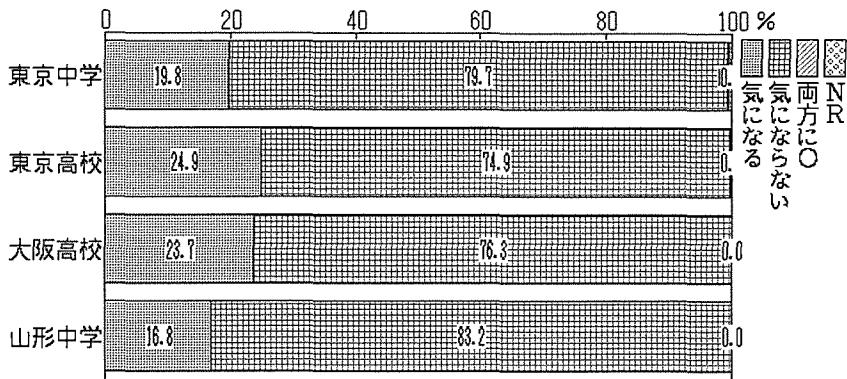


図 3-1-2 ふだん学校で言葉遣いが気になるか(男子)

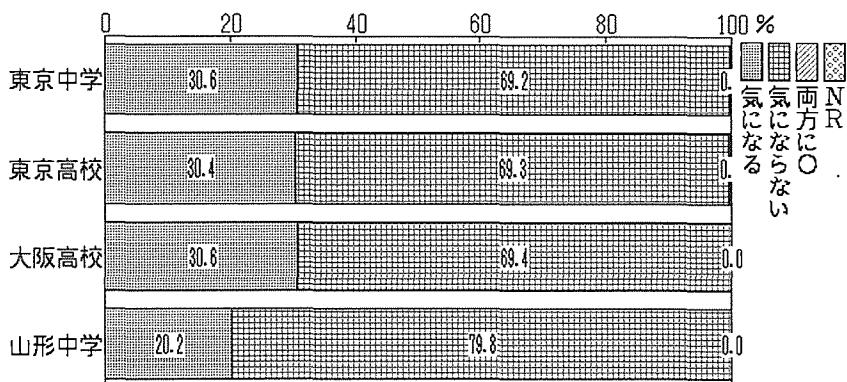


図 3-1-3 ふだん学校で言葉遣いが気になるか(女子)

表 3-2 目上(先生や上級生)に対し言葉遣いが気になるか

		気になる	気にならない	N R
全 体	東京中学	55.8 1370	43.9 1078	0.3 8
	東京高校	61.2 1359	38.7 861	0.1 2
	大阪高校	63.3 636	36.7 368	0.0 0
	山形中学	50.4 171	79.6 168	0.0 0
男 子	東京中学	48.6 625	51.1 657	0.2 3
	東京高校	58.5 677	41.5 480	0.0 0
	大阪高校	57.0 269	43.0 203	0.0 0
	山形中学	37.9 61	62.1 100	0.0 0
女 子	東京中学	63.6 745	36.0 421	0.4 5
	東京高校	64.1 679	35.8 379	0.2 2
	大阪高校	69.1 366	30.9 164	0.0 0
	山形中学	61.8 110	38.2 68	0.0 0

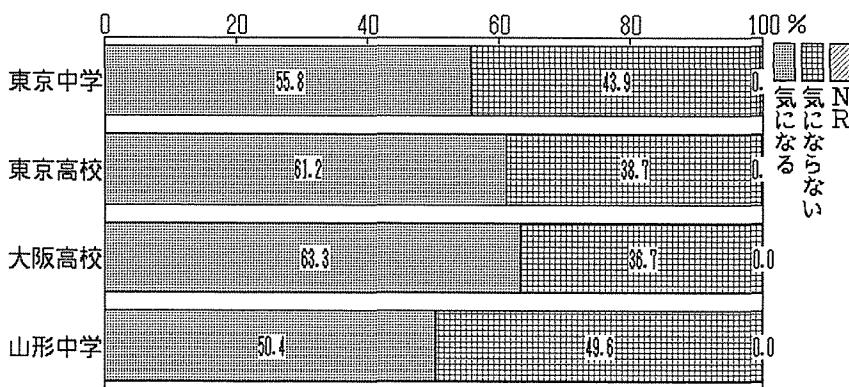


図 3-2-1 目上(先生や上級生)に対し言葉遣いが気になるか(全体)

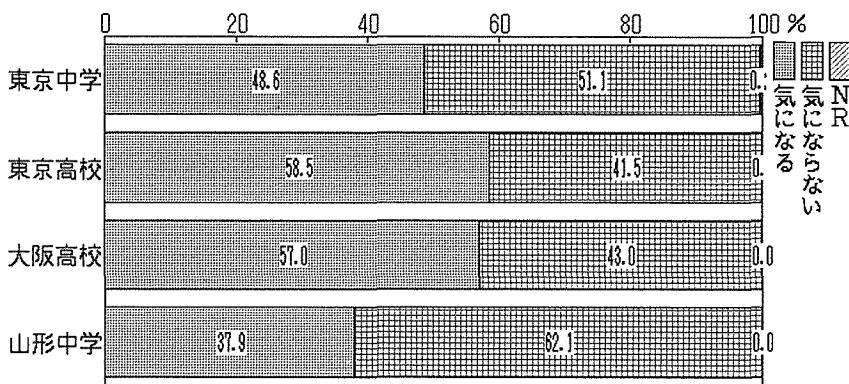


図 3-2-2 目上(先生や上級生)に対し言葉遣いが気になるか(男子)

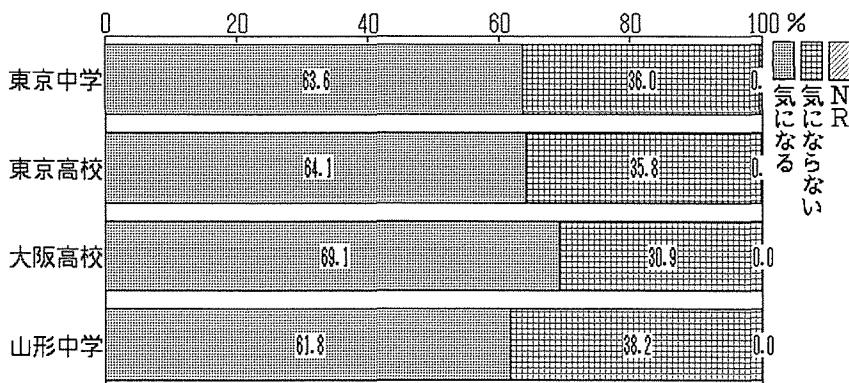


図 3-2-3 目上(先生や上級生)に対し言葉遣いが気になるか(女子)

表 3-3 目上(先生や上級生)に対し言葉遣いが変わるか

		変わらない	変わる 敬語	変わる 丁寧な言葉	変わる 言葉の最後	変わる 人の呼び方	変わる 言語行動	変わる 方言…	変わる 無記入	変わる その他	N R
全 体	東京 中学	24.6 604	26.5 652	27.8 682	4.1 100	1.3 33	6.1 151	0.1 2	5.9 144	3.5 87	0.0 1
	東京 高校	15.7 348	35.0 778	22.4 497	10.8 240	0.6 13	3.0 67	0.0 1	9.7 215	2.8 62	0.0 1
	大阪 高校	18.8 189	27.8 279	21.1 212	12.1 121	1.3 13	3.1 31	1.5 15	10.9 109	3.5 35	0.0 0
	山形 中学	36.0 122	22.7 77	21.5 73	1.8 6	2.7 9	5.9 20	2.9 10	2.9 10	3.5 12	0.0 0
男 子	東京 中学	36.3 467	19.3 248	22.6 290	3.0 39	2.3 30	5.4 70	0.2 2	6.7 86	4.0 52	0.1 1
	東京 高校	18.8 218	31.7 367	20.6 238	9.7 112	1.0 11	2.9 34	0.1 1	11.7 135	3.5 41	0.0 0
	大阪 高校	21.8 103	26.3 124	16.9 80	10.6 50	2.3 11	2.1 10	1.3 6	14.6 69	4.0 19	0.0 0
	山形 中学	55.3 89	16.8 27	9.9 16	0.6 1	3.7 6	6.2 10	1.2 2	2.5 4	3.7 6	0.0 0
女 子	東京 中学	11.7 137	34.5 404	33.5 392	5.2 61	0.3 3	6.9 81	0.0 0	5.0 58	3.0 35	0.0 0
	東京 高校	12.1 128	38.6 409	24.3 258	12.1 128	0.2 2	3.1 33	0.0 0	7.5 80	2.0 21	0.1 1
	大阪 高校	16.0 85	29.1 154	24.9 132	13.4 71	0.4 2	4.0 21	1.7 9	7.5 40	3.0 16	0.0 0
	山形 中学	18.5 33	28.1 50	32.0 57	2.8 5	1.7 3	5.6 10	4.5 8	3.4 6	3.4 6	0.0 0

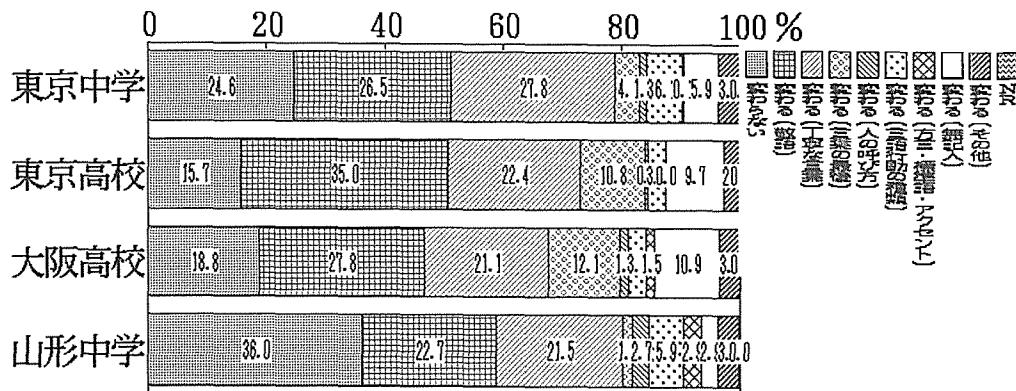


図 3-3-1 目上(先生や上級生)に対し言葉遣いが変わるか(全体)

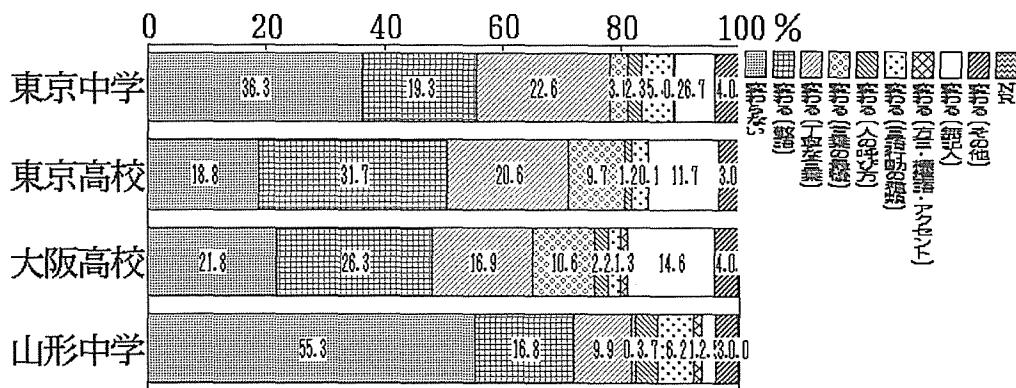


図 3-3-2 目上(先生や上級生)に対し言葉遣いが変わるか(男子)

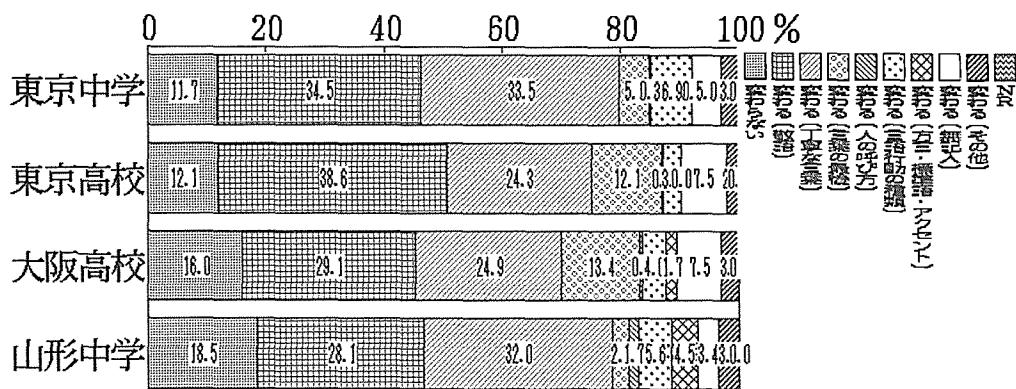


図 3-3-3 目上(先生や上級生)に対し言葉遣いが変わるか(女子)

表 3-4 目上(先生や上級生)への言葉遣いで困った経験

		経験なし	経験あり	NR
全 体	東京中学	62.9 1544	36.8 905	0.3 7
	東京高校	48.6 1080	51.2 1138	0.2 4
	大阪高校	47.0 472	52.8 530	0.2 2
	山形中学	55.2 187	44.8 152	0.0 0
男 子	東京中学	68.9 886	30.9 397	0.2 2
	東京高校	66.8 639	33.0 516	0.2 2
	大阪高校	53.0 250	47.0 222	0.0 0
	山形中学	60.9 98	39.1 63	0.0 0
女 子	東京中学	56.2 658	43.4 508	0.4 5
	東京高校	41.3 438	58.5 620	0.2 2
	大阪高校	41.9 222	57.7 306	0.4 2
	山形中学	50.0 89	50.0 89	0.0 0

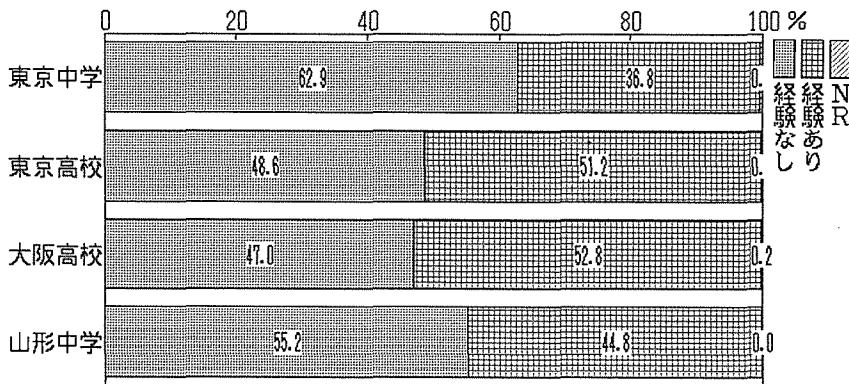


図 3-4-1 目上(先生や上級生)への言葉遣いで困った経験(全体)

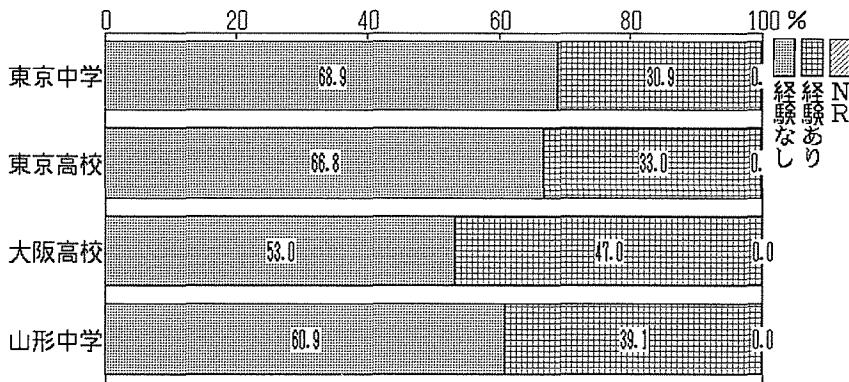


図 3-4-2 目上(先生や上級生)への言葉遣いで困った経験(男子)

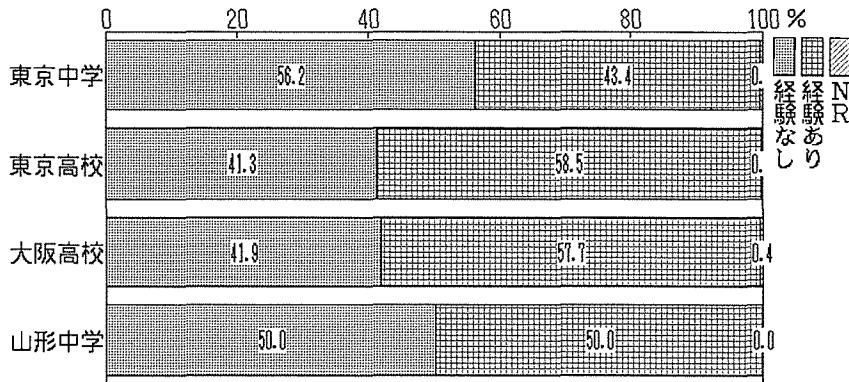


図 3-4-3 目上(先生や上級生)への言葉遣いで困った経験(女子)

表 3-5 学校生活の改まった場面で言葉遣いに困った経験

		経験なし	経験あり	N R
全 体	東京中学	82.3 2022	17.1 421	0.5 13
	東京高校	79.1 1758	20.5 456	0.4 8
	大阪高校	77.7 780	22.1 222	0.2 2
	山形中学	71.4 242	28.6 97	0.0 0
男 子	東京中学	83.5 1073	15.9 204	0.6 8
	東京高校	81.7 945	17.9 207	0.4 5
	大阪高校	80.9 382	18.9 89	0.2 1
	山形中学	68.3 110	31.7 51	0.0 0
女 子	東京中学	81.0 949	18.5 217	0.4 5
	東京高校	76.4 810	23.3 247	0.3 3
	大阪高校	75.1 398	24.7 131	0.2 1
	山形中学	74.2 132	25.8 46	0.0 0

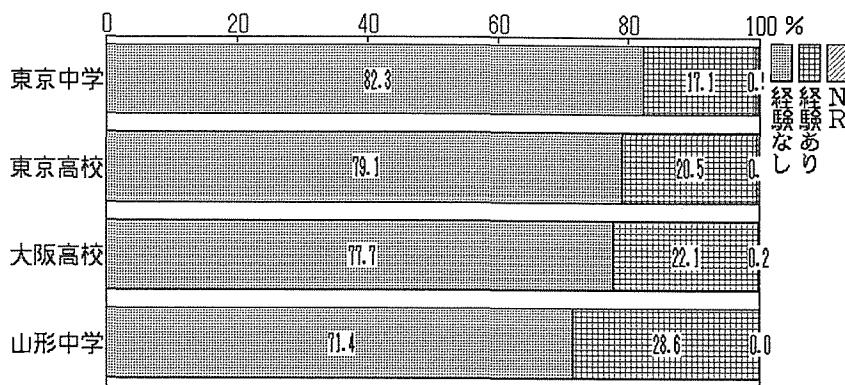


図 3-5-1 学校生活の改まった場面で言葉遣いに困った経験(全体)

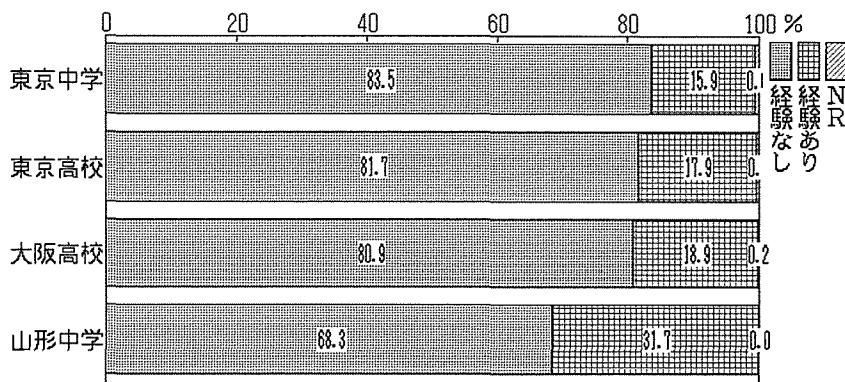


図 3-5-2 学校生活の改まった場面で言葉遣いに困った経験(男子)

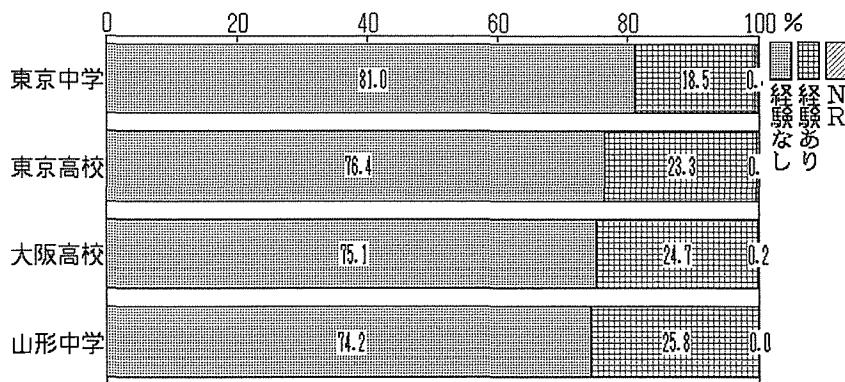


図 3-5-3 学校生活の改まった場面で言葉遣いに困った経験(女子)

表 3-6 目上(先生や上級生)から言葉遣いを注意・教示された経験

		経験なし	経験あり	N R
全 体	東京中学	64.0 1571	35.6 875	0.4 10
	東京高校	64.5 1434	35.2 783	0.2 5
	大阪高校	53.2 534	46.5 467	0.3 3
	山形中学	61.9 210	38.1 129	0.0 0
男 子	東京中学	67.0 861	32.5 418	0.5 6
	東京高校	66.8 773	33.0 382	0.2 2
	大阪高校	54.0 255	45.8 216	0.2 1
	山形中学	56.5 91	43.5 70	0.0 0
女 子	東京中学	60.6 710	39.0 457	0.3 4
	東京高校	62.0 657	37.7 400	0.3 3
	大阪高校	52.5 278	47.2 250	0.4 2
	山形中学	66.9 119	33.1 59	0.0 0

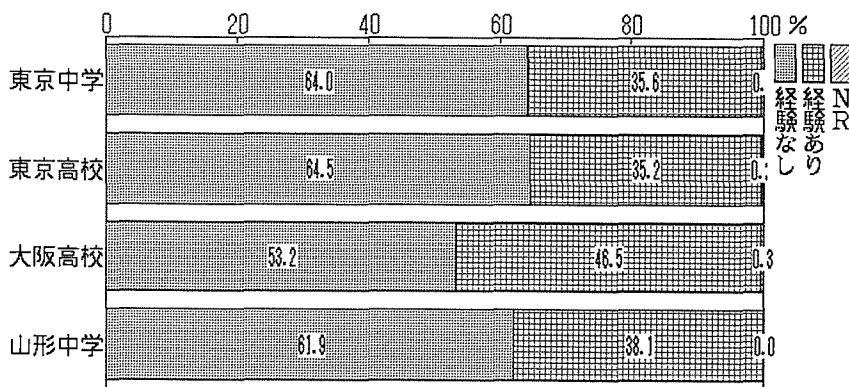


図 3-6-1 目上(先生や上級生)から言葉遣いを注意・教示された経験(全体)

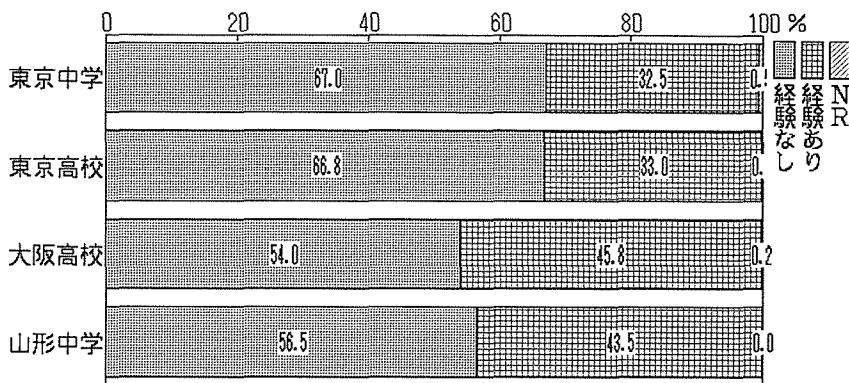


図 3-6-2 目上(先生や上級生)から言葉遣いを注意・教示された経験(男子)

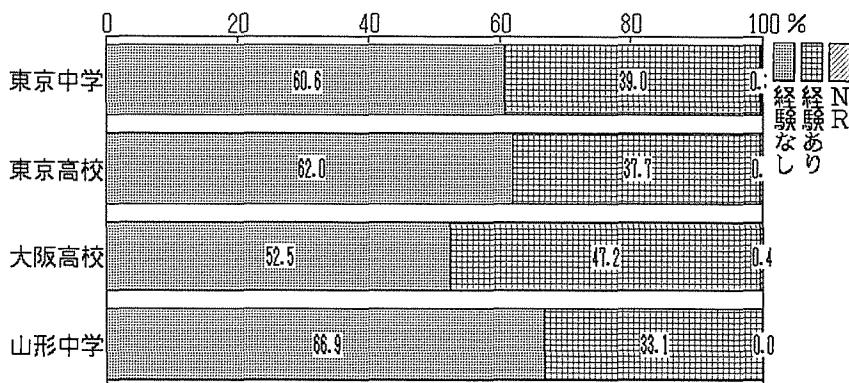


図 3-6-3 目上(先生や上級生)から言葉遣いを注意・教示された経験(女子)

表3-7 学校生活で言葉遣いに気を使う場面

		東京中学	東京高校	大阪高校	山形中学
全體	授業中に指名されての意見	27.4 674	21.6 480	23.8 239	36.6 124
	クラス討論で意見	17.4 428	11.1 246	10.1 101	20.1 68
	クラスの中で異性同級生と	6.4 158	6.9 153	7.6 76	1.5 5
	*クラスの中で異性同級生と(男子校/女子校)	0.0 0	16.9 376	23.2 233	0.0 0
	クラブ活動で先輩と	52.9 1299	53.7 1194	57.9 581	36.0 122
	生徒会で意見	20.5 503	12.7 283	10.2 102	44.2 150
	職員室で先生と	70.0 1720	72.3 1606	73.6 739	68.7 233
	クラブ活動で先生と	23.1 567	39.5 878	40.6 408	19.8 67
	来客に尋ねられて	77.9 1912	76.6 1701	69.7 700	72.0 244
男子	授業中に指名されての意見	30.4 391	22.3 258	21.2 100	42.2 68
	クラス討論で意見	19.0 244	10.8 125	8.3 39	21.1 34
	クラスの中で異性同級生と	8.9 114	9.9 114	10.4 49	1.9 3
	*クラスの中で異性同級生と(男子校)	0.0 0	16.7 193	20.1 95	0.0 0
	クラブ活動で先輩と	39.0 501	53.9 624	53.8 254	11.2 18
	生徒会で意見	19.6 252	9.9 114	7.6 36	47.8 77
	職員室で先生と	76.3 980	73.2 847	77.1 364	78.3 126
	クラブ活動で先生と	27.1 348	42.4 491	50.4 238	28.0 45
	来客に尋ねられて	75.0 964	70.4 815	63.3 299	68.9 111
女子	授業中に指名されての意見	24.2 283	20.8 220	26.2 139	31.5 56
	クラス討論で意見	15.7 184	11.3 120	11.7 62	19.1 34
	クラスの中で異性同級生と	3.8 44	3.7 39	5.1 27	1.1 2
	*クラスの中で異性同級生と(女子校)	0.0 0	17.3 183	26.0 138	0.0 0
	クラブ活動で先輩と	68.1 798	53.5 567	61.5 326	58.4 104
	生徒会で意見	21.4 251	15.9 169	12.5 66	41.0 73
	職員室で先生と	63.2 740	71.3 756	70.4 373	60.1 107
	クラブ活動で先生と	18.7 219	36.1 383	31.7 168	12.4 22
	来客に尋ねられて	81.0 948	83.2 882	75.5 400	74.7 133

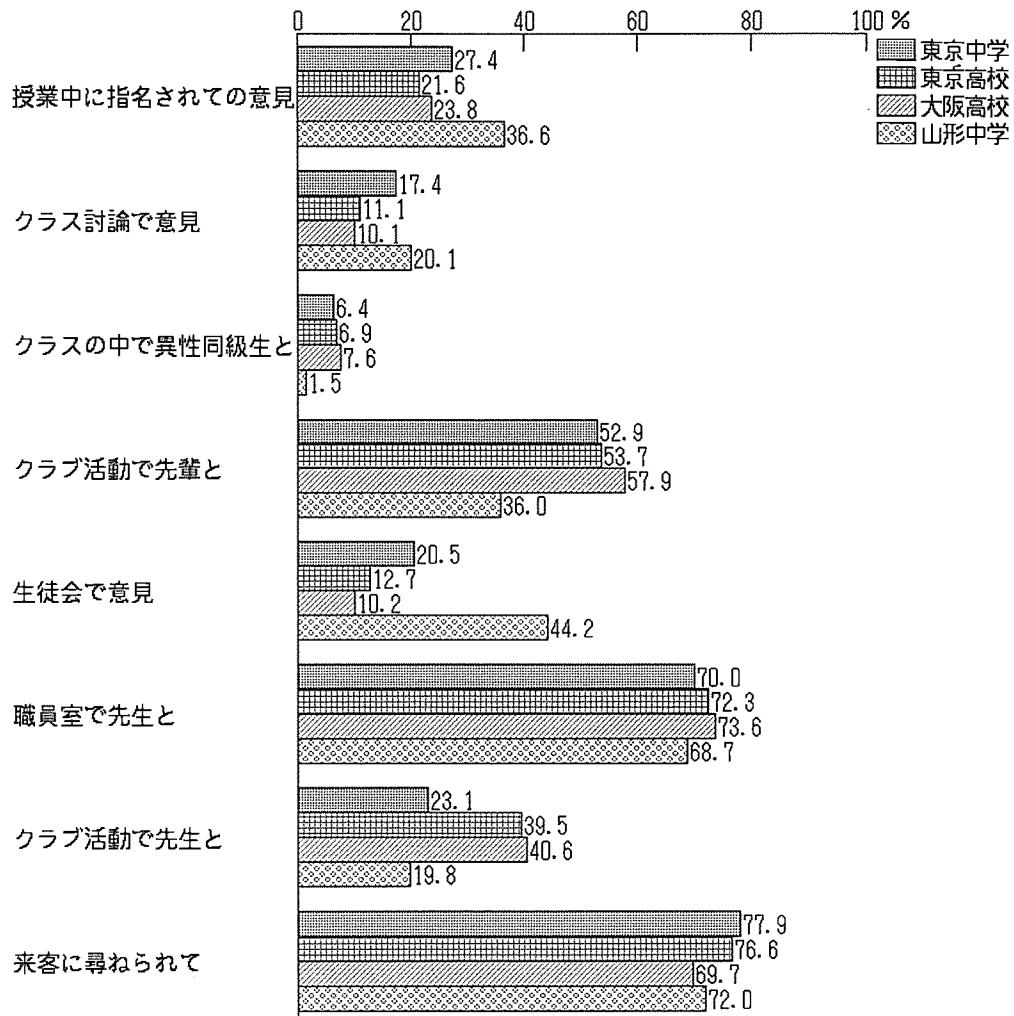


図 3-7-1 学校生活で言葉遣いに気を使う場面(全体)

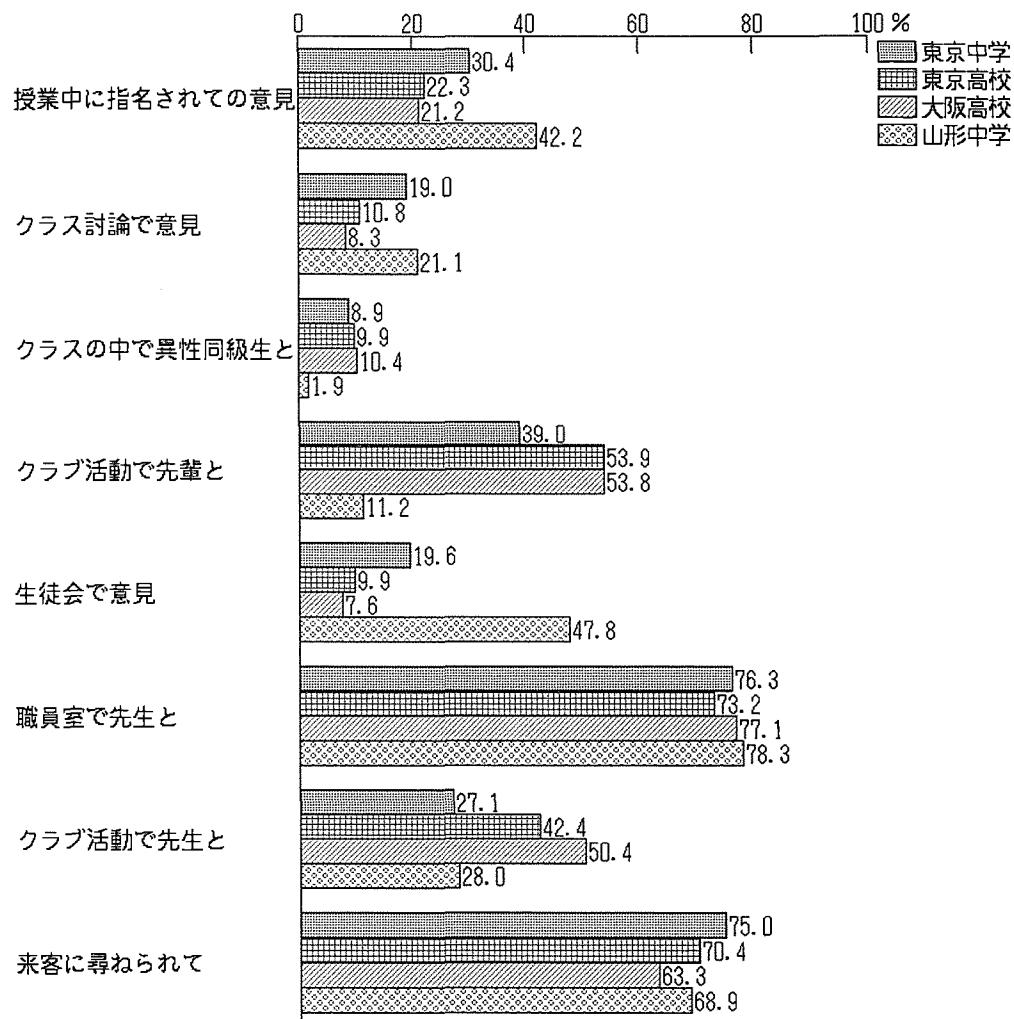


図 3-7-2 学校生活で言葉遣いに気を使う場面(男子)

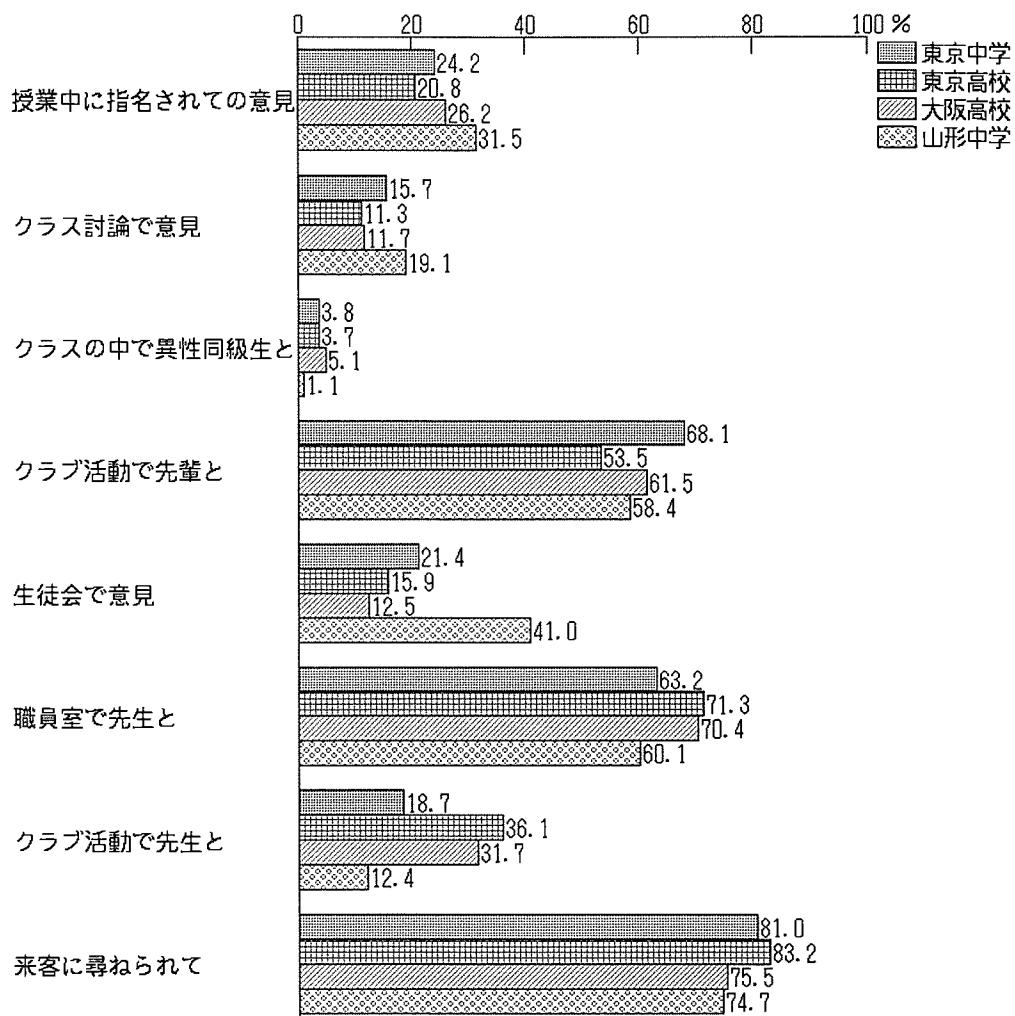


図 3-7-3 学校生活で言葉遣いに気を使う場面(女子)

表 4-1 クラス討論や授業での言葉遣い

		改まった 方がよい	普通で よい	両方に○	NR
全 体	東京中学	49.0 1203	50.2 1233	0.1 3	0.7 17
	東京高校	48.0 1067	50.9 1132	0.1 2	0.9 21
	大阪高校	36.4 365	62.8 631	0.3 3	0.5 5
	山形中学	67.6 229	32.4 110	0.0 0	0.0 0
男 子	東京中学	43.3 556	55.8 717	0.2 2	0.8 10
	東京高校	45.0 521	53.8 622	0.1 1	1.1 13
	大阪高校	30.5 144	68.6 324	0.2 1	0.6 3
	山形中学	59.6 96	40.4 65	0.0 0	0.0 0
女 子	東京中学	55.3 647	44.1 516	0.1 1	0.6 7
	東京高校	51.3 544	47.9 508	0.1 1	0.7 7
	大阪高校	41.7 221	57.5 305	0.4 2	0.4 2
	山形中学	74.7 133	25.3 45	0.0 0	0.0 0

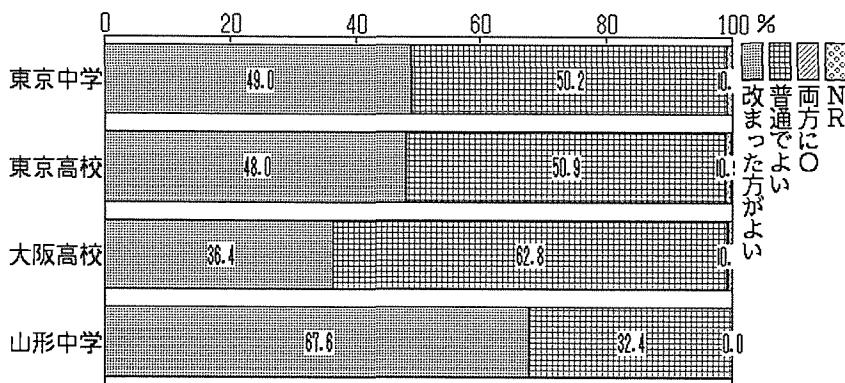


図 4-1-1 クラス討論や授業での言葉遣い(全体)

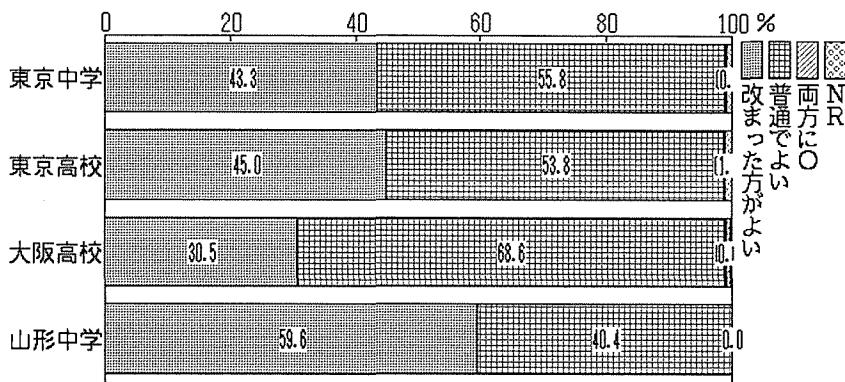


図 4-1-2 クラス討論や授業での言葉遣い(男子)

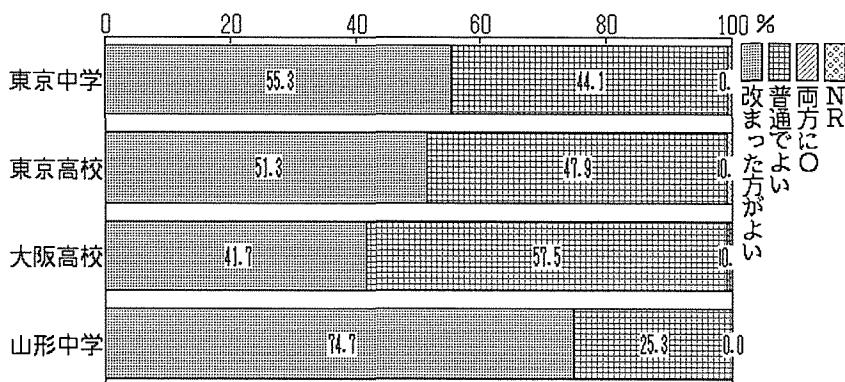


図 4-1-3 クラス討論や授業での言葉遣い(女子)

表 4-2 目上の生徒(上級生や先輩)への敬語の使用

		使う方が よい	使わなく てもよい	両方に○	NR
全 体	東京中学	65.8 1615	33.1 813	0.3 8	0.8 20
	東京高校	73.0 1621	25.9 575	0.1 3	1.0 23
	大阪高校	77.7 780	21.3 214	0.3 3	0.7 7
	山形中学	62.5 212	37.5 127	0.0 0	0.0 0
男 子	東京中学	59.7 767	39.0 501	0.5 6	0.9 11
	東京高校	76.4 884	22.5 260	0.1 1	1.0 12
	大阪高校	79.0 375	20.1 95	0.4 2	0.4 2
	山形中学	42.2 68	57.8 93	0.0 0	0.0 0
女 子	東京中学	72.4 848	26.6 312	0.2 2	0.8 9
	東京高校	69.2 733	29.7 315	0.2 2	0.9 10
	大阪高校	76.6 406	22.3 118	0.2 1	0.9 5
	山形中学	80.9 144	19.1 34	0.0 0	0.0 0

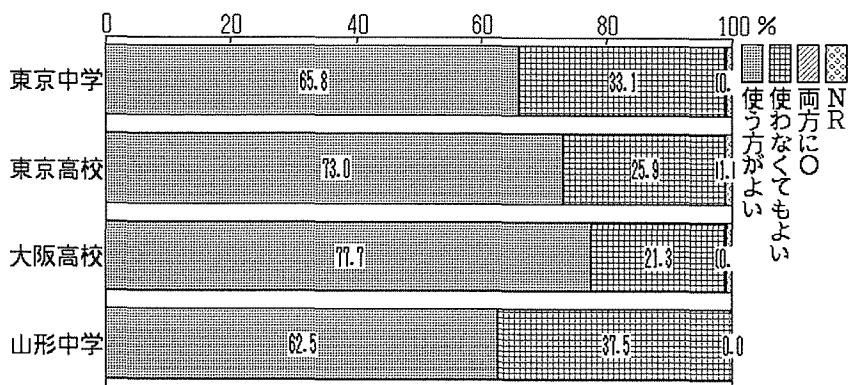


図 4-2-1 目上の生徒(上級生や先輩)への敬語の使用(全体)

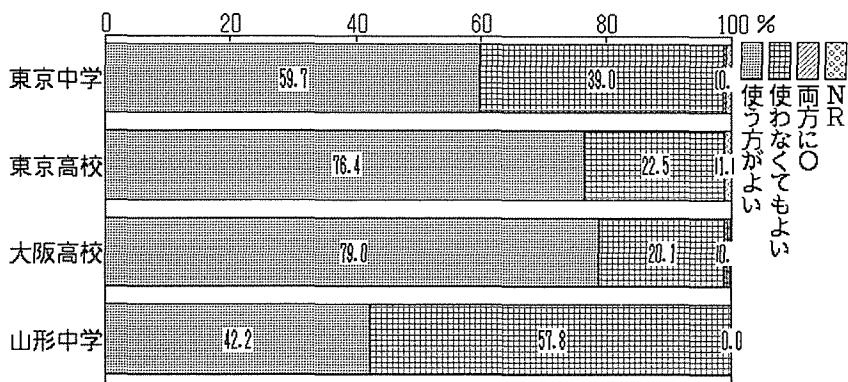


図 4-2-2 目上の生徒(上級生や先輩)への敬語の使用(男子)

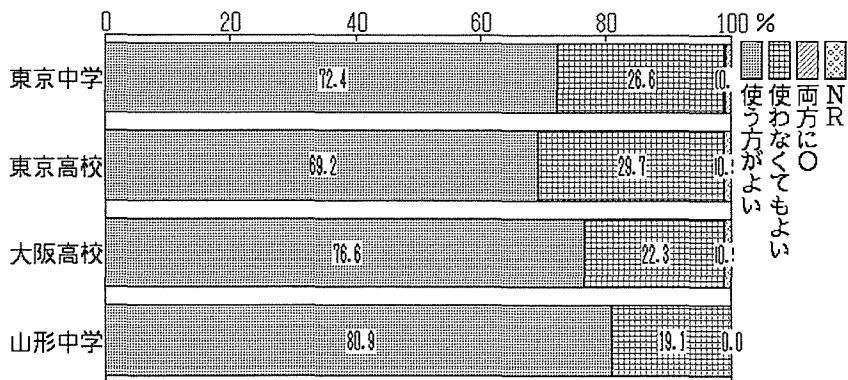


図 4-2-3 目上の生徒(上級生や先輩)への敬語の使用(女子)

表 4-3 学校生活での敬語の必要性

		必要	邪魔	両方に○	N R
全 体	東京中学	68.7 1687	29.9 735	0.4 11	0.9 23
	東京高校	75.3 1674	22.2 493	0.5 12	1.9 43
	大阪高校	76.3 766	21.8 219	0.7 7	1.2 12
	山形中学	72.6 246	27.1 92	0.0 0	0.3 1
男 子	東京中学	64.3 826	34.2 439	0.6 8	0.9 12
	東京高校	75.8 877	22.0 254	0.4 5	1.8 21
	大阪高校	73.9 349	24.2 114	0.6 3	1.3 6
	山形中学	62.7 101	36.6 59	0.0 0	0.6 1
女 子	東京中学	73.5 861	25.3 296	0.3 3	0.9 11
	東京高校	74.9 794	22.5 238	0.7 7	2.0 21
	大阪高校	78.5 416	19.6 104	0.8 4	1.1 6
	山形中学	81.5 145	18.5 33	0.0 0	0.0 0

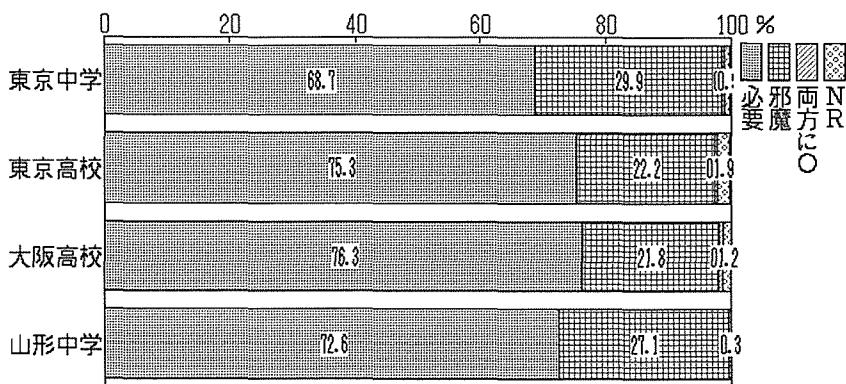


図 4-3-1 学校生活での敬語の必要性(全体)

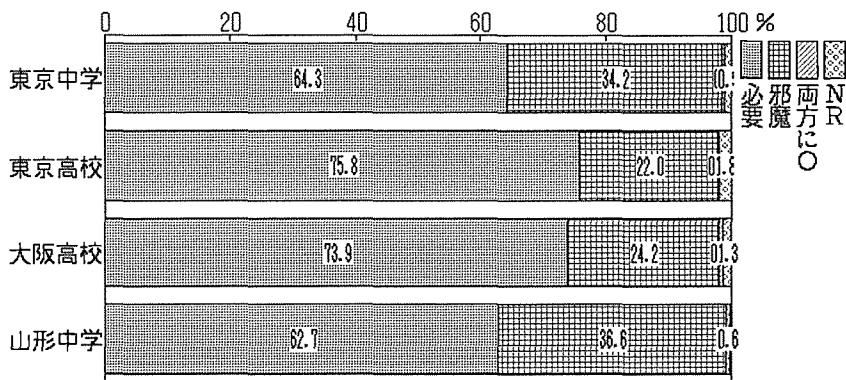


図 4-3-2 学校生活での敬語の必要性(男子)

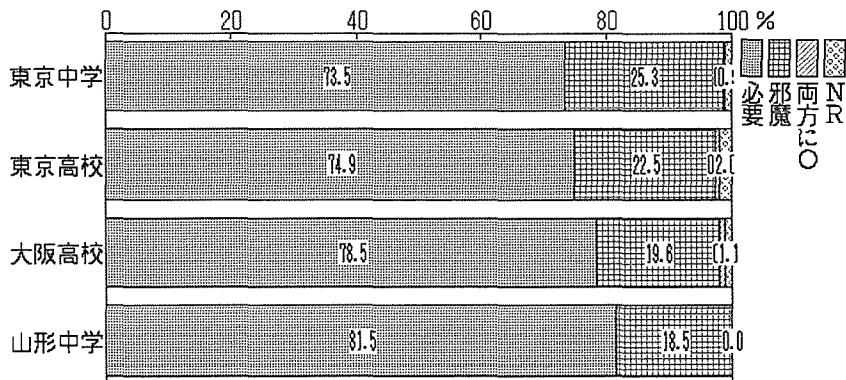


図 4-3-3 学校生活での敬語の必要性(女子)

表 4-4 目上(先生や上級生)に敬語を使うとよそよそしくなるか

		そう思う	そう思わない	両方に○	NR
全 体	東京中学	56.9 1398	42.0 1031	0.4 9	0.7 18
	東京高校	50.3 1118	48.3 1073	0.3 6	1.1 25
	大阪高校	53.9 541	44.3 445	0.5 5	1.3 13
	山形中学	69.6 236	29.8 101	0.0 0	0.6 2
男 子	東京中学	58.8 756	40.1 515	0.5 6	0.6 8
	東京高校	47.7 552	50.6 585	0.1 1	1.6 19
	大阪高校	52.1 246	45.8 216	0.4 2	1.7 8
	山形中学	75.8 122	23.6 38	0.0 0	0.6 1
女 子	東京中学	54.8 642	44.1 516	0.3 3	0.9 10
	東京高校	53.2 564	45.8 486	0.5 5	0.5 5
	大阪高校	55.5 294	43.2 229	0.6 3	0.8 4
	山形中学	64.0 114	35.4 63	0.0 0	0.6 1

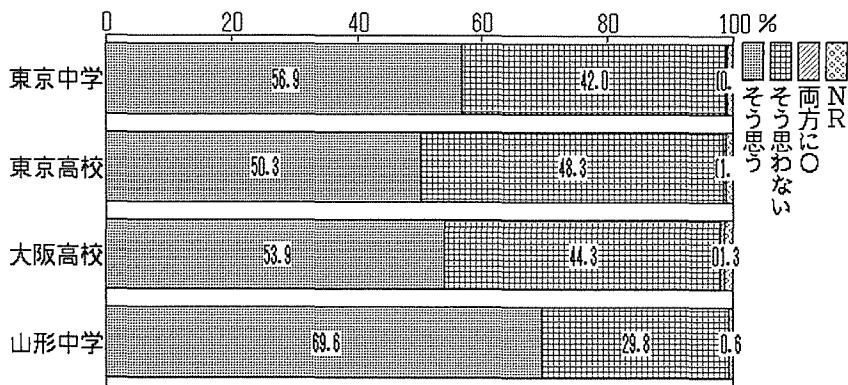


図 4-4-1 目上(先生や上級生)に敬語を使うとよそよそしくなるか(全体)

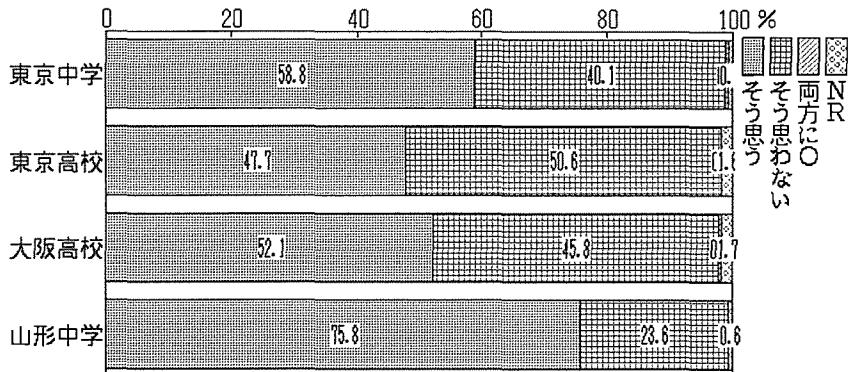


図 4-4-2 目上(先生や上級生)に敬語を使うとよそよそしくなるか(男子)

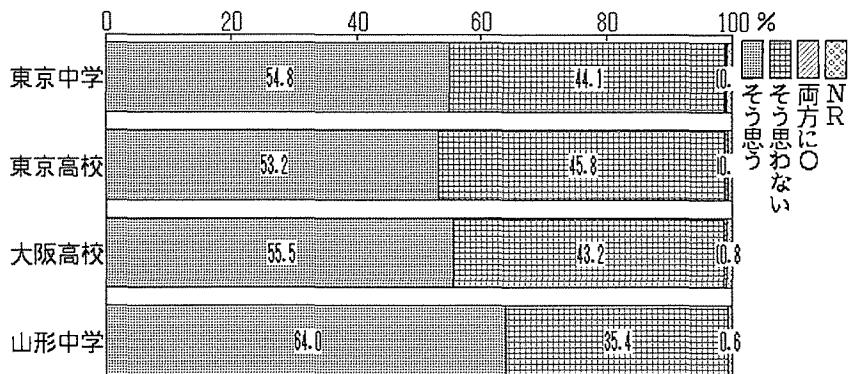


図 4-4-3 目上(先生や上級生)に敬語を使うとよそよそしくなるか(女子)

表 5-1-1 自称詞(東京中学・男子)

表 5-1-1-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ボク	47.1	44.4	7.9	0.6
	605	571	101	8
ワタシ	4.8	85.4	9.2	0.6
	62	1097	118	8
アタシ	1.1	89.1	9.2	0.6
	14	1145	118	8
ワタクシ	1.6	88.6	9.2	0.6
	21	1138	118	8
アタクシ	0.6	89.6	9.2	0.6
	8	1151	118	8
オレ	91.7	6.2	1.5	0.6
	1178	80	19	8
ウチ	5.0	85.1	9.3	0.6
	64	1094	119	8
ワシ	4.7	85.6	9.1	0.6
	60	1100	117	8
ワイ	5.0	85.2	9.2	0.6
	64	1095	118	8
ジブン	12.5	77.4	9.4	0.6
	161	995	121	8
名前	1.5	78.2	19.7	0.6
	19	1005	253	8
その他	5.7	61.2	32.5	0.6
	73	786	418	8

表 5-1-1-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ボク	38.7	52.6	8.4	0.3
	497	676	108	4
ワタシ	3.0	86.7	10.0	0.3
	39	1114	128	4
アタシ	0.8	88.8	10.1	0.3
	10	1141	130	4
ワタクシ	1.1	88.6	10.0	0.3
	14	1138	129	4
アタクシ	0.5	88.9	10.4	0.3
	6	1142	133	4
オレ	88.2	9.2	2.3	0.3
	1134	118	29	4
ウチ	2.8	86.6	10.3	0.3
	36	1113	132	4
ワシ	2.5	87.2	10.0	0.3
	32	1121	128	4
ワイ	2.7	86.9	10.0	0.3
	35	1117	129	4
ジブン	7.9	81.9	9.8	0.3
	102	1053	126	4
名前	0.9	78.4	20.5	0.3
	11	1007	263	4
その他	2.4	65.4	32.1	0.3
	29	840	412	4

表 5-1-1-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ボク	63.3	29.5	6.8	0.5
	813	379	87	6
ワタシ	2.4	86.2	10.9	0.5
	31	1108	140	6
アタシ	0.5	87.9	11.1	0.5
	6	1130	143	6
ワタクシ	0.5	87.9	11.1	0.5
	7	1130	142	6
アタクシ	0.3	88.0	11.2	0.5
	4	1131	144	6
オレ	58.8	35.1	5.6	0.5
	756	451	72	6
ウチ	2.0	86.5	11.0	0.5
	26	1112	141	6
ワシ	1.2	87.3	11.0	0.5
	16	1122	141	6
ワイ	1.4	87.0	11.1	0.5
	18	1118	143	6
ジブン	9.7	79.1	10.7	0.5
	125	1016	138	6
名前	0.4	77.7	21.5	0.5
	5	998	276	6
その他	2.9	65.5	31.1	0.5
	37	842	400	6

表 5-1-1-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ボク	77.4	18.1	4.4	0.2
	994	232	56	3
ワタシ	4.0	85.2	10.5	0.2
	52	1095	135	3
アタシ	0.4	88.6	10.7	0.2
	5	1139	138	3
ワタクシ	0.9	88.3	10.5	0.2
	12	1135	135	3
アタクシ	0.5	88.5	10.7	0.2
	7	1137	138	3
オレ	45.1	47.9	6.7	0.2
	580	616	86	3
ウチ	1.1	88.3	10.4	0.2
	14	1135	133	3
ワシ	1.2	87.9	10.7	0.2
	15	1129	138	3
ワイ	0.9	88.1	10.7	0.2
	12	1132	138	3
ジブン	10.3	79.1	10.4	0.2
	132	1016	134	3
名前	0.5	78.5	20.7	0.2
	7	1009	266	3
その他	1.3	66.1	32.4	0.2
	16	850	416	3

表 5-1-1-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ボク	80.3	14.1	4.8	0.8
	1032	181	62	10
ワタシ	6.8	81.3	11.1	0.8
	87	1045	143	10
アタシ	0.2	87.2	11.8	0.8
	3	1121	151	10
ワタクシ	2.6	84.9	11.8	0.8
	33	1091	151	10
アタクシ	0.3	87.2	11.8	0.8
	4	1120	151	10
オレ	12.4	76.5	10.4	0.8
	159	983	133	10
ウチ	0.5	87.0	11.8	0.8
	6	1118	151	10
ワシ	0.4	87.1	11.8	0.8
	5	1119	151	10
ワイ	1.1	86.5	11.7	0.8
	14	1111	150	10
ジブン	9.8	78.2	11.2	0.8
	126	1005	144	10
名前	0.5	77.1	21.6	0.8
	6	991	278	10
その他	5.4	64.6	29.3	0.8
	68	830	377	10

表 5-1-1-f 対来客(男)

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ボク	82.2	13.8	3.7	0.3
	1056	177	48	4
ワタシ	7.8	81.4	10.5	0.3
	100	1046	135	4
アタシ	0.3	88.5	10.9	0.3
	4	1137	140	4
ワタクシ	2.1	86.8	10.7	0.3
	27	1116	138	4
アタクシ	0.5	88.2	11.0	0.3
	6	1134	141	4
オレ	16.6	73.5	9.6	0.3
	213	945	123	4
ウチ	1.2	87.9	10.7	0.3
	15	1129	137	4
ワシ	0.9	87.9	10.9	0.3
	11	1130	140	4
ワイ	1.0	88.1	10.6	0.3
	13	1132	136	4
ジブン	9.9	79.3	10.5	0.3
	127	1019	135	4
名前	0.8	79.5	19.4	0.3
	10	1022	249	4
その他	1.5	67.9	30.4	0.3
	19	872	390	4

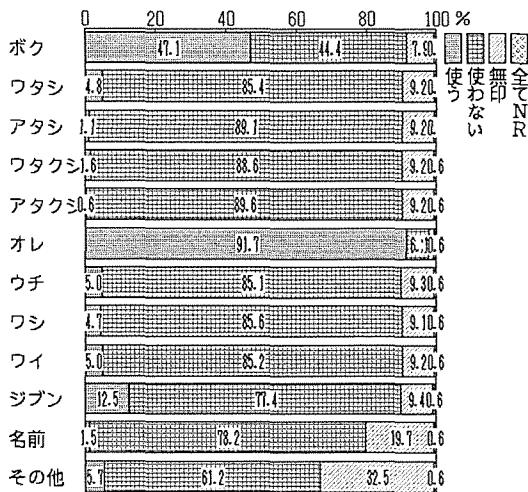


図 5-1-1-a 対同性友人

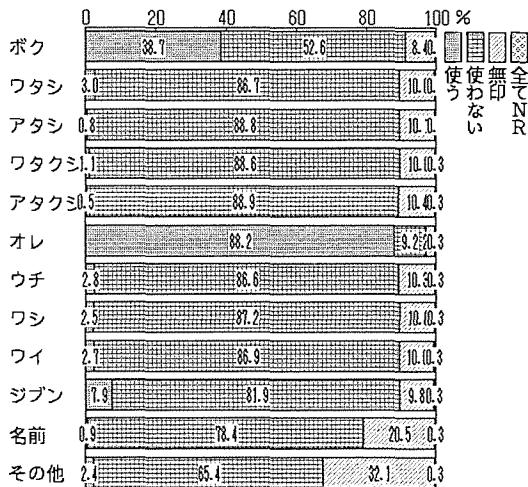


図 5-1-1-b 対異性同級

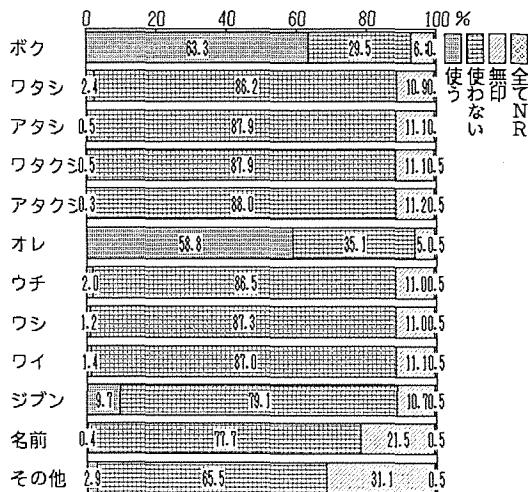


図 5-1-1-c 対同性先輩

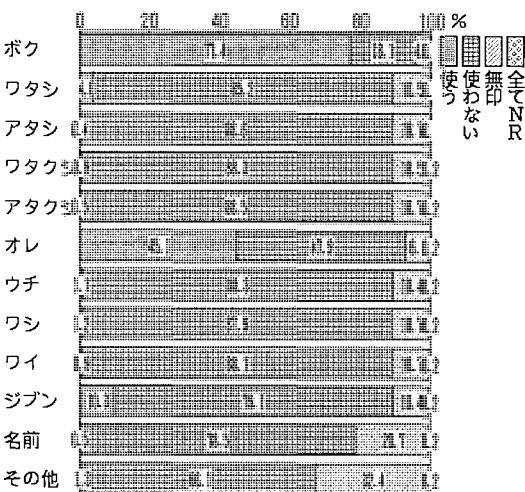


図 5-1-1-d 対担任

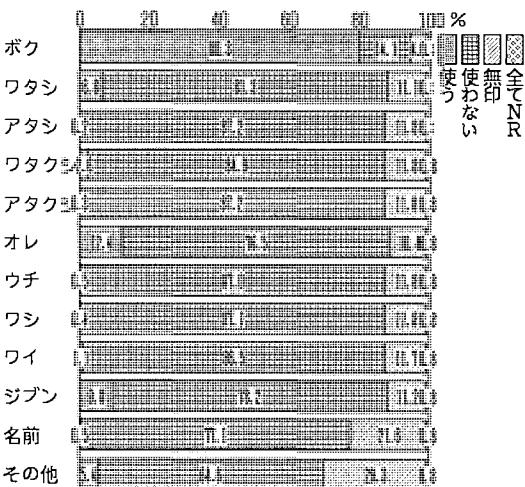


図 5-1-1-e 対校長

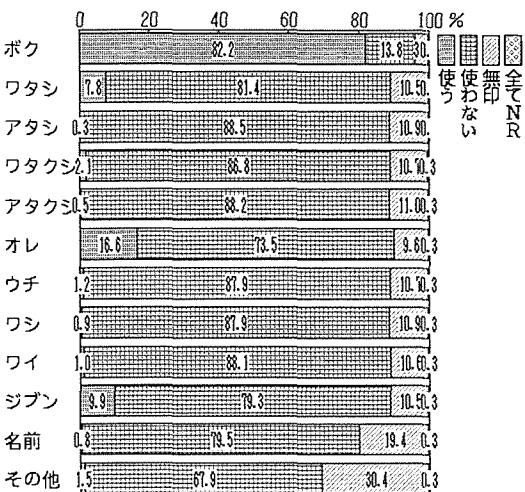


図 5-1-1-f 対来客(男)

表 5-1-2 自称詞(東京中学・女子)

表 5-1-2-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	2.9 34	91.8 1075	5.0 59	0.3 3
ワタシ	73.4 859	23.5 275	2.9 34	0.3 3
アタシ	69.6 815	27.2 318	3.0 35	0.3 3
ワタクシ	2.8 33	91.9 1076	5.0 59	0.3 3
アタクシ	1.7 20	93.1 1090	5.0 58	0.3 3
オレ	3.2 38	91.4 1070	5.1 60	0.3 3
ウチ	8.5 99	86.3 1011	5.0 58	0.3 3
ワシ	0.6 7	94.0 1101	5.1 60	0.3 3
ワイ	0.5 6	94.3 1104	5.0 58	0.3 3
ジブン	9.7 114	84.5 990	5.5 64	0.3 3
名前	18.0 211	72.6 850	9.1 107	0.3 3
その他	6.7 77	69.6 815	23.6 276	0.3 3

表 5-1-2-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	1.2 14	93.2 1091	5.6 65	0.1 1
ワタシ	71.4 836	26.0 305	2.5 29	0.1 1
アタシ	64.9 760	31.5 369	3.5 41	0.1 1
ワタクシ	0.9 10	93.6 1096	5.5 64	0.1 1
アタクシ	0.3 4	94.2 1103	5.4 63	0.1 1
オレ	1.2 14	93.3 1092	5.5 64	0.1 1
ウチ	3.2 38	91.0 1066	5.6 66	0.1 1
ワシ	0.3 3	93.9 1100	5.7 67	0.1 1
ワイ	0.1 1	94.4 1106	5.4 63	0.1 1
ジブン	5.2 61	89.3 1046	5.4 63	0.1 1
名前	9.0 105	81.8 958	9.1 107	0.1 1
その他	2.9 32	74.3 870	22.9 268	0.1 1

表 5-1-2-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	0.8 9	93.4 1094	5.6 66	0.2 2
ワタシ	81.4 953	16.7 195	1.8 21	0.2 2
アタシ	46.0 539	49.4 579	4.4 51	0.2 2
ワタクシ	0.6 7	93.4 1094	5.8 68	0.2 2
アタクシ	0.1 1	93.9 1100	5.8 68	0.2 2
オレ	0.3 4	93.9 1100	5.6 65	0.2 2
ウチ	0.9 11	92.7 1085	6.2 73	0.2 2
ワシ	0.2 2	93.9 1099	5.8 68	0.2 2
ワイ	0.1 1	93.9 1100	5.8 68	0.2 2
ジブン	3.8 44	90.4 1059	5.6 66	0.2 2
名前	2.6 31	87.2 1021	10.0 117	0.2 2
その他	1.6 18	74.1 868	24.2 283	0.2 2

表 5-1-2-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	0.7 8	93.4 1094	5.8 68	0.1 1
ワタシ	84.5 989	13.7 161	1.7 20	0.1 1
アタシ	43.9 514	51.5 603	4.5 53	0.1 1
ワタクシ	1.2 14	93.0 1089	5.7 67	0.1 1
アタクシ	0.3 3	93.7 1097	6.0 70	0.1 1
オレ	0.3 3	93.9 1099	5.8 68	0.1 1
ウチ	0.7 8	92.7 1086	6.5 76	0.1 1
ワシ	0.2 2	93.5 1095	6.2 73	0.1 1
ワイ	0.1 1	94.0 1101	5.8 68	0.1 1
ジブン	4.2 49	90.2 1056	5.6 65	0.1 1
名前	3.4 40	87.4 1023	9.1 107	0.1 1
その他	0.8 9	76.3 894	22.8 267	0.1 1

表 5-1-2-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	0.2 2	92.9 1088	6.6 77	0.3 4
ワタシ	86.6 1014	10.8 127	2.2 26	0.3 4
アタシ	23.5 275	70.3 823	5.9 69	0.3 4
ワタクシ	3.9 46	89.4 1047	6.3 74	0.3 4
アタクシ	0.3 3	92.8 1087	6.6 77	0.3 4
オレ	0.1 1	93.0 1089	6.6 77	0.3 4
ウチ	0.2 2	92.1 1078	7.4 87	0.3 4
ワシ	0.1 1	92.4 1082	7.2 84	0.3 4
ワイ	0.1 1	93.1 1090	6.5 76	0.3 4
ジブン	2.3 27	90.9 1065	6.4 75	0.3 4
名前	0.8 9	89.1 1043	9.8 115	0.3 4
その他	3.5 41	74.3 870	21.9 256	0.3 4

表 5-1-2-f 対来客(男)

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	0.2 2	93.6 1096	6.1 72	0.1 1
ワタシ	88.2 1033	9.9 116	1.8 21	0.1 1
アタシ	26.0 304	68.6 803	5.4 63	0.1 1
ワタクシ	3.1 36	90.7 1062	6.1 72	0.1 1
アタクシ	0.3 4	93.3 1093	6.2 73	0.1 1
オレ	0.1 1	93.6 1096	6.2 73	0.1 1
ウチ	0.4 5	92.1 1079	7.3 86	0.1 1
ワシ	0.1 1	93.1 1090	6.7 79	0.1 1
ワイ	0.2 2	93.7 1097	6.1 71	0.1 1
ジブン	2.3 27	91.7 1074	5.9 69	0.1 1
名前	0.5 6	90.9 1064	8.5 100	0.1 1
その他	1.0 11	77.4 906	21.6 253	0.1 1

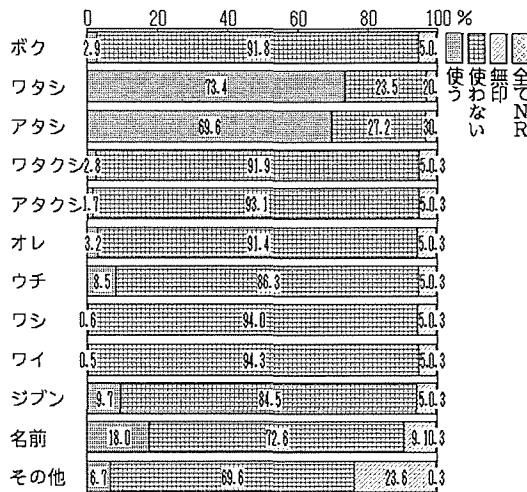


図 5-1-2-a 対同性友人

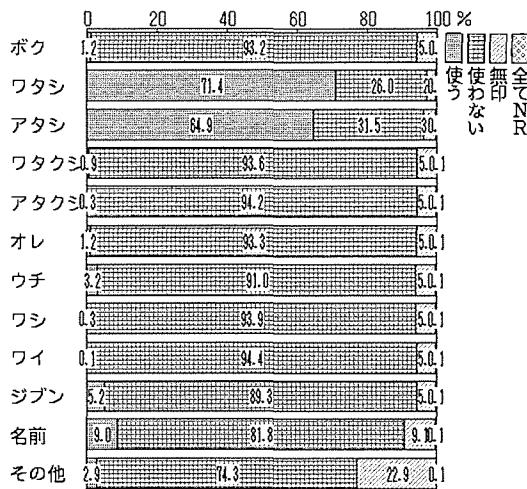


図 5-1-2-b 対異性同級

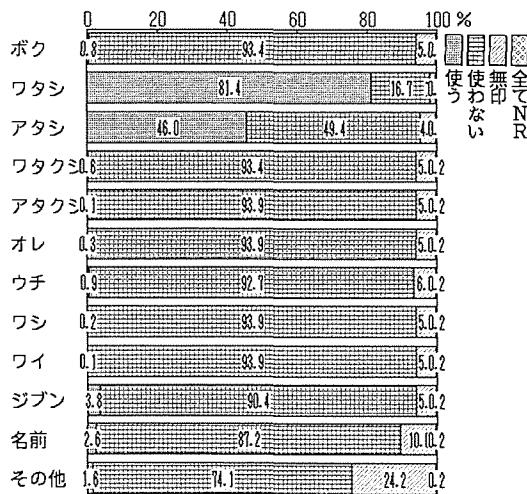


図 5-1-2-c 対同性先輩

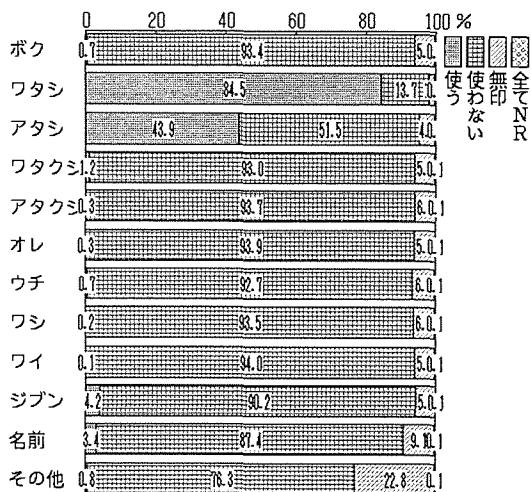


図 5-1-2-d 対担任

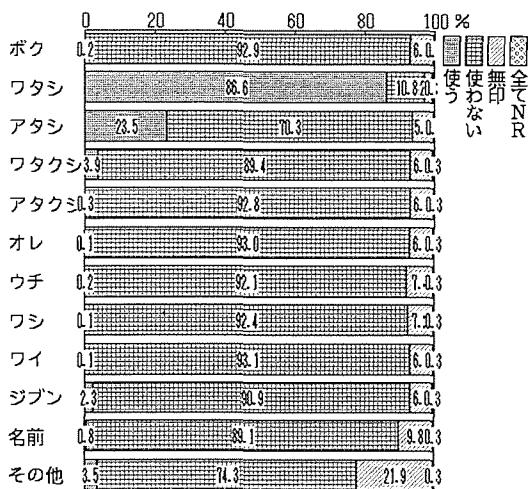


図 5-1-2-e 対校長

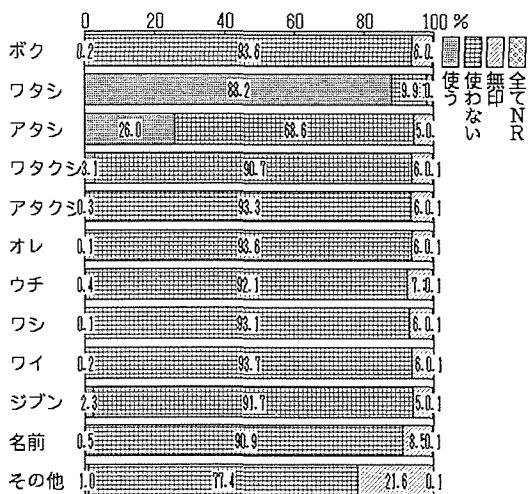


図 5-1-2-f 対来客(男)

表 5-1-3 自称詞(東京高校・男子)

表 5-1-3-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	27.0	61.5	11.1	0.5
	312	711	128	6
ワタシ	5.2	82.4	11.9	0.5
	60	953	138	6
アタシ	2.7	85.0	11.8	0.5
	31	983	137	6
ワタクシ	1.6	85.8	12.0	0.5
	19	993	139	6
アタクシ	0.8	86.5	12.2	0.5
	9	1001	141	6
オレ	91.3	5.7	2.5	0.5
	1056	66	29	6
ウチ	3.3	84.1	12.1	0.5
	38	973	140	6
ワシ	2.1	85.5	11.9	0.5
	24	989	138	6
ワイ	1.4	85.9	12.2	0.5
	16	994	141	6
ジブン	10.6	76.8	12.0	0.5
	123	889	139	6
名前	1.6	79.5	18.3	0.5
	19	920	212	6
その他	3.4	55.4	40.8	0.5
	38	641	472	6

表 5-1-3-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR	男子数
ボク	26.1	45.4	11.2	0.6	16.7
	302	525	130	7	193
ワタシ	3.3	66.5	13.0	0.6	16.7
	38	769	150	7	193
アタシ	1.9	67.8	13.1	0.6	16.7
	22	784	151	7	193
ワタクシ	0.8	68.7	13.2	0.6	16.7
	9	795	153	7	193
アタクシ	0.6	69.0	13.1	0.6	16.7
	7	798	152	7	193
オレ	71.9	7.8	3.0	0.6	16.7
	832	90	35	7	193
ウチ	1.2	68.3	13.2	0.6	16.7
	14	790	153	7	193
ワシ	0.8	68.9	13.1	0.6	16.7
	9	797	151	7	193
ワイ	0.4	69.1	13.2	0.6	16.7
	5	799	153	7	193
ジブン	8.3	61.5	13.0	0.6	16.7
	96	711	150	7	193
名前	1.0	62.6	19.2	0.6	16.7
	11	724	222	7	193
その他	1.2	44.2	37.4	0.6	16.7
	13	511	433	7	193

表 5-1-3-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	63.0	27.6	8.0	1.5
	729	319	92	17
ワタシ	8.0	78.9	11.6	1.5
	93	913	134	17
アタシ	2.2	84.5	11.8	1.5
	26	978	136	17
ワタクシ	1.9	84.6	12.0	1.5
	22	979	139	17
アタクシ	1.0	85.6	12.0	1.5
	11	990	139	17
オレ	64.4	28.2	6.0	1.5
	745	326	69	17
ウチ	3.0	83.8	11.8	1.5
	35	969	136	17
ワシ	1.2	85.3	12.0	1.5
	14	987	139	17
ワイ	1.0	85.7	11.8	1.5
	12	991	137	17
ジブン	25.2	62.1	11.1	1.5
	292	719	129	17
名前	0.8	76.1	21.7	1.5
	9	880	251	17
その他	1.8	52.1	44.7	1.5
	20	603	517	17

表 5-1-3-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	75.0	18.8	5.9	0.3
	868	217	68	4
ワタシ	10.4	77.7	11.6	0.3
	120	899	134	4
アタシ	1.8	85.8	12.0	0.3
	21	993	139	4
ワタクシ	2.4	85.3	11.9	0.3
	28	987	138	4
アタクシ	0.6	86.8	12.3	0.3
	7	1004	142	4
オレ	43.4	48.3	8.0	0.3
	502	559	92	4
ウチ	1.4	86.1	12.2	0.3
	16	996	141	4
ワシ	0.6	86.9	12.1	0.3
	7	1006	140	4
ワイ	0.8	86.9	12.0	0.3
	9	1005	139	4
ジブン	21.4	66.6	11.6	0.3
	248	771	134	4
名前	0.5	77.5	21.6	0.3
	6	897	250	4
その他	0.8	54.5	44.4	0.3
	8	631	514	4

表 5-1-3-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	73.8	19.3	5.9	1.0
	854	223	68	12
ワタシ	16.3	70.4	12.2	1.0
	189	815	141	12
アタシ	1.4	85.0	12.6	1.0
	16	983	146	12
ワタクシ	3.0	83.6	12.4	1.0
	35	967	143	12
アタクシ	0.5	85.7	12.7	1.0
	6	992	147	12
オレ	13.7	74.2	11.1	1.0
	159	858	128	12
ウチ	0.7	85.5	12.8	1.0
	8	989	148	12
ワシ	0.6	85.8	12.5	1.0
	7	993	145	12
ワイ	0.9	85.5	12.6	1.0
	10	989	146	12
ジブン	21.1	65.8	12.1	1.0
	244	761	140	12
名前	0.3	77.4	21.3	1.0
	3	896	246	12
その他	3.8	53.5	41.7	1.0
	43	619	483	12

表 5-1-3-f 対来客(男)

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	76.2	18.0	5.2	0.6
	882	208	60	7
ワタシ	17.0	71.1	11.2	0.6
	197	823	130	7
アタシ	1.2	86.0	12.2	0.6
	14	995	141	7
ワタクシ	2.4	85.2	11.8	0.6
	28	986	136	7
アタクシ	0.5	86.6	12.3	0.6
	6	1002	142	7
オレ	15.2	73.5	10.7	0.6
	176	850	124	7
ウチ	1.0	86.3	12.1	0.6
	12	998	140	7
ワシ	0.6	86.8	12.0	0.6
	7	1004	139	7
ワイ	0.8	86.6	12.0	0.6
	9	1002	139	7
ジブン	18.7	69.2	11.5	0.6
	216	801	133	7
名前	0.3	78.8	20.2	0.6
	4	912	234	7
その他	1.1	55.6	42.8	0.6
	12	643	495	7

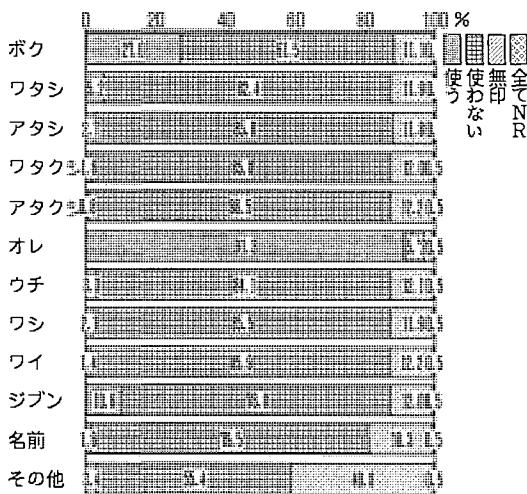


図 5-1-3-a 対同性友人

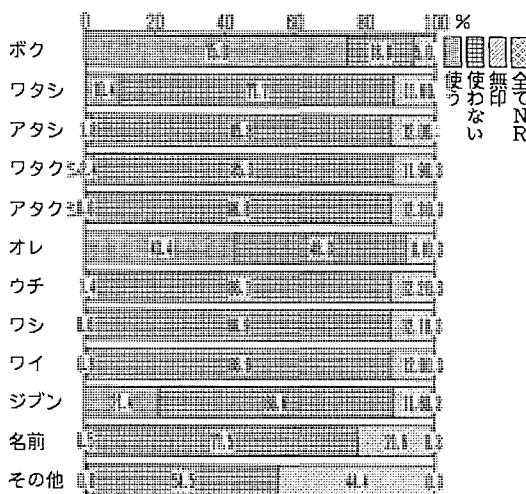


図 5-1-3-d 対担任

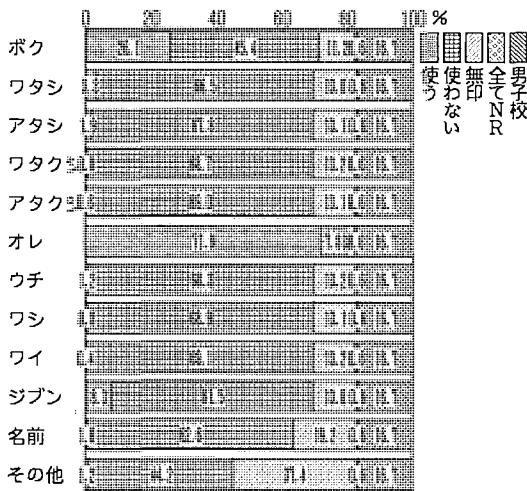


図 5-1-3-b 対異性同級

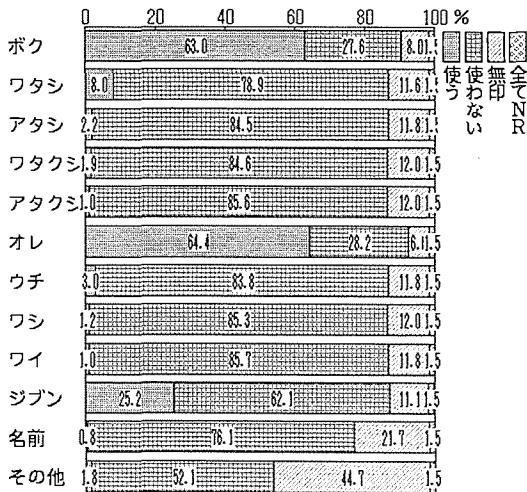


図 5-1-3-c 対同性先輩

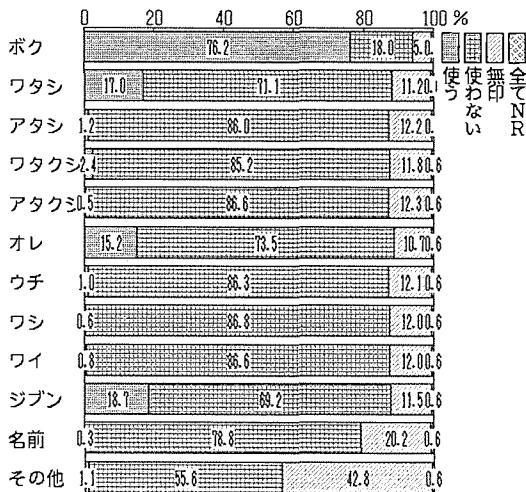


図 5-1-3-f 対来客(男)

表 5-1-4 自称詞(東京高校・女子)

表 5-1-4-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	1.7 18	87.4 926	10.8 115	0.1 1
ワタシ	63.8 676	30.1 319	6.0 64	0.1 1
アタシ	69.9 741	24.5 260	5.5 58	0.1 1
ワタクシ	1.4 15	87.6 929	10.8 115	0.1 1
アタクシ	0.8 9	88.2 935	10.8 115	0.1 1
オレ	1.6 17	87.5 928	10.8 114	0.1 1
ウチ	5.0 53	84.0 890	10.9 116	0.1 1
ワシ	0.6 6	88.2 935	11.1 118	0.1 1
ワイ	0.5 5	88.6 939	10.8 115	0.1 1
ジブン	6.0 64	83.3 883	10.6 112	0.1 1
名前	11.7 124	75.7 802	12.5 133	0.1 1
その他	5.6 58	57.8 613	36.6 388	0.1 1

表 5-1-4-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR	好成
ボク	0.7 7	70.7 749	11.0 117	0.4 4	17.3 183
ワタシ	54.2 575	22.3 236	5.8 62	0.4 4	17.3 183
アタシ	53.8 570	23.0 244	5.6 59	0.4 4	17.3 183
ワタクシ	0.5 5	70.8 750	11.1 118	0.4 4	17.3 183
アタクシ	0.2 2	70.9 752	11.2 119	0.4 4	17.3 183
オレ	0.4 4	70.9 752	11.0 117	0.4 4	17.3 183
ウチ	2.2 23	68.7 728	11.5 122	0.4 4	17.3 183
ワシ	0.0 0	71.0 753	11.3 120	0.4 4	17.3 183
ワイ	0.0 0	71.2 755	11.1 118	0.4 4	17.3 183
ジブン	2.6 28	68.6 727	11.1 118	0.4 4	17.3 183
名前	4.7 50	63.8 676	13.9 147	0.4 4	17.3 183
その他	1.3 13	47.7 506	33.4 354	0.4 4	17.3 183

表 5-1-4-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	0.6 6	88.5 938	10.7 113	0.3 3
ワタシ	80.5 853	15.2 161	4.1 43	0.3 3
アタシ	56.0 594	36.3 385	7.4 78	0.3 3
ワタクシ	1.1 12	87.9 932	10.7 113	0.3 3
アタクシ	0.4 4	88.7 940	10.7 113	0.3 3
オレ	0.7 7	88.4 937	10.7 113	0.3 3
ウチ	3.4 36	85.5 906	10.8 115	0.3 3
ワシ	0.2 2	88.6 939	10.9 116	0.3 3
ワイ	0.1 1	88.9 942	10.8 114	0.3 3
ジブン	6.6 70	82.6 876	10.5 111	0.3 3
名前	3.8 40	81.9 868	14.1 149	0.3 3
その他	2.6 26	56.6 600	40.7 431	0.3 3

表 5-1-4-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	0.6 6	88.7 940	10.7 113	0.1 1
ワタシ	86.4 916	10.8 114	2.7 29	0.1 1
アタシ	42.0 445	49.5 525	8.4 89	0.1 1
ワタクシ	1.0 11	88.3 936	10.6 112	0.1 1
アタクシ	0.2 2	89.1 944	10.7 113	0.1 1
オレ	0.2 2	89.2 945	10.6 112	0.1 1
ウチ	0.9 10	88.1 934	10.8 115	0.1 1
ワシ	0.0 0	89.0 943	10.9 116	0.1 1
ワイ	0.0 0	89.2 946	10.7 113	0.1 1
ジブン	5.3 56	83.9 889	10.8 114	0.1 1
名前	0.8 9	84.2 892	14.9 158	0.1 1
その他	0.8 8	58.3 618	40.8 433	0.1 1

表 5-1-4-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	0.6 6	87.9 932	11.0 117	0.5 5
ワタシ	88.6 939	8.1 86	2.8 30	0.5 5
アタシ	22.1 234	67.7 718	9.7 103	0.5 5
ワタクシ	3.9 41	84.8 899	10.8 115	0.5 5
アタクシ	0.3 3	87.8 931	11.4 121	0.5 5
オレ	0.1 1	88.4 937	11.0 117	0.5 5
ウチ	0.3 3	87.4 926	11.9 126	0.5 5
ワシ	0.1 1	88.2 935	11.2 119	0.5 5
ワイ	0.0 0	88.4 937	11.1 118	0.5 5
ジブン	3.0 32	85.1 902	11.4 121	0.5 5
名前	0.1 1	84.2 892	15.3 162	0.5 5
その他	1.7 18	59.5 631	38.3 406	0.5 5

表 5-1-4-f 対来客(男)

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	0.5 5	88.5 938	10.9 116	0.1 1
ワタシ	89.6 950	8.3 88	2.0 21	0.1 1
アタシ	24.9 264	65.5 694	9.5 101	0.1 1
ワタクシ	2.8 30	86.1 913	10.9 116	0.1 1
アタクシ	0.5 5	88.4 937	11.0 117	0.1 1
オレ	0.1 1	88.9 942	10.9 116	0.1 1
ウチ	0.3 3	88.0 933	11.6 123	0.1 1
ワシ	0.0 0	88.7 940	11.2 119	0.1 1
ワイ	0.0 0	88.9 942	11.0 117	0.1 1
ジブン	1.6 17	87.2 924	11.1 118	0.1 1
名前	0.1 1	85.0 901	14.8 157	0.1 1
その他	0.7 7	60.1 637	39.2 415	0.1 1

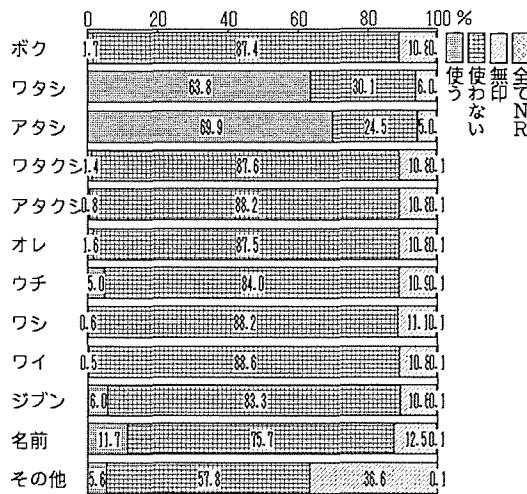


図 5-1-4-a 対同性友人

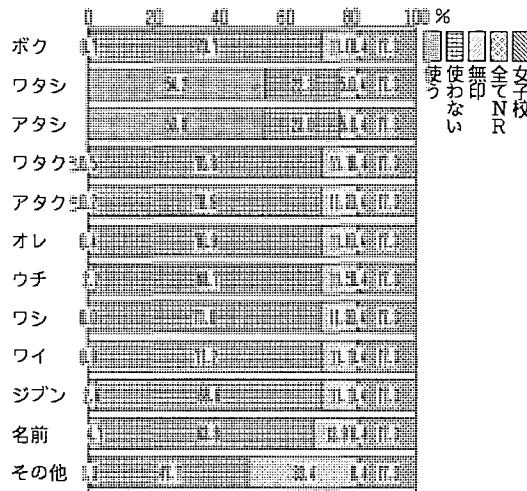


図 5-1-4-b 対異性同級

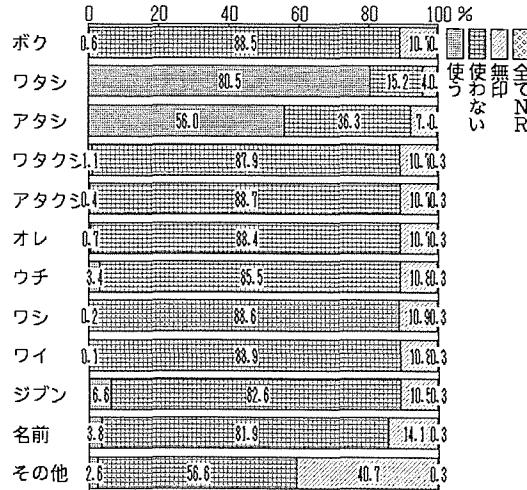


図 5-1-4-c 対同性先輩

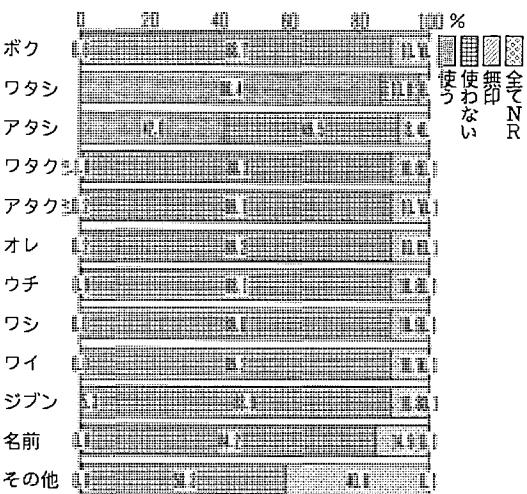


図 5-1-4-d 対担任

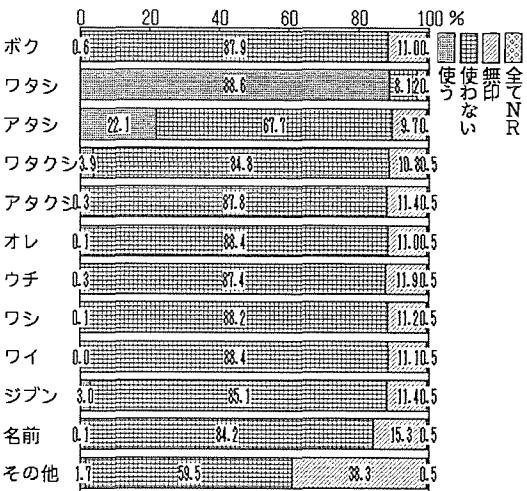


図 5-1-4-e 対校長

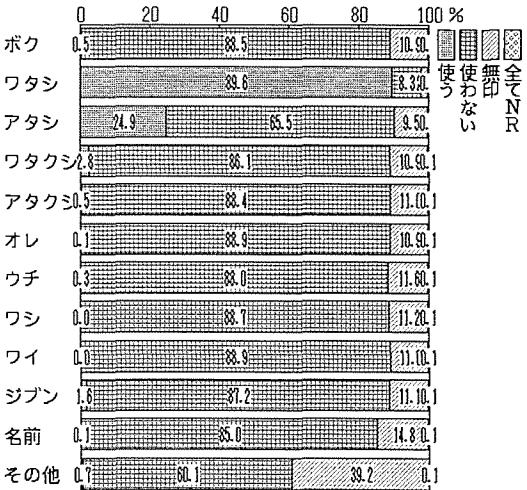


図 5-1-4-f 対来客(男)

表 5-1-5 自称詞(大阪高校・男子)

表 5-1-5-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	15.8 72	72.7 343	11.9 56	0.2 1
ワタシ	1.7 8	85.8 405	12.3 58	0.2 1
アタシ	0.2 1	87.3 412	12.3 58	0.2 1
ワタクシ	1.1 5	86.7 409	12.1 57	0.2 1
アタクシ	0.2 1	87.5 413	12.1 57	0.2 1
オレ	95.1 449	3.2 15	1.5 7	0.2 1
ウチ	1.3 6	86.2 407	12.3 58	0.2 1
ワシ	5.7 27	82.2 388	11.9 56	0.2 1
ワイ	4.7 22	83.1 392	12.1 57	0.2 1
ワテ	2.5 12	85.2 402	12.1 57	0.2 1
ジブン	12.3 58	75.2 355	12.3 58	0.2 1
名前	0.8 4	85.0 401	14.0 66	0.2 1
その他	2.7 13	61.2 289	35.8 169	0.2 1

表 5-1-5-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR	男子校
ボク	16.5 78	53.0 250	9.5 45	0.8 4	20.1 95
ワタシ	1.7 8	66.9 316	10.4 49	0.8 4	20.1 95
アタシ	0.0 0	68.6 324	10.4 49	0.8 4	20.1 95
ワタクシ	0.2 1	68.4 323	10.4 49	0.8 4	20.1 95
アタクシ	0.2 1	68.4 323	10.4 49	0.8 4	20.1 95
オレ	71.4 337	6.4 30	1.3 6	0.8 4	20.1 95
ウチ	0.4 2	68.2 322	10.4 49	0.8 4	20.1 95
ワシ	2.1 10	66.5 314	10.4 49	0.8 4	20.1 95
ワイ	2.1 10	66.5 314	10.4 49	0.8 4	20.1 95
ワテ	0.2 1	68.4 323	10.4 49	0.8 4	20.1 95
ジブン	11.9 56	57.0 289	10.2 48	0.8 4	20.1 95
名前	0.8 4	66.7 315	11.4 54	0.8 4	20.1 95
その他	0.8 4	50.4 238	27.8 31	0.8 4	20.1 95

表 5-1-5-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	74.2 350	18.6 88	5.1 24	2.1 10
ワタシ	3.0 14	83.9 386	11.0 52	2.1 10
アタシ	0.2 1	86.7 409	11.0 52	2.1 10
ワタクシ	1.3 6	85.6 404	11.0 52	2.1 10
アタクシ	0.2 1	86.7 409	11.0 52	2.1 10
オレ	52.1 246	39.4 186	6.4 30	2.1 10
ウチ	0.6 3	86.2 407	11.0 52	2.1 10
ワシ	3.2 15	83.7 395	11.0 52	2.1 10
ワイ	2.5 13	84.3 388	11.0 52	2.1 10
ワテ	1.3 6	86.0 406	10.6 50	2.1 10
ジブン	25.2 118	62.5 395	10.2 48	2.1 10
名前	0.6 3	83.5 394	13.8 65	2.1 10
その他	1.8 1	59.1 279	37.1 75	2.1 10

表 5-1-5-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	80.1 378	14.8 70	4.7 22	0.4 2
ワタシ	4.9 23	83.1 392	11.7 55	0.4 2
アタシ	0.6 3	86.9 410	12.1 57	0.4 2
ワタクシ	1.9 9	85.6 404	12.1 57	0.4 2
アタクシ	0.4 2	87.1 411	12.1 57	0.4 2
オレ	42.4 200	50.2 237	7.3 33	0.4 2
ウチ	0.6 3	86.9 410	12.1 57	0.4 2
ワシ	0.4 2	86.9 410	12.3 58	0.4 2
ワイ	1.3 6	86.4 408	11.9 56	0.4 2
ワテ	0.4 2	87.1 411	12.1 57	0.4 2
ジブン	23.7 112	65.5 309	10.4 49	0.4 2
名前	1.3 6	86.0 406	12.3 58	0.4 2
その他	0.2 1	62.1 293	37.7 76	0.4 2

表 5-1-5-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	82.8 391	11.4 54	4.7 22	1.1 5
ワタシ	7.8 37	79.9 379	11.5 53	1.1 5
アタシ	0.2 1	86.7 409	12.1 57	1.1 5
ワタクシ	3.6 17	83.3 383	12.1 57	1.1 5
アタクシ	0.6 3	86.2 407	12.1 57	1.1 5
オレ	14.0 66	75.6 357	9.3 44	1.1 5
ウチ	0.0 0	86.9 410	12.1 57	1.1 5
ワシ	0.0 0	86.9 410	12.1 57	1.1 5
ワイ	0.0 0	87.1 411	11.9 56	1.1 5
ワテ	0.2 1	86.9 410	11.9 56	1.1 5
ジブン	16.9 80	71.2 386	10.8 51	1.1 5
名前	0.8 4	85.4 403	12.6 60	1.1 5
その他	2.5 12	63.8 301	32.6 154	1.1 5

表 5-1-5-f 対来客(男)

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	84.7 400	11.0 52	3.8 18	0.4 2
ワタシ	10.6 50	78.6 371	10.4 49	0.4 2
アタシ	0.2 1	87.7 414	11.7 55	0.4 2
ワタクシ	2.5 12	85.4 403	11.7 55	0.4 2
アタクシ	0.4 2	87.5 413	11.7 55	0.4 2
オレ	13.8 65	76.3 360	9.5 45	0.4 2
ウチ	0.4 2	87.9 415	11.5 53	0.4 2
ワシ	0.2 1	87.7 414	11.7 55	0.4 2
ワイ	0.6 3	87.5 413	11.4 54	0.4 2
ワテ	0.4 2	87.7 414	11.5 54	0.4 2
ジブン	16.3 77	72.2 341	11.0 52	0.4 2
名前	0.6 3	86.9 410	12.1 57	0.4 2
その他	1.0 5	63.6 300	35.0 165	0.4 2

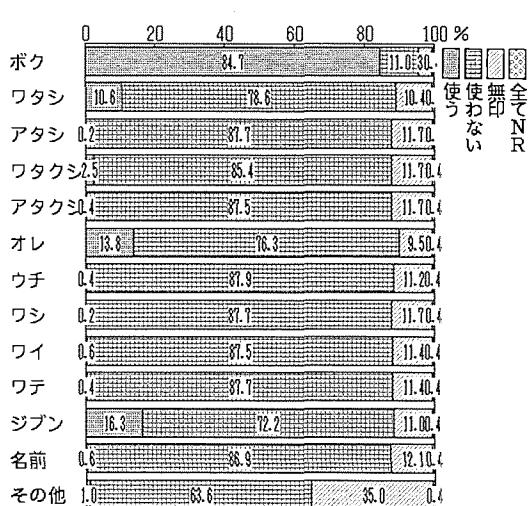
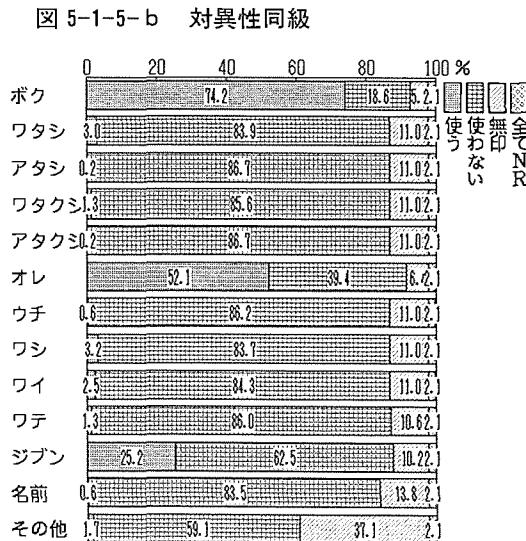
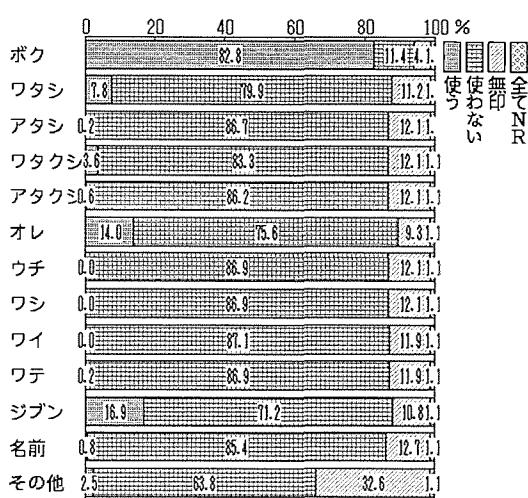
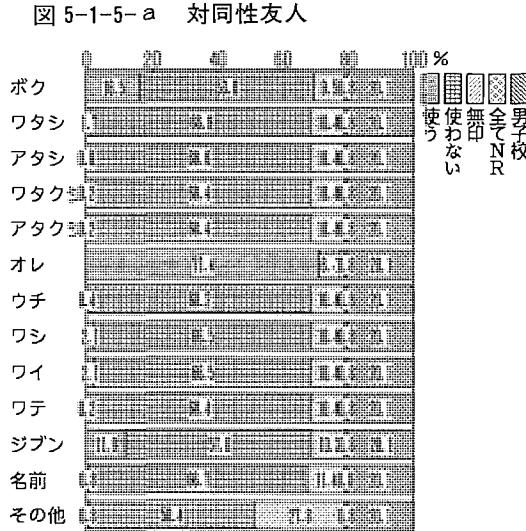
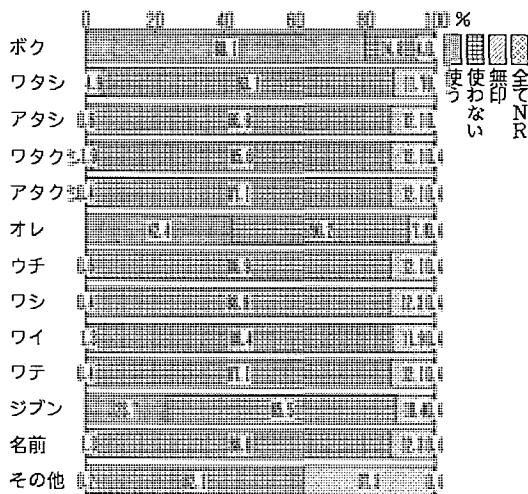
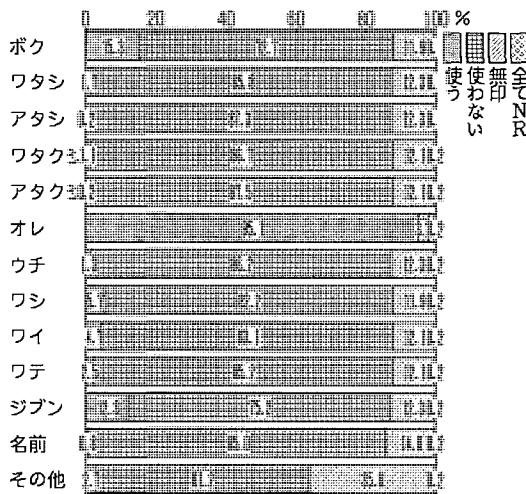


表 5-1-6 自称詞(大阪高校・女子)

表 5-1-6-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	0.8 4	92.5 490	6.6 35	0.2 1
ワタシ	54.5 289	40.2 213	5.1 27	0.2 1
アタシ	62.8 353	33.0 175	4.0 21	0.2 1
ワタクシ	0.8 4	92.1 488	7.0 37	0.2 1
アタクシ	0.8 4	92.1 488	7.0 37	0.2 1
オレ	0.8 4	92.1 488	7.0 37	0.2 1
ウチ	21.9 16	71.9 381	6.0 32	0.2 1
ワシ	1.1 6	91.5 485	7.2 38	0.2 1
ワイ	0.4 2	92.3 489	7.2 38	0.2 1
ワテ	0.0 0	92.6 491	7.2 38	0.2 1
ジブン	18.3 97	74.0 392	7.5 40	0.2 1
名前	20.0 106	72.3 383	7.5 40	0.2 1
その他	7.3 38	59.6 316	33.0 175	0.2 1

表 5-1-6-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR	好成
ボク	0.2 1	67.5 358	6.0 32	0.2 1	26.0 138
ワタシ	39.8 21	29.6 157	4.3 23	0.2 1	26.0 138
アタシ	45.7 242	24.5 130	3.6 19	0.2 1	26.0 138
ワタクシ	0.4 2	67.2 356	6.2 33	0.2 1	26.0 138
アタクシ	0.0 0	67.5 358	6.2 33	0.2 1	26.0 138
オレ	0.0 0	67.5 358	6.2 33	0.2 1	26.0 138
ウチ	13.6 72	54.3 288	5.8 31	0.2 1	26.0 138
ワシ	0.4 2	67.5 356	6.2 33	0.2 1	26.0 138
ワイ	0.0 0	67.5 358	6.2 33	0.2 1	26.0 138
ワテ	0.0 0	67.5 358	6.2 33	0.2 1	26.0 138
ジブン	9.2 49	58.5 310	6.0 32	0.2 1	26.0 138
名前	9.6 51	57.7 306	6.4 34	0.2 1	26.0 138
その他	1.9 10	48.1 255	23.8 126	0.2 1	26.0 138

表 5-1-6-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	0.2 1	92.6 491	5.5 29	1.7 9
ワタシ	72.8 388	22.8 121	2.6 14	1.7 9
アタシ	53.2 282	41.3 219	3.8 20	1.7 9
ワタクシ	0.0 0	92.6 491	5.7 30	1.7 9
アタクシ	0.2 1	92.5 490	5.7 30	1.7 9
オレ	0.4 2	92.3 488	5.7 30	1.7 9
ウチ	11.5 61	81.7 433	5.1 27	1.7 9
ワシ	0.2 1	92.5 490	5.7 30	1.7 9
ワイ	0.0 0	92.6 491	5.7 30	1.7 9
ワテ	0.4 2	92.5 490	5.5 29	1.7 9
ジブン	21.3 13	71.1 377	5.8 31	1.7 9
名前	10.8 57	79.4 421	8.1 43	1.7 9
その他	2.9 15	57.0 302	38.5 204	1.7 9

表 5-1-6-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	0.2 1	94.2 499	5.7 30	0.0 0
ワタシ	78.5 416	19.6 104	1.9 10	0.0 0
アタシ	45.7 242	49.4 262	4.9 26	0.0 0
ワタクシ	0.2 1	94.0 498	5.8 31	0.0 0
アタクシ	0.2 1	94.0 498	5.8 31	0.0 0
オレ	0.0 0	94.2 498	5.8 31	0.0 0
ウチ	6.2 33	88.5 469	5.3 28	0.0 0
ワシ	0.4 2	93.8 497	5.8 31	0.0 0
ワイ	0.2 1	94.0 498	5.7 31	0.0 0
ワテ	0.0 0	94.2 499	5.8 31	0.0 0
ジブン	12.6 67	81.1 430	6.2 33	0.0 0
名前	7.2 38	86.2 457	6.6 35	0.0 0
その他	1.2 6	65.1 345	33.8 179	0.0 0

表 5-1-6-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	0.0 0	94.2 499	5.7 30	0.2 0
ワタシ	86.6 459	12.1 64	1.1 6	0.2 1
アタシ	28.7 152	66.0 350	5.1 27	0.2 1
ワタクシ	1.7 9	92.3 489	5.8 31	0.2 1
アタクシ	0.0 0	94.0 498	5.8 31	0.2 0
オレ	0.0 0	94.0 498	5.8 31	0.2 0
ウチ	1.7 9	92.6 491	5.5 28	0.2 0
ワシ	0.0 0	93.8 497	6.0 32	0.2 0
ワイ	0.2 1	94.0 498	5.7 30	0.2 0
ワテ	0.0 0	93.8 497	6.0 32	0.2 0
ジブン	7.5 40	86.4 458	5.8 31	0.2 0
名前	0.9 5	92.3 489	6.6 35	0.2 0
その他	0.8 3	68.2 351	33.0 175	0.2 1

表 5-1-6-f 対来客(男)

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	0.0 0	94.0 498	6.0 32	0.0 0
ワタシ	88.9 471	9.8 52	1.3 7	0.0 0
アタシ	25.8 137	68.5 363	5.7 30	0.0 0
ワタクシ	2.1 11	91.5 485	6.4 34	0.0 0
アタクシ	0.4 2	93.4 495	6.2 33	0.0 0
オレ	0.0 0	93.8 497	6.2 33	0.0 0
ウチ	1.1 6	92.5 490	6.4 34	0.0 0
ワシ	0.0 0	93.8 497	6.2 33	0.0 0
ワイ	0.0 0	93.6 496	6.4 34	0.0 0
ワテ	0.0 0	93.6 496	6.4 34	0.0 0
ジブン	6.0 32	87.5 464	6.4 34	0.0 0
名前	1.3 7	91.3 484	7.4 39	0.0 0
その他	0.6 3	68.5 363	30.9 164	0.0 0

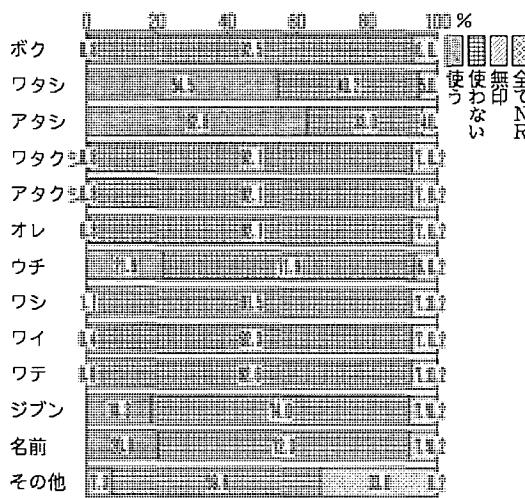


図 5-1-6-a 対同性友人

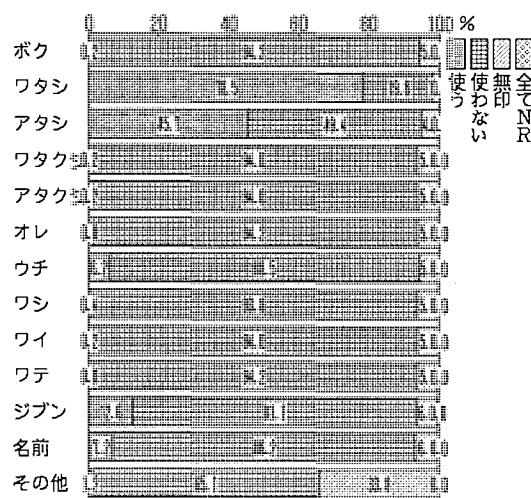


図 5-1-6-d 対担任

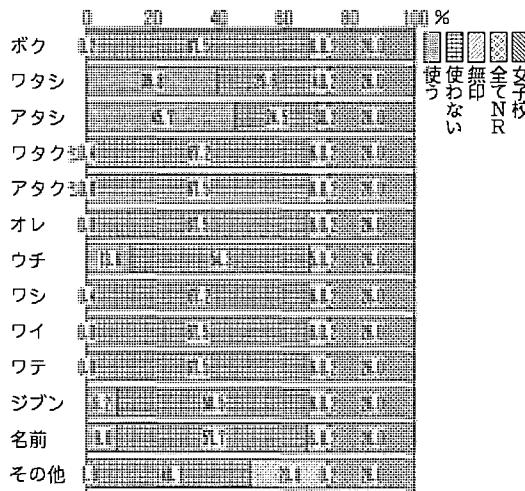


図 5-1-6-b 対異性同級

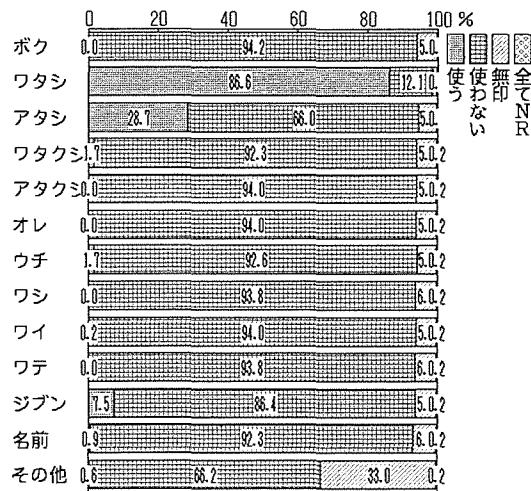


図 5-1-6-e 対校長

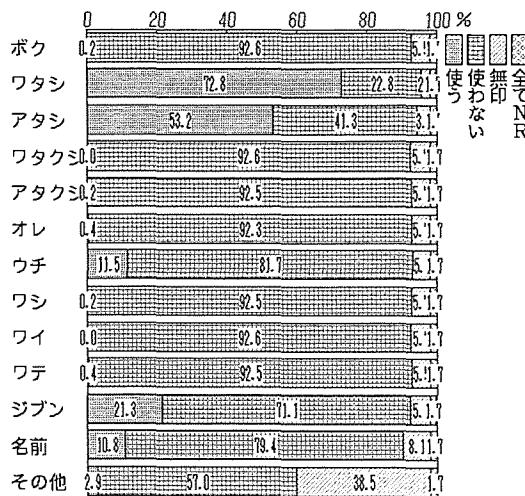


図 5-1-6-c 対同性先輩

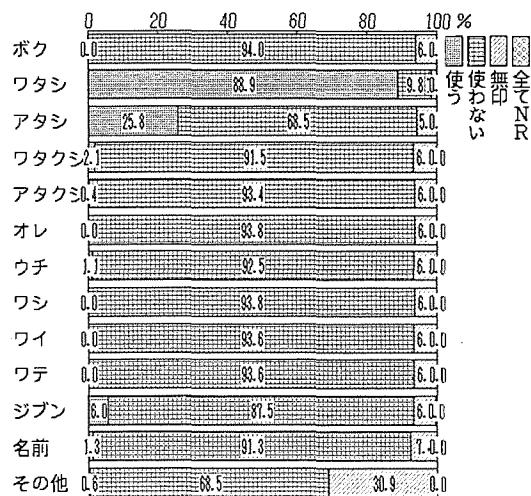


図 5-1-6-f 対来客(男)

表 5-1-7 自称詞(山形中学・男子)

表 5-1-7-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ボク	15.5 25	81.4 131	3.1 5	0.0 0
ワタシ	2.5 4	94.4 152	3.1 5	0.0 0
アタシ	1.2 2	95.7 154	3.1 5	0.0 0
ワタクシ	1.2 2	95.7 154	3.1 5	0.0 0
アタクシ	1.2 2	95.7 154	3.1 5	0.0 0
オイ	54.7 88	41.6 67	3.7 6	0.0 0
オレ	95.7 154	4.3 7	0.0 0	0.0 0
オラ	5.6 9	91.3 147	3.1 5	0.0 0
ワシ	3.7 6	93.2 150	3.1 5	0.0 0
ジブン	9.9 16	87.0 140	3.1 5	0.0 0
名前	0.6 1	81.4 131	18.0 29	0.0 0
その他	1.8 3	63.4 102	34.8 56	0.0 0

表 5-1-7-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ボク	8.7 14	88.2 142	3.1 5	0.0 0
ワタシ	0.0 0	96.9 156	3.1 5	0.0 0
アタシ	0.6 1	96.3 155	3.1 5	0.0 0
ワタクシ	0.6 1	96.3 155	3.1 5	0.0 0
アタクシ	1.2 2	95.7 154	3.1 5	0.0 0
オイ	49.1 79	46.0 74	5.0 8	0.0 0
オレ	96.3 155	3.7 6	0.0 0	0.0 0
オラ	3.1 5	93.8 151	3.1 5	0.0 0
ワシ	1.2 2	95.7 154	3.1 5	0.0 0
ジブン	3.7 6	93.2 150	3.1 5	0.0 0
名前	0.6 1	81.4 131	18.0 29	0.0 0
その他	0.6 1	66.5 107	32.9 53	0.0 0

表 5-1-7-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ボク	9.9 16	87.0 140	3.1 5	0.0 0
ワタシ	0.6 1	95.0 153	4.3 7	0.0 0
アタシ	0.0 0	96.9 156	3.1 5	0.0 0
ワタクシ	0.0 0	96.9 156	3.1 5	0.0 0
アタクシ	0.0 0	96.9 156	3.1 5	0.0 0
オイ	47.2 76	49.7 80	3.1 5	0.0 0
オレ	91.3 147	6.8 11	1.9 3	0.0 0
オラ	1.9 3	95.0 153	3.1 5	0.0 0
ワシ	1.2 2	95.7 154	3.1 5	0.0 0
ジブン	2.5 4	94.4 152	3.1 5	0.0 0
名前	0.0 0	80.1 129	19.9 32	0.0 0
その他	0.6 1	64.6 104	34.8 56	0.0 0

表 5-1-7-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ボク	60.2 97	37.9 61	1.9 3	0.0 0
ワタシ	1.2 2	95.7 154	3.1 5	0.0 0
アタシ	0.6 1	96.3 155	3.1 5	0.0 0
ワタクシ	0.0 0	96.9 156	3.1 5	0.0 0
アタクシ	0.6 1	95.7 154	3.7 6	0.0 0
オイ	30.4 49	65.8 106	3.7 6	0.0 0
オレ	67.7 109	30.4 49	1.9 3	0.0 0
オラ	1.9 3	95.0 153	3.1 5	0.0 0
ワシ	1.2 2	95.7 154	3.1 5	0.0 0
ジブン	9.3 15	87.0 140	3.7 6	0.0 0
名前	0.0 0	83.2 134	16.8 27	0.0 0
その他	0.0 0	67.7 109	32.3 52	0.0 0

表 5-1-7-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ボク	83.2 134	14.9 24	1.9 3	0.0 0
ワタシ	1.2 2	93.2 150	5.6 9	0.0 0
アタシ	0.0 0	94.4 152	5.6 9	0.0 0
ワタクシ	0.6 1	93.8 151	5.6 9	0.0 0
アタクシ	1.2 2	93.2 150	5.6 9	0.0 0
オイ	7.5 12	87.0 140	5.6 9	0.0 0
オレ	12.4 20	82.6 133	5.0 8	0.0 0
オラ	0.0 0	94.4 152	5.6 9	0.0 0
ワシ	0.0 0	94.4 152	5.6 9	0.0 0
ジブン	8.1 13	86.3 139	5.6 9	0.0 0
名前	1.2 2	77.0 124	21.7 35	0.0 0
その他	5.0 8	61.5 99	33.5 54	0.0 0

表 5-1-7-f 対来客(男)

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ボク	80.1 129	19.3 31	0.6 1	0.0 0
ワタシ	3.1 5	91.3 147	5.6 9	0.0 0
アタシ	0.6 1	94.4 152	5.0 8	0.0 0
ワタクシ	1.2 2	93.8 151	5.0 8	0.0 0
アタクシ	1.2 2	93.8 151	5.0 8	0.0 0
オイ	7.5 12	87.6 141	5.0 8	0.0 0
オレ	20.5 33	75.8 122	3.7 6	0.0 0
オラ	1.2 2	93.8 151	5.0 8	0.0 0
ワシ	0.6 1	94.4 152	5.0 8	0.0 0
ジブン	5.6 9	89.4 144	5.0 8	0.0 0
名前	0.0 0	81.4 131	18.6 30	0.0 0
その他	0.6 1	62.1 100	37.3 60	0.0 0

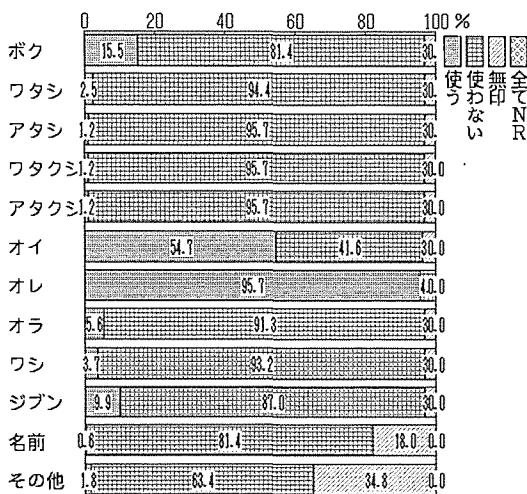


図 5-1-7-a 対同性友人

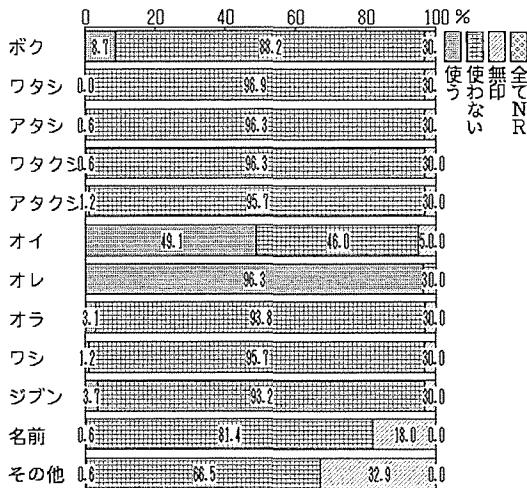


図 5-1-7-b 対異性同級

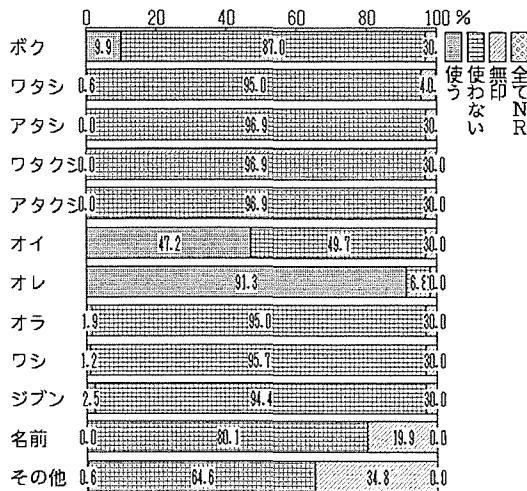


図 5-1-7-c 対同性先輩

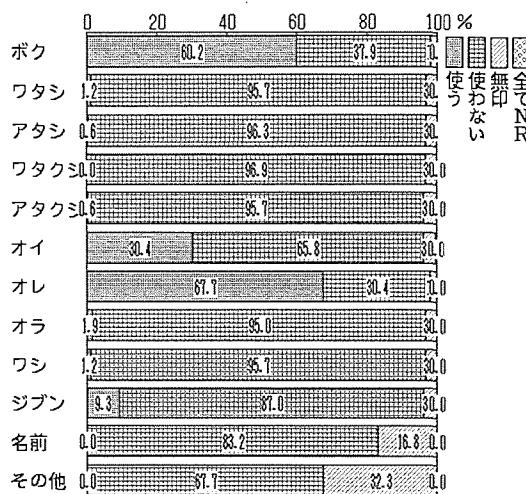


図 5-1-7-d 対担任

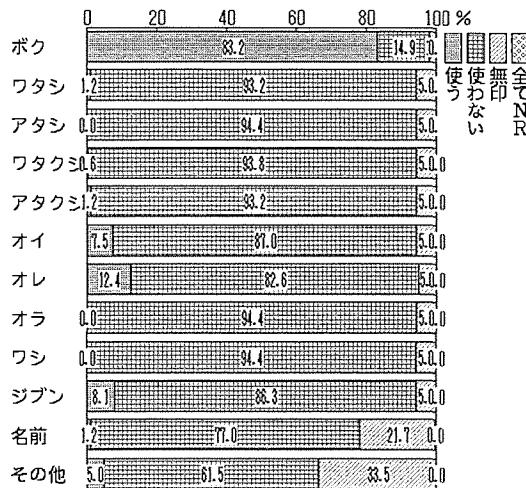


図 5-1-7-e 対校長

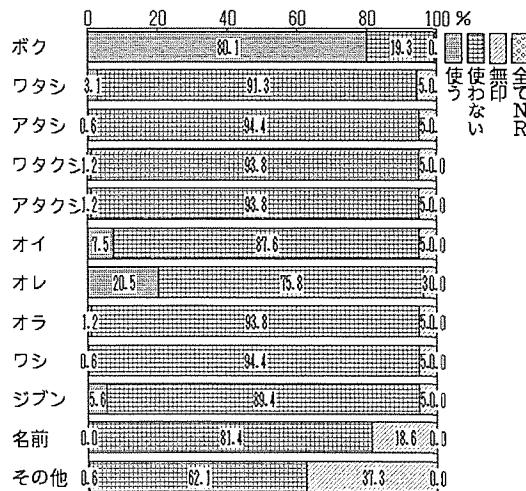


図 5-1-7-f 対来客(男)

表 5-1-8 自称詞(山形中学・女子)

表 5-1-8-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	2.2 4	96.1 171	1.7 3	0.0 0
ワタシ	33.1 59	64.6 115	2.2 4	0.0 0
アタシ	68.0 121	32.0 57	0.0 0	0.0 0
ワタクシ	0.0 0	98.3 175	1.7 3	0.0 0
アタクシ	0.0 0	97.8 174	2.2 4	0.0 0
オイ	62.4 111	37.1 66	0.6 1	0.0 0
オレ	20.2 36	78.1 139	1.7 3	0.0 0
オラ	0.0 0	97.2 173	2.8 5	0.0 0
ワシ	1.1 2	97.2 173	1.7 3	0.0 0
ジブン	3.4 6	94.4 168	2.2 4	0.0 0
名前	9.6 17	83.7 149	6.7 12	0.0 0
その他	3.9 7	75.8 135	20.2 36	0.0 0

表 5-1-8-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	1.1 2	96.6 172	2.2 4	0.0 0
ワタシ	28.7 51	69.1 123	2.2 4	0.0 0
アタシ	64.0 114	35.4 63	0.6 1	0.0 0
ワタクシ	0.0 0	97.8 174	2.2 4	0.0 0
アタクシ	0.0 0	96.6 172	3.4 6	0.0 0
オイ	52.8 94	46.1 82	1.1 2	0.0 0
オレ	14.6 26	83.1 148	2.2 4	0.0 0
オラ	0.0 0	97.8 174	2.2 4	0.0 0
ワシ	0.0 0	97.8 174	2.2 4	0.0 0
ジブン	1.1 2	96.1 171	2.8 5	0.0 0
名前	6.7 12	83.1 148	10.1 18	0.0 0
その他	3.4 6	74.2 132	22.5 40	0.0 0

表 5-1-8-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	0.0 0	97.2 173	2.2 4	0.6 1
ワタシ	53.4 95	44.9 80	1.1 2	0.6 1
アタシ	52.8 94	44.9 80	1.7 3	0.6 1
ワタクシ	0.0 0	97.2 173	2.2 4	0.6 1
アタクシ	0.0 0	96.6 172	2.8 5	0.6 1
オイ	25.8 46	70.8 126	2.8 5	0.6 1
オレ	5.6 10	91.6 163	2.2 4	0.6 1
オラ	0.0 0	97.2 173	2.2 4	0.6 1
ワシ	0.0 0	97.2 173	2.2 4	0.6 1
ジブン	1.7 3	94.4 168	3.4 6	0.6 1
名前	3.9 7	86.0 153	9.6 17	0.6 1
その他	2.4 4	75.3 134	21.9 39	0.6 1

表 5-1-8-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	0.0 0	98.3 175	1.7 3	0.0 0
ワタシ	71.9 128	28.1 50	0.0 0	0.0 0
アタシ	43.8 78	54.5 97	1.7 3	0.0 0
ワタクシ	0.6 1	97.8 174	1.7 3	0.0 0
アタクシ	0.0 0	97.8 174	2.2 4	0.0 0
オイ	21.9 39	76.4 136	1.7 3	0.0 0
オレ	4.5 8	92.7 165	2.8 5	0.0 0
オラ	0.0 0	98.3 175	1.7 3	0.0 0
ワシ	0.0 0	98.3 175	1.7 3	0.0 0
ジブン	2.2 4	96.1 171	1.7 3	0.0 0
名前	1.1 2	92.7 165	6.2 11	0.0 0
その他	1.2 2	78.1 139	20.8 37	0.0 0

表 5-1-8-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	0.0 0	97.2 173	2.8 5	0.0 0
ワタシ	90.4 161	9.0 16	0.6 1	0.0 0
アタシ	19.7 35	77.5 138	2.8 5	0.0 0
ワタクシ	1.1 2	96.1 171	2.8 5	0.0 0
アタクシ	0.6 1	96.6 172	2.8 5	0.0 0
オイ	1.1 2	96.1 171	2.8 5	0.0 0
オレ	0.6 1	96.6 172	2.8 5	0.0 0
オラ	0.0 0	97.2 173	2.8 5	0.0 0
ワシ	0.0 0	97.2 173	2.8 5	0.0 0
ジブン	1.1 2	96.1 171	2.8 5	0.0 0
名前	0.0 0	90.4 161	9.6 17	0.0 0
その他	2.8 5	73.6 131	23.6 42	0.0 0

表 5-1-8-f 対来客(男)

	使う	使わない	無印	全てNR
ボク	0.0 0	96.6 172	2.8 5	0.6 1
ワタシ	91.6 163	7.9 14	0.0 0	0.6 1
アタシ	17.4 31	79.8 142	2.2 4	0.6 1
ワタクシ	1.7 3	94.9 169	2.8 5	0.6 1
アタクシ	0.0 0	96.6 172	2.8 5	0.6 1
オイ	0.6 1	96.1 171	2.8 5	0.6 1
オレ	0.0 0	96.6 172	2.8 5	0.6 1
オラ	0.0 0	96.6 172	2.8 5	0.6 1
ワシ	0.6 1	96.1 171	2.8 5	0.6 1
ジブン	0.6 1	96.1 171	2.8 5	0.6 1
名前	0.0 0	92.7 165	6.7 12	0.6 1
その他	0.6 1	79.2 141	19.7 35	0.6 1

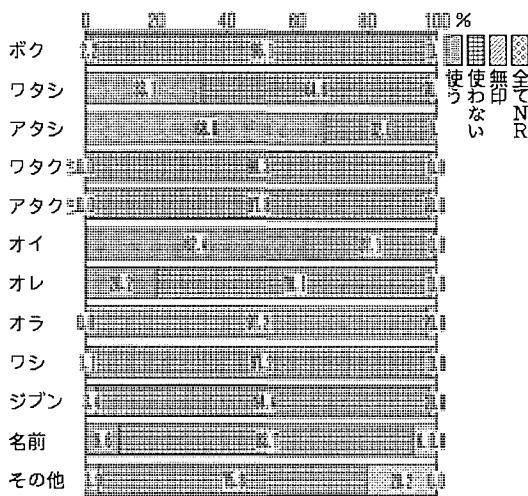


図 5-1-8-a 対同性友人

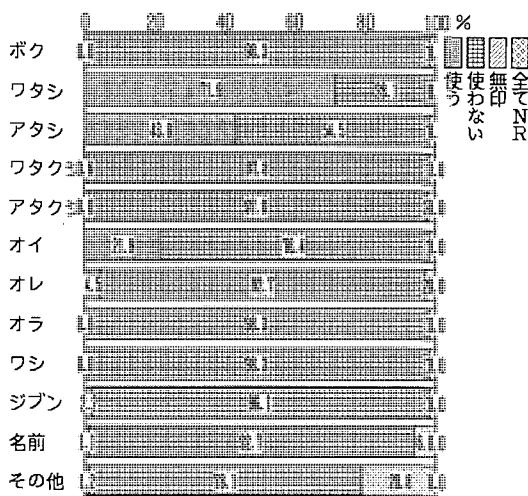


図 5-1-8-d 対担任

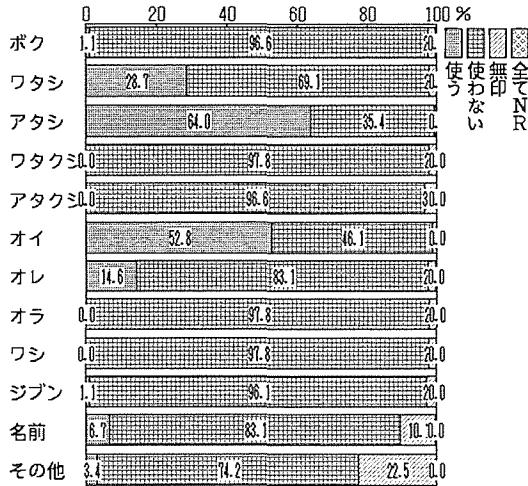


図 5-1-8-b 対異性同級

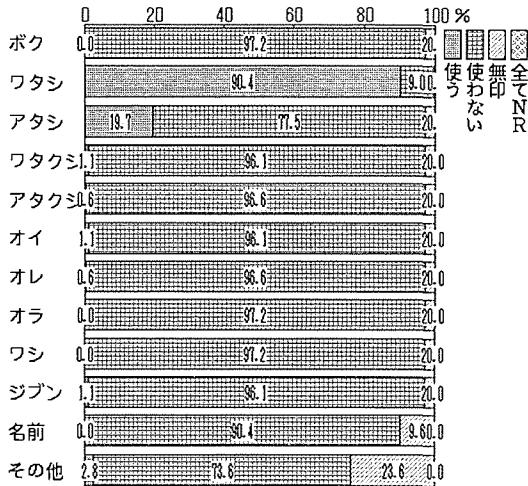


図 5-1-8-e 対校長

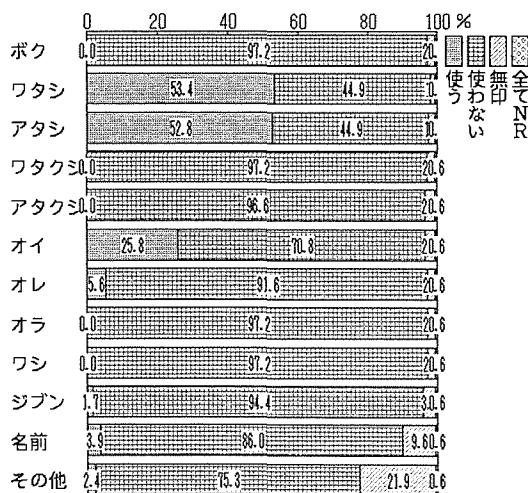


図 5-1-8-c 対同性先輩

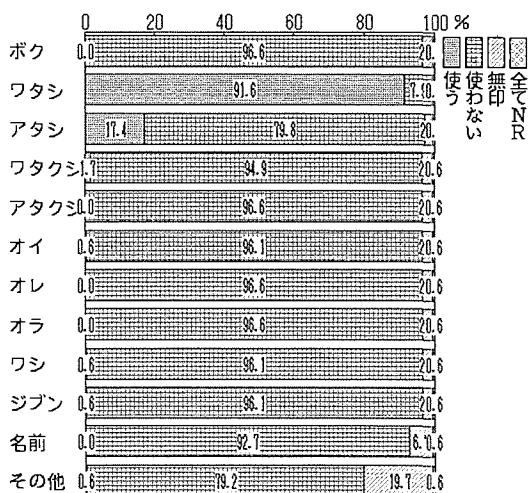


図 5-1-8-f 対来客(男)

表 5-2-1 対称詞(1)ー相手の呼び方(東京中学・男子)

表 5-2-1-a 対同性後輩

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	14.9 192	75.3 967	8.2 106	1.6 20
アナタ	2.2 28	87.4 1123	8.9 114	1.6 20
アンタ	3.1 40	85.9 1104	9.4 121	1.6 20
オマエ	42.7 549	48.2 620	7.5 96	1.6 20
オメエ	21.9 281	67.6 869	8.9 115	1.6 20
オタク	2.9 37	86.6 1113	8.9 115	1.6 20
ジブン	1.3 17	87.9 1129	9.3 119	1.6 20
姓+クン	13.9 178	75.6 971	9.0 116	1.6 20
姓+サン	4.5 58	83.6 1074	10.4 133	1.6 20
姓呼捨て	58.4 750	32.5 418	7.5 97	1.6 20
名+クン	9.3 120	80.5 1034	8.6 111	1.6 20
名+サン	3.0 39	86.0 1105	9.4 121	1.6 20
名+チャン	3.3 43	85.5 1099	9.6 123	1.6 20
名呼捨て	30.4 391	58.7 754	9.3 120	1.6 20
ニックネーム・あだ名	37.2 478	54.0 694	7.2 93	1.6 20
その他	6.1 79	70.7 909	21.6 277	1.6 20

表 5-2-1-c 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	11.7 150	80.0 1028	7.6 98	0.7 9
アナタ	3.7 48	87.4 1123	8.2 105	0.7 9
アンタ	5.1 66	85.5 1099	8.6 111	0.7 9
オマエ	33.9 435	58.3 749	7.2 92	0.7 9
オメエ	14.6 187	75.6 971	9.2 118	0.7 9
オタク	4.8 62	86.6 1113	7.9 101	0.7 9
ジブン	1.3 17	89.7 1153	8.2 106	0.7 9
姓+クン	5.2 67	85.4 1097	8.7 112	0.7 9
姓+サン	22.3 286	68.4 879	8.6 111	0.7 9
姓呼捨て	60.2 773	33.5 431	5.6 72	0.7 9
名+クン	5.8 74	85.0 1092	8.6 110	0.7 9
名+サン	7.3 94	83.4 1072	8.6 110	0.7 9
名+チャン	7.0 90	83.3 1070	9.0 116	0.7 9
名呼捨て	18.0 231	71.8 923	9.5 122	0.7 9
ニックネーム・あだ名	37.2 478	55.5 713	6.6 85	0.7 9
その他	4.5 58	71.6 920	23.2 298	0.7 9

表 5-2-1-b 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	12.8 164	79.3 1019	7.4 95	0.5 7
アナタ	2.3 30	89.3 1148	7.8 100	0.5 7
アンタ	6.8 87	84.9 1091	7.8 100	0.5 7
オマエ	46.5 598	46.3 595	6.6 85	0.5 7
オメエ	28.7 369	63.0 809	7.8 100	0.5 7
オタク	6.5 83	85.4 1097	7.6 98	0.5 7
ジブン	2.6 34	88.6 1138	8.2 106	0.5 7
姓+クン	21.3 274	70.0 900	8.1 104	0.5 7
姓+サン	7.0 90	83.0 1066	9.5 122	0.5 7
姓呼捨て	55.8 717	36.8 473	6.8 88	0.5 7
名+クン	16.7 214	74.0 951	8.8 113	0.5 7
名+サン	5.1 65	85.6 1100	8.8 113	0.5 7
名+チャン	17.7 228	73.9 949	7.9 101	0.5 7
名呼捨て	45.2 581	46.6 599	7.6 98	0.5 7
ニックネーム・あだ名	86.1 1107	9.6 124	3.7 47	0.5 7
その他	7.1 91	67.0 861	25.4 326	0.5 7

表 5-2-1-d 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	2.4 31	87.9 1129	8.3 107	1.4 18
アナタ	1.2 15	89.2 1146	8.2 106	1.4 18
アンタ	1.3 17	88.8 1141	8.5 109	1.4 18
オマエ	4.3 55	86.1 1106	8.2 106	1.4 18
オメエ	3.1 40	86.6 1113	8.9 114	1.4 18
オタク	1.2 15	88.8 1141	8.6 111	1.4 18
ジブン	0.9 11	89.1 1145	8.6 111	1.4 18
姓+クン	26.0 334	65.2 838	7.4 95	1.4 18
姓+サン	8.9 115	80.6 1036	9.0 116	1.4 18
姓呼捨て	6.9 89	82.8 1064	8.9 114	1.4 18
名+クン	15.7 202	74.4 956	8.5 109	1.4 18
名+サン	4.9 63	83.7 1076	10.0 128	1.4 18
名+チャン	3.7 47	85.4 1098	9.5 122	1.4 18
名呼捨て	5.4 69	84.4 1084	8.9 114	1.4 18
ニックネーム・あだ名	27.4 352	64.0 822	7.2 93	1.4 18
センパイ	59.9 770	32.5 418	6.1 79	1.4 18
その他	4.1 53	71.8 923	22.6 291	1.4 18

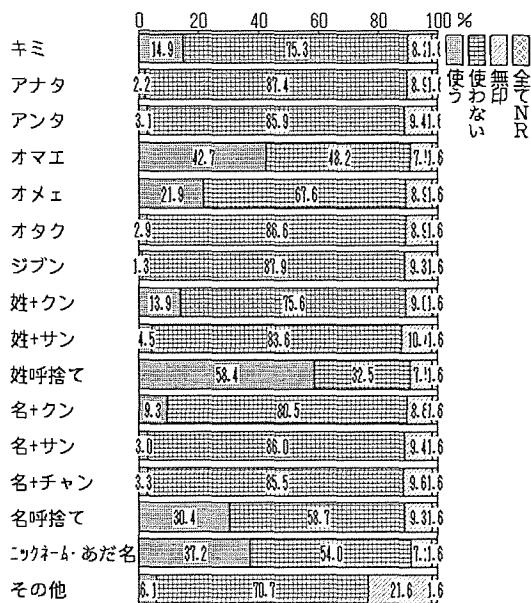


図 5-2-1-a 対同性後輩

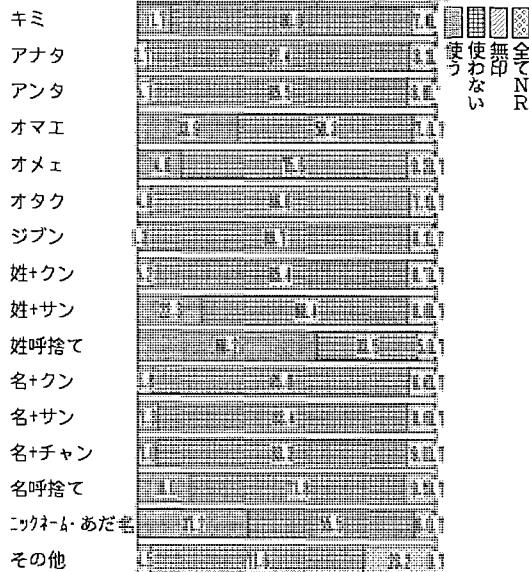


図 5-2-1-c 対異性同級

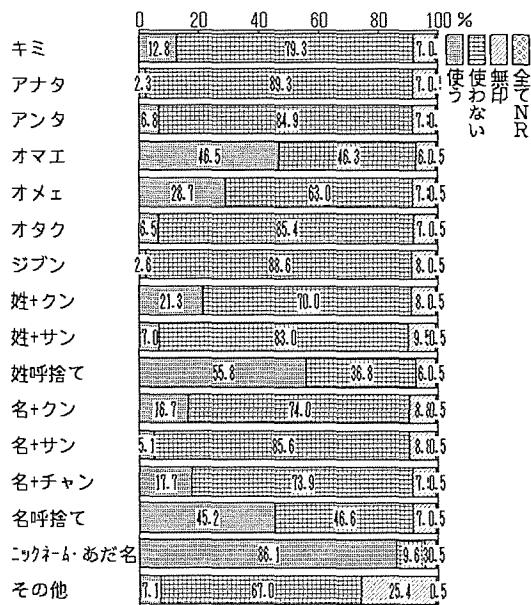


図 5-2-1-b 対同性友人

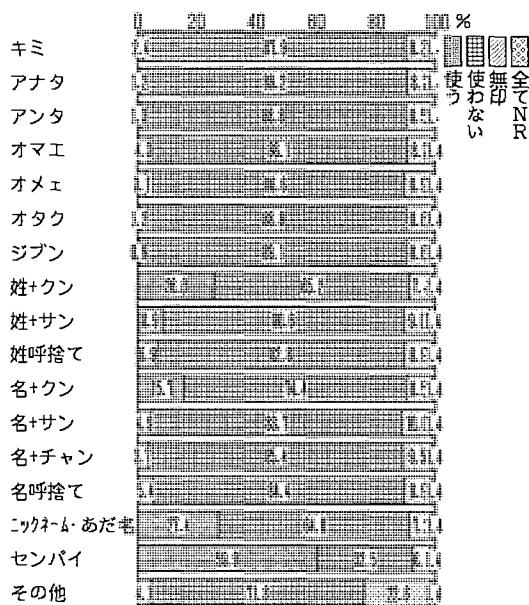


図 5-2-1-d 対同性先輩

表 5-2-2 対称詞(1)―相手の呼び方(東京中学・女子)

表 5-2-2-a 対同性後輩

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	4.4	90.6	3.8	1.1
	52	1061	45	13
アナタ	4.4	90.9	3.6	1.1
	51	1065	42	13
アンタ	4.4	90.5	3.9	1.1
	52	1060	46	13
オマエ	2.4	92.4	4.1	1.1
	28	1082	48	13
オメエ	0.9	94.0	4.0	1.1
	10	1101	47	13
オタク	0.8	94.3	3.8	1.1
	9	1104	45	13
ジブン	0.3	94.7	3.8	1.1
	4	1109	45	13
姓+クン	11.4	83.5	4.0	1.1
	133	978	47	13
姓+サン	72.7	24.4	1.8	1.1
	851	286	21	13
姓呼捨て	19.2	75.7	3.9	1.1
	225	887	46	13
名+クン	5.0	90.0	3.8	1.1
	59	1054	45	13
名+サン	16.7	78.7	3.4	1.1
	196	922	40	13
名+チャン	30.7	64.6	3.6	1.1
	360	756	42	13
名呼捨て	10.8	83.4	4.7	1.1
	126	977	55	13
ニックネーム・あだ名	29.4	66.2	3.3	1.1
	344	775	39	13
その他	2.8	75.5	20.6	1.1
	33	884	241	13

表 5-2-2-c 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	4.4	91.1	3.5	0.9
	52	1067	41	11
アナタ	3.9	91.4	3.8	0.9
	46	1070	44	11
アンタ	20.5	74.8	3.8	0.9
	240	876	44	11
オマエ	8.7	86.6	3.8	0.9
	102	1014	44	11
オメエ	3.5	91.0	4.5	0.9
	41	1066	53	11
オタク	2.2	93.1	3.8	0.9
	26	1090	44	11
ジブン	1.5	93.3	4.3	0.9
	18	1082	50	11
姓+クン	39.8	55.7	3.6	0.9
	466	652	42	11
姓+サン	5.6	88.8	4.6	0.9
	66	1040	54	11
姓呼捨て	71.6	25.2	2.2	0.9
	839	295	26	11
名+クン	15.0	80.5	3.5	0.9
	176	943	41	11
名+サン	3.5	91.2	4.4	0.9
	41	1068	51	11
名+チャン	12.5	82.9	3.7	0.9
	146	971	43	11
名呼捨て	22.8	70.8	5.5	0.9
	267	829	64	11
ニックネーム・あだ名	50.0	46.2	2.9	0.9
	585	541	34	11
その他	3.8	74.2	21.0	0.9
	45	869	246	11

表 5-2-2-b 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	5.5	90.6	3.4	0.5
	64	1061	40	6
アナタ	9.5	86.4	3.6	0.5
	111	1012	42	6
アンタ	23.7	72.4	3.4	0.5
	277	848	40	6
オマエ	11.6	84.1	3.8	0.5
	136	985	44	6
オメエ	7.8	87.4	4.3	0.5
	91	1024	50	6
オタク	6.0	90.1	3.4	0.5
	70	1055	40	6
ジブン	2.5	93.0	4.0	0.5
	29	1089	47	6
姓+クン	7.5	87.4	4.5	0.5
	88	1024	53	6
姓+サン	40.0	56.1	3.4	0.5
	468	657	40	6
姓呼捨て	48.7	47.1	3.8	0.5
	570	551	44	6
名+クン	4.6	90.7	4.2	0.5
	54	1062	49	6
名+サン	14.6	80.3	4.6	0.5
	171	940	54	6
名+チャン	65.2	31.2	3.2	0.5
	763	365	37	6
名呼捨て	47.9	46.8	4.8	0.5
	561	548	56	6
ニックネーム・あだ名	87.4	10.8	1.3	0.5
	1024	126	15	6
その他	4.0	72.3	23.1	0.5
	47	847	271	6

表 5-2-2-d 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	0.3	95.3	3.8	0.6
	3	1116	45	7
アナタ	0.6	94.7	4.1	0.6
	7	1109	48	7
アンタ	0.4	95.0	3.9	0.6
	5	1113	46	7
オマエ	0.3	95.1	3.9	0.6
	4	1114	46	7
オメエ	0.2	95.1	4.1	0.6
	2	1114	48	7
オタク	0.1	95.4	3.9	0.6
	1	1117	46	7
ジブン	0.3	95.0	4.1	0.6
	3	1113	48	7
姓+クン	2.0	93.4	4.0	0.6
	23	1094	47	7
姓+サン	12.3	83.0	4.1	0.6
	144	972	48	7
姓呼捨て	1.8	93.8	3.8	0.6
	21	1098	45	7
名+クン	0.3	95.0	4.1	0.6
	3	1113	48	7
名+サン	3.8	90.9	4.8	0.6
	44	1064	56	7
名+チャン	2.8	89.6	7.0	0.6
	33	1049	82	7
名呼捨て	1.1	93.9	4.4	0.6
	13	1100	51	7
ニックネーム・あだ名	5.3	90.0	4.1	0.6
	62	1054	48	7
センパイ	92.6	5.6	1.3	0.6
	1084	65	15	7
その他	1.6	80.9	16.9	0.6
	19	947	198	7

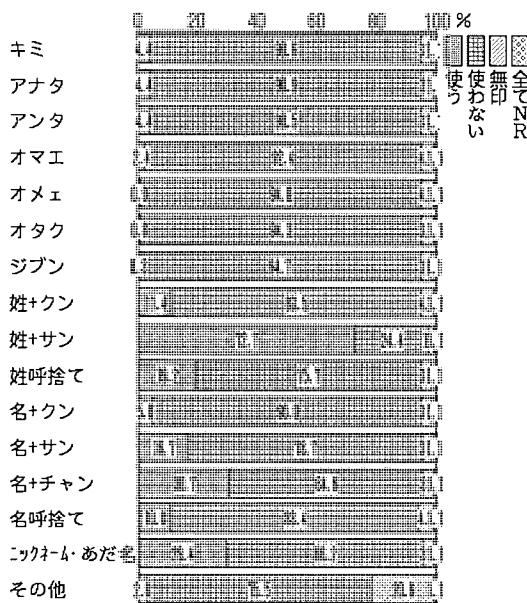


図 5-2-2-a 対同性後輩

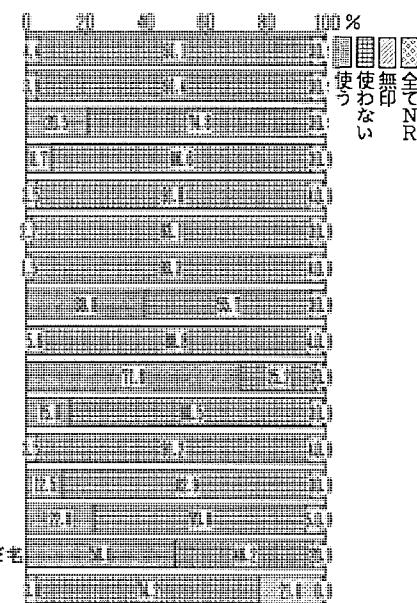


図 5-2-2-c 対異性同級

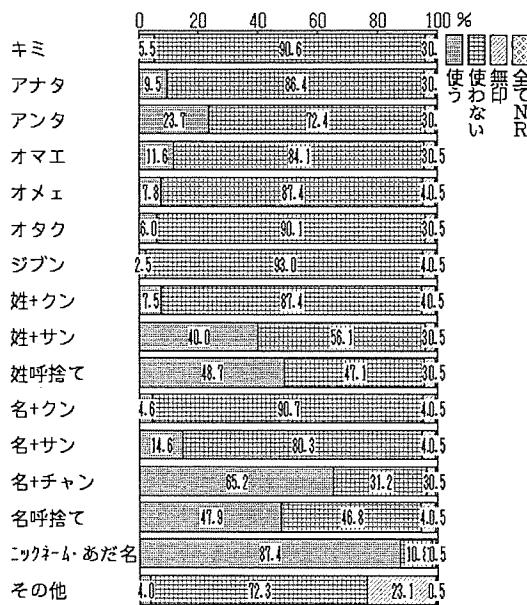


図 5-2-2-b 対同性友人

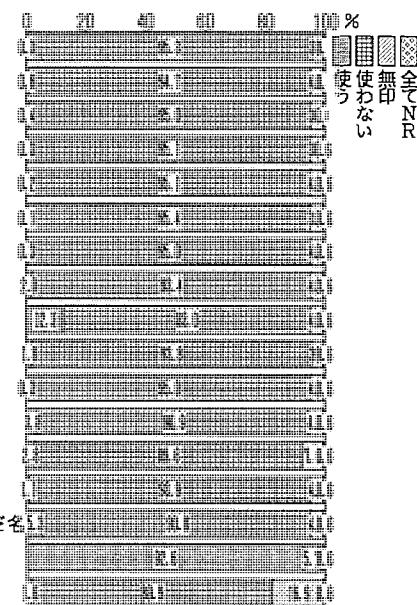


図 5-2-2-d 対同性先輩

表 5-2-3 対称詞(1)ー相手の呼び方(東京高校・男子)

表 5-2-3-a 対同性後輩

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	10.6 123	71.6 828	7.9 91	9.9 115
アナタ	1.6 19	80.3 929	8.1 94	9.9 115
アンタ	3.0 35	78.8 912	8.2 95	9.9 115
オマエ	44.1 510	39.3 455	6.7 77	9.9 115
オメエ	20.7 240	60.2 696	9.2 106	9.9 115
オタク	1.3 15	80.3 929	8.5 98	9.9 115
ジブン	1.2 14	79.9 925	8.9 103	9.9 115
姓+クン	14.2 164	67.5 781	8.4 97	9.9 115
姓+サン	5.6 65	75.0 868	9.4 109	9.9 115
姓呼捨て	63.9 739	19.9 230	6.3 73	9.9 115
名+クン	5.3 61	76.5 885	8.3 96	9.9 115
名+サン	2.9 33	79.1 915	8.1 94	9.9 115
名+チャン	4.4 51	77.3 894	8.4 97	9.9 115
名呼捨て	29.1 337	52.6 609	8.3 96	9.9 115
ニックネーム・あだ名	40.4 467	42.5 492	7.2 83	9.9 115
その他	4.1 48	59.6 690	26.3 304	9.9 115

表 5-2-3-c 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR	男子数
キミ	9.2 106	65.5 758	7.2 83	1.5 17	16.7 193
アナタ	2.6 30	71.2 824	8.0 93	1.5 17	16.7 193
アンタ	4.2 49	69.6 805	8.0 93	1.5 17	16.7 193
オマエ	16.5 191	57.9 670	7.4 86	1.5 17	16.7 193
オメエ	7.9 91	65.7 760	8.3 96	1.5 17	16.7 193
オタク	1.6 18	71.9 832	8.4 97	1.5 17	16.7 193
ジブン	1.4 16	72.0 833	8.5 98	1.5 17	16.7 193
姓+クン	3.5 40	69.5 804	8.9 103	1.5 17	16.7 193
姓+サン	50.8 588	24.9 288	6.1 71	1.5 17	16.7 193
姓呼捨て	28.5 330	46.0 532	7.3 85	1.5 17	16.7 193
名+クン	2.2 25	71.7 829	8.0 93	1.5 17	16.7 193
名+サン	12.6 146	61.3 709	8.0 92	1.5 17	16.7 193
名+チャン	7.4 86	65.9 763	8.5 98	1.5 17	16.7 193
名呼捨て	8.7 101	64.1 742	9.0 104	1.5 17	16.7 193
ニックネーム・あだ名	21.8 252	52.7 610	7.3 85	1.5 17	16.7 193
その他	2.2 261	51.5 5961	28.1 325	1.5 17	16.7 193

表 5-2-3-b 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	11.1 128	79.5 920	8.5 98	1.0 11
アナタ	2.7 31	87.4 1011	9.0 104	1.0 11
アンタ	8.2 95	81.8 947	9.0 104	1.0 11
オマエ	52.1 603	40.4 467	6.6 76	1.0 11
オメエ	31.2 361	58.6 678	9.2 107	1.0 11
オタク	3.4 39	86.9 1006	8.7 101	1.0 11
ジブン	1.7 20	88.3 1022	9.0 104	1.0 11
姓+クン	23.1 267	67.5 781	8.5 98	1.0 11
姓+サン	6.9 80	81.1 938	11.1 128	1.0 11
姓呼捨て	70.6 817	22.0 255	6.4 74	1.0 11
名+クン	11.1 128	78.7 911	9.2 107	1.0 11
名+サン	4.2 49	85.1 985	9.7 112	1.0 11
名+チャン	13.5 156	76.8 889	8.7 101	1.0 11
名呼捨て	42.4 491	46.3 536	10.3 119	1.0 11
ニックネーム・あだ名	71.5 827	22.0 254	5.6 65	1.0 11
その他	4.1 48	60.6 701	34.3 397	1.0 11

表 5-2-3-d 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	2.1 24	86.5 1001	8.6 100	2.8 32
アナタ	1.4 16	86.8 1004	9.1 105	2.8 32
アンタ	1.7 20	86.8 1004	8.7 101	2.8 32
オマエ	4.7 54	83.9 971	8.6 100	2.8 32
オメエ	3.7 43	84.6 979	8.9 103	2.8 32
オタク	1.3 15	86.9 1006	9.0 104	2.8 32
ジブン	1.5 17	86.6 1002	9.2 106	2.8 32
姓+クン	12.8 148	75.0 868	9.4 109	2.8 32
姓+サン	32.7 378	55.7 645	8.8 102	2.8 32
姓呼捨て	6.2 72	81.8 946	9.2 107	2.8 32
名+クン	7.6 88	80.8 935	8.8 102	2.8 32
名+サン	13.3 154	75.2 870	8.7 101	2.8 32
名+チャン	4.0 46	82.7 957	10.5 122	2.8 32
名呼捨て	4.1 48	83.7 968	9.4 109	2.8 32
ニックネーム・あだ名	23.1 267	66.1 765	8.0 93	2.8 32
センパイ	71.6 828	20.8 241	4.8 56	2.8 32
その他	2.9 33	65.2 754	29.2 338	2.8 32

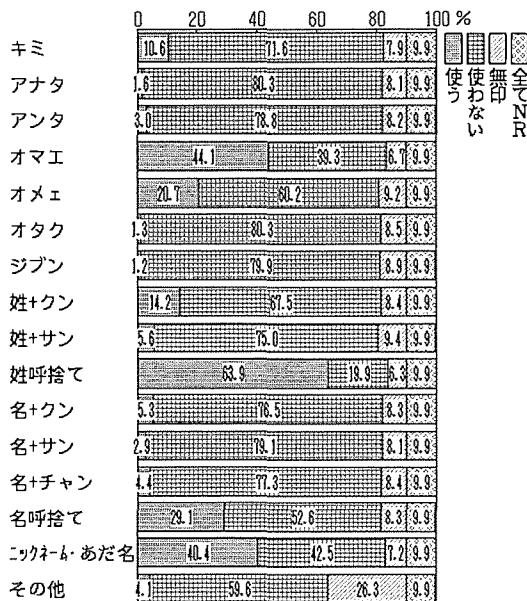


図 5-2-3-a 対同性後輩

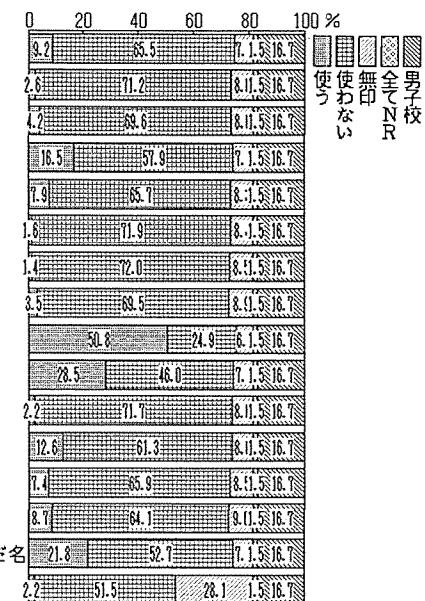


図 5-2-3-c 対異性同級

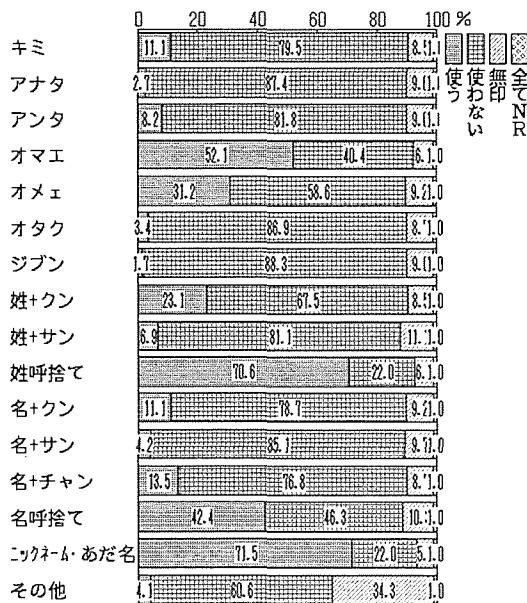


図 5-2-3-b 対同性友人

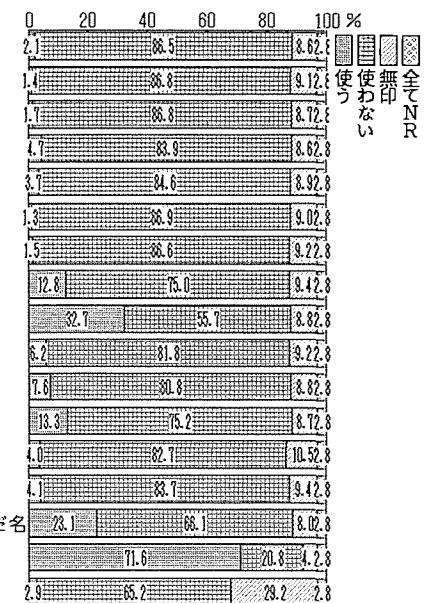


図 5-2-3-d 対同性先輩

表5-2-4 対称詞(1)ー相手の呼び方(東京高校・女子)

表5-2-4-a 対同性後輩

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	3.8 40	82.2 871	7.3 77	6.8 72
アナタ	6.9 73	79.2 839	7.2 76	6.8 72
アンタ	5.0 53	80.9 858	7.3 77	6.8 72
オマエ	2.0 21	83.8 888	7.5 79	6.8 72
オメエ	1.4 15	84.0 890	7.8 83	6.8 72
オタク	0.9 10	85.2 903	7.1 75	6.8 72
ジブン	0.5 5	85.3 904	7.5 79	6.8 72
姓+クン	12.9 137	72.0 763	8.3 88	6.8 72
姓+サン	59.9 635	27.4 290	5.9 63	6.8 72
姓呼捨て	22.3 236	63.7 675	7.3 77	6.8 72
名+クン	5.9 63	79.9 847	7.4 78	6.8 72
名+サン	17.8 189	68.4 725	7.0 74	6.8 72
名+チャン	42.5 450	45.1 478	5.7 60	6.8 72
名呼捨て	14.2 151	71.2 755	7.7 82	6.8 72
ニックネーム・あだ名	41.8 443	45.3 480	6.1 65	6.8 72
その他	4.7 50	59.0 625	29.5 313	6.8 72

表5-2-4-c 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR	女子数
キミ	2.4 25	73.4 778	6.5 69	0.5 5	17.3 183
アナタ	3.0 32	72.5 768	6.8 72	0.5 5	17.3 183
アンタ	9.5 101	66.0 700	6.7 71	0.5 5	17.3 183
オマエ	3.6 38	72.2 765	6.5 69	0.5 5	17.3 183
オメエ	1.2 13	73.8 782	7.3 77	0.5 5	17.3 183
オタク	1.0 11	74.4 789	6.8 72	0.5 5	17.3 183
ジブン	0.6 6	74.6 791	7.1 75	0.5 5	17.3 183
姓+クン	64.3 682	14.6 155	3.3 35	0.5 5	17.3 183
姓+サン	2.3 24	71.6 759	8.4 89	0.5 5	17.3 183
姓呼捨て	25.1 266	52.0 551	5.2 55	0.5 5	17.3 183
名+クン	18.7 198	58.3 618	5.3 56	0.5 5	17.3 183
名+サン	2.3 24	72.4 767	7.6 81	0.5 5	17.3 183
名+チャン	6.6 70	68.9 730	6.8 72	0.5 5	17.3 183
名呼捨て	7.5 80	67.4 714	7.4 78	0.5 5	17.3 183
ニックネーム・あだ名	30.3 321	46.6 494	5.4 57	0.5 5	17.3 183
その他	2.0 21	51.3 544	29.0 307	0.5 5	17.3 183

表5-2-4-b 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	6.3 67	86.1 913	7.0 74	0.6 6
アナタ	9.2 98	83.1 881	7.1 75	0.6 6
アンタ	23.7 251	69.3 735	6.4 68	0.6 6
オマエ	8.1 86	84.6 897	6.7 71	0.6 6
オメエ	5.6 59	86.5 917	7.4 78	0.6 6
オタク	2.8 30	89.5 949	7.1 75	0.6 6
ジブン	0.9 10	91.3 968	7.2 76	0.6 6
姓+クン	4.2 45	87.3 925	7.9 84	0.6 6
姓+サン	34.7 368	58.0 615	6.7 71	0.6 6
姓呼捨て	41.2 437	52.3 554	5.9 63	0.6 6
名+クン	2.7 29	89.2 946	7.5 79	0.6 6
名+サン	15.7 166	76.4 810	7.4 78	0.6 6
名+チャン	66.6 706	28.1 298	4.7 50	0.6 6
名呼捨て	45.0 477	48.5 514	5.9 63	0.6 6
ニックネーム・あだ名	80.6 854	16.0 170	2.8 30	0.6 6
その他	3.5 37	59.2 628	36.7 389	0.6 6

表5-2-4-d 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	0.5 5	92.4 979	6.7 71	0.5 5
アナタ	1.7 18	91.0 965	6.8 72	0.5 5
アンタ	1.3 14	91.4 969	6.8 72	0.5 5
オマエ	0.3 3	92.5 981	6.7 71	0.5 5
オメエ	0.2 2	92.5 980	6.9 73	0.5 5
オタク	0.3 3	92.4 979	6.9 73	0.5 5
ジブン	0.6 6	91.5 970	7.5 79	0.5 5
姓+クン	2.9 31	89.3 947	7.3 77	0.5 5
姓+サン	18.4 195	75.0 795	6.1 65	0.5 5
姓呼捨て	1.7 18	90.9 964	6.9 73	0.5 5
名+クン	1.1 12	91.5 970	6.9 73	0.5 5
名+サン	9.1 96	82.8 878	7.6 81	0.5 5
名+チャン	5.2 55	85.6 907	8.8 93	0.5 5
名呼捨て	1.9 20	90.8 962	6.9 73	0.5 5
ニックネーム・あだ名	16.8 178	76.1 807	6.6 70	0.5 5
センパイ	92.3 978	5.5 58	1.8 19	0.5 5
その他	3.1 33	67.4 714	29.1 308	0.5 5

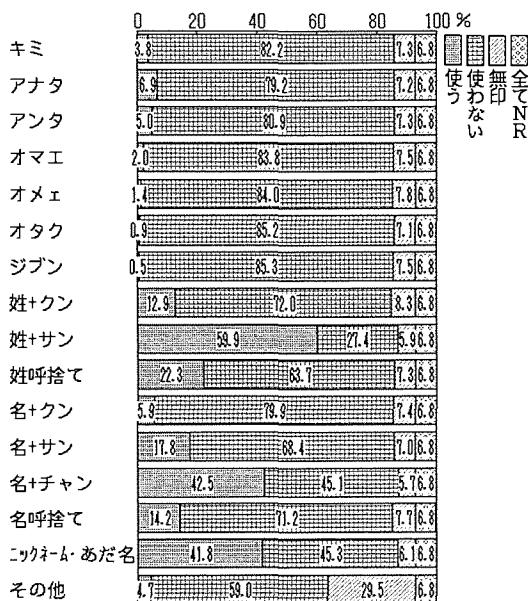


図 5-2-4-a 対同性後輩

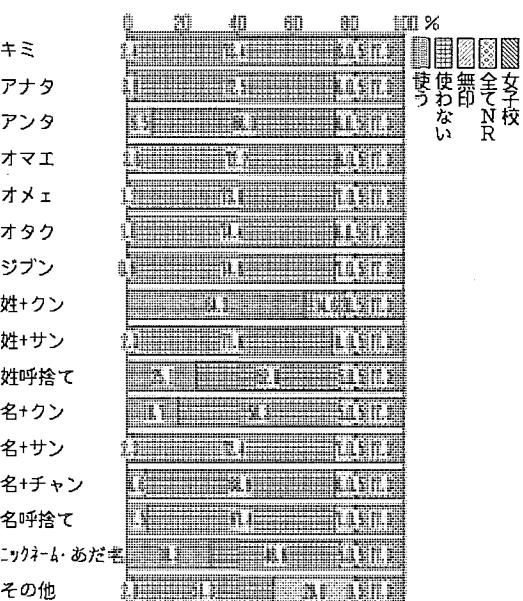


図 5-2-4-c 対異性同級

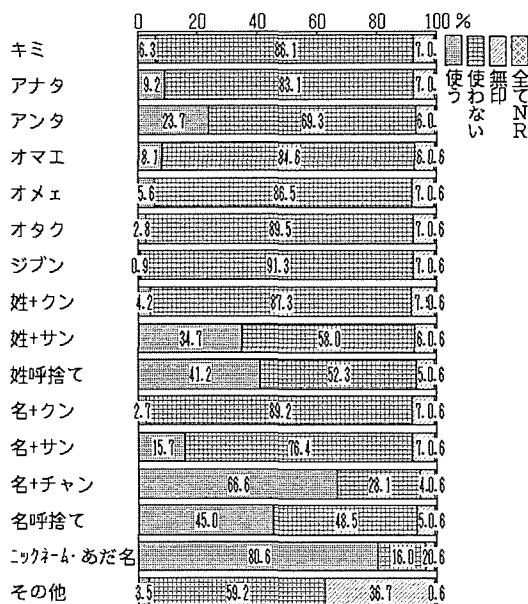


図 5-2-4-b 対同性友人

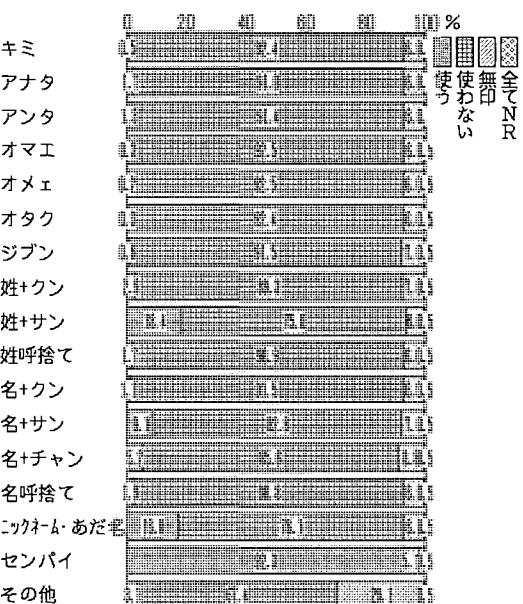


図 5-2-4-d 対同性先輩

表 5-2-5 対称詞(1)ー相手の呼び方(大阪高校・男子)

表 5-2-5-a 対同性後輩

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	7.4 35	78.2 369	8.1 38	6.4 30
アナタ	1.1 5	83.9 396	8.7 41	6.4 30
アンタ	2.8 13	82.4 389	8.5 40	6.4 30
オマエ	60.2 284	28.4 134	5.1 24	6.4 30
オメエ	5.9 28	78.6 371	9.1 43	6.4 30
オマハン	0.8 4	83.7 395	9.1 43	6.4 30
オタク	1.7 8	83.5 394	8.5 40	6.4 30
ワレ	5.5 26	79.7 376	8.5 40	6.4 30
ジブン	11.7 55	74.4 351	7.6 36	6.4 30
姓	67.4 318	20.1 95	6.1 29	6.4 30
名	19.1 90	64.2 303	10.4 49	6.4 30
その他	9.5 45	57.2 270	26.9 127	6.4 30

表 5-2-5-c 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR	男子数
キミ	7.8 37	63.6 300	7.4 35	1.1 5	20.1 95
アナタ	1.9 9	68.9 325	8.1 38	1.1 5	20.1 95
アンタ	5.7 27	65.3 308	7.8 37	1.1 5	20.1 95
オマエ	24.2 114	48.3 228	6.4 30	1.1 5	20.1 95
オメエ	1.9 9	69.1 326	7.8 37	1.1 5	20.1 95
オマハン	0.6 3	69.9 330	8.3 39	1.1 5	20.1 95
オタク	2.3 11	68.9 325	7.6 36	1.1 5	20.1 95
ワレ	3.2 15	67.8 320	7.8 37	1.1 5	20.1 95
ジブン	18.4 87	53.4 252	7.0 33	1.1 5	20.1 95
姓	60.2 284	14.6 69	4.0 19	1.1 5	20.1 95
名	8.7 41	61.4 290	8.7 41	1.1 5	20.1 95
その他	11.0 52	43.0 203	24.8 117	1.1 5	20.1 95

表 5-2-5-b 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	7.6 36	82.4 389	9.1 43	0.8 4
アナタ	1.3 6	88.1 416	9.7 46	0.8 4
アンタ	8.5 40	81.4 384	9.3 44	0.8 4
オマエ	68.4 323	26.5 125	4.2 20	0.8 4
オメエ	6.6 31	82.8 391	9.7 46	0.8 4
オマハン	1.1 5	87.9 415	10.2 48	0.8 4
オタク	3.6 17	86.4 408	9.1 43	0.8 4
ワレ	7.6 36	81.8 386	9.7 46	0.8 4
ジブン	15.0 71	75.8 358	8.3 39	0.8 4
姓	74.8 353	17.8 84	6.6 31	0.8 4
名	29.4 139	60.2 284	9.5 45	0.8 4
その他	16.1 76	51.7 244	31.4 148	0.8 4

表 5-2-5-d 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	3.6 17	84.7 400	8.1 38	3.6 17
アナタ	2.1 10	86.2 407	8.1 38	3.6 17
アンタ	3.2 15	85.4 403	7.8 37	3.6 17
オマエ	9.5 45	80.1 378	6.8 32	3.6 17
オメエ	0.6 3	87.5 413	8.3 39	3.6 17
オマハン	0.6 3	87.3 412	8.5 40	3.6 17
オタク	2.1 10	86.0 406	8.3 39	3.6 17
ワレ	1.5 7	86.7 409	8.3 39	3.6 17
ジブン	5.7 27	83.1 392	7.6 36	3.6 17
姓	55.3 261	37.1 175	4.0 19	3.6 17
名	11.2 53	75.4 356	9.7 46	3.6 17
その他	36.4 172	37.7 178	22.2 105	3.6 17

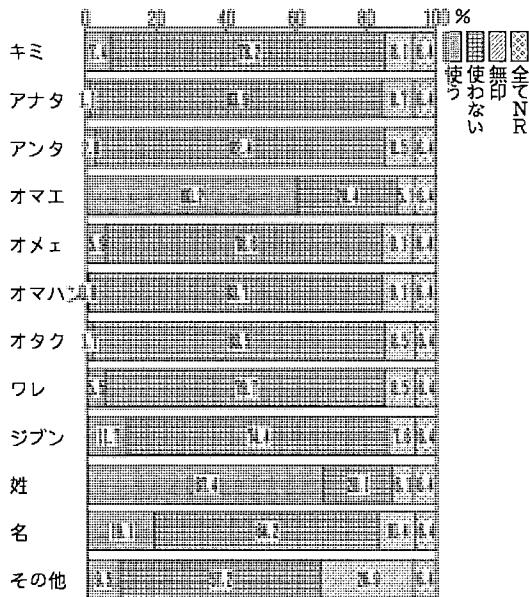


図 5-2-5-a 対同性後輩

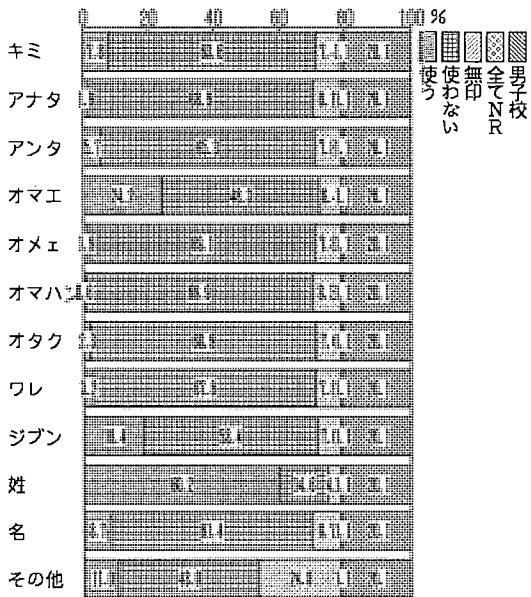


図 5-2-5-c 対異性同級

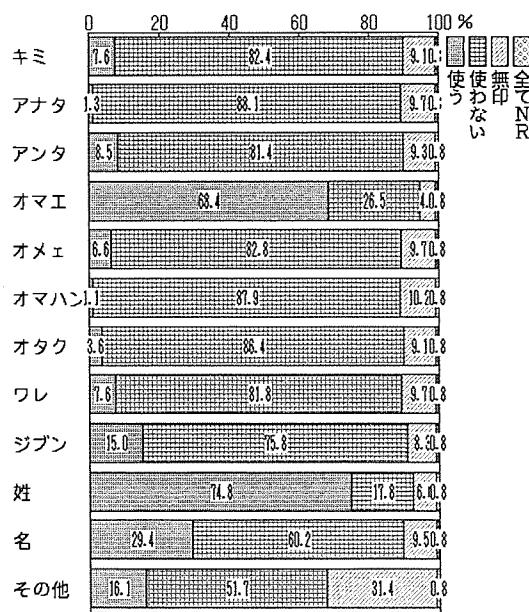


図 5-2-5-b 対同性友人

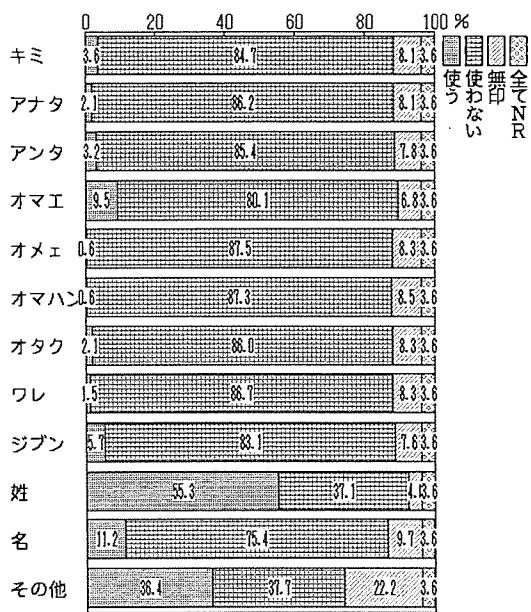


図 5-2-5-d 対同性先輩

表 5-2-6 対称詞(1)ー相手の呼び方(大阪高校・女子)

表 5-2-6-a 対同性後輩

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	2.6 14	86.8 460	5.1 27	5.5 29
アナタ	3.4 18	86.4 458	4.7 25	5.5 29
アンタ	20.9 111	69.8 370	3.8 20	5.5 29
オマエ	1.3 7	88.1 467	5.1 27	5.5 29
オメエ	0.4 2	89.1 472	5.1 27	5.5 29
オマハン	0.0 0	89.6 475	4.9 26	5.5 29
オタク	0.8 4	88.7 470	5.1 27	5.5 29
ワレ	0.0 0	89.4 474	5.1 27	5.5 29
ジブン	20.4 108	69.4 368	4.7 25	5.5 29
姓	60.8 322	30.6 162	3.2 17	5.5 29
名	24.2 128	65.3 346	5.1 27	5.5 29
その他	26.8 142	45.5 241	22.3 118	5.5 29

表 5-2-6-c 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR	好歎
キミ	1.3 7	67.0 355	5.7 30	0.0 0	26.0 138
アナタ	0.9 5	67.7 359	5.3 28	0.0 0	26.0 138
アンタ	24.2 128	45.3 240	4.5 24	0.0 0	26.0 138
オマエ	2.3 12	66.0 350	5.7 30	0.0 0	26.0 138
オメエ	0.2 1	68.3 362	5.5 29	0.0 0	26.0 138
オマハン	0.0 0	68.3 362	5.7 30	0.0 0	26.0 138
オタク	1.9 10	66.6 353	5.5 29	0.0 0	26.0 138
ワレ	0.0 0	68.3 362	5.7 30	0.0 0	26.0 138
ジブン	22.5 119	46.6 247	4.9 26	0.0 0	26.0 138
姓	57.2 303	14.0 74	2.8 15	0.0 0	26.0 138
名	8.7 46	59.2 314	6.0 32	0.0 0	26.0 138
その他	14.7 78	38.7 205	20.6 109	0.0 0	26.0 138

表 5-2-6-b 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	2.6 14	91.9 487	5.3 28	0.2 1
アナタ	2.5 13	92.3 489	5.1 27	0.2 1
アンタ	38.9 206	57.4 304	3.6 19	0.2 1
オマエ	7.7 41	87.0 461	5.1 27	0.2 1
オメエ	2.3 12	92.3 489	5.3 28	0.2 1
オマハン	0.0 0	94.3 500	5.5 29	0.2 1
オタク	3.2 17	91.3 484	5.3 28	0.2 1
ワレ	0.4 2	94.2 499	5.3 28	0.2 1
ジブン	30.4 161	65.3 346	4.2 22	0.2 1
姓	59.2 314	36.0 191	4.5 24	0.2 1
名	67.0 355	29.1 154	3.8 20	0.2 1
その他	36.6 194	39.1 207	24.2 128	0.2 1

表 5-2-6-d 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	0.2 1	92.5 490	4.7 25	2.6 14
アナタ	1.3 7	91.7 486	4.3 23	2.6 14
アンタ	1.7 9	90.9 482	4.7 25	2.6 14
オマエ	0.6 3	92.3 489	4.5 24	2.6 14
オメエ	0.2 1	92.5 490	4.7 25	2.6 14
オマハン	0.2 1	92.3 489	4.9 26	2.6 14
オタク	0.2 1	92.5 490	4.7 25	2.6 14
ワレ	0.2 1	92.5 490	4.7 25	2.6 14
ジブン	3.2 17	89.4 474	4.7 25	2.6 14
姓	43.4 230	50.4 267	3.6 19	2.6 14
名	10.9 58	81.7 433	4.7 25	2.6 14
その他	57.2 303	26.2 139	14.0 74	2.6 14

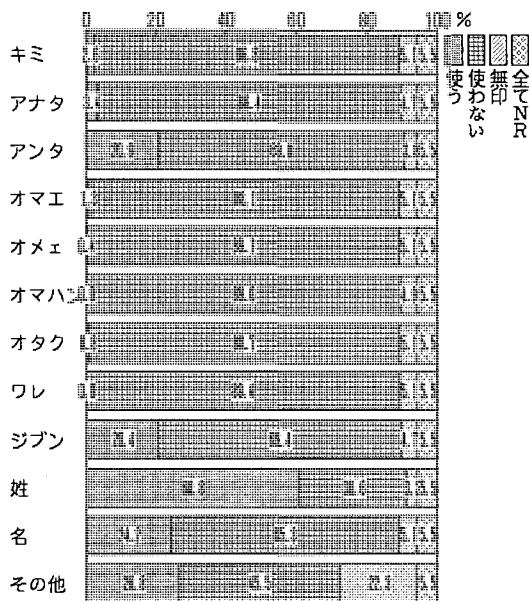


図 5-2-6-a 対同性後輩

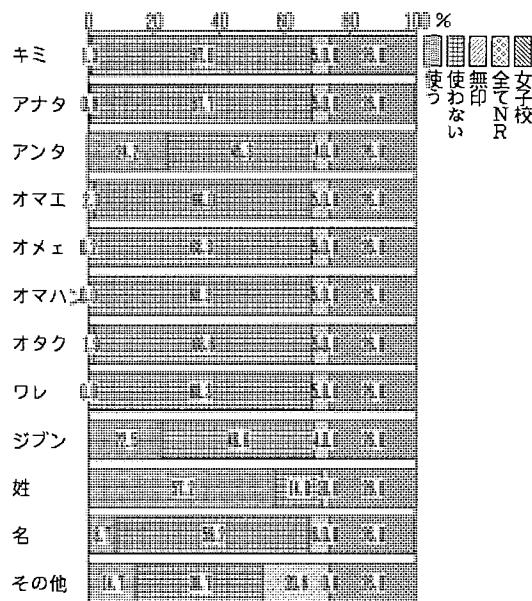


図 5-2-6-c 対異性同級

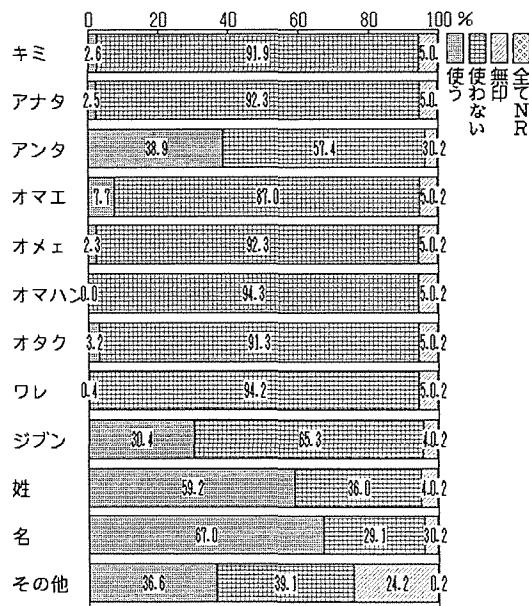


図 5-2-6-b 対同性友人

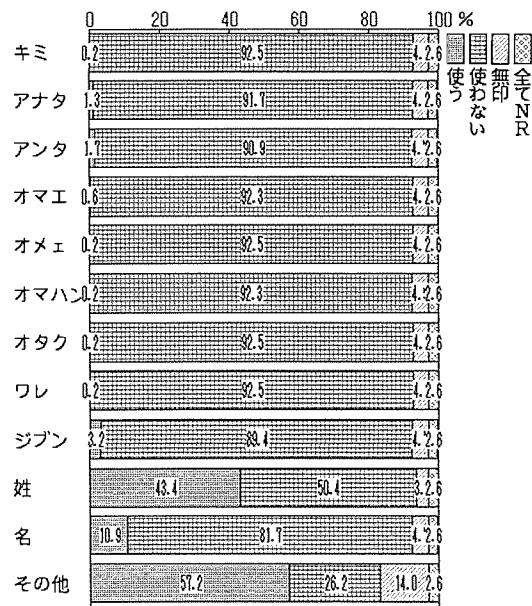


図 5-2-6-d 対同性先輩

表 5-2-7 対称詞(1)―相手の呼び方(山形中学・男子)

表 5-2-7-a 対同性後輩

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	2.5 4	88.2 142	1.9 3	7.5 12
アナタ	1.9 3	88.2 142	2.5 4	7.5 12
アンタ	1.9 3	88.2 142	2.5 4	7.5 12
オマエ	9.3 15	80.7 130	2.5 4	7.5 12
オメ	60.2 97	29.2 47	3.1 5	7.5 12
ワ	46.0 74	42.2 68	4.3 7	7.5 12
ワネ	29.8 48	60.2 97	2.5 4	7.5 12
ワレ	9.3 15	80.1 129	3.1 5	7.5 12
ジブン	1.9 3	88.2 142	2.5 4	7.5 12
姓	20.5 33	68.3 110	3.7 6	7.5 12
名	44.1 71	39.8 64	8.7 14	7.5 12
その他	15.5 25	58.4 94	18.6 30	7.5 12

表 5-2-7-c 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	5.6 9	91.3 147	3.1 5	0.0 0
アナタ	1.9 3	95.0 153	3.1 5	0.0 0
アンタ	13.0 21	84.5 136	2.5 4	0.0 0
オマエ	6.2 10	90.1 145	3.7 6	0.0 0
オメ	64.6 104	32.9 53	2.5 4	0.0 0
ワ	39.1 63	54.0 87	6.8 11	0.0 0
ワネ	23.0 37	73.3 118	3.7 6	0.0 0
ワレ	6.8 11	90.1 145	3.1 5	0.0 0
ジブン	0.6 1	96.3 155	3.1 5	0.0 0
姓	29.2 47	64.6 104	6.2 10	0.0 0
名	33.5 54	57.1 92	9.3 15	0.0 0
その他	20.5 33	60.2 97	19.3 31	0.0 0

表 5-2-7-b 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	3.1 5	94.4 152	2.5 4	0.0 0
アナタ	0.6 1	96.9 156	2.5 4	0.0 0
アンタ	4.3 7	93.2 150	2.5 4	0.0 0
オマエ	8.1 13	88.8 143	3.1 5	0.0 0
オメ	73.9 119	25.5 41	0.6 1	0.0 0
ワ	56.5 91	39.1 63	4.3 7	0.0 0
ワネ	38.5 62	58.4 94	3.1 5	0.0 0
ワレ	8.7 14	88.8 143	2.5 4	0.0 0
ジブン	0.0 0	96.9 156	3.1 5	0.0 0
姓	34.8 56	59.6 96	5.6 9	0.0 0
名	52.8 85	37.3 60	9.9 16	0.0 0
その他	31.7 51	51.6 83	16.8 27	0.0 0

表 5-2-7-d 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	3.1 5	90.7 146	4.3 7	1.9 3
アナタ	3.1 5	90.1 145	5.0 8	1.9 3
アンタ	5.0 8	88.2 142	5.0 8	1.9 3
オマエ	1.9 3	90.7 146	5.6 9	1.9 3
オメ	26.1 42	65.8 106	6.2 10	1.9 3
ワ	14.9 24	76.4 123	6.8 11	1.9 3
ワネ	7.5 12	85.7 138	5.0 8	1.9 3
ワレ	5.6 9	88.2 142	4.3 7	1.9 3
ジブン	3.1 5	89.4 144	5.6 9	1.9 3
姓	26.1 42	63.4 102	8.7 14	1.9 3
名	41.0 66	47.2 76	9.9 16	1.9 3
その他	31.7 51	47.2 76	19.3 31	1.9 3

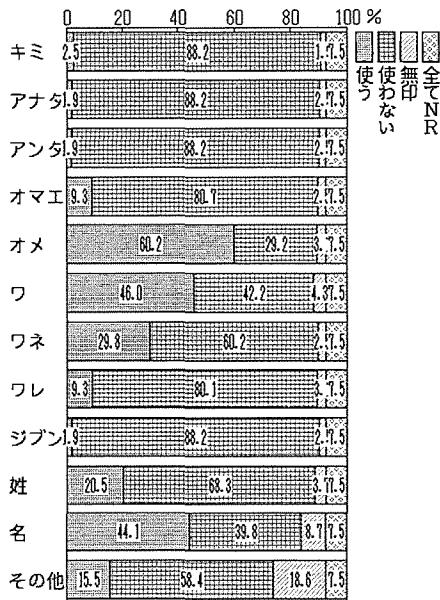


図 5-2-7-a 対同性後輩

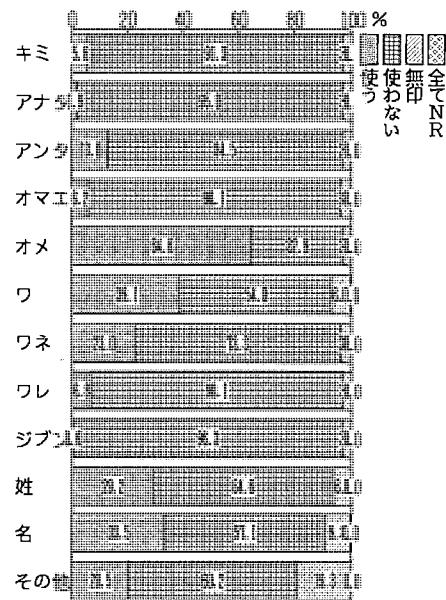


図 5-2-7-c 対異性同級

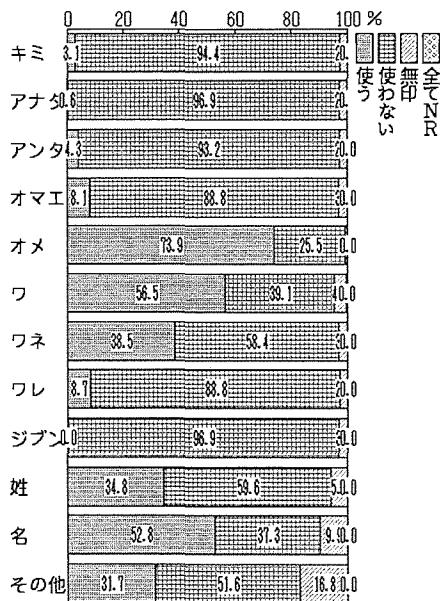


図 5-2-7-b 対同性友人

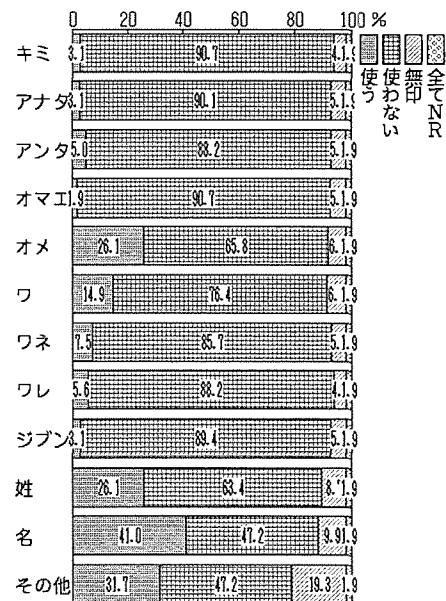


図 5-2-7-d 対同性先輩

表 5-2-8 対称詞(1)一相手の呼び方(山形中学・女子)

表 5-2-8-a 対同性後輩

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	1.1 2	88.2 157	2.2 4	8.4 15
アナタ	2.2 4	87.6 156	1.7 3	8.4 15
アンタ	12.9 23	76.4 136	2.2 4	8.4 15
オマエ	0.6 1	88.8 158	2.2 4	8.4 15
オメ	25.8 46	62.9 112	2.8 5	8.4 15
ワ	5.1 9	82.0 146	4.5 8	8.4 15
ワネ	3.4 6	86.0 153	2.2 4	8.4 15
ワレ	0.0 0	89.3 159	2.2 4	8.4 15
ジブン	0.6 1	88.2 157	2.8 5	8.4 15
姓	12.4 22	77.0 137	2.2 4	8.4 15
名	78.7 140	11.2 20	1.7 3	8.4 15
その他	20.2 36	60.1 107	11.2 20	8.4 15

表 5-2-8-c 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	0.6 1	96.6 172	2.2 4	0.6 1
アナタ	1.1 2	95.5 170	2.8 5	0.6 1
アンタ	25.3 45	71.9 128	2.2 4	0.6 1
オマエ	1.1 2	94.9 169	3.4 6	0.6 1
オメ	54.5 97	43.3 77	1.7 3	0.6 1
ワ	15.7 28	77.5 138	6.2 11	0.6 1
ワネ	2.8 5	94.4 168	2.2 4	0.6 1
ワレ	0.0 0	97.2 173	2.2 4	0.6 1
ジブン	0.0 0	97.2 173	2.2 4	0.6 1
姓	30.3 54	66.3 118	2.8 5	0.6 1
名	73.0 130	24.7 44	1.7 3	0.6 1
その他	34.3 61	51.1 91	14.0 25	0.6 1

表 5-2-8-b 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	2.2 4	94.9 169	2.2 4	0.6 1
アナタ	3.4 6	93.3 166	2.8 5	0.6 1
アンタ	28.1 50	68.5 122	2.8 5	0.6 1
オマエ	2.2 4	94.9 169	2.2 4	0.6 1
オメ	62.4 111	36.5 65	0.6 1	0.6 1
ワ	21.9 39	75.3 134	2.2 4	0.6 1
ワネ	9.0 16	88.2 157	2.2 4	0.6 1
ワレ	0.6 1	96.6 172	2.2 4	0.6 1
ジブン	0.6 1	96.1 171	2.8 5	0.6 1
姓	24.2 43	71.3 127	3.9 7	0.6 1
名	78.7 140	20.2 36	0.6 1	0.6 1
その他	32.6 58	50.0 89	16.9 30	0.6 1

表 5-2-8-d 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
キミ	0.6 1	96.1 171	2.2 4	1.1 2
アナタ	2.8 5	93.8 167	2.2 4	1.1 2
アンタ	1.7 3	94.9 169	2.2 4	1.1 2
オマエ	0.6 1	96.1 171	2.2 4	1.1 2
オメ	1.7 3	94.9 169	2.2 4	1.1 2
ワ	0.6 1	96.1 171	2.2 4	1.1 2
ワネ	0.6 1	96.1 171	2.2 4	1.1 2
ワレ	0.6 1	96.1 171	2.2 4	1.1 2
ジブン	0.6 1	96.1 171	2.2 4	1.1 2
姓	7.3 13	88.8 158	2.8 5	1.1 2
名	38.8 69	59.0 105	1.1 2	1.1 2
その他	65.7 117	24.2 43	9.0 16	1.1 2

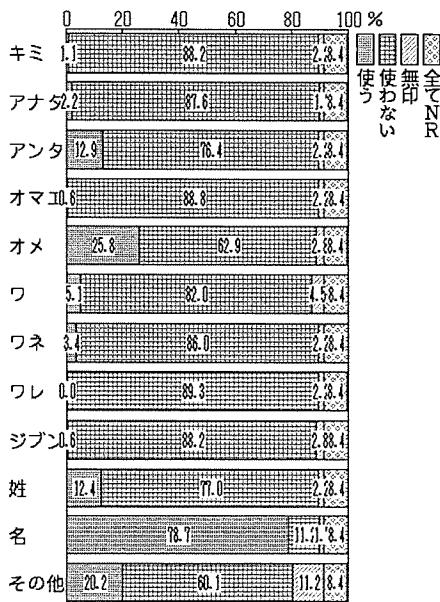


図 5-2-8-a 対同性後輩

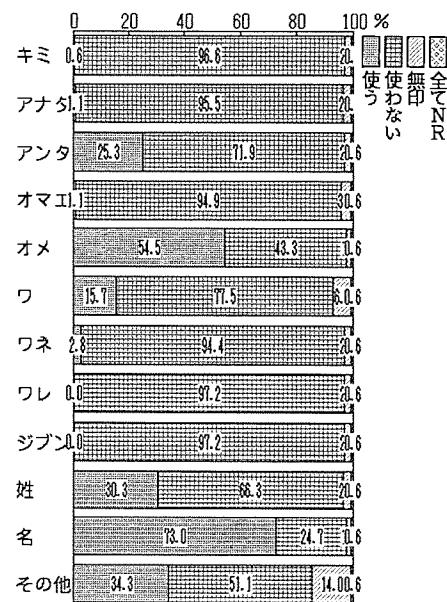


図 5-2-8-c 対異性同級

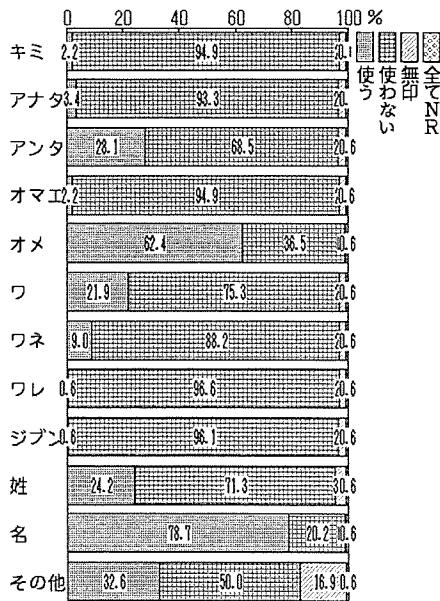


図 5-2-8-b 対同性友人

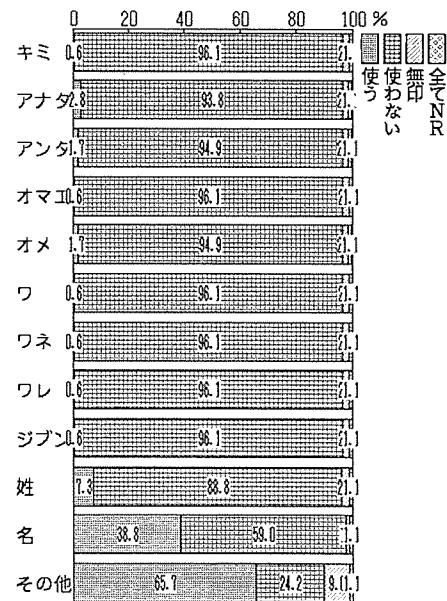


図 5-2-8-d 対同性先輩

表 5-3-1 対称詞(2)一相手からの呼ばれ方(東京中学・男子)

表 5-3-1-a 同性同級からの呼ばれ方の実際

	呼ばれる	咲れい	無印	全てNR
キミ	4.7 60	89.3 1147	5.6 72	0.5 6
アナタ	1.8 23	92.1 1183	5.7 73	0.5 6
アンタ	2.6 33	91.1 1171	5.8 75	0.5 6
オマエ	21.6 278	72.8 936	5.1 65	0.5 6
オメエ	11.4 147	82.4 1059	5.7 73	0.5 6
オタク	2.1 27	91.5 1176	5.9 76	0.5 6
ジブン	1.2 15	92.2 1185	6.1 79	0.5 6
姓+クン	13.5 174	80.1 1029	5.9 76	0.5 6
姓+サン	1.8 23	91.4 1174	6.4 82	0.5 6
姓呼捨て	40.8 524	53.8 691	5.0 64	0.5 6
名+クン	9.9 127	83.8 1077	5.8 75	0.5 6
名+サン	1.7 22	91.2 1172	6.6 85	0.5 6
名+チャン	6.3 81	87.2 1020	6.1 78	0.5 6
名呼捨て	24.1 310	68.6 881	6.8 88	0.5 6
ニックネーム・あだ名	63.1 811	33.2 427	3.2 41	0.5 6
その他	3.4 44	74.6 958	21.6 277	0.6 6

表 5-3-1-c 担任からの呼ばれ方の実際

	呼ばれる	咲れい	無印	全てNR
キミ	10.8 139	85.0 1092	3.8 49	0.4 5
アナタ	5.8 74	89.7 1153	4.1 53	0.4 5
アンタ	3.1 40	92.2 1185	4.3 55	0.4 5
オマエ	16.3 210	79.2 1018	4.0 52	0.4 5
オメエ	4.4 56	90.4 1161	4.9 63	0.4 5
オタク	1.2 16	93.9 1207	4.4 57	0.4 5
ジブン	0.8 10	94.2 1210	4.7 60	0.4 5
姓+クン	34.9 448	61.2 787	3.5 45	0.4 5
姓+サン	1.2 15	93.1 1196	5.4 69	0.4 5
姓呼捨て	68.9 886	28.1 361	2.6 33	0.4 5
名+クン	12.8 165	82.3 1058	4.4 57	0.4 5
名+サン	1.2 15	93.2 1198	5.2 67	0.4 5
名+チャン	2.8 36	91.8 1180	5.0 64	0.4 5
名呼捨て	24.0 308	69.3 890	6.4 82	0.4 5
ニックネーム・あだ名	17.0 219	78.2 1005	4.4 56	0.4 5
その他	1.6 21	78.3 1006	19.7 253	0.4 5

表 5-3-1-b 同性同級からの呼ばれ方の好悪

	好き	中立	嫌い	無印	全てNR
キミ	7.9 101	24.3 312	63.7 819	3.7 47	0.5 6
アナタ	3.5 45	16.2 208	76.1 978	3.7 48	0.5 6
アンタ	2.4 31	14.2 182	79.1 1017	3.8 49	0.5 6
オマエ	7.5 96	23.4 301	65.0 835	3.7 47	0.5 6
オメエ	4.5 58	17.2 221	73.5 944	4.4 56	0.5 6
オタク	3.4 44	15.3 197	77.0 989	3.8 49	0.5 6
ジブン	2.4 31	13.2 169	79.8 1026	4.1 53	0.5 6
姓+クン	22.8 233	27.1 348	45.8 588	3.9 50	0.5 6
姓+サン	5.8 74	16.0 205	73.3 942	4.5 58	0.5 6
姓呼捨て	27.6 355	25.8 332	41.7 536	4.4 56	0.5 6
名+クン	18.2 234	19.6 252	58.1 746	3.7 47	0.5 6
名+サン	4.0 52	15.0 193	76.1 978	4.4 56	0.5 6
名+チャン	7.6 98	14.0 180	74.3 955	3.6 46	0.5 6
名呼捨て	19.3 248	21.0 270	55.0 707	4.2 54	0.5 6
ニックネーム・あだ名	59.1 759	15.9 204	22.6 291	1.9 25	0.5 6
その他	3.7 48	0.0 0	62.8 807	33.0 424	0.5 6

表 5-3-1-d 担任からの呼ばれ方の好悪

	好き	中立	嫌い	無印	全てNR
キミ	8.2 106	22.0 283	66.4 853	2.8 36	0.5 7
アナタ	3.6 46	15.8 203	77.1 991	3.0 38	0.5 7
アンタ	1.4 18	11.1 143	83.7 1076	3.2 41	0.5 7
オマエ	4.6 59	13.6 175	78.4 1008	2.8 36	0.5 7
オメエ	2.6 33	9.2 118	84.5 1086	3.2 41	0.5 7
オタク	2.8 36	10.4 134	83.2 1069	3.0 39	0.5 7
ジブン	1.9 25	10.8 139	83.0 1067	3.7 47	0.5 7
姓+クン	31.4 403	19.3 248	46.0 591	2.8 36	0.5 7
姓+サン	3.3 43	12.5 161	79.4 1020	4.2 54	0.5 7
姓呼捨て	41.9 539	22.0 283	32.8 421	2.7 35	0.5 7
名+クン	15.3 196	16.5 212	65.2 838	2.5 32	0.5 7
名+サン	2.7 35	10.7 138	82.1 1055	3.9 50	0.5 7
名+チャン	3.3 226	10.4 213	82.3 795	3.3 44	0.5 7
名呼捨て	17.6 226	16.6 213	61.9 795	3.4 44	0.5 7
ニックネーム・あだ名	18.7 240	18.5 238	59.5 764	2.8 36	0.5 7
その他	4.1 53	0.0 0	67.3 865	28.0 360	0.5 7

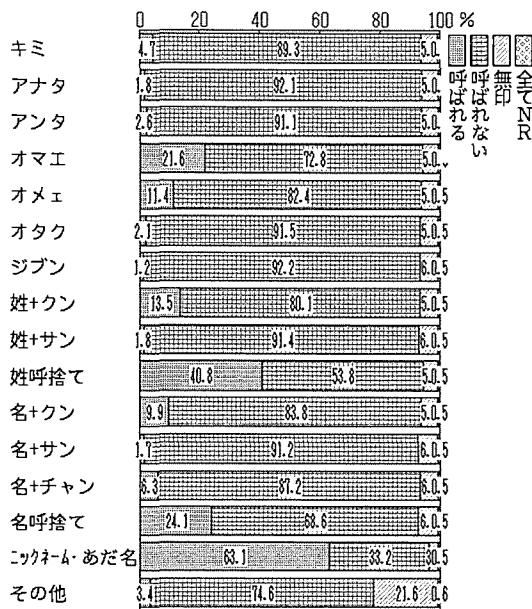


図 5-3-1-a 同性同級からの呼ばれ方の実際

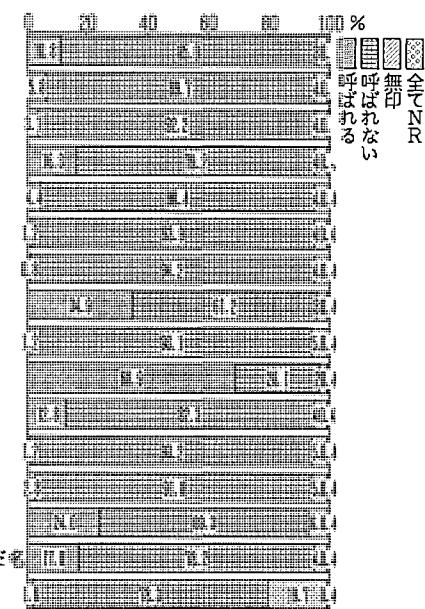


図 5-3-1-c 担任からの呼ばれ方の実際

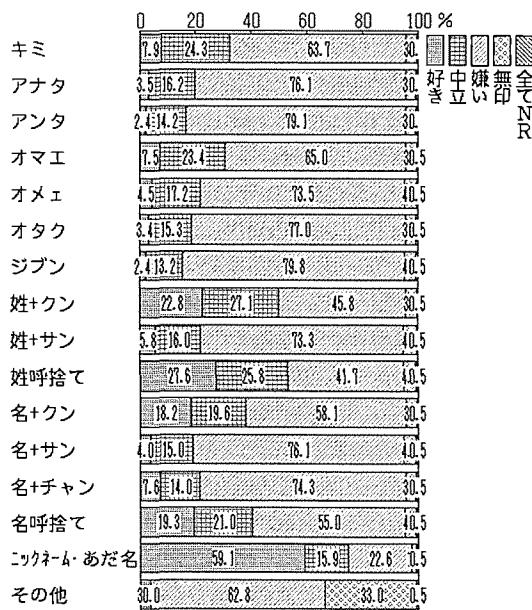


図 5-3-1-b 同性同級からの呼ばれ方の好悪

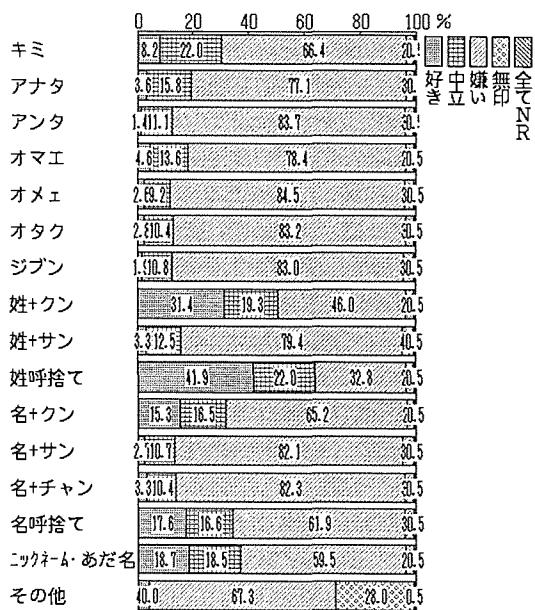


図 5-3-1-d 担任からの呼ばれ方の好悪

表 5-3-2 対称詞(2)一相手からの呼ばれ方(東京中学・女子)

表 5-3-2-a 同性同級からの呼ばれ方の実際

	呼ばれる	呼ばれか	無印	全てNR
キミ	1.8 21	95.2 1115	2.6 31	0.3 4
アナタ	2.5 29	94.4 1105	2.8 33	0.3 4
アンタ	5.0 58	91.9 1076	2.8 33	0.3 4
オマエ	3.3 39	93.4 1094	2.9 34	0.3 4
オメエ	2.4 28	94.1 1102	3.2 37	0.3 4
オタク	0.9 11	96.1 1125	2.6 31	0.3 4
ジブン	0.6 7	96.2 1127	2.8 33	0.3 4
姓+クン	0.4 5	95.6 1119	3.7 43	0.3 4
姓+サン	35.5 416	61.6 721	2.6 30	0.3 4
姓呼捨て	19.4 227	77.7 910	2.6 30	0.3 4
名+クン	0.3 3	96.2 1127	3.2 37	0.3 4
名+サン	7.6 89	88.7 1039	3.3 39	0.3 4
名+チャン	32.4 379	64.3 753	3.0 35	0.3 4
名呼捨て	15.1 177	81.0 949	3.5 41	0.3 4
ニックネーム・あだ名	51.0 597	47.0 550	1.7 20	0.3 4
その他	2.9 34	77.8 911	19.0 222	0.3 4

表 5-3-2-c 担任からの呼ばれ方の実際

	呼ばれる	呼ばれか	無印	全てNR
キミ	3.9 46	94.4 1106	1.5 18	0.1 1
アナタ	13.6 159	85.1 996	1.3 15	0.1 1
アンタ	2.9 34	95.0 1113	2.0 23	0.1 1
オマエ	10.8 127	87.1 1020	2.0 23	0.1 1
オメエ	2.7 32	94.6 1108	2.6 30	0.1 1
オタク	0.8 9	97.4 1141	1.7 20	0.1 1
ジブン	0.6 7	96.8 1133	2.6 30	0.1 1
姓+クン	0.4 5	96.8 1133	2.7 32	0.1 1
姓+サン	58.2 681	40.2 471	1.5 18	0.1 1
姓呼捨て	71.3 835	27.6 323	1.0 12	0.1 1
名+クン	0.3 3	97.8 1145	1.9 22	0.1 1
名+サン	9.4 110	88.8 1040	1.7 20	0.1 1
名+チャン	7.9 93	89.5 1048	2.5 29	0.1 1
名呼捨て	12.3 144	84.0 984	3.6 42	0.1 1
ニックネーム・あだ名	10.3 121	87.7 1027	1.9 22	0.1 1
その他	2.0 24	78.7 921	19.2 225	0.1 1

表 5-3-2-b 同性同級からの呼ばれ方の好悪

	好き	中立	嫌い	無印	全てNR
キミ	2.6 30	15.1 177	80.6 944	1.2 14	0.5 6
アナタ	2.9 34	16.0 187	79.4 930	1.2 14	0.5 6
アンタ	2.6 31	12.6 148	82.9 971	1.3 15	0.5 6
オマエ	2.3 27	10.7 125	85.0 995	1.5 18	0.5 6
オメエ	1.5 18	7.3 85	89.1 1043	1.6 19	0.5 6
オタク	1.7 20	9.4 110	87.0 1019	1.4 16	0.5 6
ジブン	0.9 11	6.6 77	90.7 1062	1.3 15	0.5 6
姓+クン	1.3 15	6.4 75	89.4 1047	2.4 28	0.5 6
姓+サン	27.5 322	31.6 370	39.3 460	1.1 13	0.5 6
姓呼捨て	26.9 315	28.3 331	42.7 500	1.6 19	0.5 6
名+クン	0.8 9	6.1 72	90.9 1064	1.7 20	0.5 6
名+サン	9.0 105	19.8 232	69.0 808	1.7 20	0.5 6
名+チャン	42.9 502	21.7 254	33.6 394	1.3 15	0.5 6
名呼捨て	36.0 422	22.7 266	39.3 460	1.5 17	0.5 6
ニックネーム・あだ名	71.4 836	13.6 159	13.5 158	1.0 12	0.5 6
その他	2.1 25	0.0 0	67.7 793	29.6 347	0.5 6

表 5-3-2-d 担任からの呼ばれ方の好悪

	好き	中立	嫌い	無印	全てNR
キミ	2.2 26	14.2 166	82.3 964	1.2 14	0.1 1
アナタ	5.0 58	17.2 201	76.5 896	1.3 15	0.1 1
アンタ	0.8 9	4.6 54	93.3 1092	1.3 15	0.1 1
オマエ	2.0 23	7.5 88	89.2 1044	1.3 15	0.1 1
オメエ	0.5 6	3.0 35	95.0 1112	1.5 17	0.1 1
オタク	0.4 5	4.2 49	93.9 1100	1.4 16	0.1 1
ジブン	0.1 1	5.0 59	93.2 1091	1.6 19	0.1 1
姓+クン	0.4 5	4.4 52	92.8 1087	2.2 26	0.1 1
姓+サン	56.3 659	19.8 232	22.5 264	1.3 15	0.1 1
姓呼捨て	44.1 516	24.5 287	30.1 353	1.2 14	0.1 1
名+クン	0.3 3	3.0 35	95.4 1117	1.3 15	0.1 1
名+サン	9.6 113	16.1 188	72.8 853	1.4 16	0.1 1
名+チャン	8.7 102	13.7 160	75.9 889	1.6 19	0.1 1
名呼捨て	12.0 140	13.4 157	72.2 846	2.3 27	0.1 1
ニックネーム・あだ名	15.3 179	20.2 236	63.4 742	1.1 13	0.1 1
その他	1.5 18	0.0 0	73.8 864	24.6 288	0.1 1

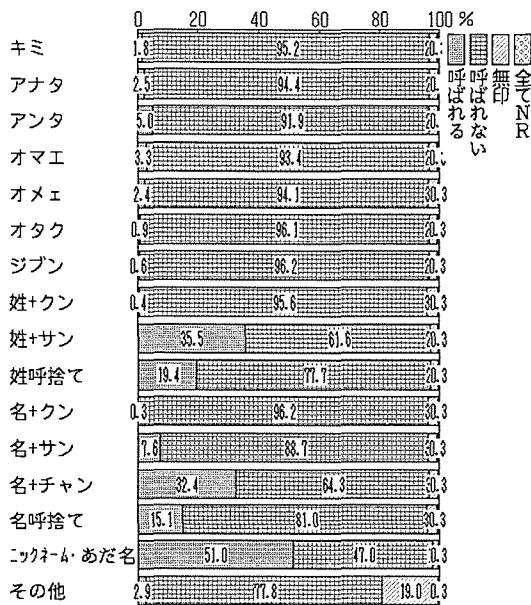


図 5-3-2-a 同性同級からの呼ばれ方の実際

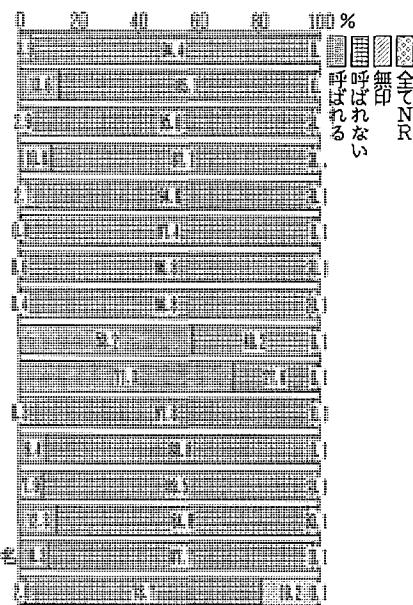


図 5-3-2-c 担任からの呼ばれ方の実際

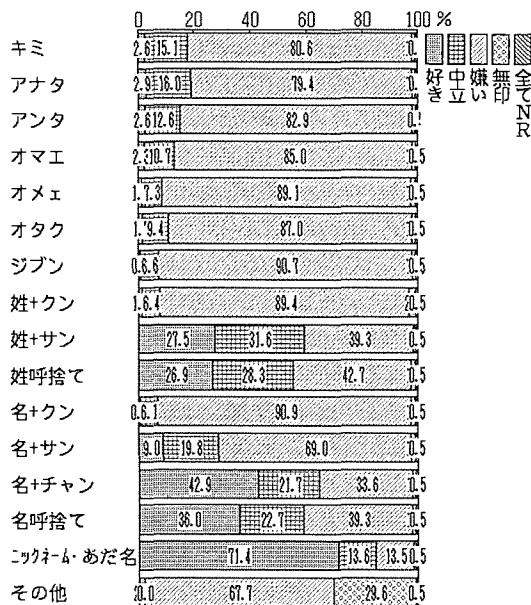


図 5-3-2-b 同性同級からの呼ばれ方の好悪

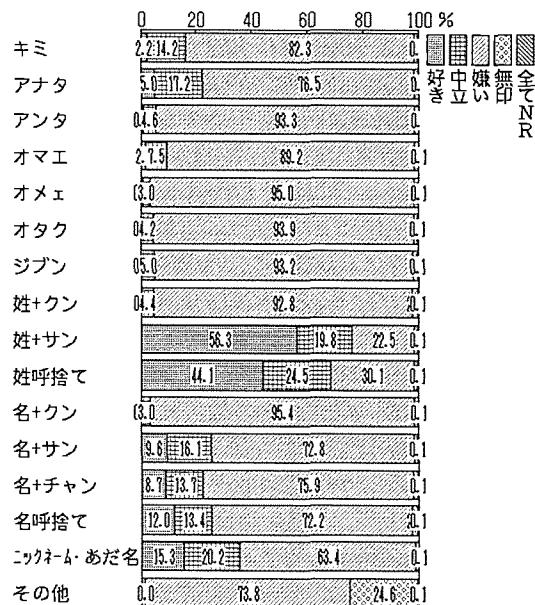


図 5-3-2-d 担任からの呼ばれ方の好悪

表5-3-3 対称詞(2)一相手からの呼ばれ方(東京高校・男子)

表5-3-3-a 同性同級からの呼ばれ方の実際

	呼ばれる	呼ばれぬ	無印	全てNR
キミ	6.1 70	87.0 1007	5.7 66	1.2 14
アナタ	1.3 15	91.6 1060	5.9 68	1.2 14
アンタ	2.6 30	89.9 1040	6.3 73	1.2 14
オマエ	24.9 288	68.1 788	5.8 67	1.2 14
オメエ	11.5 133	80.7 934	6.6 76	1.2 14
オタク	1.5 17	91.2 1055	6.1 71	1.2 14
ジブン	1.0 11	91.5 1059	6.3 73	1.2 14
姓+クン	24.9 288	68.2 789	5.7 66	1.2 14
姓+サン	3.9 45	87.3 1010	7.6 88	1.2 14
姓呼捨て	60.6 701	34.1 394	4.1 48	1.2 14
名+クン	5.8 67	87.1 1008	5.9 68	1.2 14
名+サン	1.5 17	90.9 1052	6.4 74	1.2 14
名+チャン	6.0 69	87.0 1007	5.8 67	1.2 14
名呼捨て	17.3 200	75.0 868	6.5 75	1.2 14
ニックネーム・あだ名	37.2 430	57.0 660	4.6 53	1.2 14
その他	2.9 33	67.1 776	28.9 334	1.2 14

表5-3-3-c 担任からの呼ばれ方の実際

	呼ばれる	呼ばれぬ	無印	全てNR
キミ	18.6 215	76.9 890	3.3 38	1.2 14
アナタ	7.7 89	87.4 1011	3.7 43	1.2 14
アンタ	2.0 23	92.9 1075	3.9 45	1.2 14
オマエ	15.0 173	80.4 930	3.5 40	1.2 14
オメエ	2.2 25	92.3 1068	4.3 50	1.2 14
オタク	1.2 14	93.9 1087	3.6 42	1.2 14
ジブン	1.0 12	93.8 1085	4.0 46	1.2 14
姓+クン	38.7 448	56.9 658	3.2 37	1.2 14
姓+サン	3.0 35	91.4 1058	4.3 50	1.2 14
姓呼捨て	73.5 850	22.6 261	2.8 32	1.2 14
名+クン	5.4 62	89.5 1036	3.9 45	1.2 14
名+サン	0.7 8	93.5 1082	4.6 53	1.2 14
名+チャン	1.2 14	93.5 1082	4.1 47	1.2 14
名呼捨て	8.6 99	84.6 979	5.6 65	1.2 14
ニックネーム・あだ名	4.3 50	90.3 1045	4.1 48	1.2 14
その他	2.0 23	65.9 763	30.9 357	1.2 14

表5-3-3-b 同性同級からの呼ばれ方の好悪

	好き	中立	嫌い	無印	全てNR
キミ	7.1 82	25.3 293	62.9 728	3.9 45	0.8 9
アナタ	4.4 51	17.2 199	73.3 848	4.3 50	0.8 9
アンタ	2.5 29	15.4 178	77.3 894	4.1 47	0.8 9
オマエ	11.3 131	30.9 358	53.1 614	3.9 45	0.8 9
オメエ	6.5 75	22.8 264	65.8 761	4.1 48	0.8 9
オタク	2.5 29	10.4 120	82.6 956	3.7 43	0.8 9
ジブン	2.1 24	13.1 152	79.9 924	4.1 48	0.8 9
姓+クン	32.3 374	28.7 332	34.1 394	4.1 48	0.8 9
姓+サン	9.6 111	20.2 234	64.1 742	5.3 61	0.8 9
姓呼捨て	48.1 557	27.8 322	20.1 233	3.1 36	0.8 9
名+クン	14.6 169	23.2 268	57.0 659	4.5 52	0.8 9
名+サン	5.4 63	17.1 198	72.3 836	4.4 51	0.8 9
名+チャン	8.0 92	16.8 194	70.3 813	4.2 49	0.8 9
名呼捨て	27.1 314	23.2 269	44.9 519	4.0 46	0.8 9
ニックネーム・あだ名	47.4 548	23.9 276	25.0 289	3.0 35	0.8 9
その他	8.6 100	0.0 0	52.5 608	38.0 440	0.8 9

表5-3-3-d 担任からの呼ばれ方の好悪

	好き	中立	嫌い	無印	全てNR
キミ	11.4 132	28.7 332	56.0 648	2.7 31	1.2 14
アナタ	6.3 73	20.2 234	69.4 803	2.9 33	1.2 14
アンタ	1.7 20	9.8 113	84.5 978	2.8 32	1.2 14
オマエ	5.5 64	16.9 195	73.6 851	2.9 33	1.2 14
オメエ	1.7 20	9.6 111	84.4 977	3.0 35	1.2 14
オタク	1.6 19	8.0 92	86.2 997	3.0 35	1.2 14
ジブン	1.2 14	9.9 115	84.0 972	3.6 42	1.2 14
姓+クン	37.7 436	24.1 279	34.3 397	2.7 31	1.2 14
姓+サン	6.6 76	14.8 171	73.4 849	4.1 47	1.2 14
姓呼捨て	51.0 590	26.1 302	19.5 226	2.2 25	1.2 14
名+クン	9.2 107	17.3 200	69.3 802	2.9 34	1.2 14
名+サン	2.8 32	10.8 125	82.4 953	2.9 33	1.2 14
名+チャン	1.9 22	8.7 101	85.0 983	3.2 37	1.2 14
名呼捨て	12.9 149	18.6 215	63.4 733	4.0 46	1.2 14
ニックネーム・あだ名	12.4 143	19.4 225	64.4 745	2.6 30	1.2 14
その他	7.5 87	0.0 0	56.8 657	34.5 399	1.2 14

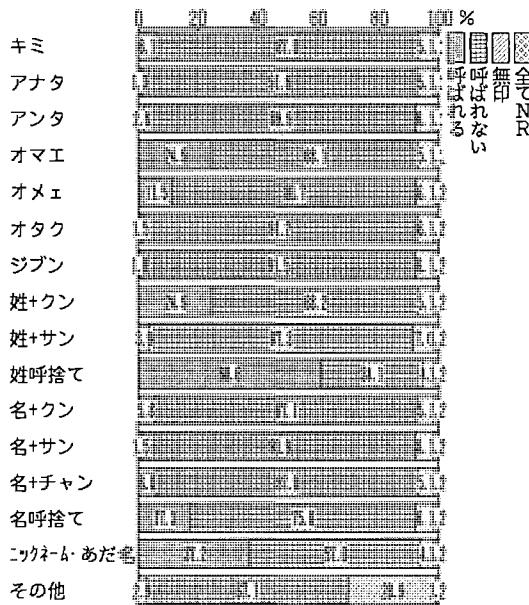


図 5-3-3-a 同性同級からの呼ばれ方の実際

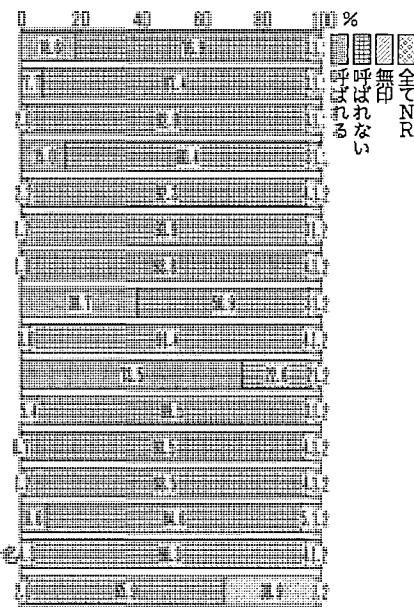


図 5-3-3-c 担任からの呼ばれ方の実際

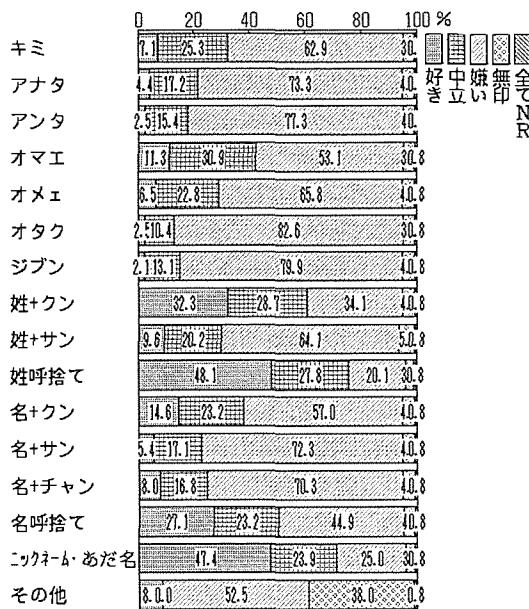


図 5-3-3-b 同性同級からの呼ばれ方の好悪

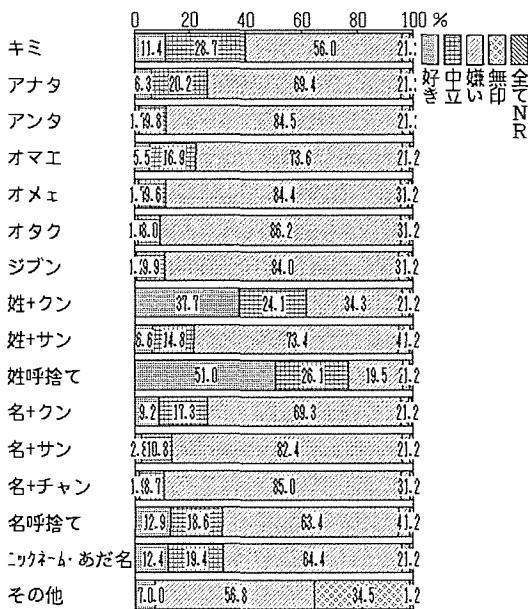


図 5-3-3-d 担任からの呼ばれ方の好悪

表 5-3-4 対称詞(2)一相手からの呼ばれ方(東京高校・女子)

表 5-3-4-a 同性同級からの呼ばれ方の実際

	呼ばれる	呼ばれぬ	無印	全てNR
キミ	1.5 16	94.2 999	3.9 41	0.4 4
アナタ	3.1 33	92.5 981	4.0 42	0.4 4
アンタ	6.0 64	89.9 953	3.7 39	0.4 4
オマエ	2.5 27	93.0 986	4.1 43	0.4 4
オメエ	1.7 18	93.9 995	4.1 43	0.4 4
オタク	0.8 9	95.0 1007	3.8 40	0.4 4
ジブン	0.6 6	95.0 1007	4.1 43	0.4 4
姓+クン	0.4 4	94.6 1003	4.6 49	0.4 4
姓+サン	39.8 422	56.3 597	3.5 37	0.4 4
姓呼捨て	15.9 169	79.7 845	4.0 42	0.4 4
名+クン	0.3 3	95.2 1009	4.2 44	0.4 4
名+サン	7.3 77	87.9 932	4.4 47	0.4 4
名+チャン	32.1 340	64.8 687	2.7 29	0.4 4
名呼捨て	15.5 164	79.7 845	4.4 47	0.4 4
ニックネーム・あだ名	39.2 415	58.0 615	2.5 26	0.4 4
その他	2.5 26	68.6 727	28.6 303	0.4 4

表 5-3-4-c 担任からの呼ばれ方の実際

	呼ばれる	呼ばれぬ	無印	全てNR
キミ	12.5 132	85.1 902	1.8 19	0.7 7
アナタ	15.6 165	81.8 867	2.0 21	0.7 7
アンタ	1.7 18	95.7 1014	2.0 21	0.7 7
オマエ	9.0 95	88.5 938	1.9 20	0.7 7
オメエ	0.3 3	96.8 1026	2.3 24	0.7 7
オタク	0.7 7	96.5 1023	2.2 23	0.7 7
ジブン	0.7 7	96.1 1019	2.5 27	0.7 7
姓+クン	3.1 33	93.2 988	3.0 32	0.7 7
姓+サン	60.8 644	37.5 398	1.0 11	0.7 7
姓呼捨て	58.6 621	39.6 420	1.1 12	0.7 7
名+クン	0.0 0	97.4 1032	2.0 21	0.7 7
名+サン	6.6 70	90.8 962	2.0 21	0.7 7
名+チャン	2.5 27	94.3 1000	2.5 26	0.7 7
名呼捨て	4.3 46	91.6 971	3.4 36	0.7 7
ニックネーム・あだ名	3.0 32	94.3 1000	2.0 21	0.7 7
その他	0.9 10	69.0 731	29.4 312	0.7 7

表 5-3-4-b 同性同級からの呼ばれ方の好悪

	好き	中立	嫌い	無印	全てNR
キミ	2.5 27	15.6 165	80.2 850	1.1 12	0.6 6
アナタ	5.1 54	20.1 213	73.0 774	1.2 13	0.6 6
アンタ	4.2 45	17.1 181	77.1 817	1.0 11	0.6 6
オマエ	3.0 32	13.2 140	82.1 870	1.1 12	0.6 6
オメエ	1.2 13	9.8 104	86.9 921	1.5 16	0.6 6
オタク	1.2 13	5.8 61	91.2 967	1.2 13	0.6 6
ジブン	1.1 12	4.6 49	92.3 978	1.4 15	0.6 6
姓+クン	1.2 13	6.3 67	90.2 956	1.7 18	0.6 6
姓+サン	27.3 289	37.0 392	33.7 357	1.5 16	0.6 6
姓呼捨て	28.6 303	30.6 324	38.7 410	1.6 17	0.6 6
名+クン	1.0 11	5.4 57	91.7 972	1.3 14	0.6 6
名+サン	13.8 146	23.3 247	61.1 648	1.2 13	0.6 6
名+チャン	55.1 584	19.2 204	24.2 256	0.9 10	0.6 6
名呼捨て	49.2 521	21.1 224	28.1 298	1.0 11	0.6 6
ニックネーム・あだ名	67.9 720	14.4 153	15.8 167	1.3 14	0.6 6
その他	4.8 51	0.0 0	52.5 556	42.2 447	0.6 6

表 5-3-4-d 担任からの呼ばれ方の好悪

	好き	中立	嫌い	無印	全てNR
キミ	5.8 62	22.5 238	69.9 741	1.0 11	0.8 8
アナタ	9.1 96	24.4 259	64.6 685	1.1 12	0.8 8
アンタ	0.8 8	5.4 57	91.8 973	1.3 14	0.8 8
オマエ	2.5 27	7.8 83	87.7 930	1.1 12	0.8 8
オメエ	0.4 4	3.4 36	94.1 997	1.4 15	0.8 8
オタク	0.6 6	3.0 32	94.6 1003	1.0 11	0.8 8
ジブン	0.5 5	3.8 40	93.6 992	1.4 15	0.8 8
姓+クン	2.1 22	8.7 92	86.1 913	2.4 25	0.8 8
姓+サン	63.8 676	19.4 206	14.7 156	1.3 14	0.8 8
姓呼捨て	43.9 465	26.0 276	28.5 302	0.8 9	0.8 8
名+クン	0.3 3	3.5 37	94.0 996	1.5 16	0.8 8
名+サン	8.9 94	14.2 150	74.5 790	1.7 18	0.8 8
名+チャン	6.3 67	11.2 119	80.4 852	1.3 14	0.8 8
名呼捨て	8.2 87	12.5 133	77.1 817	1.4 15	0.8 8
ニックネーム・あだ名	12.4 131	16.9 179	68.7 728	1.3 14	0.8 8
その他	2.1 22	0.0 0	62.5 662	34.7 368	0.8 8



図 5-3-4-a 同性同級からの呼ばれ方の実際

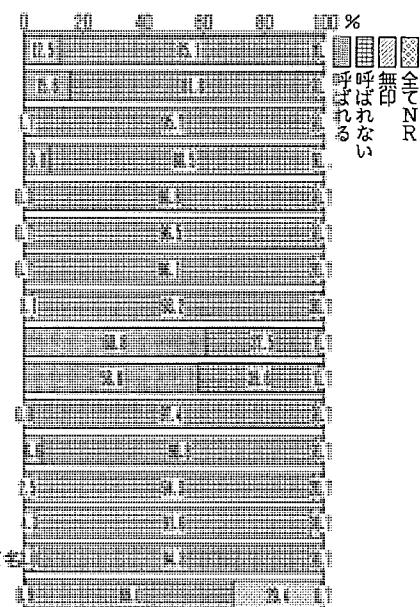


図 5-3-4-c 担任からの呼ばれ方の実際

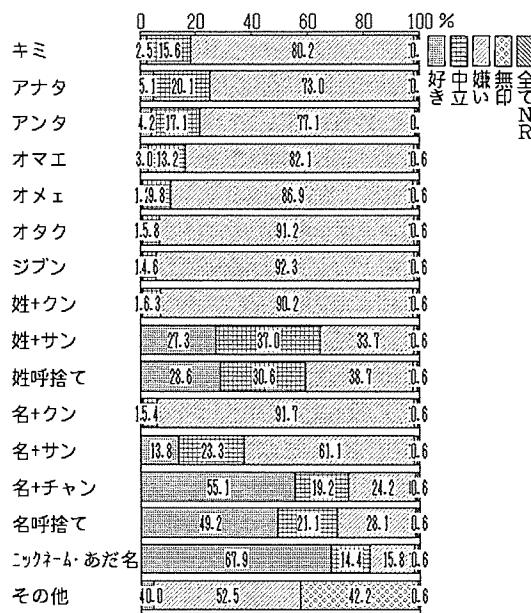


図 5-3-4-b 同性同級からの呼ばれ方の好悪

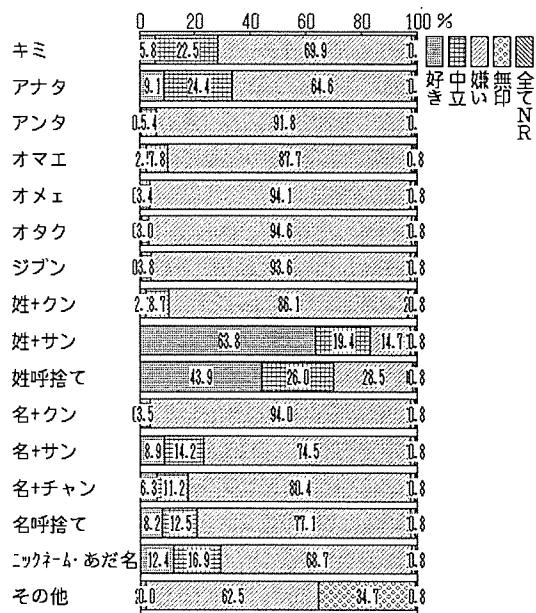


図 5-3-4-d 担任からの呼ばれ方的好悪

表 5-3-5 対称詞(2)ー相手からの呼ばれ方(東京中学・男子)

表 5-3-5-a 同性同級から実際呼ばれてどうか

	好き	中立	嫌い	無印	全てNR
ニックネーム・あだ名 (811)	76.08	12.82	10.23	0.62	0.25
	617	104	83	5	2
名+クン (127)	61.42	16.54	20.47	1.57	0.00
	78	21	26	2	0
姓+クン (174)	55.17	28.74	13.79	2.30	0.00
	96	50	24	4	0
名+サン (81)	53.09	12.35	32.10	2.47	0.00
	43	10	26	2	0
姓呼捨て (524)	51.91	27.86	19.27	0.95	0.00
	272	146	101	5	0
名呼捨て (310)	48.71	25.48	24.52	1.29	0.00
	151	79	76	4	0
姓+サン (23)	43.48	8.70	30.43	17.39	0.00
	10	2	7	4	0
キミ (60)	40.00	23.33	35.00	1.67	0.00
	24	14	21	1	0
名+サン (22)	36.36	9.09	54.55	0.00	0.00
	8	2	12	0	0
オタク (27)	29.63	7.41	62.96	0.00	0.00
	8	2	17	0	0
ジブン (15)	26.67	33.33	40.00	0.00	0.00
	4	5	6	0	0
アンタ (33)	24.24	21.21	54.55	0.00	0.00
	8	7	18	0	0
オマエ (278)	22.66	35.61	39.21	2.52	0.00
	63	99	109	7	0
オメエ (147)	17.69	31.97	48.98	1.36	0.00
	26	47	72	2	0
アナタ (23)	13.04	13.04	73.91	0.00	0.00
	3	3	17	0	0

表 5-3-5-c 担任から実際呼ばれてどうか

	好き	中立	嫌い	無印	全てNR
名+クン (165)	62.42	15.15	21.21	1.21	0.00
	103	25	35	2	0
姓+クン (448)	61.83	21.43	16.29	0.22	0.22
	277	96	73	1	1
ニックネーム・あだ名 (219)	59.36	20.09	19.63	0.91	0.00
	130	44	43	2	0
姓呼捨て (886)	55.98	25.06	17.61	1.13	0.23
	496	222	156	10	2
名呼捨て (308)	52.60	19.81	25.65	1.95	0.00
	162	61	79	6	0
キミ (139)	40.29	29.50	29.50	0.72	0.00
	56	41	41	1	0
姓+サン (15)	40.00	13.33	40.00	6.67	0.00
	6	2	6	1	0
名+チャン (36)	38.89	25.00	36.11	0.00	0.00
	14	9	13	0	0
ジブン (10)	30.00	10.00	60.00	0.00	0.00
	3	1	6	0	0
アナタ (74)	24.32	35.14	39.19	1.35	0.00
	18	26	29	1	0
名+サン (15)	20.00	13.33	60.00	6.67	0.00
	3	2	9	1	0
オタク (16)	18.75	25.00	56.25	0.00	0.00
	3	4	9	0	0
オマエ (210)	17.62	33.33	48.57	0.48	0.00
	37	70	102	1	0
オメエ (56)	14.29	26.79	57.14	1.79	0.00
	8	15	32	1	0
アンタ (40)	10.00	35.00	55.00	0.00	0.00
	4	14	22	0	0

表 5-3-5-b 同性同級からもし呼ばれたらどうか

	好き	中立	嫌い	無印	全てNR
ニックネーム・あだ名 (427)	30.21	21.78	47.07	0.94	0.00
	129	93	201	4	0
姓+クン (1029)	18.08	27.31	53.16	1.36	0.10
	186	281	547	14	1
名+クン (1077)	13.74	20.33	64.53	1.30	0.09
	148	219	695	14	1
姓呼捨て (691)	10.27	25.62	61.22	2.75	0.14
	71	177	423	19	1
名呼捨て (881)	9.42	20.20	67.76	2.50	0.11
	83	178	597	22	1
キミ (1147)	6.02	25.02	67.57	1.31	0.09
	69	287	775	15	1
姓+サン (1174)	4.94	16.27	77.00	1.70	0.09
	58	191	904	20	1
名+チアン (1120)	4.64	14.55	79.64	1.07	0.09
	52	163	892	12	1
名+サン (1172)	3.58	15.19	79.44	1.71	0.09
	42	178	931	20	1
アナタ (1183)	3.21	16.82	78.70	1.18	0.08
	38	199	931	14	1
オマエ (936)	3.10	19.98	76.07	0.75	0.11
	29	187	712	7	1
オタク (1176)	2.72	15.90	80.10	1.19	0.09
	32	187	942	14	1
オメエ (1059)	2.64	15.11	80.36	1.79	0.09
	28	160	851	19	1
ジブン (1185)	1.94	13.16	83.29	1.52	0.08
	23	156	987	18	1
アンタ (1171)	1.54	14.35	82.84	1.20	0.09
	18	168	970	14	1

表 5-3-5-d 担任からもし呼ばれたらどうか

	好き	中立	嫌い	無印	全てNR
姓+クン (787)	15.12	18.81	64.55	1.27	0.25
	119	148	508	10	2
姓呼捨て (361)	10.80	15.51	71.75	1.66	0.28
	39	56	259	6	1
ニックネーム・あだ名 (1005)	9.85	18.61	70.15	1.09	0.30
	99	187	705	11	3
名+クン (1058)	8.03	17.11	73.82	0.76	0.28
	85	181	781	8	3
名呼捨て (890)	6.40	15.73	76.07	1.46	0.34
	57	140	677	13	3
キミ (1092)	4.12	21.43	73.35	0.82	0.27
	45	234	801	9	3
姓+サン (1153)	2.68	12.63	82.61	1.84	0.25
	32	151	988	22	3
名+サン (1198)	2.42	10.85	84.89	1.59	0.25
	29	130	1017	19	3
オタク (1207)	2.32	10.52	86.00	0.91	0.25
	28	127	1038	11	3
アナタ (1153)	2.17	14.83	82.05	0.69	0.26
	25	171	946	8	3
名+チヤン (1180)	2.03	10.25	86.19	1.27	0.25
	24	121	1017	15	3
オメエ (1161)	1.98	8.70	88.03	1.03	0.26
	23	101	1022	12	3
オマエ (1018)	1.87	10.12	86.84	0.88	0.29
	19	103	884	9	3
ジブン (1210)	1.65	11.07	85.62	1.40	0.25
	20	134	1036	17	3
アンタ (1185)	1.01	10.46	87.17	1.10	0.25
	12	124	1033	13	3

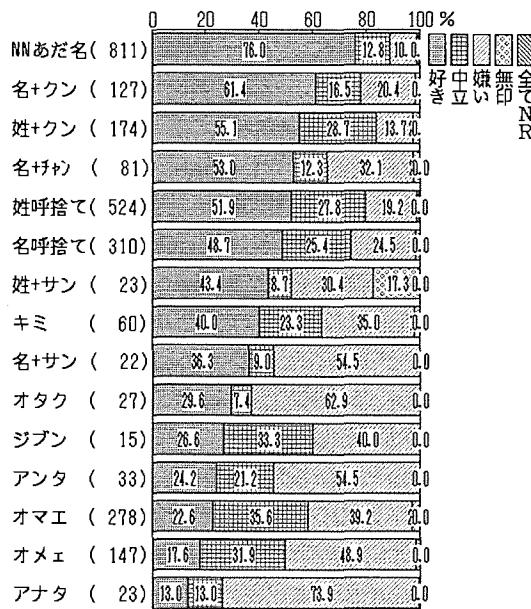


図 5-3-5-a 同性同級から実際呼ばれてどうか

(注) ()内の数値は該当する人数。
「NN あだ名」は「ニックネーム・あだ名」の意味。

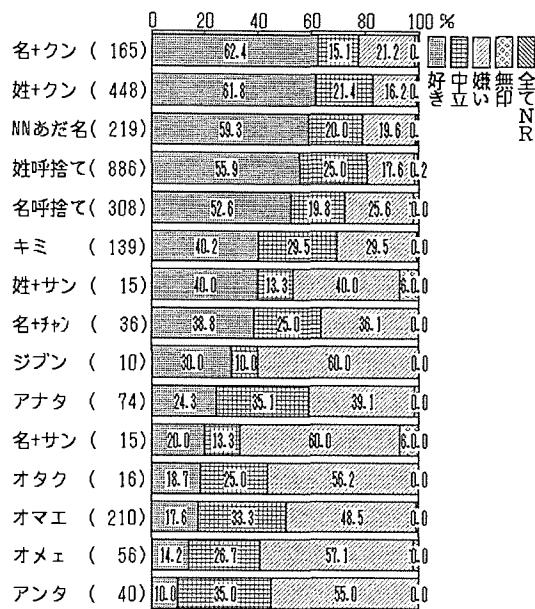


図 5-3-5-c 担任から実際呼ばれてどうか

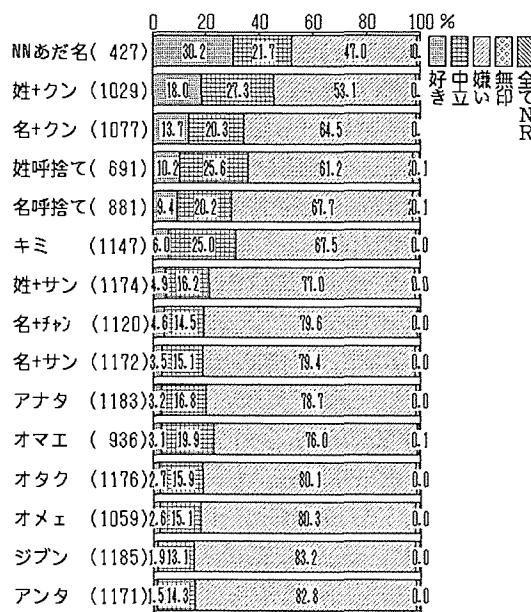


図 5-3-5-b 同性同級からもし呼ばれたらどうか

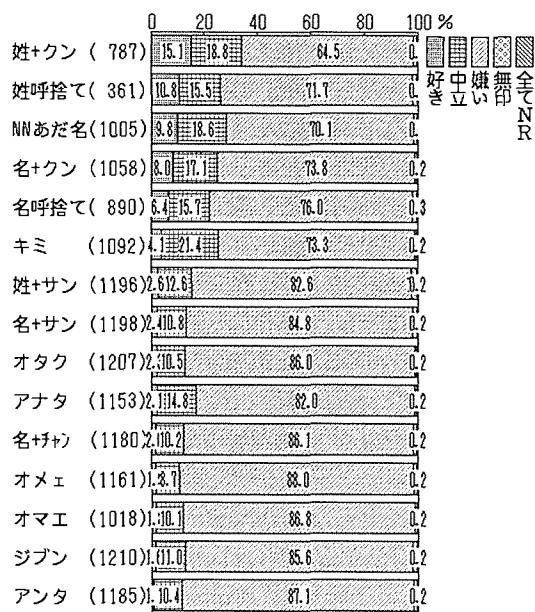


図 5-3-5-d 担任からもし呼ばれたらどうか

表 5-3-6 対称詞(2)ー相手からの呼ばれ方(東京中学・女子)

表 5-3-6-a 同性同級から実際呼ばれてどうか

	好き	中立	嫌い	無印	全てNR
ニックネーム・あだ名 (597)	91.62 547	5.70 34	2.18 13	0.34 2	0.17 1
名+チャン (379)	77.57 294	10.55 40	10.55 40	1.06 4	0.26 1
名呼捨て (177)	76.27 135	9.60 17	12.99 23	0.56 1	0.56 1
姓呼捨て (227)	56.39 128	25.11 57	16.30 37	1.32 3	0.88 2
姓+サン (416)	51.68 215	29.57 123	17.79 74	0.96 4	0.00 0
キミ (21)	42.86 9	23.81 5	33.33 7	0.00 0	0.00 0
ジブン (7)	42.86 3	42.86 3	14.29 1	0.00 0	0.00 0
名+サン (89)	40.45 36	20.22 18	37.08 33	2.25 2	0.00 0
名+クン (3)	33.33 1	0.00 0	66.67 2	0.00 0	0.00 0
オメエ (28)	21.43 6	39.29 11	39.29 11	0.00 0	0.00 0
姓+クン (5)	20.00 1	0.00 0	80.00 4	0.00 0	0.00 0
アンタ (58)	18.97 11	46.55 27	31.03 18	1.72 1	1.72 1
オタク (11)	18.18 2	27.27 3	54.55 6	0.00 0	0.00 0
オマエ (39)	17.95 7	51.28 20	30.77 12	0.00 0	0.00 0
アナタ (29)	13.79 4	37.93 11	44.83 13	0.00 0	3.45 1

表 5-3-6-c 担任から実際呼ばれてどうか

	好き	中立	嫌い	無印	全てNR
姓+サン (681)	77.97 531	14.83 101	6.75 46	0.44 3	0.00 0
ニックネーム・あだ名 (121)	60.33 73	21.49 26	18.18 22	0.00 0	0.00 0
姓呼捨て (835)	57.13 477	24.79 207	17.25 144	0.84 7	0.00 0
名+サン (110)	54.55 60	19.09 21	26.36 29	0.00 0	0.00 0
名+チャン (93)	51.61 48	22.58 21	24.73 23	1.08 1	0.00 0
名呼捨て (144)	49.31 71	23.61 34	25.00 36	2.08 3	0.00 0
アナタ (159)	25.79 41	39.62 63	33.33 53	1.26 2	0.00 0
キミ (46)	21.74 10	30.43 14	47.83 22	0.00 0	0.00 0
オマエ (127)	14.96 19	26.77 34	56.69 72	1.57 2	0.00 0
オメエ (32)	9.38 3	15.63 5	75.00 24	0.00 0	0.00 0
アンタ (34)	8.82 3	26.47 9	61.76 21	2.94 1	0.00 0
オタク (9)	0.00 0	22.22 2	77.78 7	0.00 0	0.00 0
ジブン (7)	0.00 0	57.14 4	42.86 3	0.00 0	0.00 0
姓+クン (5)	0.00 0	20.00 1	80.00 4	0.00 0	0.00 0
名+クン (3)	0.00 0	0.00 0	100.00 3	0.00 0	0.00 0

表 5-3-6-b 同性同級からもし呼ばれたらどうか

	好き	中立	嫌い	無印	全てNR
ニックネーム・あだ名 (550)	51.27 282	22.18 122	25.82 142	0.73 4	0.00 0
名呼捨て (949)	28.87 274	25.29 240	45.10 428	0.74 7	0.00 0
名+チャン (753)	26.29 198	27.36 206	45.82 345	0.53 4	0.00 0
姓呼捨て (910)	19.67 179	28.90 263	50.66 461	0.77 7	0.00 0
姓+サン (721)	14.15 102	32.87 237	52.43 378	0.42 3	0.14 1
名+サン (1039)	6.26 65	19.73 205	73.34 762	0.58 6	0.10 1
アナタ (1105)	2.71 30	15.20 168	81.72 903	0.36 4	0.00 0
キミ (1115)	1.88 21	14.80 165	82.87 924	0.36 4	0.09 1
アンタ (1076)	1.86 20	11.25 121	86.52 931	0.37 4	0.00 0
オマエ (1094)	1.83 20	9.60 105	87.75 960	0.73 8	0.09 1
オタク (1125)	1.60 18	9.42 106	88.36 994	0.53 6	0.09 1
姓+クン (1119)	1.25 14	6.52 73	90.53 1013	1.61 18	0.09 1
オメエ (1102)	1.09 12	6.62 73	91.38 1007	0.82 9	0.09 1
ジブン (1127)	0.71 8	6.39 72	92.37 1041	0.44 5	0.09 1
名+クン (1127)	0.71 8	6.21 70	92.28 1040	0.71 8	0.09 1

表 5-3-6-d 担任からもし呼ばれたらどうか

	好き	中立	嫌い	無印	全てNR
姓+サン (471)	26.11 123	27.39 129	45.44 214	1.06 5	0.00 0
姓呼捨て (323)	12.07 39	23.53 76	64.09 207	0.31 1	0.00 0
ニックネーム・あだ名 (1027)	10.22 105	20.06 206	69.33 712	0.39 4	0.00 0
名呼捨て (984)	6.61 65	11.79 116	80.28 790	1.32 13	0.00 0
名+サン (1048)	5.15 54	12.40 130	81.68 856	0.76 8	0.00 0
名+サン (1040)	5.00 52	15.48 161	78.75 819	0.77 8	0.00 0
アナタ (996)	1.71 17	13.86 138	84.04 837	0.40 4	0.00 0
キミ (1106)	1.45 16	13.65 151	84.63 936	0.27 3	0.00 0
アンタ (1113)	0.54 6	4.04 45	95.06 1058	0.36 4	0.00 0
オタク (1141)	0.44 5	4.12 47	95.00 1084	0.44 5	0.00 0
姓+クン (1133)	0.44 5	4.24 48	94.00 1065	1.32 15	0.00 0
オマエ (1020)	0.39 4	5.20 53	94.02 959	0.39 4	0.00 0
オメエ (1108)	0.27 3	2.71 30	96.48 1069	0.54 6	0.00 0
名+クン (1145)	0.26 3	3.06 35	96.33 1103	0.35 4	0.00 0
ジブン (1133)	0.09 1	4.77 54	94.44 1070	0.71 8	0.00 0

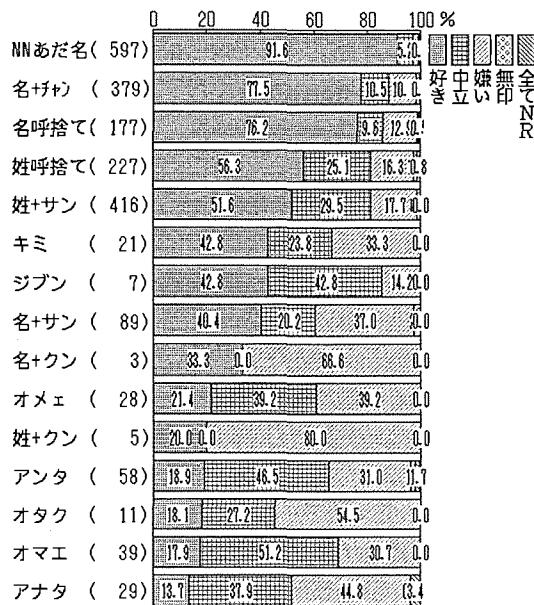


図 5-3-6-a 同性同級から実際呼ばれてどうか

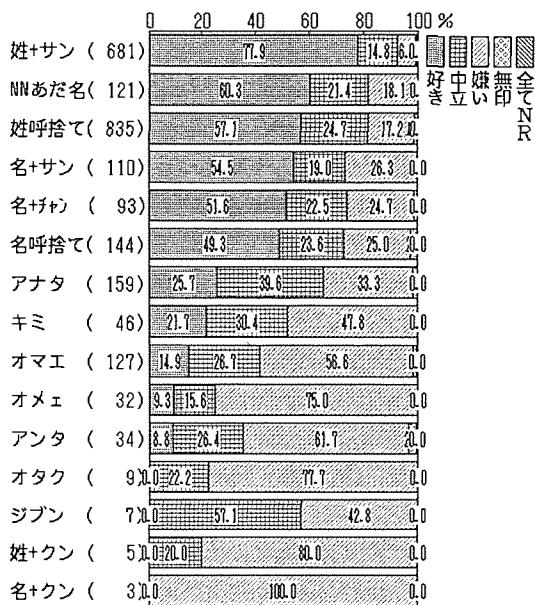


図 5-3-6-c 担任から実際呼ばれてどうか

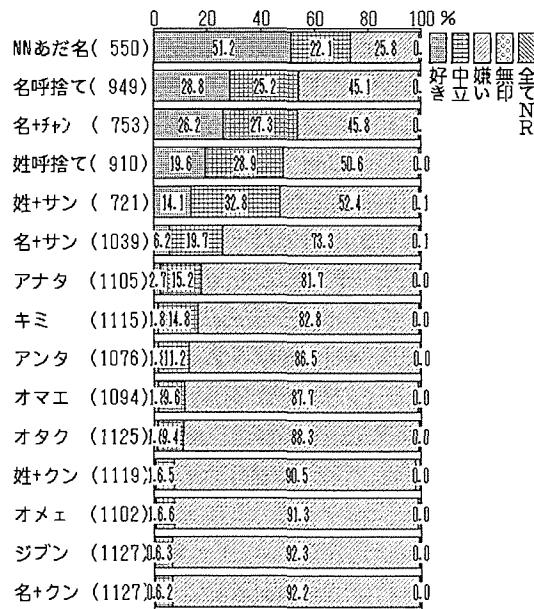


図 5-3-6-b 同性同級からもし呼ばれたらどうか

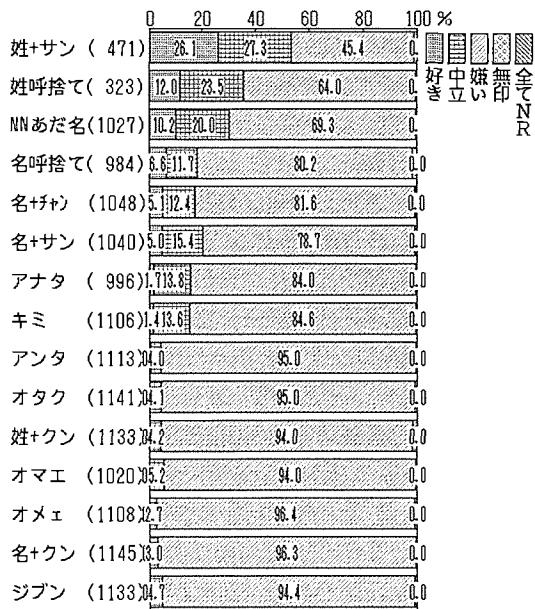


図 5-3-6-d 担任からもし呼ばれたらどうか

表 5-3-7 対称詞(2)ー相手からの呼ばれ方(東京高校・男子)

表 5-3-7-a 同性同級から実際呼ばれてどうか

	好き	中立	嫌い	無印	全NR
ニックネーム・あだ名 (430)	70.70 304	19.30 83	8.60 37	1.16 5	0.23 1
名呼捨て (200)	63.50 127	18.00 36	15.00 30	3.00 6	0.50 1
姓呼捨て (701)	61.34 430	26.39 185	10.84 76	1.14 8	0.29 2
姓+クン (288)	57.99 167	24.31 70	15.97 46	1.74 5	0.00 0
アナタ (15)	46.67 7	26.67 4	26.67 4	0.00 0	0.00 0
名+チヤン (69)	44.93 31	21.74 15	28.99 20	2.90 2	1.45 1
姓+サン (45)	44.44 20	33.33 15	22.22 10	0.00 0	0.00 0
名+サン (17)	41.18 7	11.76 2	41.18 7	0.00 0	5.88 1
ジブン (11)	36.36 4	9.09 1	45.45 5	9.09 1	0.00 0
キミ (70)	34.29 24	28.57 20	31.43 22	5.71 4	0.00 0
名+クン (67)	29.85 20	19.40 13	44.78 30	4.48 3	1.49 1
オタク (17)	29.41 5	29.41 5	35.29 6	5.88 1	0.00 0
オマエ (288)	25.35 73	44.79 129	27.08 78	2.43 7	0.35 1
オメエ (133)	24.06 32	39.85 53	32.33 43	3.01 4	0.75 1
アンタ (30)	10.00 3	33.33 10	46.67 14	6.67 2	3.33 1

表 5-3-7-c 担任から実際呼ばれてどうか

	好き	中立	嫌い	無印	全NR
姓+クン (448)	68.30 306	19.87 89	10.71 48	1.12 5	0.00 0
姓呼捨て (850)	63.29 538	25.41 216	10.35 88	0.71 6	0.24 2
姓+サン (35)	62.86 22	11.43 4	25.71 9	0.00 0	0.00 0
名+クン (62)	58.06 36	11.29 7	29.03 18	0.00 0	1.61 1
名呼捨て (99)	50.51 50	22.22 22	22.22 22	2.02 2	3.03 3
名+サン (8)	50.00 4	25.00 2	25.00 2	0.00 0	0.00 0
ニックネーム・あだ名 (50)	50.00 25	22.00 11	28.00 14	0.00 0	0.00 0
アナタ (89)	37.08 33	35.96 32	24.72 22	2.25 2	0.00 0
名+チヤン (14)	35.71 5	42.86 6	21.43 3	0.00 0	0.00 0
キミ (215)	32.56 70	40.47 87	23.26 50	2.79 6	0.93 2
オマエ (173)	23.12 40	41.62 72	32.95 57	1.73 3	0.58 1
アンタ (23)	21.74 5	30.43 7	43.48 10	4.35 1	0.00 0
オメエ (25)	20.00 5	32.00 8	44.00 11	0.00 0	4.00 1
オタク (14)	14.29 2	14.29 2	57.14 8	14.29 2	0.00 0
ジブン (12)	8.33 1	41.67 5	41.67 5	8.33 1	0.00 0

表 5-3-7-b 同性同級からもし呼ばれたらどうか

	好き	中立	嫌い	無印	全NR
ニックネーム・あだ名 (660)	34.55 228	26.97 178	37.27 246	1.06 7	0.15 1
姓呼捨て (394)	28.68 113	31.73 125	38.07 150	1.52 6	0.00 0
姓+クン (789)	24.21 191	31.43 248	42.59 336	1.52 12	0.25 2
名呼捨て (868)	18.78 163	25.92 225	53.57 465	1.61 14	0.12 1
名+クン (1008)	13.59 137	24.11 243	60.81 613	1.39 14	0.10 1
姓+サン (1010)	8.22 83	20.20 204	69.01 697	2.38 24	0.20 2
オマエ (788)	6.60 52	27.54 217	64.72 510	1.02 8	0.13 1
名+チヤン (1007)	5.66 57	17.08 172	75.87 764	1.29 13	0.10 1
キミ (1007)	5.26 53	25.62 258	67.92 684	0.99 10	0.20 2
名+サン (1052)	4.66 49	17.30 182	76.43 804	1.52 16	0.10 1
オメエ (934)	3.96 37	21.52 201	73.13 683	1.28 12	0.11 1
アナタ (1060)	3.87 41	16.98 180	77.74 824	1.23 13	0.19 2
アンタ (1040)	2.02 21	14.90 155	81.92 852	1.06 11	0.10 1
オタク (1055)	1.80 19	10.33 109	86.64 914	1.04 11	0.19 2
ジブン (1059)	1.42 15	13.03 138	83.95 889	1.42 15	0.19 2

表 5-3-7-d 担任からもし呼ばれたらどうか

	好き	中立	嫌い	無印	全NR
姓+クン (658)	18.39 121	28.12 185	52.13 343	0.91 6	0.46 3
姓呼捨て (261)	16.48 43	31.80 83	50.57 132	0.38 1	0.77 2
ニックネーム・あだ名 (1045)	10.62 111	20.10 210	68.42 715	0.57 6	0.29 3
名呼捨て (979)	9.40 92	19.10 187	69.77 683	1.63 16	0.10 1
名+クン (1036)	6.56 68	18.34 190	74.32 770	0.58 6	0.19 2
キミ (890)	6.29 56	26.85 239	66.29 590	0.45 4	0.11 1
姓+サン (1058)	5.01 53	15.41 163	77.60 821	1.70 18	0.28 3
アナタ (1011)	3.66 37	19.58 198	75.96 768	0.49 5	0.30 3
名+サン (1082)	2.40 26	11.28 122	85.49 925	0.55 6	0.28 3
オマエ (930)	2.37 22	12.80 119	83.98 781	0.54 5	0.32 3
名+チヤン (1082)	1.48 16	8.69 94	88.82 961	0.74 8	0.28 3
オタク (1087)	1.38 15	8.10 88	89.51 973	0.74 8	0.28 3
オメエ (1068)	1.22 13	9.27 99	88.39 944	0.94 10	0.19 2
アンタ (1075)	1.12 12	9.77 105	88.28 949	0.56 6	0.28 3
ジブン (1085)	1.11 12	9.77 106	87.56 950	1.29 14	0.28 3

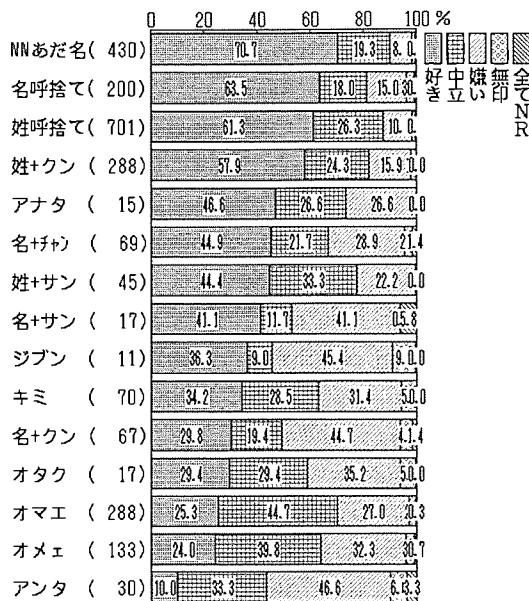


図 5-3-7-a 同性同級から実際呼ばれてどうか

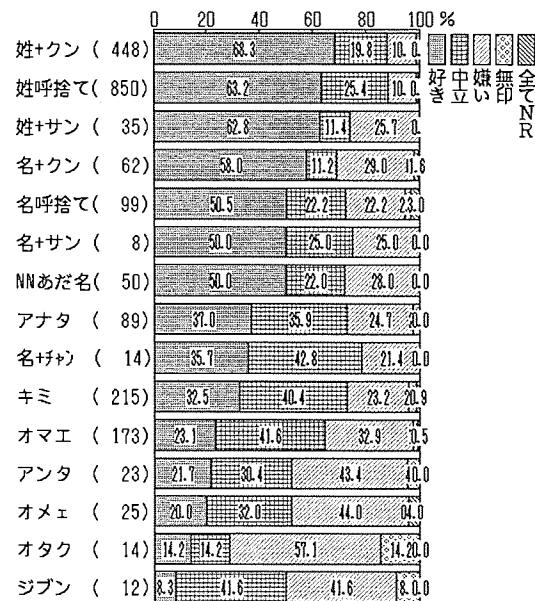


図 5-3-7-c 担任から実際呼ばれてどうか

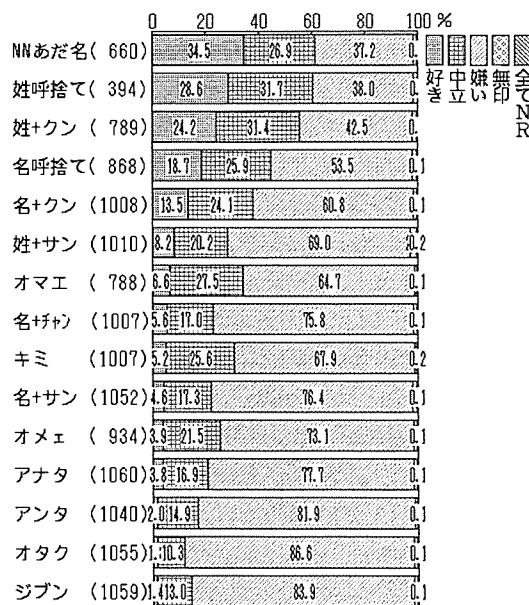


図 5-3-7-b 同性同級からもし呼ばれたらどうか

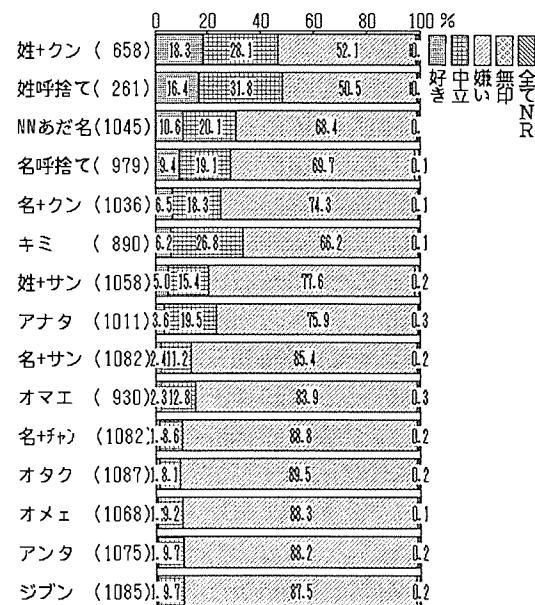


図 5-3-7-d 担任からもし呼ばれたらどうか

表 5-3-8 対称詞(2)ー相手からの呼ばれ方(東京高校・女子)

表 5-3-8-a 同性同級から実際呼ばれてどうか

	好き	中立	嫌い	無印	全CNR
名呼捨て (164)	90.85 149	6.71 11	2.44 4	0.00 0	0.00 0
ニックネーム・あだ名 (415)	90.12 374	5.78 24	2.41 10	1.20 5	0.48 2
名+チャン (340)	87.65 298	7.65 26	3.82 13	0.29 1	0.59 2
姓呼捨て (169)	62.13 105	21.89 37	13.61 23	2.37 4	0.00 0
姓+サン (422)	43.60 184	35.07 148	20.62 87	0.71 3	0.00 0
名+サン (77)	40.26 31	23.38 18	35.06 27	1.30 1	0.00 0
アナタ (33)	39.39 13	36.36 12	24.24 8	0.00 0	0.00 0
キミ (16)	37.50 6	37.50 6	25.00 4	0.00 0	0.00 0
ジブン (6)	33.33 2	33.33 2	33.33 2	0.00 0	0.00 0
名+クン (3)	33.33 1	66.67 2	0.00 0	0.00 0	0.00 0
オマエ (27)	22.22 6	40.74 11	33.33 9	3.70 1	0.00 0
アンタ (64)	20.31 13	46.88 30	31.25 20	1.56 1	0.00 0
オメエ (18)	16.67 3	38.89 7	44.44 8	0.00 0	0.00 0
オタク (9)	11.11 1	55.56 5	22.22 2	11.11 1	0.00 0
姓+クン (4)	0.00 0	25.00 1	75.00 3	0.00 0	0.00 0

表 5-3-8-c 担任から実際呼ばれてどうか

	好き	中立	嫌い	無印	全CNR
姓+サン (644)	82.45 531	13.66 88	3.26 21	0.16 1	0.47 3
ニックネーム・あだ名 (32)	78.12 25	9.38 3	12.50 4	0.00 0	0.00 0
姓呼捨て (621)	63.12 392	21.26 132	14.65 91	0.81 5	0.16 1
名+サン (70)	52.86 37	17.14 12	30.00 21	0.00 0	0.00 0
名+チャン (27)	51.85 14	33.33 9	14.81 4	0.00 0	0.00 0
名呼捨て (46)	34.78 16	28.26 13	34.78 16	2.17 1	0.00 0
アナタ (165)	33.94 56	43.03 71	21.82 36	0.61 1	0.61 1
姓+クン (33)	30.30 10	48.48 16	21.21 7	0.00 0	0.00 0
ジブン (7)	28.57 2	0.00 0	57.14 4	14.29 1	0.00 0
キミ (132)	26.52 35	46.21 61	27.27 36	0.00 0	0.00 0
オマエ (95)	20.00 19	31.58 30	47.37 45	1.05 1	0.00 0
アンタ (18)	11.11 2	27.78 5	61.11 11	0.00 0	0.00 0
オメエ (3)	0.00 0	33.33 1	66.67 2	0.00 0	0.00 0
オタク (7)	0.00 0	14.29 1	85.71 6	0.00 0	0.00 0
名+クン (0)	0.00 0	0.00 0	0.00 0	0.00 0	0.00 0

表 5-3-8-b 同性同級からもし呼ばれたらどうか

	好き	中立	嫌い	無印	全CNR
ニックネーム・あだ名 (615)	53.82 331	20.33 125	25.04 154	0.65 4	0.16 1
名呼捨て (845)	40.95 346	24.02 203	33.96 287	0.71 6	0.36 3
名+チャン (687)	39.59 272	25.33 174	34.06 234	0.73 5	0.29 2
姓呼捨て (845)	22.13 187	32.31 273	44.62 377	0.59 5	0.36 3
姓+サン (597)	15.75 94	39.53 236	43.38 259	0.84 5	0.50 3
名+サン (932)	11.48 107	23.71 221	63.84 595	0.64 6	0.32 3
アナタ (981)	3.98 39	19.67 193	75.64 742	0.41 4	0.31 3
アンタ (953)	3.15 30	14.80 141	81.43 776	0.31 3	0.31 3
オマエ (986)	2.64 26	11.76 116	84.89 837	0.41 4	0.30 3
キミ (999)	1.90 19	15.22 152	82.18 821	0.40 4	0.30 3
姓+クン (1003)	1.20 12	5.88 59	91.63 919	1.00 10	0.30 3
オタク (1007)	1.19 12	5.46 55	92.55 932	0.50 5	0.30 3
オメエ (995)	1.01 10	9.15 91	88.74 883	0.80 8	0.30 3
ジブン (1007)	0.99 10	4.67 47	93.35 940	0.70 7	0.30 3
名+クン (1009)	0.89 9	5.35 54	92.86 937	0.59 6	0.30 3

表 5-3-8-d 担任からもし呼ばれたらどうか

	好き	中立	嫌い	無印	全CNR
姓+サン (398)	35.18 140	29.40 117	33.42 133	2.01 8	0.00 0
姓呼捨て (420)	16.43 69	33.57 141	49.05 206	0.24 1	0.71 3
ニックネーム・あだ名 (1000)	10.10 101	17.30 173	71.70 717	0.60 6	0.30 3
名呼捨て (971)	7.00 68	11.95 116	80.02 777	0.72 7	0.31 3
名+サン (962)	5.41 52	14.24 137	79.00 760	1.04 10	0.31 3
名+チャン (1000)	5.00 50	10.50 105	83.60 836	0.60 6	0.30 3
アナタ (867)	4.27 37	21.11 183	74.05 642	0.35 3	0.23 2
キミ (902)	2.88 26	19.18 173	77.27 697	0.33 3	0.33 3
姓+クン (988)	1.12 12	7.49 74	89.27 882	1.72 17	0.30 3
オマエ (938)	0.85 8	5.54 52	92.86 871	0.43 4	0.32 3
アンタ (1014)	0.59 6	5.03 51	93.49 948	0.59 6	0.30 3
オメエ (1026)	0.39 4	3.41 35	95.22 977	0.68 7	0.29 3
オタク (1023)	0.39 4	3.03 31	95.89 981	0.39 4	0.29 3
ジブン (1019)	0.20 2	3.83 39	95.00 968	0.69 7	0.29 3
名+クン (1032)	0.19 2	3.49 36	95.25 983	0.78 8	0.29 3

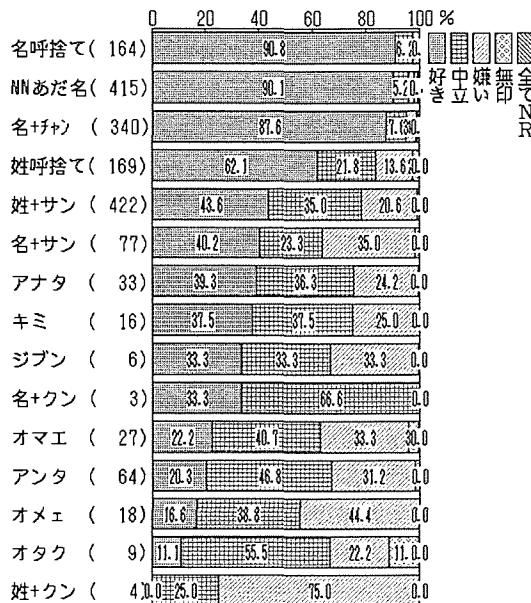


図 5-3-8-a 同性同級から実際呼ばれてどうか

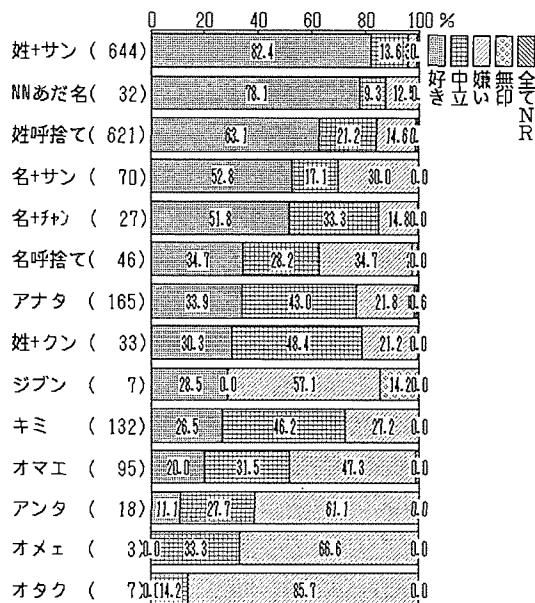


図 5-3-8-c 担任から実際呼ばれてどうか

(注) 「名+クン」で呼ばれるケースはないため
グラフでは省略してある。

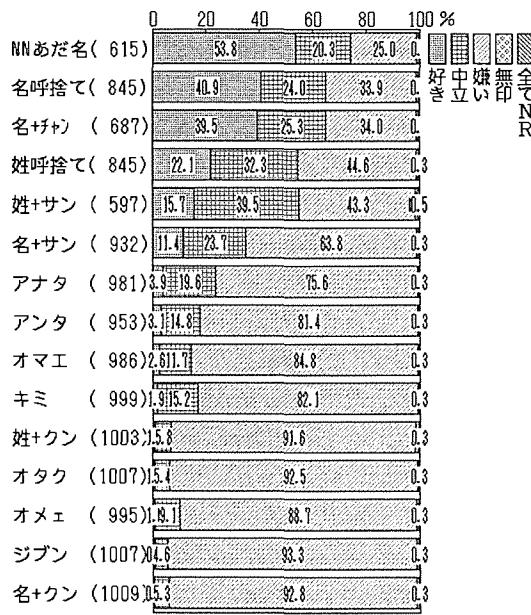


図 5-3-8-b 同性同級からもし呼ばれたらどうか

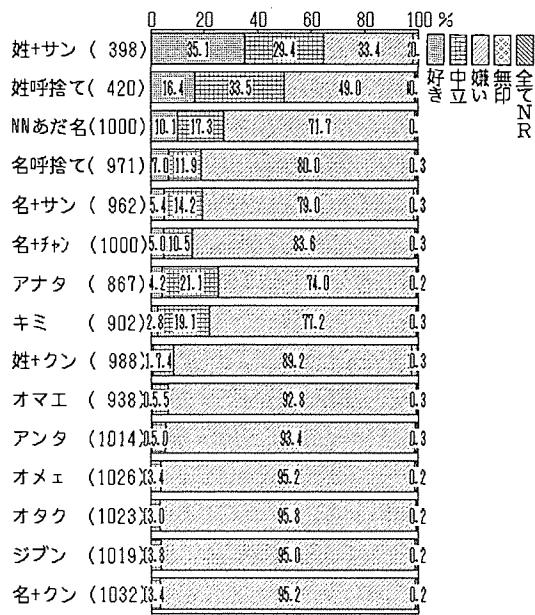


図 5-3-8-d 担任からもし呼ばれたらどうか

表 5-4-1 肯定表現(大阪高校・全体)

表 5-4-1-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
ハイ、ソーデス	2.8 28	88.5 889	8.0 80	0.7 7
ソーデス	5.1 51	85.9 862	8.4 84	0.7 7
ソーヤデ	68.1 684	25.5 256	5.7 57	0.7 7
ソーヤ	87.8 882	9.3 93	2.2 22	0.7 7
ソヤ	26.2 263	64.9 652	8.2 82	0.7 7
セヤ	11.8 118	80.1 804	7.5 75	0.7 7
ホヤ	2.7 27	88.3 887	8.3 83	0.7 7
その他	20.5 206	55.2 554	23.6 237	0.7 7

表 5-4-1-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てNR
ハイ、ソーデス	68.0 683	27.6 277	4.3 43	0.1 1
ソーデス	70.1 704	25.5 256	4.3 43	0.1 1
ソーヤデ	15.3 154	77.6 779	7.0 70	0.1 1
ソーヤ	23.6 237	70.5 708	5.8 58	0.1 1
ソヤ	3.3 33	89.0 894	7.6 76	0.1 1
セヤ	1.4 14	91.2 916	7.3 73	0.1 1
ホヤ	0.6 6	91.3 917	8.0 80	0.1 1
その他	8.3 83	65.1 654	26.5 266	0.1 1

表 5-4-1-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR	男子数/女子数
ハイ、ソーデス	2.2 22	67.6 679	6.3 63	0.7 7	23.2 233
ソーデス	4.9 49	64.5 648	6.7 67	0.7 7	23.2 233
ソーヤデ	47.2 474	23.4 235	5.5 55	0.7 7	23.2 233
ソーヤ	64.0 643	10.3 103	1.8 18	0.7 7	23.2 233
ソヤ	16.2 163	53.7 539	6.2 62	0.7 7	23.2 233
セヤ	6.5 65	63.1 634	6.5 65	0.7 7	23.2 233
ホヤ	1.8 18	67.3 676	7.0 70	0.7 7	23.2 233
その他	13.8 139	43.6 438	18.6 187	0.7 7	23.2 233

表 5-4-1-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てNR
ハイ、ソーデス	81.3 816	15.2 153	2.9 29	0.6 6
ソーデス	66.8 671	27.6 277	5.0 50	0.6 6
ソーヤデ	0.8 8	91.3 917	7.3 73	0.6 6
ソーヤ	1.8 18	90.6 910	7.0 70	0.6 6
ソヤ	0.6 6	91.5 919	7.3 73	0.6 6
セヤ	0.4 4	91.6 920	7.4 74	0.6 6
ホヤ	0.4 4	90.9 913	8.1 81	0.6 6
その他	6.1 61	68.0 683	25.3 254	0.6 6

表 5-4-1-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
ハイ、ソーデス	58.8 590	33.6 337	5.3 53	2.4 24
ソーデス	67.1 674	26.6 267	3.9 39	2.4 24
ソーヤデ	11.3 113	79.1 794	7.3 73	2.4 24
ソーヤ	19.1 192	72.2 725	6.3 63	2.4 24
ソヤ	3.9 39	85.8 861	8.0 80	2.4 24
セヤ	2.1 21	87.9 883	7.6 76	2.4 24
ホヤ	1.0 10	88.8 892	7.8 78	2.4 24
その他	13.2 133	59.5 597	24.9 250	2.4 24

表 5-4-1-f 対来客(男)

	使う	使わない	無印	全てNR
ハイ、ソーデス	82.2 825	14.2 143	3.2 32	0.4 4
ソーデス	68.2 685	27.1 272	4.3 43	0.4 4
ソーヤデ	2.0 20	89.9 903	7.7 77	0.4 4
ソーヤ	2.9 29	89.3 897	7.4 74	0.4 4
ソヤ	1.2 12	90.7 911	7.7 77	0.4 4
セヤ	0.4 4	91.4 918	7.8 78	0.4 4
ホヤ	0.4 4	90.7 911	8.5 85	0.4 4
その他	4.3 43	70.6 709	24.7 248	0.4 4

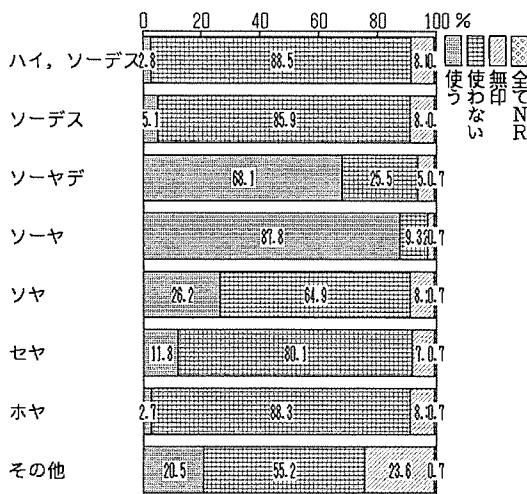


図 5-4-1-a 対同性友人

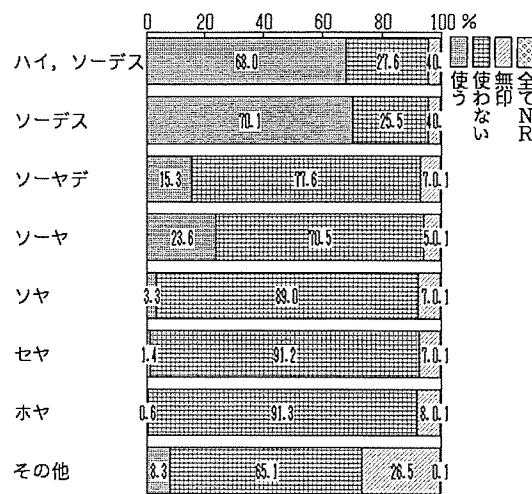


図 5-4-1-d 対担任

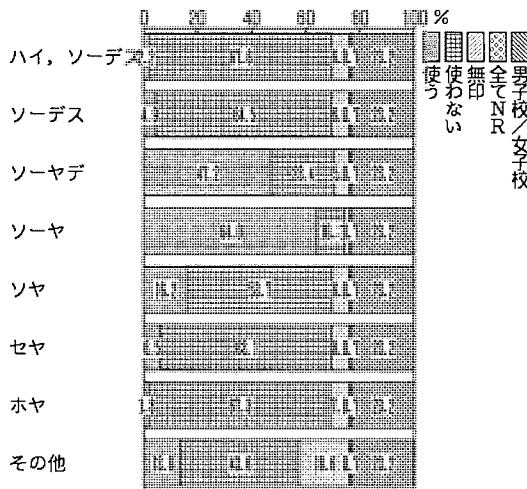


図 5-4-1-b 対異性同級

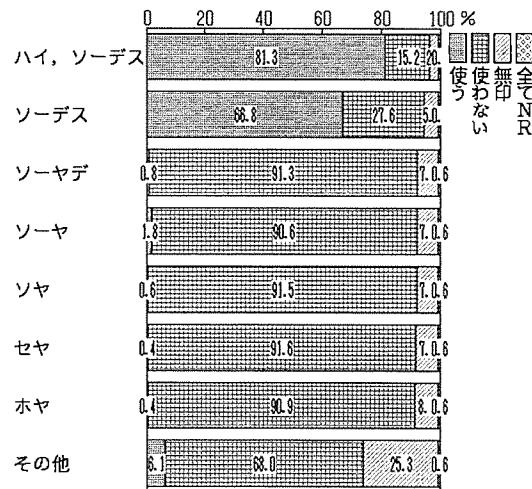


図 5-4-1-e 対校長

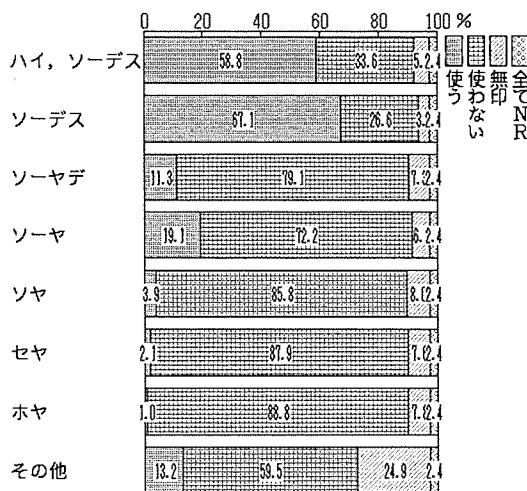


図 5-4-1-c 対同性先輩

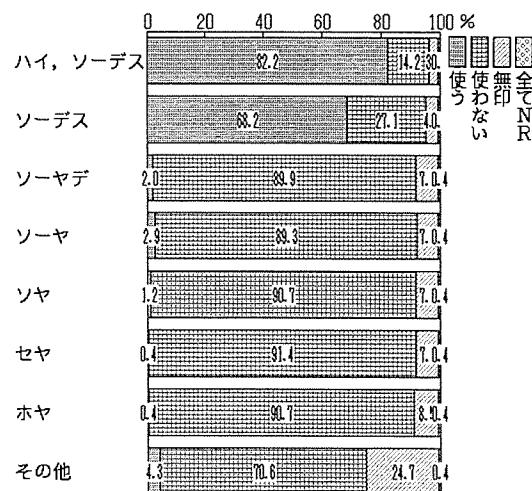


図 5-4-1-f 対来客(男)

表 5-4-2 肯定表現(大阪高校・男子)

表 5-4-2-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
ハイ、ソーデス	3.8 18	86.0 406	9.1 43	1.1 5
ソーデス	4.9 23	84.5 399	9.5 45	1.1 5
ソーヤデ	61.4 290	30.7 145	6.8 32	1.1 5
ソーヤ	87.3 412	8.9 42	2.8 13	1.1 5
ソヤ	35.4 167	54.7 258	8.9 42	1.1 5
セヤ	14.0 66	75.8 358	9.1 43	1.1 5
ホヤ	3.8 18	85.6 404	9.5 45	1.1 5
その他	14.6 69	59.3 280	25.0 118	1.1 5

表 5-4-2-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR	男子校
ハイ、ソーデス	3.8 18	67.4 318	7.8 37	0.8 4	20.1 95
ソーデス	5.9 28	64.8 306	8.3 39	0.8 4	20.1 95
ソーヤデ	46.0 217	26.1 123	7.0 33	0.8 4	20.1 95
ソーヤ	66.7 315	9.5 45	2.8 13	0.8 4	20.1 95
ソヤ	24.2 114	47.5 224	7.4 35	0.8 4	20.1 95
セヤ	9.3 44	61.2 289	8.5 40	0.8 4	20.1 95
ホヤ	3.2 15	66.7 315	9.1 95	0.8 4	20.1 43
その他	11.4 54	47.2 223	20.3 96	0.8 4	20.1 95

表 5-4-2-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
ハイ、ソーデス	54.9 259	36.2 171	6.6 31	2.3 11
ソーデス	62.1 293	30.7 145	4.9 23	2.3 11
ソーヤデ	15.7 74	74.6 352	7.4 35	2.3 11
ソーヤ	25.6 121	65.3 308	6.8 32	2.3 11
ソヤ	7.0 33	81.8 386	8.9 42	2.3 11
セヤ	3.0 14	85.8 405	8.9 42	2.3 11
ホヤ	1.9 9	87.5 413	8.3 39	2.3 11
その他	10.4 49	62.9 297	24.4 115	2.3 11

表 5-4-2-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てNR
ハイ、ソーデス	66.9 316	27.1 128	5.7 27	0.2 1
ソーデス	67.6 319	27.3 129	4.9 23	0.2 1
ソーヤデ	15.5 73	75.8 358	8.5 40	0.2 1
ソーヤ	23.5 111	69.1 326	7.2 34	0.2 1
ソヤ	4.2 20	86.9 410	8.7 41	0.2 1
セヤ	1.9 9	88.8 419	9.1 43	0.2 1
ホヤ	1.1 5	89.6 423	9.1 43	0.2 1
その他	7.2 34	66.1 312	26.5 125	0.2 1

表 5-4-2-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てNR
ハイ、ソーデス	77.8 367	16.9 80	4.4 21	0.8 4
ソーデス	65.3 308	27.8 131	6.1 29	0.8 4
ソーヤデ	1.3 6	89.0 420	8.9 42	0.8 4
ソーヤ	3.0 14	87.7 414	8.5 40	0.8 4
ソヤ	1.3 6	89.0 420	8.9 42	0.8 4
セヤ	0.6 3	89.4 422	9.1 43	0.8 4
ホヤ	0.8 4	88.6 418	9.7 46	0.8 4
その他	6.6 31	67.8 320	24.8 117	0.8 4

表 5-4-2-f 対来客(男)

	使う	使わない	無印	全てNR
ハイ、ソーデス	76.1 359	17.8 84	5.5 26	0.6 3
ソーデス	68.2 322	26.5 125	4.7 22	0.6 3
ソーヤデ	3.4 16	86.7 409	9.3 44	0.6 3
ソーヤ	5.7 27	85.0 401	8.7 41	0.6 3
ソヤ	2.3 11	87.7 414	9.3 44	0.6 3
セヤ	0.8 4	89.0 420	9.5 45	0.6 3
ホヤ	0.8 4	88.6 418	10.0 47	0.6 3
その他	4.0 19	70.8 334	24.6 116	0.6 3

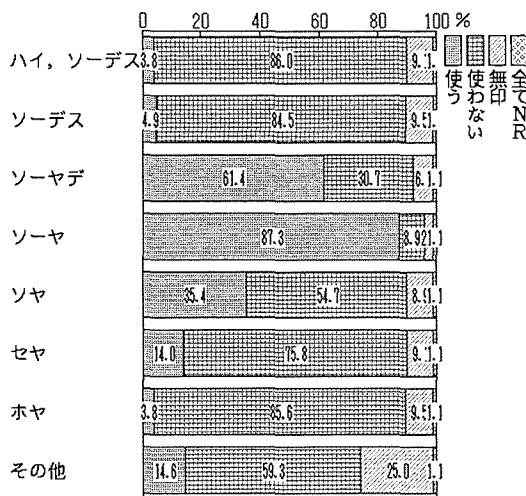


図 5-4-2-a 対同性友人

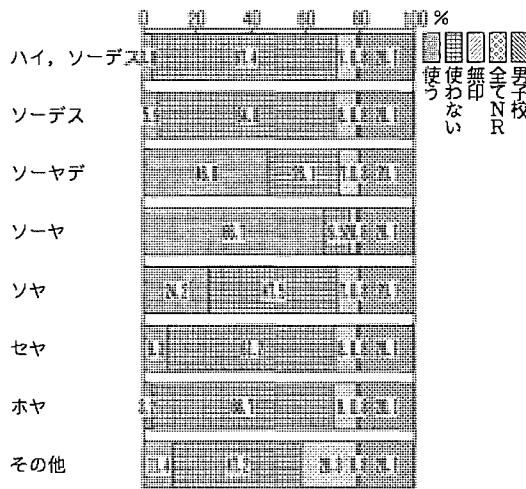


図 5-4-2-b 対異性同級

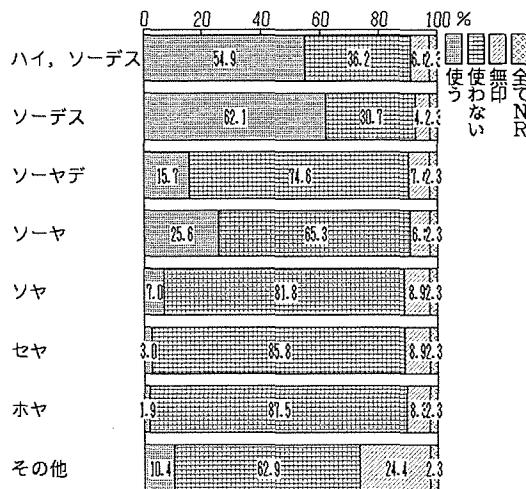


図 5-4-2-c 対同性先輩

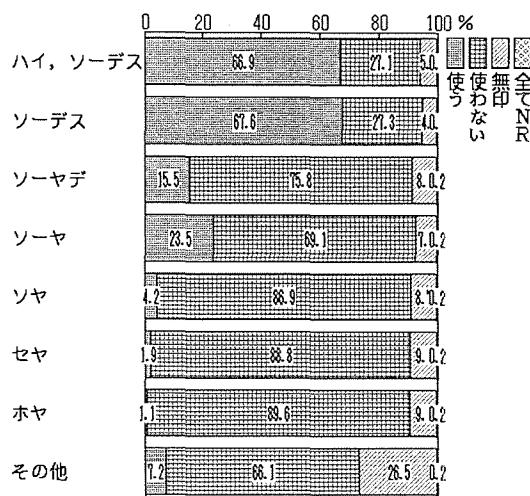


図 5-4-2-d 対担任

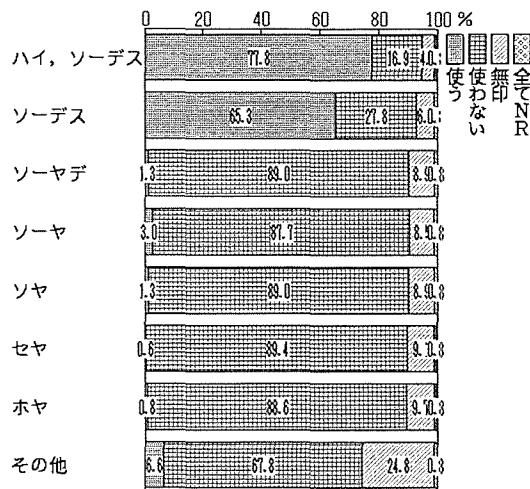


図 5-4-2-e 対校長

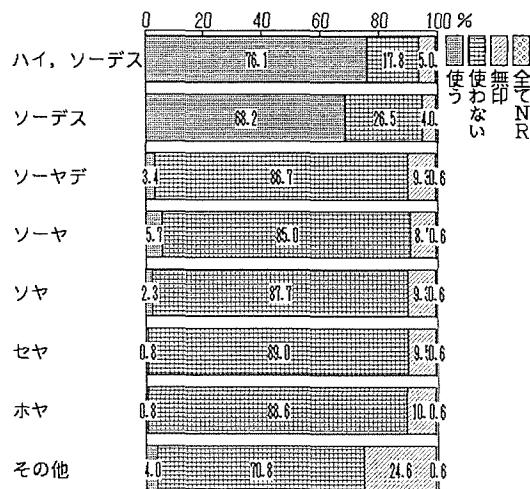


図 5-4-2-f 対来客(男)

表 5-4-3 肯定表現(大阪高校・女子)

表 5-4-3-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ハイ、ソーデス	1.9 10	90.8 481	7.0 37	0.4 2
ソーデス	5.3 28	87.0 461	7.4 39	0.4 2
ソーヤデ	74.0 392	20.9 111	4.7 25	0.4 2
ソーヤ	88.3 468	9.6 51	1.7 9	0.4 2
ソヤ	17.9 95	74.2 393	7.5 40	0.4 2
セヤ	9.6 51	84.0 455	6.0 32	0.4 2
ホヤ	1.5 8	90.9 482	7.2 38	0.4 2
その他	25.8 137	51.5 273	22.3 118	0.4 2

表 5-4-3-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てN.R.	女子校
ハイ、ソーデス	0.8 4	67.7 359	4.9 26	0.6 3	26.0 138
ソーデス	4.0 21	64.2 340	5.3 28	0.6 3	26.0 138
ソーヤデ	48.1 255	21.1 112	4.2 22	0.6 3	26.0 138
ソーヤ	61.5 326	10.9 58	0.9 138	0.6 3	26.0 5
ソヤ	9.1 48	59.2 314	5.1 27	0.6 3	26.0 138
セヤ	3.8 20	64.9 344	4.7 25	0.6 3	26.0 138
ホヤ	0.4 2	67.9 360	5.1 27	0.6 3	26.0 138
その他	16.0 85	40.2 213	17.2 91	0.6 3	26.0 138

表 5-4-3-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ハイ、ソーデス	62.3 330	31.1 165	4.2 22	2.5 13
ソーデス	71.5 379	23.0 122	3.0 16	2.5 13
ソーヤデ	7.2 38	83.2 441	7.2 38	2.5 13
ソーヤ	13.2 70	78.5 416	5.8 31	2.5 13
ソヤ	1.1 6	89.2 473	7.2 38	2.5 13
セヤ	1.3 7	89.8 476	6.4 34	2.5 13
ホヤ	0.2 1	90.0 477	7.4 39	2.5 13
その他	15.8 84	56.2 298	25.5 135	2.5 13

表 5-4-3-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ハイ、ソーデス	69.1 366	27.9 148	3.0 16	0.0 0
ソーデス	72.3 383	24.0 127	3.8 20	0.0 0
ソーヤデ	15.1 80	79.2 420	5.7 30	0.0 0
ソーヤ	23.8 126	71.7 380	4.5 24	0.0 0
ソヤ	2.5 13	90.9 482	6.6 35	0.0 0
セヤ	0.9 5	93.4 495	5.7 30	0.0 0
ホヤ	0.2 1	92.8 492	7.0 37	0.0 0
その他	9.2 49	64.3 341	26.4 140	0.0 0

表 5-4-3-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ハイ、ソーデス	84.5 448	13.6 72	1.5 8	0.4 2
ソーデス	68.1 361	27.5 146	4.0 21	0.4 2
ソーヤデ	0.4 2	93.4 495	5.8 31	0.4 2
ソーヤ	0.8 4	93.2 494	5.7 30	0.4 2
ソヤ	0.0 0	93.8 497	5.8 31	0.4 2
セヤ	0.2 1	93.6 496	5.8 31	0.4 2
ホヤ	0.0 0	93.0 493	6.6 35	0.4 2
その他	5.7 30	68.1 361	25.8 137	0.4 2

表 5-4-3-f 対来客(男)

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ハイ、ソーデス	87.7 465	10.9 58	1.1 6	0.2 1
ソーデス	68.1 361	27.7 147	4.0 21	0.2 1
ソーヤデ	0.8 4	92.8 492	6.2 33	0.2 1
ソーヤ	0.4 2	93.2 494	6.2 33	0.2 1
ソヤ	0.2 1	93.4 495	6.2 33	0.2 1
セヤ	0.0 0	93.6 496	6.2 33	0.2 1
ホヤ	0.0 0	92.6 491	7.2 38	0.2 1
その他	4.5 24	70.4 373	24.9 132	0.2 1

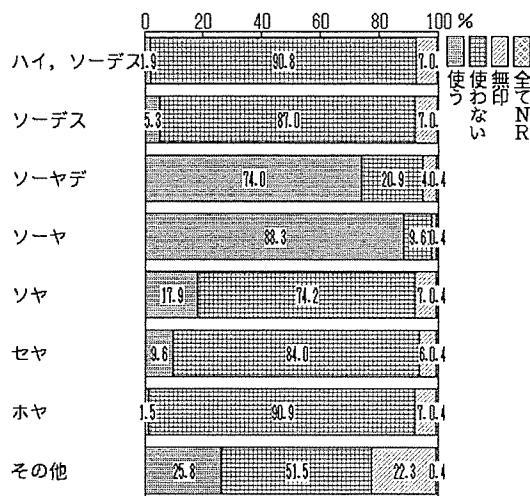


図 5-4-3-a 対同性友人

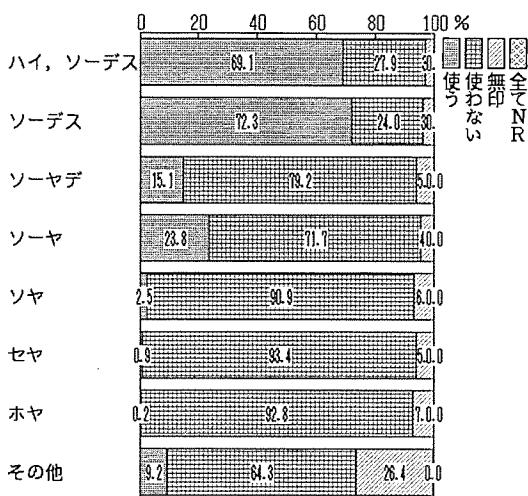


図 5-4-3-d 対担任

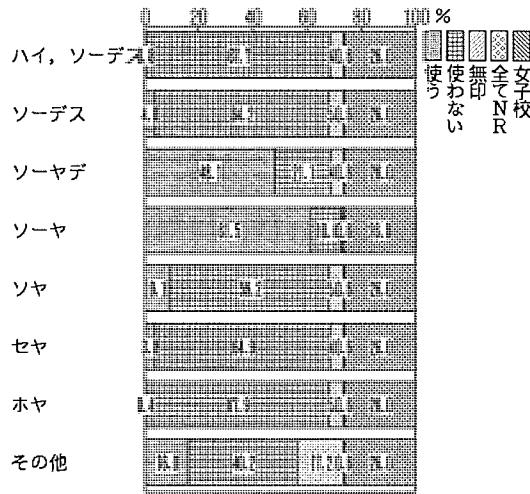


図 5-4-3-b 対異性同級

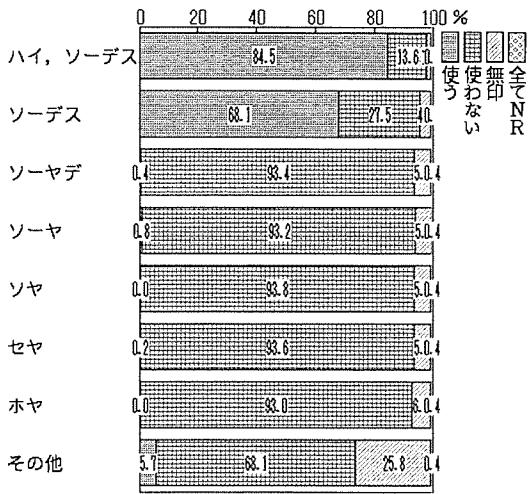


図 5-4-3-e 対校長

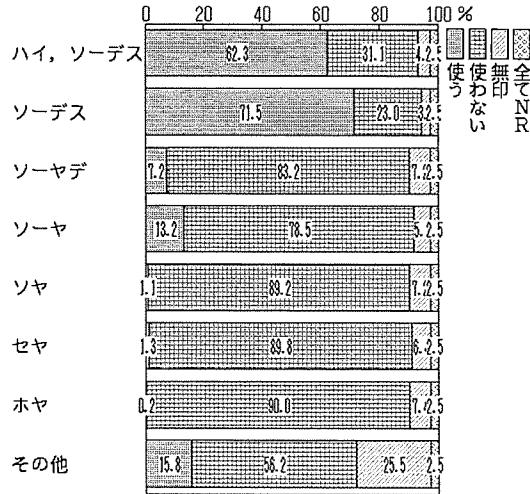


図 5-4-3-c 対同性先輩

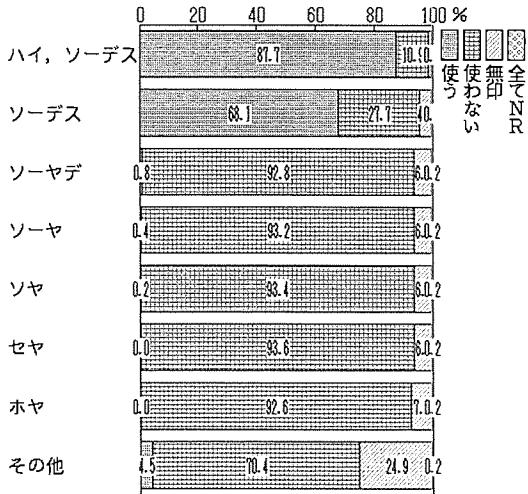


図 5-4-3-f 対来客(男)

表 5-4-4 肯定表現(山形中学・全体)

表 5-4-4-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
ハイ、ソーデス	5.3 18	91.4 310	3.2 11	0.0 0
ソーデス	6.2 21	90.9 308	2.9 10	0.0 0
ウン、ソーダヨ	10.9 37	85.8 291	3.2 11	0.0 0
ソーダヨ	9.7 33	85.8 291	4.4 15	0.0 0
ンダ	76.7 260	22.1 75	1.2 4	0.0 0
ンダドモ	13.9 47	82.6 280	3.5 12	0.0 0
ンダヨー	46.3 157	51.0 173	2.7 9	0.0 0
ンダニャー	59.0 200	38.3 130	2.7 9	0.0 0
ンダノー	68.1 231	29.5 100	2.4 8	0.0 0
ンダッス	2.1 7	94.7 321	3.2 11	0.0 0
その他	10.0 34	71.1 241	18.9 64	0.0 0

表 5-4-4-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR
ハイ、ソーデス	3.2 11	93.5 317	2.9 10	0.3 1
ソーデス	3.2 11	94.1 319	2.4 8	0.3 1
ウン、ソーダヨ	8.3 28	89.1 302	2.4 8	0.3 1
ソーダヨ	9.4 32	88.2 299	2.1 7	0.3 1
ンダ	73.5 249	24.8 84	1.5 5	0.3 1
ンダドモ	10.9 37	86.1 292	2.7 9	0.3 1
ンダヨー	42.8 145	55.2 187	1.8 6	0.3 1
ンダニャー	44.0 149	53.1 180	2.7 9	0.3 1
ンダノー	62.5 212	35.1 119	2.1 7	0.3 1
ンダッス	1.5 5	96.5 327	1.8 6	0.3 1
その他	11.5 39	72.3 245	15.9 54	0.3 1

表 5-4-4-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
ハイ、ソーデス	23.6 80	73.5 249	2.4 8	0.6 2
ソーデス	31.9 108	66.4 225	1.2 4	0.6 2
ウン、ソーダヨ	5.6 19	91.7 311	2.1 7	0.6 2
ソーダヨ	5.0 17	92.0 312	2.4 8	0.6 2
ンダ	53.1 180	45.4 154	0.9 3	0.6 2
ンダドモ	9.4 32	87.9 298	2.1 7	0.6 2
ンダヨー	21.5 73	76.1 258	1.8 6	0.6 2
ンダニャー	29.2 99	66.7 226	3.5 12	0.6 2
ンダノー	36.9 125	60.2 204	2.4 8	0.6 2
ンダッス	0.3 1	97.3 330	1.8 6	0.6 2
その他	9.7 33	73.5 249	16.2 55	0.6 2

表 5-4-4-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てNR
ハイ、ソーデス	50.4 171	46.6 158	1.8 6	1.2 4
ソーデス	62.5 212	35.4 120	0.9 3	1.2 4
ウン、ソーダヨ	5.0 17	91.2 309	2.7 9	1.2 4
ソーダヨ	3.8 13	92.6 314	2.4 8	1.2 4
ンダ	35.7 121	61.7 209	1.5 5	1.2 4
ンダドモ	7.4 25	88.8 301	2.7 9	1.2 4
ンダヨー	16.2 55	80.2 272	2.4 8	1.2 4
ンダニャー	10.9 37	85.5 290	2.4 8	1.2 4
ンダノー	17.4 59	79.1 268	2.4 8	1.2 4
ンダッス	0.3 1	96.2 326	2.4 8	1.2 4
その他	7.4 25	76.1 258	15.3 52	1.2 4

表 5-4-4-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てNR
ハイ、ソーデス	76.4 259	21.8 74	1.5 5	0.3 1
ソーデス	68.1 231	29.8 101	1.8 6	0.3 1
ウン、ソーダヨ	0.9 3	96.2 326	2.7 9	0.3 1
ソーダヨ	1.8 6	95.0 322	2.9 10	0.3 1
ンダ	6.5 22	90.6 307	2.7 9	0.3 1
ンダドモ	2.4 8	94.7 321	2.7 9	0.3 1
ンダヨー	2.4 8	94.4 320	2.9 10	0.3 1
ンダニャー	1.8 6	94.1 319	3.8 13	0.3 1
ンダノー	4.1 14	92.9 315	2.7 9	0.3 1
ンダッス	0.9 3	96.2 326	2.7 9	0.3 1
その他	4.7 16	81.7 277	13.3 45	0.3 1

表 5-4-4-f 対来客(男)

	使う	使わない	無印	全てNR
ハイ、ソーデス	79.1 268	18.9 64	1.2 4	0.9 3
ソーデス	69.3 235	28.9 98	0.9 3	0.9 3
ウン、ソーダヨ	2.4 8	94.7 321	2.1 7	0.9 3
ソーダヨ	2.1 7	95.0 322	2.1 7	0.9 3
ンダ	6.8 23	90.6 307	1.8 6	0.9 3
ンダドモ	2.1 7	95.0 322	2.1 7	0.9 3
ンダヨー	4.1 14	92.9 315	2.1 7	0.9 3
ンダニャー	2.7 9	94.4 320	2.1 7	0.9 3
ンダノー	4.4 15	92.6 314	2.1 7	0.9 3
ンダッス	0.6 2	96.5 327	2.1 7	0.9 3
その他	2.9 10	85.3 289	10.9 37	0.9 3

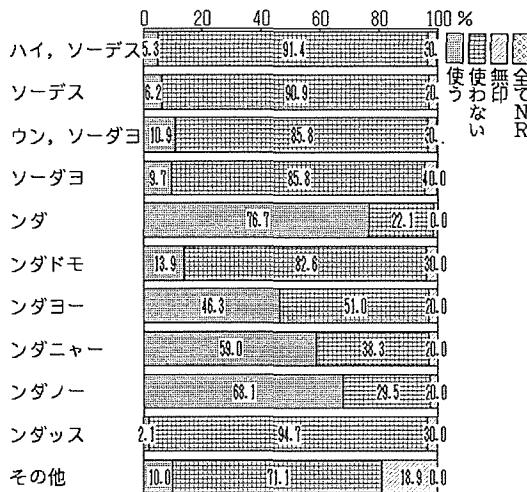


図 5-4-4-a 対同性友人

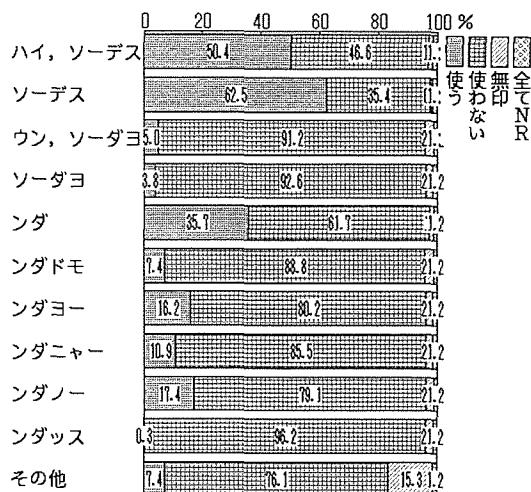


図 5-4-4-d 対担任

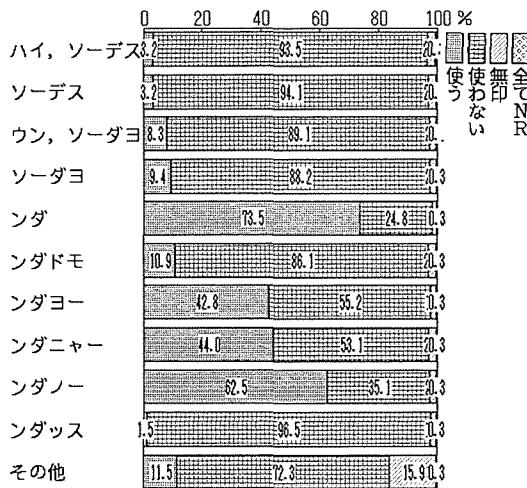


図 5-4-4-b 対異性同級

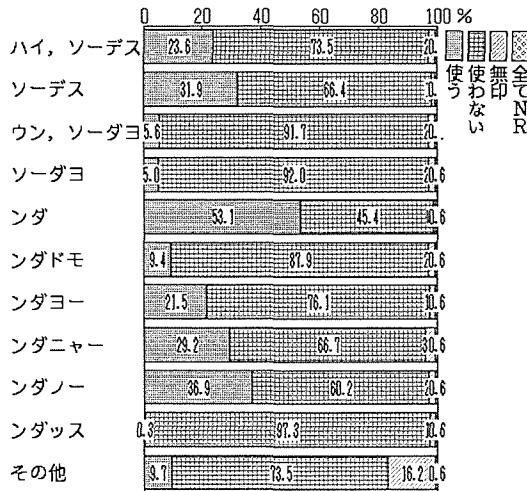


図 5-4-4-c 対同性先輩

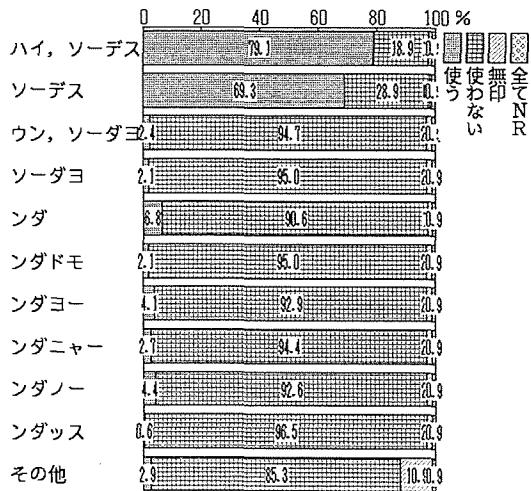


図 5-4-4-f 対来客(男)

表 5-4-5 肯定表現(山形中学・男子)

表 5-4-5-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ハイ、ソーデス	6.8 11	88.2 142	5.0 8	0.0 0
ソーデス	8.1 13	87.6 141	4.3 7	0.0 0
ウン、ソーダヨ	6.8 11	88.2 142	5.0 8	0.0 0
ソーダヨ	7.5 12	86.3 139	6.2 10	0.0 0
ンダ	74.5 120	24.2 39	1.2 2	0.0 0
ンダドモ	15.5 25	78.9 127	5.6 9	0.0 0
ンダヨー	35.4 57	60.2 97	4.3 7	0.0 0
ンダニヤー	68.9 111	28.0 45	3.1 5	0.0 0
ンダノー	49.1 79	46.6 75	4.3 7	0.0 0
ンダッス	4.3 7	90.7 146	5.0 8	0.0 0
その他	8.1 13	70.2 113	21.7 35	0.0 0

表 5-4-5-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ハイ、ソーデス	3.7 6	91.3 147	4.3 7	0.6 1
ソーデス	3.7 6	92.5 149	3.1 5	0.6 1
ウン、ソーダヨ	4.3 7	91.9 148	3.1 5	0.6 1
ソーダヨ	7.5 12	90.1 145	1.9 3	0.6 1
ンダ	75.2 121	22.4 36	1.9 3	0.6 1
ンダドモ	13.0 21	83.2 134	3.1 5	0.6 1
ンダヨー	33.5 54	64.6 104	1.2 2	0.6 1
ンダニヤー	58.4 94	37.9 61	3.1 5	0.6 1
ンダノー	47.2 76	49.1 79	3.1 5	0.6 1
ンダッス	2.5 4	94.4 152	2.5 4	0.6 1
その他	7.5 12	74.5 120	17.4 28	0.6 1

表 5-4-5-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ハイ、ソーデス	5.6 9	90.1 145	3.7 9	0.6 1
ソーデス	7.5 12	90.1 145	1.9 3	0.6 1
ウン、ソーダヨ	5.0 8	91.3 147	3.1 5	0.6 1
ソーダヨ	8.1 13	87.6 141	3.7 6	0.6 1
ンダ	73.9 119	24.2 39	1.2 2	0.6 1
ンダドモ	14.9 24	81.4 131	3.1 5	0.6 1
ンダヨー	31.7 51	65.2 105	2.5 4	0.6 1
ンダニヤー	54.7 88	41.0 66	3.7 6	0.6 1
ンダノー	43.5 70	52.8 85	3.1 5	0.6 1
ンダッス	0.6 1	96.3 155	2.5 4	0.6 1
その他	8.1 13	71.4 115	19.9 32	0.6 1

表 5-4-5-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ハイ、ソーデス	41.0 66	54.7 88	3.1 5	1.2 2
ソーデス	53.4 86	43.5 70	1.9 3	1.2 2
ウン、ソーダヨ	5.0 8	90.1 145	3.7 6	1.2 2
ソーダヨ	4.3 7	90.7 146	3.7 6	1.2 2
ンダ	44.7 72	51.6 83	2.5 4	1.2 2
ンダドモ	10.6 17	84.5 136	3.7 6	1.2 2
ンダヨー	19.9 32	75.2 121	3.7 6	1.2 2
ンダニヤー	18.0 29	77.0 124	3.7 6	1.2 2
ンダノー	17.4 28	77.6 125	3.7 6	1.2 2
ンダッス	0.6 1	95.0 153	3.1 5	1.2 2
その他	5.6 9	75.2 121	18.0 29	1.2 2

表 5-4-5-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ハイ、ソーデス	67.7 109	29.8 48	1.9 3	0.6 1
ソーデス	64.6 104	32.3 52	2.5 4	0.6 1
ウン、ソーダヨ	1.9 3	93.8 151	3.7 6	0.6 1
ソーダヨ	3.1 5	91.9 148	4.3 7	0.6 1
ンダ	13.0 21	82.6 133	3.7 6	0.6 1
ンダドモ	3.7 6	91.9 148	3.7 6	0.6 1
ンダヨー	4.3 7	90.7 146	4.3 7	0.6 1
ンダニヤー	3.1 5	91.3 147	5.0 8	0.6 1
ンダノー	6.8 11	88.8 143	3.7 6	0.6 1
ンダッス	1.2 2	95.0 153	3.1 5	0.6 1
その他	3.7 6	82.0 132	13.7 22	0.6 1

表 5-4-5-f 対来客(男)

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ハイ、ソーデス	70.8 114	26.1 42	1.9 3	1.2 2
ソーデス	62.7 101	34.8 56	1.2 2	1.2 2
ウン、ソーダヨ	4.3 7	91.3 147	3.1 5	1.2 2
ソーダヨ	3.1 5	92.5 149	3.1 5	1.2 2
ンダ	12.4 20	83.9 135	2.5 4	1.2 2
ンダドモ	4.3 7	91.3 147	3.1 5	1.2 2
ンダヨー	8.1 13	87.6 141	3.1 5	1.2 2
ンダニヤー	5.0 8	90.7 146	3.1 5	1.2 2
ンダノー	7.5 12	88.2 142	3.1 5	1.2 2
ンダッス	0.6 1	95.7 154	2.5 4	1.2 2
その他	1.9 3	86.3 139	10.6 17	1.2 2

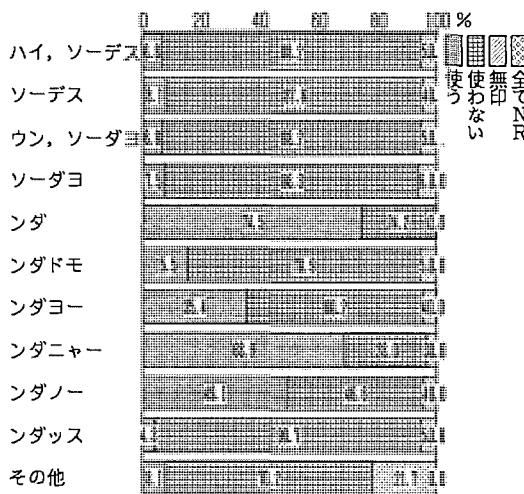


図 5-4-5-a 対同性友人

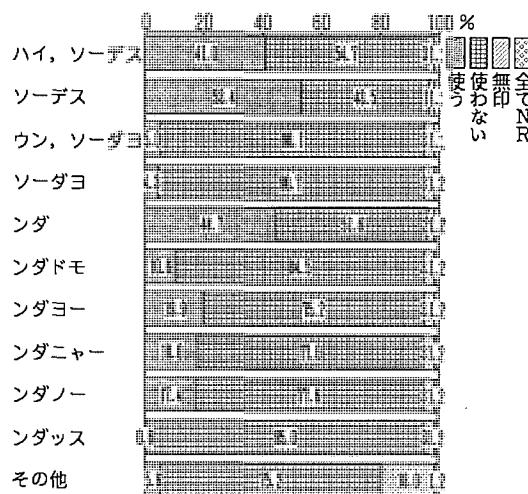


図 5-4-5-d 対担任

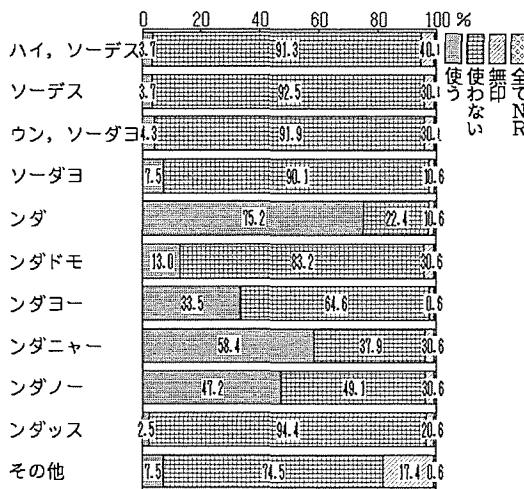


図 5-4-5-b 対異性同級

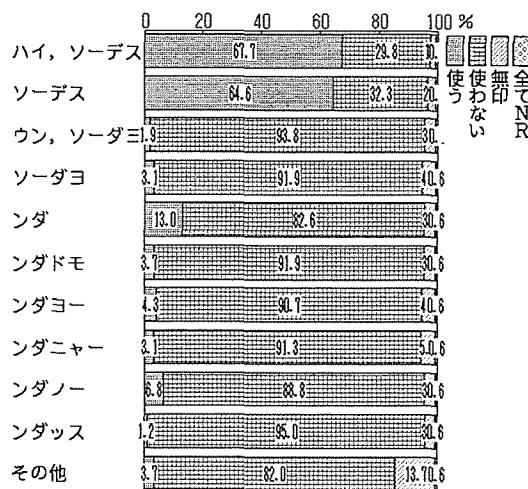


図 5-4-5-e 対校長

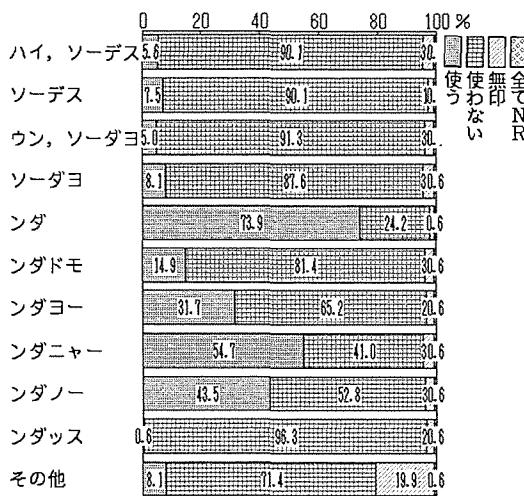


図 5-4-5-c 対同性先輩

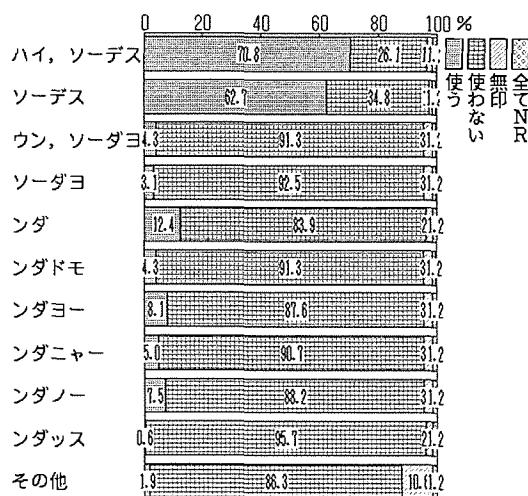


図 5-4-5-f 対来客(男)

表 5-4-6 肯定表現(山形中学・女子)

表 5-4-6-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ハイ、ソーデス	3.9 7	94.4 168	1.7 3	0.0 0
ソーデス	4.5 8	93.8 167	1.7 3	0.0 0
ウン、ソーダヨ	14.6 26	83.7 149	1.7 3	0.0 0
ソーダヨ	11.8 21	85.4 152	2.8 5	0.0 0
ンダ	78.7 140	20.2 36	1.1 2	0.0 0
ンダドモ	12.4 22	86.0 153	1.7 3	0.0 0
ンダヨー	56.2 100	42.7 76	1.1 2	0.0 0
ンダニャー	50.0 89	47.8 85	2.2 4	0.0 0
ンダノー	85.4 152	14.0 25	0.6 1	0.0 0
ンダッス	0.0 0	98.3 175	1.7 3	0.0 0
その他	11.8 21	71.9 128	16.3 29	0.0 0

表 5-4-6-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ハイ、ソーデス	2.8 5	95.5 170	1.7 3	0.0 0
ソーデス	2.8 5	95.5 170	1.7 3	0.0 0
ウン、ソーダヨ	11.8 21	86.5 154	1.7 3	0.0 0
ソーダヨ	11.2 20	86.5 154	2.2 4	0.0 0
ンダ	71.9 128	27.0 48	1.1 2	0.0 0
ンダドモ	9.0 16	88.8 158	2.2 4	0.0 0
ンダヨー	51.1 91	46.6 83	2.2 4	0.0 0
ンダニャー	30.9 55	66.9 119	2.2 4	0.0 0
ンダノー	76.4 136	22.5 40	1.1 2	0.0 0
ンダッス	0.6 1	98.3 175	1.1 2	0.0 0
その他	15.2 27	70.2 125	14.6 26	0.0 0

表 5-4-6-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ハイ、ソーデス	39.9 71	58.4 104	1.1 2	0.6 1
ソーデス	53.9 96	44.9 80	0.6 1	0.6 1
ウン、ソーダヨ	6.2 11	92.1 164	1.1 2	0.6 1
ソーダヨ	2.2 4	96.1 171	1.1 2	0.6 1
ンダ	34.3 61	64.6 115	0.6 1	0.6 1
ンダドモ	4.5 8	93.8 167	1.1 2	0.6 1
ンダヨー	12.4 22	86.0 153	1.1 2	0.6 1
ンダニャー	6.2 11	89.9 160	3.4 6	0.6 1
ンダノー	30.9 55	66.9 119	1.7 3	0.6 1
ンダッス	0.0 0	98.3 175	1.1 2	0.6 1
その他	11.2 20	75.3 134	12.9 23	0.6 1

表 5-4-6-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ハイ、ソーデス	59.0 105	39.3 70	0.6 1	1.1 2
ソーデス	70.8 126	28.1 50	0.0 0	1.1 2
ウン、ソーダヨ	5.1 9	92.1 164	1.7 3	1.1 2
ソーダヨ	3.4 6	94.4 168	1.1 2	1.1 2
ンダ	27.5 49	70.8 126	0.6 1	1.1 2
ンダドモ	4.5 8	92.7 165	1.7 3	1.1 2
ンダヨー	12.9 23	84.8 151	1.1 2	1.1 2
ンダニャー	4.5 8	93.3 166	1.1 2	1.1 2
ンダノー	17.4 31	80.3 143	1.1 2	1.1 2
ンダッス	0.0 0	97.2 173	1.7 3	1.1 2
その他	9.0 16	77.0 137	12.9 23	1.1 2

表 5-4-6-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ハイ、ソーデス	84.3 150	14.6 26	1.1 2	0.0 0
ソーデス	71.3 127	27.5 49	1.1 2	0.0 0
ウン、ソーダヨ	0.0 0	98.3 175	1.7 3	0.0 0
ソーダヨ	0.6 1	97.8 174	1.7 3	0.0 0
ンダ	0.6 1	97.8 174	1.7 3	0.0 0
ンダドモ	1.1 2	97.2 173	1.7 3	0.0 0
ンダヨー	0.6 1	97.8 174	1.7 3	0.0 0
ンダニャー	0.6 1	96.6 172	2.8 5	0.0 0
ンダノー	1.7 3	96.6 172	1.7 3	0.0 0
ンダッス	0.6 1	97.2 173	2.2 4	0.0 0
その他	5.6 10	81.5 145	12.9 23	0.0 0

表 5-4-6-f 対来客(男)

	使う	使わない	無印	全てN.R.
ハイ、ソーデス	86.5 154	12.4 22	0.6 1	0.6 1
ソーデス	75.3 134	23.6 42	0.6 1	0.6 1
ウン、ソーダヨ	0.6 1	97.8 174	1.1 2	0.6 1
ソーダヨ	1.1 2	97.2 173	1.1 2	0.6 1
ンダ	1.7 3	96.6 172	1.1 2	0.6 1
ンダドモ	0.0 0	98.3 175	1.1 2	1.1 1
ンダヨー	0.6 1	97.8 174	1.1 2	0.6 1
ンダニャー	0.6 1	97.8 174	1.1 2	0.6 1
ンダノー	1.7 3	96.6 172	1.1 2	0.6 1
ンダッス	0.6 1	97.2 173	1.7 3	0.6 1
その他	3.9 7	84.3 150	11.2 20	0.6 1

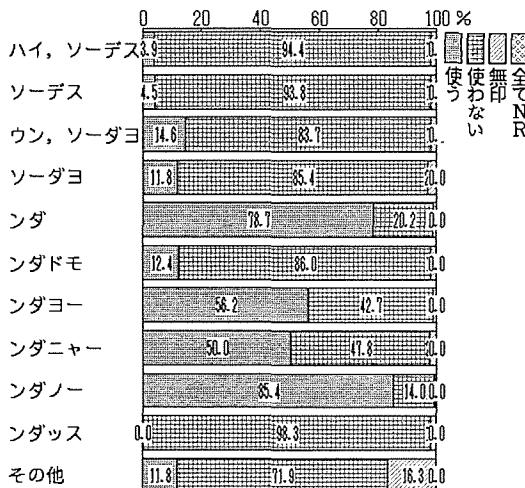


図 5-4-6-a 対同性友人

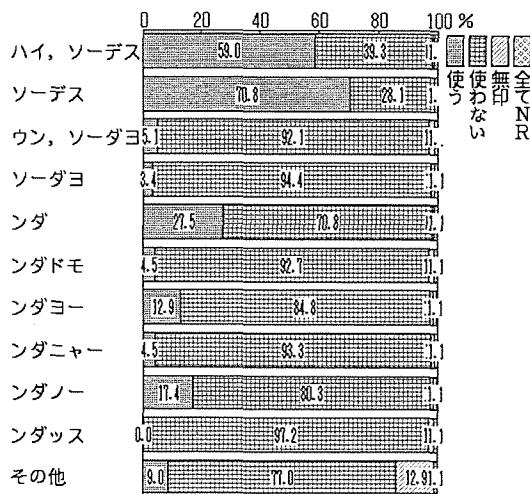


図 5-4-6-d 対担任

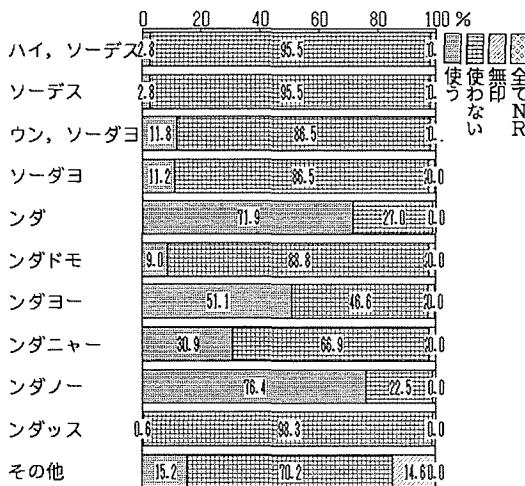


図 5-4-6-b 対異性同級

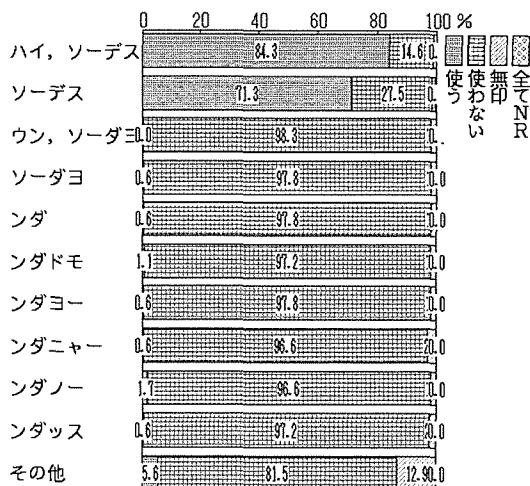


図 5-4-6-e 対校長

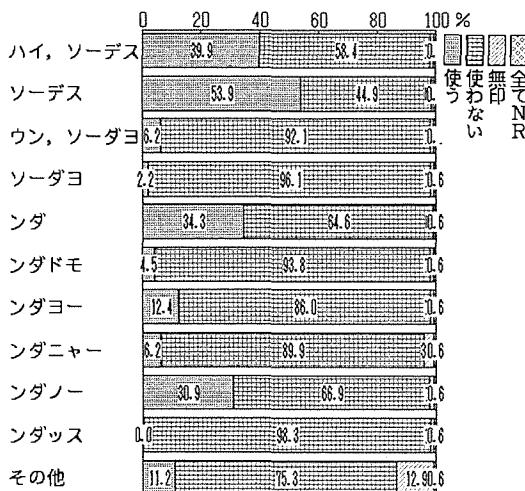


図 5-4-6-c 対同性先輩

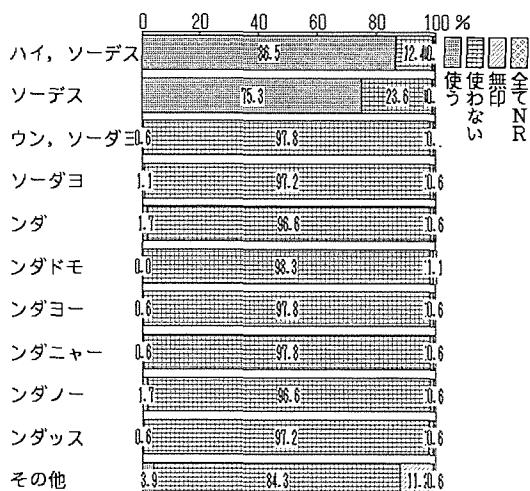


図 5-4-6-f 対来客(男)

表 5-5-1 別れの挨拶(東京中学・全体)

表 5-5-1-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	9.2 225	82.3 2021	8.3 203	0.3 7
サヨナラ	11.7 287	79.3 1948	8.7 214	0.3 7
サイナラ	12.9 316	78.3 1922	8.6 211	0.3 7
ソレジャア	34.8 854	56.8 1395	8.1 200	0.3 7
ジャア	55.9 1374	37.3 916	6.5 159	0.3 7
バイバイ	83.9 2061	12.3 302	3.5 86	0.3 7
失礼シマス	1.5 36	89.3 2194	8.9 219	0.3 7
その他	25.2 620	55.5 1364	18.9 465	0.3 7

表 5-5-1-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	85.2 2093	12.1 296	2.5 61	0.2 6
サヨナラ	30.8 756	62.3 1530	6.7 164	0.2 2
サイナラ	4.7 115	86.9 2134	8.2 201	0.2 6
ソレジャア	2.9 70	88.3 2169	8.6 211	0.2 6
ジャア	2.0 50	88.7 2179	9.0 221	0.2 6
バイバイ	3.7 90	87.4 2147	8.7 213	0.2 6
失礼シマス	9.0 221	82.5 2026	8.3 203	0.2 6
その他	1.8 43	76.7 1883	21.3 524	0.2 6

表 5-5-1-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	10.6 261	80.2 1970	8.5 208	0.7 17
サヨナラ	12.1 296	78.7 1934	8.5 209	0.7 17
サイナラ	8.3 204	82.3 2022	8.7 213	0.7 17
ソレジャア	22.1 543	68.7 1687	8.5 209	0.7 17
ジャア	38.8 952	53.3 1309	7.2 178	0.7 17
バイバイ	62.5 1535	31.8 782	5.0 122	0.7 17
失礼シマス	1.3 31	89.1 2188	9.0 220	0.7 17
その他	19.1 468	61.8 1518	18.4 453	0.7 17

表 5-5-1-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	87.6 2151	8.6 212	3.4 84	0.4 9
サヨナラ	18.2 447	73.5 1805	7.9 195	0.4 9
サイナラ	1.6 39	88.8 2182	9.2 226	0.4 9
ソレジャア	0.9 23	89.4 2196	9.3 228	0.4 9
ジャア	0.9 21	88.8 2182	9.9 244	0.4 9
バイバイ	0.8 20	89.5 2199	9.3 228	0.4 9
失礼シマス	16.6 407	74.6 1831	8.5 209	0.4 9
その他	2.3 56	78.4 1926	18.9 465	0.4 9

表 5-5-1-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	64.2 1576	29.6 726	5.4 132	0.9 22
サヨナラ	30.5 748	61.1 1501	7.5 185	0.9 22
サイナラ	5.7 140	85.1 2089	8.3 205	0.9 22
ソレジャア	11.4 281	79.2 1944	8.5 209	0.9 22
ジャア	11.8 289	78.9 1938	8.4 207	0.9 22
バイバイ	13.5 331	77.4 1902	8.2 201	0.9 22
失礼シマス	9.5 234	81.1 1991	8.5 209	0.9 22
その他	6.8 168	72.4 1777	19.9 489	0.9 22

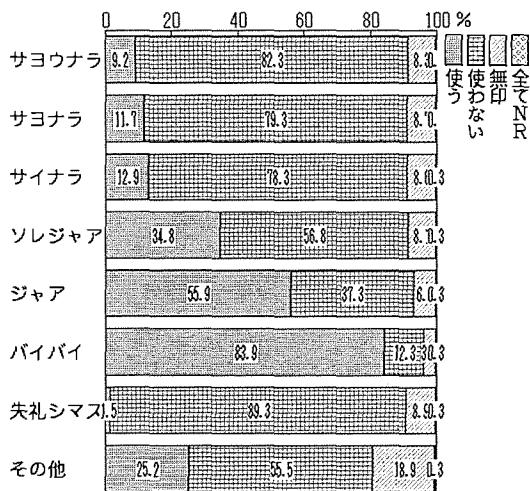


図 5-5-1-a 対同性友人

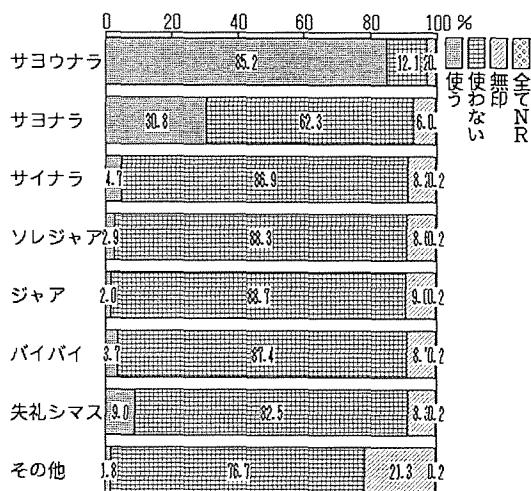


図 5-5-1-d 対担任

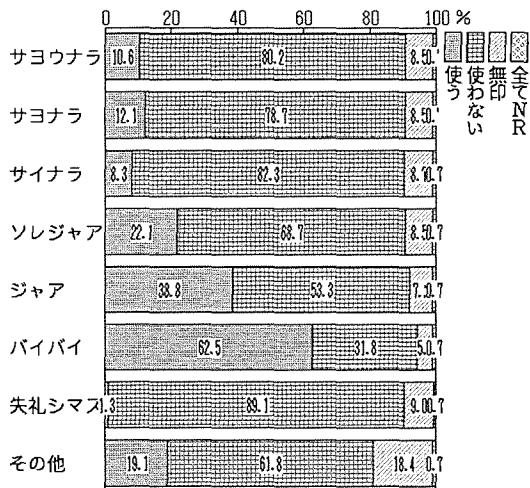


図 5-5-1-b 対異性同級

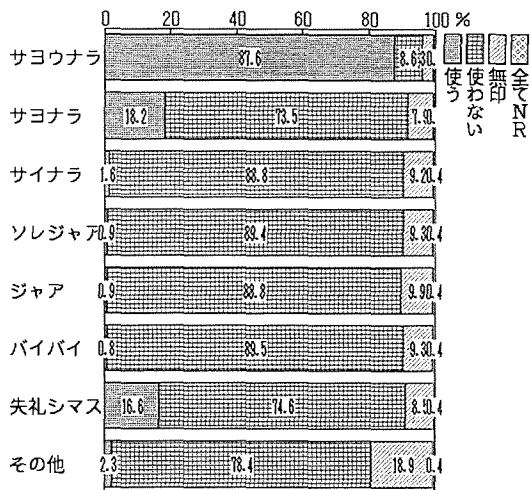


図 5-5-1-e 対校長

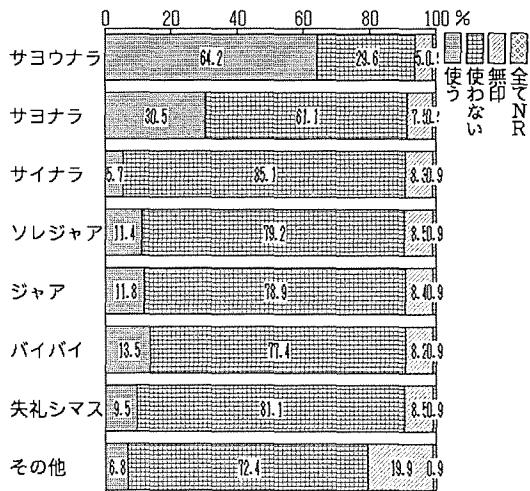


図 5-5-1-c 対同性先輩

表 5-5-2 別れの挨拶(東京中学・男子)

表 5-5-2-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	9.3 120	79.1 1016	11.2 144	0.4 5
サヨナラ	12.5 160	75.4 969	11.7 151	0.4 5
サイナラ	16.8 216	71.3 916	11.5 148	0.4 5
ソレジャア	33.2 426	55.6 715	10.8 139	0.4 5
ジャア	62.8 807	29.4 378	7.4 95	0.4 5
バイバイ	70.6 907	22.7 292	6.3 81	0.4 5
失礼シマス	2.2 28	85.5 1099	11.9 153	0.4 5
その他	29.1 374	50.4 647	20.2 259	0.4 5

表 5-5-2-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	11.3 145	75.7 973	12.0 154	1.0 13
サヨナラ	14.1 181	73.2 940	11.8 151	1.0 13
サイナラ	12.1 155	75.1 965	11.8 152	1.0 13
ソレジャア	24.1 310	63.3 813	11.6 149	1.0 13
ジャア	46.6 599	43.1 554	9.3 119	1.0 13
バイバイ	50.4 647	40.9 525	7.8 100	1.0 13
失礼シマス	2.2 28	84.6 1087	12.2 157	1.0 13
その他	21.1 271	57.7 742	20.2 259	1.0 13

表 5-5-2-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	45.3 582	44.5 572	8.9 114	1.3 17
サヨナラ	31.3 402	56.9 731	10.5 135	1.3 17
サイナラ	9.9 127	77.5 996	11.3 145	1.3 17
ソレジャア	16.4 211	70.5 906	11.8 151	1.3 17
ジャア	19.8 254	68.2 877	10.7 137	1.3 17
バイバイ	17.7 227	69.7 896	11.3 145	1.3 17
失礼シマス	9.7 125	77.3 993	11.7 150	1.3 17
その他	10.5 135	66.8 859	21.3 274	1.3 17

表 5-5-2-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	79.5 1022	16.7 214	3.5 45	0.3 4
サヨナラ	31.5 405	58.8 756	9.3 120	0.3 4
サイナラ	7.2 92	81.3 1045	11.2 144	0.3 4
ソレジャア	3.8 49	84.0 1079	11.9 153	0.3 4
ジャア	3.3 42	84.0 1080	12.4 159	0.3 4
バイバイ	3.3 42	84.3 1083	12.1 156	0.3 4
失礼シマス	11.5 148	76.9 988	11.3 145	0.3 4
その他	2.6 33	72.1 927	25.0 321	0.3 4

表 5-5-2-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	82.3 1057	12.3 158	4.9 63	0.5 7
サヨナラ	19.4 249	68.9 885	11.2 144	0.5 7
サイナラ	2.9 37	83.7 1076	12.8 165	0.5 7
ソレジャア	1.6 21	84.8 1090	13.0 167	0.5 7
ジャア	1.6 20	84.7 1088	13.2 170	0.5 7
バイバイ	1.5 19	85.0 1092	13.0 167	0.5 7
失礼シマス	19.8 255	68.1 875	11.5 148	0.5 7
その他	3.2 41	74.3 955	21.9 282	0.5 7

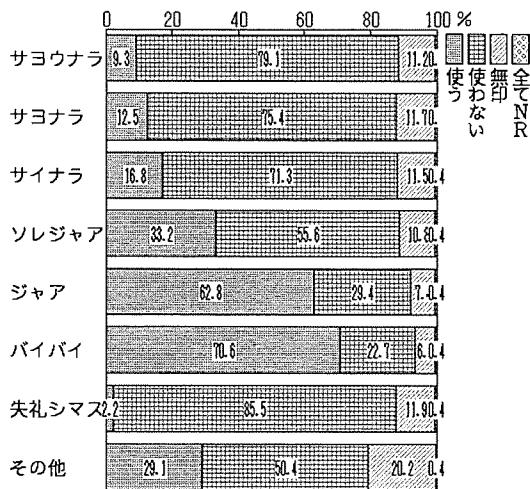


図 5-5-2-a 対同性友人

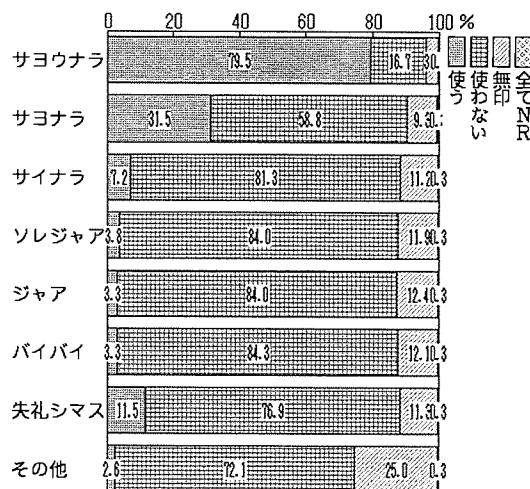


図 5-5-2-d 対担任

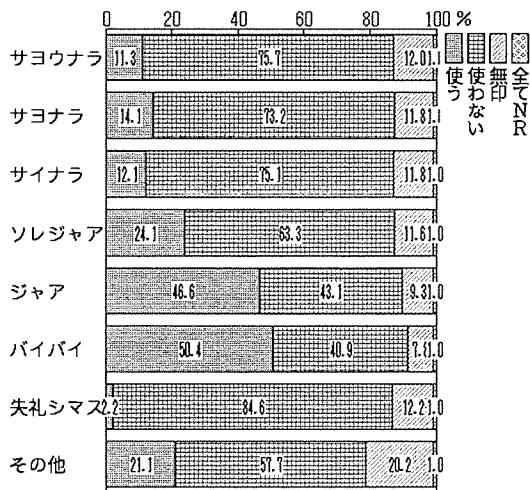


図 5-5-2-b 対異性同級

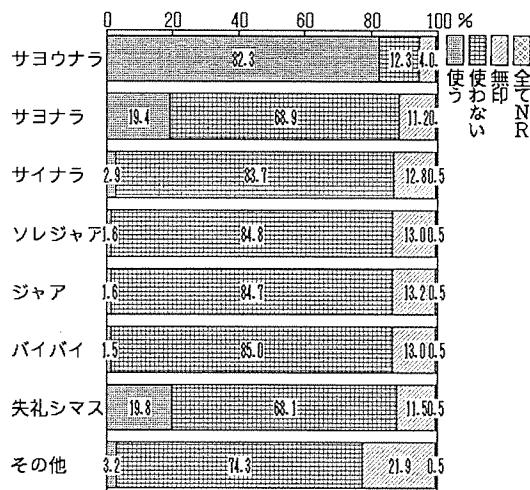


図 5-5-2-e 対校長

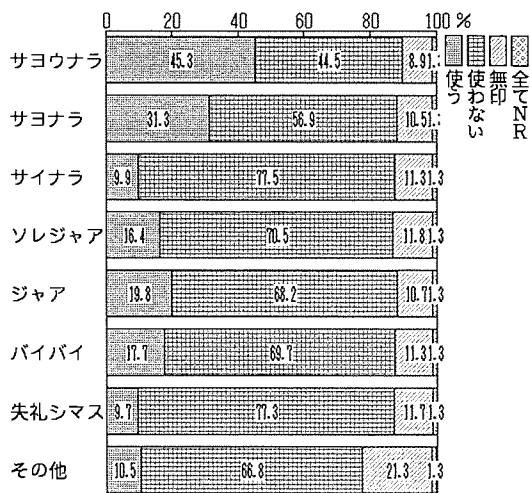


図 5-5-2-c 対同性先輩

表 5-5-3 別れの挨拶(東京中学・女子)

表 5-5-3-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	9.0 105	85.8 1005	5.0 59	0.2 2
サヨナラ	10.8 127	83.6 979	5.4 63	0.2 2
サイナラ	8.5 100	85.9 1006	5.4 63	0.2 2
ソレジャア	36.5 428	58.1 680	5.2 61	0.2 2
ジャア	48.4 567	45.9 538	5.5 64	0.2 2
バイバイ	98.5 1154	0.9 10	0.4 5	0.2 2
失礼シマス	0.7 8	93.5 1095	5.6 66	0.2 2
その他	21.0 246	61.2 717	17.6 206	0.2 2

表 5-5-3-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	9.9 116	85.1 997	4.6 54	0.3 4
サヨナラ	9.8 115	84.9 994	5.0 58	0.3 4
サイナラ	4.2 49	90.3 1057	5.2 61	0.3 4
ソレジャア	19.9 233	74.6 874	5.1 60	0.3 4
ジャア	30.1 353	64.5 755	5.0 59	0.3 4
バイバイ	75.8 888	21.9 257	1.9 22	0.3 4
失礼シマス	0.3 3	94.0 1101	5.4 63	0.3 4
その他	16.8 197	66.3 776	16.6 194	0.3 4

表 5-5-3-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	84.9 994	13.2 154	1.5 18	0.4 5
サヨナラ	29.5 346	65.8 770	4.3 50	0.4 5
サイナラ	1.1 13	93.3 1093	5.1 60	0.4 5
ソレジャア	6.0 70	88.6 1038	5.0 58	0.4 5
ジャア	3.0 35	90.6 1061	6.0 70	0.4 5
バイバイ	8.9 104	85.9 1006	4.8 56	0.4 5
失礼シマス	9.3 109	85.2 998	5.0 59	0.4 5
その他	2.8 33	78.4 918	18.4 215	0.4 5

表 5-5-3-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	91.5 1071	7.0 82	1.4 16	0.2 2
サヨナラ	30.0 351	66.1 774	3.8 44	0.2 2
サイナラ	2.0 23	93.0 1089	4.9 57	0.2 2
ソレジャア	1.8 21	93.1 1090	5.0 58	0.2 2
ジャア	0.7 8	93.9 1099	5.3 62	0.2 2
バイバイ	4.1 48	90.9 1064	4.9 57	0.2 2
失礼シマス	13.0 152	81.6 956	5.2 61	0.2 2
その他	0.9 10	81.6 956	17.3 203	0.2 2

表 5-5-3-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	93.4 1094	4.6 54	1.8 21	0.2 2
サヨナラ	16.9 198	78.6 920	4.4 51	0.2 2
サイナラ	0.2 2	94.4 1106	5.2 61	0.2 2
ソレジャア	0.2 2	94.4 1106	5.2 61	0.2 2
ジャア	0.1 1	93.4 1094	6.3 74	0.2 2
バイバイ	0.1 1	94.5 1107	5.2 61	0.2 2
失礼シマス	13.0 152	81.6 956	5.2 61	0.2 2
その他	1.3 15	82.9 971	15.6 183	0.2 2

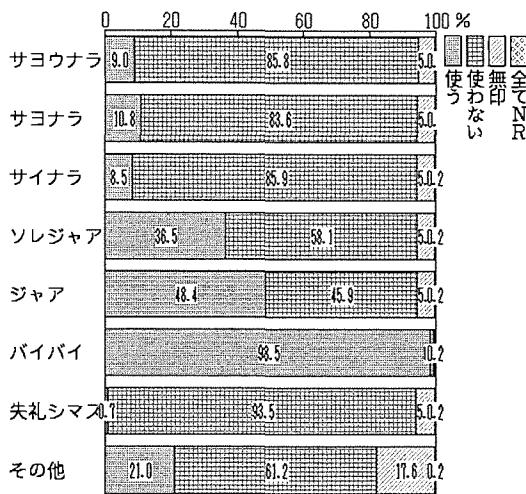


図 5-5-3-a 対同性友人

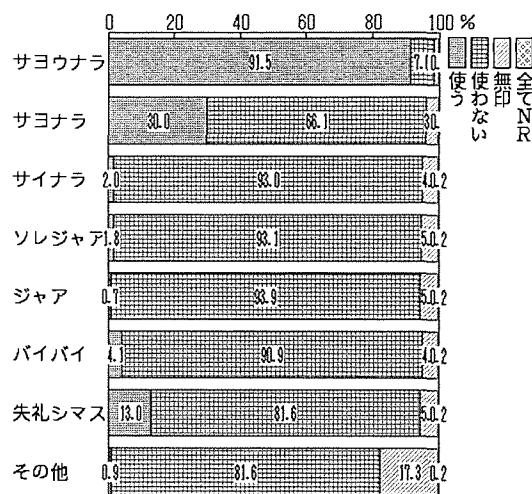


図 5-5-3-d 対担任

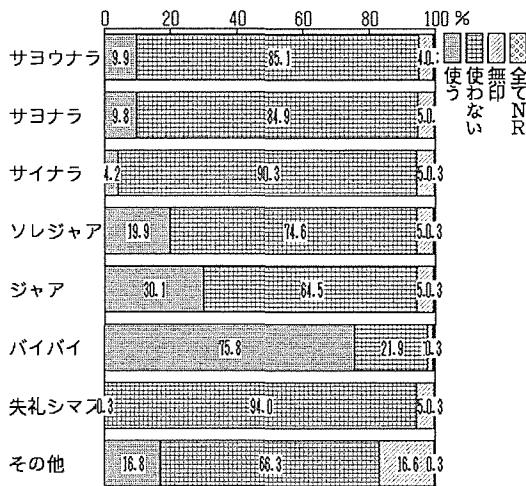


図 5-5-3-b 対異性同級

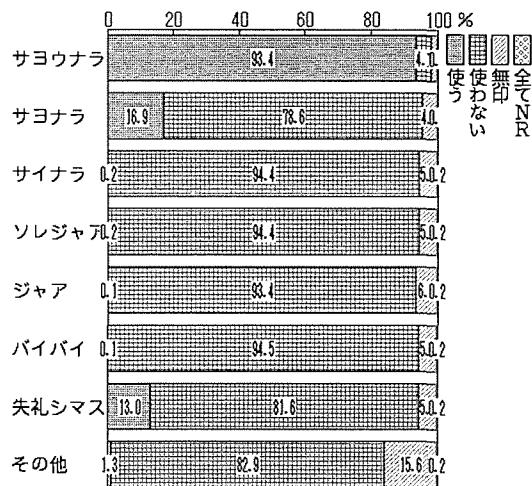


図 5-5-3-e 対校長

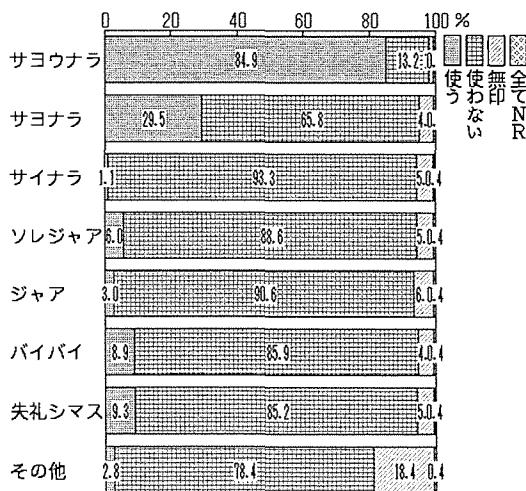


図 5-5-3-c 対同性先輩

表 5-5-4 別れの挨拶(東京高校・全体)

表 5-5-4-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	7.9 175	82.5 1834	8.9 198	0.7 15
サヨナラ	11.5 255	78.9 1753	9.0 199	0.7 15
サイナラ	8.0 178	82.0 1821	9.4 208	0.7 15
ソレジャア	41.2 916	49.4 1097	8.7 194	0.7 15
ジャア	66.9 1486	26.3 584	6.2 137	0.7 15
バイバイ	84.6 1880	11.6 258	3.1 69	0.7 15
失礼シマス	1.4 31	88.2 1960	9.7 216	0.7 15
その他	15.3 339	50.9 1131	33.2 737	0.7 15

表 5-5-4-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR	男学生/女学生
サヨウナラ	10.9 242	62.4 1387	8.1 179	1.7 38	16.9 376
サヨナラ	13.9 309	59.6 1324	7.9 175	1.7 38	16.9 376
サイナラ	4.1 92	68.9 1532	8.3 184	1.7 38	16.9 376
ソレジャア	25.3 563	48.5 1077	7.6 168	1.7 38	16.9 376
ジャア	41.3 917	33.6 746	6.5 145	1.7 38	16.9 376
バイバイ	62.6 1392	15.7 349	3.0 67	1.7 38	16.9 376
失礼シマス	0.9 21	71.6 1590	8.9 197	1.7 38	16.9 376
その他	8.3 184	45.0 999	28.1 625	1.7 38	16.9 376

表 5-5-4-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	66.8 1485	25.9 575	4.9 108	2.4 54
サヨナラ	41.6 925	49.4 1098	6.5 145	2.4 54
サイナラ	6.0 133	83.7 1859	7.9 176	2.4 54
ソレジャア	20.2 449	69.3 1539	8.1 179	2.4 54
ジャア	12.8 284	76.3 1696	8.5 188	2.4 54
バイバイ	10.4 231	78.8 1751	8.4 186	2.4 54
失礼シマス	31.9 709	58.8 1306	6.9 153	2.4 54
その他	4.9 109	58.5 1300	34.2 759	2.4 54

表 5-5-4-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	83.2 1848	12.6 281	3.4 76	0.8 17
サヨナラ	34.5 767	57.7 1283	7.0 155	0.8 17
サイナラ	3.8 84	87.1 1935	8.4 186	0.8 17
ソレジャア	6.3 139	84.2 1872	8.7 194	0.8 17
ジャア	3.3 74	86.7 1926	9.2 205	0.8 17
バイバイ	5.2 116	85.6 1903	8.4 186	0.8 17
失礼シマス	25.4 564	65.8 1462	8.1 179	0.8 17
その他	1.9 43	61.7 1370	35.6 792	0.8 17

表 5-5-4-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	82.1 1824	13.1 291	3.9 87	0.9 20
サヨナラ	22.2 494	68.7 1527	8.1 181	0.9 20
サイナラ	1.1 25	88.7 1971	9.3 206	0.9 20
ソレジャア	1.3 29	88.5 1966	9.3 207	0.9 20
ジャア	0.5 12	88.9 1976	9.6 214	0.9 20
バイバイ	0.7 16	89.1 1980	9.3 206	0.9 20
失礼シマス	30.3 673	60.5 1345	8.3 184	0.9 20
その他	3.6 81	63.9 1420	31.5 701	0.9 20

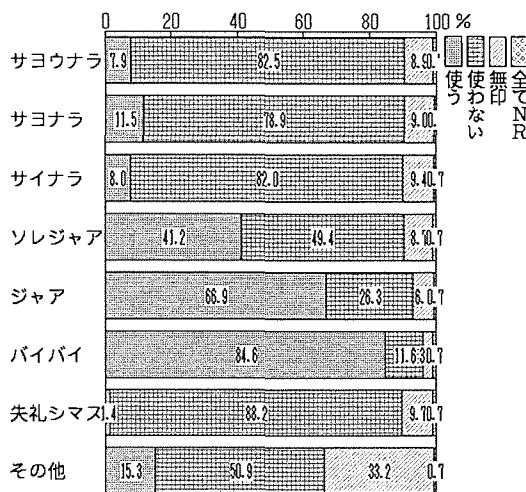


図 5-5-4-a 対同性友人

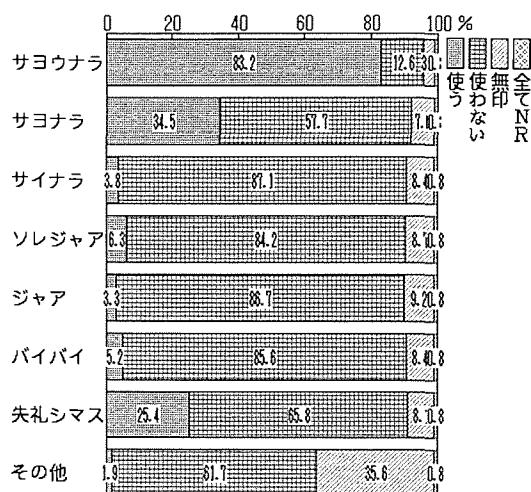


図 5-5-4-d 対担任

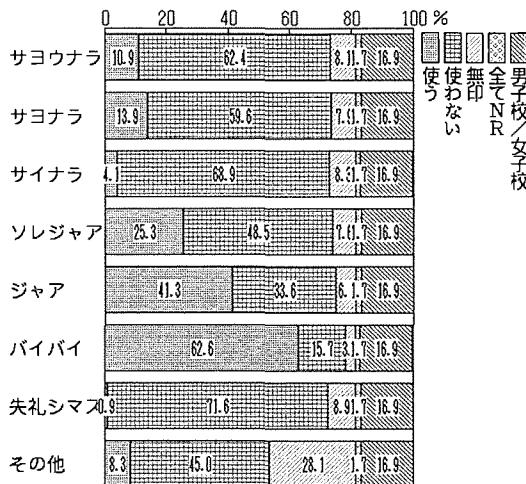


図 5-5-4-b 対異性同級

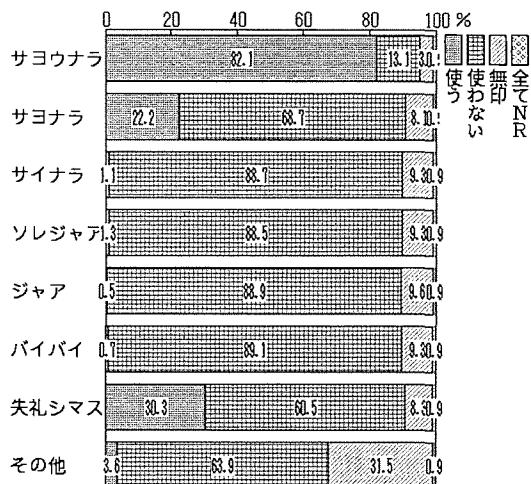


図 5-5-4-e 対校長

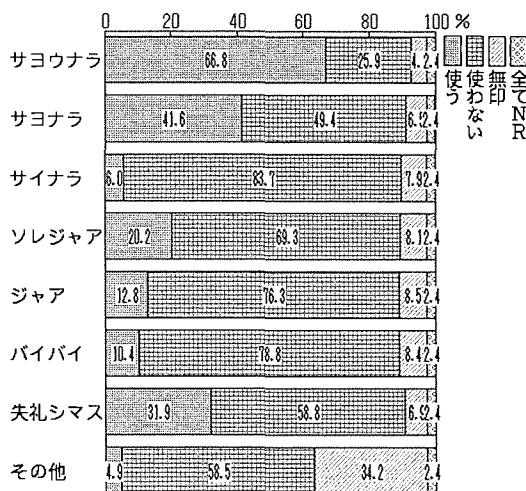


図 5-5-4-c 対同性先輩

表 5-5-5 別れの挨拶(東京高校・男子)

表 5-5-5-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	8.8 102	80.4 930	9.9 115	0.9 10
サヨナラ	13.4 155	75.6 875	10.1 117	0.9 10
サイナラ	11.2 130	77.4 895	10.5 122	0.9 10
ソレジャア	44.8 518	44.6 516	9.8 113	0.9 10
ジャア	76.9 890	16.6 192	5.6 65	0.9 10
バイバイ	71.9 832	21.6 250	5.6 65	0.9 10
失礼シマス	2.1 24	86.6 1002	10.5 121	0.9 10
その他	14.4 167	49.7 575	35.0 405	0.9 10

表 5-5-5-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR	男子校
サヨウナラ	13.1 151	59.4 687	9.0 104	1.9 22	16.7 193
サヨナラ	17.0 197	55.4 641	9.0 104	1.9 22	16.7 193
サイナラ	6.0 69	65.9 763	9.5 110	1.9 22	16.7 193
ソレジャア	27.7 320	45.4 525	8.4 97	1.9 22	16.7 193
ジャア	51.1 591	23.9 277	6.4 74	1.9 22	16.7 193
バイバイ	53.0 613	23.5 272	4.9 57	1.9 22	16.7 193
失礼シマス	1.4 16	70.2 812	9.9 114	1.9 22	16.7 193
その他	9.2 106	42.5 492	29.7 344	1.9 22	16.7 193

表 5-5-5-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	52.5 607	37.1 429	6.8 79	3.6 42
サヨナラ	38.5 445	50.8 588	7.1 82	3.6 42
サイナラ	9.5 110	78.5 908	8.4 97	3.6 42
ソレジャア	23.2 269	64.6 747	8.6 99	3.6 42
ジャア	15.8 183	71.5 827	9.1 105	3.6 42
バイバイ	7.6 88	79.8 923	9.0 104	3.6 42
失礼シマス	41.7 482	48.1 557	6.6 76	3.6 42
その他	5.2 60	56.4 653	34.7 402	3.6 42

表 5-5-5-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	76.5 885	17.6 204	4.9 57	1.0 11
サヨナラ	35.3 408	56.3 651	7.5 87	1.0 11
サイナラ	6.1 70	84.1 973	8.9 103	1.0 11
ソレジャア	8.3 96	81.1 938	9.7 112	1.0 11
ジャア	4.3 50	84.6 979	10.1 117	1.0 11
バイバイ	4.1 48	85.4 988	9.5 110	1.0 11
失礼シマス	32.4 375	57.9 670	8.7 101	1.0 11
その他	2.5 29	59.2 685	37.3 432	1.0 11

表 5-5-5-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	73.2 847	20.2 234	5.4 63	1.1 13
サヨナラ	23.9 277	66.4 768	8.6 99	1.1 13
サイナラ	1.9 22	86.9 1006	10.0 116	1.1 13
ソレジャア	2.2 25	86.6 1002	10.1 117	1.1 13
ジャア	0.8 9	87.6 1014	10.5 121	1.1 13
バイバイ	1.2 14	87.6 1014	10.0 116	1.1 13
失礼シマス	37.0 428	53.1 614	8.8 102	1.1 13
その他	4.8 55	61.8 715	32.3 374	1.1 13

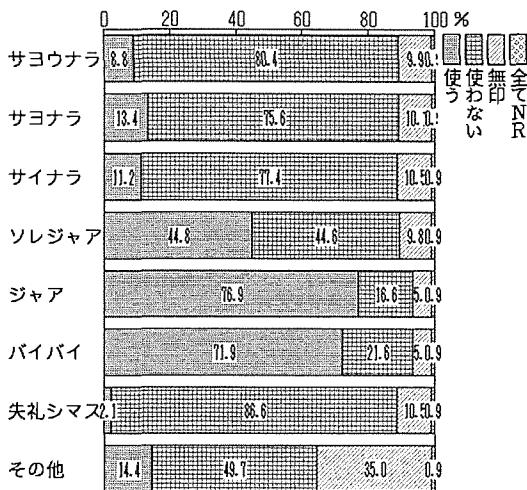


図 5-5-5-a 対同性友人

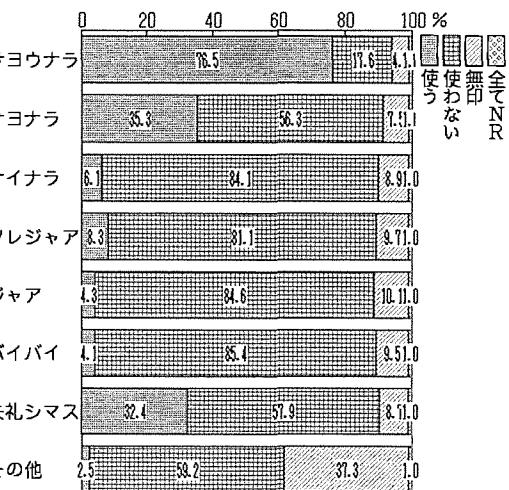


図 5-5-5-d 対担任

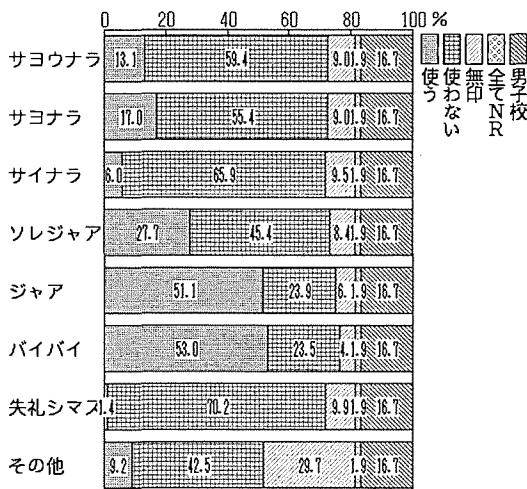


図 5-5-5-b 対異性同級

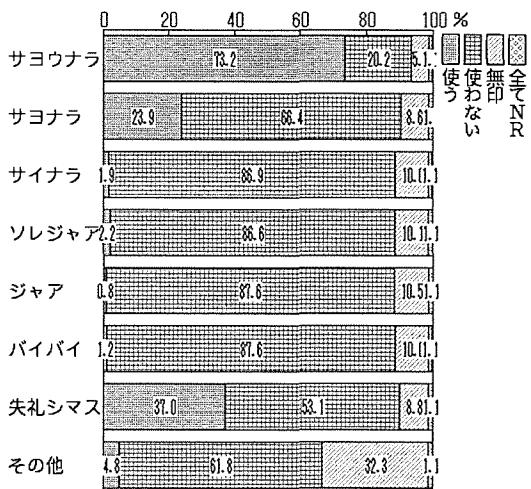


図 5-5-5-e 対校長

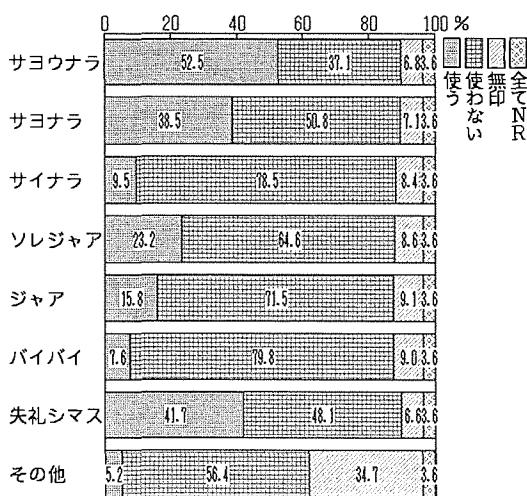


図 5-5-5-c 対同性先輩

表 5-5-6 別れの挨拶(東京高校・女子)

表 5-5-6-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	6.9 73	84.9 900	7.8 83	0.4 4
サヨナラ	9.4 100	82.5 874	7.7 82	0.4 4
サイナラ	4.4 47	87.1 923	8.1 86	0.4 4
ソレジャア	37.4 396	54.5 578	7.6 81	0.4 4
ジャア	55.9 593	36.8 390	6.8 72	0.4 4
バイバイ	98.5 1044	0.5 8	0.4 4	0.4 4
失礼シマス	0.7 7	90.0 954	9.0 95	0.4 4
その他	16.0 170	52.5 556	31.1 330	0.4 4

表 5-5-6-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR	女子校
サヨウナラ	8.6 91	65.7 696	7.1 75	1.4 15	17.3 183
サヨナラ	10.6 112	64.1 679	6.7 71	1.4 15	17.3 183
サイナラ	2.2 23	72.2 765	7.0 74	1.4 15	17.3 183
ソレジャア	22.6 240	51.9 550	6.7 71	1.4 15	17.3 183
ジャア	30.5 323	44.1 467	6.7 71	1.4 15	17.3 183
バイバイ	73.1 775	7.3 77	0.9 10	1.4 15	17.3 183
失礼シマス	0.5 5	73.1 775	7.7 82	1.4 15	17.3 183
その他	7.2 76	47.7 506	26.4 280	1.4 15	17.3 183

表 5-5-6-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	82.6 876	13.6 144	2.7 29	1.0 11
サヨナラ	45.2 479	47.8 507	5.9 63	1.0 11
サイナラ	2.2 23	89.3 947	7.5 79	1.0 11
ソレジャア	17.0 180	74.4 789	7.5 80	1.0 11
ジャア	9.5 101	81.6 865	7.8 83	1.0 11
バイバイ	13.5 143	77.7 824	7.7 82	1.0 11
失礼シマス	21.4 227	70.4 746	7.2 76	1.0 5
その他	4.5 48	60.8 645	33.6 356	1.0 11

表 5-5-6-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	90.6 960	7.2 76	1.8 19	0.5 5
サヨナラ	33.8 358	59.3 629	6.4 68	0.5 5
サイナラ	1.3 14	90.4 958	7.8 83	0.5 5
ソレジャア	4.1 43	87.7 930	7.7 82	0.5 5
ジャア	2.3 24	89.0 943	8.3 88	0.5 5
バイバイ	6.4 68	85.9 911	7.2 76	0.5 5
失礼シマス	17.8 189	74.3 788	7.4 78	0.5 5
その他	1.3 14	64.6 685	33.6 356	0.5 5

表 5-5-6-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	91.9 974	5.3 56	2.3 24	0.6 6
サヨナラ	20.4 216	71.3 756	7.7 82	0.6 6
サイナラ	0.3 3	90.7 961	8.5 90	0.6 6
ソレジャア	0.4 4	90.6 960	8.5 90	0.6 6
ジャア	0.3 3	90.4 958	8.8 93	0.6 6
バイバイ	0.2 2	90.8 962	8.5 90	0.6 6
失礼シマス	23.0 244	68.7 728	7.7 82	0.6 6
その他	2.5 26	66.2 702	30.8 326	0.6 6

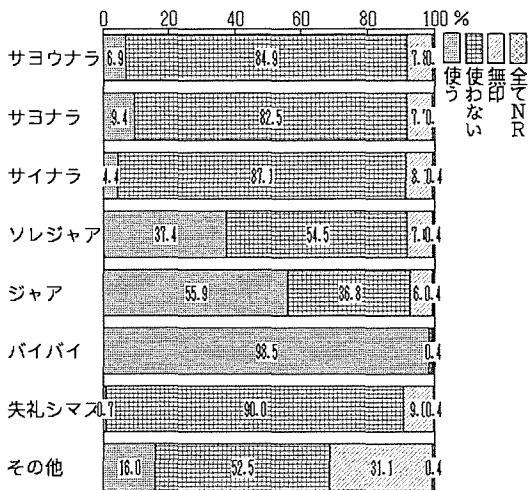


図 5-5-6-a 対同性友人

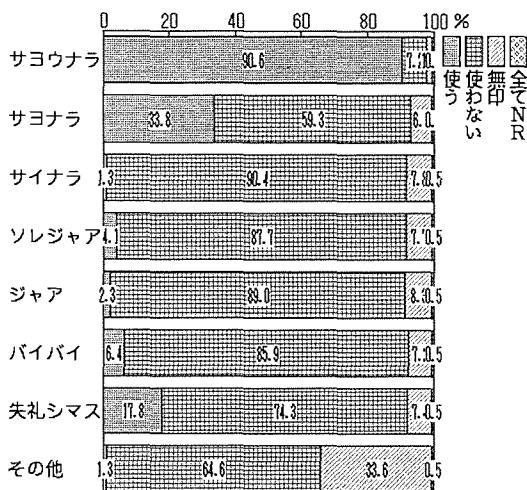


図 5-5-6-d 対担任

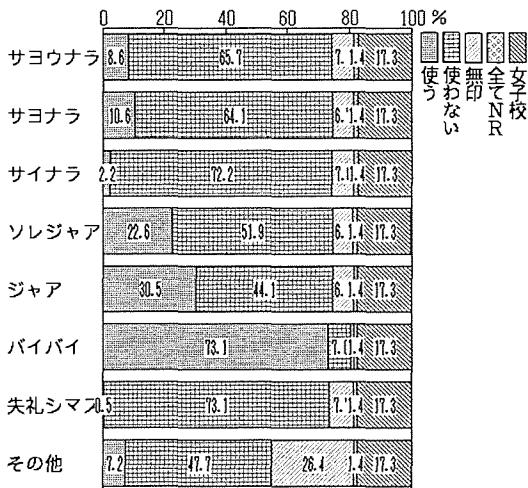


図 5-5-6-b 対異性同級

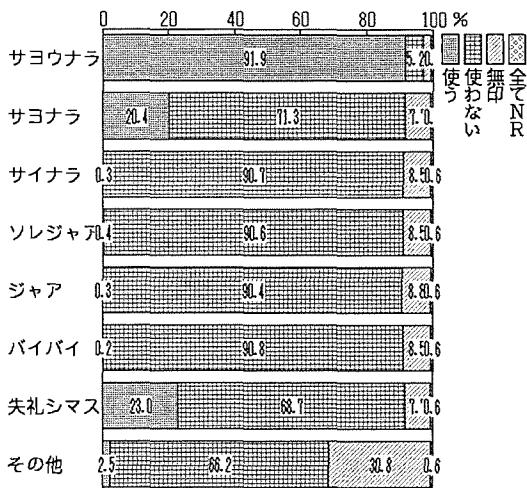


図 5-5-6-e 対校長

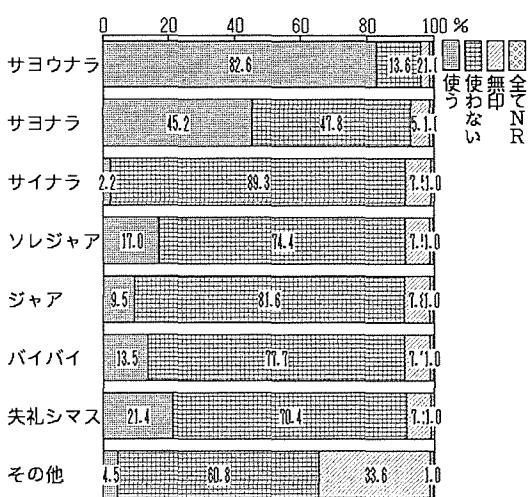


図 5-5-6-c 対同性先輩

表 5-5-7 別れの挨拶(大阪高校・全体)

表 5-5-7-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	2.8 28	89.5 899	7.5 75	0.2 2
サヨナラ	4.9 49	87.5 879	7.4 74	0.2 2
サイナラ	8.2 82	84.4 847	7.3 73	0.2 2
ジャアネ	33.4 335	59.5 597	7.0 70	0.2 2
バイバイ	96.0 964	3.0 30	0.8 8	0.2 2
ホナ	14.5 146	78.3 786	7.0 70	0.2 2
失礼シマス	0.3 3	91.9 923	7.6 76	0.2 2
その他	13.4 135	62.0 622	24.4 245	0.2 2

表 5-5-7-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR	男子校/女子校
サヨウナラ	3.6 36	66.6 669	5.8 58	0.8 8	23.2 233
サヨナラ	5.7 57	64.4 647	5.9 59	0.8 8	23.2 233
サイナラ	4.6 46	65.3 656	6.1 61	0.8 8	23.2 233
ジャアネ	14.3 144	55.5 557	6.2 62	0.8 8	23.2 233
バイバイ	69.2 695	5.7 57	1.1 11	0.8 8	23.2 233
ホナ	6.2 62	64.1 644	5.7 57	0.8 8	23.2 233
失礼シマス	0.6 6	69.0 693	6.4 64	0.8 8	23.2 233
その他	5.4 54	51.5 517	19.1 192	0.8 8	23.2 233

表 5-5-7-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	61.7 619	31.5 316	3.7 37	3.2 32
サヨナラ	41.1 413	50.4 506	5.3 53	3.2 32
サイナラ	12.9 130	78.1 784	5.8 58	3.2 32
ジャアネ	2.0 20	88.2 886	6.6 66	3.2 32
バイバイ	10.0 100	80.8 811	6.1 61	3.2 32
ホナ	1.9 19	88.3 887	6.6 66	3.2 32
失礼シマス	25.1 252	65.7 660	6.0 60	3.2 32
その他	2.8 28	69.1 694	24.9 250	3.2 32

表 5-5-7-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	74.6 749	21.6 217	3.7 37	0.1 1
サヨナラ	43.8 440	50.7 509	5.4 54	0.1 1
サイナラ	11.6 116	81.7 820	6.7 67	0.1 1
ジャアネ	0.7 7	91.7 921	7.5 75	0.1 1
バイバイ	6.8 68	86.6 869	6.6 66	0.1 1
ホナ	1.3 13	91.4 918	7.2 72	0.1 1
失礼シマス	19.5 196	73.3 736	7.1 71	0.1 1
その他	1.1 11	73.2 735	25.6 257	0.1 1

表 5-5-7-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	79.3 796	17.3 174	2.9 29	0.5 5
サヨナラ	32.7 328	61.0 612	5.9 59	0.5 5
サイナラ	6.5 65	86.3 866	6.8 68	0.5 5
ジャアネ	0.1 1	92.1 925	7.3 73	0.5 5
バイバイ	0.7 7	91.7 921	7.1 71	0.5 5
ホナ	0.6 6	91.6 920	7.3 73	0.5 5
失礼シマス	20.9 210	71.9 722	6.7 67	0.5 5
その他	1.6 16	72.9 732	25.0 251	0.5 5

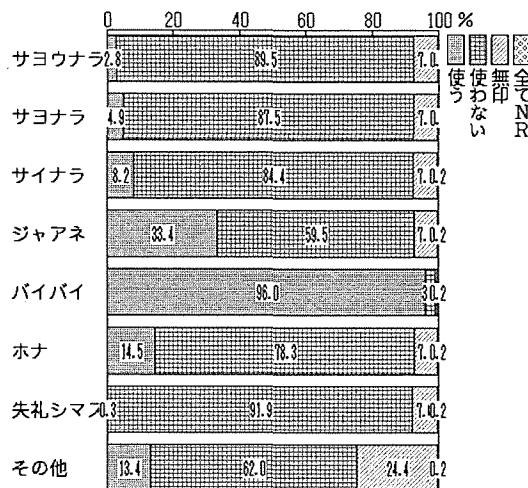


図 5-5-7-a 対同性友人

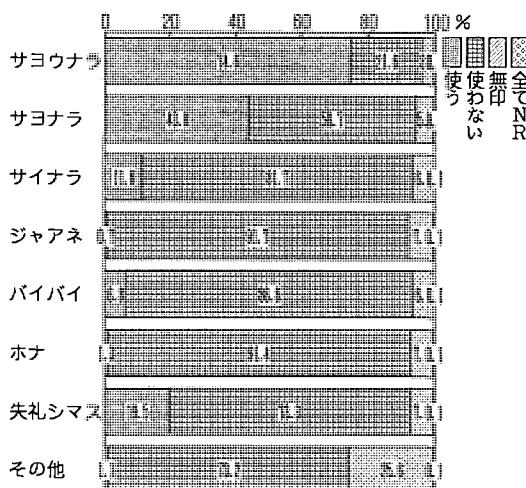


図 5-5-7-d 対担任

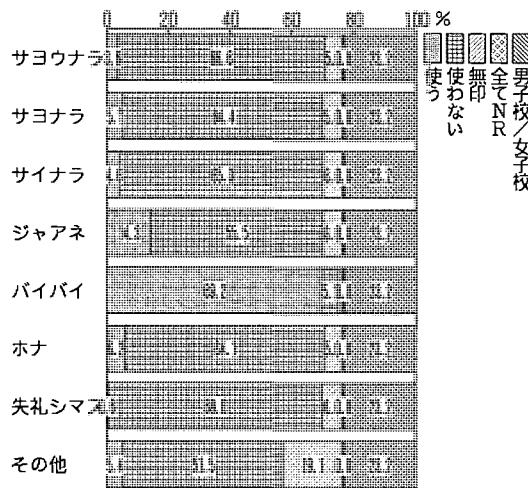


図 5-5-7-b 対異性同級

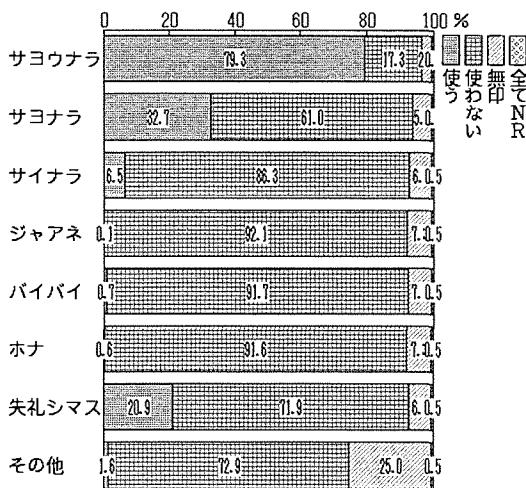


図 5-5-7-e 対校長

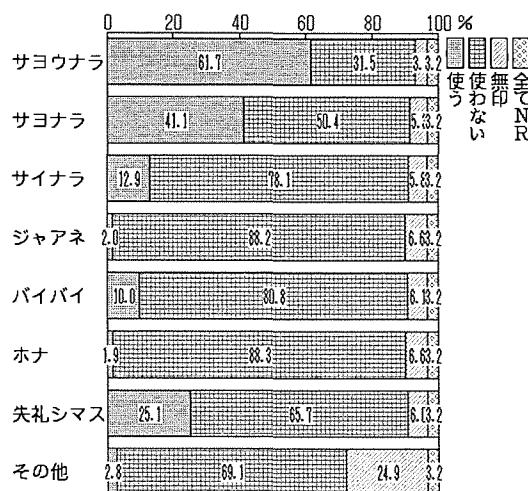


図 5-5-7-c 対同性先輩

表 5-5-8 別れの挨拶(大阪高校・男子)

表 5-5-8-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	2.8 13	88.1 416	8.7 41	0.4 2
サヨナラ	5.3 25	85.8 405	8.5 40	0.4 2
サイナラ	11.7 55	79.4 375	8.5 40	0.4 2
ジャアネ	19.7 93	71.6 339	8.3 39	0.4 2
バイバイ	91.9 434	5.9 28	1.7 8	0.4 2
ホナ	22.5 106	68.9 325	8.3 39	0.4 2
失礼シマス	0.4 2	90.5 427	8.7 41	0.4 2
その他	15.5 73	59.1 279	25.0 118	0.4 2

表 5-5-8-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR	男子校
サヨウナラ	4.2 20	68.2 322	6.8 32	0.6 3	20.1 95
サヨナラ	7.6 36	65.0 307	6.6 31	0.6 3	20.1 95
サイナラ	7.2 34	64.8 306	7.2 34	0.6 3	20.1 95
ジャアネ	13.3 63	58.7 277	7.2 34	0.6 3	20.1 95
バイバイ	68.4 323	8.7 41	2.1 10	0.6 3	20.1 95
ホナ	10.0 47	62.7 296	6.6 31	0.6 3	20.1 95
失礼シマス	0.8 4	70.8 334	7.6 36	0.6 3	20.1 95
その他	8.3 39	51.7 244	19.3 91	0.6 3	20.1 95

表 5-5-8-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	44.3 209	45.6 215	6.4 30	3.8 18
サヨナラ	39.0 184	51.3 242	5.9 28	3.8 18
サイナラ	22.0 104	67.8 320	6.4 30	3.8 18
ジャアネ	2.5 12	86.4 408	7.2 34	3.8 18
バイバイ	10.2 48	79.4 375	6.6 31	3.8 18
ホナ	3.4 16	85.2 402	7.6 36	3.8 18
失礼シマス	33.7 159	55.7 263	6.8 32	3.8 18
その他	4.0 19	67.4 318	24.8 117	3.8 18

表 5-5-8-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	64.0 302	30.3 143	5.5 26	0.2 1
サヨナラ	46.8 221	47.0 222	5.9 28	0.2 1
サイナラ	20.3 96	72.0 340	7.4 35	0.2 1
ジャアネ	0.6 3	90.7 428	8.5 40	0.2 1
バイバイ	3.8 18	87.7 414	8.3 39	0.2 1
ホナ	2.8 13	88.8 419	8.3 39	0.2 1
失礼シマス	27.3 129	64.2 303	8.3 39	0.2 1
その他	1.5 7	72.2 341	26.1 123	0.2 1

表 5-5-8-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	67.2 317	26.9 127	4.9 23	1.1 5
サヨナラ	35.6 168	56.8 268	6.6 31	1.1 5
サイナラ	12.7 60	78.8 372	7.4 35	1.1 5
ジャアネ	0.2 1	90.5 427	8.3 39	1.1 5
バイバイ	1.5 7	89.6 423	7.8 37	1.1 5
ホナ	1.3 6	89.2 421	8.5 40	1.1 5
失礼シマス	25.8 122	65.8 310	7.4 35	1.1 5
その他	2.8 13	71.4 337	24.8 117	1.1 5

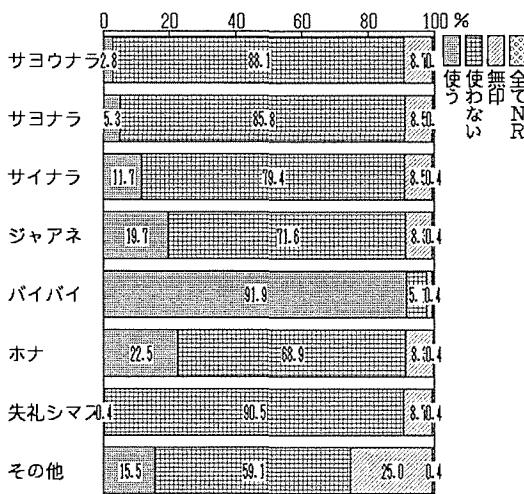


図 5-5-8-a 対同性友人

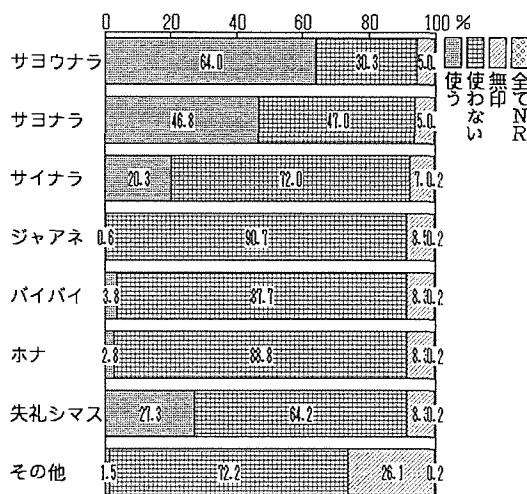


図 5-5-8-d 対担任

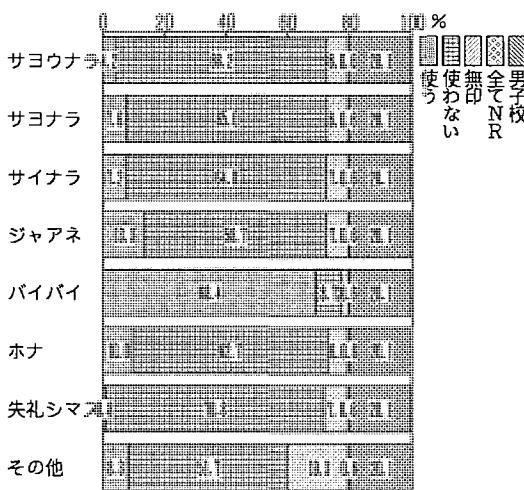


図 5-5-8-b 対異性同級

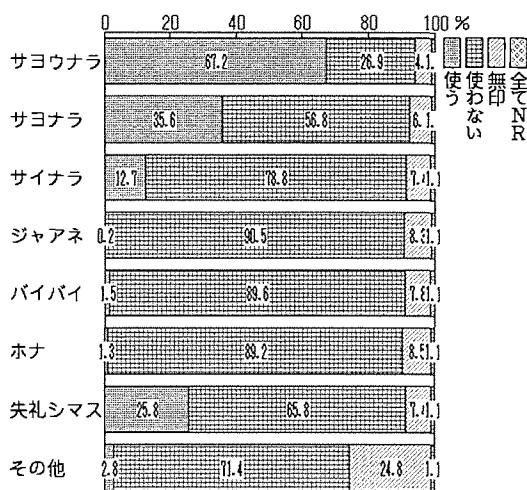


図 5-5-8-e 対校長

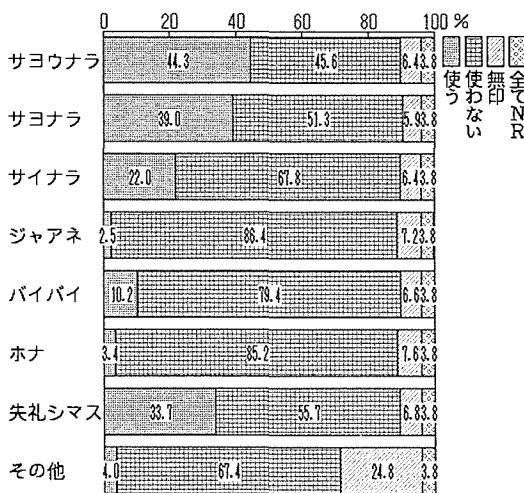


図 5-5-8-c 対同性先輩

表5-5-9 別れの挨拶(大阪高校・女子)

表5-5-9-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	2.6 14	90.9 482	6.4 34	0.0 0
サヨナラ	4.3 23	89.2 473	6.4 34	0.0 0
サイナラ	4.9 26	88.9 471	6.2 33	0.0 0
ジャアネ	45.7 242	48.5 257	5.8 31	0.0 0
バイバイ	99.6 528	0.4 2	0.0 0	0.0 0
ホナ	7.4 39	86.8 460	5.8 460	0.0 0
失礼シマス	0.2 1	93.2 494	6.6 35	0.0 0
その他	11.7 62	64.3 341	24.0 127	0.0 0

表5-5-9-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR	女子校
サヨウナラ	3.0 16	65.1 345	4.9 26	0.9 5	26.0 138
サヨナラ	4.0 21	63.8 338	5.3 28	0.9 5	26.0 138
サイナラ	2.1 11	65.8 349	5.1 27	0.9 5	26.0 138
ジャアネ	15.3 81	52.5 278	5.3 28	0.9 5	26.0 138
バイバイ	69.8 370	3.0 16	0.2 1	0.9 5	26.0 138
ホナ	2.6 14	65.5 347	4.9 26	0.9 5	26.0 138
失礼シマス	0.4 2	67.4 357	5.3 28	0.9 5	26.0 138
その他	2.8 15	51.1 271	19.1 101	0.9 5	26.0 138

表5-5-9-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	77.0 408	19.1 101	1.3 7	2.6 14
サヨナラ	42.8 227	49.8 264	4.7 25	2.6 14
サイナラ	4.9 26	87.2 462	5.3 28	2.6 14
ジャアネ	1.5 8	89.8 476	6.0 32	2.6 14
バイバイ	9.8 52	81.9 434	5.7 30	2.6 14
ホナ	0.6 3	91.1 483	5.7 30	2.6 14
失礼シマス	17.5 93	74.5 395	5.3 28	2.6 14
その他	1.7 9	70.6 374	25.1 133	2.6 14

表5-5-9-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	84.0 445	14.0 74	2.1 11	0.0 0
サヨナラ	41.1 218	54.0 286	4.9 26	0.0 0
サイナラ	2.8 20	90.2 478	6.0 32	0.0 0
ジャアネ	0.8 4	92.6 491	6.6 35	0.0 0
バイバイ	9.4 50	85.5 453	5.1 27	0.0 0
ホナ	0.0 0	93.8 497	6.2 33	0.0 0
失礼シマス	12.6 67	81.3 431	6.0 32	0.0 0
その他	0.8 4	74.0 392	25.3 134	0.0 0

表5-5-9-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	90.0 477	8.9 47	1.1 6	0.0 0
サヨナラ	30.0 159	64.7 343	5.3 28	0.0 0
サイナラ	0.9 5	92.8 492	6.2 33	0.0 0
ジャアネ	0.0 0	93.6 496	6.4 34	0.0 0
バイバイ	0.0 0	93.6 496	6.4 34	0.0 0
ホナ	0.0 0	93.8 496	6.2 33	0.0 0
失礼シマス	16.6 88	77.4 410	6.0 32	0.0 0
その他	0.6 3	74.2 393	25.3 134	0.0 0

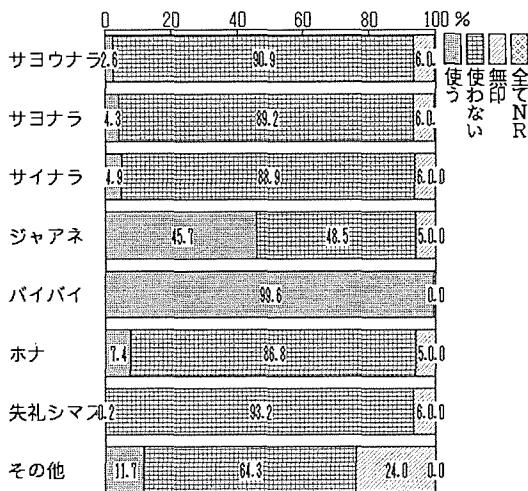


図 5-5-9-a 対同性友人

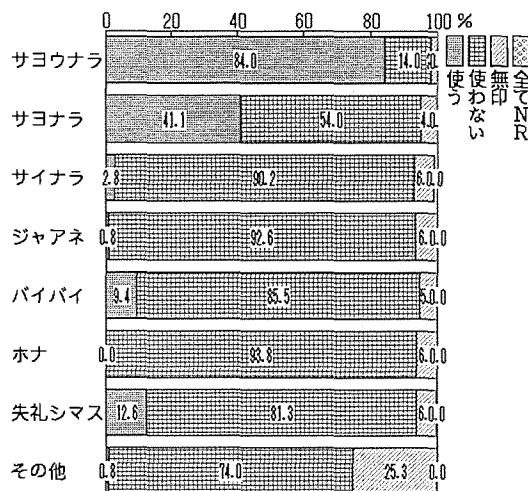


図 5-5-9-d 対担任

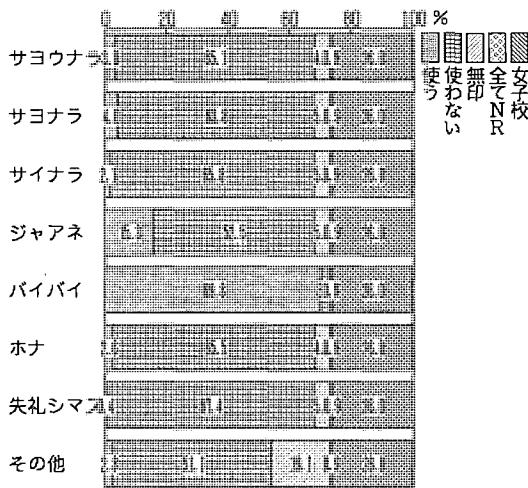


図 5-5-9-b 対異性同級

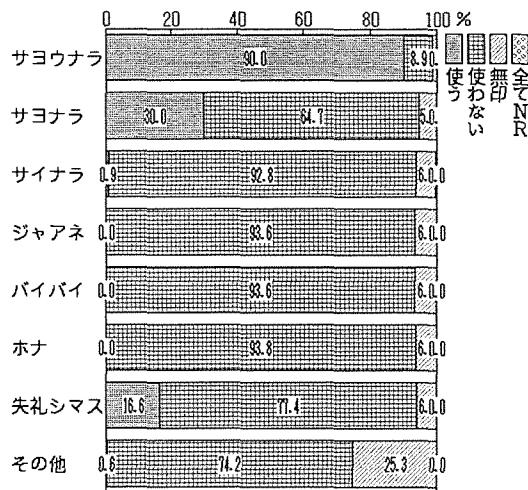


図 5-5-9-e 対校長

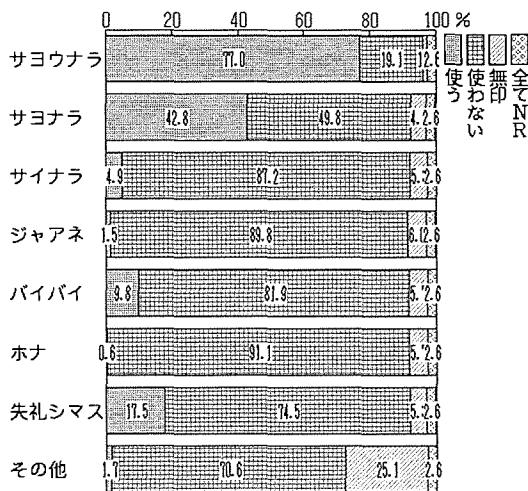


図 5-5-9-c 対同性先輩

表 5-5-10 別れの挨拶(山形中学・全体)

表 5-5-10-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	7.1 24	90.6 307	2.1 7	0.3 1
サヨナラ	5.9 20	91.2 309	2.7 9	0.3 1
ジャアネ	11.8 40	85.5 290	2.4 8	0.3 1
バイバイ	68.1 231	30.1 102	1.5 5	0.3 1
シバ	6.5 22	91.2 309	2.1 7	0.3 1
シバノー	16.8 57	79.9 271	2.9 10	0.3 1
マズヨー	28.0 95	69.6 236	2.1 7	0.3 1
マズノー	23.6 80	71.4 242	4.7 16	0.3 1
ンダバ	18.6 63	79.1 268	2.1 7	0.3 1
ンダバノー	40.7 138	56.6 192	2.4 8	0.3 1
失礼シマス	0.3 1	95.0 322	4.4 15	0.3 1
その他	31.0 105	51.6 175	17.1 58	0.3 1

表 5-5-10-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	5.6 19	92.6 314	1.2 4	0.6 2
サヨナラ	7.1 24	90.9 308	1.5 5	0.6 2
ジャアネ	8.3 28	89.7 304	1.5 5	0.9 2
バイバイ	46.9 159	51.6 175	0.9 3	0.6 2
シバ	5.9 20	91.7 311	1.8 6	0.6 2
シバノー	9.1 31	88.8 301	1.5 5	0.6 2
マズヨー	16.5 56	81.1 275	1.8 6	0.6 2
マズノー	18.0 61	78.2 265	3.2 11	0.6 2
ンダバ	12.1 41	85.3 289	2.1 7	0.6 2
ンダバノー	22.1 75	75.5 256	1.8 6	0.6 2
失礼シマス	0.9 3	94.7 231	3.8 13	0.6 2
その他	28.6 97	57.5 195	13.3 45	0.6 2

表 5-5-10-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	53.7 182	44.8 152	1.2 4	0.3 1
サヨナラ	22.7 77	74.6 253	2.4 8	0.3 1
ジャアネ	2.9 10	93.8 318	2.9 10	0.3 1
バイバイ	17.1 58	80.2 272	2.4 8	0.3 1
シバ	3.8 13	93.2 316	2.7 9	0.3 1
シバノー	6.8 23	90.3 306	2.7 9	0.3 1
マズヨー	17.1 58	80.2 272	2.4 8	0.3 1
マズノー	14.2 48	82.9 281	2.7 9	0.3 1
ンダバ	8.3 28	89.4 303	2.1 7	0.3 1
ンダバノー	13.6 46	84.1 285	2.1 7	0.3 1
失礼シマス	1.5 5	95.0 322	3.2 11	0.3 1
その他	12.7 43	71.7 243	15.3 52	0.3 1

表 5-5-10-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	89.7 304	9.7 33	0.3 1	0.3 1
サヨナラ	36.0 122	61.9 210	1.8 6	0.3 1
ジャアネ	0.0 0	97.6 331	2.1 7	0.3 1
バイバイ	1.8 6	95.9 325	2.1 7	0.3 1
シバ	0.0 0	97.6 330	2.1 7	0.3 1
シバノー	0.3 1	97.3 330	2.1 7	0.3 1
マズヨー	0.0 0	97.6 331	2.1 7	0.3 1
マズノー	0.6 2	96.8 328	2.4 8	0.3 1
ンダバ	0.3 1	97.3 330	2.1 7	0.3 1
ンダバノー	0.6 2	97.1 329	2.1 7	0.3 1
失礼シマス	2.4 8	95.0 322	2.4 8	0.3 1
その他	0.6 2	84.4 286	14.7 50	0.3 1

表 5-5-10-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	94.4 320	4.7 16	0.0 0	0.9 3
サヨナラ	27.4 93	69.9 237	1.8 6	0.9 3
ジャアネ	0.3 1	96.8 328	2.1 7	0.9 3
バイバイ	0.9 3	96.2 326	2.1 7	0.9 3
シバ	0.0 0	97.1 329	2.1 7	0.9 3
シバノー	0.0 0	97.1 329	2.1 7	0.9 3
マズヨー	0.0 0	97.1 329	2.1 7	0.9 3
マズノー	0.3 1	96.2 326	2.9 9	0.9 3
ンダバ	0.0 0	97.1 329	2.1 7	0.9 3
ンダバノー	0.0 0	97.1 329	2.1 7	0.9 3
失礼シマス	2.9 10	94.1 319	2.1 7	0.9 3
その他	0.3 1	86.1 292	12.7 43	0.9 3

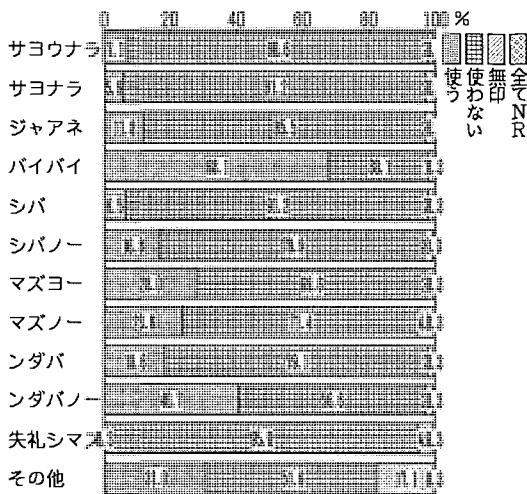


図 5-5-10-a 対同性友人

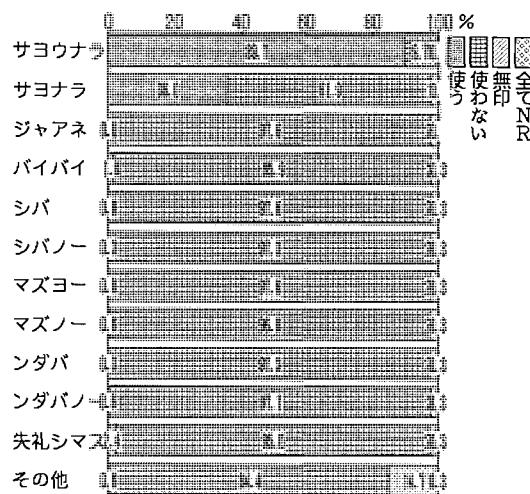


図 5-5-10-d 対担任

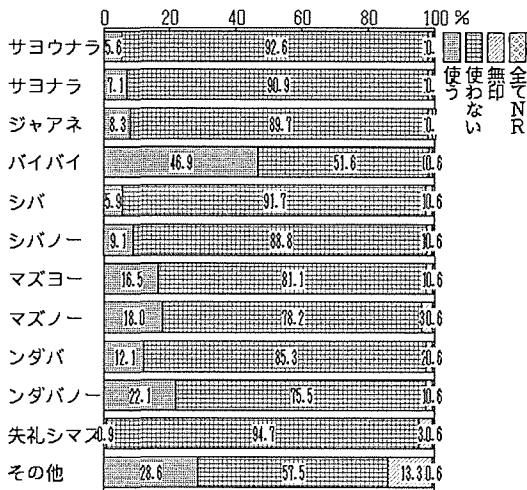


図 5-5-10-b 対異性同級

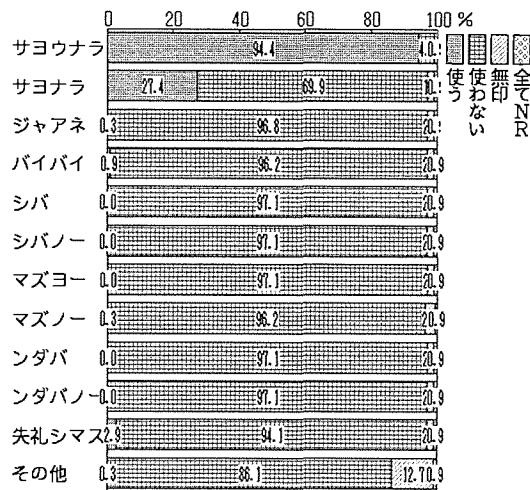


図 5-5-10-e 対校長

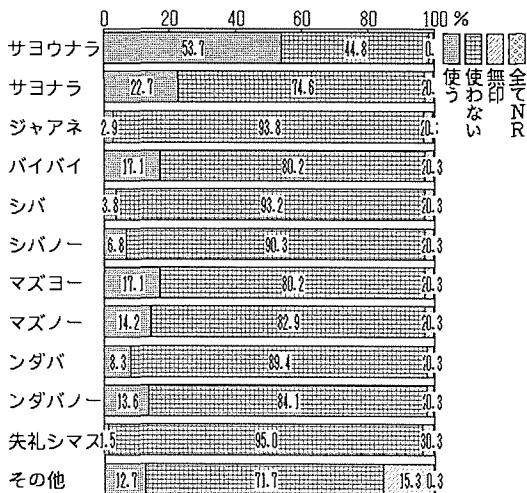


図 5-5-10-c 対同性先輩

表 5-5-11 別れの挨拶(山形中学・男子)

表 5-5-11-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	7.5 12	90.1 145	1.9 3	0.6 1
サヨナラ	9.3 15	88.2 142	1.9 3	0.6 1
ジャアネ	8.7 14	88.8 143	1.9 3	0.6 1
バイバイ	34.2 55	62.7 101	2.5 4	0.6 1
シバ	9.3 15	88.2 142	1.9 3	0.6 1
シバナー	21.7 35	74.5 120	3.1 5	0.6 1
マズヨー	52.8 85	45.8 73	1.2 2	0.6 1
マズノー	36.6 59	60.9 98	1.9 3	0.6 1
ンダバ	24.8 40	72.7 117	1.9 3	0.6 1
ンダバナー	44.1 71	52.8 85	2.5 4	0.6 1
失礼シマス	0.6 1	93.2 150	5.6 9	0.6 1
その他	30.4 49	47.2 76	21.7 35	0.6 1

表 5-5-11-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	9.3 15	88.2 142	1.2 2	1.2 2
サヨナラ	9.9 16	87.0 140	1.9 3	1.2 2
ジャアネ	10.6 17	86.3 139	1.9 3	1.2 2
バイバイ	29.8 48	67.1 108	1.9 3	1.2 2
シバ	9.3 15	87.0 140	2.5 4	1.2 2
シバナー	13.0 21	83.9 135	1.9 3	1.2 2
マズヨー	32.2 52	64.0 103	2.5 4	1.2 2
マズノー	30.4 49	65.2 105	3.1 5	1.2 2
ンダバ	15.5 25	80.7 130	2.5 4	1.2 2
ンダバナー	26.1 42	70.2 113	2.5 4	1.2 2
失礼シマス	1.2 2	93.2 150	4.3 7	1.2 2
その他	30.4 49	52.2 84	16.1 26	1.2 2

表 5-5-11-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	12.4 20	85.1 137	2.5 4	0 0
サヨナラ	15.5 25	80.7 130	3.7 6	0.0 0
ジャアネ	5.0 8	90.1 145	5.0 8	0.0 0
バイバイ	21.7 35	74.5 120	3.7 6	0.0 0
シバ	8.1 13	87.6 141	4.3 7	0.0 0
シバナー	14.3 23	81.4 131	4.3 7	0.0 0
マズヨー	36.0 58	60.2 97	3.7 6	0.0 0
マズノー	29.8 48	65.8 106	4.3 7	0.0 0
ンダバ	16.8 27	80.1 129	3.1 5	0.0 0
ンダバナー	28.0 45	68.9 111	3.1 5	0.0 0
失礼シマス	1.2 2	93.2 150	5.6 9	0.0 0
その他	26.1 42	54.0 87	19.9 32	0.0 0

表 5-5-11-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	83.9 135	14.9 24	0.6 1	0.6 1
サヨナラ	41.6 67	55.3 89	2.5 4	0.6 1
ジャアネ	0.0 0	96.3 155	3.1 5	0.6 0
バイバイ	3.1 5	93.2 150	3.1 5	0.6 1
シバ	0.0 0	96.3 155	3.1 5	0.6 1
シバナー	0.6 1	95.7 154	3.1 5	0.6 1
マズヨー	0.0 0	96.3 155	3.1 5	0.6 1
マズノー	1.2 2	95.0 153	3.1 5	0.6 1
ンダバ	0.6 1	95.7 154	3.1 5	0.6 1
ンダバナー	1.2 2	95.0 153	3.1 5	0.6 1
失礼シマス	3.7 6	91.9 48	3.7 6	0.6 1
その他	1.2 2	80.1 129	18.0 29	0.6 1

表 5-5-11-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	91.3 147	8.1 13	0.0 0	0.6 1
サヨナラ	32.9 53	64.0 103	2.5 4	0.6 1
ジャアネ	0.6 1	95.7 154	3.1 5	0.6 1
バイバイ	1.9 3	94.4 152	3.1 5	0.6 1
シバ	0.0 0	96.3 155	3.1 5	0.6 1
シバナー	0.0 0	96.3 155	3.1 5	0.6 1
マズヨー	0.0 0	96.3 155	3.1 5	0.6 1
マズノー	0.6 1	95.0 153	3.7 6	0.6 1
ンダバ	0.0 0	96.3 155	3.1 5	0.6 1
ンダバナー	0.0 0	96.3 155	3.1 5	0.6 1
失礼シマス	4.3 7	91.9 148	3.1 5	0.6 1
その他	0.6 1	83.2 134	15.5 25	0.6 1

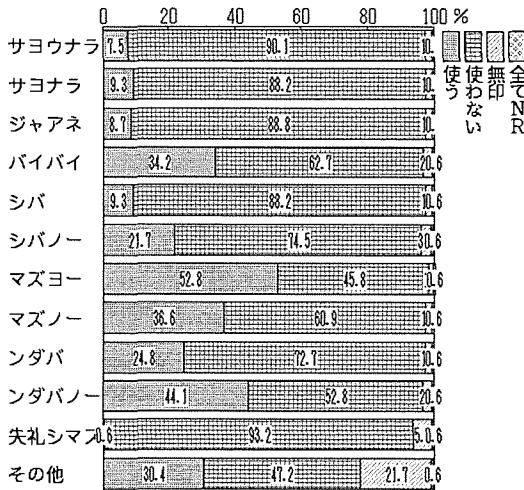


図 5-5-11-a 対同性友人

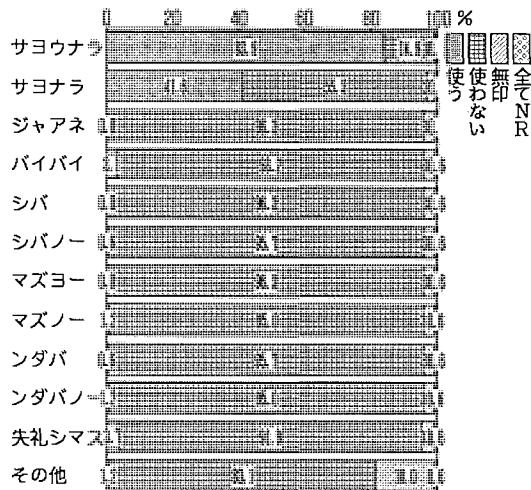


図 5-5-11-d 対担任

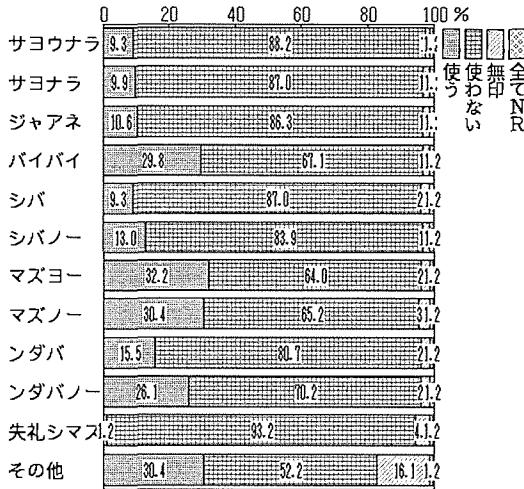


図 5-5-11-b 対異性同級

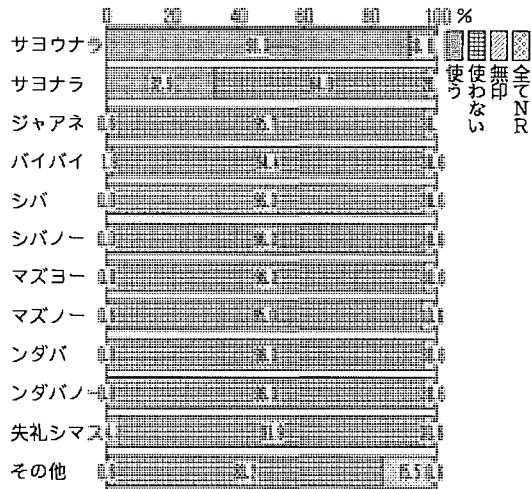


図 5-5-11-e 対校長

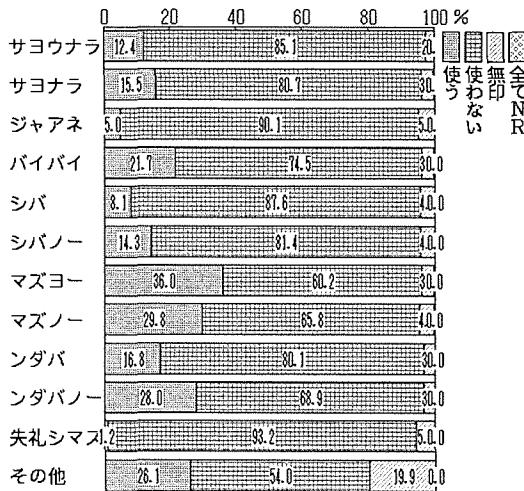


図 5-5-11-c 対同性先輩

表 5-5-12 別れの挨拶(山形中学・女子)

表 5-5-12-a 対同性友人

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	6.7 12	91.0 162	2.2 4	0.0 0
サヨナラ	2.8 5	93.8 167	3.4 6	0.0 0
ジャアネ	14.6 26	82.6 147	2.8 5	0.0 0
バイバイ	98.9 176	0.6 1	0.6 1	0.0 0
シバ	3.9 7	93.8 167	2.2 4	0.0 0
シバノー	12.4 22	84.8 151	2.8 5	0.0 0
マズヨー	5.6 10	91.6 163	2.8 5	0.0 0
マズノー	11.8 21	80.9 144	7.3 13	0.0 0
ンダバ	12.9 23	84.8 151	2.2 4	0.0 0
ンダバノー	37.6 67	60.1 107	2.2 4	0.0 0
失礼シマス	0.0 0	96.6 172	3.4 6	0.0 0
その他	31.5 56	55.6 99	12.9 23	0.0 0

表 5-5-12-b 対異性同級

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	2.2 4	96.6 172	1.1 2	0.0 0
サヨナラ	4.5 8	94.4 168	1.1 2	0.0 0
ジャアネ	6.2 11	92.7 165	1.1 2	0.0 0
バイバイ	62.4 111	37.6 67	0.0 0	0.0 0
シバ	2.8 5	96.1 171	1.1 2	0.0 0
シバノー	5.6 10	93.3 166	1.1 2	0.0 0
マズヨー	2.2 4	96.6 172	1.1 2	0.0 0
マズノー	6.7 12	89.9 160	3.4 6	0.0 0
ンダバ	9.0 16	89.3 159	1.7 3	0.0 0
ンダバノー	18.5 33	80.3 143	1.1 2	0.0 0
失礼シマス	0.6 1	96.1 171	3.4 6	0.0 0
その他	27.0 48	62.4 111	10.7 19	0.0 0

表 5-5-12-c 対同性先輩

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	91.0 162	8.4 15	0.0 0	0.6 1
サヨナラ	29.2 52	69.1 123	1.1 2	0.6 1
ジャアネ	1.1 2	97.2 173	1.1 2	0.6 1
バイバイ	12.9 23	85.4 152	1.1 2	0.6 1
シバ	0.0 0	98.3 175	1.1 2	0.6 1
シバノー	0.0 0	98.3 175	1.1 2	0.6 1
マズヨー	0.0 0	98.3 175	1.1 2	0.6 1
マズノー	0.0 0	98.3 175	1.1 2	0.6 1
ンダバ	0.6 1	97.8 174	1.1 2	0.6 1
ンダバノー	0.6 1	97.8 174	1.1 2	0.6 1
失礼シマス	1.7 3	96.6 172	1.1 2	0.6 1
その他	0.6 1	87.6 156	11.2 20	0.6 1

表 5-5-12-d 対担任

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	94.9 169	5.1 9	0.0 0	0.0 0
サヨナラ	30.9 55	68.0 121	1.1 2	0.0 0
ジャアネ	0.0 0	98.9 176	1.1 2	0.0 0
バイバイ	0.6 1	98.3 175	1.1 2	0.0 0
シバ	0.0 0	98.9 176	1.1 2	0.0 0
シバノー	0.0 0	98.9 176	1.1 2	0.0 0
マズヨー	0.0 0	98.9 176	1.1 2	0.0 0
マズノー	0.0 0	98.3 175	1.7 3	0.0 0
ンダバ	0.0 0	98.9 176	1.1 2	0.0 0
ンダバノー	0.0 0	98.9 176	1.1 2	0.0 0
失礼シマス	1.1 2	97.8 174	1.1 2	0.0 0
その他	0.0 0	88.2 157	11.8 21	0.0 0

表 5-5-12-e 対校長

	使う	使わない	無印	全てNR
サヨウナラ	97.2 173	1.7 3	0.0 0	1.1 2
サヨナラ	22.5 40	75.3 134	1.1 2	1.1 2
ジャアネ	0.0 0	97.8 174	1.1 2	1.1 2
バイバイ	0.0 0	97.8 174	1.1 2	1.1 2
シバ	0.0 0	97.8 174	1.1 2	1.1 2
シバノー	0.0 0	97.8 174	1.1 2	1.1 2
マズヨー	0.0 0	97.8 174	1.1 2	1.1 2
マズノー	0.0 0	97.2 173	1.7 3	1.1 2
ンダバ	0.0 0	97.8 174	1.1 2	1.1 2
ンダバノー	0.0 0	97.8 174	1.1 2	1.1 2
失礼シマス	1.7 3	96.1 171	1.1 2	1.1 2
その他	0.0 0	88.8 158	10.1 18	1.1 2

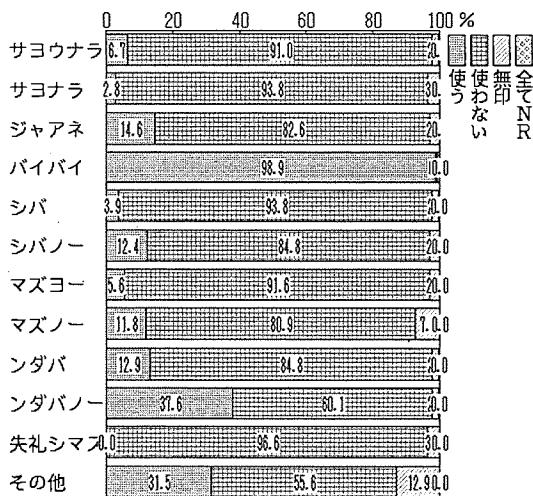


図 5-5-12-a 対同性友人

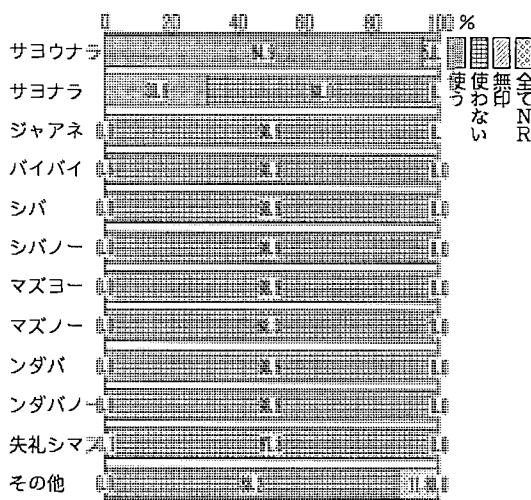


図 5-5-12-d 対担任

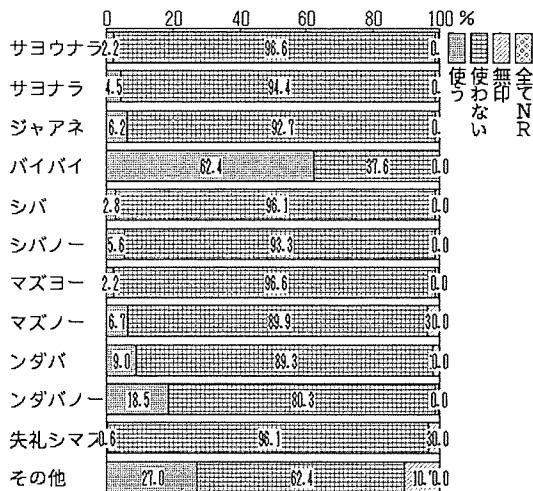


図 5-5-12-b 対異性同級

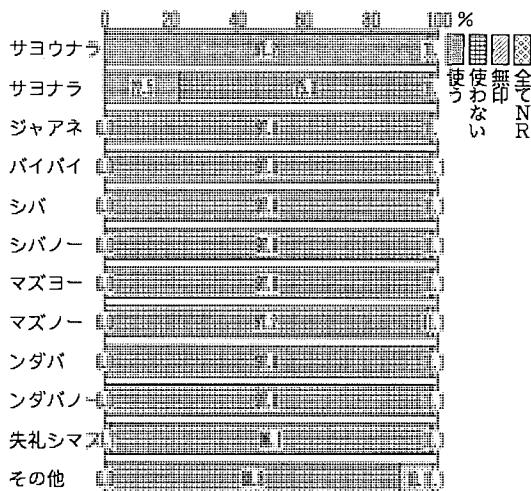


図 5-5-12-e 対校長

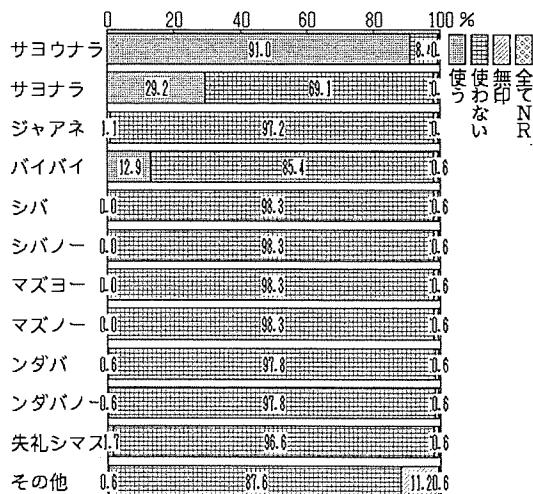


図 5-5-12-c 対同性先輩

表5-6 「失礼シマス」を使う場面

		東京中学	東京高校	大阪高校	山形中学
全 体	職員室への入室	95.2 2337	88.1 1957	94.4 948	98.8 335
	職員室からの退室	39.1 960	32.4 719	38.4 386	40.7 138
	下校時に先生へ	3.8 93	8.0 177	10.3 103	2.4 8
	下校時に先輩へ	3.6 89	18.8 417	15.0 151	1.8 6
	その他	8.2 198	11.9 263	8.7 87	8.9 30
男 子	職員室への入室	93.3 1199	82.4 953	91.5 432	97.5 157
	職員室からの退室	41.1 528	31.7 367	40.0 189	46.6 75
	下校時に先生へ	5.2 67	11.8 137	15.0 71	3.1 5
	下校時に先輩へ	4.8 62	28.0 324	22.0 104	1.9 3
	その他	5.4 70	8.1 93	6.5 31	7.5 12
女 子	職員室への入室	97.2 1138	94.2 999	97.0 514	100.0 178
	職員室からの退室	36.9 432	32.9 349	37.2 197	35.4 63
	下校時に先生へ	2.2 26	3.7 39	6.0 32	1.7 3
	下校時に先輩へ	2.3 27	8.7 92	8.9 47	1.7 3
	その他	11.1 128	16.0 170	10.5 56	10.2 18

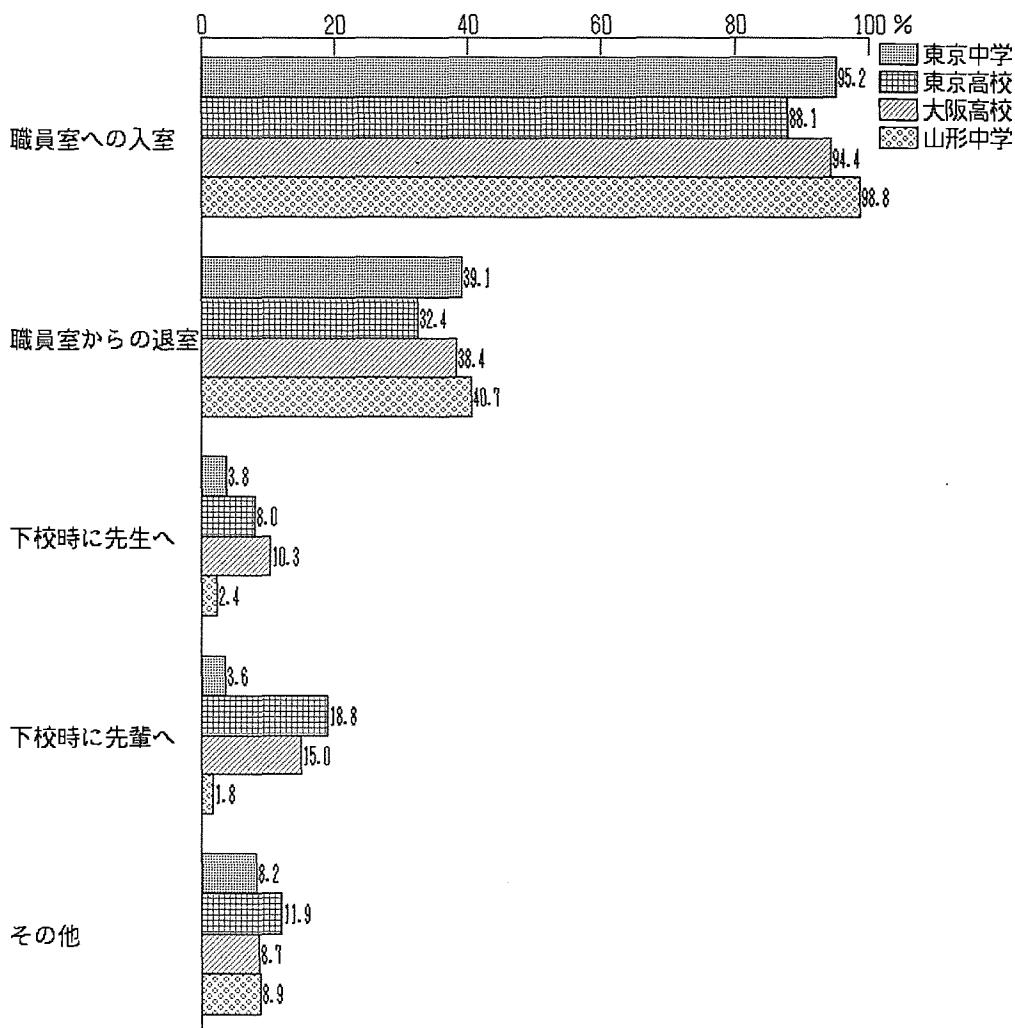


図 5-6-1 「失礼シマス」を使う場面(全体)

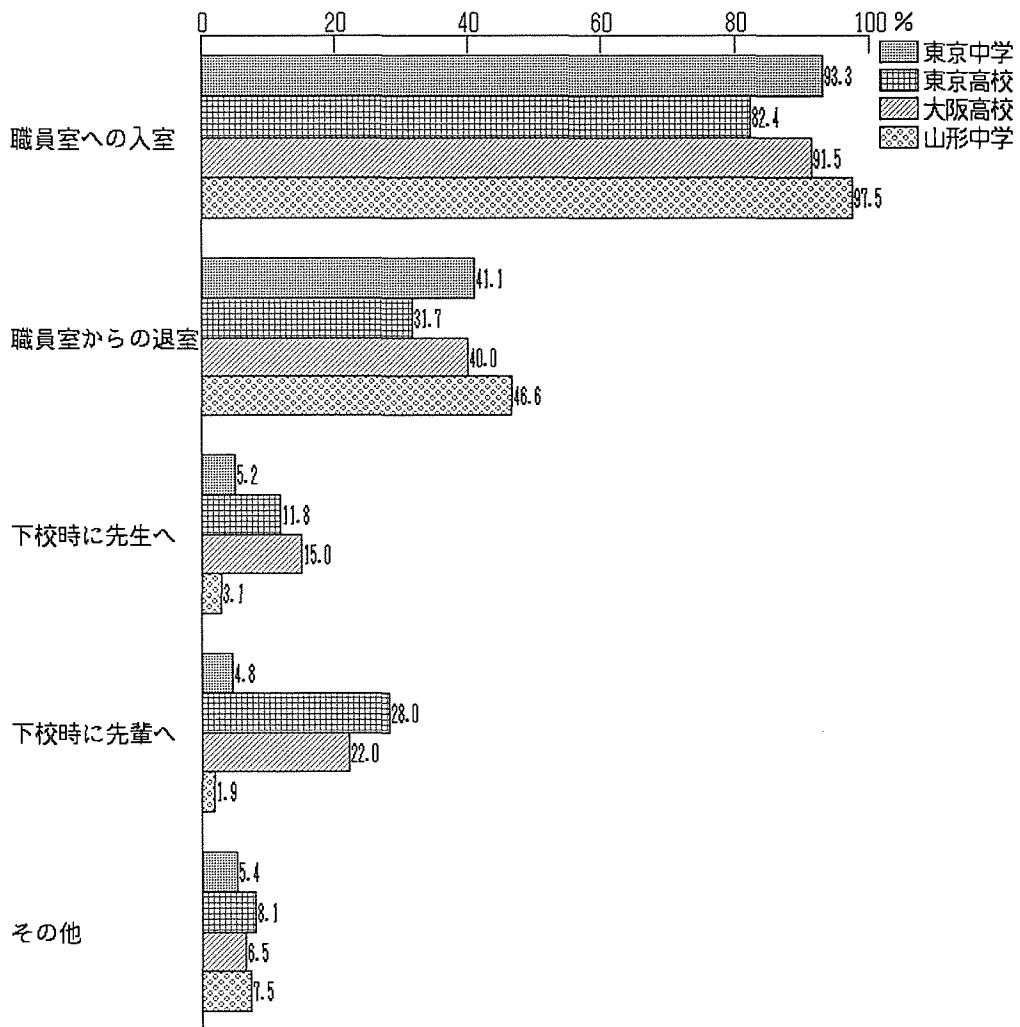


図 5-6-2 「失礼シマス」を使う場面(男子)

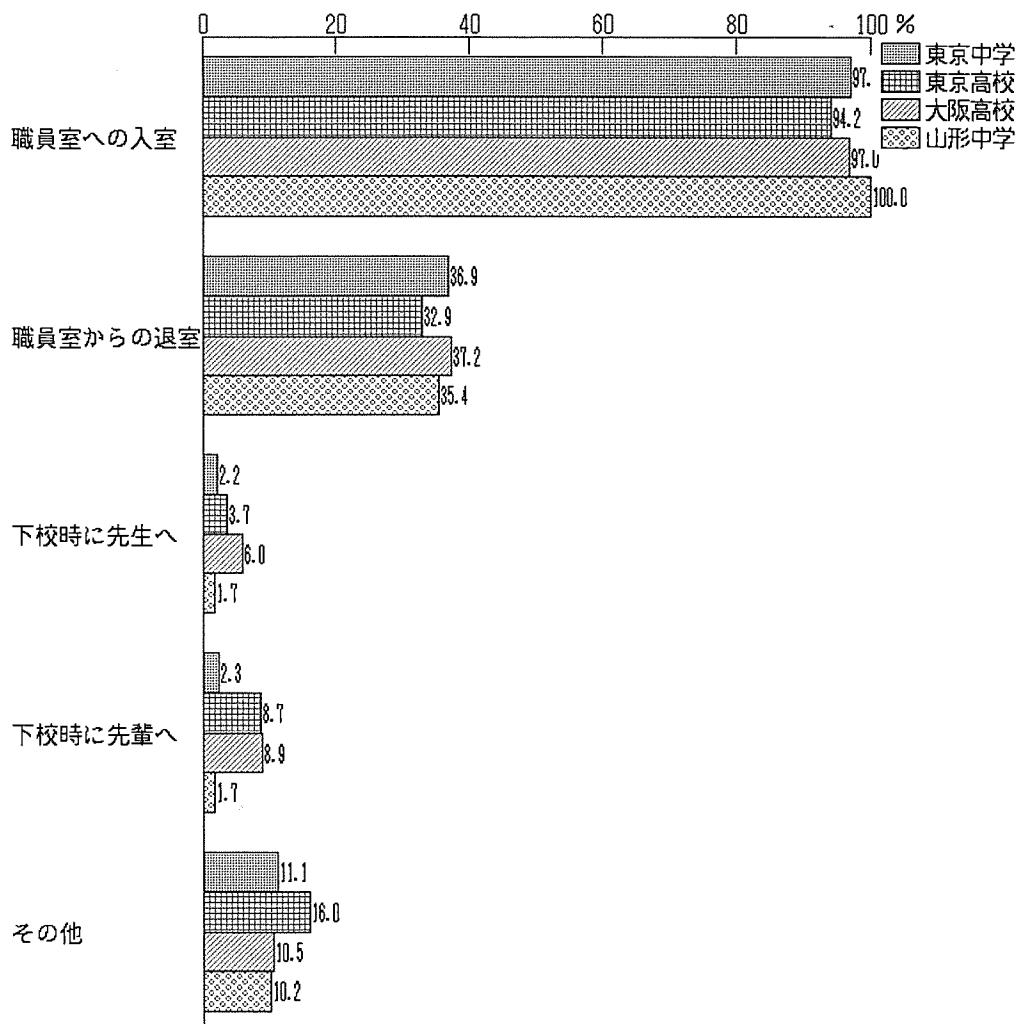


図 5-6-3 「失礼シマス」を使う場面(女子)

表 5-7-1 自分自身では「センパイ」を使うか?

		使う	使わない	両方に○	NR
全 体	東京中学	69.0 1694	30.4 747	0.1 3	0.5 12
	東京高校	77.0 1711	22.3 495	0.0 0	0.7 16
	大阪高校	67.3 676	31.7 318	0.0 0	1.0 10
	山形中学	46.9 159	52.8 179	0.0 0	0.3 1
男 子	東京中学	55.0 707	44.2 568	0.2 2	0.6 8
	東京高校	68.9 797	30.2 349	0.0 0	1.0 11
	大阪高校	53.8 254	45.1 213	0.0 0	1.1 5
	山形中学	7.5 12	91.9 148	0.0 0	0.6 1
女 子	東京中学	84.3 987	15.3 179	0.1 1	0.3 4
	東京高校	85.8 910	13.7 145	0.0 0	0.5 5
	大阪高校	79.6 422	19.4 103	0.0 0	0.9 5
	山形中学	82.6 147	17.4 31	0.0 0	0.0 0

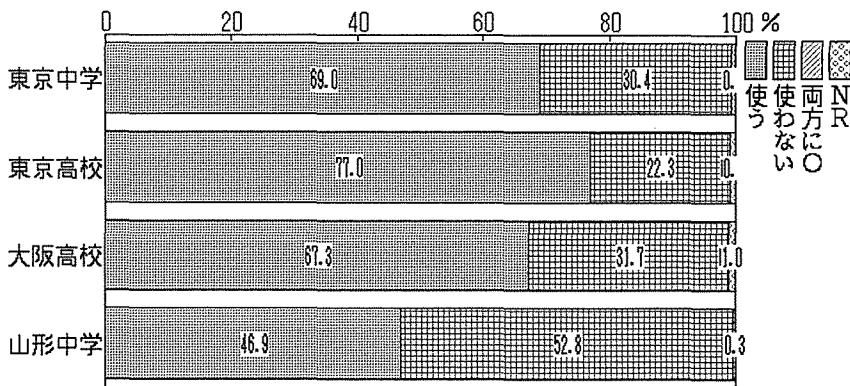


図 5-7-1-1 自分自身では「センパイ」を使うか？（全体）

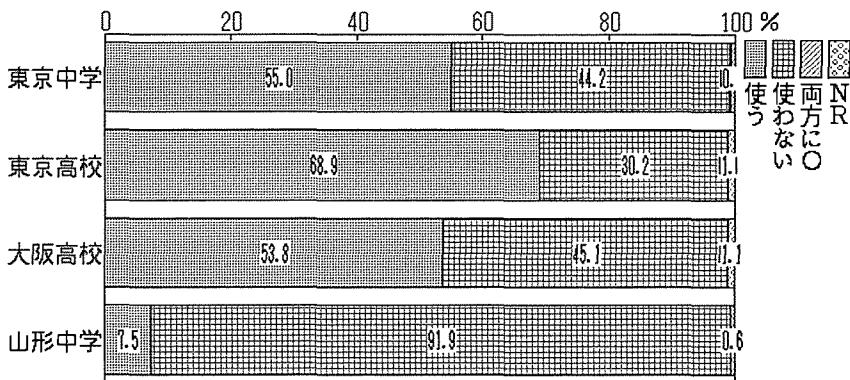


図 5-7-1-2 自分自身では「センpai」を使うか？（男子）

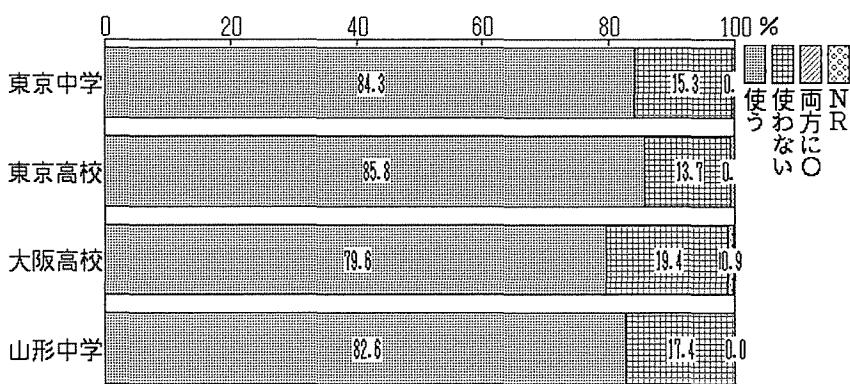


図 5-7-1-3 自分自身では「センpai」を使うか？（女子）

表 5-7-2 学校全体では「センパイ」を使うか?

		男子が使う	女子が使う	男女とも使う	誰も使わない	男子校	女子校	わからない	N R
全體	東京中学	6.4 157	21.1 517	63.8 1566	6.4 157	0.0 0	0.5 13	1.9 46	
	東京高校	1.8 41	4.3 95	69.7 1548	3.0 66	16.9 376	0.2 4	4.1 92	
	大阪高校	1.3 13	6.9 69	54.7 550	9.3 93	23.2 233	0.0 0	4.6 46	
	山形中学	0.6 2	82.9 281	8.0 27	8.3 28	0.0 0	0.0 0	0.3 1	
男子	東京中学	11.1 143	13.2 169	63.6 817	8.9 114	0.0 0	0.7 9	2.6 33	
	東京高校	3.3 38	2.9 34	68.3 790	4.0 46	16.7 193	0.2 2	4.7 54	
	大阪高校	2.1 10	4.9 23	52.8 249	14.0 66	20.1 95	0.0 0	6.1 29	
	山形中学	1.2 2	75.2 121	9.9 16	13.0 21	0.0 0	0.0 0	0.6 1	
女子	東京中学	1.2 14	29.7 348	64.0 749	3.7 43	0.0 0	0.3 4	1.1 13	
	東京高校	0.2 2	5.8 61	71.1 754	1.9 20	17.3 183	0.2 2	3.6 38	
	大阪高校	0.6 3	8.7 46	56.4 299	5.1 27	26.0 138	0.0 0	3.2 17	
	山形中学	0.0 0	89.9 160	6.2 11	3.9 7	0.0 0	0.0 0	0.0 0	

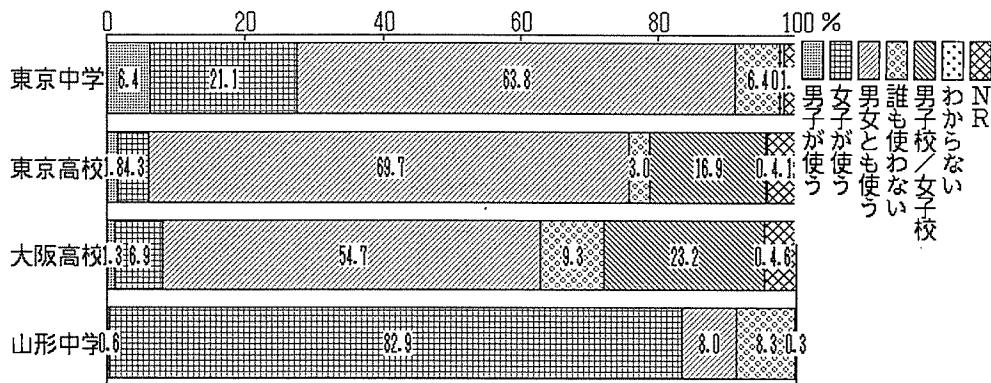


図 5-7-2-1 学校全体では「センパイ」を使うか？（全体）

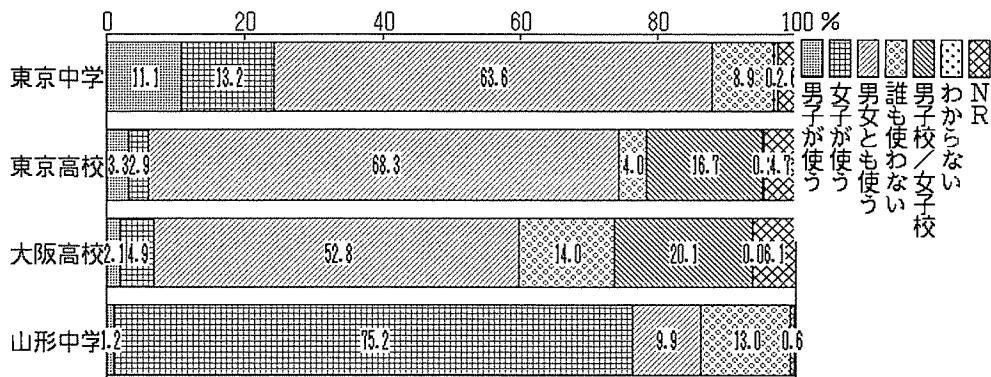


図 5-7-2-2 学校全体では「センパイ」を使うか？（男子）

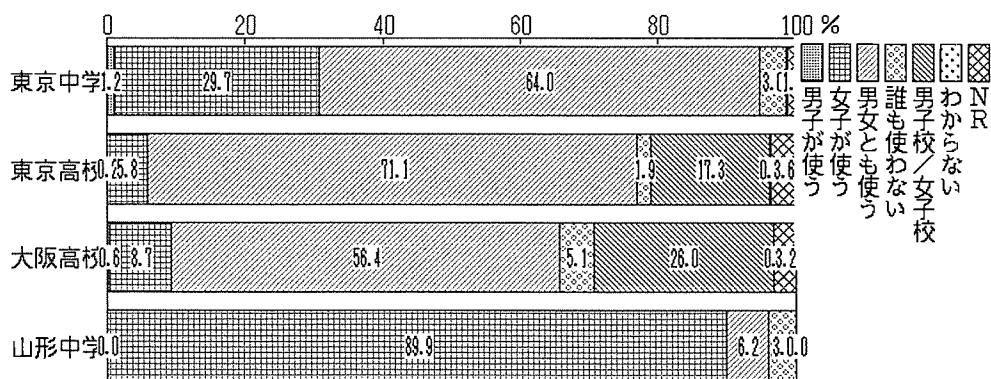


図 5-7-2-3 学校全体では「センパイ」を使うか？（女子）

表 5-8-1 先生に対して「(父/母が) ゆうてはりました」[大阪高校]

	言う	言わない	無印	N R
全体	5.0 50	93.4 938	0.3 3	1.3 13
男子	5.7 27	91.9 434	0.6 3	1.7 8
女子	4.3 23	94.7 502	0.0 0	0.9 5

表 5-8-2 先生に対して「(父/母が) 通勤してはります」[大阪高校]

	言う	言わない	無印	N R
全体	2.8 28	95.6 960	0.1 1	1.5 15
男子	3.4 16	94.7 447	0.2 1	1.7 8
女子	2.3 12	96.4 511	0.0 0	1.3 7

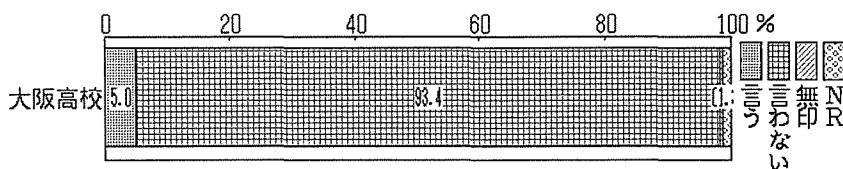


図 5-8-1-1 先生に対して「(父/母が)ゆうてはりました」[大阪高校] (全体)

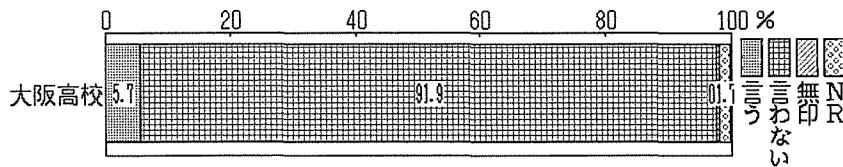


図 5-8-1-2 先生に対して「(父/母が)ゆうてはりました」[大阪高校] (男子)

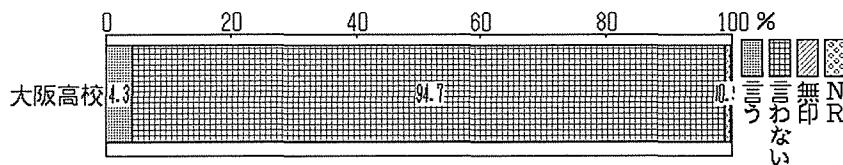


図 5-8-1-3 先生に対して「(父/母が)ゆうてはりました」[大阪高校] (女子)

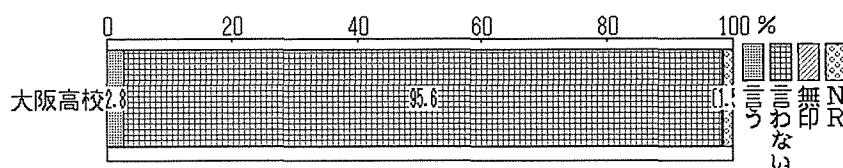


図 5-8-2-1 先生に対して「(父/母が)通勤してはります」[大阪高校] (全体)

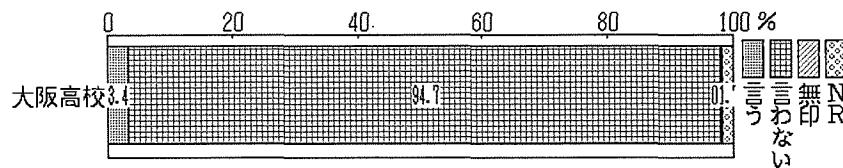


図 5-8-2-2 先生に対して「(父/母が)通勤してはります」[大阪高校] (男子)

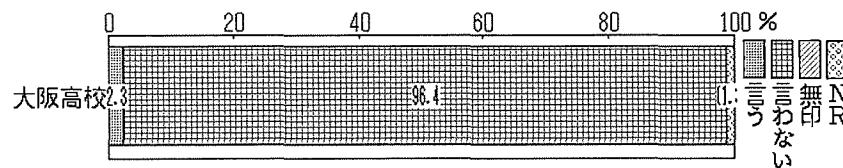


図 5-8-2-3 先生に対して「(父/母が)通勤してはります」[大阪高校] (女子)

表 5-9 授業や討論会での言葉のアクセント [大阪高校]

	方言 アクセント	標準語 アクセント	わから ない	2つ以 上に○	N R
全 体	43.1 433	29.6 297	19.2 193	7.0 70	1.1 11
男 子	45.8 216	24.6 116	20.3 96	7.8 37	1.5 7
女 子	40.9 217	33.8 179	18.3 97	6.2 33	0.8 4

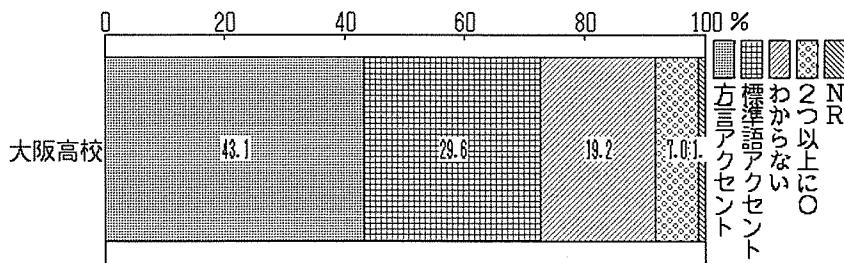


図 5-9-1 授業や討論会での言葉のアクセント [大阪高校] (全体)

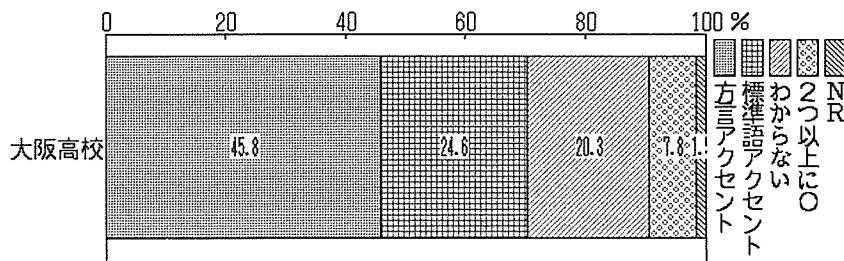


図 5-9-2 授業や討論会での言葉のアクセント [大阪高校] (男子)

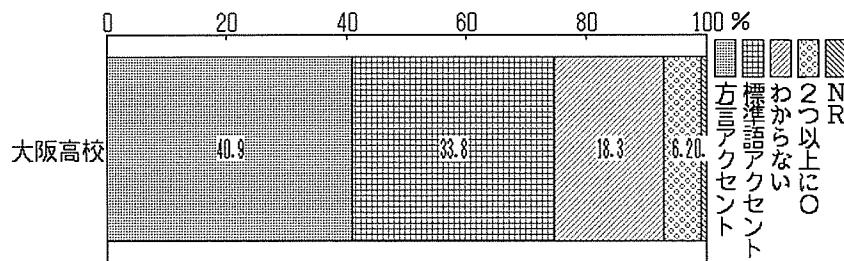


図 5-9-3 授業や討論会での言葉のアクセント [大阪高校] (女子)

表 5-10-1 参観日の授業で答える時の〈声の大きさ〉

		大きく なる	同じ	小さく なる	わから ない	NR
全 体	東京中学	3.4 83	53.3 1309	30.5 750	12.3 303	0.4 11
	東京高校	6.2 137	51.5 1145	30.3 673	11.9 265	0.1 2
	大阪高校	3.8 38	51.3 515	33.8 339	10.9 109	0.3 3
	山形中学	1.5 5	48.7 165	37.2 126	12.7 43	0.0 0
男 子	東京中学	3.8 49	62.3 800	21.7 279	11.7 150	0.5 7
	東京高校	6.7 77	60.1 695	22.0 254	11.2 130	0.1 1
	大阪高校	4.7 22	61.9 292	23.3 110	10.0 47	0.2 1
	山形中学	3.1 5	54.7 88	31.7 51	10.6 17	0.0 0
女 子	東京中学	2.9 34	43.5 509	40.2 471	13.1 153	0.3 4
	東京高校	5.7 60	42.3 448	39.2 416	12.7 135	0.1 1
	大阪高校	3.0 16	41.7 221	43.2 229	11.7 62	0.4 2
	山形中学	0.0 0	43.3 77	42.1 75	14.6 26	0.0 0

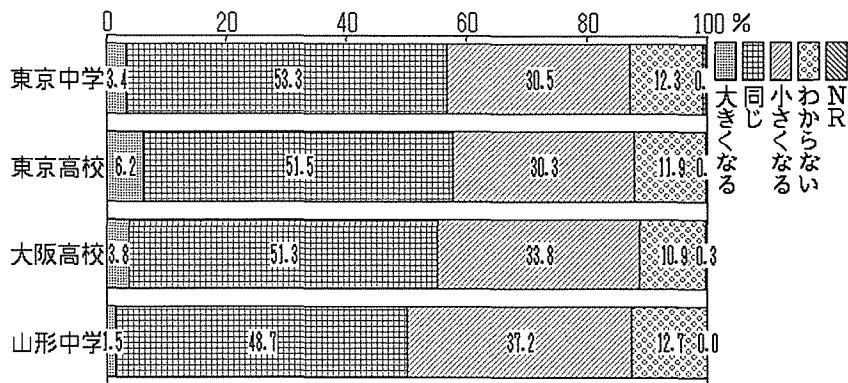


図 5-10-1-1 参観日の授業で答える時の〈声の大きさ〉(全体)

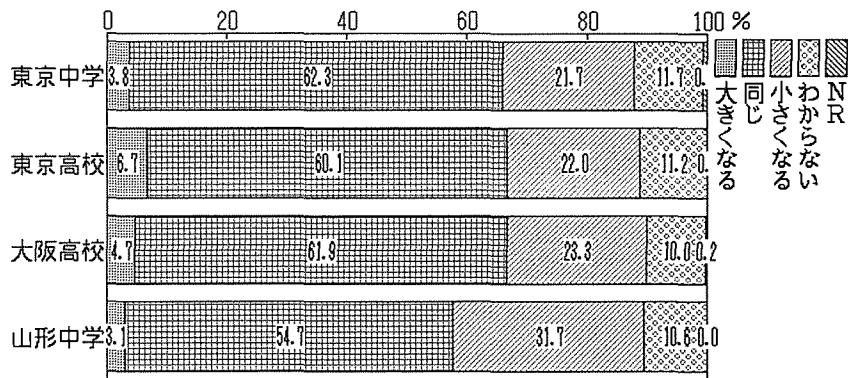


図 5-10-1-2 参観日の授業で答える時の〈声の大きさ〉(男子)

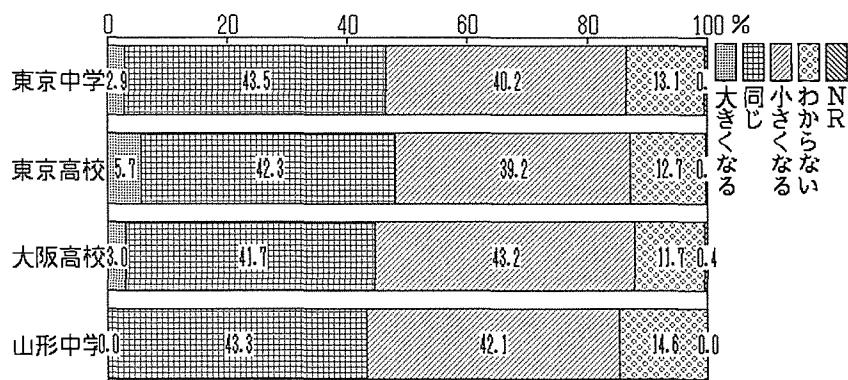


図 5-10-1-3 参観日の授業で答える時の〈声の大きさ〉(女子)

表 5-10-2 参観日の授業で答える時の〈声の高さ〉

		高くなる	同じ	低くなる	わからぬ	2つに○	NR
全 体	東京中学	10.7 263	60.1 1476	10.5 258	18.2 447	0.1 2	0.4 10
	東京高校	14.5 323	56.4 1254	13.6 302	15.3 340	0.0 0	0.1 3
	大阪高校	14.4 145	56.7 569	12.3 123	16.3 164	0.0 0	0.3 3
	山形中学	5.0 17	60.2 204	20.4 69	14.5 49	0.0 0	0.0 0
男 子	東京中学	4.0 51	64.8 833	13.5 174	17.0 218	0.2 2	0.5 7
	東京高校	6.9 80	62.9 724	15.6 181	14.8 171	0.0 0	0.1 1
	大阪高校	5.7 27	64.2 303	14.0 66	15.9 75	0.0 0	0.2 1
	山形中学	1.9 3	66.5 107	18.6 30	13.0 21	0.0 0	0.0 0
女 子	東京中学	18.1 212	54.9 643	7.2 84	19.6 229	0.0 0	0.3 3
	東京高校	22.8 242	49.9 529	11.1 118	15.9 169	0.0 0	0.2 2
	大阪高校	22.3 118	49.8 264	10.8 57	16.8 89	0.0 0	0.4 2
	山形中学	7.9 14	54.5 97	21.9 39	15.7 28	0.0 0	0.0 0

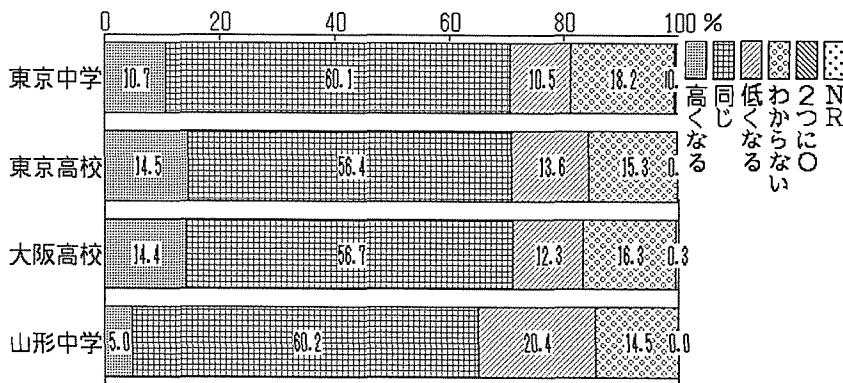


図 5-10-2-1 参観日の授業で答える時の〈声の高さ〉(全体)

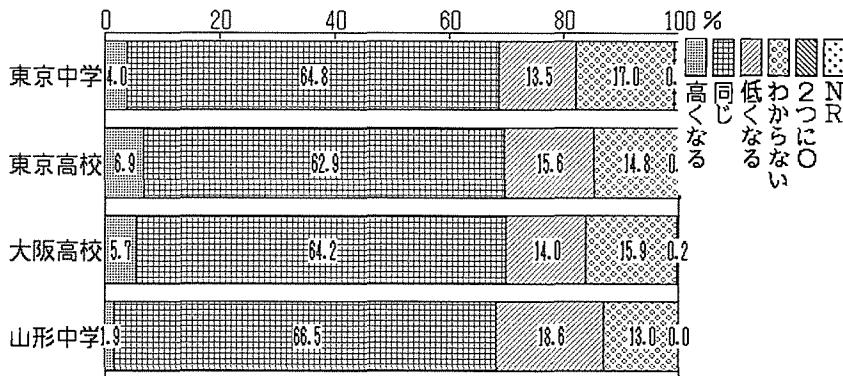


図 5-10-2-2 参観日の授業で答える時の〈声の高さ〉(男子)

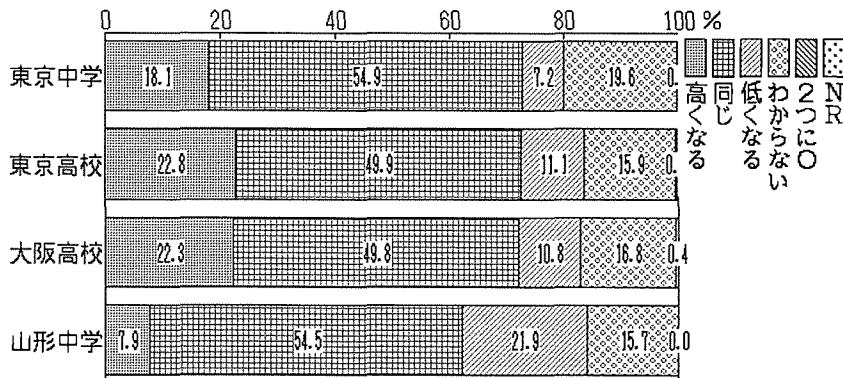


図 5-10-2-3 参観日の授業で答える時の〈声の高さ〉(女子)

表 5-10-3 参観日の授業で答える時の〈声の明瞭さ〉

		はっきりする	同じ	はっきりしない	わからない	N R
全 体	東京中学	7.3 179	55.0 1351	20.9 514	16.2 398	0.6 14
	東京高校	10.4 232	51.4 1143	21.4 475	16.6 369	0.1 3
	大阪高校	7.5 75	54.3 545	22.4 225	15.5 156	0.3 3
	山形中学	5.3 18	56.6 192	22.7 77	15.3 52	0.0 0
男 子	東京中学	6.7 86	60.5 777	18.4 236	13.9 179	0.5 7
	東京高校	10.3 119	55.4 641	19.3 223	15.0 173	0.1 1
	大阪高校	6.8 32	60.2 284	20.1 95	12.5 59	0.4 2
	山形中学	8.1 13	59.0 95	21.7 35	11.2 18	0.0 0
女 子	東京中学	7.9 93	49.0 574	23.7 278	18.7 219	0.6 7
	東京高校	10.7 113	47.2 500	23.6 250	18.4 195	0.2 2
	大阪高校	8.1 43	48.9 259	24.5 130	18.3 97	0.2 1
	山形中学	2.8 5	54.5 97	23.6 42	19.1 34	0.0 0

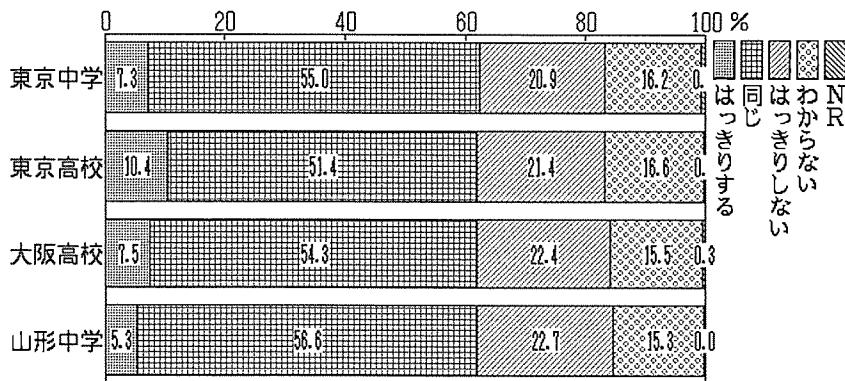


図 5-10-3-1 参観日の授業で答える時の<声の明瞭さ>（全体）

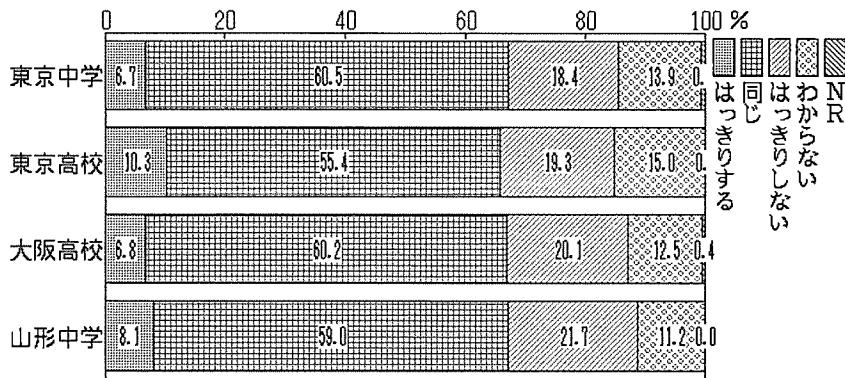


図 5-10-3-2 参観日の授業で答える時の<声の明瞭さ>（男子）

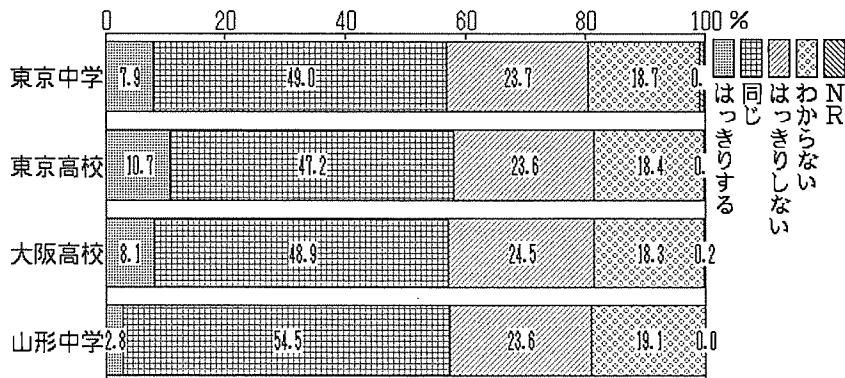


図 5-10-3-3 参観日の授業で答える時の<声の明瞭さ>（女子）

表5-10-4 参観日の授業で答える時の〈話の早さ〉

		早口になる	同じ	ゆっくりになる	わからない	2つに○	NR
全 体	東京中学	16.6 407	60.5 1486	9.6 235	12.9 318	0.0 1	0.4 9
	東京高校	14.9 332	58.1 1291	14.8 328	12.0 267	0.0 0	0.2 4
	大阪高校	13.3 134	59.2 594	13.2 133	13.9 140	0.1 1	0.2 2
	山形中学	17.7 60	59.3 201	12.1 41	10.9 37	0.0 0	0.0 0
男 子	東京中学	14.6 187	64.0 822	8.8 113	12.1 156	0.1 1	0.5 6
	東京高校	14.2 164	61.4 710	12.8 148	11.6 134	0.0 0	0.1 1
	大阪高校	11.7 55	65.3 308	10.8 51	12.1 57	0.0 0	0.2 1
	山形中学	14.9 24	61.5 99	12.4 20	11.2 18	0.0 0	0.0 0
女 子	東京中学	18.8 220	56.7 664	10.4 122	13.8 162	0.0 0	0.3 3
	東京高校	15.8 168	54.6 579	16.8 178	12.5 132	0.0 0	0.3 3
	大阪高校	14.9 79	53.6 284	15.5 82	15.7 83	0.2 1	0.2 1
	山形中学	20.2 36	57.3 102	11.8 21	10.7 19	0.0 0	0.0 0

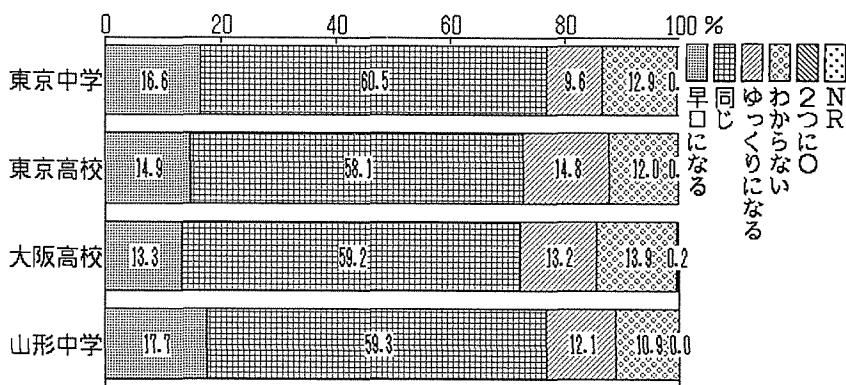


図 5-10-4-1 参観日の授業で答える時の〈話の早さ〉(全体)

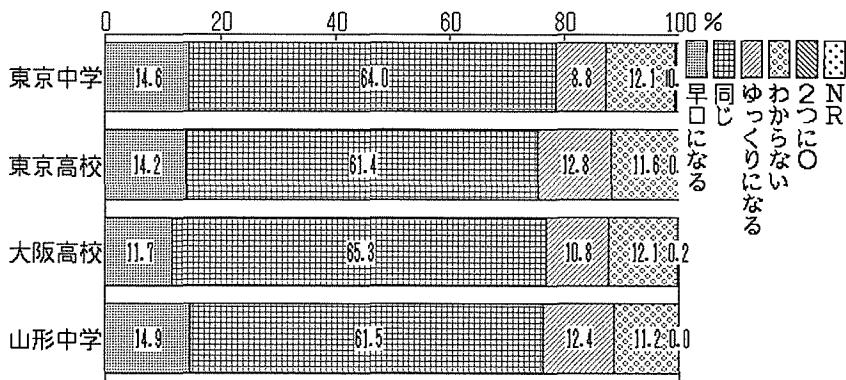


図 5-10-4-2 参観日の授業で答える時の〈話の早さ〉(男子)

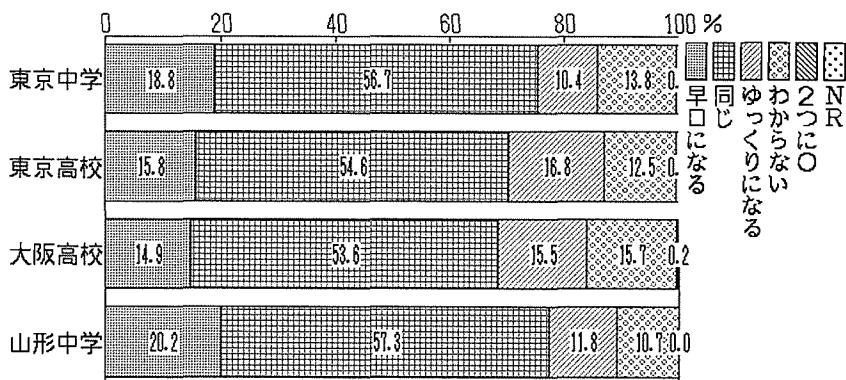


図 5-10-4-3 参観日の授業で答える時の〈話の早さ〉(女子)

表 5-10-5 参観日の授業で答える時の〈緊張度〉

		緊張する	少し緊張する	緊張しない	わからない	2つに○	NR
全 体	東京中学	27.6 678	52.1 1279	19.9 488	0.0 0	0.0 1	0.4 10
	東京高校	27.2 604	55.7 1238	16.8 374	0.0 1	0.0 0	0.2 5
	大阪高校	23.1 232	57.5 577	19.2 193	0.0 0	0.0 0	0.2 2
	山形中学	20.9 71	61.9 210	17.1 58	0.0 0	0.0 0	0.0 0
男 子	東京中学	19.1 245	54.2 696	26.2 337	0.0 0	0.1 1	0.5 6
	東京高校	20.6 238	57.1 661	22.1 256	0.0 0	0.0 0	0.2 2
	大阪高校	17.4 82	57.0 269	25.4 120	0.0 0	0.0 0	0.2 1
	山形中学	18.0 29	59.6 96	22.4 36	0.0 0	0.0 0	0.0 0
女 子	東京中学	37.0 433	49.8 583	12.9 151	0.0 0	0.0 0	0.3 4
	東京高校	34.3 364	54.2 574	11.1 118	0.1 1	0.0 0	0.3 3
	大阪高校	28.3 150	57.9 307	13.6 72	0.0 0	0.0 0	0.2 1
	山形中学	23.6 42	64.0 114	12.4 22	0.0 0	0.0 0	0.0 0

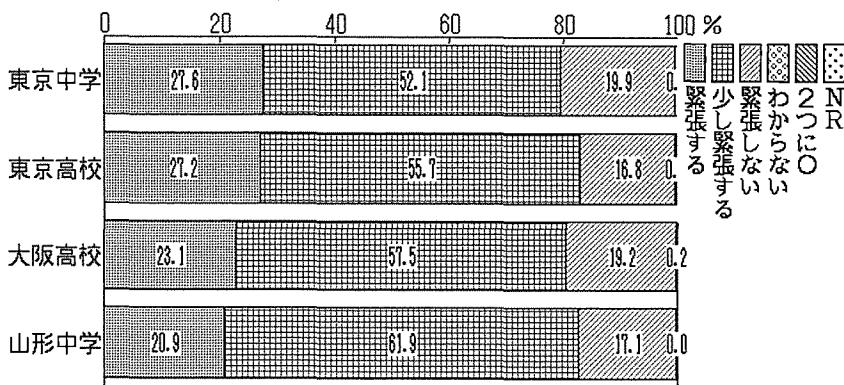


図 5-10-5-1 参観日の授業で答える時の〈緊張度〉(全体)

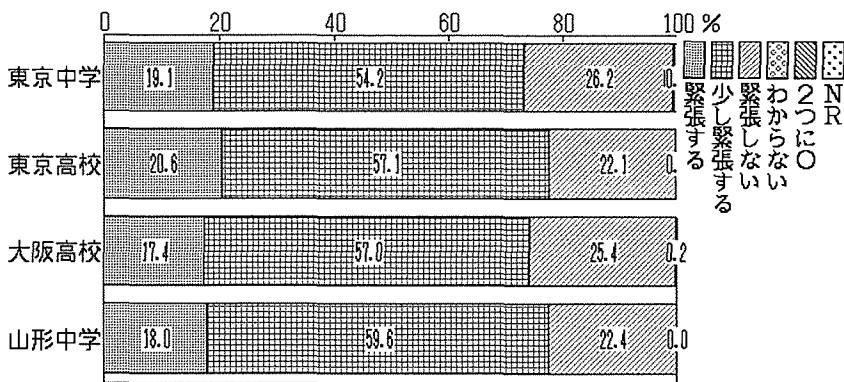


図 5-10-5-2 参観日の授業で答える時の〈緊張度〉(男子)

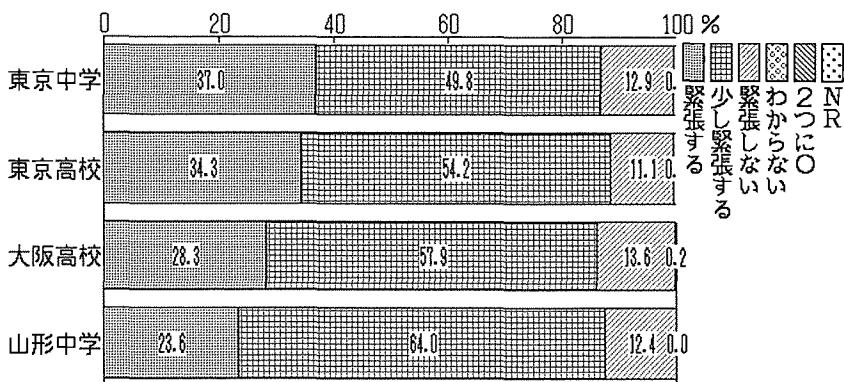


図 5-10-5-3 参観日の授業で答える時の〈緊張度〉(女子)

表 5-11-1 友人に対して佐藤先生を「佐藤サン」<現在>

		使用	不使用	N R
全 体	東京中学	9.5 233	90.0 2210	0.5 13
	東京高校	12.6 279	87.1 1936	0.3 7
	大阪高校	20.6 207	78.8 791	0.6 6
	山形中学	6.5 22	93.5 317	0.0 0
男 子	東京中学	9.7 125	89.8 1154	0.5 6
	東京高校	13.9 161	85.8 993	0.3 3
	大阪高校	19.9 94	79.7 376	0.4 2
	山形中学	8.1 13	91.9 148	0.0 0
女 子	東京中学	9.2 108	90.2 1056	0.6 7
	東京高校	11.0 117	88.6 939	0.4 4
	大阪高校	21.1 112	78.1 414	0.8 4
	山形中学	5.1 9	94.9 169	0.0 0

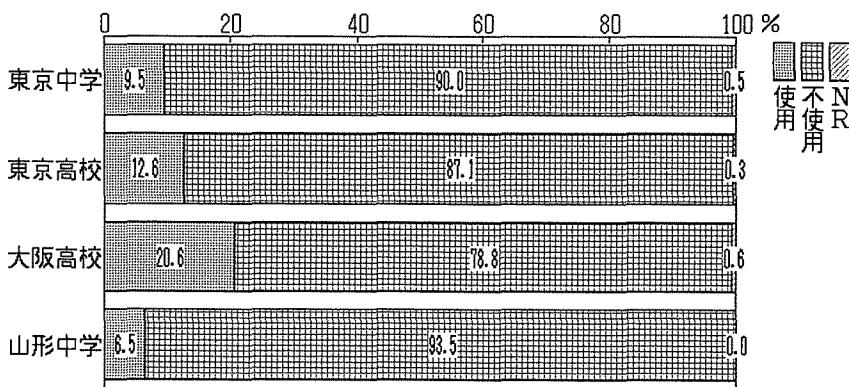


図 5-11-1-1 友人に対して佐藤先生を「佐藤サン」<現在>（全体）

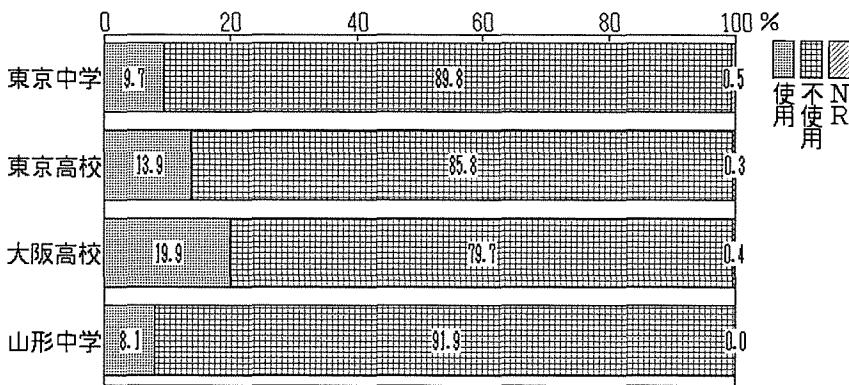


図 5-11-1-2 友人に対して佐藤先生を「佐藤サン」<現在>（男子）

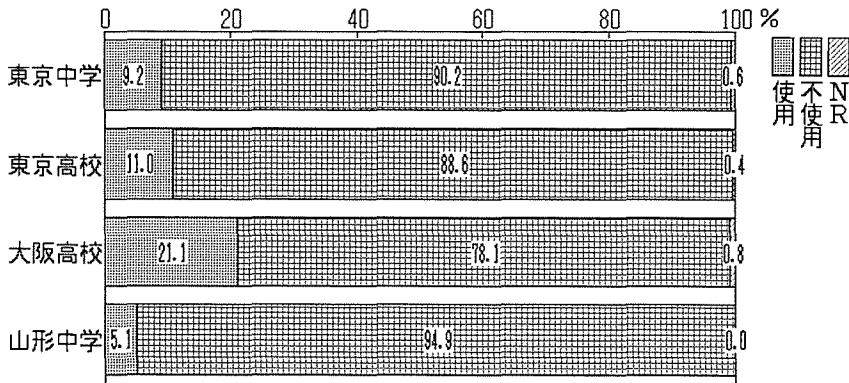


図 5-11-1-3 友人に対して佐藤先生を「佐藤サン」<現在>（女子）

表 5-11-2 友人に対して佐藤先生を「佐藤サン」<以前>

		使用	不使用	NR
全 体	東京中学	7.9 194	91.6 2250	0.5 12
	東京高校	11.2 248	88.5 1966	0.4 8
	大阪高校	21.3 214	78.3 786	0.4 4
	山形中学	5.3 18	94.7 321	0.0 0
男 子	東京中学	8.6 110	90.8 1167	0.6 8
	東京高校	12.5 145	87.2 1009	0.3 3
	大阪高校	19.7 93	79.9 377	0.4 2
	山形中学	7.5 12	92.5 149	0.0 0
女 子	東京中学	7.2 84	92.5 1083	0.3 4
	東京高校	9.6 102	89.9 953	0.5 5
	大阪高校	22.6 120	77.0 408	0.4 2
	山形中学	3.4 6	96.6 172	0.0 0

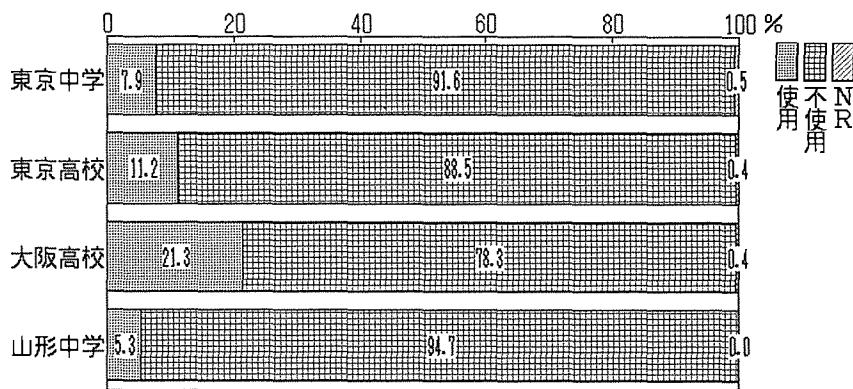


図 5-11-2-1 友人に対して佐藤先生を「佐藤サン」<以前>（全体）

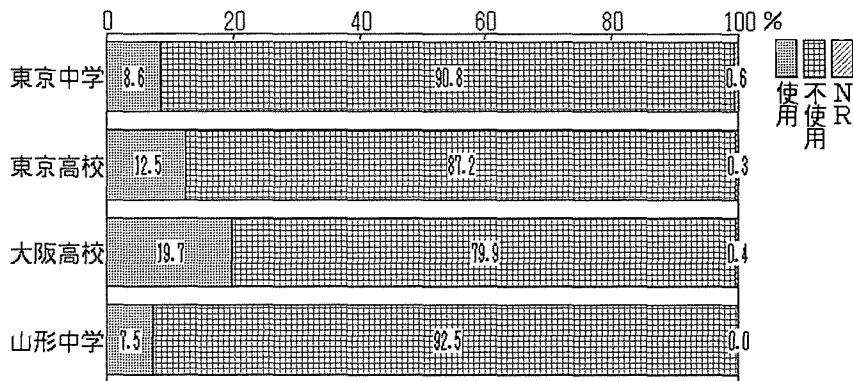


図 5-11-2-2 友人に対して佐藤先生を「佐藤サン」<以前>（男子）

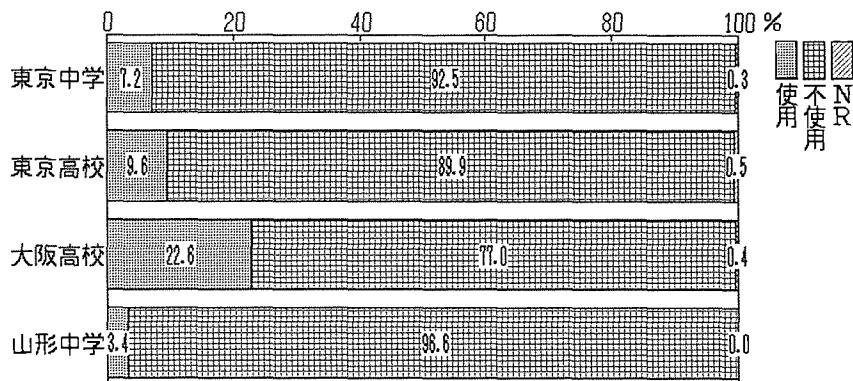


図 5-11-2-3 友人に対して佐藤先生を「佐藤サン」<以前>（女子）

表 5-11-3 別の先生に対して佐藤先生を「佐藤先生」<現在>

		使用	不使用	N R
全 体	東京中学	83.2 2043	15.8 389	1.0 24
	東京高校	84.9 1887	14.4 321	0.6 14
	大阪高校	79.1 794	20.5 206	0.4 4
	山形中学	74.6 253	25.1 85	0.3 1
男 子	東京中学	77.4 995	20.9 268	1.7 22
	東京高校	78.8 912	20.5 237	0.7 8
	大阪高校	71.2 336	28.2 133	0.6 3
	山形中学	60.9 98	39.1 63	0.0 0
女 子	東京中学	89.5 1048	10.3 121	0.2 2
	東京高校	91.5 970	7.9 84	0.6 6
	大阪高校	86.2 457	13.6 72	0.2 1
	山形中学	87.1 155	12.4 22	0.6 1

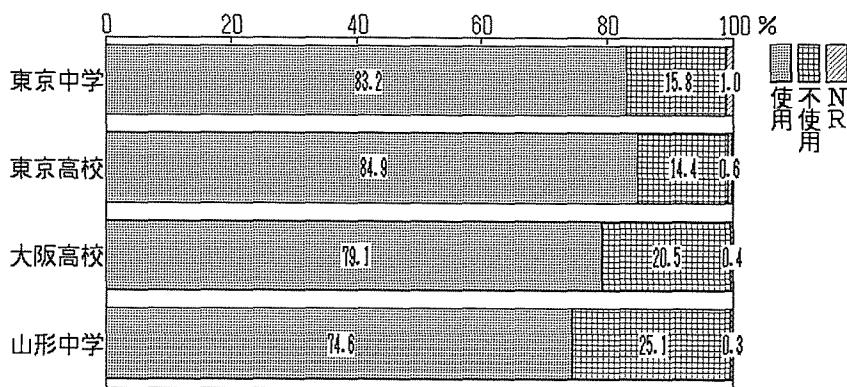


図 5-11-3-1 別の先生に対して佐藤先生を「佐藤先生」<現在>(全体)

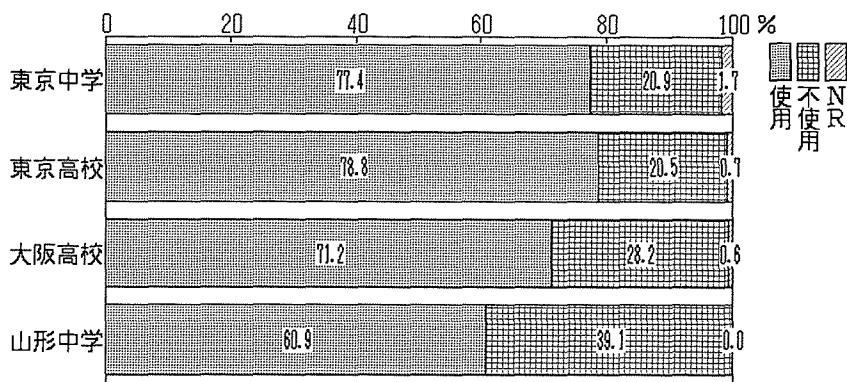


図 5-11-3-2 別の先生に対して佐藤先生を「佐藤先生」<現在>(男子)

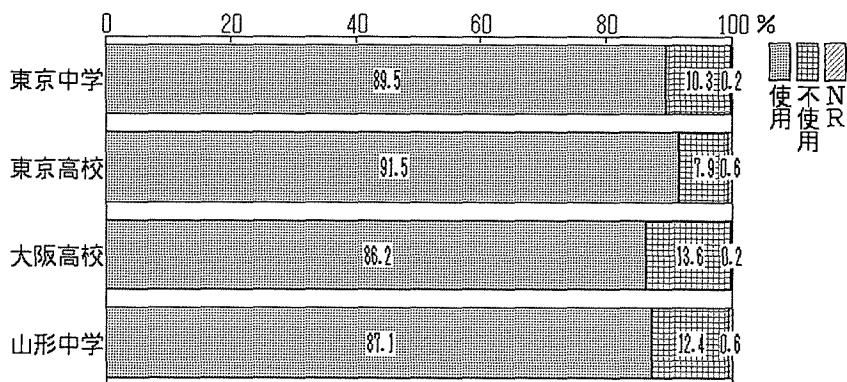


図 5-11-3-3 別の先生に対して佐藤先生を「佐藤先生」<現在>(女子)

表 5-11-4 別の先生に対して佐藤先生を「佐藤先生」<以前>

		使用	不使用	NR
全 体	東京中学	83.0 2039	16.5 405	0.5 12
	東京高校	85.7 1905	13.8 307	0.5 10
	大阪高校	75.7 760	23.8 239	0.5 5
	山形中学	72.6 246	27.1 92	0.3 1
男 子	東京中学	77.0 990	22.1 284	0.9 11
	東京高校	79.9 924	19.8 229	0.3 4
	大阪高校	68.6 324	30.7 145	0.6 3
	山形中学	65.2 105	34.8 56	0.0 0
女 子	東京中学	89.6 1049	10.3 121	0.1 1
	東京高校	92.1 976	7.4 78	0.6 6
	大阪高校	82.1 435	17.5 93	0.4 2
	山形中学	79.2 141	20.2 36	0.6 1

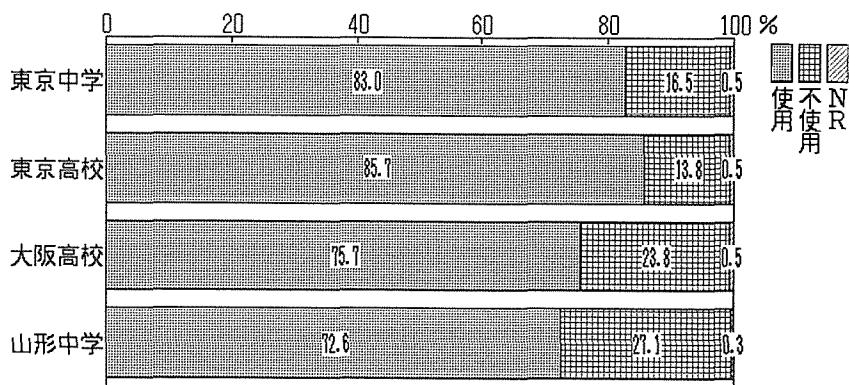


図 5-11-4-1 別の先生に対して佐藤先生を「佐藤先生」<以前>（全体）

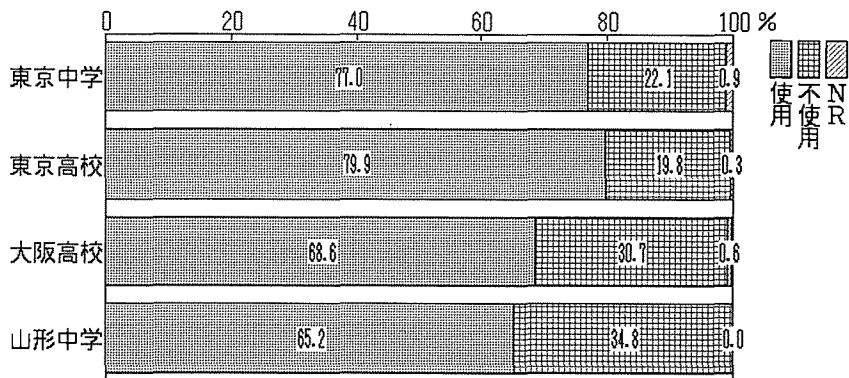


図 5-11-4-2 別の先生に対して佐藤先生を「佐藤先生」<以前>（男子）

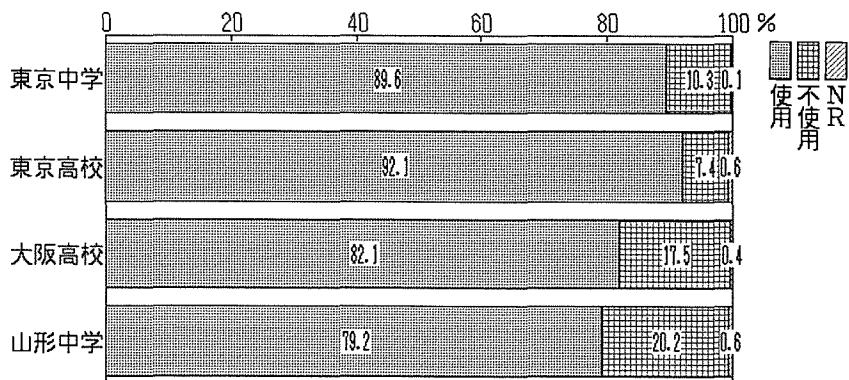


図 5-11-4-3 別の先生に対して佐藤先生を「佐藤先生」<以前>（女子）

表 5-11-5 友人に対して佐藤先生を「佐藤」<現在>

		使用	不使用	覚えてない	N R
全 体	東京中学	50.0 1228	49.2 1209	0.1 2	0.7 17
	東京高校	68.0 1511	31.1 692	0.0 0	0.9 19
	大阪高校	74.0 743	25.7 258	0.1 1	0.2 2
	山形中学	44.2 150	55.2 187	0.0 0	0.6 2
男 子	東京中学	48.5 623	50.5 649	0.1 1	0.9 12
	東京高校	74.8 865	24.5 283	0.0 0	0.8 9
	大阪高校	77.1 364	22.2 105	0.2 1	0.4 2
	山形中学	45.3 73	53.4 86	0.0 0	1.2 2
女 子	東京中学	51.7 605	47.8 560	0.1 1	0.4 5
	東京高校	60.6 642	38.5 408	0.0 0	0.9 10
	大阪高校	71.1 377	28.9 153	0.0 0	0.0 0
	山形中学	43.3 77	56.7 101	0.0 0	0.0 0

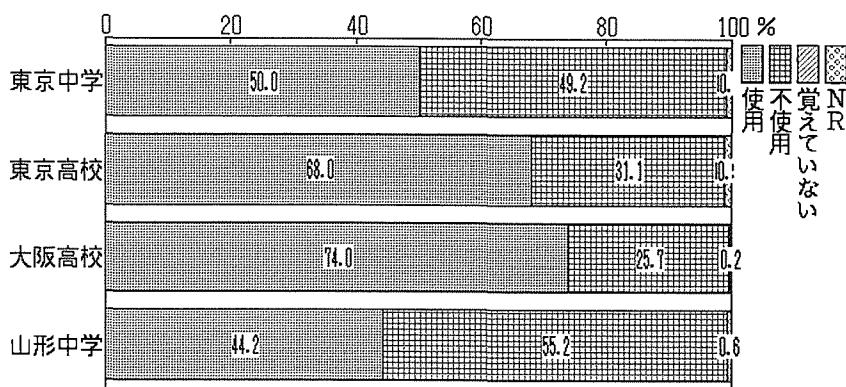


図 5-11-5-1 友人に対して佐藤先生を「佐藤」<現在> (全体)

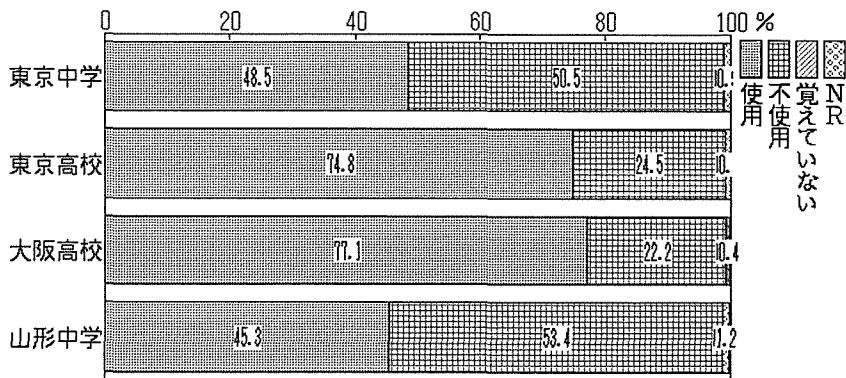


図 5-11-5-2 友人に対して佐藤先生を「佐藤」<現在> (男子)

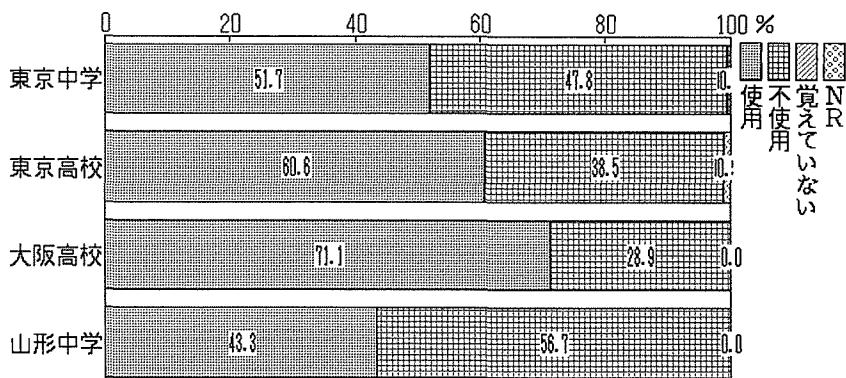


図 5-11-5-3 友人に対して佐藤先生を「佐藤」<現在> (女子)

表 5-11-6 友人に対して佐藤先生を「佐藤」<以前>

		使用	不使用	覚えてない	NR
全 体	東京中学	27.3 670	72.3 1775	0.0 0	0.4 11
	東京高校	70.0 1555	29.3 651	0.0 1	0.7 15
	大阪高校	79.1 794	20.6 207	0.1 1	0.2 2
	山形中学	28.9 98	70.5 239	0.0 0	0.6 2
男 子	東京中学	32.4 416	66.9 860	0.0 0	0.7 9
	東京高校	73.3 848	26.1 302	0.1 1	0.5 6
	大阪高校	78.0 368	21.4 101	0.2 1	0.4 2
	山形中学	32.3 52	66.5 107	0.0 0	1.2 2
女 子	東京中学	21.7 254	78.1 915	0.0 0	0.2 2
	東京高校	66.3 703	32.8 348	0.0 0	0.8 9
	大阪高校	80.0 424	20.0 106	0.0 0	0.0 0
	山形中学	25.8 46	74.2 132	0.0 0	0.0 0

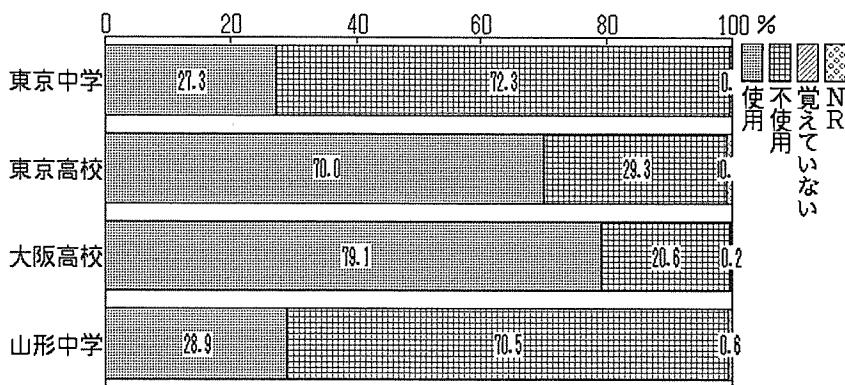


図 5-11-6-1 友人に対して佐藤先生を「佐藤」<以前>（全体）

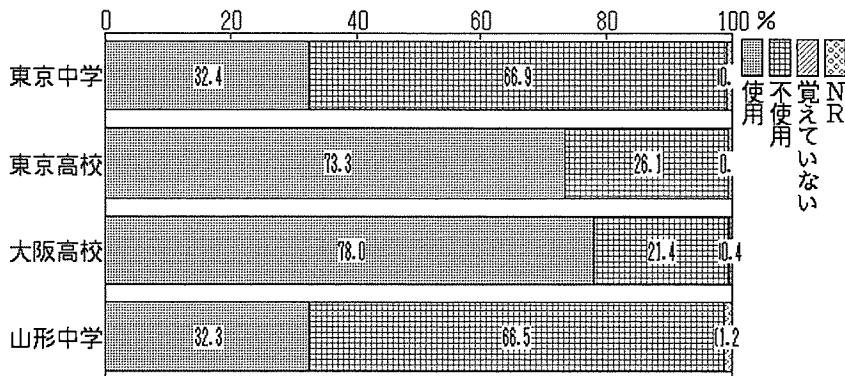


図 5-11-6-2 友人に対して佐藤先生を「佐藤」<以前>（男子）

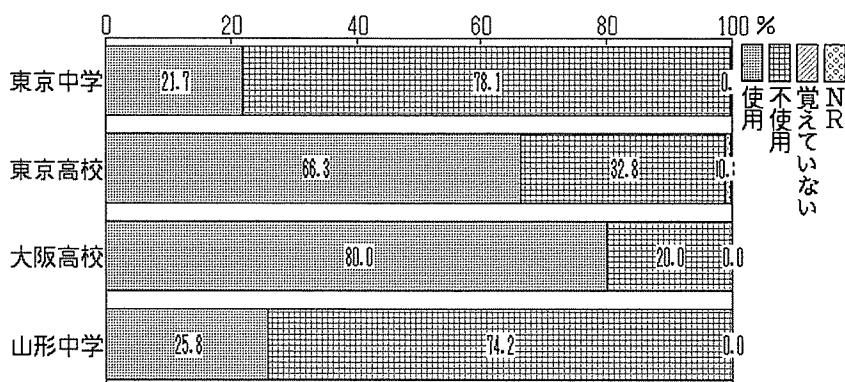


図 5-11-6-3 友人に対して佐藤先生を「佐藤」<以前>（女子）

表 5-11-7 先生に対して「帰ラレタ」<現在>

		使用	不使用	覚えてない	NR
全 体	東京中学	14.7 360	84.8 2082	0.0 1	0.5 13
	東京高校	22.4 497	77.0 1710	0.0 1	0.6 14
	大阪高校	31.1 312	68.6 689	0.0 0	0.3 3
	山形中学	8.3 28	91.4 310	0.0 0	0.3 1
男 子	東京中学	12.0 154	87.3 1122	0.1 1	0.6 8
	東京高校	18.4 213	81.1 938	0.0 0	0.5 6
	大阪高校	24.4 115	75.4 356	0.0 0	0.2 1
	山形中学	6.8 11	92.5 149	0.0 0	0.6 1
女 子	東京中学	17.6 206	82.0 960	0.0 0	0.4 5
	東京高校	26.5 281	72.6 770	0.1 1	0.8 8
	大阪高校	37.0 196	62.6 332	0.0 0	0.4 2
	山形中学	9.6 17	90.4 161	0.0 0	0.0 0

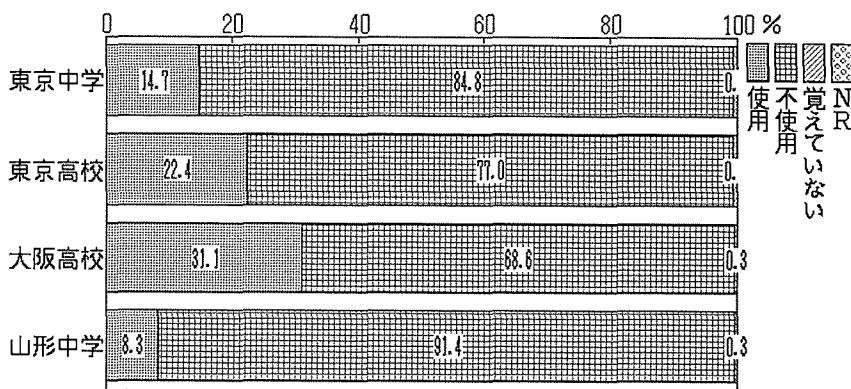


図 5-11-7-1 先生に対して「帰ラレタ」<現在>（全体）

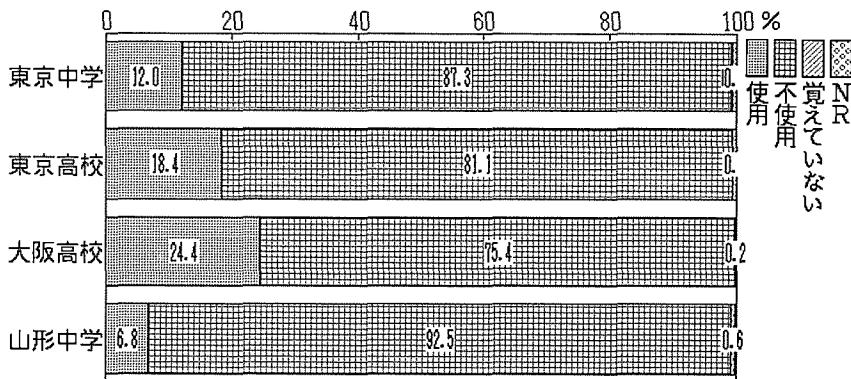


図 5-11-7-2 先生に対して「帰ラレタ」<現在>（男子）

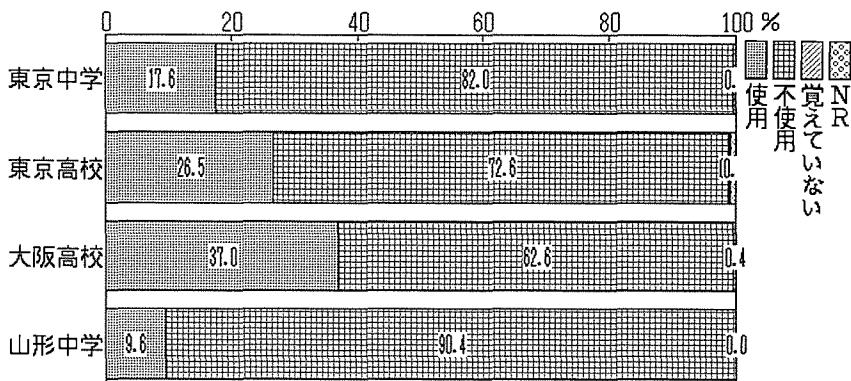


図 5-11-7-3 先生に対して「帰ラレタ」<現在>（女子）

表 5-11-8 先生に対して「帰ラレタ」<以前>

		使用	不使用	覚えてない	N R
全 体	東京中学	8.2 202	91.2 2241	0.1 2	0.4 11
	東京高校	17.4 386	82.3 1828	0.1 2	0.3 6
	大阪高校	22.2 223	77.5 778	0.0 0	0.3 3
	山形中学	7.4 25	92.3 313	0.0 0	0.3 1
男 子	東京中学	7.5 97	91.8 1179	0.2 2	0.5 7
	東京高校	15.3 177	84.5 978	0.0 1	0.1 1
	大阪高校	19.9 94	79.9 377	0.0 0	0.2 1
	山形中学	9.3 15	90.1 145	0.0 0	0.6 1
女 子	東京中学	9.0 105	90.7 1062	0.0 0	0.3 4
	東京高校	19.5 207	79.9 847	0.1 1	0.5 5
	大阪高校	24.3 129	75.3 399	0.0 0	0.4 2
	山形中学	5.6 10	94.4 168	0.0 0	0.0 0

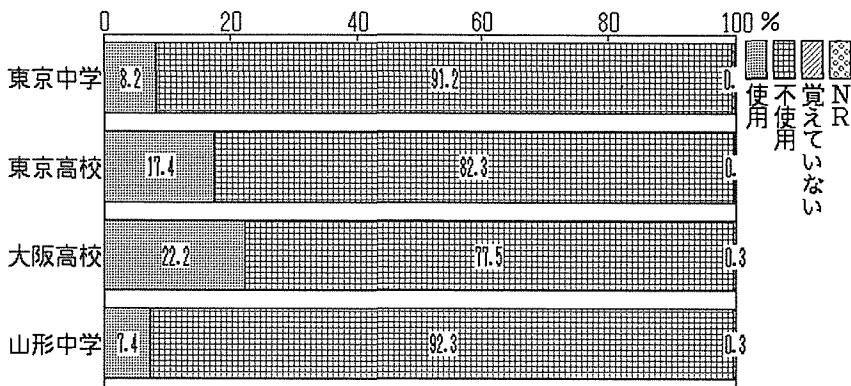


図 5-11-8-1 先生に対して「帰ラレタ」<以前>（全体）

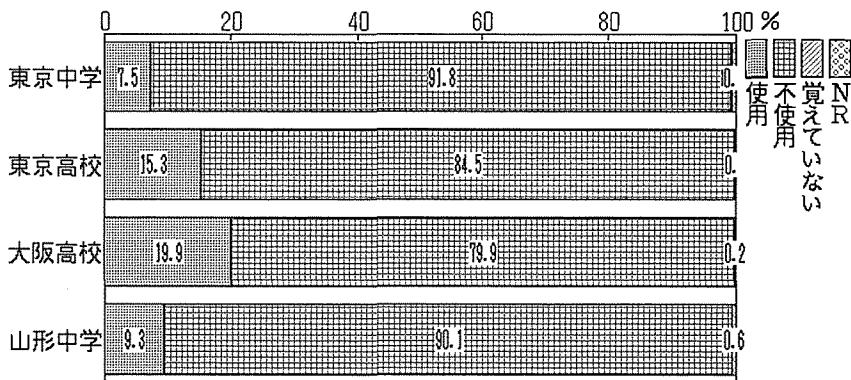


図 5-11-8-2 先生に対して「帰ラレタ」<以前>（男子）

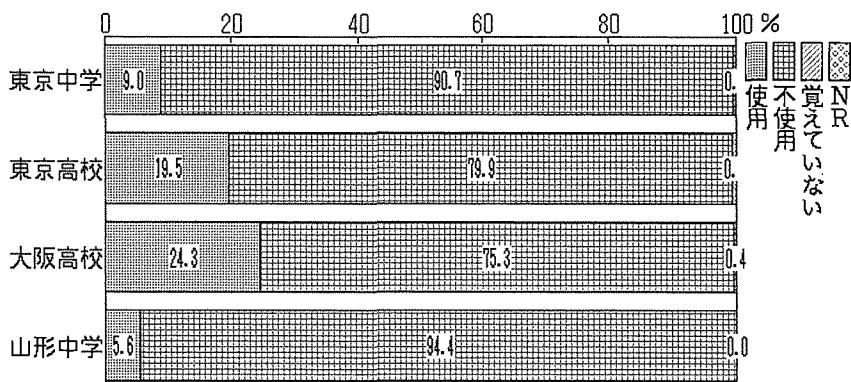


図 5-11-8-3 先生に対して「帰ラレタ」<以前>（女子）

表 5-11-9 先生に対して友人を「鈴木クン」<現在>

		使用	不使用	覚えてない	N R
全 体	東京中学	69.7 1713	29.8 732	0.1 3	0.3 8
	東京高校	75.2 1670	24.2 538	0.0 0	0.6 14
	大阪高校	60.9 611	38.9 391	0.0 0	0.2 2
	山形中学	67.3 228	32.2 109	0.0 0	0.6 2
男 子	東京中学	61.3 788	38.0 488	0.2 2	0.5 7
	東京高校	63.7 737	35.6 412	0.0 0	0.7 8
	大阪高校	45.6 215	54.0 255	0.0 0	0.4 2
	山形中学	64.6 104	34.8 56	0.0 0	0.6 1
女 子	東京中学	79.0 925	20.8 244	0.1 1	0.1 1
	東京高校	87.5 928	11.9 126	0.0 0	0.6 6
	大阪高校	74.5 395	25.5 135	0.0 0	0.0 0
	山形中学	69.7 124	29.8 53	0.0 0	0.6 1

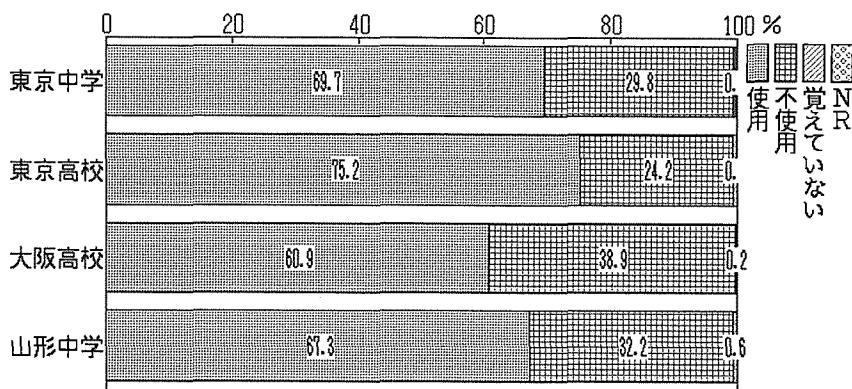


図 5-11-9-1 先生に対して友人を「鈴木くん」<現在>（全体）

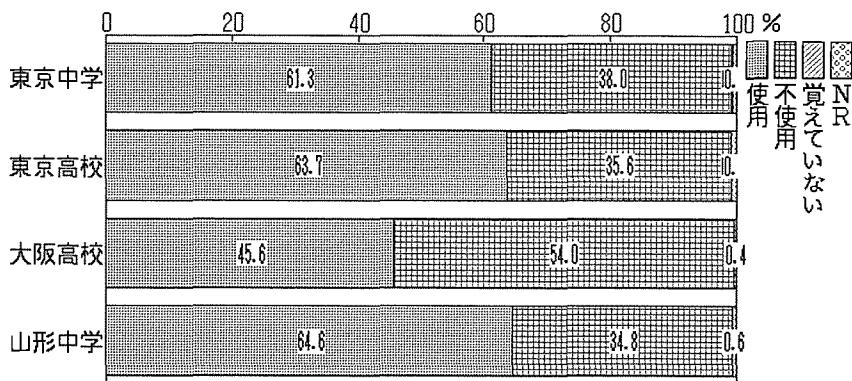


図 5-11-9-2 先生に対して友人を「鈴木くん」<現在>（男子）

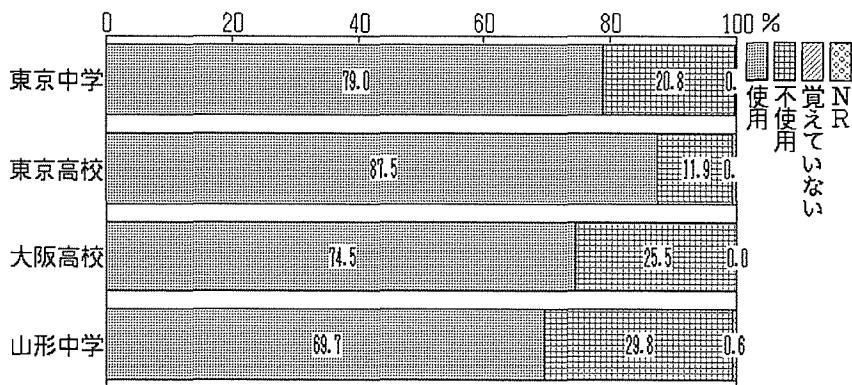


図 5-11-9-3 先生に対して友人を「鈴木くん」<現在>（女子）

表 5-11-10 先生に対して友人を「鈴木クン」<以前>

		使用	不使用	覚えてない	N R
全 体	東京中学	73.7 1810	25.9 635	0.2 5	0.2 6
	東京高校	74.4 1653	25.2 559	0.0 1	0.4 9
	大阪高校	61.6 618	38.2 384	0.0 0	0.2 2
	山形中学	71.1 241	28.3 96	0.0 0	0.6 2
男 子	東京中学	65.5 842	33.9 436	0.2 3	0.3 4
	東京高校	66.2 766	33.5 388	0.0 0	0.3 3
	大阪高校	51.5 243	48.1 227	0.0 0	0.4 2
	山形中学	65.2 105	34.2 55	0.0 0	0.6 1
女 子	東京中学	82.7 968	17.0 199	0.2 2	0.2 2
	東京高校	83.2 882	16.1 171	0.1 1	0.6 6
	大阪高校	70.6 374	29.4 156	0.0 0	0.0 0
	山形中学	76.4 136	23.0 41	0.0 0	0.6 1

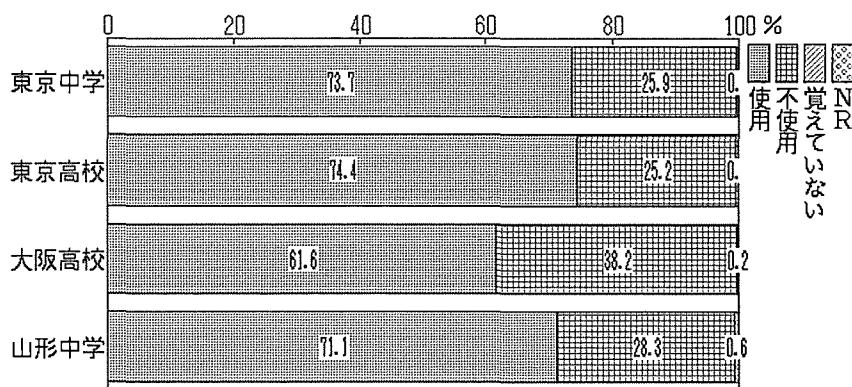


図 5-11-10-1 先生に対して友人を「鈴木クン」<以前>（全体）

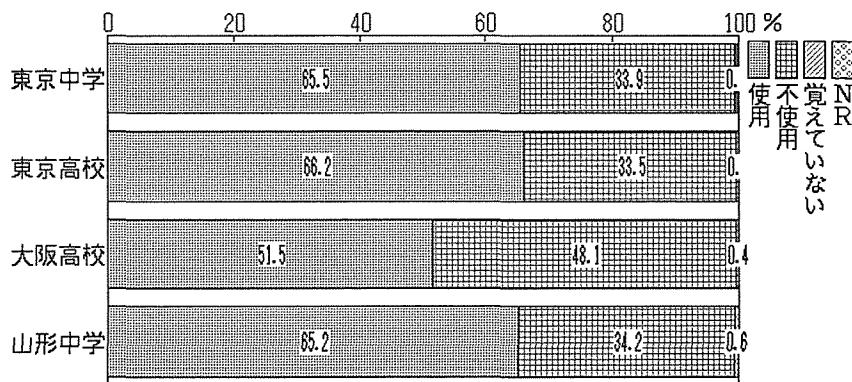


図 5-11-10-2 先生に対して友人を「鈴木クン」<以前>（男子）

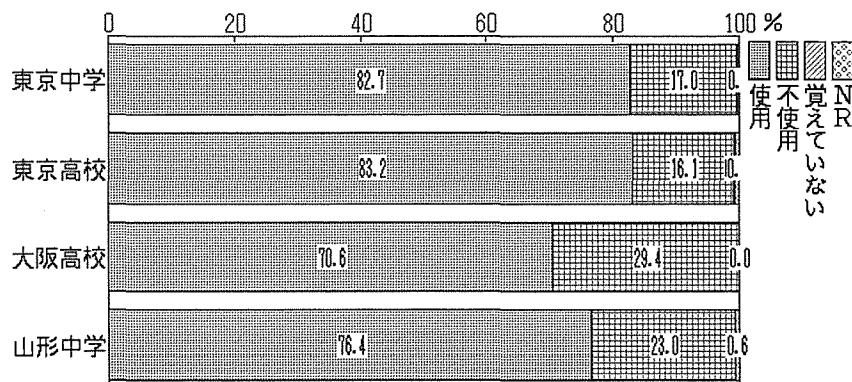


図 5-11-10-3 先生に対して友人を「鈴木クン」<以前>（女子）

表 5-11-11 男子の上級生を「○○サン」<現在>

		使用	不使用	女子校	N R
全 体	東京中学	11.6 286	88.0 2161	— —	0.4 9
	東京高校	25.1 558	64.6 1435	8.2 183	2.1 46
	大阪高校	43.9 441	39.0 392	13.7 138	3.3 33
	山形中学	7.4 25	92.6 314	— —	0.0 0
男 子	東京中学	14.1 181	85.4 1097	— —	0.5 7
	東京高校	34.3 397	63.1 730	— —	2.6 30
	大阪高校	53.6 253	41.5 196	— —	4.9 23
	山形中学	9.3 15	90.7 146	— —	0.0 0
女 子	東京中学	9.0 105	90.9 1064	— —	0.2 2
	東京高校	14.9 158	66.4 704	17.3 183	1.4 15
	大阪高校	35.3 187	36.8 195	26.0 138	1.9 10
	山形中学	5.6 10	94.4 168	— —	0.0 0

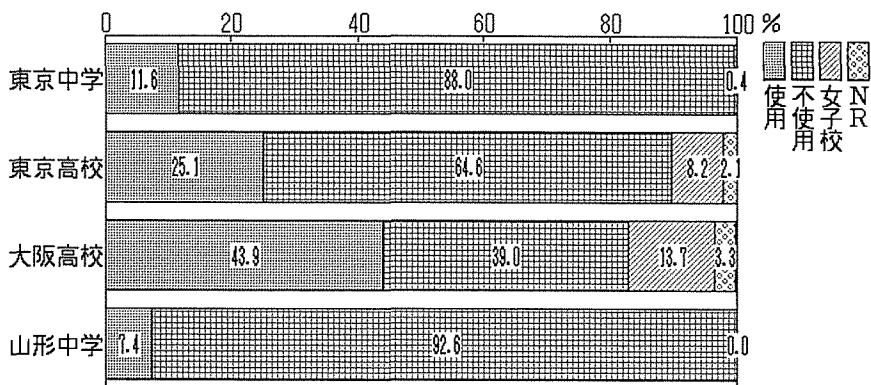


図 5-11-11-1 男子の上級生を「○○サン」<現在>（全体）

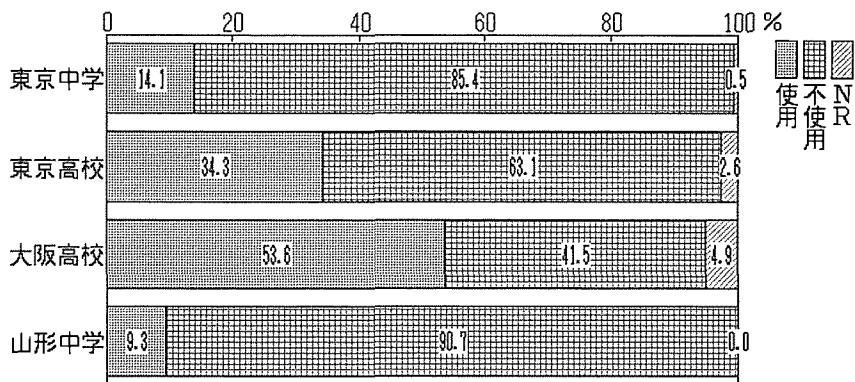


図 5-11-11-2 男子の上級生を「○○サン」<現在>（男子）

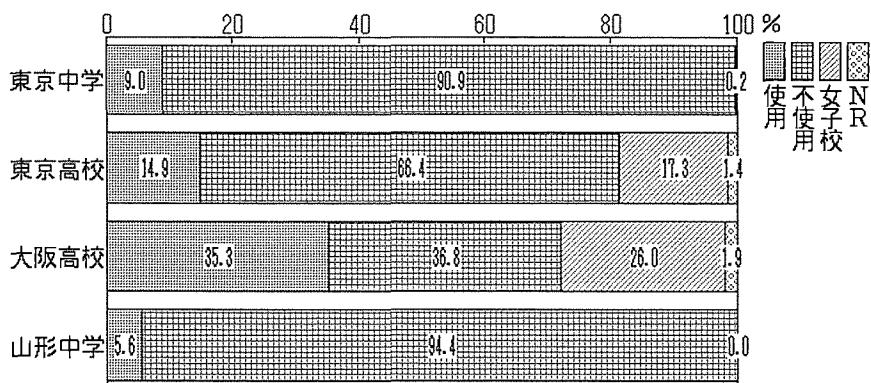


図 5-11-11-3 男子の上級生を「○○サン」<現在>（女子）

表 5-11-12 男子の上級生を「○○サン」<以前>

		使用	不使用	女子校	N R
全 体	東京中学	13.5 331	86.1 2115	— —	0.4 10
	東京高校	15.2 337	74.4 1654	8.2 183	2.2 48
	大阪高校	30.1 302	52.9 531	13.7 138	3.3 33
	山形中学	5.6 19	94.1 319	— —	0.3 1
男 子	東京中学	11.2 144	88.3 1135	— —	0.5 6
	東京高校	22.1 256	75.2 870	— —	2.7 31
	大阪高校	38.8 183	56.4 266	— —	4.9 23
	山形中学	6.8 11	92.5 149	— —	0.6 1
女 子	東京中学	16.0 187	83.7 980	— —	0.3 4
	東京高校	7.5 80	73.7 781	17.3 183	1.5 16
	大阪高校	22.5 119	49.6 263	26.0 138	1.9 10
	山形中学	4.5 8	95.5 170	— —	0.0 0

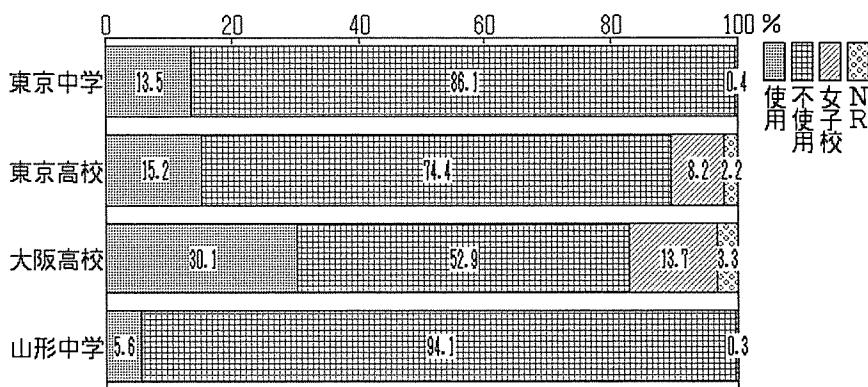


図 5-11-12-1 男子の上級生を「○○サン」<以前>（全体）

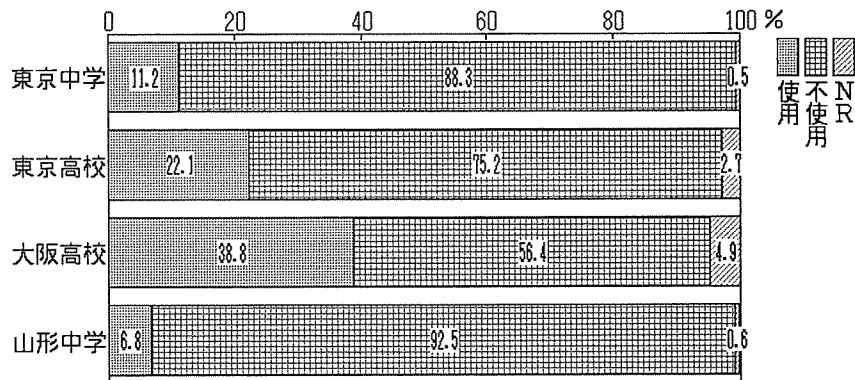


図 5-11-12-2 男子の上級生を「○○サン」<以前>（男子）

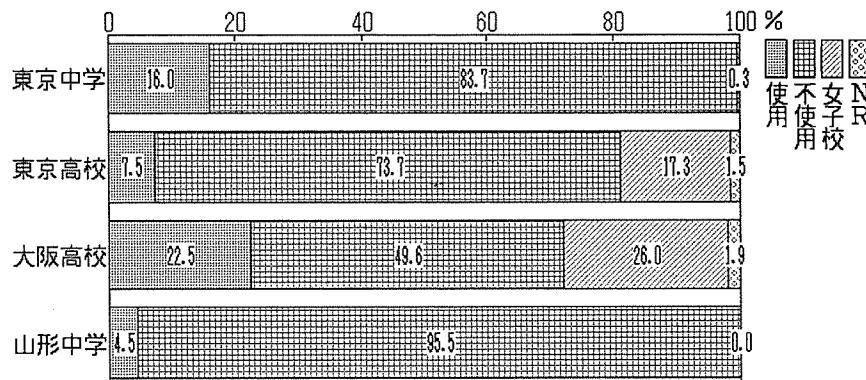


図 5-11-12-3 男子の上級生を「○○サン」<以前>（女子）

表5-11-13 男子の同級生を「〇〇ケン」<現在>

		使用	不使用	女子校	観ていない	N R
全 体	東京中学	27.2 669	72.2 1774	— —	0.1 2	0.4 11
	東京高校	52.6 1168	36.5 811	8.2 183	0.2 4	2.5 56
	大阪高校	41.3 415	42.1 423	13.7 138	0.0 0	2.8 28
	山形中学	25.7 87	74.0 251	— —	0.0 0	0.3 1
男 子	東京中学	22.7 292	76.7 985	— —	0.0 0	0.6 8
	東京高校	34.5 399	62.6 724	— —	0.1 1	2.9 33
	大阪高校	18.2 86	78.2 369	— —	0.0 0	3.6 17
	山形中学	15.5 25	83.9 135	— —	0.0 0	0.6 1
女 子	東京中学	32.2 377	67.4 789	— —	0.2 2	0.3 3
	東京高校	72.4 767	7.9 84	17.3 183	0.3 3	2.2 23
	大阪高校	62.1 329	9.8 52	26.0 138	0.0 0	2.1 11
	山形中学	34.8 62	65.2 116	— —	0.0 0	0.0 0

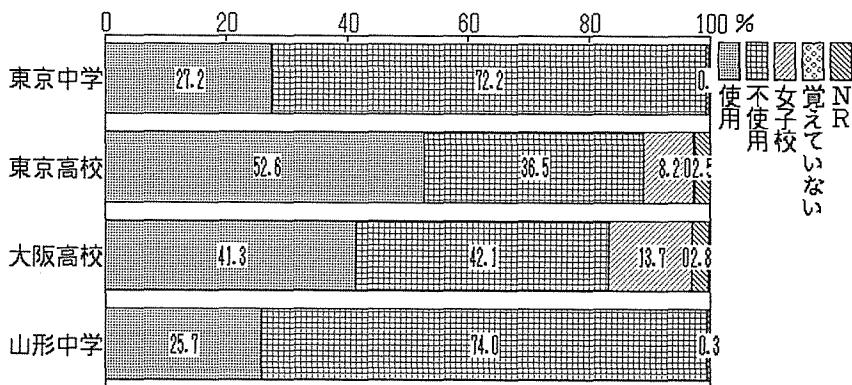


図 5-11-13-1 男子の同級生を「○○クン」<現在>（全体）

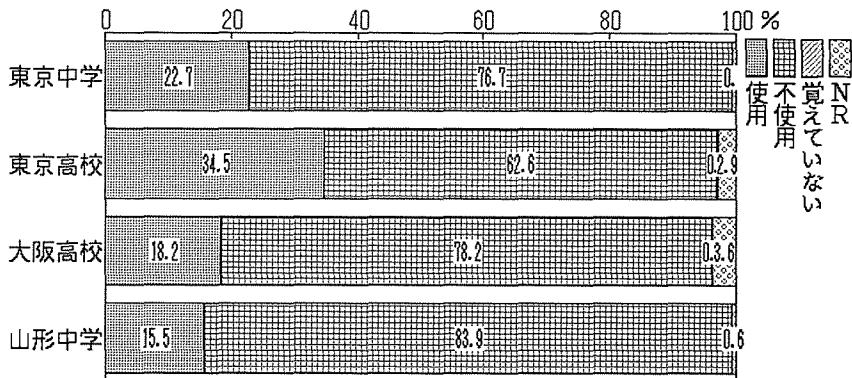


図 5-11-13-2 男子の同級生を「○○クン」<現在>（男子）

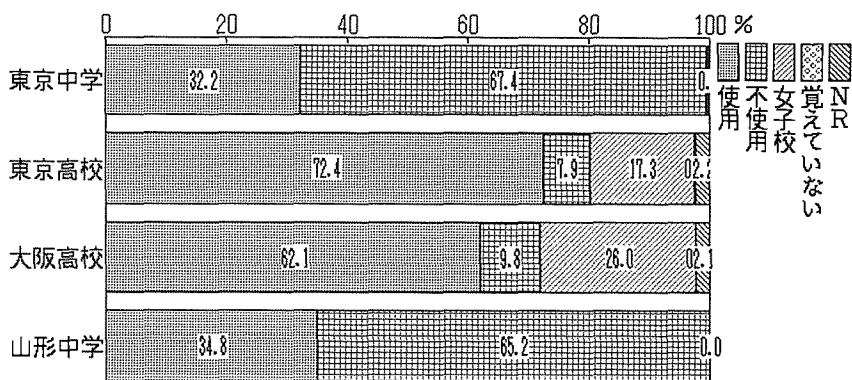


図 5-11-13-3 男子の同級生を「○○クン」<現在>（女子）

表 5-11-14 男子の同級生を「○○クン」<以前>

		使用	不使用	女子校	覚えてない	NR
全 体	東京中学	33.7 827	66.0 1622	— —	0.0 1	0.2 6
	東京高校	28.3 628	60.8 1352	8.2 183	0.1 2	2.6 57
	大阪高校	19.8 199	63.5 638	13.7 138	0.0 0	2.9 29
	山形中学	40.7 138	58.7 199	— —	0.0 0	0.6 2
男 子	東京中学	29.2 375	70.4 905	— —	0.0 0	0.4 5
	東京高校	24.8 287	72.3 836	— —	0.0 0	2.9 34
	大阪高校	12.9 61	83.3 393	— —	0.0 0	3.8 18
	山形中学	23.0 37	75.8 122	— —	0.0 0	1.2 2
女 子	東京中学	38.6 452	61.2 717	— —	0.1 1	0.1 1
	東京高校	32.0 339	48.4 513	17.3 183	0.2 2	2.2 23
	大阪高校	26.0 138	45.8 243	26.0 138	0.0 0	2.1 11
	山形中学	56.7 101	43.3 77	— —	0.0 0	0.0 0

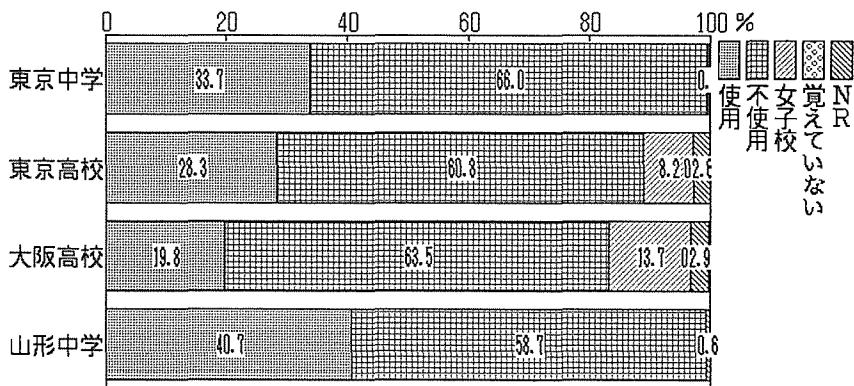


図 5-11-14-1 男子の同級生を「○○クン」<以前>（全体）

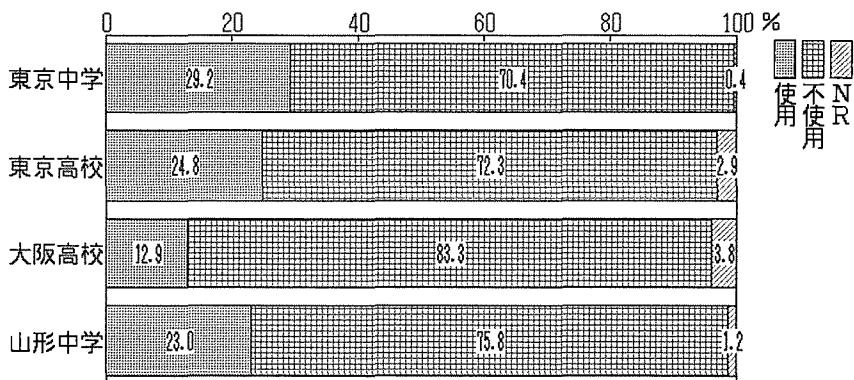


図 5-11-14-2 男子の同級生を「○○クン」<以前>（男子）

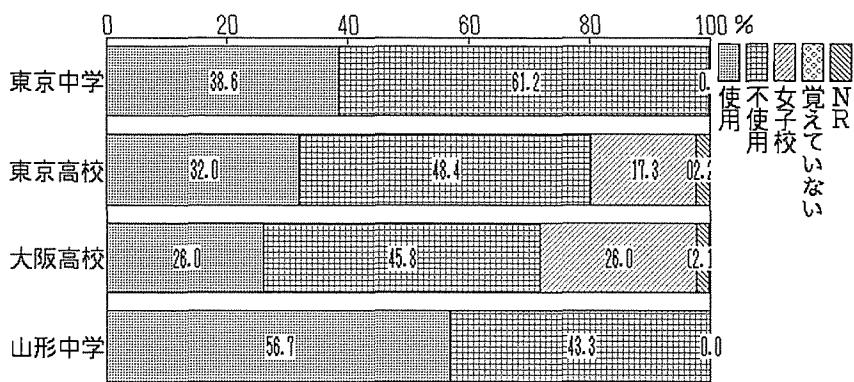


図 5-11-14-3 男子の同級生を「○○クン」<以前>（女子）

表 5-11-15 女子の同級生を「○○サン」<現在>

		使用	不使用	男子校	覚えてない	NR
全 体	東京中学	37.1 910	61.7 1515	— —	0.4 9	0.9 22
	東京高校	65.6 1458	21.9 487	8.7 193	0.2 5	3.6 79
	大阪高校	64.7 650	20.9 210	9.5 95	0.2 2	4.7 47
	山形中学	16.2 55	83.5 283	— —	0.0 0	0.3 1
男 子	東京中学	22.3 287	76.0 977	— —	0.0 0	1.3 17
	東京高校	58.3 674	20.7 240	16.7 193	0.1 1	4.2 49
	大阪高校	46.8 221	28.4 134	20.1 95	0.2 1	4.4 21
	山形中学	11.8 19	87.6 141	— —	0.0 0	0.6 1
女 子	東京中学	53.2 623	45.9 538	— —	0.4 5	0.4 5
	東京高校	73.7 781	23.2 246	— —	0.4 4	2.7 29
	大阪高校	80.6 427	14.3 76	— —	0.0 1	4.9 26
	山形中学	20.2 36	79.8 142	— —	0.0 0	0.0 0

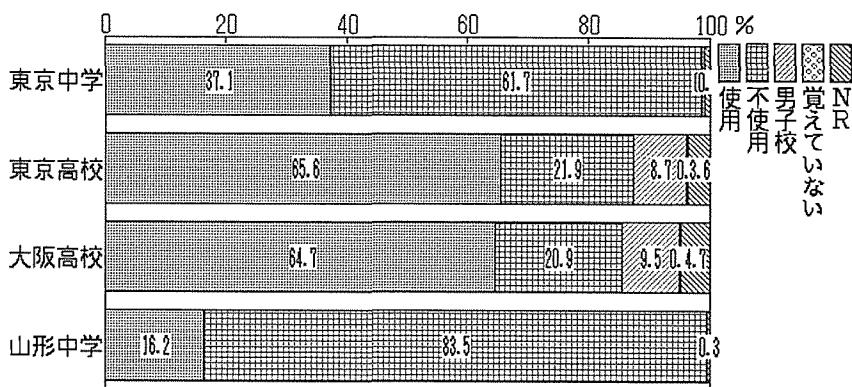


図 5-11-15-1 女子の上級生を「○○サン」〈現在〉(全体)

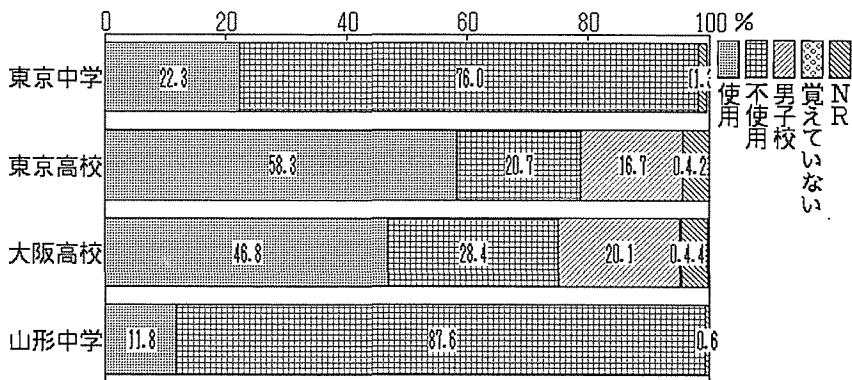


図 5-11-15-2 女子の上級生を「○○サン」〈現在〉(男子)

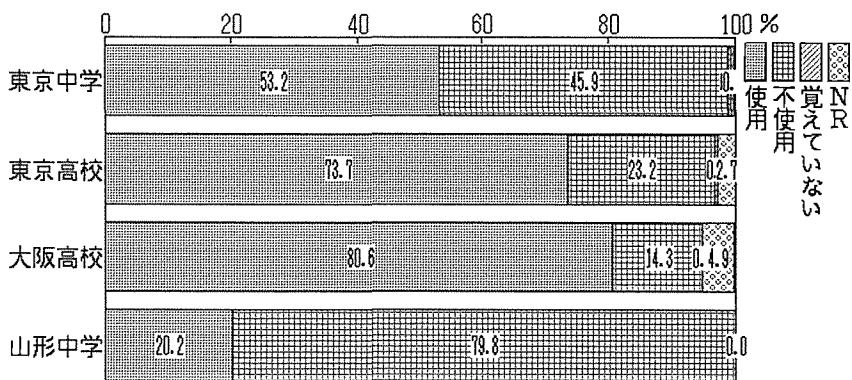


図 5-11-15-3 女子の上級生を「○○サン」〈現在〉(女子)

表 5-11-16 女子の同級生を「○○サン」<以前>

		使用	不使用	男子校	覚えてない	N R
全 体	東京中学	39.5 971	59.4 1458	— —	0.2 5	0.9 22
	東京高校	52.9 1176	34.7 770	8.7 193	0.1 2	3.6 81
	大阪高校	53.8 540	31.9 320	9.5 95	0.2 2	4.7 47
	山形中学	17.1 58	82.3 279	— —	0.0 0	0.6 2
男 子	東京中学	25.0 321	73.6 946	— —	0.2 3	1.2 15
	東京高校	40.0 463	39.1 452	16.7 193	0.0 0	4.2 49
	大阪高校	30.7 145	44.5 210	20.1 95	0.2 1	4.4 21
	山形中学	16.8 27	82.0 132	— —	0.0 0	1.2 2
女 子	東京中学	55.5 650	43.7 512	— —	0.2 2	0.6 7
	東京高校	67.1 711	29.8 316	— —	0.2 2	2.9 31
	大阪高校	74.3 394	20.6 109	— —	0.2 1	4.9 26
	山形中学	17.4 31	82.6 147	— —	0.0 0	0.0 0

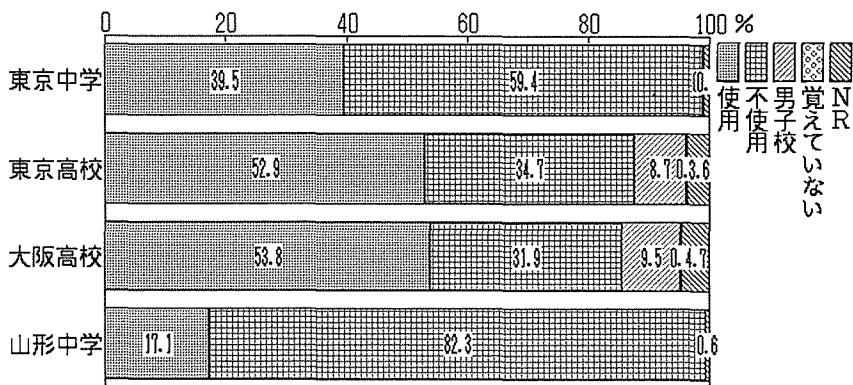


図 5-11-16-1 女子の同級生を「○○サン」<以前>（全体）

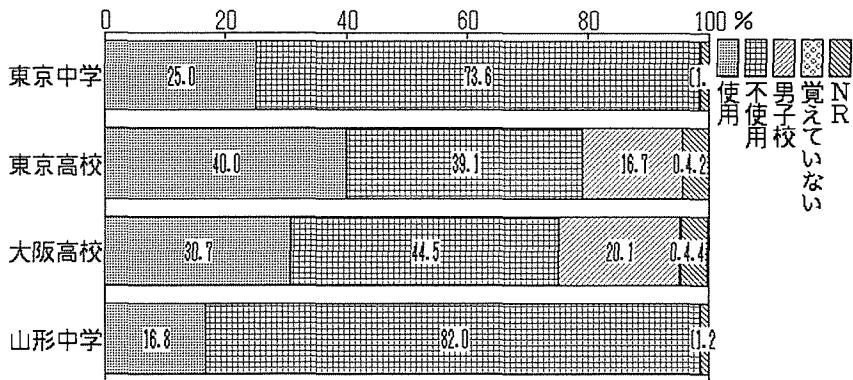


図 5-11-16-2 女子の同級生を「○○サン」<以前>（男子）

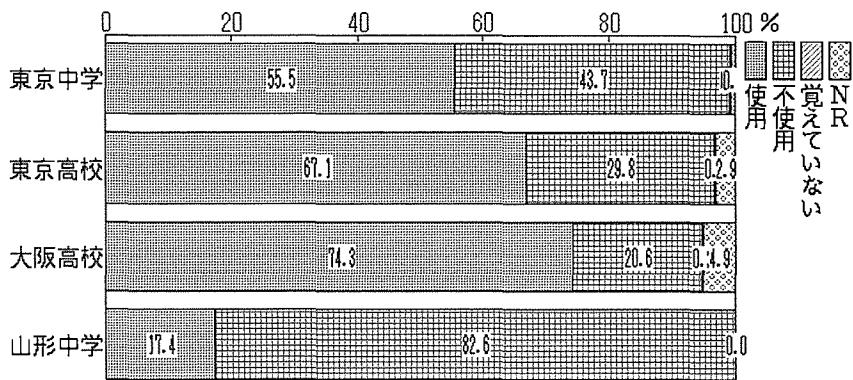


図 5-11-16-3 女子の同級生を「○○サン」<以前>（女子）

表 5-11-17 部活動の先輩や上級生を「センパイ」<現在>

		使用	不使用	覚えてない	N R
全 体	東京中学	75.0 1843	24.2 594	0.1 2	0.7 17
	東京高校	76.1 1691	23.1 514	0.0 0	0.8 17
	大阪高校	65.7 660	32.7 328	0.0 0	1.6 16
	山形中学	51.9 176	46.9 159	0.0 0	1.2 4
男 子	東京中学	59.7 767	39.3 505	0.2 2	0.9 11
	東京高校	67.6 782	31.6 366	0.0 0	0.8 9
	大阪高校	56.1 265	41.9 198	0.0 0	1.9 9
	山形中学	11.2 18	87.0 140	0.0 0	1.9 3
女 子	東京中学	91.9 1076	7.6 89	0.0 0	0.5 6
	東京高校	85.4 905	13.9 147	0.0 0	0.8 8
	大阪高校	74.3 394	24.3 129	0.0 0	1.3 7
	山形中学	88.8 158	10.7 19	0.0 0	0.6 1

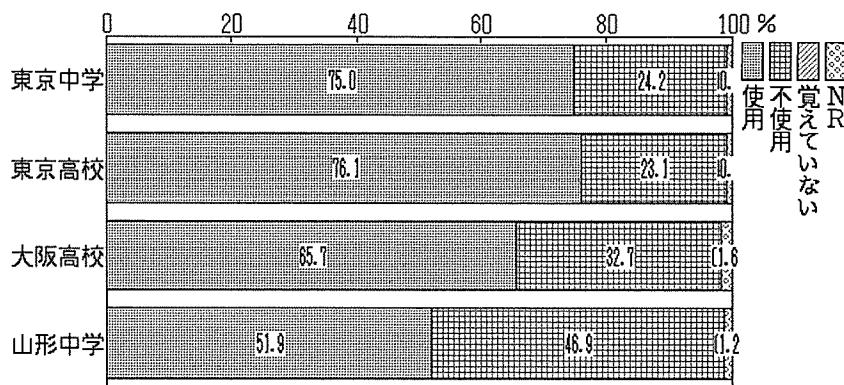


図 5-11-17-1 部活動の先輩や上級生を「センパイ」<現在>（全体）

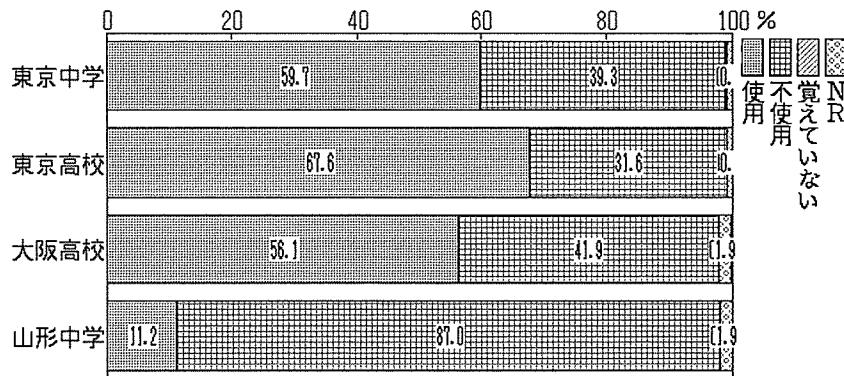


図 5-11-17-2 部活動の先輩や上級生を「センpai」<現在>（男子）

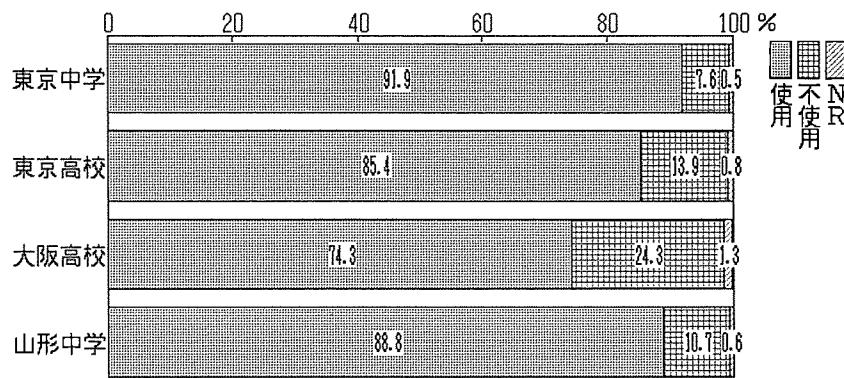


図 5-11-17-3 部活動の先輩や上級生を「センpai」<現在>（女子）

表 5-11-18 部活動の先輩や上級生を「センパイ」<以前>

		使用	不使用	覚えてない	N R
全 体	東京中学	6.7 164	92.4 2269	0.0 1	0.9 22
	東京高校	78.3 1740	21.2 472	0.0 0	0.5 10
	大阪高校	76.2 765	23.1 232	0.0 0	0.7 7
	山形中学	0.9 3	98.2 333	0.0 0	0.9 3
男 子	東京中学	8.2 105	90.6 1164	0.1 1	1.2 15
	東京高校	67.8 784	31.7 367	0.0 0	0.5 6
	大阪高校	62.3 294	36.7 173	0.0 0	1.1 5
	山形中学	1.2 2	96.9 156	0.0 0	1.9 3
女 子	東京中学	5.0 59	94.4 1105	0.0 0	0.6 7
	東京高校	89.9 953	9.7 103	0.0 0	0.4 4
	大阪高校	88.7 470	10.9 58	0.0 0	0.4 2
	山形中学	0.6 1	99.4 177	0.0 0	0.0 0

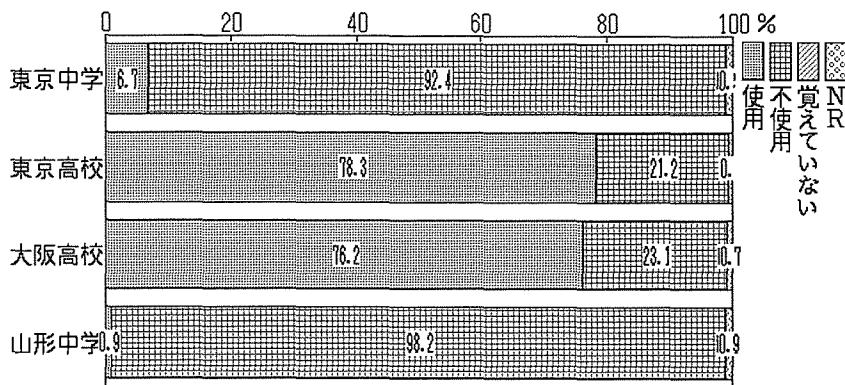


図 5-11-18-1 部活動の先輩や上級生を「センパイ」<以前>（全体）

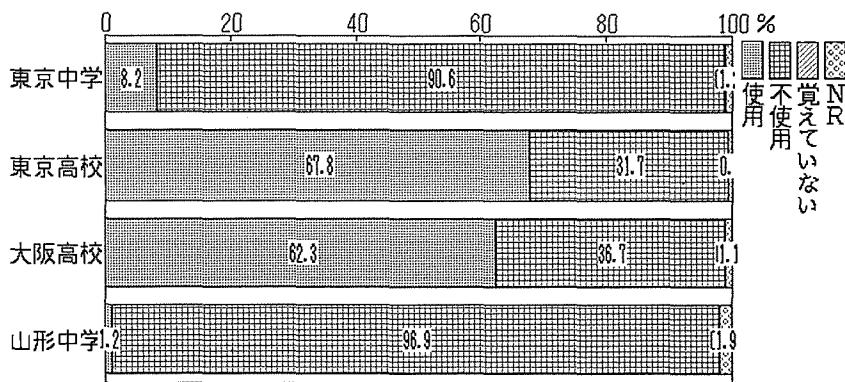


図 5-11-18-2 部活動の先輩や上級生を「センパイ」<以前>（男子）

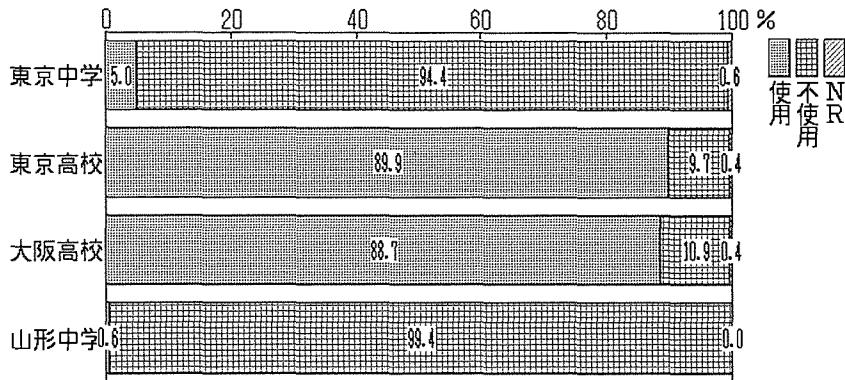


図 5-11-18-3 部活動の先輩や上級生を「センパイ」<以前>（女子）

表 5-11-19 先生に対して「帰りハッタ」〈現在〉[大阪高校]

	使用	不使用	N R
全 体	24.7 248	74.8 751	0.5 5
男 子	21.4 101	78.2 369	0.4 2
女 子	27.5 146	71.9 381	0.6 3

表 5-11-20 先生に対して「帰りハッタ」〈以前〉[大阪高校]

	使用	不使用	N R
全 体	28.0 281	71.5 718	0.5 5
男 子	23.3 110	76.3 360	0.4 2
女 子	32.1 170	67.4 357	0.6 3

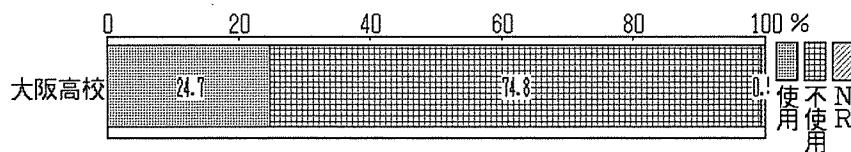


図 5-11-19-1 先生に対して「帰りハッタ」〈現在〉〔大阪高校〕（全体）

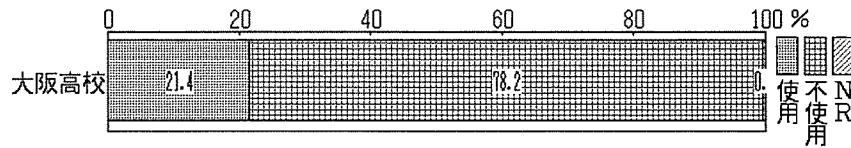


図 5-11-19-2 先生に対して「帰りハッタ」〈現在〉〔大阪高校〕（男子）

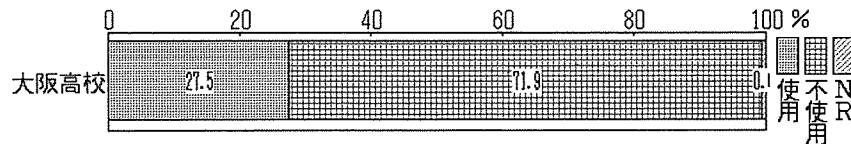


図 5-11-19-3 先生に対して「帰りハッタ」〈現在〉〔大阪高校〕（女子）

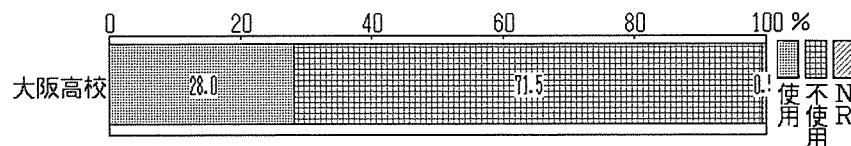


図 5-11-20-1 先生に対して「帰りハッタ」〈以前〉〔大阪高校〕（全体）

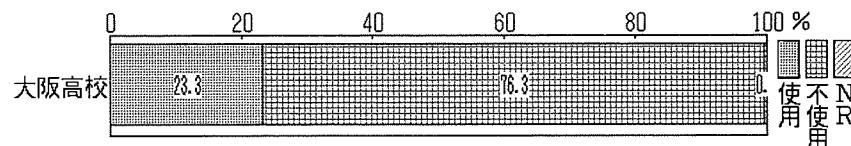


図 5-11-20-2 先生に対して「帰りハッタ」〈以前〉〔大阪高校〕（男子）

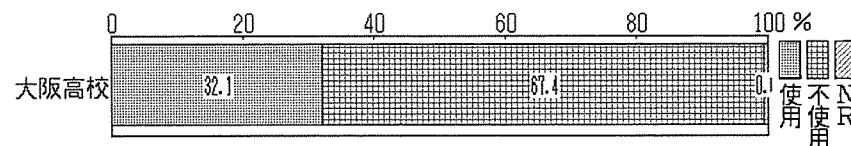


図 5-11-20-3 先生に対して「帰りハッタ」〈以前〉〔大阪高校〕（女子）

資料 2

調査票

アンケート調査で用いた調査票は次の4種類がある。

- ①東京都の中学校用の調査票
- ②東京都の高等学校用の調査票
- ③大阪府の高等学校用の調査票
- ④山形県（三川町）の中学校用の調査票

質問の内容も表現も、いずれも基本的には同じであるので、ここでは東京都の中学校用の調査票を代表として示す。質問の内容や表現に異なりがある場合は、本文の各章・節の最初に枠で囲って示した質問文およびそれに対する注釈によりそれを明示した。

《ことばのアンケート》

学敬90東京中学
国立国語研究所

1. これは、国語のテストではありません。正しいとかまちがっているとかは関係のないものです。点数もつきません。
2. みなさんが、ふだん学校でどんなことばを使っているのか、またことばについてどんなことを考えているのかを知るためのアンケートです。
3. ですから、ふだんのことばづかいや考えを、そのまま答えてください。
4. 番号に○をつける答え方も、ことばをそのまま書きこむ答え方もあります。わからなければ、先生に質問してください。
5. 時間に全部書けなければ、あとで書いて必ず先生に提出してください。

【学校名】

【学年】

【性別】

中学校

年生

[男 女]

- I. まずははじめに、毎日の学校でのことばづかいで感じていることを答えてください。
「どちらかといえば」という程度でもかまいません。それぞれ選んでください。
 1. 気になるほうだ。
 2. あまり気にならないほうだ。
1. ふだん、学校で、自分自身のことばづかいが気になるほうですか？
 1. 気になるほうだ。
 2. あまり気にならないほうだ。
2. 学校生活のなかでも、とくに先生や上級生と話すとき、自分自身のことばづかいが気になるほうですか？
 1. 気になるほうだ。
 2. あまり気にならないほうだ。
3. 先生や上級生と話すときと、親しい同級生と話すときとで、自分自身のことばづかいで変わるところがあると思いますか？
 1. あまり変わらない。
 2. 変わると思う。

→ことばづかいのどんなところですか？ 具体的に書いて下さい。
4. これまでに、先生や上級生へのことばづかいのことで困った経験はありますか？
たとえば、どういうことばづかいをしたらよいかわからなかった、もっと別の言い方をしなければならないのにまちがえた、など。
 1. そういう経験はない。
 2. そういう経験がある。

5. 先生や上級生・先輩(せんぱい)から、ことばづかいのことで注意されたり、教えられたりしたことがありますか？

1. そういう経験はない。 2. そういう経験がある。

6. クラス討論、生徒会活動、部(クラブ)活動などで、司会や議長をする場合や意見をみんなの前で発表する場合などに、ことばづかいのことで困った経験はありますか？

1. そういう経験はない。 2. そういう経験がある。

7. 学校生活にはいろいろな場面があります。次のうちで、あなたがことばづかいに気を使うのはどんなときですか？ とくに気を使うもの三つに○をつけてください。

1. 授業中に先生に指名されて答えたり意見を言ったりするとき。
2. クラス討論で立上がって意見を発表するとき。
3. クラスの中で、異性の同級生と話すとき。
4. 部(クラブ)活動で、上級生や先輩(せんぱい)に話すとき。
5. 生徒会の活動や集会で、討論(とうろん)したり意見を発表するとき。
6. 職員室に用事で入っていって、先生と話すとき。
7. 部(クラブ)活動で、顧問(こもん)の先生やコーチの人と話すとき。
8. 学校に来た見知らぬ来客に、部屋などをたずねられて教えるとき。

8. 話すときの声の調子について質問します。参観日の授業で、先生に指名されて答えるときは、ふだん友達と話すときと比べて声の調子はどうなりますか？ つぎのそれぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。

(1) 声の大きさは……

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. ふだんより大きくなる | 2. ふだんと同じ |
| 3. ふだんより小さくなる | 4. わからない |

(2) 声の高さは……

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. ふだんより高く(高音に)なる | 2. ふだんと同じ |
| 3. ふだんより低く(低音に)なる | 4. わからない |

(3) 声の明瞭(めいりょう)さは……

- | | |
|---------------------|-----------|
| 1. ふだんよりはっきりした声になる | 2. ふだんと同じ |
| 3. ふだんよりはっきりしない声になる | 4. わからない |

(4) 話の早さは……

- | | |
|---------------------|-----------|
| 1. ふだんより早口になる | 2. ふだんと同じ |
| 3. ふだんよりゆっくりした調子になる | 4. わからない |

(5) そういうとき緊張(きんちょう)するほうですか？

1. とても緊張する 2. すこし緊張する 3. べつに緊張しない

II. これからは、具体的なことばづかいについて質問します。実際に小さな声で口に出してもいいですから、できるだけふだんのことを思い出して答えてください。

9. 「先輩（せんぱい）」ということばを考えてください。たとえば「先輩、おはようございます。」「佐藤先輩、ボール持ってきました」などというように、呼びかけるときの言い方で「先輩」を使いますか？ 次のなかから一つ選んでください。

- ・あなた自身は→ [1. 使う 2. 使わない]
- ・学校全体では→ | 1. 男子生徒が使う 2. 女子生徒が使う |
| 3. 男子も女子も使う 4. だれも使わない |

10. 「失礼します」ということばを考えてください。このことばは、どんな場合に使いますか？ 次のうちで使う場面に、いくつでもいいですから○をつけてください。

1. 職員室へ用事で入るとき。
2. 職員室を出るとき。
3. 下校時に、先生と別れのあいさつをするとき。
4. 下校時に、上級生や先輩と別れのあいさつをするとき。
5. そのほか → どんなときですか []

11. 小学校時代と比べて、中学生としてのあなたの今のことばづかいはだいぶ変わったのではないかと思います。次にあげるいろいろな言い方は、小学校時代には使っていましたか？ また、今はどうですか？ あてはまるものに○をつけてください。

(1) 佐藤という先生のことを、友人に向かって「佐藤さんは休みだ」

- ・小学校時代に → [1. 使っていた 2. 使わなかった]
- ・いま、中学で → [1. 使う 2. 使わない]

(2) 佐藤という先生のことを別の先生に対して「佐藤先生はお休みです」

- ・小学校時代に → [1. 使っていた 2. 使わなかった]
- ・いま、中学で → [1. 使う 2. 使わない]

(3) 佐藤という先生のことを、友人に向かって「佐藤は休みだ」

- ・小学校時代に → [1. 使っていた 2. 使わなかった]
- ・いま、中学で → [1. 使う 2. 使わない]

(4) 先生に対して「先生が帰られたあと雨がやみました」

- ・小学校時代に → [1. 使っていた 2. 使わなかった]
- ・いま、中学で → [1. 使う 2. 使わない]

(5) 授業中、先生に答えるとき友人のことを「さっき鈴木くんが言ったように」

- ・小学校時代に → [1. 使っていた 2. 使わなかった]
- ・いま、中学で → [1. 使う 2. 使わない]

(6) 上級生（男子）のことを「田中さん」「正雄さん」とサンづけで呼ぶ

- ・小学校時代に → [1. 使っていた 2. 使わなかった]
- ・いま、中学で → [1. 使う 2. 使わない]

(7) 同級生（男子）のことを「鈴木くん」「次郎くん」とクンづけで呼ぶ

- ・小学校時代に→ [1. 使っていた 2. 使わなかった]
- ・いま、中学で→ [1. 使う 2. 使わない]

(8) 同級生（女子）のことを「山田さん」「春子さん」とサンづけで呼ぶ

- ・小学校時代に→ [1. 使っていた 2. 使わなかった]
- ・いま、中学で→ [1. 使う 2. 使わない]

(9) 部（クラブ）活動の先輩や上級生のことを「センパイ」と呼ぶ

- ・小学校時代に→ [1. 使っていた 2. 使わなかった]
- ・いま、中学で→ [1. 使う 2. 使わない]

12. 学校生活の中で、ふだん自分のことを何と言っていますか。それぞれの相手に対して、使うものには○、使わなものには×を全部につけてください。
ほかの言い方をする場合には、その言い方を（ ）のなかに記入してください。

(1) 同じクラスで、一番したしい同性のともだちに対しては……

- | | | | | |
|-------------------|--------|------------|---------|---------|
| 1. ボク | 2. ワタシ | 3. アタシ | 4. ワタクシ | 5. アタクシ |
| 6. オレ | 7. ウチ | 8. ワシ | 9. ワイ | 10. ジブン |
| 11. 自分の名前（例. ハルコ） | | 12. その他（ ） | | |

(2) 同じクラスで、話をする機会のいちばん多い異性の同級生に対しては……

- | | | | | |
|-------------------|--------|------------|---------|---------|
| 1. ボク | 2. ワタシ | 3. アタシ | 4. ワタクシ | 5. アタクシ |
| 6. オレ | 7. ウチ | 8. ワシ | 9. ワイ | 10. ジブン |
| 11. 自分の名前（例. ハルコ） | | 12. その他（ ） | | |

(3) 部（クラブ）活動で、話をする機会のいちばん多い同性の先輩（せんぱい）に対しては……

- | | | | | |
|-------------------|--------|------------|---------|---------|
| 1. ボク | 2. ワタシ | 3. アタシ | 4. ワタクシ | 5. アタクシ |
| 6. オレ | 7. ウチ | 8. ワシ | 9. ワイ | 10. ジブン |
| 11. 自分の名前（例. ハルコ） | | 12. その他（ ） | | |

(4) 担任の先生に対しては……

- | | | | | |
|-------------------|--------|------------|---------|---------|
| 1. ボク | 2. ワタシ | 3. アタシ | 4. ワタクシ | 5. アタクシ |
| 6. オレ | 7. ウチ | 8. ワシ | 9. ワイ | 10. ジブン |
| 11. 自分の名前（例. ハルコ） | | 12. その他（ ） | | |

(5) 校長先生に対しては……

- | | | | | |
|-------------------|--------|------------|---------|---------|
| 1. ボク | 2. ワタシ | 3. アタシ | 4. ワタクシ | 5. アタクシ |
| 6. オレ | 7. ウチ | 8. ワシ | 9. ワイ | 10. ジブン |
| 11. 自分の名前（例. ハルコ） | | 12. その他（ ） | | |

(6) よそから来た知らないおとなの人（男）が、廊下で話しかけてきたときは……

- | | | | | |
|-------------------|--------|------------|---------|---------|
| 1. ボク | 2. ワタシ | 3. アタシ | 4. ワタクシ | 5. アタクシ |
| 6. オレ | 7. ウチ | 8. ワシ | 9. ワイ | 10. ジブン |
| 11. 自分の名前（例. ハルコ） | | 12. その他（ ） | | |

13. それでは、相手のことは何と呼んでいますか。 前問と同じように、使うものには○、使わないものには×を全部つけ、その他の言い方をする場合には()に具体的に書いてください。

(1) 同じクラスで、一番したしい同性のともだちに対しては……

- | | | | | |
|----------------|-------------|-----------|------------|------------|
| 1. キミ | 2. アナタ | 3. アンタ | 4. オマエ | 5. オメエ |
| 6. オタク | 7. ジブン | 8. 姓+クン | 9. 姓+サン | 10. 姓を呼びすて |
| 11. 名+クン | 12. 名+サン | 13. 名+チャン | 14. 名を呼びすて | |
| 15. ニックネーム・あだ名 | 16. その他 () | | | |

(2) 同じクラスで、話をする機会の一番多い異性の同級生に対しては……

- | | | | | |
|----------------|-------------|-----------|------------|------------|
| 1. キミ | 2. アナタ | 3. アンタ | 4. オマエ | 5. オメエ |
| 6. オタク | 7. ジブン | 8. 姓+クン | 9. 姓+サン | 10. 姓を呼びすて |
| 11. 名+クン | 12. 名+サン | 13. 名+チャン | 14. 名を呼びすて | |
| 15. ニックネーム・あだ名 | 16. その他 () | | | |

(3) 部(クラブ)活動で、話をする機会の一番多い同性の先輩に対しては…

- | | | | | |
|----------------|-----------------------------|-----------|------------|------------|
| 1. キミ | 2. アナタ | 3. アンタ | 4. オマエ | 5. オメエ |
| 6. オタク | 7. ジブン | 8. 姓+クン | 9. 姓+サン | 10. 姓を呼びすて |
| 11. 名+クン | 12. 名+サン | 13. 名+チャン | 14. 名を呼びすて | |
| 15. ニックネーム・あだ名 | 16. センパイ (姓+センパイ、名+センパイなども) | | | |
| 17. その他 () | | | | |

(4) 部(クラブ)活動で、話をする機会の一番多い同性の後輩に対しては…

- | | | | | |
|----------------|-------------|-----------|------------|------------|
| 1. キミ | 2. アナタ | 3. アンタ | 4. オマエ | 5. オメエ |
| 6. オタク | 7. ジブン | 8. 姓+クン | 9. 姓+サン | 10. 姓を呼びすて |
| 11. 名+クン | 12. 名+サン | 13. 名+チャン | 14. 名を呼びすて | |
| 15. ニックネーム・あだ名 | 16. その他 () | | | |

14. 逆に、ともだちや先生からはあなたは何と呼ばれていますか。

(1) クラスマートで出席番号があなたのすぐ前の同性のともだちを思い浮かべてください。そのともだちからはあなたは何と呼ばれていますか。呼ばれているものには○、呼ばれていないものには×を、全部につけてください。なおあなたの出席番号が一番先頭の場合には、出席番号がすぐ後ろの同性のともだちのことと考えてください。

- | | | | | |
|----------------|-------------|-----------|------------|------------|
| 1. キミ | 2. アナタ | 3. アンタ | 4. オマエ | 5. オメエ |
| 6. オタク | 7. ジブン | 8. 姓+クン | 9. 姓+サン | 10. 姓を呼びすて |
| 11. 名+クン | 12. 名+サン | 13. 名+チャン | 14. 名を呼びすて | |
| 15. ニックネーム・あだ名 | 16. その他 () | | | |

(2) ではあなたとしては、そのともだちから何と呼ばれるのが好きですか。好きな呼ばれ方には○、きらいな呼ばれ方には×、どちらでもない呼ばれ方には△を、全部につけてください。実際に呼ばれていない言い方についても、もしそのともだちから呼ばれるとしたらということで考えてください。

- | | | | | |
|----------------|-------------|-----------|------------|------------|
| 1. キミ | 2. アナタ | 3. アンタ | 4. オマエ | 5. オメエ |
| 6. オタク | 7. ジブン | 8. 姓+クン | 9. 姓+サン | 10. 姓を呼びすて |
| 11. 名+クン | 12. 名+サン | 13. 名+チャン | 14. 名を呼びすて | |
| 15. ニックネーム・あだ名 | 16. その他 () | | | |

(3) それでは担任の先生からは何と呼ばれていますか。呼ばれているものには○、
呼ばれていないものには×を, 全部につけてください。

1. キミ 2. アナタ 3. アンタ 4. オマエ 5. オメエ
 6. オタク 7. ジブン 8. 姓+クン 9. 姓+サン 10. 姓を呼びすて
 11. 名+クン 12. 名+サン 13. 名+チャン 14. 名を呼びすて
 15. ニックネーム・あだ名 16. その他 ()

(4) あなたとしては、担任の先生からは何と呼ばれるのが好きですか。好きな呼ばれ方には○, きらいな呼ばれ方には×, どちらでもない呼ばれ方には△を, 全部につけてください。実際に呼ばれていない言い方についても、もし呼ばれたとしたらということで考えてください。

1. キミ 2. アナタ 3. アンタ 4. オマエ 5. オメエ
 6. オタク 7. ジブン 8. 姓+クン 9. 姓+サン 10. 姓を呼びすて
 11. 名+クン 12. 名+サン 13. 名+チャン 14. 名を呼びすて
 15. ニックネーム・あだ名 16. その他 ()

15. 学校から帰るとき、次の人にはどんなあいさつをしますか？ 前と同じように
○か×を全部につけてください。

(1) 同じクラスで、一番したしい同性のともだちに対しては、……

1. サヨウナラ 2. サヨナラ 3. サイナラ 4. ソレジャア 5. ジャア
 6. バイバイ 7. 失礼シマス 8. その他 ()

(2) 同じクラスで、話をする機会のいちばん多い異性の同級生に対しては……

1. サヨウナラ 2. サヨナラ 3. サイナラ 4. ソレジャア 5. ジャア
 6. バイバイ 7. 失礼シマス 8. その他 ()

(3) 部(クラブ)活動で、話をする機会のいちばん多い同性の先輩に対しては……

1. サヨウナラ 2. サヨナラ 3. サイナラ 4. ソレジャア 5. ジャア
 6. バイバイ 7. 失礼シマス 8. その他 ()

(4) 担任の先生に対しては……

1. サヨウナラ 2. サヨナラ 3. サイナラ 4. ソレジャア 5. ジャア
 6. バイバイ 7. 失礼シマス 8. その他 ()

(5) 校長先生に対しては……

1. サヨウナラ 2. サヨナラ 3. サイナラ 4. ソレジャア 5. ジャア
 6. バイバイ 7. 失礼シマス 8. その他 ()

III. つぎに、ことばづかいや敬語についてのあなたの意見を聞きます。正しいとか、そ
うあるべきだとかいうのではなく、自分の考えを答えてください。

16. いまのあなたのクラスを考えて、クラス討論や授業での発言のときは、ふだんのことばづかいとは少しちがった、あらたまったくことばを使うのがよいと思いますか、ふだんどおりのことばづかいでよいと思いますか？ あなたの意見に近いほうを選んで○をつけてください。

1. あらたまったく、きちんとしたことばづかいがよい。
2. ふだんどおりの、ふつうことばづかいがよい。

17. 学校のなかでは生徒同士であっても、上級生や部(クラブ)活動の先輩などには敬語(ていねいで、相手をうやまつたことば)を使うほうがよいでしょうか、使わな
くてもよいでしょうか？

1. 使うほうがよい。
2. 使わなくてもよい。

18. 現在の学校で使われている敬語について、次の二つの意見があります。あなたの意見に近いほうに○をつけてください。

1. 敬語は上下の規律(きりつ)が守れ、授業や部(クラブ)活動などの学校生活をするうえで欠かせないものだ。
2. 敬語はかたくらしく面倒(めんどう)だから、学校生活のためにはかえつて邪魔(じやま)になる。

19. 先生や上級生に対してていねいな敬語を使うと、どうしてもよそよそしくなって、
親しい心の交流やざくばらんな(気楽な)つきあいがしにくくなる、という意見
があります。あなたは、この意見を……？

1. そう思う。
2. そうは思わない。

《次のページもお願いします。》

《最後に、あなた自身のことや家のことを質問します。》

F1. これまでに、東京都以外の土地で、1年以上、暮したことがありますか？

1. ない 2. ある→ _____ 県 _____ 市

F2. 5歳から今までの間で一番ながく住んだ所はどこですか？

都	市
_____	_____
県	町

F3. あなたのご両親は、子供（5歳～13歳）のころ、何県（都）で育った人ですか？

お父さん→ _____ 都県 お母さん→ _____ 都県

F4. お家の仕事はなんですか？（二つ以上あれば、すべてに○をつける）

- 1. 農業 2. 勤め（会社、店、工場などに勤める） 3. 商業（店を経営）
- 4. 工業（工場を経営） 5. 公務員 6. 自由業（医師・弁護士など）
- 7. その他

F5. あなたは学校では、何の部（クラブ）活動をしていますか？

運動部 _____ 文化部 _____

F6. その部（クラブ）活動で、何か役職（部長とか副キャプテンなど）をしていますか？

1. していない 2. している→ 何ですか？ _____

F7. いまクラスで、何か係をしていますか？

1. していない 2. している→ 何ですか？ _____

F8. 中学校に入ってから、生徒会の役員や委員をしたことはありますか？

1. ない 2. ある→ 何ですか？ _____

【これで終りです。ありがとうございました。】

資料 3

「学校の中の敬語」調査の検討会会議要録

本資料は、「学校の中の敬語」調査の分析を充実させるべく、学校教育の現場で直接生徒と日々接している先生方にお集まりいただき、中間的な集計結果を御覧いただきながら、現場で教育・指導に携わる立場からのコメントを求めた検討会の要録である。

当日のコメントは、本報告書の分析において直接・間接に活かされており当初の目的は十分達せられているが、その文字化資料はそれ自体単独でも、学校の中での生徒たちの敬語使用や敬語意識を知る上で貴重な資料となっている。

そこで、検討会に参加された先生方の了解を得て、文字化資料をもとに「要録」を作成し、本報告書の資料のひとつとして添付し、広く活用に供することとした。

なお、本資料では、参加者相互の呼称を全て「さん」づけにするなど、編集上の統一をはかった部分がある。

「学校の中の敬語」調査の検討会会議要録

日時 1998年3月20日（金）13時30分～16時30分
 場所 国立国語研究所 第一会議室
 出席者 萩野 勝 先生（東京学芸大学附属世田谷中学校）
 小林美恵子先生（東京都立北多摩高等学校）
 関 篤 先生（大阪府立泉北高等学校）五十音順

杉戸 清樹（国立国語研究所言語行動研究部第一研究室）

尾崎 喜光（同 同）

塚田実知代（同 同）

吉岡 泰夫（同 言語変化研究部）

以上7名（所属はいずれも当時）

当日配布資料 ①「敬語についての意識に関して」（杉戸）

②「人称詞に関して」（尾崎）

③「あいさつに関して」（塚田）

④『平成8年度国立国語研究所公開研究発表会資料「学校の中の敬語」』

（1996年12月20日）

ほか関連論文コピー

《前半》

(1)あいさつ

杉戸：（あいさつおよび検討会の趣旨説明）

「学校の中の敬語」の調査については、公開の形で1年以上前に中間発表会を行なったり、いろいろな論文として外に公開し、すでに御意見・御批判をいただいている。今日は、それをより集中的な形で、中学生・高校生に直接接しておいでのお先生方のお立場から御意見をうかがいたい。この調査には大きく分けて面接調査とアンケート調査があるが、今日はそのうちのアンケート調査を中心にうかがうことになる。面接調査についてはまた別の機会にと考えている。

（出席者の紹介）

（会の進行について）

(2)調査の概要について

尾崎：調査の概要を説明

杉戸：（補足説明）

(3)調査データから

杉戸：「敬語についての意識に関して」（資料に沿って説明）

尾崎：「人称詞に関して」（資料に沿って説明）

塚田：「あいさつに関して」（資料に沿って説明）

《後半》 意見交換

◆敬語意識について【本報告書 第3章】（【 】内は編集上の補い）

荻野：「ふだん、学校で、自分自身の言葉遣いが気になるほうですか？」という質問文【本報告書3.1.】の「気になる」という言葉に関して気になる点がある。調査の意図とは違う意味で捉えている子もいるのではないか。たとえば保護者が「うちの子の言葉遣いが気になるんです」という時の「気になる」は、「言葉遣いに問題がある」というマイナスイメージで捉えることがある。そうすると、教師と親の「子供の言葉遣いが気になってね」というようなマイナスのイメージを意味するようなレベルで、「あなたは言葉遣いが気になりますか？」と子供に聞いた時、「僕の学校での言葉遣いは問題あるのかな？」と受け止めてしまう子もいたのではないか？ それ以下の項目を見ていけば、「言葉遣いが気になるか？」というのは、「言葉遣いに気を配っているか？」「言葉遣いをきちんと意識しているかどうか？」というニュアンスで聞かれているということは、利発な子ならわかるが、中学生くらいだと、徐々にその意味がわかつても、最初の設問に戻って直す子というのはいないと思う。「僕の言葉遣いは問題無いんだ、オッケーなんだ」っていう意識で、「気にならない」と答えている子もいるのではないか。そう考えると、社会人の資料【『国立国語研究所報告73 企業の中の敬語』】では「気を配っている」という言葉に置き換えているが、それと比較が可能なのかどうか？ 学校の調査で、この質問に反応が低い割には、そのあと個々の質問に対して反応が出てくるというのは、こうした質問に対する生徒の解釈の違いがあるのではないか。

◆声の調子について【本報告書 5.10.】

荻野：「緊張する」とか「声の大きさが小さくなる」と、ある意味で期待どおりの反応が顕著に出ている部分については、中学生でも自覚できる部分であるが、「声の高さ」「明瞭さ」「早さ」というのは、無意識のうちに変化してしまうところだと思う。つまり、たくさんの聴衆がいてあまり大きな声で話すのは恥ずかしいから「ちょっとぼそぼそしゃべっちゃえ」ぐらいは自覚できるのだが、その後に、自分の声が高くなっているかとか、早くなっているかとか、不明確になってるかどうかは、むしろ聞いている方が「おまえ、さっき緊張してたね、声が高かったよ」ぐらいのことであって、中学生はまだ自分自身で分析できるところまで行かないのかなと思う。そうすると、ここでの反応の「声の調子」という部分まで明確に子供が答えられなかったのは、無意識な違いだからではないだろうか。

関：高校でも同様の点があると思う。

杉戸：「声の調子」では設問を5つ並べてあるが、「高さ」や「明瞭さ」というのは意識にのぼりにくいだろうということか。

荻野：それに加えて「早さ」も、どちらかというと無意識のうちにに入ると思う。

杉戸：「声の調子」以外で、言葉遣い全体として生徒たちが意識にのぼっている事柄としては、他にどんなことがあるか？

関：言ったことに対してその答えがきっちりかえってこない、言葉が不明瞭になったり声が震える、うまく言葉がつながらないというような子もいる。

◆生徒の場面意識について【本報告書 3.7.】

荻野：子供というのは場面意識が強いなと感じる。中学3年生を例に取ると、教師との会話の場面

として、「授業」「休み時間」「面談（進路相談）」が考えられるが、全部子供の顔が違う。放課後「どうすんの高校は？」と話す時は非常に親しい話し方だが、同じ話題で「面談」として一对一で話す時には敬語になる。そういう枠組みのようなものを意識しているなと感じる。まったく同様に高校進学について相談にのっているので、こちらは休み時間のつもりで親しく話しかけても、「生徒面談です」というような冠がつくと、彼らの言葉遣いは変ってくる。第三の聞き手ということを考えてみると、そういう場合はない。常に一对一の「対話」である。放課後の対話の時には、「先生、あの学校あぶなそう。」「そうだねー。」と話をしている子が、面談になると「先生、どうですか？」と変わる。そういう枠組みを意識している。

学活（学級活動）のクラス討論と国語の授業のクラス討論とでは全く言葉遣いが違うこともある。授業としての討論では、一生懸命丁寧な言葉で、まさにパブリック・スピーキングでやろうと試みている。逆に学活の討論では「明日のレクリエーション何やるー？」「やだよ、俺、それー。」という話し方になる。「討論」「話し合い」だからパブリックかというと、そうでもない。実際的な何かを決める時の討論というのはむしろ生の声が飛び交うが、やや形式的なパネルディスカッションをやりましょうとか、国語の授業で「言葉遣いを考えよう」「漢字学習について考えよう」などと冠をつけて話し合いをさせると、生徒は一生懸命、意識した言葉遣いを発表するようだ。

杉戸：以前、山形県の中学校で生徒会活動の場面を録音機を入れさせてもらって記録する機会を得たが、そこではずいぶん改まった言葉が飛び交っていた。先生にうかがうと、「ええ、いつもまあ、こんなもんです。」と言う。それは、何かを決めるという目標をもったフォーマルな会であるからなのか？ 今のお話をうかがうと、実際はもっとざくばらんなのか？

荻野：実質的にはそうだろう。たとえば卒業間近になって何かみんなでイベントやろうとか、自由な日があるから何かに使おうという会話の時には、よく私達がイメージしている授業の話し合いみたいな感じではない。

杉戸：先程の山形県の中学校で生徒たちが一番改まっていたのは生徒総会だった。体育館に全校生徒が集まって、1年に1回か2回行なう非常にセレモニー的な要素の強い生徒総会では、言葉の飛び交う量も少なく、議長や生徒会の役員が、しかるべきタイミングでしかるべき内容を言うにとどまる。生徒総会は「おそらく、まあこういうものか」と思い、次にクラスの討論を見せてもらった。すると、それも割とそれに近い感じで、あまりくだけた言葉のやりとりは聞かれなかった。私達は、この調査の初期の段階でそういう場面を見せてもらった。そこで、クラス討論というのはどちらかというと全体としてはフォーマルな場面だろうと位置づけたところがある。そこから、今の話とのずれが出てきたようだ。学活というのは、中学校も高校もあまり変わらないものなのかな？

小林：そういう感じはある。話題によってというよりも、今はこういう場なんだという彼らの把握によって決ってくる。

荻野：それにより彼らは自分のテンションを決める。

小林：それとちょっと関連して、たとえば呼ばれ方についても【本報告書 5.3.】、先生が生徒を呼ぶ時に、放課後の雑談だったら「〇〇ちゃん」と愛称で呼んだりしてもそんなに抵抗はないが、授業や面談の時にそういう呼び方をすると、ちょっとカチンとくる生徒もいる。一对一で同じ人が同じ相手を呼ぶ場合でも、こちらが場をわきまえないと、「けじめがない」という批判を逆に受けたりすることもありうる。

杉戸：尾崎さんの説明の中に「妙になれなれしい」というコメントがあったが、そうした面談の時には、先生方も身構えたような扱いをしないと、生徒たちも戸惑うことがあるのだろうか？

荻野：そうだと思う。子供達というのは自分がどのポジションにいるかということに非常に敏感なような気がする。もちろん、クラス討論で、先程言った「話題」により、「この話題は結構真剣にやらなきゃいけないぞ」という時にはぐっと高まってくるが、「明日のレクリエーションはどうしようか」くらいの時には、もっとざっくばらんに「バレーがいい人？」「はーい。」みたいな、学級活動という授業の中であったとしてもそういう流れがある。そのように感じている。

杉戸：荻野さんと御一緒に、教科書関係のビデオを作る機会があったが、そこに中学生の討論、あるいは生徒会の討論という場面があった。その中で、「町内会の掃除に参加するかどうか」という話題の時に、一人の男子生徒が「オレいやだよ、それ無理だよ。うちの手伝いもあるしさ。」という、かなりざっくばらんな調子で言っていた。これは、私としては「ここまでくだけるものなのか」と、イメージとしてかなり違和感があった。生徒会役員が十人ぐらい集まった場面で、話題があり、議長がきちんと司会をしながら進める場面であるのに、こんなにざっくばらんな言い方をするものなのか、と。その後、三人か四人の生徒の発言があったが、結局、一人だけがざっくばらんで、あとは非常にフォーマルなスタイルでそのシナリオはできていた。私としては、どちらかというとそのフォーマルな方が一般的だろうという意識があったのだが、お話を聞くと、そなへかりとはいえないようだ。

関：クラスの雰囲気もあるだろう。

杉戸：そういうところで、先生がその場にいらっしゃるか、いらっしゃらないかは、関係があるか？

荻野：中学生くらいだと、教師がいなくてフォーマルな話し合いというのは成立しにくいと思う。

私の勤務先の学校の生徒は話す力が高い子供がいると思うが、それでも、教師がいないとやはり、あのビデオのようなフォーマルな話し合いにはならない。生徒会の担当をここ数年やっていて、自分の側で話し合いをさせているのだが、私がちょっと離れたところにいると、笑い声あり、友達同士の会話ありだ。そして急にまた真面目な部分に入ったりというような、非常に柔軟な話し合い方を今の子供達はしていると思う。いわゆる大人がやる会議のような「それではこれから始めます」というようなことはやらない。むしろ、教師の方が司会のマニュアルを作って、「こんなふうにこの会議をやりなさい」とかなり管理的にやった会議であれば、あのビデオのように流れていくと思う。ところが、子供達の自発的な生徒会の会議であるとか、そういうものだとどうか。あれはずいぶん作っているなというイメージを私は持っていた。

◆部活動という場面について

杉戸：部活動・クラブ活動の場面というのはどんな位置づけになるのか？ クラブのミーティングとか会議は、クラス討論よりもざっくばらんな、実質的な、本音の言葉が飛び交うのか？

荻野：部によってずいぶん違うのではないか。要するに、その部の指導態勢、いわゆる「体育会系」が強い部は、先程の「失礼します」という表現にも関連して、挨拶も徹底しており、教師と先輩が二人歩いていたら、必ず先輩の方に挨拶するというような、対教師よりも対先輩の方を強く意識するということがある。そういうレベルまで高まっている部もあれば、学年差がなく先輩のことを呼捨てにしているような部もある。クラブの体質によるところが大きいのではないか。

杉戸：クラブ活動関係ではとにかく「先輩が偉い」という結果がある【本報告書 3.7.】。教師と先輩とでどちらを気にするかというと、クラブ活動で先生と話す時は意識が低く、先輩と話す時の方がずっと工夫している。

荻野：これは、中学校の場合だけだと思うが、特に運動部系で厳しくきっちりやるのは、女子の方であろう。男子の方がゆるやかで、女子の方が細かいところまで、たとえばリボンの縛り方まで指導が入っていたりする。これは、前任校の埼玉県の公立中学校でも同じような傾向であった。逆に、職員の会議で、あのしつこいまでの挨拶をどうやめさせるかというのが時々議題にあがることもあった。「こんなちはー。こんなちはー」と、100メートル以上も離れた先輩に向かって言ったりする。職員間で「あれはちょっとやりすぎだから」と。これはもう10年以上前の話で、最近は改善されたと思うが、当時はそうだった。男子の場合はそこまで話題にならないのに、女子の運動部などは、外の締めつけが結構厳しく、言葉遣いもしっかりしていて、特に先輩に対してはきっちりやっていたという印象がある。

杉戸：最近は少しゆるやかになったのか？

荻野：そのように肌では感じている。学校が変わってしまい、そういう雰囲気がかなりなくなった。ただ、現在勤めている中学校でも、男子と女子とでは、先輩との垣根の高さの雰囲気は、女子の方が高いように感じている。女子の場合は、上級生からも下級生からもしおっしゃう不満を聞く。逆に、男子で顧問が間に入って不満を聞くことは滅多にない。だから、女子の顧問になると大変で、「今年の一年生は…」「今年の先輩は…」という不満を、教師が「まあまあまあまあ」と間にに入る。男子は、先輩後輩の悪口を顧問にぶつけてくるということがまずない。こうしたことも、先程の尾崎さんの報告の対称詞の「『センパイ』の使用の男女差は何に起因しているか」ということに関連していて【本報告書 5.2.】、そうした人間関係の男女差があるからだろうかと感じながら聞かせていただいた。

杉戸：私は昔、『言語生活』という言葉の雑誌のコラムを担当していたが、後輩が何度も頭を下げる場面が録音に入っている。三人の後輩が三人の先輩と別れる時、一人の後輩が三人の先輩一人ずつに同じ言葉を三回言うので、同じ言葉が $3 \times 3 = 9$ 回飛び交うことになる。

◆人称詞について(1)【本報告書 5.1., 5.2.】

尾崎：「センパイ」という表現について、男子よりも女子による使用の方が高いというのは、今おっしゃったようなところが背景にあるのだろうか？

荻野：私は二校しか経験がないが、中学校に関してはそうしたイメージを持っている。

関：「センpai」を使うという回答の中には、「姓+センpai」も含まれているのか？

小林：それに関連して、調査票の中で、最初の方では「上級生」という形で聞いているが、後の方では、同じクラブで話をする場面では「先輩」という言い方をしている。この、「上級生」ではなくて「先輩」としたことには、何か意図があるのか？「先輩」という聞き方をした場合、「そういう言い方もあるな」と誘導することになるのではないか？もうひとつ自称詞の項目で気になるのは、「オレ」と「ボク」の傾向など、その結果が自分の実感と違うように感じられる点である。この調査では、ひとつひとつについて、使うか使わないかと聞いている。「ボク」はたまに使うけれども「オレ」をしおっしゃう使っている子も、「ボク」をほとんど使うけれどもたまには「オレ」も使うと言う子も、回答としては同じということになるのではないか？そういう聞き方をすると、実態とズれてくるのではないかという気がする。

これだけ「センパイ」を使うという結果が出ているというのが少し気になった。その場合、男女差ということで考えると、小規模ではあるが言葉に対する意識調査を私もたくさんしており、その経験から言って、何を聞いても男子は「わからない」「意識してなかった」という答えが多い。そういう意味では、女子の方が、それをどのくらい深めていくかということは別にして、情報を取り込みやすいという面があるのかなと思う。そこで、こういう聞き方をされた時に、それがどの程度影響してくるのかということに関しては、去年の中間発表会の時から気になっていたことである。

尾崎：調査票では「センパイ（姓+センパイ、名+センパイなども）」と補い、「姓+センパイ」も含む形で聞いている。

杉戸：「センパイ」と言う言葉が出てくるのは、部活動・クラブ活動だけに限って使い分けたつもりだった。生徒会・学級活動関係では「上級生」という表現で一応統一したつもりだ。

小林：そういうことが、回答した生徒に通じているかどうか。

最近、「センパイ」というのが普通名詞化しているかなと感じことがある。

私の担当しているクラブ活動では、「OBの先輩」「OGの先輩」と言うことがある。そんな言い方があるものの、では面と向って「センパイ」と常に呼んでいるかというと、それでもない。同じ学校の中にいる場合にはあだ名とか「○○ちゃん」と呼んでいる場合もあるし、卒業してしまったような先輩のことは「センパイ」と言うことが多いかなと感じる。

荻野：このグラフは、使用する可能性のあるカウントではあるけれども、必ずしも使用頻度ではないということですね。

小林：そういうカウントであるけれども、現実的には「オレ」と「ボク」というのは、子供達の中でやはりひとつの傾向を持って意識しながら使われている言葉ではないかと思う。それに加えて私の調査では、「なるべく自称を使わない言い方をする」という答えが結構あった。なるべく「ボク」と言わない、「ワタシ」と言わないで話をもっていくというのを、結構意識的にやっている子が、個別に聞いてもいる。それも、やはり「オレ」とはちょっと言いにくい、しかし「ボク」というのもちょっと子供っぽかったり、優しげに聞こえたり、優等生っぽく真面目人間に聞こえるのが嫌だとか、いろいろ理由がある。作文などで相手がいなければ「ボク」と書いているのに、しゃべる時にはなるべく使わないようにしている。しかし「ジブン」などと言うのには抵抗がある。だから使わないようにしゃべっているという男子は多い。

塚田：それは高校生だからということか？ 中学生まではそのことについてあまり意識していないのではないか？

小林：私自身は高校でそのような印象を持っていた。私には中学生の息子がいて、そのことに関して聞いてみたところ、「自分は小学3年生の頃にはもう、そう思っていた」と言う。「ボク」はいやだ。だからなるべく使わない。しかし小学校2～3年生くらいだと、「オレ」なんていうと「そんな乱暴な言葉はやめなさい」とお母さんが言うから、だから「オレ」も使えない、と。

杉戸：人称詞を避けるというやり方は、外国人への日本語教育の世界でも話題になっていることがある。人称詞に限らず、文末の方に出てくる尊敬とか謙譲という人間関係を微妙に表わさなければいけない語形の部分を避ける。文の作り方として、そういうストラテジーを持っている初級・中級の学習者がいると聞く。私はそういうのもひとつの能力だと思う。やり方でかなり工夫しないと、言葉遣いの他の方まではっきりしないと避けられない、省略することができないわけなので、男子の場合、そういうことが早い段階で始まっているということであろう。

小林：先程の中学校の件についてだが、私も中学校のことはよくわからないが、東京都の多摩地区の公立中学校に通う息子に聞くと「友達同士でボクと言うのは変わった子だけだよ」と言う。だいたい普段は「オレ」と言うが、先生に対してはもちろん「ボク」と言いにくいくらいのだけれど、使い分けようとする。そういう話を聞くと、個別の例としてではあるが、今まで自分の生徒と話をしてみて納得できるところがある。たとえば、彼らと面談で話をしても、主語のない、自称詞のないしゃべり方をするので、誰のことを言っているのかわからなくて、「え？ それは誰の事？」と聞き返しをすることが、女子よりも男子の生徒に対しての方が圧倒的に多い。

尾崎：どの言い方も使わないという生徒はおそらく「その他」に○をついているが、その中にはそうした回答もあったかもしれない。ただ、その回答に男女差があったかどうか。

杉戸：女子の方では、そういう人称詞関係で、「ボクと言うのはちょっと…」に似た葛藤のあるものはあるか？ 「ワタクシ」なんていうのは？

小林：「ワタクシ」は言わないだろう。まず聞かない。高校生の世界では相当改まっていても聞かない。アンケートで「言うことがありますか？」と聞くと○をつける子はいるが、聞いたことがない。女子の自称に関しては最近、「ハルコ」「マユミ」という言い方が目立つ。これは、私が高校生の時や教員になったばかりの頃には、少なくとも先生に対する言い方としては聞いたことがない言い方である。ここ2~3年よく聞くようになった。

尾崎：先生に対しても使うのか？

小林：先生と話す時にも、自称詞に自分の名前を使う子がいる。そう多くはないと思うが。

塙田：姓ではなく名前の方か？

小林：名前の方だ。

尾崎：東京の高校の女子による「名前」の使用はわずかだが。

小林：この言い方は流行かもしれない。ずっと増え続けてこれから先もそうなるかどうかというほどの印象ではないが。

荻野：メディアに出ている女性アイドルタレントが結構自称詞に名前を使うことが多いので、そういうのに非常に興味関心を持っている子が多い。友達を呼ぶ時も、当然下の名前で呼ぶし、自分を称する時にも、「ワタシワ」という言葉を使うよりも、「○○（名前）ワ」と話し始める。そういうのがここ数年多いと私も感じている。

杉戸：マスメディアなどでは姓の方を自称に使うというのがあって、非常に違和感を持っている。

荻野：矢沢永吉あたりから始まっているものであり、「矢沢は」と彼は言う。それを若い子、ちょっとつっぽった演技とかキャラクター持っている子は真似をするし、いわゆるブリッ子スタイルの子達は下の名前を使う。そういう使い分けを感じる。

杉戸：この研究所にも、自分のことを姓で言う若い女性所員がいる。

◆人称詞について(2)【本報告書 5.3.】

荻野：先程小林さんがおっしゃったように、子供達は場によって、呼ばれ方を意識していると思う。好きなニックネームであっても、言わねたい場面と言わねたくない場面とがやはりあるようだ。ただ、代名詞よりも固有名詞、その子だけの名前で呼ぶというのは、むしろ生徒指導では鉄則であり、非行化傾向を持った子に名前で呼んだら、「名前で呼ばれたの初めてだ」と、顔が和やかになるというようなことがいろいろな報告にある。だいたいそういう子達は叱られる時、「オメエラ」とか「オマエタチ」と言われてしまう。ところが、名前で呼ばれると、彼らは個とし

て認められたんだと思う。だから、代名詞よりも固有名詞の方が個として認められたという意識が強い。逆に教師が代名詞を使っている時は、この教師は「俺のこと知らないな」「きっと僕のこと理解しないんだ」「だから代名詞で呼んでるんだ」「先生は僕の名前を覚えてくれてないんだ」と感じることが強いと思う。

杉戸：そこまで行くわけですね。

荻野：はい。だから私達も授業をやりながら、名前が出てこないというのは極力避けるように、その子の机とか上履きとか、その子の手がかりは無いかと一生懸命探して、それで「君は何だつたっけ？ 上の名前はわかってるんだ、下の名前だよ。」とか言いながらごまかして、とにかくその子の名前を知っているんだと演技する。「キミ」「アナタ」とは絶対言わないようとする。

尾崎：もし仮に「アナタ」を使うことがあるとすれば、それは対立的な場面ということになるか？

荻野：「アナタ」は、どうしても、注意する時などに使いやすい言葉である。怒った時に「あなた、どう考えるの！」と使いやすいので、「アナタ」には抵抗があるのではないか。やわらかい言葉で「アナタ」というのは、そんなに嫌な言葉ではないはずで、好ましい言葉だが、学校の場面では、配布資料にも書いてあるように、対立的な場面でもよく使われる言葉だからだろうと思う。

杉戸：「アナタ」という言葉は女性の先生からするとどうか？ 使いやすさとか。

小林：これは、好き嫌いということから言っても、「アナタ」は、「キミ、オマエ、オメエ、アンタ、オタク」と言われるよりはいいということである。だから、先程荻野さんがおっしゃったように、名前を知らないで、呼び掛け言葉がなくて、生徒が「アナタ」と呼ばれたら嫌だらうなとは思うし、そういう使い方は避けようと思う。しかし、たとえば「〇〇さん、ちょっとこれ、あなた持っててくれない？」というのは普通に使う。また、「キミ」というのは不思議な言葉である気がする。学校社会だけでなく、一般に結構使われる言葉とされていながら、実際にはあまり聞かない言葉ではないか、という気がする。他の学校の状況はどうかわからないが、私の勤務する東京郊外の都立高校がある一帯の地区で「キミ」を使う人はごく限られた中年女性の先生ぐらいではないか。そういう人はわりあい使いやすく、「きみ、ちょっとこれ、頼むわ」という使い方ができる。もちろん名前を言っての上であるが。しかし、男の先生で「キミ」という言葉はあまり聞いたことがないし、私も若い20代くらいの時には「キミ」という言葉自体が使用語彙にないので、生徒に対して「キミ」と使ったことは一度もなかった。そのうち、だんだん自分が偉そうにできるようになったら「キミ」と言うようになったりして、いやな言葉だな、やめようか、と思うのだが。

関：僕が使うのは「キミ」。「アナタ」とはあまり言わない。

小林：それには地域差もあるだろう。ただ、「アナタ」に関して、生徒に対する女性の先生の言葉と男性の先生の言葉は、少なくとも私の周辺の学校では、とても違っている。生徒が先生からどう呼ばれどう感じるかということについても、たとえば、男性の先生から「姓+サン」で呼ばれるのと、女性の先生からそう呼ばれるのとでは、生徒の取り方はものすごく違うのではないかと思う。これは、「〇〇クン」など他の呼ばれ方についても言えることである。

杉戸：「〇〇クン」は女性の先生から男子への使い方か？

小林：日頃よく聞いていると、割合年配で、嘱託の先生とか講師のような、学校から一步離れたような立場の先生方は、たとえば男性の先生なら女子を「〇〇サン」、男子を「〇〇クン」と呼んでいるような印象がある。それから、普通の男性の先生方は、女子も男子も割合「呼捨て」に

しているのではないか。女性の先生は、女子を「〇〇サン」、男子を「〇〇クン」と呼ぶことが多いように思う。たまに、地域のコミュニティーセンターなどで「ジェンダーと言葉」という講座に行ったりすると、女性の問題に関心のある人などは、先生には男子も女子もぜひ「〇〇サン」と呼んでほしいとおっしゃる方が多い。私も建て前としてはそうだろうと思うが、現実的に学校の場に行って、男子の生徒を「〇〇サン」と呼ぶか、呼べるかというと、すごく呼びにくい。「〇〇クン」ならまだ呼べるし、「呼捨て」にする方がまだ気が楽なくらいだ。「呼捨て」をどんな場面でも平気で使うことは私も嫌だが、話の流れの中で使うこともある。女性の先生の中には男子生徒を「〇〇サン」と呼ぶ人もいるが、そういう呼び方に対する男子生徒の見方もいろいろある。高校を出て大学や予備校に行くと「〇〇サン」が普通だと思うのに、高校で「〇〇サン」と言うと、男子生徒にぎょっとした反応をされるというか、俺の方が一段偉くなったりんだぞというような態度をとられることもある。また、先生にもいろいろなタイプがあり、「さあ、やろうよ！」とリードして引っ張っていくような先生もいるし、女の先生だと昔ながらの女子校の先生みたいなおとなしくて優しい方もいる。後者のような人が男子生徒に対しても「〇〇サン」と使うような印象がある。しかし、そういう人だと、生徒に言うことを聞かせられないというようなことが風評で一緒に流れたりするので、言うことをきかせてリードしていくとするときなど、「〇〇サン」はとても使いにくいところもある。本当は、やはり高校生であれば、全部「〇〇サン」で通せばいいのだけれど、そうもいかない。また「呼捨て」をするのも抵抗があり、なかなか使えない難しい言葉だなと思う。女子校だとまた少し違うかも知れないが。

荻野：定量的なお話はできないが、私の知っている限りでは、男女差はあるようだが、やはり教師は圧倒的に「呼捨て」が多いと思う。私は国語科なので、少なくとも授業の中では敬体でやりたいと思っているため、「〇〇サン」「〇〇クン」を使う。男子に対しても「〇〇サン」であるべきだという先程の話に関連して、「〇〇サン／〇〇クン」派は、実際2～3割くらいだと思う。それは、教師がある意味で強く出ないと子供達を御しきれない。「〇〇サン」「〇〇クン」と呼んでいると子供達が逃げて行ってしまう。引っ張る教師というイメージがあつてやる人と、パイプがあつて信頼関係の上で「呼捨て」にする場合とがあり、一概に悪いとは言えないと思うが、現在、少なくとも教師は「呼捨て」が主流ではないか。授業を離れて生徒を敬称で呼ぶ先生は少数派だろう。小学校の先生はそうでもないが、中学校ぐらいからガラッと変わらう。

小林：女性の先生でも同じだろうか？

荻野：女性の先生も増えていると思う。

小林：高校の場合には、女性の先生は、原則的に「〇〇サン」「〇〇クン」を授業以外でも使うという方が結構いるように思うのだが。

杉戸：中学校から高校に移行するに従って、教師と生徒の関係からして、「サン」「クン」やそれにつながる敬称や丁寧な言い方が増えていく傾向にはあるのではないだろうか。

小林：中学校というのが、そういう意味では一番、よくも悪くもきっちりと生徒との関係ができるし、作らなくてはならないということがあるのでないか？「呼捨て」にする方がより効果的なののは中学校ではないだろうか。高校になると、少し大人になってくるので、多少おとなしい先生が「〇〇サン」と言っても、生徒がちゃんと聞いてくれることはあると思う。もちろん、それだけでは済まない場面もあるだろうが。

荻野：私の研究仲間で、「友達同士、どういうふうに呼ばれるのが一番いいか」というのを、国語の

授業でディスカッションさせたというのがある。設定は「職員室で○○君を呼んできてくれ、と先生に頼まれた。教室まで駆けて行って戸をがらっと開けて、第一声、何と呼ぶか？」と。「杉戸君、先生が呼んでるよ。」と言うか、「おい、杉戸、先生が呼んでるよ。」と言うか、「杉ちゃん、先生が呼んでるよ。」と言うか、いくつかパタンを作り、どれを支持するか、パネリストを立てて議論させた公開授業を見たことがあり、自分の学校でも各学年で同じように調査をした。これには個人差もあり、いろいろと言えないとは思うのだが、ただ中学校というところには、小学校から受け取ったばかりの非常に幼児性が残っている子から、高校にバトンタッチする前のちょっと大人っぽい雰囲気を持っている子までいる。1年生と3年生とでは全然雰囲気が違ってくる。1年生の頃というのは、同性に対しても異性に対しても結構「呼捨て」が多く、まだ性の意識というのがないように、私はその時感じた。2年生くらいになると、先程の調査結果とリンクしてくるのだが、異性に対しては呼びかけにくい、と。つまり、性に目覚めるのだが、どう呼んだらいいかわからず、むしろ背中を向け合ってしまうという時期が中学2年生ではないか。これは生徒指導をしていても感じることで、1年生の頃は、「机をあわせてごらん。男女の班をつくれ」というと、何の抵抗もなくちゃんとつけて、ワーウーしゃべり出す。ところが、中学2年生くらいになると、男子と女子の机の間に5~10センチくらいの溝ができてしまう。それでお互いに話さない。相手を呼ぶ時も、陰では恐らく呼んでいるのだろうが、なかなか相手のことを呼ぼうとしない。ところが3年生になって、しかもある程度クラスの関係がしつくりいってくると、きちんと敬称をつけて呼ぶようになる。相手を女性として、また男性として認め、「○○クン」「○○サン」と呼ぶ関係になってくる。東京都の中学校では2年生からしかデータをとってないが、そこに絡んでくるのではないかと思う。

塙田：異性の同級生に対し「挨拶をしない」という回答が、他の項目に比べ非常に数値が高い【本報告書 5.5.】。データが東京の中学生のものであり、荻野さんのおっしゃることと符合する。

荻野：1年生くらいまではまだ小学校の雰囲気を引きずってきているので、男女の差はあまり意識せずガチャガチャやっていた。2年生くらいというのは一番、もちろん第2次性徴もあり、男の子は女の子をどう扱っていいかわからない。それまで一緒に遊んでいた幼なじみの○○ちゃんじゃなくなってしまう。そこで、無視するというか、本当はコミュニケーションを取りたいのだが取れない。そうした混沌の時期を越えて3年生くらいになってくると、大人に近づいた関係で、「○○サン」「○○クン」で付き合えるようになってくる。そういうイメージを持っている。

関：調査はどうして2年生だけなのか？

杉戸：調査が一番やりやすかった、受け入れてもらいやすかったからだ。1年生はまだクラスとしても学年としても混沌としているし、3年生は次の段階への忙しさがある。

小林：中学3年生は進路の面談をしたり、面接の指導をしたりする学校が多いので、そこでおもて立って敬語の使い方や改まった場での行動の仕方、しゃべり方というのを意識し始めるのではないか？

荻野：知識として、カリキュラム上は3年生の教科書に敬語は入っている。実際、前任校でも今の中学校でもそうだが、3年生の冬が近づくと、話し方指導というほどではないが、それに絡めた面接指導をやる。

杉戸：そういうときは、教育としていい場面になるのか？それを経る前と経た後とでは変化があるか？

荻野：それまで全く意識が向かなかった子達が、すぐそこにあるハードルに向かって頑張るわけなので、効果は高いと言える。

杉戸：大阪の方では、「〇〇クン」「〇〇サン」という敬称をつけた呼び方が持つ意味合いはどうか？

関：大阪ではやはり「呼捨て」が多い。ただし先生の個人差ももちろんあると思う。私は授業中は「呼捨て」だが、時々改まった感じで「〇〇クン」「〇〇サン」と言う時もある。その時は、雰囲気をみはからって使ったり、いろいろな場面がある。

◆言葉遣いの変化の項目について【本報告書 5.11.】

杉戸：生徒達の間で先生を「サン」づけで呼ぶことは、男女共に、東京の高校よりも大阪の高校の方が高いという結果があるが。

関：私は今まで生徒から「サン」づけで呼ばれた経験はないので、「あれ、こんなに大阪が多いんだな」と思った。ただ、今年の3年生で一人だけ、私のことを「関サン」と「サン」づけで呼ぶ子がいる。どうしてそう呼ぶのかは聞かなかったが。

荻野：大阪の方では、教師間ではどうだろうか？ 教職員間でも「関サン」と言うのが多いのではないか？

関：そうだと思う。確かに「サン」づけが多い。私はなるべく「〇〇先生」と言うようにしているが、なかなかそうもいかずに「〇〇サン」と言うこともある。この頃は古手になってきたので「〇〇クン」と言う場合もあるし、仲の良い先生同士では「〇〇チャン」とも言っている。

荻野：実際、こういう会議の場で、「尾崎サン」と言うべきか、「尾崎先生」と言うべきか、私も迷うところはある。ある研究会（全国大会）に参加した時、「今日はお互いに『先生』と言うのをやめましょう。『〇〇サン』でやりましょう」ということになった時、東の方の人が反対したというような記憶がある。神戸の方の先生がそれを提案されて、西の方の人はだいたいが賛同した。東の方の人が、「やはり僕はここにいらっしゃるあの先輩を『〇〇サン』とは呼べない。『〇〇先生』と呼ばせてもらう」という発言があって、話題になった。今の職場はそうでもないが、前任校では「〇〇サン」で呼び合うという雰囲気はなかった。先生同士「先生、先生」と呼び合っている。もしかしたら、そうした職員室の雰囲気と、子供達が陰では「関先生」と呼ばず「関サン」と呼んでいるということは、関連があるのかもしれない。もし、東西の文化の違いまで語るのであれば、職員の言葉も調査してみて、関東の方が職員同士「先生」という言葉をよく使ってそれで子供にも似たような傾向がみられる、ということが言えれば、東西の行動様式のところまで押して行ける論になるのではないか。

小林：ここで言う「生徒間で先生のことをサンづけで呼ぶか？」というのは、先生をたとえば「やすこちゃん」とか、呼捨てで「小林」とか、ジャッキー・チェンに似ているから「ジャッキー」と呼ぶというのとどう関連するか。尾崎さんのおっしゃる文化の違い、行動様式の違いということとの関連などについてうかがいたい。

尾崎：ニックネームで呼ぶというのも垣根を取り払うことになる。「サン」づけとのつながりがあるよう思う。

小林：数量化したわけではないのではっきりとはわからないが、印象ではそういう呼び方をする生徒が多いと思うし、私自身、面と向かって「チャン」づけで呼ばれた経験もある。

杉戸：先生の事を「サン」づけで呼ぶかどうかは、調査の質問としては「友人に向かって」ということで聞いている。「佐藤さんは休みだ」「佐藤は休みだ」と友達同士で言う時である。これは、

私の過去の記憶でいうと、先生の事を友達同士で「サン」づけでいうと、生徒として成長したような、そういう自覚のもとで、大人になったという意識が確かにあったように思える。「呼捨て」よりもさらに「サン」づけした方が、自分が偉くなったような気がした。それは、尾崎さんのいう文化的な差で、距離の捉え方、対人関係の設定の仕方がずいぶん変わってきたということではないか。

荻野：子供達の雑談を聞いていると、子供のランクとしては、「佐藤先生」か「佐藤」か「さとちゃん」だった。概念として「佐藤さん」というのはないのではないか。つまり、「先生」という敬称をつける、「呼捨て」にする、「ニックネーム」で呼ぶ、というこれらの三者択一だと思う。私も「荻野先生」「荻野」「ニックネーム」のどれかで呼ばれているだろうが、「荻野サン」というのはありえないと思う。

関：クラブの顧問の先生がたまたま休まれた時の生徒の会話を聞いていると、「呼捨て」をしている。「呼捨てはないやろ」と思った。

荻野：私達が聞いているところでも結構言っている。面と向かって「ニックネーム」で呼ばれて、それが許される教師と生徒の関係がずいぶんあると思う。

◆挨拶について【本報告書 5.5., 5.6.】

杉戸：挨拶関係では、「失礼します」「じゃあね」など具体的に出ていたが、実際どうなのだろうか？

関：高校の場合は、職員室の他にも教官室、準備室などがあり、各準備室には「入る時は『失礼します』と言うように」などの貼り紙があつたりする。

荻野：私の所には職員室というのがないので教官の部屋ということになるが、体育科の教官室には「『失礼します』と元気よく」と大きく貼ってある。もうひとつ、職員の部屋なので、会議をしていたり、成績の書類などが散らばっていることがあるので、ノックして入ってきただけだとわからない。生徒の声であれば「ちょっと待て」と反応できるということで、指導として、「教務室、職員室、研究室に入る時にはきちんと言いなさい」となる。入室の時はそうした指導があるが、退室の時の指導はまずない。「失礼します」という言葉が退室の時にふさわしいかどうか何となくしっくりしないし、「失礼しました」と過去形で言うのも、という子もいるのかなと思う。

小林：私もそこは気になった点で、退室の時の「失礼します」の回答は、「失礼しました」と書いたものも含めての数ということだが、「失礼しました」というのは、「今までの経過について失礼しました」ということであり、「失礼します」というのは、「ここでさよならすること」に対して言っているわけで、意味が違うのではないか。

杉戸：「出る時」の方に「言う」の回答が少なくなるようなバイアスのようなものがあるというとか。

小林：これがもし、選択肢として、退室の時の「失礼しました」というのも含めて考えてよいということであれば、入室の時と同じくらいに数値が上がるのではないだろうか。

杉戸：入室の時と同じくらいとは？

小林：つまり、「失礼しました」と言って出て行く子は多いけれど、「失礼します」と言って出て行く子は少ないと思う。

杉戸：指導という面ではどうか？

小林：高校生であればこの挨拶は身につけてくる。むしろ「(トントン) 失礼します。(ガラッ)」と

入ってくる感じなので、狭い部屋にいろいろな物があってパッと入ってこられると困るという意味で、「ちょっと、一回立ち止まってから周りをよく見て入りなさい」というようなことについて言うことは多いが、「失礼します」という言葉自体は、使用語彙として身につけているようだ。

関：企業就職者の多い学校だと、面接の練習を何度も繰り返すので、「失礼します」「失礼しました」は確実に言うようになるだろう。

荻野：「失礼します」というのが「辞去することが失礼なのである」という概念であると、そういう概念はまだ中学生は持てないと思う。「失礼しました」なら通じるだろう。「なんかそこでガチャガチャやっちゃった、騒がしくした、ごめんなさい」という意味の「失礼しました」なら分かるが、「さよなら」の意味の「失礼します」という概念は、もう少し大人に近づかないと持てないと思う。だから、先程高校生になると「失礼します」という言葉を使うようになるとデータに出ていたが、それは、中学生が別れの挨拶として「失礼します」という語彙があること自体を知らないからではないか。

小林：語彙としては知っていても、大人の語彙というか、自分が使うには大人っぽい言い方で、相手によっては口に出しにくいという時期があると思う。たとえば、先輩には「失礼します」と言うけれども、先生にはむしろ「さよなら」と言うというように。先生というのは甘えられる関係ということもあるので、これは自称詞についても言えることだが、先生に対してむしろ子供っぽい、親しい言い方をする。しかし先輩に対しては、年齢・立場としては近いが、微妙かつ厳然たる上下があるという関係だからこそ逆に甘えられない。そういう関係の違いがあるのではないか。

杉戸：先輩後輩の間で飛び交う別れの挨拶とはどんなものか？

荻野：「失礼します」だろう。

杉戸：先輩に対しては、典型的な言い方として比較的早くから身につくようなことがあるのだろうか？

荻野：やはり、素直にふっと出てくる別れの挨拶ではない。やや構えがあり、マニュアルがあつて「先輩、失礼します！」と言う響きがある。

塚田：実際、「失礼します」という言葉はクラブ活動から学ぶ言葉なのか？ クラブの先輩後輩意識とどう関係しているか？

荻野：挨拶言葉としての認識は弱いと思う。礼儀の部分から入ってきて、まず学校の側としては、「職員室、教官室に入る時には挨拶をしなさい。その台詞はこうだ」というものがある。一方、体育会系のクラブに多いことだが、先輩後輩の間での慣習として残っている挨拶指導というものがあり、こちらはその意味をあまり考えずに使っている場面が中学生には多いと思う。そういうところからこぼれている子、たとえばクラブ活動に入っていない、あるいはそんなに頻繁に職員室に行かないという子には、「失礼します」という行為はあまりないと思う。教員を十数年やっていて、生徒から「失礼します」を「さよなら」の挨拶の代わりに使われた事例はない。卒業生が遊びに来た時ならば、帰る時にこちらが「じゃあね」と言えば、「失礼します」と言う子は何人もいる。しかし、現役の中学生が私に向かって「失礼します」と言って帰って行くことはないだろう。

関：高校生の場合、アルバイトをやっている子も多くて、そこで教わってくる子もいる。

塚田：確かに調査票の自由記入の欄に「アルバイト先で」と書いているものもいくつかあった。

荻野：この言葉は「社会的な」というか「大人の言葉」として位置づけられるように思う。

杉戸：東京の高校、大阪の高校で、校長先生に対し「失礼します」と「さよなら」の順位が逆転している背景は何か？ 東京の中學と東京の高校を比べた場合も、「失礼します」が3位から2位に上がる。これもその「失礼します」という言葉が持っている社会性というか、そういうものが理解されて実際の行動として定着してくるものと解釈できそうか。

荻野：これはもしかしたら、先程の「先生に対する垣根を取り払おうとする意識」というものが東京の方が低く、大阪の方が同じ地平上で相手を捉えようとするという仮説を立てると、成り立つ道理ではある。

杉戸：そうですね。よりフォーマルで改まった形式が東京では好まれ、大阪ではそうではない、という解釈を、大阪の先生はどう解釈されるか？

関：校長先生に対しては「失礼します」と言うのを結構聞くが、親近感を持っているというか…。

塚田：調査では、生徒に想定させた相手を「担任の先生」「校長先生」と限定したが、先生一般と担任の先生とでは、挨拶言葉や行動に違いがあるか？

荻野：学校規模にもよるだろうが、子供には、教科指導を受けて自分が関わっている先生と、そうでない先生とがいる。逆に、私にも指導をしている生徒とそうでない生徒とがいる。私の場合は480人しかいない小さな学校だが、それでも関わりのない生徒というのがいて、そういう生徒とはなかなか挨拶も成立しにくい。こちらが声をかけないと向こうが声をかけてくれない。「僕は教わっていない先生だ」とスープ通り過ぎてしまうことがある。生徒は自分との距離感で見ているのではないか。担任の先生というのは、教師の中ではやはり一番近い先生だから、そういう意味では線引きできるだろうし、さらにその周りには教科指導を受けている先生がいて、クラブ顧問がいて、そして自分に全然関わりのない、ただうちの学校の先生らしいという先生がいて、それにより挨拶の度合いが違ってくるようだ。校長先生というのは、校長先生の行動にもよるだろうが、学校によっては、生徒とあまり接しないのではないか。

塚田：私たちが、時々高校に面接調査でうかがうと、廊下で生徒たちから挨拶されることがよくあった。それは、高校生の場合、自然に学んできたことなのだろうか。それとも、知らない人や来客があった時には挨拶をしなさいという指導のようなものがあるのか。

小林：高校生が廊下で挨拶をするということか。

塚田：熊本市や京都市の高校で調査をしたのだが、その時にはそうだった。

小林：地方だと、道を歩いていても中学生が「おはようございます」と言う所がある。そういう所は町ぐるみで挨拶運動か何かをやってたりする。

塚田：東京ではそういうことはないか？

小林：私の学校の生徒などは、知らない人に対しては挨拶はしないと思う。

関：大阪の場合、私は陸上部の顧問をしているが、毎朝ミーティングの時にやはり挨拶するよう言う。それから、全校集会というのが月に一回あり、そこでも生活指導の先生が朝の挨拶をするように言うこともある。

荻野：学校で指導しない限り、特に都心部では、自然発的に挨拶をしてくれる子は半分いないのではないかと思う。私の学校では、来客の多いシーズン、たとえば入学選考の願書を取りにくる受験者の保護者が増える時期であるとか、附属なので研究発表があって全国から先生方が参加される前後などに、挨拶の指導を入れると、結構素直な子達が多いので、その期間は上手に挨拶してくれる。ところが、それが過ぎて、何かの折に私の友人がたまたま訪ねて来た時には、

「全然挨拶しないねえ」と言わされることもある。そう考えると、ちょっと挨拶の指導を入れると生徒はやるけれども、自然発的に上手に挨拶するというのは、東京ではあまりないのではないか。地域の学校というか、そういったことが根付いている学校は地方にはあると思うが、私がお邪魔する東京の学校などでは、やはり「今日はこういう人が来るから」という指導があつて挨拶してくれているのだなあというのが分かる。

関：そういうえば最近、私の学校で、朝全ての先生が、交通安全を兼ねて通学路の各ポイントに立つということをやったのだが、その後地域の方からたまたま教頭に「今日は先生方は何をされてたんですか？」と電話があった。「いろいろなマナーを教えていました」と言われたそうだが、「あれでマナーなんですか？ 先生方が生徒と挨拶もしていないじゃないですか」と苦情が入ったことがある。

小林：こちらからすれば生徒は必ずしますからね。

荻野：教師の中には、「自分は教師であるから生徒の方から挨拶すべきだ」という固定観念がある方もいて、なかなか自分の方から声を出さないということがある。こちらから声を出せば、よっぽど恨まれていない限り、子供は9割は返してくれる。しかし、自分の方から声をかけない教師もいる。

小林：生徒が来ると顔をそむけて行ってしまう教師も中にはいる。街の中だとわかる気もするが。大きな声で「おはようございます」と言われると、あそここの先生だというのが見え見えで、それはちょっと嫌だから、私なども、うちの生徒の一集団が来るなと思うと一步ずれるとか、コンビニに入ってしまうとか、そういうこともある。先生もいろいろな人がいるので、校内でそういうことをする人もいる。

自分が子供の頃を思うと、人の家を訪ねて、「ごめんください」と言えるようになるにはずいぶん時間がかかった記憶がある。もちろん言葉は知っているが、なぜか言えない。小さいのにこんな言い方をしてませたふうに見られるのも嫌だし、かといって礼儀知らずに思われるのも嫌だし、言葉に逡巡してしまい、言葉が出ない。そういうことが、子供には案外あるのではないかと思う。だから「失礼します」と定型の挨拶を教えればそれはちゃんと言えるし、「そういう場を与えたのだから、もうここでは言っていい」とルールとして言える。「おはようございます」などは定型的に小さい頃から使っているので、楽に言えるのだろう。

杉戸：「失礼します」は、そういう挨拶行動への入口になるような表現なのだろうか。本当は失礼などしていないのだが、「失礼します」と言えば別れの挨拶になるというような、ひとつのパターンを身につける手がかりの一例となるか。

◆再び人称詞について【本報告書 5.1.】

杉戸：「ボク」についての解釈はどうか？ これも、絶対的な頻度の差ではないだろうということをふまえて考えなければいけないと教えていただいたわけだが。それにしても、中学校から高校になると「ボク」はかなり減っている。

荻野：ノーマルに考えれば、おそらく尾崎さんの解釈の「加齢による変化」かと思う。先程おっしゃったように「ボク」という言葉は、やや子供っぽい感じがするから減るのは当然だということで成り立つが、私が肌で感じていることでは、男の子がちょっと中性化している、優しくなっているということがあると思う。「オレ」と言う子はクラスでも減っていて、どちらかというとサラッとした感じの子が増えている。言葉遣いもいわゆる乱暴なタイプの子よりも、洗練さ

れた言葉を選ぶ子の方が増えていると感じる。弱々しいというか、力強さが欠けているというか、女の子みたいな感じで、中性化しているようだ。

尾崎：たとえば「そうだぞ」より「そうだよ」を使うとか。

小林：「～だぞ」は昔から言わないと思う。ただ、男子でも「そうなのよ」のように、「～なのよ」「～なのね」を使っている。

荻野：「ね」が多い。「ね」「よ」は多いと思う。

杉戸：配布資料には大阪のデータがないが、大阪の中学校・高校では「ボク」というのはもっと多いのだろうか？

関：多いと思う。

杉戸：私には「吉本」のデータしかないのだが、ああいうイメージを考えるとおそらく東京よりも多いのではないかと思う。

関：推薦入試の作文の時に「私（ワタクシ）」と書くように指導しても、やはり「僕（ボク）」と書く。

小林：作文ではやはり「僕」を使っている。高校生でも3年生くらいになると「私」や「自分」と書く子が出てくるが、いわゆる普段の作文、たとえば中学校を卒業して高校に入る時に課題を出す時などは、まず8割の男子は「僕」を使っている。

関：それで、話し言葉では「オレ」を使っている？

小林：普段の話し言葉では「オレ」を使う。先生や、少し改まった関係でしゃべらなければいけない時は「ボク」と言う子もいるし、自称詞を避けてなるべく使わない子もいる。たまにすごく言いにくそうに「自分が」という子もいるが、それはやはり背伸びしている感じがする。

尾崎：大阪の高校の男子生徒は、同性の友人に対する場合、「ボク」を使うのは15%、「オレ」は95%、「自分」は12%，という結果が出ている。

杉戸：先生に対してはどうか？

尾崎：担任の先生に対してだと、「ボク」は80%、「オレ」は42%となる。

杉戸：大阪で先生に対して「ボク」が80%というのは、実感としてどうか？

関：場面差もあるだろうが、確かに「ボク」が多いだろうとは思う。

◆敬語についての意見について【本報告書 第4章】

杉戸：以上のほかに、先生方から付け加える点があればうかがいたい。全体的なこと、あるいは今日私どもからはお尋ねしなかったことについてでもよいが。

荻野：これまで話題にはならなかったところで、ひとつメモしたところを。全般的な事柄として、「敬語、敬語意識というものごとの範囲」というところで、杉戸さんは、「改まった言葉を使うべきであるという反応が結構多くこれは予想外であった」というようなコメントをされている。私は、子供の水準・意識が、調査する側がイメージしているところよりも、もしかすると低いのではないかと思う。つまり、彼らが使っている普段の言葉というのは“省略化”的世界なので、「そういう言葉は使うべきでない、もう少し言葉のレベルを上げるべきだ」ということであっても、敬語というところまでは行かない、と。そういうところで答えていた気がしてならない。彼らが普段使っている言葉というのは丁寧で、それは彼らも自覚しているはずだ。ただ、そこから一步上げるべきだという意識まではあっても、調査やこちら側が考えているような「敬語や敬語意識」というところまでは行かないのではないか。国語科の指導の方があまり十分で

はないのだろうが、中学生というのは、敬語についての知識はそれほどないのが現状で、「丁寧な言葉」くらいにしか思っていない。もちろん、授業では、尊敬語・謙譲語・丁寧語ということでやるのだが、彼らの意識としては「丁寧な言葉」くらいにしか思っていない。だから、そこに○をつけた子というのは、「普段の乱暴な言葉ではなく、友達言葉ではなく、お互い通じ合う言葉ではなく、もう少し言葉のレベルを上げましょうよ」くらいで使ったのではないかなと思う。

杉戸：このアンケート調査なり、調査全体が、生徒達の言葉の生活の意識と、少しは触れているのだろうが、大きくずれたところで発想されていやしないか。あるいは、生徒達が本当に気にしている言語生活とわずかしか触れていないのではないか。それは、対人的な気配りを言葉の上で表わすという、そういうことの全体の中で、調査する側が考えた言語様式が、生徒達が考えるものと大きくズれているのではないか、という心配を持っている。

荻野：敬語の授業の後、子供達にレポートを書かせたことがあるが、どちらの立場でもよいからと自由記述を求めるとき、結構肯定論が増える。「敬語なんて面倒くさいから要らないんだ」という論を組み立てる子は少なく、圧倒的多数は「もちろん、行き過ぎたのは面倒だけれども、ある程度の敬語は必要だ」と書く。それは、別に私が内容で評価することはないと言っても、そういう答えが多い。

杉戸：それがなぜ必要かとか、肯定的かということについての理由、傾向などは？

小林：自分の状況がそうであって、手放しにそれでいいんだと信念を持って気にしないわけではなく、本当は気にすべきなのだが、実際には気にしてしゃべれないから、気にしないでしゃべれる人と、そういう言葉をしゃべっている。

杉戸：この先、こうあるべきだとか、こうしたい、こうなりたいという目標意識というものが、このアンケート調査の中では「規範意識」として顔を出している。

小林：目標というよりもやはり、「すべきだ」と思っているのだと思う。とにかくやらなければ世の中では通用しないのではないか、と思っているようだ。

吉岡：もう少し実用的な必要性を認めているということか。

小林：敬語の規範を身につければその実用性が身につくかと言うと、そうではないと思う。「食べますか」と言わずに「召し上がりますか」と言えるようになれば、それでもう実用的に敬語をしゃべれたからいいのだ、と彼らは思うかもしれないが、現実的には「失礼します」と言いながら本当に失礼なことをしている人はたくさんいる。そうであるならば、「失礼します」と言えなくとも、トントンとノックしてドアを開けて別の言い方をしたり、言わないにしても中の様子を見る方が、本来の敬語行動ではないかと思う。それを一緒にやらないと、ただ敬語の規範だけ覚えてしようがない。けれども、生徒はとにかく規範を覚え、ファストフードのマニュアル敬語みたいなものを正しいと思うのではないか。私は吹奏楽の顧問をしているが、定期演奏会のために生徒が作った司会の原稿を見ると、それはもう、ものすごい敬語の羅列だったりする。「させていただきます」から始まって、あらゆる所に「ですます調」「ございます調」が入っていて、「これを聞いても誰もわからないよ」というようなものである。しかし生徒は、それがやはり世の中で通用する敬語だと思っているところがある。実用的というのは、敬語の規範を覚えてたくさん敬語を使うことなのだと思っている部分が、高校生にはあるように思う。

吉岡：つまり、語は習得できても敬語行動は習得できていないということだろう。

小林：実際には語も習得できていないということもあるが。だから、それに縛られてしまい、敬語

行動もできなければ語も習得できないわけだから、表現力がすごく落ちる。

杉戸：途中で出た「失礼します」という定型的なマニュアルの表現がひとつの入口というか、とつかりになるのではないかと、話の流れから思ったが、それだけでは不十分で、かえってそれが邪魔をすることもあるようだ。

杉戸：今日はどうもありがとうございました。ひとまずここまでといたします。

Summary

The National Institute for Japanese Language (formerly The National Language Research Institute) has conducted a number of surveys of Japanese adults' use and awareness of *keigo*, or Japanese honorific/polite forms, in their community life and at work. Based on previous research, the institute initiated research to investigate junior high school and high school students' use and awareness of *keigo*. This was done because school life is considered to be one of the important foundations for adults' usage and awareness of *keigo*. The present volume, *Honorifics in Japanese Schools I : Results from Questionnaires*, reports on the results obtained from a questionnaire survey.

The questionnaire was administered to four groups: 2,456 junior high school students and 2,222 high school students in Tokyo, 1,004 high school students in Osaka prefecture, and 339 junior high school students in Yamagata prefecture. The survey was conducted from 1988 to 1992.

The survey results are summarized as follows:

- 1) Students who answered that they usually "cared about their use of words" at school were 20-30% across the four groups, indicating that the majority of students did not care much about their language use at school.
- 2) However, 50-60% of students answered that they "cared about their use of language" when speaking to teachers and upperclassmen. About half the students surveyed were careful with their words to their superiors at school, even though human relations in school are considered to be less complicated than those in adult society.
- 3) 20-40% of students answered that their use of words "did not change much" when speaking to their teachers and upperclassmen, while 60-80% said that their language "changed" in some way, mainly with respect to *keigo* in the narrow sense.
- 4) Approximately half (40-50%) of the students answered that they "had experienced difficulty" with language use toward superiors, such as teachers and upperclassmen.
- 5) On the other hand, students who "had experienced difficulty" with language use in formal situations at school were limited to 20-30%.
- 6) 40-50% answered that they "had been corrected or instructed" by their teachers and/or upperclassmen in their language use.
- 7) Among 8 sample situations at school in which students might be careful in their speech, they were asked to choose the top 3 situations. Situations chosen most were: "when speaking to a teacher in the teachers' room", "when showing the way to a visitor", and "when speaking to a *senpai* (upperclassmen) in club activities". As a whole, the human factor (whether or not the interlocutor is a superior) seemed to have a greater influence on students' concern for their speech than the situation factor (whether or not it is a formal occasion with an audience).

- 8) Approximately half the students answered that it was “desirable to use formal speech” during class discussions and lessons.
- 9) 70-80% of students responded that it was “desirable to use *keigo*” to upperclassmen and *senpai*.
- 10) When asked to weigh the advantages of *keigo* (maintenance of the social order) with the disadvantages (strained formality of human relations), 70-80% answered, “*keigo* was necessary”, placing a higher value on its advantages.
- 11) As for the disadvantages (strained formality of human relations) of *keigo* used toward superiors, such as teachers and upperclassmen, half the students replied, “it will cause strained formality”, while the other half, “it will not”.
- 12) As for self-reference terms, boys mainly used “*boku*” and “*ore*”, while girls mainly used “*watashi*” and “*atashi*”. “*Watashi*” and “*watakushi*”, used by adult males and “*watakushi*”, used by adult females, were not used much. Which term to use varied clearly according to the interlocutor. To friends, boys mainly used “*ore*”, while girls mainly used “*atashi*” and “*watashi*”. When addressing teachers, boys mainly used “*boku*” while girls used “*watashi*”. Among the self-reference terms surveyed, some varied greatly in the rate of use according to the interlocutor, while some did not show much variation. Such variation may be regarded as indicative of the degree of politeness-indicating function of a particular term. We can transform this variation into a numerical value and call it the “functional load as a politeness-indicating expression”. In this sense, “*boku*” and “*ore*” for boys and “*watashi*” and “*atashi*” for girls were shown to have greater functional loads, i.e., those terms functioned more effectively in indicating the degree of politeness. The functional load of terms differed from region to region, as well. For example, “*boku*” for boys and “*watashi*” for girls had greater functional loads in Osaka and Yamagata than in Tokyo.
- 13) As for address or reference terms for the interlocutor, boys mainly used the pronoun “*omae*” and non-pronouns, “family name only”, “first name only” and “nickname”. Girls used mainly the pronoun “*anta*” and various non-pronouns, such as “family name only”, “first name only”, “nickname”, “family name with *san*”, “family name with *kun*” and “first name with *chan*”. As a whole, non-pronouns were used more than pronouns. When the interlocutor is a *senpai*, most boys and girls used “*senpai*” in junior high and high schools in Tokyo. Among the terms used by junior high and high school students in Tokyo, the pronoun “*omae*” and its variants, as well as non-pronouns, such as “family name only”, “first name only”, “nickname” and “family name with *san*” used by boys, were found to have greater functional loads. For girls the pronoun “*anta*” and its variants, as well as non-pronouns, such as “family name only”, “first name only”, “nickname” and “family name with *chan*”, were found to have greater functional loads.
- 14) The questionnaire for junior high and high school students in Tokyo included questions on whether or not they were addressed by various terms by their homeroom teacher or a classmate of the same sex and how they evaluated (preferred to be addressed by) each term. For some terms, the number of “I am addressed by this term” responses exceeded

"I like to be addressed by this term" responses. For boys, this included having the homeroom teacher address them by "family name only" or "*omae*", and having a classmate of the same sex address them by "family name only". For girls, this included having a classmate of the same sex address them by "family name with *san*". On the other hand, for other terms, the number of "I like to be addressed by this term" responses exceeded "I am addressed by this term" responses. These were : "first name with *kun*", "first name only" and "family name with *kun*" for boys and "first name only", "nickname", "first name with *chan*" and "family name only" for girls, all used by classmates of the same sex.

- 15) A question about the affirmative expression, "That is so," was asked to high school students in Osaka and junior high school students in Yamagata, as these students were assumed to have a wider variety of expressions because of their regional dialects. In both groups, dialectal expressions without the polite form "*desu*" were used mainly with friends of the same sex and classmates of the opposite sex. In contrast, expressions with "*desu*", or standard forms, were used mainly with *senpai* of the same sex, the homeroom teacher, the principal and (male) visitors to the school. Expressions with greatest functional loads were : "*hai, soodesu*", "*soodesu*", "*sooyade*" and "*sooya*" among high school students in Osaka, and "*hai, soodesu*", "*soodesu*", "*nda*", "*ndayoo*", "*ndanyaa*" and "*ndanoo*" among junior high school students in Yamagata.
- 16) As for expressions of farewell, "*jaa*" and "*baibai*" (bye-bye) were mainly used to friends of the same sex and classmates of the opposite sex, while "*sayoonara*" and "*sayonara*" were mainly used to *senpai* of the same sex, the homeroom teacher and the principal. Thus, the terms "*sayoonara*" and "*baibai*" had the greatest functional loads. It should be noted that of the junior high school students who chose "other" for expressions of farewell to a classmate of the opposite sex, quite a few wrote that they did so nonverbally, e.g., "not bid farewell", "greet with a nod", "nod silently", and so on.
- 17) A rather formal expression, "*shitsurei shimasu*" (Please excuse me), was used by more than 90% of the students when "entering the teachers' room" and by about 40% when "leaving the teachers' room". However, as a greeting to a teacher or *senpai* when leaving school, its use was limited to 10-20%.
- 18) The address term, "*senpai*", was used by about 70-80% of junior high and high school students in Tokyo and high school students in Osaka, and by about 50% of the junior high school students in Yamagata. About 80% of girls and 50-70% of boys used this term (though its use was even lower among the boys at the junior high school in Yamagata). Also, students who were members of athletic clubs tended to use "*senpai*" more often. To a question about the difference in use of "*senpai*" by boys and girls at school, 50-70% of the students in each group responded that "both boys and girls use it", with the exception of the junior high school in Yamagata.
- 19) Use of *miuchi keigo* (honorifics used about one's family and close friends to others), which is often observed in the Kansai area, was not common among high school students in Osaka. Less than 10% of them responded that they "used" the honorific "*haru*" when

- talking about their parents to their homeroom teachers.
- 20) Self-awareness of pitch accent was surveyed in high school students in Osaka, that is, whether or not they used the usual accent of their dialect or the standard accent in formal situations. 40% responded “dialectal accent”, while 30% said “standard accent”, indicating that a certain number of students seemed to be aware of switching accents according to the situation.
- 21) As for paralinguistic features (loudness, pitch, clarity and rate of speech) in formal situations, many students thought that they talked the “same” way as they usually did with their friends.
- 22) In order to explore language change (change in vocabulary use) in individuals, questions were asked about language use in the past, in addition to the present (elementary school days for junior high school students and junior high school days for high school students). Reference to a teacher by “family name with *san*” when talking to friends did not show a prominent increase from the past to the present, either for junior high or high school students. A major increase, if any, might occur after graduation from high school.
- 23) Reference to another teacher by “family name with *sensei*” when talking to a teacher did not show much difference from past to present, both being around 80%. It is likely that the use of this form took root in elementary school (or even during kindergarten or nursery school).
- 24) 50% of junior high school students and 70% of high school students reported that at present, they refer to teachers by family name without a title when talking with friends. There was no notable difference between boys and girls. Comparing this rate with the past, there was little difference between junior high and high school students. However, a substantial increase was noted from elementary school to junior high school. The practice of calling teachers by family name without a title seemed to spread mainly in the transition from elementary school to junior high school.
- 25) The use of the honorific form “*reru*” directly to a teacher was limited to 10-30% for the present, about 10% for junior high school students. Girls tended to use “*reru*” more than boys. On the whole, the rate of use in the past was less than the present. The use of “*reru*” seemed to increase at each level, from elementary school to junior high school to high school.
- 26) When responding to a teacher’s elicitation during class, 60-70% of the students referred to a male classmate by “family name with *kun*”. In comparing the sexes, more girls used this form than boys: 70-90% of girls, as opposed to 50-60% of boys. The results were similar for the past. This form seems to be in general use at the level of elementary school and continues to be used afterwards.
- 27) Calling a male upperclassman by “family/first name with *san*” was not very common. However, high school students, who are closer to adults in age, used this form more than junior high school students. While the rate of use for junior high school students was about 10%, those for high school students were higher: 20-30% in Tokyo and 40-50% in Osaka.

- There was a difference by sex, as well. Boys used “-san” to older males (the same sex), more often than girls did (to the opposite sex). As for change accompanying the transition between school levels, an increase was noted among high school students, indicating that the use of this form increased with the transition from junior high school to high school.
- 28) About 30-50% of students called a male classmate by “family/first name with *kun*”. Compared with the situation mentioned in 26), the rate of use was small. In the case of high school students, there was a larger gender difference and the use of “-kun” was rather characteristic of girls. The increase in rate of use was conspicuous over the transition from junior high school to high school; in particular, its use among girls showed a dramatic growth.
- 29) The rate of calling a female classmate by “family/first name with *san*” varied from 20% to 70% according to the group. Except for the junior high school in Yamagata, this form was more common than the use of “family/first name with *kun*” for male classmates. There was a notable gender difference : the practice of addressing a female classmate with “-san”, as well as calling a male classmate with “-kun”, was mainly found in girls. As a whole, the rate of use in the past was lower, at 20-50%. The use of this form by boys increased substantially over the transition from junior high school to high school, indicating their tendency to start using this form after entering high school.
- 30) Those who used the honorific form, “*senpai*”, toward *senpai* in club activities and other upperclassmen amounted to 50-80%. Girls used this term more than boys : 70-90% of girls reported using “*senpai*”, while 60-70% of boys did (with the exception of junior high school students in Yamagata). The use of “*senpai*” appeared to increase substantially in junior high school. While the rate of use in the past and present were more or less similar for high school students, a marked growth was observed in junior high school students, up from the past rate of less than 10%.
- 31) The use of the honorific form “*haru*” in the Kansai dialect by Osaka high school students addressing a teacher was limited to about 20%. By comparison, girls used this form more than boys. There was not much difference between the rate of use in the past and present.

The following are the conclusions obtained from the above findings :

As a whole, many students seemed not too concerned about their use of words in their school life. However, more than a few students were concerned about their language toward superiors, such as teachers and upperclassmen, and aware of changing word use. The superior-inferior relationship with the interlocutor appeared to have a greater influence on students' concern for their speech than the degree of formality of the situation. Many students thought that it was desirable to use *keigo* to upperclassmen and that *keigo* was necessary.

In responding to questions about expressions used for various interlocutors, the students clearly indicated that they changed their use of expressions according to the interlocutor. From the point of view of expression, this means that a particular expression was apt to be used toward certain interlocutors and rarely used toward other interlocutors. Furthermore, there

were gender and regional differences of use, as well as differences between junior high and high school students.

The study confirmed that among the junior high and high school students surveyed, the use of honorific forms above a certain level (for example, the honorific form “*kaerareru*” or “*okaeri ni naru*” for “*kaeru*”), which adults typically use, was not very common. However, a switch in language level itself, which constitutes the basic principle of the usage of *keigo*, was observed among students very clearly, such as in their choice of self-reference terms. In other words, it can be said that the foundation of *keigo* usage in adults is formed, to a significant extent, in junior high school or high school.

This study dealt mainly with *keigo* in the narrow sense and terms of reference, which have similar characteristics. On the other hand, in actual communication, other strategic phenomena, such as how to realize the expression of one’s intentions, are likely to function as a sign of consideration for others. A comprehensive understanding of language use based on interpersonal consideration will require a study of wider scope which includes such strategies.

索引

- (1) 配列は読みの五十音順による。
- (2) 「」に入れた項目は言語形式である。
- (3) 必要により、内容を変えない範囲で形をまとめた場合がある。

あ 行

挨拶をしない	97, 98, 101, 109
相手からの呼ばれ方	75
秋田典昭	4, 141
アクセント	16
アクセントの使い分け	29, 117
「アタシ」	32, 35, 37, 38, 40, 52
「アナタ」	55
改まった場面	18
改まった場面での言葉の使い分け	23
アルバイトの時	112
アンケート調査	3
「アンタ」	55, 57, 64, 65, 67, 73
家の仕事	9
以前	121
韻律的特徴	118, 121
受け止め	30
受け止め方	75
「ウチ」	38, 45, 52
運動部	9, 113
運用面における地域差	40
「オイ」	32, 39, 40, 52
大阪高校	5
大阪府	4
大阪府科学教育センター	5, 141
大阪府教育委員会	5, 141
大阪府高等学校国語教育研究会	5, 141
荻野勝	141
尾崎喜光	3, 4
尾上圭介 (1999)	123
「オマエ」	55, 63, 67, 70, 73, 77, 80
「オメ」	55, 65
「オメエ」	55

親の職業 9

「オレ」 32, 33, 36, 37, 39, 40, 46, 51, 52

か 行

回収数	6
課外活動	9
学年別構成	7
学級活動での係	10
学校社会	1
観察調査	3
「キミ」	55, 67
居住地	7
居住歴	7
クラブ活動	9
グループ	5
クンづけ	69, 127, 128
敬意表現	17
敬語	15
敬語行動の意識	12
敬語習得の機会	2
敬語習得の場	9
敬語使用のプラス面とマイナス面	26
敬語使用のマイナス面	27
敬語についての意見	23
敬語についての意識	12
言語行動研究部第一研究室	3
言語行動の種類	16
現在	121
好悪	76
肯定表現	29, 87
高等学校	4
口頭発表	4
声の大きさ	119, 120
声の高さ	119, 120

声の調子	118	「姓」	63, 64, 65
声の調子の使い分け	29	「姓+クン」	55, 58, 68, 77, 81
声の明瞭さ	119, 120	「姓+サン」	55, 58, 68, 77, 80
国立国語研究所 (1982)	13, 27	生徒会活動	9
国立国語研究所公開研究発表会	4	生徒会活動での役職	11
個人の中での言葉遣いの変化	29, 121	性別構成	7
言葉遣いが変わるか	15	姓呼捨て	55, 58, 69, 73, 77, 80, 81
言葉遣いが気になるか	13, 14	関簿	141
言葉遣いで困った経験	17	先生	14, 15, 17, 19
言葉遣いに気を使う場面	20	「先生」	123
言葉遣いに困った経験	18	選択肢	137
言葉遣いを注意・教示された経験	19	「センパイ」	29, 55, 56, 70, 112, 131
言葉の最後	15	「ソーデス」	90
小林美恵子	141	「ソーヤ」	89
		「ソーヤデ」	89
		その他	15

さ 行

「サイナラ」	97
SAS	4
佐藤秀夫 (1989)	56
「サヨウナラ」	97
「サヨナラ」	97
サンづけ	69, 123, 127, 129
自称詞	29, 30
質問文	137
「失礼シマシタ」	110
「失礼シマス」	29, 105, 109
「ジブン」	36, 46, 64, 68
「ジャア」	97
小学校時代	121
上級生	14, 15, 17, 19
使用語彙化	121
使用者率	44
職員室からの退室	110
職員室への入室	110
職場社会での敬語	1
資料図	5
資料表	5
人的多様性	17, 19, 21
人的要素	25
杉戸清樹	3, 4

た 行

待遇表現としての機能負担量	34, 47, 53, 72, 93, 105
対象校	136
対称詞	29, 53, 75
代名詞	55
地域社会における敬語	1
中学校	4
中学校時代	121
中間発表会	4
調査結果の検討会	4
調査項目	137
調査対象者	5
調査対象者数	6
調査対象地域	3
地理的背景	7
塙田実知代	3
丁寧な言葉	15
データの公開	4
電話	110
東京高校	5
東京中学	5
東京都	3

- 東京都高等学校国語教育研究会 5, 141
 東京都中学校国語教育研究会 5, 141

な 行

- 「名」 64, 65
 「名+クン」 81
 「名+チャン」 55, 58, 73, 77, 81
 「名前」 37
 名呼捨て 55, 58, 73, 77, 81
 ニックネーム・あだ名 55, 58, 73, 77, 81
 入退室の挨拶 109

は 行

- 「ハイ, ソーデス」 90
 「バイバイ」 97
 話の早さ 119, 121
 場面設定 136
 場面的多様性 17, 18, 19, 21
 場面的要素 25
 バラエティ 44
 「ハル」 117, 132
 非言語行動 98, 109
 非代名詞 55
 人の前を横切る時 111
 人の呼び方 15
 評価 75, 76
 標準語 16
 標準語アクセント 118
 部（クラブ）活動 9, 113
 部（クラブ）活動での役職 10
 部活動 9
 部室への出入り 111
 文化部 10, 113
 方言 16
 方言アクセント 118
 「ボク」 32, 33, 36, 37, 39, 41, 46, 51
 本文図 5
 本文表 5

ま 行

- 町田守弘 4, 141
 身内敬語 117
 身内尊敬 116
 身内に対する敬語使用 29
 目上の生徒への敬語使用 25
 面接調査 3

や 行

- 山形県 4
 山形中学 5
 友人の家に行った時 112
 吉岡泰夫 4
 呼捨て 124

ら 行

- 両親の生育地 8
 「レル」 126
 論文発表 4

わ 行

- 「ワ」 65, 67
 別れの挨拶 95, 109
 別れの挨拶表現 29
 「ワタクシ」 32, 35
 「ワタシ」 32, 33, 35, 36, 37, 38, 40, 46, 52
 「ワネ」 65, 67

ん

- 「ンダバノー」 97

国立国語研究所報告 118
学校の中の敬語 1
—アンケート調査編—

平成 14 年 3 月 31 日

独立行政法人

國立国語研究所

〒 115-8620 東京都北区西が丘 3-9-14

電話 03-3900-3111 (代表)

URL : <http://www.kokken.go.jp>

NDC 815.8

本書の市販品発行所

〒 101-8371 東京都千代田区三崎町 2-22-14

株式会社 三省堂

電話 03-3230-9412 (営業)

URL : <http://www.sanseido-publ.co.jp/>

刊行物 No. 13-09

「国立国語研究所報告」一覧

1	八丈島の言語調査	昭 25. 3
2	言語生活の実態—白河市および付近の農村における—	昭 26. 4
3	現代語の助詞・助動詞—用法と実例—	昭 26. 8
4	婦人雑誌の用語—現代語の語彙調査—	昭 28. 3
5	地域社会の言語生活—鶴岡における実態調査—	昭 28. 3
6	少年と新聞—小学生・中学生の新聞への接近と理解—	昭 29. 3
7	入門期の言語能力	昭 29. 3
8	談話語の実態	昭 30. 3
9	読みの実験的研究—音読にあらわれた読みあやまりの分析—	昭 30. 3
10	低学年の読み書き能力	昭 31. 3
11	敬語と敬語意識	昭 32. 3
12	総合雑誌の用語（前編）—現代語の語彙調査—	昭 32. 3
13	総合雑誌の用語（後編）—現代語の語彙調査—	昭 33. 2
14	中学年の読み書き能力	昭 33. 3
15	明治初期の新聞の用語	昭 34. 3
16	日本方言の記述的研究	昭 34.11
17	高学年の読み書き能力	昭 35. 3
18	話しことばの文型（1）—対話資料による研究—	昭 35. 3
19	総合雑誌の用字	昭 35.11
20	同音語の研究	昭 36. 3
21	現代雑誌九十種の用語用字（第1分冊、総記、語彙表）	昭 37. 3
22	現代雑誌九十種の用語用字（第2分冊、漢字表）	昭 38. 3
23	話しことばの文型（2）—独話資料による研究—	昭 38. 3
24	横組みの字形に関する研究	昭 39. 3
25	現代雑誌九十種の用語用字（第3分冊、分析）	昭 39. 3
26	小学生の言語能力の発達	昭 39.10
27	共通語化の過程—北海道における親子三代のことば—	昭 40. 3
28	類義語の研究	昭 40. 3
29	戦後の国民各層の文字生活	昭 41. 3
30-1	日本言語地図	昭 41. 3
	日本言語地図〈縮刷版〉	昭 56.10
30-2	日本言語地図	昭 42. 3
	日本言語地図〈縮刷版〉	昭 57. 8
30-3	日本言語地図	昭 43. 3
	日本言語地図〈縮刷版〉	昭 58. 6

30- 4	日本言語地図	昭 45. 3
	日本言語地図〈縮刷版〉	昭 59. 2
30- 5	日本言語地図	昭 47. 3
	日本言語地図〈縮刷版〉	昭 60. 3
30- 6	日本言語地図	昭 49. 3
	日本言語地図〈縮刷版〉	昭 60. 3
31	電子計算機による国語研究	昭 43. 3
32	社会構造と言語の関係についての基礎的研究 (1)―親族語彙と社会構造―	昭 43. 3
33	家庭における子どものコミュニケーション意識	昭 43.12
34	電子計算機による国語研究 (II)―新聞の用語用字調査の処理組織―	昭 44. 3
35	社会構造と言語の関係についての基礎的研究 (2)―マキ・マケと親族呼称―	昭 45. 2
36	中学生の漢字習得に関する研究	昭 46. 3
37	電子計算機による新聞の語彙調査	昭 45. 3
38	電子計算機による新聞の語彙調査 (II)	昭 46. 3
39	電子計算機による国語研究 (III)	昭 46. 3
40	送りがな意識の調査	昭 46. 3
41	待遇表現の実態―松江 24 時間調査資料から―	昭 46. 3
42	電子計算機による新聞の語彙調査 (III)	昭 47. 3
43	動詞の意味・用法の記述的研究	昭 47. 3
44	形容詞の意味・用法の記述的研究	昭 47. 3
45	幼児の読み書き能力	昭 47. 3
46	電子計算機による国語研究 (IV)	昭 47. 3
47	社会構造と言語の関係についての基礎的研究 (3)―性向語彙と価値観―	昭 48. 2
48	電子計算機による新聞の語彙調査 (IV)	昭 48. 3
49	電子計算機による国語研究 (V)	昭 48. 3
50	幼児の文構造の発達―3歳～6歳児の場合―	昭 48. 3
51	電子計算機による国語研究 (VI)	昭 49. 3
52	地域社会の言語生活―鶴岡における 20 年前との比較―	昭 49. 3
53	言語使用の変遷 (1)―福島県北部地域の面接調査―	昭 49. 3
54	電子計算機による国語研究 (VII)	昭 50. 3
55	幼児語の形態論的な分析―動詞・形容詞・述語名詞―	昭 50. 2
56	現代新聞の漢字	昭 51. 3
57	比喩表現の理論と分類	昭 52. 2
58	幼児の文法能力	昭 52. 3
59	電子計算機による国語研究 (VIII)	昭 52. 3
60	X 線映画資料による母音の発音の研究―フォネーム研究序説―	昭 53. 3
61	電子計算機による国語研究 (IX)	昭 53. 3
62	研究報告集―1―	昭 53. 3

63	児童の表現力と作文	昭 53. 7
64	各地方言親族語彙の言語社会学的研究 (1)	昭 54. 1
65	研究報告集— 2 —	昭 55. 3
66	幼児の語彙能力	昭 55. 3
67	電子計算機による国語研究 (X)	昭 55. 3
68	専門語の諸問題	昭 56. 3
69	幼児・児童の連想語彙表	昭 56. 3
70- 1	大都市の言語生活 (分析編)	昭 56. 3
70- 2	大都市の言語生活 (資料編)	昭 56. 3
71	研究報告集— 3 —	昭 57. 3
72	幼児・児童の概念形成と言語	昭 57. 3
73	企業の中の敬語	昭 57. 3
74	研究報告集— 4 —	昭 58. 3
75	現代表記のゆれ	昭 58. 3
76	高校教科書の語彙調査 I	昭 58. 3
77	敬語と敬語意識—岡崎における 20 年前との比較—	昭 58. 3
78	日本語教育のための基本語彙調査	昭 59. 3
79	研究報告集— 5 —	昭 59. 3
80	言語行動における日独比較	昭 59. 3
81	高校教科書の語彙調査 II	昭 59. 3
82	現代日本語動詞のアスペクトとテンス	昭 60. 1
83	研究報告集— 6 —	昭 60. 3
84	方言の諸相—『日本言語地図』検証調査報告—	昭 60. 3
85	研究報告集— 7 —	昭 61. 3
86	社会変化と敬語行動の標準	昭 61. 3
87	中学校教科書の語彙調査	昭 61. 3
88	日独仏西基本語彙対照表	昭 61. 3
89	雑誌用語の変遷	昭 62. 3
90	研究報告集— 8 —	昭 62. 3
91	中学校教科書の語彙調査 II	昭 62. 3
92	談話行動の諸相—座談資料の分析—	昭 62. 3
93	方言研究法の探索	昭 63. 3
94	研究報告集— 9 —	昭 63. 3
95	児童・生徒の常用漢字の習得	昭 63. 3
96	研究報告集—10—	平元. 3
97- 1	方言文法全国地図 1 助詞編	平元. 3
97- 2	方言文法全国地図 2 活用編 I	平 3. 3
97- 3	方言文法全国地図 3 活用編II	平 5. 3

97- 4 方言文法全国地図 4 表現法編 I	平 11. 3
98 児童の作文使用語彙	平元. 3
99 高校・中学校教科書の語彙調査 分析編	平元. 3
100 日本語の母音・子音・音節	平 2. 3
101 研究報告集—11—	平 2. 3
102 場面と場面意識	平 2. 3
103 研究報告集—12—	平 3. 3
104 研究報告集—13—	平 4. 3
105 研究報告集—14—	平 5. 3
106 常用漢字の習得と指導 付・分類学習漢字表	平 6. 3
107 研究報告集—15—	平 6. 3
108 日本語と外国語との対照研究 1 日本語とスペイン語 (1)	平 6. 3
109- 1 鶴岡方言の記述的研究—第3次鶴岡調査報告 1 —	平 6. 8
110 研究報告集—16—	平 7. 3
111 日本語と外国語との対照研究 2 マイペンライ —タイ人の言語行動を特徴づける言葉とその文化的背景についての考察その 1 —	平 7. 3
112 テレビ放送の語彙調査 I	平 7. 12
113 日本語における表層格と深層格の対応関係	平 9. 3
114 テレビ放送の語彙調査 II	平 9. 3
115 テレビ放送の語彙調査 III	平 11. 3
116 日本語基本語彙—文献解題と研究—	平 12. 3
117 教育基本語彙の基本的研究—教育基本語彙データベースの作成—	平 13. 3